

# 出来田南遺跡発掘調査報告

— 都市計画道路能町庄川線街路総合交付金事業  
に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅱ —

2015年

公益財団法人富山県文化振興財団  
埋蔵文化財調査事務所

# 序

高岡市は富山県西部の中心として、富山市に次ぐ人口を擁する都市です。古く万葉の時代には越中国府が置かれ、国守として赴任した大伴家持が詠んだ数多くの歌が今に伝えられています。

県道能町庄川線街路は、高岡市街地の外環を巡る高規格道路として計画され、本年3月に開業する北陸新幹線新高岡駅への新たなアクセスルートとして期待されています。

本書は平成23年度および25年度に、道路建設に先立ち発掘調査を実施した高岡市出来田南遺跡の成果をまとめたものです。

出来田南遺跡では古代と中世の集落跡がみつかりました。なかでも、奈良時代から平安時代にかけての50棟を越す掘立柱建物群と大溝が目立ちます。大溝からは、表に「九部飯刀自女上米一半」、裏に「十月十六日」と記された荷札木簡が出土し、当時の農地管理の一端を知りうる好資料となりました。また、齋串や人面墨書土器といった律令祭祀具が出土し、国府管下の施設が近くに存在した可能性が極めて高いと推測されます。

こうした調査成果をとおして、地域の歴史と埋蔵文化財への理解を深めていただければ幸いです。

終わりに、調査にあたってご理解とご協力を賜りました関係機関および関係諸氏に厚くお礼申し上げます。

平成27年3月

公益財団法人富山県文化振興財団  
埋蔵文化財調査事務所

# 例 言

- 1 本書は富山県高岡市出来田 252-1 外に所在する出来田 南 遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は富山県からの委託を受けて、公益財団法人富山県文化振興財団が行った。  
本調査の発掘調査期間と本書刊行までの整理期間は下記のとおりである。  
調査期間 平成 23(2011)年 6 月 29 日～11 月 30 日  
平成 25(2013)年 9 月 17 日～11 月 13 日  
整理期間 平成 24(2012)年 4 月 1 日～平成 27(2015)年 3 月 31 日
- 3 調査に関するすべての資料、出土遺物は、本書刊行後、富山県埋蔵文化財センターで保管する。
- 4 遺跡の略号は、市町村番号に遺跡名を続け、「02DM - 地区名」とし、遺物の注記には略号を用いた。
- 5 本書の執筆・編集は町田尚美が担当した。第 V 章自然科学分析については専門諸機関に委託し、その成果を収録した。
- 6 本書で使用している遺構の略号は以下のとおりである。  
SB：掘立柱建物 SA：橋 SD：溝・自然流路 SE：井戸 SK：土坑 SP：柱穴
- 7 遺構番号は、調査時に調査区ごとに付した番号とした。番号は遺構の種類にかかわらず連番とするが、掘立柱建物と橋には新たに番号を付した。各地区の番号は以下のとおりである。  
A 地区：4000 番台 B 地区：2000 番台 C 地区：3000 番台 D 地区：1～1000 番台
- 8 本書で示す座標は平面直角座標系第 7 系(世界測地系)を基準とし、方位はすべて真北、標高は海拔高である。
- 9 挿図の縮尺は下記を基本とし、各図の下に縮尺率を示す。  
遺構 掘立柱建物・橋：1/100 堅穴建物・溝・土坑・井戸・柱穴：1/40  
遺物 土器・陶磁器・土製品：1/4 木製品：1/2・1/3・1/4 石製品：2/3・1/3・1/4
- 10 土層および遺構埋土、土器胎土の色については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」を参照した。
- 11 遺物は種類にかかわらず連番を付し、本文・挿図・一覧表・写真図版の遺物番号はすべて一致する。
- 12 遺物の赤彩等は以下のとおりに示す。これ以外については、図中に凡例で示した。  
赤彩 ○ 黑色土器 ●
- 13 本文・挿図で扱った遺構・遺物は、一覧表に掲載している。遺構一覧・遺物一覧の凡例は以下のとおりである。  
①遺構の埋土に切り合い関係がある場合は、備考欄に「新>古」と示す。  
②規模の( )内は現存長を表す。  
③土器分量の( )内は現存長を表す。残存部が少なく計測不能なものは空欄とした。
- 14 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から有益なご教示・ご協力を得た。記して謝意を表したい。(敬称略、五十音順)  
鹿島昌也、鈴木景二、中村由克、堀沢祐一  
高岡市教育委員会、富山県教育委員会、富山県埋蔵文化財センター、富山市埋蔵文化財センター

# 目 次

第Ⅰ章 調査の経過	1
1 調査に至る経緯	1
2 発掘作業の経過と方法	3
3 整理作業の経過と方法	4
4 調査成果の公開	4
第Ⅱ章 位置と環境	5
1 地理的環境	5
2 歴史的環境	6
第Ⅲ章 平成23年度調査の成果	9
1 概要	9
2 縄文時代晩期	9
3 古代	13
4 中世	119
第Ⅳ章 平成25年度調査の成果	141
1 概要	141
2 古代	141
3 中近世ほか	146
第Ⅴ章 自然科学分析	177
1 須恵器の蛍光X線分析	177
2 放射性炭素年代測定	183
3 樹種同定	186
4 花粉分析	190
5 珪藻化石群集	193
6 石材鑑定	197
第Ⅵ章 総括	199
1 遺構の変遷について	199
2 古代の遺物について	209
参考文献	212

報告書抄録

# 挿図目次

第1図	調査位置・遺跡位置図	1
第2図	調査区割図	2
第3図	層序模式図	2
第4図	地形図	5
第5図	周辺遺跡位置図	7
第6図	縄文時代全体図	9
第7・8図	縄文時代遺構実測図	10・11
第9図	遺物実測図	12
第10～13図	古代遺構全体図	24～27
第14～46図	古代遺構実測図	28～60
第47図	古代大溝遺物分布図	61
第48～54図	古代遺構実測図	62～68
第55～86図	遺物実測図	69～100
第87～89図	中近世遺構全体図	121～123
第90～101図	中近世遺構実測図	124～135
第102・103図	遺物実測図	136・137
第104・105図	古代遺構全体図	141・142
第106～117図	古代遺構実測図	143・147～157
第118～124図	遺物実測図	158～164
第125・126図	中近世遺構全体図	171・172
第127～129図	中近世遺構実測図	172～174
第130図	遺物実測図	175
第131～140図	須恵器の両分布図	180・181
第141図	暦年校正結果	185
第142・143図	出土木製品の光学顕微鏡写真	189
第144図	花粉分布図	192
第145図	花粉化石	192
第146図	大溝内堆積物および地山中の珪藻化石分布図	195
第147図	堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真	195
第148図	各岩石遺物のマイクロスコープ写真	198
第149～151図	古代集落変遷図	201・202・204
第152図	古代掘立柱建物の方位・規模	204
第153図	中世集落変遷図	206
第154図	中世掘立柱建物の方位・規模	207
第155図	中世集落変遷図	208

## 表目次

第1表	基本層序	2
第2表	既往の調査一覧	3
第3表	調査体制	3
第4表	調査一覧	3
第5表	整理解体制	4
第6表	周辺遺跡一覧	8
第7表	縄文時代遺構一覧	12
第8表	縄文土器一覧	12
第9表	縄文石器一覧	12
第10表	大溝出土土器構成	61
第11表	古代掘立柱建物一覧	101
第12表	古代竪穴建物一覧	101
第13表	古代柱穴一覧	102~106
第14表	古代大溝	106
第15表	古代溝一覧	106~108
第16表	古代土坑一覧	108・109
第17表	古代土器一覧	110~117
第18表	古代木製品一覧	118
第19表	古代石製品一覧	118
第20表	古代金属製品一覧	118
第21表	中世溝一覧	135
第22表	中世土坑一覧	135
第23表	中世井戸一覧	135
第24表	中世掘立柱建物一覧	138
第25表	中世柱穴一覧	138~140
第26表	中世土器・陶磁器一覧	140
第27表	中世木製品・石製品一覧	140
第28表	古代掘立柱建物・柵一覧	165
第29表	古代柱穴一覧	165・166
第30表	古代土坑一覧	166
第31表	古代井戸一覧	167
第32表	古代溝一覧	167
第33表	古代竪穴建物	167
第34表	古代木製品一覧	167
第35表	古代石製品一覧	167
第36表	古代土器一覧	168~170
第37表	中世土坑一覧	171

第 38 表	中世井戸一覧	171
第 39 表	中世溝一覧	171
第 40 表	中世土器・陶磁器一覧	176
第 41 表	中世木製品一覧	176
第 42 表	須恵器胎土分析資料一覧	182
第 43 表	測定試料および処理	185
第 44 表	放射性炭素年代測定および暦年校正の結果	185
第 45 表	樹種構成	186
第 46 表	樹種同定結果一覧	188
第 47～49 表	器種別の樹種構成	189
第 50 表	産出花粉化石一覧	192
第 51 表	珪藻分析を行った資料の詳細	194
第 52 表	環境指標種群とその概要	195
第 53 表	堆積物中の珪藻化石産出表	196
第 54 表	石製品と石材同定結果	198
第 55 表	器種毎の岩石種の集計表	198
第 56 表	出土墨書土器一覧	210
第 57 表	越中の人面墨書土器	211

## 写真図版目次

図版 1	D地区	図版 19	A地区・C地区
図版 2	B地区	図版 20	縄文時代遺構
図版 3	A地区・C地区	図版 21～23	古代掘立柱建物
図版 4	古代大溝	図版 24	古代柱穴・土坑・堅穴建物
図版 5	古代溝	図版 25	古代溝・噴砂
図版 6	古代柱穴	図版 26	古代～中世井戸・中世堅穴状土坑
図版 7	古代柱根	図版 27	中世堅穴状土坑・区画溝
図版 8	古代堅穴建物・土坑	図版 28	縄文土器・石器
図版 9	古代遺物	図版 29～40	須恵器
図版 10	木筒	図版 41	須恵器・土師器
図版 11	古代土器	図版 42～45	土師器
図版 12	墨書土器	図版 46	土師器・土製品・石製品
図版 13	赤彩・黒色土器	図版 47	中世土師器・珠洲
図版 14	人面墨書土器	図版 48	中国陶磁器・瀬戸美濃
図版 15	人面墨書土器・赤彩土器・木製品	図版 49	珠洲・漆器・バンドコ
図版 16	墨書土器・円面硯	図版 50	石製品
図版 17	航空写真	図版 51～55	木製品
図版 18	B地区・D地区		

# 第I章 調査の経過

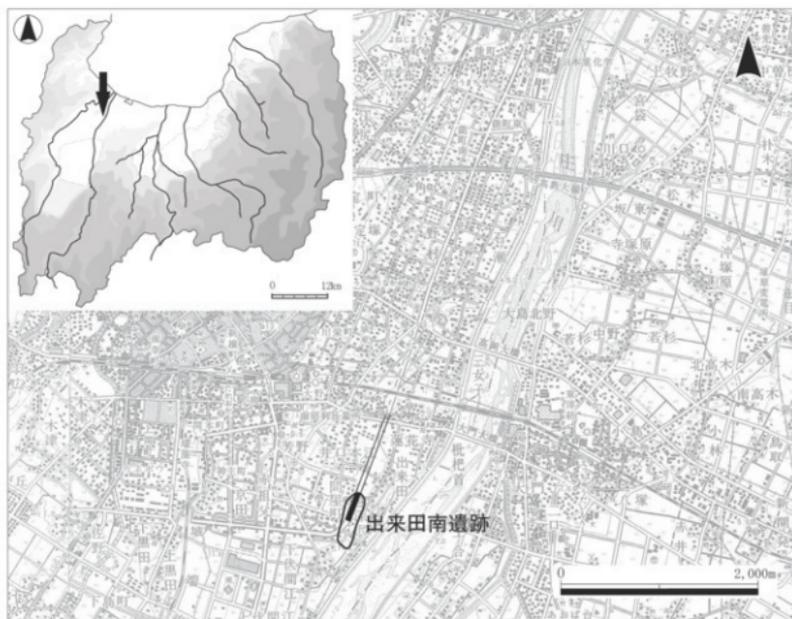
## 1 調査に至る経緯

### (1) 調査の契機

都市計画道路能町庄川線街路は、主要地方道高岡環状線の外環状線の一部として平成6年に整備計画が示された延長20kmの地域高規格道路である。高岡市野村～蓮華寺、赤祖父～高岡問屋センターの区間は先行して供用が開始されていたが、残る蓮花寺～下伏問江区間についても平成26年10月29日に整備が終了し、これをもって全区間が開通した。最後に供用開始となった区間周辺は、平成2年度に高岡市教育委員会によって分布調査が行われており、出来田南遺跡のほか、井口本江遺跡、赤祖父角田遺跡、高岡問屋センター遺跡などが確認された。これらの遺跡は地久子川の東側に位置しており、出土遺物の共通性などから、一つのまとまりをもった遺跡群として把握されてきた。

路線にかかる井口本江遺跡、出来田南遺跡については、平成19・20年に試掘調査が行われ、井口本江遺跡については平成20年度に当財団が発掘調査を行った。出来田南遺跡では調査対象面積3,700㎡に16箇所の試掘トレンチを設定し、518㎡を調査の結果、すべての地点で古代を中心とする遺構・遺物が確認された。

試掘調査の結果を受けて、富山県土木部から埋蔵文化財包蔵地についての本調査の要望が出された。県土木部と県教育委員会の協議の結果、平成23年度、公益財団法人富山県文化振興財団が本調査を委託することとなった。なお、遺跡の一部は平成25年度に土地買収が完了するため、平成25年度の埋蔵文化財調査についても併せて委託することとした。



第1図 調査位置・遺跡位置図 (1/50,000)

## (2) 層序

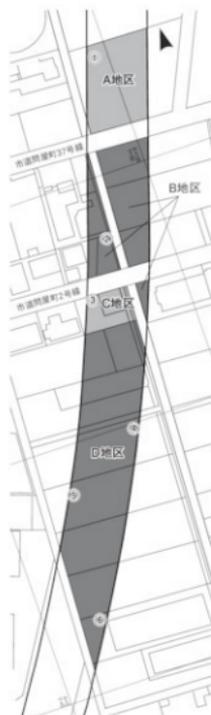
調査区域はおおむね平坦だが、南から北へと標高は緩やかに下がり、検出面での比高差は約40cmである。基本層序はⅠ層：表土・耕作土、Ⅱ層：古代・中世遺物包含層、Ⅲ～Ⅳ層：縄文遺物包含層、Ⅴ層：地山であるが、調査区南端ではⅢ層直下が砂礫層となる。また、大溝周辺は埋没過程において異なる堆積がみられ、部分的にⅠ層を細分した。

古代・中世の遺構はⅢ層上面で検出したが、Ⅲ・Ⅳ層がない地点ではⅤ層上面で検出した。なお、古代・中世の遺構は埋土による識別ができなかった。Ⅲ・Ⅳ層は主にC地区南からD地区北において確認でき、Ⅲ層中でも縄文土器を多く含む層が断続的に存在している。D地区北の一部においては、Ⅴ層上面で縄文時代晩期の遺構をわずかに検出した。

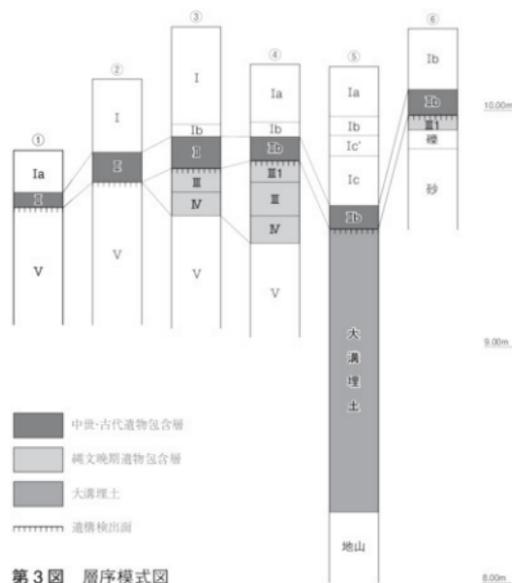
遺跡は広範囲において後世の削平による影響がみられ、A地区、B地区東側、D地区南部分については包含層であるⅡ層が非常に薄いか、皆無のところもある。また、B地区南東は地山にまで達する擾乱があるため、遺構が残っていない。

基本層	A地区	B地区	C地区	D地区
I (Ia)	表土・腐土 25Y4.3オリーブ褐色砂質土	25Y3-2黒褐色土	25Y4.4オリーブ褐色砂質シルト (鉄分多)	25Y3-2黒褐色土
Ib			25Y4.4オリーブ褐色砂質シルト (酸化鉄多量混)	25Y3-2暗オリーブ褐色シルト
Ic	大溝上 堆積土			10YR3-1黒褐色粘土質シルト
Ic'				10YR3-2黒褐色砂質シルト
II (IIa)	25Y3-3暗オリーブ褐色砂質土	10YR3-2黒褐色シルト (10YR3-3暗オリーブ褐色シルト20%混)	10YR3-3暗褐色砂質シルト (10YR3-2黒褐色砂質シルト13%酸化鉄混)	
IIb				10YR2-1黒色砂質シルト
III				25Y3-3暗褐色砂質シルト
IV			10YR2-2黒褐色粘質シルト (10YR4-2黄褐色シルト20%酸化鉄混)	
V	5Y5-2Rオリーブ色砂質シルト	25Y3-3暗褐色砂質シルト	10YR5-6に赤い黄褐色砂質シルト (10YR5-3に赤い黄褐色砂質シルト20%酸化鉄混)	

第1表 基本層序



第2図 調査区割図



第3図 層序模式図

## (3) 既往の調査

出来田南遺跡では、平成11年を皮切りに、12, 13, 15, 17~20, 23, 25年に合計9回の確認調査、また平成13年には一部本調査が行われている。掘立柱建物複数棟のほか、柱穴や溝などの遺構、また墨書土器「上川邊」「酒麻呂」を含む古代の遺物や中世の陶磁器類がみつかっており、奈良~平安時代を中心とした集落であることが明確となった。

分布調査			確認調査				本調査					
年度	調査主体	文獻	年度	調査主体	調査面積(対象面積・㎡)	地区名	文獻	年度	調査主体	調査面積(㎡)	地区名	文獻
平成2	市教委	1	平成11	市教委	270 (1,166)	大和ハウス地区	2	平成13	市教委	53.5	黒川弘権店舗工事地区	4
			平成12	市教委	302 (986)	黒川弘権店地区	3	平成23	財団	3,595		11
			平成12	市教委	15 (224)	南地区	3	平成25	財団	1,063		12
			平成15	市教委	181 (799.97)	ミタホーム地区	5					
			平成17	市教委	54 (264.47)	石川地区	6					
			平成18	市教委	120 (993)	レオパレス21地区	7					
			平成19	市教委	16 (116)	小林地区	8					
			平成20	市教委	518 (3,700)	鹿町庄川蔵	9					
			平成25	市教委	12.75 (360.01)	南地区	10					

第2表 既往の調査一覧

## 文献

- |                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 1 高岡市埋蔵文化財調査機関第16冊 高岡市埋蔵文化財分布調査機関Ⅱ | 7 高岡市埋蔵文化財調査機関第66冊 市内道路調査機関XⅦ                 |
| 2 高岡市埋蔵文化財調査機関第45冊 市内道路調査機関X       | 8 高岡市埋蔵文化財調査機関第67冊 市内道路調査機関XⅧ                 |
| 3 高岡市埋蔵文化財調査機関第47冊 市内道路調査機関XⅠ      | 9 出来田南遺跡試掘調査報告-平成20年度、都市計画道路能町庄川蔵道路工事に伴う試掘調査- |
| 4 高岡市埋蔵文化財調査機関第49冊 市内道路調査機関XⅡ      | 10 高岡市埋蔵文化財調査機関第74冊 市内道路調査機関XⅧ                |
| 5 高岡市埋蔵文化財調査機関第56冊 市内道路調査機関XⅣ      | 11 平成23年度 埋蔵文化財年報                             |
| 6 高岡市埋蔵文化財調査機関第64冊 市内道路調査機関XⅤ      | 12 平成25年度 埋蔵文化財年報                             |

## 2 発掘作業の経過と方法

## (1) 調査の経過と方法

調査の作業工程およびその方法・内容は、平成16(2004)年10月に文化庁から示された『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準(報告)』に則って進めた。

発掘調査の基準となるグリッドの設定には平面直角座標系第7系を用いた。座標は世界測地系X80790、Y-12320を原点に設定し、南北方向をX軸、東西方向をY軸とし、グリッドは2m方眼とした。各グリッドは北東角の座標で呼称した。

発掘範囲は南北延長240m程度であるが、当初より平成23・25年度の調査範囲が指示されていたため、北から順に地区分けを行い、平成23年度はB、D地区、25年度はA、C地区を調査した。

実施年度	総括	所長		専任	総務	調査事業担当				
		副所長	池野 正男			課長	主任	江本 裕一	調査統括	調査課長
平成23年度	総括	所長	深本 雅敏	課長	主任	江本 裕一	調査統括	調査員	チーフ	中川 道子
		副所長	池野 正男					主任	町田 尚美	
平成25年度	総括	所長	深本 雅敏	課長	主任	江本 裕一	調査統括	調査員	調査課長	島田美佐子
		副所長	池野 正男					主任	チーフ	中川 道子
								主任	朝田幸紀子	
								主任	町田 尚美	

第3表 調査体制

地区	年度	期間	面積(㎡)	担当者	検出遺構	出土遺物
A	平成25	9.30~11.13	890	朝田幸紀子	掘立柱建物・溝・土坑・井戸・噴井	須恵器・土師器・中世土師器・珠洲・木製品
				町田 尚美		
B	平成23	9.27~11.30	907	中川 道子	掘立柱建物・溝・土坑	須恵器・土師器・中世土師器・珠洲・木製品
				町田 尚美		
C	平成25	9.17~10.24	210	朝田幸紀子	竪穴建物、掘立柱建物・溝・土坑	須恵器・土師器・中世土師器・珠洲
				町田 尚美		
D	平成23	6.29~11.16	2688	中川 道子	竪穴建物、掘立柱建物・溝・土坑・井戸	縄文土器、須恵器、土師器、中世土師器・珠洲・中国製陶磁、土製品・木製品
				町田 尚美		

第4表 調査一覧

### 3 整理作業の経過と方法

出土遺物は現地および埋蔵文化財調査事務所において洗浄・バインダー処理・注記・分類を行った。木製品・石製品・金属製品についてはメモ写真を撮影し、整理台帳を作成した。調査概要については『埋蔵文化財年報』（平成23・25年度）として発刊している。

報告書刊行に向けての本格的な室内整理作業は、平成24年4月に開始した。平成24年度は土器・陶磁器の接合・復元・実測、木製品・石製品・金属製品の实測および写真撮影、自然科学分析を行った。平成25年度は土器の写真撮影、自然科学分析、挿図作成、図版作成、原稿執筆を行った。平成26年度は平成25年度に出土した土器・陶磁器の接合・復元・実測、木製品・石製品・金属製品の实測および写真撮影、挿図作成、原稿執筆および編集、印刷と校正を行った。遺物の洗浄・バインダー処理・注記は現場整理作業員および室内整理作業員が行った。土器・陶磁器の接合・復元・色塗りは室内整理作業員が行った。遺物の実測は、土器を室内作業員が行い、木製品・石製品・金属製品は業者に委託した。遺構実測図および写真は、各台帳を作成して整理し、遺構カードとともにパーソナルコンピューターを使用してデータベース入力を行った。データ入力は職員が行い、整理作業員が補足した。遺構・遺物のデータは観察表として掲載している。遺構・遺物の挿図は業者および派遣オペレーターに委託し、デジタルデータ化を行い印刷原稿とした。遺物の写真撮影は業者委託した。自然科学分析は、専門業者に委託し、結果報告を掲載した。また、劣化が懸念される遺物については平成25年度に保存処理を専門業者に委託して行った。

実施年度		整理事業担当								
		所長	厚本 雅敏	副所長	池野 正男	課長	主任	調査統括	調査課長	チーフ
平成24年度	総括					課長	松尾 互	調査統括	調査課長	高田美佐子
						主任	江本 裕一			チーフ
平成25年度	総括					課長	松尾 互	調査統括	調査課長	高田美佐子
						主任	江本 裕一			チーフ
平成26年度	総括					課長	松尾 互	調査統括	調査課長	高田美佐子
						チーフ	青山 晃			チーフ
								調査委員	主任	町田 尚美

第5表 整理体制

### 4 調査成果の公開

発掘調査の成果を広く一般に公開するため、平成23・25年度に現地説明会を開催した。

平成23年度は10月29日(土)、地元住民を対象にD地区の掘立柱建物群等を公開したほか、遺物についても説明し、約100名の参加があった。翌年1月26日には、出土した荷札木簡について報道機関に発表を行い、釈文やその歴史的意義について説明した。新聞・テレビ等では、現地調査の成果を併せ、「水田経営における拠点施設の可能性がある」と報じた。同月28日には富山考古学会において、最新発掘調査報告として調査の概要を発表した。また、平成24年7月1日、県埋蔵文化財センター主催「県民考古学講座」においても調査成果を発表している。

平成25年度は11月9日(土)、A地区を会場に現地説明会を開催し、約100名の参加があった。掘立柱建物群や井戸、噴砂などについて公開したほか、平成23年度の発掘調査において出土した遺物も併せて展示・説明を行った。また、これに先立つ7日には報道機関の取材に対応した。

平成26年度は8月8日(金)、井口本江自治振興会主催の公民館行事において、井口本江遺跡を含めた調査の成果について、遺物の展示とともに講演会を行った。

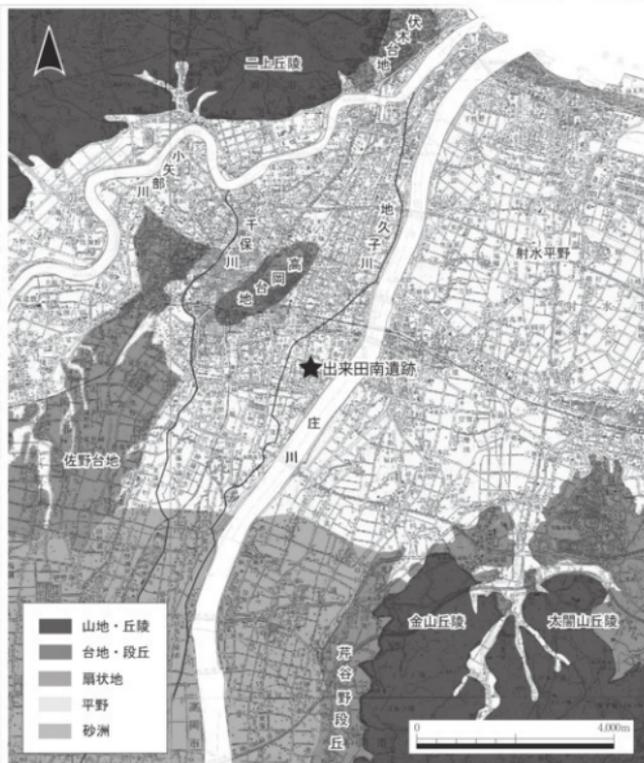
## 第Ⅱ章 位置と環境

### 1 地理的環境

出来田南遺跡のある高岡市は富山県の北西部に位置する。地形は平野部、丘陵部、山間部からなり、大部分は庄川と小矢部川の二つの水系によって形成された沖積平野である。

庄川は飛騨鳥帽子岳を水源に岐阜県を経て富山県内に至り、南北を貫き富山湾へと注ぐ。変遷を繰り返す庄川本流は、古くは雄神川と呼ばれ、砺波市庄川町青島付近から西へ流れる野尻川の流域をたどり、小矢部市津沢付近で小矢部川に合流していた。そして次第に西へと河道を変え、現在の本流は天正地震(1585)によって造られた旧中田川筋が基礎となっている。近代以降、大規模な河川改修が行われ、河口付近で合流していた小矢部川との分離工事の結果、現在の流路となった。この庄川扇状地帯には中小河川が網目状に流れ、現在も伏流水が非常に豊富である。一方、小矢部川の水源は富山・石川県境の大門山で、南砺市、小矢部市、高岡市へと砺波平野西部を複雑に蛇行し、高岡市伏木で富山湾に注ぐ。奈良・平安時代には射水川と呼ばれていた。

小矢部川西側の西山丘陵は二上丘陵へと連なり、横穴墓群や中世城郭など、歴史の宝庫として知られ、丘陵北端には古代越中国府が置かれた伏木台地がある。沿岸部には雨晴海岸や桜谷古墳がある。



第4図 地形図 (1/100,000)

庄川を隔てた射水市沿岸部は「奈呉の浦」と呼ばれ、富山新港の建設以前は放生津潟を中心とした入江であった。南には射水平野が広がり、背後に丘陵が控える。高岡市中心部は扇状地扇央部にあたり、標高10~20mの低位段丘である高岡台地、佐野台地上に位置する。高岡台地には近世以降、高岡城を中心とした城下町が築かれ、現在の高岡市中心街の基礎となった。

出来田南遺跡は市東部の下関地区に位置し、標高は9m前後である。

## 2 歴史的環境

高岡市の先史時代は、西部の西山丘陵上に旧石器～縄文時代の遺跡が分布している。縄文時代晩期から弥生時代にかけては、平野部への定住が進み、駒方遺跡、下老子笹川遺跡、古定塚遺跡(16)など台地上に遺跡の分布が集中する。弥生時代中期以降には、石塚遺跡(47)を筆頭に下佐野遺跡(48)、蔵野町遺跡など多数の遺跡が展開し始める。古墳時代以降は、台地上の集落に加えて二上山麓から西山丘陵にかけての帯に古墳群が築かれ、県内で確認されている古墳の約6割が集中している。特に古墳時代後期の横穴墓は埋葬の状況が明らかな遺跡が多く、城ヶ平横穴古墳、江道横穴古墳群など数多くの古墳が隣接している。

奈良時代には伏木地区に越中国府が置かれ、政治文化の中心地となった。周辺には美野下遺跡などを含む越中国府関連遺跡(28)がある。国守として赴任した大伴家持は、国内巡行として訪れた県内の各地で、数多くの歌を残している。奈良時代、越中国には10箇所の東大寺領荘園が設定されており、射水郡には須加庄、鳴戸庄、鹿田庄、榎田庄の4庄が存在した。これらについては、律令祭祀具や文字資料の出土などにより、須田藤の木遺跡(41)、中保B遺跡、東木津遺跡(46)、石名瀬A遺跡(49)、常国遺跡(51)など官衙の色相の濃い遺跡が比定地として挙げられているが、一致をみていない。また、庄川の対岸に広がる射水平野は、大伴家持に詠まれた「三嶋野」を含む原野であったとみられ、律令祭祀具などが多数出土した北高木遺跡(81)のほか高木・荒畑遺跡(82)、本江畑田Ⅰ・Ⅱ遺跡(68・69)、南太閤山Ⅰ遺跡(66)、赤田Ⅰ遺跡(77)などがある。さらに南東の射水丘陵には、流通団地№17遺跡(63)、同№26遺跡(64)ほか多くの生産遺跡が密集している。この周辺は良質の粘土の採掘から、製炭、製鉄など当時の最先端工業が集まっており、古代におけるコンビナートの様相を呈する地域として知られる。

中世には、13世紀後半に守護所がおかれた放生津を拠点として武家政治が展開し、西山丘陵を中心に守山城(40)をはじめとする山城が築かれた。14世紀には後醍醐天皇の皇子である恒性皇子が越中に配流、幽閉ののち殺害されたという記録があり、二塚地区には恒性皇子墓(8)が残されている。また、一向宗の普及に伴い寺院が増設された。出来田南遺跡の北東には、地名の由来との説もある等覚山蓮華寺(12)がある。真言宗の古刹である蓮華寺は、かつて壮大な伽藍を誇り、中世には周辺五十町の寺領を有したという記録が残る。鎌倉時代の創建とされ、当該期とされる宝篋印塔も存在するが、詳細は不明である。なお、蓮華寺の起源を国分尼寺に比定する見方があり、東大寺荘園絵図にみえる法花寺との関わりが注視されている。

近世には加賀藩前田利長の居城高岡城(13)が築かれ、のちに商都と呼ばれる町並みの礎となる城下町が形成された。前田利長が奨励した鋳物業は、現在も銅器生産のほか漆器生産などの伝統工芸・文化として根付いている。平成26年度、国史跡に指定された高岡城を中心に、国宝瑞龍寺(9)、前田利長墓所(10)など近世の文化遺産は現在、歴史まちづくり計画として保全・継承が進められている。

出来田南遺跡の近隣では、同じ能町庄川線建設に伴い平成20年度に発掘調査された井口本江遺跡(2)があり、縄文晩期・弥生・古代・中世の複合遺跡であることが明らかとなった。また、西に隣接する高岡問屋センター遺跡(3)、赤祖父角田遺跡(4)においてもほぼ同時期の遺物が確認できることから、周辺遺跡を同一遺跡群としてとらえる見方がある。



第5図 周辺遺跡位置図 (1/50,000)

番	遺跡名	所在地	種類・時代	備考
1	熊田遺跡	高岡市熊田	集落・倉庫・平家・中世・新石器・縄文・古墳	
2	舟木江江	高岡市舟木江江・船木田・船花寺	集落・縄文・古墳・平家・中世・近世・新石器・古墳	
3	高岡塚7-1	高岡市同原	新石器・縄文・古墳	
4	赤松文鳥山	高岡市同原	新石器・縄文・古墳	
5	赤松文鳥遺跡	高岡市同原	集落・古墳・中世・近世・新石器・古墳	
6	下野山	高岡市下野山	集落・古墳・中世・新石器・古墳・平家・中世・近世	
7	上野山	高岡市上野山	新石器・古墳・古墳	
8	御作寺遺跡	高岡市一宮寺	新石器・古墳	
9	藤崎寺	高岡市藤崎	集落・中世・新石器・古墳	
10	熊田基跡	高岡市芳野	新石器・古墳	調査済①
11	八ノ邊	高岡市東上郷	古墳・古墳	
12	藤崎寺	高岡市藤崎(中野)	新石器・古墳	
13	高岡城跡	高岡市古城	城跡・古墳	調査済①②③
14	小竹遺	高岡市古城	集落・縄文・縄文・城跡・古墳	
15	中川	高岡市中川字源野(中川1丁目)	集落・縄文・古墳・新石器・古墳	
16	吉定塚	高岡市吉定塚・中川1丁目・中川園町	新石器・古墳	
17	江尾遺	高岡市江尾	新石器・縄文・古墳・古墳	
18	新井寺	高岡市新井寺	新石器・古墳	
19	藤崎寺	高岡市藤崎	集落・古墳・中世・近世・新石器・古墳	
20	江尾A	高岡市江尾	新石器・古墳	
21	江尾B	高岡市江尾	新石器・古墳	
22	江尾C	高岡市江尾	新石器・古墳	
23	内野基跡	高岡市内野	新石器・古墳	
24	古野	高岡市古野	集落・古墳・古墳	
25	寺遺	高岡市寺遺	新石器・古墳	
26	下石塚	高岡市下石塚	新石器・古墳	
27	山ノ尾遺	新本寺宮遺	新石器・古墳	
28	藤田河内遺	高岡市河内	新石器・古墳	
29	古野古墳群	高岡市古野	古墳	
30	古野古墳群	高岡市古野	古墳	
31	高岡古墳群	高岡市高岡	古墳	
32	赤田上野古墳群	高岡市赤田上野	古墳	
33	寺山古墳群	高岡市寺山	古墳	
34	城下寺古墳群	高岡市城下寺	古墳	
35	高岡東郷大塚	高岡市東郷	古墳	
36	山園町	高岡市山園町	集落・古墳	
37	内野古墳群	高岡市上	古墳	
38	内野古墳群	高岡市上	古墳	
39	上野古墳群	高岡市上	古墳	
40	山園町	高岡市上	城跡・古墳	
41	山園町の本	高岡市上	集落・古墳	
42	百景遺	高岡市上	新石器・縄文	
43	山園町古墳群	高岡市山園町	古墳	
44	藤崎寺	高岡市藤崎	集落・古墳	
45	下野山	高岡市下野山	新石器・縄文	
46	下野山	高岡市下野山	集落・古墳	
47	石塚	高岡市石塚	集落・古墳	
48	下野山	高岡市下野山	集落・古墳	
49	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
50	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
51	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
52	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
53	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
54	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
55	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
56	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
57	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
58	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
59	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
60	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
61	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
62	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
63	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
64	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
65	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
66	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
67	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
68	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
69	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
70	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
71	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
72	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
73	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
74	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
75	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
76	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
77	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
78	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
79	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
80	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
81	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
82	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
83	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
84	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
85	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
86	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
87	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
88	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
89	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	
90	舟木江江	高岡市舟木江江	集落・古墳	

第6表 周辺遺跡一覧

# 第Ⅲ章 平成23年度調査の成果

## 1 概要

縄文時代晩期，古代，中世の遺構を確認した。縄文時代晩期は，古代および中世の調査中，散発的に出土する土器の付近を中心に，溝や土坑を数基確認したに止まる。古代はB・D地区とともに全域で遺構を検出しており，掘立柱建物50棟，堅穴建物8棟，土坑，溝のほか大量の遺物が出土した大溝など，合計約2000基の遺構を確認した。遺物には律令祭祀具のほか，木簡，墨書土器などの文字資料も多く含まれ，時期は8世紀後半～9世紀代が主体である。中世の遺構はD地区で，掘立柱建物20棟，区画溝，土坑などを検出した。時期は中世前半代とみられる。

## 2 縄文時代晩期

当該期の包含層は安定して堆積していないため，遺構・遺物ともに散発的である。遺構は土坑，溝など確認できたものは5基のみである。遺物が出土したD地区において確認のため2箇所に確認トレンチを設けたが，明確な遺構は確認できなかった。遺物は，D地区の中央付近から北にかけての部分で出土するものが多く，後世の深い遺構などで散見できた。ただし，全体量は非常に少ない。

### (1) 遺構・遺物

#### A 遺構

1838号土坑(SK1838，第8図・図版20)

D地区大溝の北に位置する。底部には，長さ43.5cm，幅27.8cmの柱状の基部が残る。樹種はトネリコ属トネリコ節で，放射性炭素年代測定の結果，縄文時代晩期～弥生時代前期に相当することが判明した。

1913号溝(SD1913，第8図・図版20)

D地区大溝の北で，南端は古代の溝に切られる。SD1914より新しい。

1914号溝(SD1914，第8図・図版20)

SD1913に切れられ，南北両端は消失している。埋土中および底部から縄文土器片が出土した。

2154号溝(SD2154，第7図・図版20)

B地区東の中央に位置する。底部からは湧水があり，数点の自然木が残存していた。土層断面の観察から部分的に噴砂が確認でき，古代～中世の遺構検出面に噴出の痕跡がある。

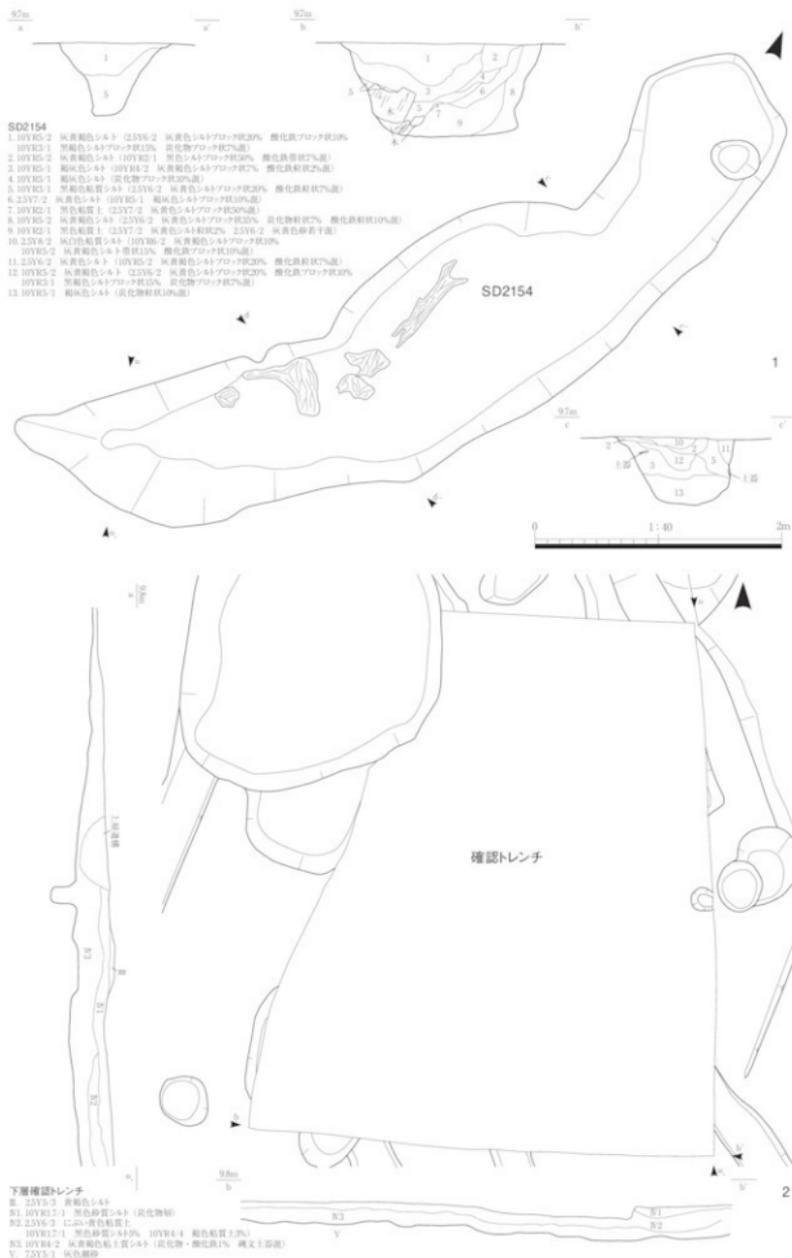
#### B 遺物(第9図・図版28)

土器はほとんどが小片である。1は口縁下に2条の凹線，2・3は2条の沈線間に列点，×字状刻みを施す。5は波状口縁の浅鉢で，口縁部に三叉文を真似た平行沈線が引かれる。石製品は打製石斧，磨製石斧，石鎌があるが，全て古代～中世の遺構・包含層からの出土である。

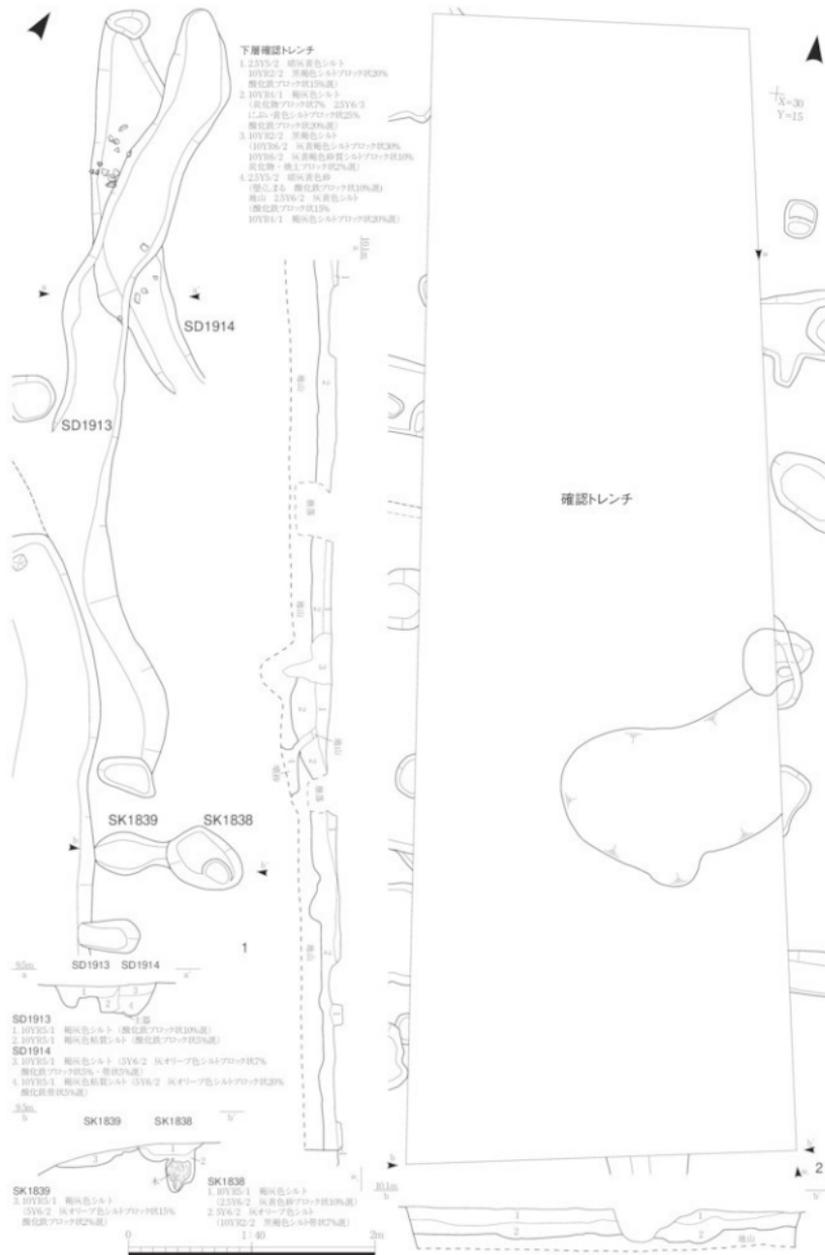


第6図 縄文時代全体図

2 縄文時代晩期

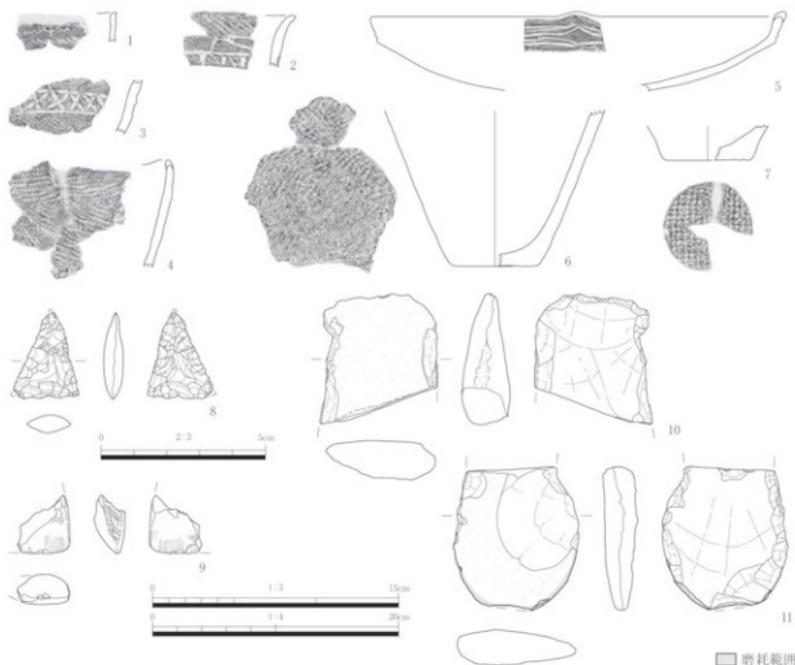


第7図 縄文時代遺構実測図  
 1. SD2154 2. 下層確認トレンチ①



第8図 縄文時代遺構実測図

1. SD1913・SD1914・SK1838・SK1839 2. 下層確認トレンチ②



第9図 遺物実測図 (1~7 1/4, 8 2/3, 9~11 1/3)  
SD754(1) SK2225(2) SK705(4) SD2154(5) SD1318(6) SP817(10) SD1750(11) 包含層

第7表 縄文時代遺構一覽

地区	遺構	遺構種類	平面形	規模(m)	詳細時期	切り合い	出土遺物	発見事号	図版番号	挿入番号	
D	SK1838	土坑	楕円形	0.61	0.49	0.15	晩期	>SK1839	須恵器, 中世土師器, 珠洲, 杉	20	8
D	SK1839	土坑	楕円形	0.563	0.34	0.10	晩期	<SK1838		20	8
D	SD1913	溝		0.53	0.21		晩期	>SD1914, SD1802, SD1805	縄文	20	8
D	SD1914	溝		0.36	0.25		晩期	<SD1913		20	8
B	SD2154	溝		1.56	0.76		晩期	縄文(5), 土師器, 須恵器, 近世磁器	20	7-9	
B	SD2216	溝		0.56	0.49		晩期	縄文			

出土遺物の( )内は遺物番号

第8表 縄文土器一覽

遺物番号	挿入番号	図版番号	遺構	出土地点	層位	種類	器種	法量(cm)		時期	胎土色調		胎土	備考
								口径	器高		底径	記号		
1		SD754				縄文土器	深鉢	-	-	後期末	10YR4/2	灰黄褐色	石英	口縁部のみ 散敷深鉢 口縁付近に2本の凸線
2		SK2225				縄文土器	深鉢	-	-	晩期中葉(中葉式)	10YR7/2	にぶい黄褐色	石英 赤色粒	口縁部のみ 縄文・平行沈面文・斜点文
3						縄文土器	深鉢	-	-		10YR6/2	灰黄褐色	石英	器型? 沈面部に斜点格子状沈面文・縄文
4	9	28				縄文土器	深鉢	-	-	後期末	10YR6/2	灰黄褐色	石英	口縁部のみ 無面文 器部はナ字溝?
5		SD2253 SD1254	X36Y45			縄文土器	浅鉢	33	(6.5)	後期末~晩期初頭(八日市新形式)	10YR7/3	にぶい黄褐色		口縁部に平行沈面文 粒子細かい
6		SD1318	No4			縄文土器	深鉢	-	(12.8)	7	10YR4/3	にぶい黄褐色	石英 赤色粒	胴部~底部 胴部に縄文
7						縄文土器	深鉢	-	(2.8)	7	10YR7/3	にぶい黄褐色	石英	胴部に縞布文

※層位のローマ数字は基本層序を示す

第9表 縄文石器一覽

遺物番号	挿入番号	図版番号	遺構	出土地点	層位	種類	材質	法量(cm・g)			備考
								長さ	幅	厚さ	
8						石鏝	玉すい	2.60	1.95	0.65	2.4
9						磨製石斧	透閃石岩(A1タイプ)	(3.60)	(3.20)	1.85	21.8
10						打製石斧	閃緑岩	(8.00)	(7.15)	2.95	185.0
11						打製石斧	閃緑岩	(8.70)	7.70	2.10	179.2

### 3 古代

遺跡の主体をなす時期であり、出土遺物から8世紀後半～9世紀にかけての集落と考えられる。掘立柱建物50棟以上のほか、竪穴建物や大溝などを検出した。倉庫と考えられる総柱建物や、建物構造から格上とされる床東建物が含まれており、一般集落とは異なる様相を呈する。遺物は、大溝を中心に多量の須恵器・土師器、木製品が出土した。墨書土器、木簡や硯といった文字関連資料のほか、人面墨書や齋串、馬形など律令祭祀の存在をうかがわせる遺物も出土している。

#### (1) 遺構

##### A 竪穴建物

###### 110号竪穴建物(SI110, 第14図・図版8)

D地区の南に位置する。長軸2.88m、短軸2.2mの平面方形のプランで、遺構上部は失われており、検出した掘り込みは13～14cmで非常に浅い。柱穴は不明である。埋土には所々に焼土塊が混入しているが、特に炭化物や焼土が集中する北西隅か、東壁中央部付近にはカマドが存在したと考えられる。床面付近からは土師器甕、須恵器杯などが出土し、時期は8世紀後半代とみられる。

###### 168号竪穴建物(SI168, 第15図・図版8)

D地区南で、SI110の北に位置する。長軸2.44m、短軸2.06mの平面方形のプランを呈する。掘り込みは全体的に浅く、最深15cmである。北壁中央部付近では埋土に炭化物や焼土を多く含むうえ、土師器甕の出土など、カマドの存在が強く疑われる。なお、柱穴などの施設については不明である。時期は8世紀後半代とみられる。

###### 176号竪穴建物(SI176, 第15図・図版8)

SI168に切られる。長軸2.48m、短軸1.88m以上、平面方形とみられるが、遺構上部のほとんどは失われており、残存していた床面の検出に止まる。

###### 200号・201号竪穴建物(SI200・SI201, 第15図)

D地区西南の調査区端で、SI168・SI176の北西に位置する。2棟が同一軸方向で重複しており、SI201がSI200より新しい。

SI200は長軸1.7m、短軸1.44m以上の平面方形プランとみられる。掘り込みは25～40cmあり、その縁辺には数基のピットを検出した。貼床とみられる粘土質層が底部に残る。埋土からは須恵器棧椀(406)を含む土器が多数、床面近くからは大型の砥石(693)が出土した。

SI201は長軸2.1m、短軸1.72m以上の平面方形プランで、掘り込みは20～28cmである。SD75より新しい。埋土は炭化物や焼土を多く含み、一気に埋められたような様相を呈する。この埋土からは土師器甕(601・611)などの土器が出土した。付属施設は不明である。

###### 630号竪穴建物(SI630, 第16図)

D地区大溝の南に隣接する。長軸3.18m、短軸2.58mの平面方形プランと考えられるが、遺構上部は削平され、不整形な床面のみ検出した。重複するSI631より新しい。南東部分に楕円形の掘り込みがあり、焼土ブロックや炭化物が多量に残存していたことからカマドの燃焼部と考えられる。ここからは土師器甕(535)が出土した。また、南壁沿いの床面でも帯状に炭化物を検出した。

###### 631号竪穴建物(SI631, 第16図)

一部で重なるSI630、SD682より古い。長軸2.3m、短軸2mの不整形な平面プランを呈する。掘り込みは最深28cmだが、上層部分は大溝に向かって緩やかな傾斜があることから、遺構上部は削平されたと考えられる。付属施設は不明であるが、断面観察では北壁付近に炭化物の密度が高く、カマ

下の存在が窺える。

#### 640号竪穴建物(SI640, 第17図)

D地区南で、SI630・631の南西に位置し、SB14と重なる。長軸2.74m、短軸は1.96mだが、平面形は不整形で部分的な検出と考えられる。北壁側には溝状の落ち込みがあり、中央部もやや窪むが、カマドなどの付属施設は不明である。埋土には焼土ブロックが混ざり、土師器甕(573・574)が出土した。8世紀後半代とみられる。

#### 810号竪穴建物(SI810, 第17図)

D地区南の調査区西端で、SI640の北に位置する。上部のほとんどが削平されていたが、焼土や炭化物の分布により、おおよその範囲を検出したものである。長軸4.94mで、焼土の検出範囲から、北壁にカマドの存在が疑われる。

#### 1550号竪穴建物(SI1550, 第17図)

D地区北の中央部、SB28の西に位置する。SD1561より新しい。長軸1.88m、短軸1.04mの不整形なプランで、焼土ブロックを多く含む部分的な検出に止まる。特に底面付近では焼土の割合が高い。埋土からは土師器甕(607)が出土している。

### B 掘立柱建物

#### 1号掘立柱建物(SB1, 第18図)

D地区南、調査区の最南端に位置する。今回の調査では柱穴2基を検出したが、これは平成12年度、高岡市教育委員会による調査で確認されたSB1の柱穴に相当する。SB1は梁行2間、桁行3間の南北棟で、今回検出したのは北西隅柱SP2と、その南の隅柱SP1である。柱穴は平面長方形の掘方内に柱痕跡が明確に残っており、底面は礫層に達する。残りの良いSP2では長辺76cm、短辺64cmの掘方内の南寄りに直径約40cmの柱痕がみられ、深さ60cmを測る。

#### 2号掘立柱建物(SB2, 第18図)

D地区南西端で、SB1の北に位置し、SB3～5と重複する。梁行2間～、桁行3間の南北棟で、西半分は調査区外である。隅柱のSP106は掘方が方形を呈するが、柱断面の残りが非常に良好で、底部までの深さは62cmを測る。

#### 3号掘立柱建物、4号掘立柱建物、5号掘立柱建物(SB3, SB4, SB5, 第19図)

SB2を含めた4棟が重なるが、新旧関係は不明。SB3はSB2と同方位をとり、東西方向の柱間が広いことから東西棟の可能性がある。またSP57・58では柱の建替があり、SP57が新しい。SB4, SB5は、大半が調査区外で不明な部分が多い。

#### 6号掘立柱建物(SB6, 第20図)

D地区南で、SB2～5の東に位置し、SI110と重複している。梁行2間、桁行3間の南北棟で、中心から南の一部は攪乱により失われている。柱穴の上部は削平され、深さは20～40cmで、底面は礫層に達しているものもある。

#### 7号掘立柱建物(SB7, 第20図)

D地区南の調査区東端に位置し、一部はSB6と重なる。梁行2間以上、桁行2間の南北棟と考えられる。SB1と同様、市教委の調査で検出された柱穴と配列が合うことを確認した。隅柱のSP54は深さ52cmで、埋土には少量の礫が混入している。

#### 8号掘立柱建物、9号掘立柱建物(SB8, SB9, 第21図)

D地区南の調査区東端でSB9の内部にSB8が収まるように重なる。SB8はSB7北側の一部とも重

なる。SB9の方位はSB8よりもやや東に振る。SP101は底部付近では礫が混入する。

#### 10号掘立柱建物(SB10, 第21図・図版21)

D地区南で、SB2～5の北に位置する。梁行2間以上、桁行3間の南北棟で、建物西側は調査区外に延びる。柱穴は深さ30～45cmで、柱痕跡がよく残る。

#### 11号掘立柱建物(SB11, 第22図・図版21)

SB10の北に位置する。北側はSB14～16と重なる。建物西側は調査区外であるが、梁行2間、桁行3間以上の東西棟とみられる。

#### 12号掘立柱建物(SB12, 第23・24図・図版21)

D地区南の中央に位置する。梁行2間、桁行4間の東西棟で、梁行長約3.8m、桁行長約7mで床面積は約27㎡である。桁行中央列には規模の小さな柱が並ぶ床東建物とみられる。北西に隣接するSB14とはL字形に配置され、両棟ともに大型の柱穴掘方をもつことから、規則性のある格上の建物が想像される。なお、側柱の柱穴掘形は長辺が1m前後の規模をもち、平面形は方形あるいは長方形を呈する。また、この建物の柱穴掘方は南北に平行な向きを主とするが、南側桁行の隅柱を除くSP250・232・233の3基のみは東西に平行である。建物の正面性などに起因するものか、不明である。柱穴SP220・224・232・296からは須恵器が出土している。

#### 13号掘立柱建物(SB13, 第22図・図版21)

SB12の東に位置し、東側は調査区外へ延びる。梁行3間以上、桁行4間と考えられる。南側ではSB8・9と重なり、SP172の切り合いからSB9より新しい。

#### 14号掘立柱建物(SB14, 第25・26図・図版21)

D地区南で、SB12の北西に軸方向90°を異にして配置される。梁行2間、桁行5間の南北棟で、梁行長約4.6m、桁行長約11m、床面積約50㎡の規模は、今回検出した掘立柱建物のなかでは大型に属する。SB11・15～17と重複しているが、柱穴は規模が大きく際立っている。柱穴の平面形は方形あるいは楕円形で、深さは約50cm～1m弱と、かなり幅がある。柱間の間隔には多少のばらつきが認められるが、相対する柱穴の規模は概ね同一である。柱穴SP609から土師器、SP426・554から須恵器が出土している。

#### 15号掘立柱建物(SB15, 第27図・図版21)

D地区南でSB11・14・16と重複している。梁行2間、桁行3間の南北棟で、SB11より古い。桁行の北側1間の柱間は幅が狭い。

#### 16号掘立柱建物(SB16, 第28図・図版21)

SB11・14・15と重複しており、西に隣接するSB17と方位がほぼそろそろ。梁行2間、桁行3間の南北棟で、東側の柱穴掘方が大きい。

#### 17号掘立柱建物(SB17, 第24図・図版21)

D地区南の調査区西端に位置する。梁行2間以上、桁行3間以上と考えられる南北棟だが、建物の大半は調査区外で北西部分のみを検出した。部分的に重なるSB14とは柱穴SP609が兼用される。柱痕跡が明瞭なSP434で柱は径20cm程度の規模と推測される。

#### 18号掘立柱建物(SB18, 第28図・図版21)

D地区南の中央で、SB11・14～16の東に位置する。SB14と並列しており、SB12も含め規則的な配置と考えられる。梁行2間、桁行5間の規模はSB14と共通するが、柱間は狭く床面積は半分である。また、東西の桁行南側1間分は他と比べて幅が広く、南から2番目の柱穴SP532・SP536は小型である。

## 19号・20号掘立柱建物(SB19・20, 第29図・図版21)

D地区南の東側に位置する。梁行2間、桁行2間の総柱建物SB19からSB20への建替えと考えられ、床面積は13㎡から15㎡へとわずかに広がる。柱穴の平面形は方形または楕円形で、長辺1m前後の大きな掘方をもつ。また、柱穴SP405、SP488・489の断面では新旧が確認できる。柱穴掘方の底面は柱痕部分が若干窪むものの、ほぼ平らで固く締まっている。

## 21号掘立柱建物(SB21, 第30図)

D地区南の西側で、SB17の北東に位置する。SB22と一部重なる。梁行2間、桁行2間の南北棟で、SB14と南北に並列している。柱痕跡が明瞭で、径20cm程度の柱が想定される。

## 22号掘立柱建物(SB22, 第30図)

D地区南の調査区西端に位置する。SB21と重なり、西半分は調査区外に延びる。梁行2間以上、桁行2間の南北棟とみられ、建物方位は異なるが構造はSB21と似ている。

## 23号掘立柱建物(SB23, 第31図)

D地区南で、大溝に隣接する。SI630と重複しており、検出時は新旧が判然としなかったが、出土土器などからSB23が新しい。またSB24より古い。梁行2間、桁行2間の南北棟で、柱穴掘方の平面形は円形または楕円形である。大溝に向かって傾斜があるため遺構上部は削平されているが、柱穴は深いもので60cm程度あり、規模が大きい。

## 24号掘立柱建物(SB24, 第31・32図)

SB23と重複し、SB24が新しい。遺構の切り合いによって検出は出来なかったが、総柱建物であった可能性もある。SB23と同様、大型の柱穴で、このうち2基では柱根が残存していた。SP700の柱根の樹種はクリで、木製品全体ではスギ材優勢のなか、建築材については耐久性・耐湿性に優れ、保存性が高いクリ材を選択的に使用していたことが窺える。

## 25号掘立柱建物(SB25, 第33図)

D地区南でSB24の北側に位置する。梁行3間、桁行4間の南北棟とみられるが、大溝に切られ、北東側の桁行はほぼ消失している。SP831は大溝の底部で痕跡のみ検出した。柱穴掘方は大きめで平面形が方形か円形を呈するが、深さは30~90cm前後とばらつきがある。

## 26号掘立柱建物(SB26, 第32図)

D地区南の調査区西端に位置し、大溝に隣接する。建物の南東部分のみ検出した。SB25・27と重なる。梁行2間、桁行2間の総柱建物で、柱穴SP775・777の2基には柱根が残存していた。柱根の樹種はいずれもケヤキで、SB24と同様、柱材に広葉樹を選択している。また、2基の柱根を放射性炭素年代測定(AMS)したところ、年代は古木効果の影響により木材の伐採年より古い可能性があるものの、7世紀後半~8世紀後半という結果が出た。

## 27号掘立柱建物(SB27, 第33図)

D地区南の調査区西端で、SB26と重なる。2間分の柱列のみ検出し、建物の全体は不明である。

## 28号掘立柱建物(SB28, 第34図・図版21)

D地区北の中央に位置する。梁行3間、桁行4間の南北棟で、柱穴掘方の平面形は方形あるいは楕円形を呈する。柱穴には切り合いがほとんど認められず、検出状況は明瞭であった。梁行間数が多く、柱間寸法が比較的狭いことなどから古相を示すとみられる。溝により区画されている。

## 29号掘立柱建物(SB29, 第36図・図版22)

D地区北で、SB28の北に位置する。溝や中世の遺構などとの切り合いにより、柱穴は所々で抜け

ているが、梁行2間、桁行2間の東西棟とみられる。

#### 30号掘立柱建物(SB30, 第35図・図版22)

D地区北東で、SB29の北に位置する。SB32と一部で重なる。後述するSB31・52・53と並列に配置される。梁行2間、桁行3間の東西棟で、柱穴掘方の平面形は方形か楕円形を呈し、北隣りのSB31とは構造や規模が非常によく似ている。SP1111には柱根が残存しており、樹種はクリ材、AMS測定で年代は7世紀後半～9世紀初頭に相当する。

#### 31号掘立柱建物(SB31, 第36図・図版22)

D地区北東端でSB30の北に隣接する。SB32・33と重なり、SB30・52・53とは並列配置される。梁行2間、桁行3間の東西棟で、SB30とはほぼ同規格である。柱穴断面からは径20cm程度の柱が想定され、SP1103では柱穴掘方の底部に柱の当たりとみられる窪みを確認した。なお、東の梁行中央の柱穴については別遺構との切り合いにより不明である。

#### 32号掘立柱建物(SB32, 第37図・図版22)

D地区北東端に位置し、SB30・31・33と重複する。梁行3間、桁行5間とみられる東西棟で、北東隅の一部は調査区外であるが、床面積は推定で約62㎡の広さをもつ。別遺構との切り合いにより、北の桁行をはじめ、多数の柱穴が確認できなかった。柱穴掘方の平面形は方形か円形で、底面に柱の当たりが残る柱穴が多い。

#### 33号掘立柱建物(SB33, 第38図・図版22)

D地区の調査区北東端に位置し、SB31・32と重なる。梁行3間、桁行3間以上の東西棟とみられるが、東側は調査区外に延びる。SP1085の底部にはわずかに柱根が残存している。柱穴の切り合いからSB32より新しい。

#### 34号掘立柱建物(SB34, 第39図・図版22)

B地区の南端に位置する。梁行、桁行ともに2間の南北棟で、桁行の柱間が広い。いくつかの柱穴では建て替えの痕跡が認められる。

#### 35号掘立柱建物(SB35, 第38図・図版22)

B地区南でSB34の北東に位置する。梁行2間、桁行2間以上の東西棟で、建物東側は調査区外に延びる。西の梁行中央の柱穴は、切り合いのため不明。SB34と同様、桁行の柱間が広い。

#### 36号掘立柱建物(SB36, 第39図・図版22)

B地区中央に位置するが、建物中央部は調査区外のため不明。梁行3間、桁行3間の東西棟と推測される。柱穴掘方は明瞭で、平面形は方形か楕円形、底部に柱の当たりが残るものもある。

#### 37号掘立柱建物(SB37, 第37図)

B地区の調査区西端で、建物の大半は西側の調査区外。柱穴断面には柱痕跡が明瞭に確認できる。

#### 38号掘立柱建物(SB38, 第40図)

B地区西側の調査区北端で、桁行3間分と推測。SP2227では径20cm程度の柱が想定される。

#### 39号掘立柱建物(SB39, 第40・41図・図版22)

B地区東側の中央付近に位置し、SB40～43と重なる。梁行2間、桁行4間の南北棟で、西面に庇が付くとみられる。庇の柱穴は規模が小さく、南1間分は不明である。主屋の柱穴掘方は複雑に重複しているものもみられるが、切り合いからSB40より古いとみられる。

#### 40号掘立柱建物(SB40, 第42図・図版22)

B地区東側の中央でSB39・41～43と重なる。梁行2間、桁行3間の南北棟で、両梁中央の柱穴掘

形は規模が大きい。その他の柱穴では底部に柱の当たりが残るものが多くみられる。柱穴の切り合いから、SB39より新しいとみられる。

41号掘立柱建物、42号掘立柱建物(SB41, SB42, 第42・43図・図版22)

B地区東側の中央でSB39・40・43と重複するが、特に近接し構造が似る2棟で、建て替えの可能性がある。梁行2間、桁行3間の南北棟で、SB41は西桁の柱が整然と並ぶのに対し、東列ではズレが見られる。SB42の床面積の方が小さい。

43号掘立柱建物(SB43, 第44図・図版22)

SB40~42とはほぼ同位置で、重複する梁行2間、桁行4間の南北棟である。柱間の広さが均一的で、柱穴は建て替えが認められるものが多い。

44号掘立柱建物(SB44, 第45図・図版22)

B地区の北東でSB39~43の北に隣接し、SB45と重複する。梁行2間、桁行5間の南北棟だが、梁行の柱間が広く、桁行の柱間は隅柱の柱間のみ非常に狭い。

45号掘立柱建物(SB45, 第44図・図版22)

B地区の北東でSB44と重なる。梁行、桁行ともに2間の東西棟で、桁行の柱間の方が広い。柱穴掘方の平面形は円形で、深さは20cm前後である。

46号掘立柱建物(SB46, 第45図・図版22)

B地区の北端中央付近でSB45の西に隣接する。梁行2間、桁行4間の東西棟であるが、削平の影響から南西側の柱穴はわずかな窪み程度しか確認できなかった。梁行の柱間が広い。

C大溝(第46・47図・図版4)

D地区の中央で、南東から北西へと流れる。名称を大溝としたが、人工溝と断定するには根拠が乏しい。ただし当時の社会的背景をふまえ、その可能性を否定できないことから、本書では大溝として記述する。平均幅は10m前後だが、南岸の一部に張り出しがあり、最大幅13.1m、深さは最深1.3mを測る。張り出しはSB25などの掘立柱建物を切っているが、付近に堰や護岸施設などと考えられる遺構・遺物は確認できず、人為的か否かは判断し兼ねる。また、溝の北岸は傾斜が緩やかで、北側に並行するSD1750の落ち際にまで傾斜が続く。溝底部は比較的平坦で、北西へと緩やかに下がる。底部の地山砂礫層からは湧水があり、木簡3点や容器類、祭祀具などが良好な状態で出土した。また、墨書土器や人面墨書土器をはじめ、多量の土器が出土した。第47図には出土土器破片数の分布を示したが、大溝の中心から南側にかけて分布が密である。また、第10表の出土土器の構成からは、食膳具の割合が8割を超えていることがわかり、一般集落とは異なる様相がみられる。

さらに、この大溝の堆積環境について自然科学分析を行った結果、下位層では流れ込みを伴う沼沢湿地であったことが判明したが、上位層は陸域を伴う沼沢湿地と推定されており、一定の流れが必要である水路として機能したかについては疑問も残る。

D溝

75号溝(SD75, 第49図)

D地区南で、南東から北西に横切り、北西端はSI201に切られる。北東に位置する総柱建物のSB19・20の方位に近い。

268号溝(SD268, 第49図)

D地区南で東西方向に延びる。SB12の柱穴を切り、SD137とは部分的に並行する。

234号溝(SD234, 第49図)

- D地区南西。大溝と方位がそろう。重複する掘立柱建物の柱穴を切る。  
336号溝(SD336, 第49図)
- D地区南東。SD268を切って、L字状に曲がる。  
494号溝(SD494, 第49図)
- D地区南。大溝および東西の溝と並行している。  
486号溝(SD486, 第49図)
- D地区大溝の南に位置。遺構上層が消失しているものの、深さ26cmの掘り込みを残す。  
570号溝(SD570, 第49図)
- D地区南でSD137やSD268と並行。東西方向に途切れながら続くとみられる。  
625号溝(SD625, 第49図)
- D地区南で、調査区西端から大溝と直交方向に延びる。SB21・SB22より新しいとみられる。  
682号溝(SD682, 第49図)
- D地区南で東西方向に延び、SD486やSB23、SB24を切るが、東端は大溝に切られる。  
750号溝(SD750, 第49図)
- D地区南西に位置する南北方向の溝で、底部に土坑状の落ち込みが2箇所あり、そこから土器が出土している。第Ⅳ章で後述する平成25年度調査A地区でも同様の形状を呈するSD4030がある。  
820号溝(SD820, 第49図)
- D地区大溝の南に位置する。大溝縁の傾斜面にあり、非常に浅く残りが悪い。  
1007号溝・1025号溝(SD1007・SD1025 [C地区旧SD3070・SD3094], 第50・117図・図版25)
- C地区からD地区北にかけて併行する2条の溝。これらの東側には方位が似合う掘立柱建物群が並んでおり、当初は道路状遺構にともなう側溝と考えたが、路面幅と考えられる溝間の距離が一定でなく、C地区の北端では両溝がやがて接するほどに近づくため、側溝というより、近い時期に使われた区画溝の可能性が高い。  
1044号溝(SD1044, 第50図)
- SD1007・1025の間を並行し、D地区北端でSD1007に切られる。直接のつながりは検出できなかったが、C地区の南から延びるSD3055と同一遺構の可能性はある。  
1205号溝・1266号溝(SD1205・SD1266, 第49・50図・図版5)
- D地区北で併行する2条の溝で、溝間の距離は約4.5mとほぼ一定である。推測の域を出ないが、ほぼ直交する大溝へと続く道路状遺構の両側溝であった可能性がある。各溝の規模はSD1205が幅1.08m、深さ30cm、SD1266が幅1.34m、深さ42cmである。  
1221号溝(SD1221, 第50図)
- 上記のSD1205・SD1266間を走る溝で、幅1.12m、深さ23cmである。この溝もまた、側溝であった可能性があるが、対になるような溝を確定できず、路面についても確認できない。区画溝とみるほうが良いかもしれない。  
1750号溝(SD1750, 第49図・図版5)
- D地区大溝の北で、大溝と併行する。最大幅4.32m、最深44cmを測り、北西にかけては浅く広がっている。調査区西端では直行するSD1266に切られる。なお、この溝の南に併行するSD1802とは距離が約4.5mあり、これらを両側溝とする道路状遺構の存在も推測できる。平成17年度市調査石川地区でもこの溝の延長と考えられる溝が確認されている。また、溝底部ではいくつかの土坑を検出し

たが、部分的に土器がまとまってみつきり、SK1880からは土師器(543)が出土した。

#### 2216号溝(SD2216, 第50図)

B地区西側の中央で東西に横切る溝で、幅1.2m、深さ23cmである。SB36・37の南に沿うことから、これらの区画溝の可能性がある。

#### 2263号溝(SD2263, 第50図)

B地区南端。C・D地区から続くSD1007と同一遺構である可能性が高い。B地区内では両隣に数条の細い溝を伴うが、北に向かって広がり、消滅する。

#### 2270号溝(SD2270, 第48図・図版5)

B地区西側の北寄りに位置する、東西に約6.5mの短い溝で、最大幅1.5m、深さ27cmを測る。埋土には少量ながら炭化物や焼土が混ざり、ほぼ完形の須恵器杯、杯蓋が15点以上のほか、円面硯、土師器甕など多数の土器が出土した。遺物は溝のほぼ全域から出土したが、まとめて捨てられたものかは判然としない。

### E 列状遺構

並行する浅い溝群で、畝の畝間溝と考えられる遺構である。D地区北に同様の遺構が多く確認されており、南北方向に掘られた溝が大半を占める。ただし、東西方向や北東～南西方向の溝も混在しており、数時期にわたる畑作が行われていたと考えられる。

#### ①溝群 SD1523・1561・1577・1575・1531・1487(第51図)

最も南に位置する列状遺構で、下記③を含む、南北方向に掘られた10条程度の溝からなる。溝間幅は20～75cmで、均一的ではない。

#### ②溝群 SD1274・1273・1277・1271(第51図)

SD1266の南で、調査区東端で北東～南西方向に掘られた溝群で、溝間幅は20～55cmである。

#### ③溝群 SD1536・1573・1438・1578・1344・1541・1471(第51図)

上記の①溝群に連なるとみられ、溝幅、溝間幅ともに不均一である。SB28と重複するが、これらの溝群が新しい。

#### ④溝群 SD1604・1602・1601(第51図)

①溝群の北西で、溝間幅が25～30cmの細かな間隔で掘られた溝群。

#### ⑤溝群 SD1150・1145・1144・1122・1121・1149・1102・1188・1116・1115(第51図)

北西に位置する列状遺構で、中世の区画溝に切られる。およそ南北方向に掘られており、溝幅、溝間幅ともに不均一である。

### F 土坑

#### 355号土坑(SK355, 第52図・図版8)

D地区南、SB11と重複部分に位置する長径28cm、短径24cmの土坑である。深さは13cmで、底部に貼り付くように赤彩された須恵器杯(176)が出土した。

#### 1653号土坑(SK1653, 第52図・図版8)

D地区北、SD1750の北西でL字に屈曲するSD1628内で検出した楕円形の土坑で、長径42cm、短径29cmの土坑である。須恵器杯(279)が伏せた状態で出土した。

#### 527号土坑(SK527, 第52図・図版8)

D地区南、SB18と重複部分に位置する、長径1.08m、短径0.8mの不整形な土坑で、少量の焼土や炭化物に混じって土師器(497・612)が出土した。

## 500号土坑・501号土坑(SK500・SK501, 第53図)

D1地区南のSB11・14と重複する部分に位置する土坑で、SK500がSK501より新しい。SK500は長径1.36m、短径1.2m、深さは約35cmを測る。埋土の一部には焼土ブロックや炭化物が多量に混ざり込み、周囲の埋土とは異質な状況を示す。また、土器のほか輪羽口(620)が出土している。地山など周辺に焼けた痕跡などは見当たらないため、近隣で鍛冶作業などが行われたものを廃棄したと推測される。SK501は長径1.18mで、ほとんどの部分をSK500に切られた状態であるが、埋土には炭化物や焼土はほとんど含まれない。切合いから掘立柱建物群の柱穴はこの土坑より新しく、竪穴建物と同時期か。

## 498号土坑・520号土坑(SK498・SK520, 第54図)

D地区南、SB18と一部重なる部分に位置し、SK520がSK498より新しい。SK520は平面方形で、北辺は攪乱のため消失している。長軸2.83m、短軸2.8m、最深25cmを測り、内部では小型の土坑数基を検出した。検出当初は竪穴建物の可能性を考えたが、決め手のひとつであるカマドの痕跡が確認できず、また焼土・炭化物の混入もごく微量であったことから土坑として扱った。埋土からは須恵器杯(167・407)、蓋(354・355)、土師器甕(531・604)などが出土した。SK498は長軸2.54mで、東側はSK520との重複により形態や規模は不明である。南側底部が深さ33cmを測るが、北側では一段高くなる。

## 743号土坑・744号土坑(SK743・SK744, 第54図)

D地区南の調査区西端、SB26・SB27の南に位置するSD750の底部で検出した。SK743は長楕円形を呈し、長径1.17m、短径0.58m、深さ25cm、埋土には部分的に炭化物・焼土を多く含む層があり、須恵器杯(164)、蓋(378)が出土した。SK744は長径1.72m、短径0.55m、深さ30cmで、埋土にはSK743ほど炭化物・焼土を含まず、須恵器(168・170・272・441)のみ出土した。

## 753号土坑(SK753, 第54図・図版8)

SK743・SK744の北東に位置する。長径1.35m、短径1.2m、深さ23cmの楕円形の土坑で、検出の際、土坑中心部に炭化物と焼土の広がりを確認した。断面の観察から埋土中位に橙色の焼土層が確認できるが、埋土下位には焼成に伴うような堆積はみられない。また、出土遺物は須恵器(158)のみであり、この土坑で焼成作業が行われた可能性は低いと考えられる。

## (2) 遺物

8世紀後半～9世紀の時期と考えられる遺物が全域から出土した。特に大溝からは、墨書土器や木簡などが良好な状態でみつかった。包含層はかなりの部分で攪乱を受けており、原位置を保っている遺物はそれほど多くはないと考えられるが、遺構が集中する付近では遺物の分布密度が高い。

## A 須恵器(第55～70図・図版9・11・12・16・29～41)

杯、杯蓋、稜碗、円面硯、壺、甕、鉢などがあるが、食膳具の割合が高い。

12～74, 177～213, 300～311, 313, 317, 318, 398～400, 423は墨書土器である。判読できる文字には「酒万呂・酒磨」(12～16, 177～182, 300, 301, 303, 304)「秋万呂」(186)「安万呂」(183, 184)「三万■」(33～35)「■万呂・■磨」(36, 37, 302)「友田土」(17～21, 194, 307, 398, 399, 423)「友」(195)「五十」(43, 200, 305, 306, 400)「五?」(44)「金手」(22, 23, 25, 27)「金?」(26)「上川邊」(41, 42, 192)「川邊」(193)「専」(29, 30, 196, 197)「太」(49, 199)「大家」(31, 32)「家?」(188)「采女」(45)「岡」(190)「正月」(47, 204)「天田」(191)「行」(46)「六■」(210)「東内?」(39)「東■」(40)「■内?」(38)がある。人名や地名が多いとみられるが、なかには管理事

務所的な性格の施設名である「大家」があり、近隣に相当施設の存在を示唆する資料として注目される。また、「采女」は奈良時代において、郡司の姉妹や子女から容姿端麗な者を後宮女官として中央に貢進させる制度で、職名のひとつと考えられる。このほか、数字を表すものなどがある。墨書される器種で最も多いものは杯Aで、底部外面に書く例が主となる。次いで杯B高台内の墨書が多い。なお、墨書土器の8割以上は大溝から出土した。

また、墨書に関連する遺物として硯が挙げられる。300、303、312、314、320、321は杯蓋を硯に転用したもので、300、303はそれぞれ外面、内面に「酒磨」の文字がある。このほか、器の内側に墨痕がある59、402のほか、墨痕が確認できなくても表面が非常に滑らかなものもある。

416、417は円面硯で、416は圈足硯脚部の透かし部分。417は筆立ての付くタイプで三脚を想定しているが、脚数は多い可能性がある。角柱状の脚部には線刻による装飾があり、接地部分は一回り細く削り出したうえ、内側に抉りが入る。また、脚部上面には細筆が差し込めるような途中までの穴が空けられている。硯本体の外面には列点文や円形文が一周するなど、きわめて装飾性が高く、復原径24cm、厚み6.8cmのかなり重厚感のある製品だが、硯面は滑らかで使用されている。類例は富山市西金屋窯跡の灰原資料および古沢窯の表採品に確認されており、これらを実現したところ、細部の装飾についても共通点が多く、この周辺の窯跡でつくられた可能性が高いと考える。

65、75～84、210、212～219、221、331～343には線刻がある。「-」「×」が多く見られ、杯では底部外面、杯蓋では内面に刻まれるものがほとんどである。85～88、220～222は表面に漆が附着しており、専用容器やパレットとして用いたと考えられる。これらの漆付着土器は、D地区大溝の北側のみ出土が限られており、特徴的な遺物である。176は生焼け状に軟質で、外面が赤彩される。

411～415はミニチュアの壺で、文房具の水滴に使用されたとも考えられる。貯蔵具・調理具は食器に比べ量が少ない。長頸壺、短頸壺、広口壺、直口壺、横瓶、双耳瓶、鉢、甕がある。鉢や壺の豊富な器種構成などから、8世紀後半が主体とみられる。

#### B 土師器(第71～77図・図版9・11・13～15・41～46)

碗、杯、杯蓋、皿、甕、瓶、鍋などがある。須恵器に比べて残存状況が悪く、食器具・調理具ともに復原できたものは多くない。

476～486は内面に黒色処理。481、487、488、510は内面黒色で外面赤彩を施す。489～499、501～509、511～516は赤彩。510、511、513は底部内面に螺旋暗文、体部内面に一段の放射状暗文を施す。521、522、524～526は底部糸切り。

甕はハケメ調整からカキメ、ケズリ、タタキによる調整へと変遷があるが、竪穴建物からの出土土器にハケメ調整の古相がみられ、掘立柱建物群との時期差を考えるうえで有効である。551～564は人面墨書土器である。個体数では7個体以上と考えられるが、小片のため不明であるものを含む。558は唯一ほぼ完形に復原でき、四面の描写が判明した。最も良く残る一面は、顔の輪郭のなかに眉、目、鼻、口を描き、さらに頬から下方への線は髭を表すと考えられる。そのほかの三面は欠損部があるため全貌は知れないが、同様に髭の表現がみられる。551は小型の甕で、目の一部とみられる表現のみ残る。552は口縁部の内外面に筆跡。553は両目の表現。554、555は同一個体の可能性がある。556は顔の輪郭と目の一部、髭の表現が離れた部位にあることから、複数面描かれたと考えられる。557は558に似た表現の顔で、複数面描かれる。559～564は同一個体とみられ、それぞれ眉、目や鼻の一部などが断片的にわかる程度である。

#### C 土製品(第76図・図版46)

613～619は土鍾。620、621は<sup>かご</sup>籠羽口。

#### D 木製品(第78～85図・図版9・10・51～55)

木簡、甕申、馬形、舟形、木札、火鑽臼、容器、柱、礎板などがある。柱と礎板を除き、すべて大溝から出土した。樹種は大半がスギで、容器類にケヤキ、マツ、板材にヒノキ、柱材にクリがある。

木簡は3点が出土した。631は荷札木簡、表に「丸部飯刀自女上米一半」、裏に「十月十六日」とある。これは丸部飯刀自女という名の女性が、米を一石の半分(五斗=一俵)進上したことを示す内容で、裏面は納めた日付と考えられる。県内における荷札木簡としては、入善町じょうべのま遺跡、射水市北高木遺跡、高岡市東木津遺跡、同市須田藤の木遺跡で出土例があるが、本例は国郷名や年紀を記さないこと、納入する内容が米であること、地元で出土していることなどから、近隣地における耕地貸借で、事務的性格をもつ施設に賃租を納める際の付札と考えられる。なお、この木簡は古代氏族丸部の史料としては越中国初出であり、丸部氏が若狭、越前、加賀に続き越中に及んでいた事実が確認されたことは大きな意義がある。632は習書木簡、音読みで「ケン」を表す「見」「脊」を書き、その下や裏面には筆先ならしと思しき横線が幾筋も引かれている。稚拙な字体から、文字の練習したものと考えられ、上下は欠損している。633は呪符木簡、表には一番上に符録の記号を書き、その下に「急々如律令」、裏面には天地逆に「五六□□」と書かれるが判読不能。古代の呪符木簡としては県内初とみられ、中央の呪術を受容していたことを示す資料である。634～639は札。634は先端を主頭状に加工する。635には紐かけ状の挟りがある。636は上端が凸状、下端を尖らせる。638は下端に三角形の挟りが入る。

640は蓋で、須恵器の杯蓋を模したもの。641～643は皿で、642の内面は黒く炭化している。皿、蓋の樹種はケヤキで、いずれも薄手で精巧なつくりである。644～654は円形板。曲物底板などで、側面に目釘をもつものもある。655は板材に漆付着がある。656～659は火鑽臼で、白部分の炭化が確認できる。

660、661は馬形。660は完形で、上半部の表面に刺突のような傷がみられる。662は甕申で、1点のみ出土した。黒崎分類の甕申B、奈文研分類のCⅣ型式で、下端は欠損している。666、667は上端を尖らせ、舟形の可能性がある。668～670は先端が削られたもの。671は上端が挟り、下端は尖らせる。672は端部付近で削りを一周巡らすことで、頭部状の突起を作り出している。676は先端部が炭化。677～678はそれぞれ、端、中央に孔をもつ。679は先端片側に挟り、680は片側に大きく挟りを入れる。681は先端を削り出し、段状の加工を施す。

682は礎板。多数ある柱穴のなかSB43のSP2143で確認した唯一の出土例である。686はSB24の柱穴SP700で検出したクリ材の柱で、底面の加工痕が良く残る。

#### E 石製品・金属製品(第86図・図版46-50)

689は紡錘車。古墳時代以降の混入の可能性がある。688～693は砥石。688はSB14の柱穴SP426から出土した。693はSI200の底部付近で出土した。大型品で、やや剥離性をもつ泥岩である。

694～696は板状金属製品。696はSI631から出土した。697～699の鉄滓は包含層の出土である。

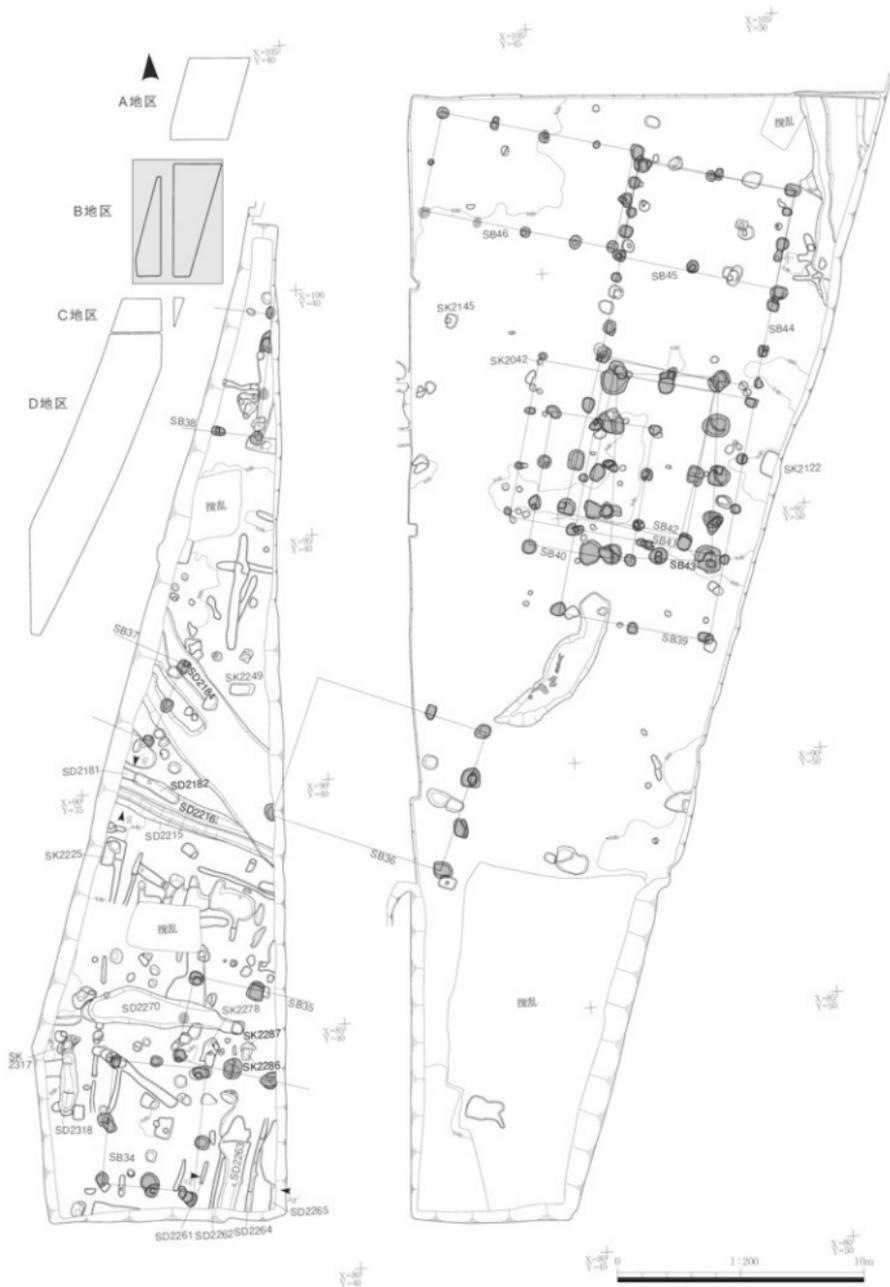


第 10 图 古代遺構全体図



第 11 图 古代遺構全体図

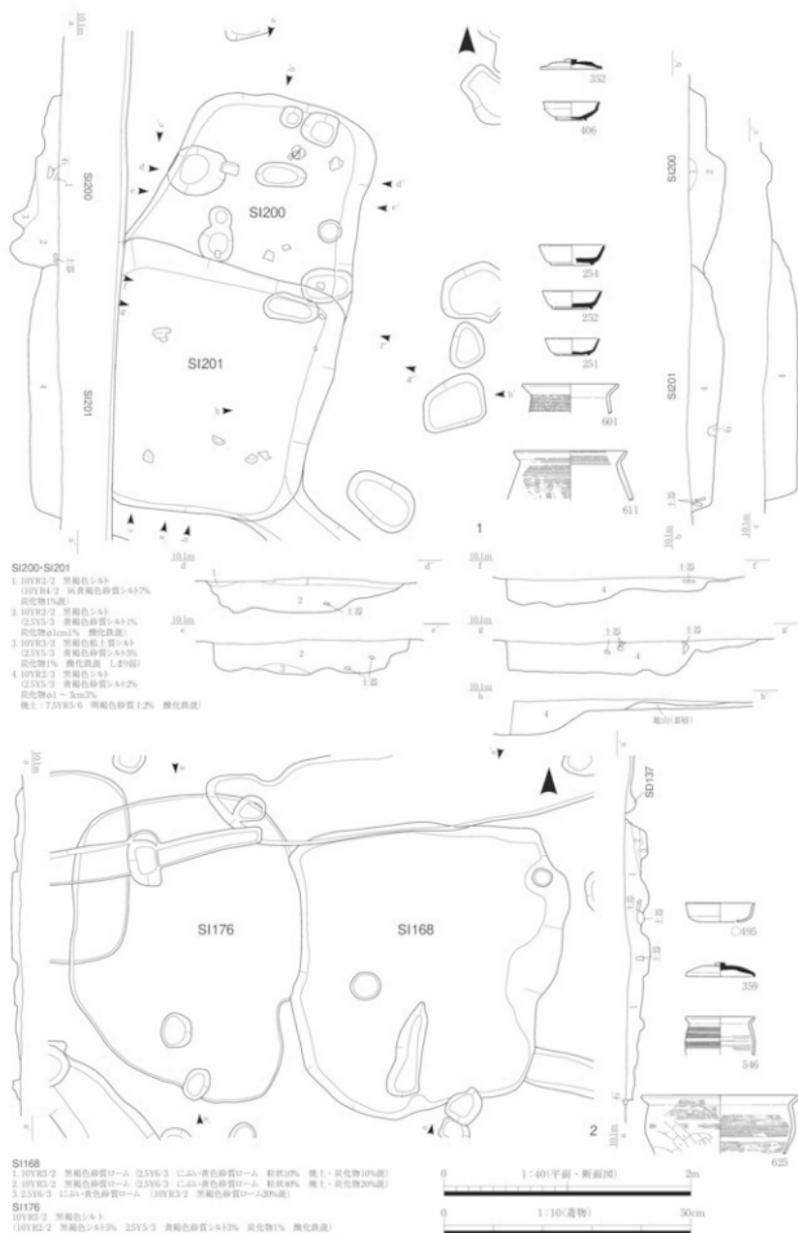




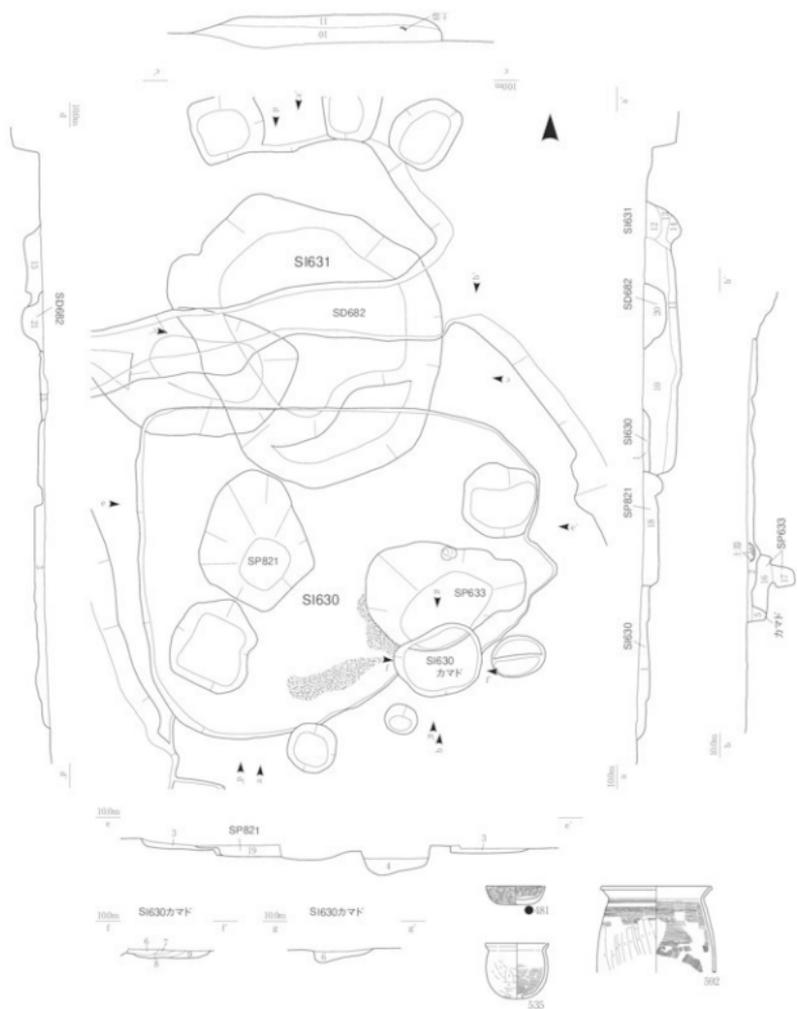
第13図 古代遺構全体図



第14図 古代遺構実測図  
SI110



第 15 図 古代遺構実測図  
1. SI200・SI201 2. SI168・SI176

**S1630**

1. 10YK3-2 赤褐色シタト (23Y3-3 黄褐色シタト帯状25%混)
2. 10YK2-2 赤褐色シタト (23Y3-3 黄褐色シタトフロック状20% 炭化物粒状7%混)
3. 10YK2-2 赤褐色シタト (23Y3-3 黄褐色シタトフロック状20% 炭化物粒状7%混)
4. 23Y3-3 赤褐色シタト (10YR4-1 赭灰色シタト帯状30% 炭化物粒状32%混)

**S1630カマド**

5. 10YK2-2 赤褐色シタト (23Y3-3 土間・赤褐色シタトフロック状20% 炭化物フロック状10%混)
6. 10YK2-2 赤褐色シタト (同上・炭化物フロック状6% 炭化物粒状10%混)
7. 10YR4-1 赭灰色シタト (炭化物粒状5%混)
8. 10YR4-1 赭灰色シタト (同上フロック状20% 炭化物粒状10%混)
9. 10YR4-1 赭灰色シタト (炭化物粒状10%混)

**S1631**

10. 10YK2-2 赤褐色シタト (23Y3-3 黄褐色シタトフロック状20% 10YR4-1 赭灰色シタトフロック状20% 焼土・炭化物フロック状10% 炭化物粒状10%混)
11. 10YR4-1 赭灰色シタト (23Y3-3 黄褐色シタトフロック状20% 炭化物フロック状10%混)
12. 10YK2-2 赤褐色シタト (23Y3-3 黄褐色シタトフロック状20% 炭化物フロック状20% 炭化物粒状10%混)
13. 10YR4-1 赭灰色シタト (10YK2-2 赤褐色シタト帯状20% 炭化物粒状10%混)
14. 10YK2-2 赤褐色シタト (10YR4-1 赭灰色シタト帯状20% 炭化物フロック状20%混)
15. 10YK2-2 赤褐色シタト (23Y3-3 黄褐色シタト帯状25%混)

**SP633**

16. 10YK3-2 赤褐色シタト (23Y3-3 黄褐色シタトフロック状20% 炭化物フロック状20% 炭化物粒状5%混)
17. 10YK2-2 赤褐色シタト (23Y3-3 黄褐色シタトフロック状20% 炭化物・焼土フロック状25%混)

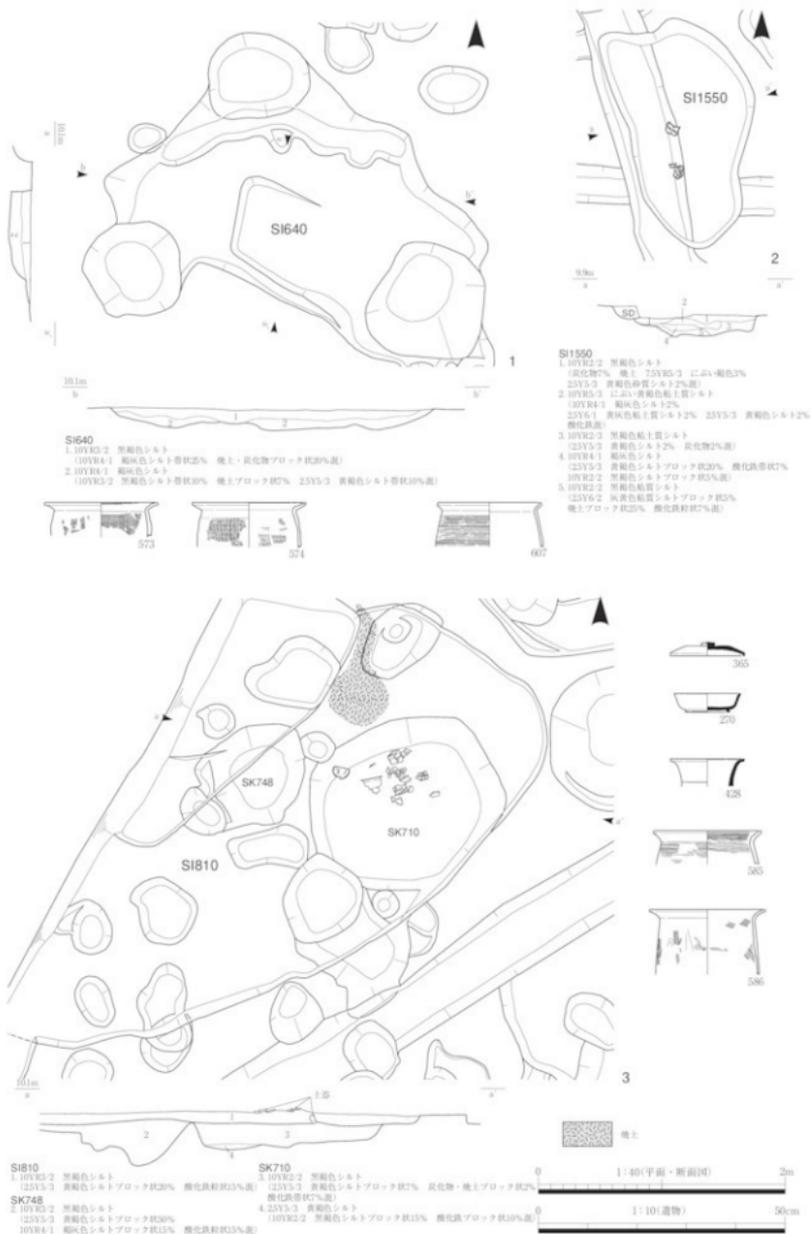
**SP821**

18. 10YK3-2 赤褐色シタト (23Y3-3 黄褐色シタトフロック状20% 炭化物・焼土フロック状7%混)
19. 10YK2-2 赤褐色シタト (23Y3-3 黄褐色シタトフロック状10% 焼土フロック状2%混)

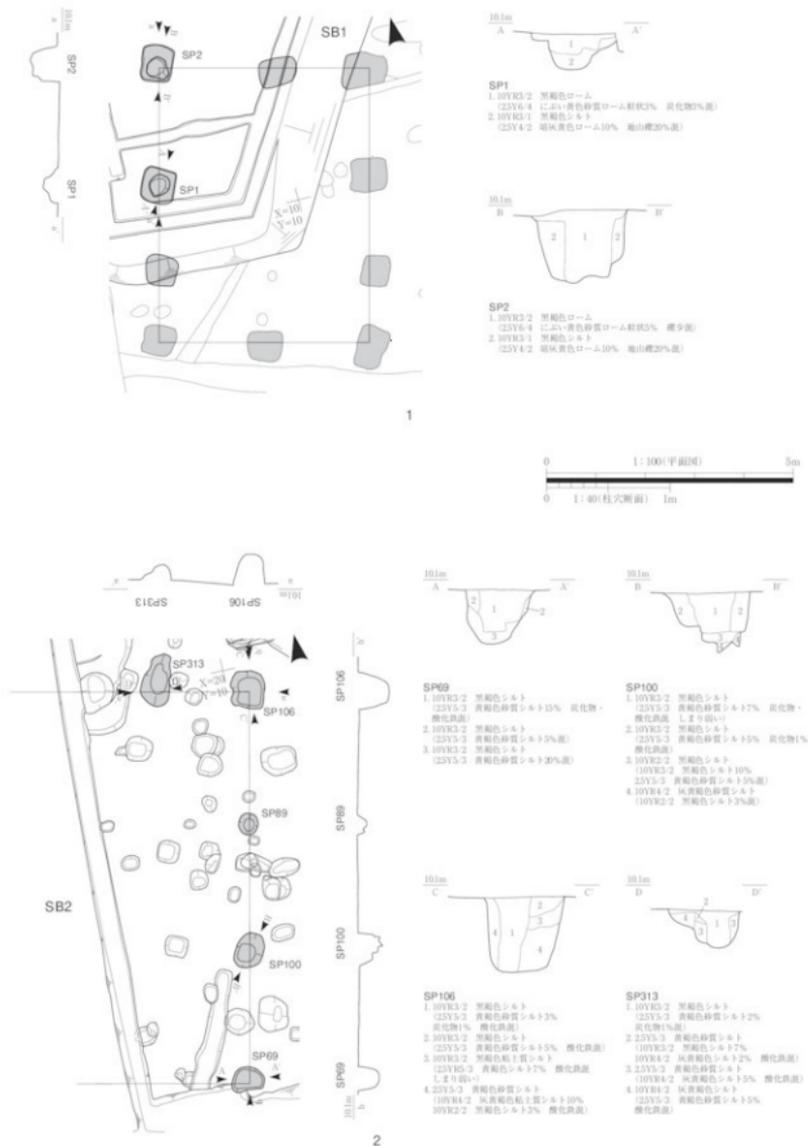
**SD682**

20. 10YK3-2 赤褐色シタト (23Y3-3 黄褐色シタトフロック状20% 炭化物フロック状5%混)
21. 10YK3-2 赤褐色シタト (23Y3-3 黄褐色シタトフロック状15% 炭化物・焼土フロック状5%混)

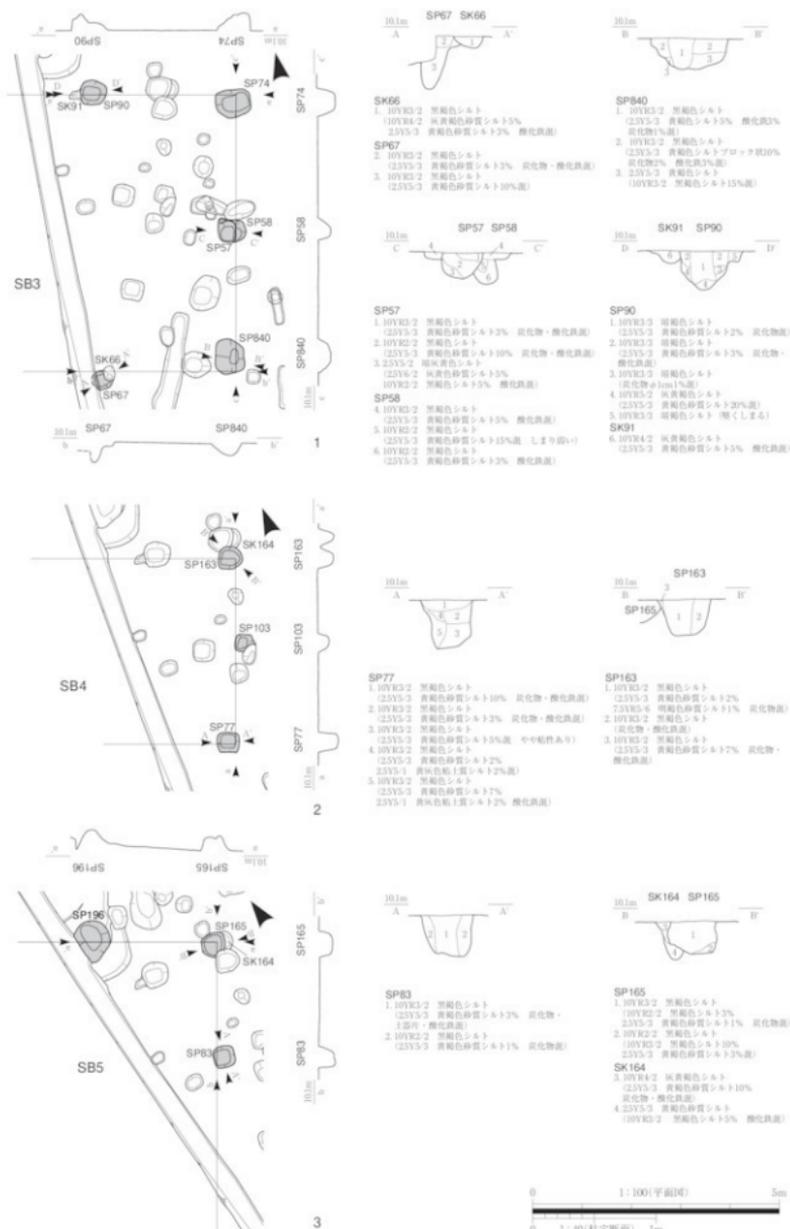
第16図 古代遺構実測図  
S1630・S1631



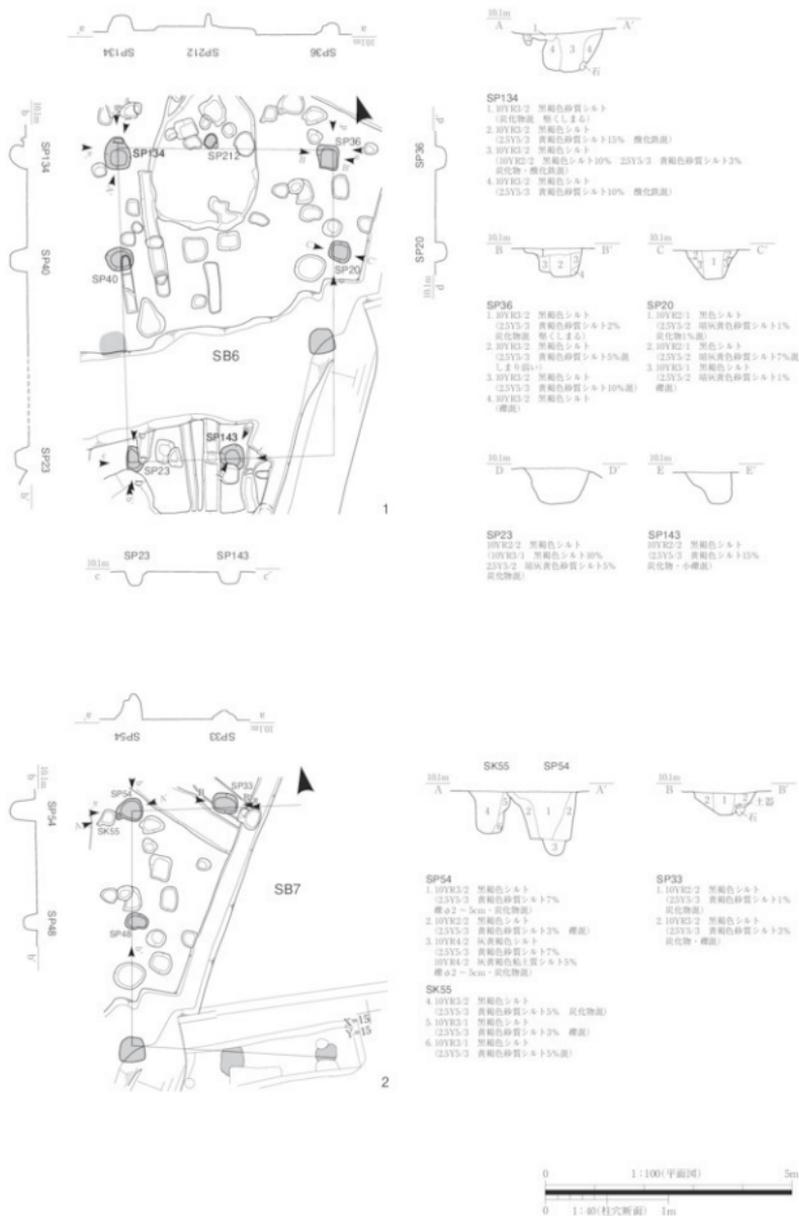
第 17 図 古代遺構実測図  
1. SI640 2. SI1550 3. SI810

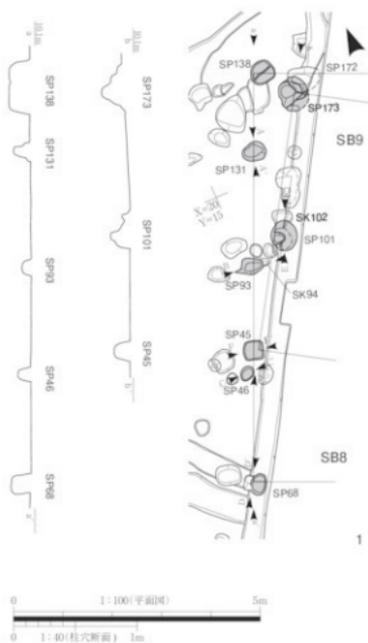


第18図 古代遺構実測図  
 1. SB1 2. SB2

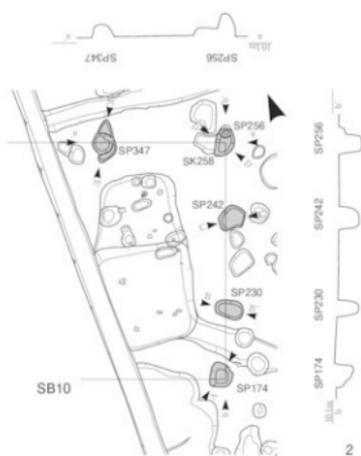


第19図 古代遺構実測図  
1. SB3 2. SB4 3. SB5

第20図 古代遺構実測図  
1. SB6 2. SB7



1



2



- SP131**
1. 10YR3/2 黄褐色シルト
  2. 2.5Y5/2 黄褐色砂質シルト2% 炭化物
  3. 2.5Y5/2 黄褐色砂質シルト10% 炭化物
  3. 2.5Y5/2 黄褐色砂質シルト
  - 10YR3/2 黄褐色シルト5%面)



- SP93**
1. 10YR3/2 黄褐色シルト
  2. 2.5Y5/2 黄褐色砂質シルト15% 炭化物(面)
  - 10YR3/2 黄褐色シルト
  - 2.5Y5/2 黄褐色砂質シルト15% 炭化物
  - 土より面(+)

- SK94**
3. 10YR3/2 黄褐色シルト
  - 2.5Y5/2 黄褐色砂質シルト2% 炭化物



- SP45**
1. 10YR3/2 黄褐色シルト
  2. 2.5Y5/2 黄褐色砂質シルト3% 炭化物
  - 炭化物 多く含まれる



- SP68**
1. 10YR3/2 黄褐色シルト
  2. 10YR3/2 黄褐色砂質シルト11% 炭化物
  - 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト55%面)
  3. 10YR2/2 黄褐色シルト
  - 2.5Y5/2 黄褐色砂質シルト2% 炭化物
  - 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト3%面) 土より面(+)



- SP101**
1. 10YR3/2 黄褐色シルト
  2. 2.5Y5/2 黄褐色砂質シルト2% 炭化物1%
  - 炭化物
  - 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト
  - 10YR3/2 黄褐色シルト10% 炭化物
  3. 10YR2/2 黄褐色砂質シルト
  - 腐炭



- SP45**
1. 10YR3/2 黄褐色シルト
  2. 10YR3/2 黄褐色砂質シルト11% 炭化物
  - 2.5Y5/2 黄褐色砂質シルト15% 炭化物
  - 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト3%面) 土より面(+)

- SK102**
4. 10YR3/2 黄褐色シルト
  - 2.5Y5/2 黄褐色砂質シルト1% 炭化物



- SP174**
1. 2.5Y5/3 灰黄褐色砂質土
  - 炭化物
  - 10YR3/2 黄褐色シルト
  - 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト11% 炭化物・炭化腐炭
  - 10YR3/2 黄褐色シルト
  - 10YR4/2 灰黄褐色シルト7% 炭化物1% 炭化腐炭
  - 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト2% 炭化物
  4. 10YR2/2 黄褐色シルト
  - 10YR3/2 黄褐色シルト10%
  - 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト11% 炭化物・炭化腐炭
  - 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト
  - 10YR3/2 黄褐色シルト7% 炭化物



- SP230**
1. 10YR3/2 黄褐色シルト
  2. 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト17%
  - 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト15% 炭化物1%
  - 炭化腐炭



- SP242**
1. 10YR2/2 黄褐色シルト
  2. 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト33% 炭化物1%
  - 炭化腐炭
  - 10YR3/2 黄褐色シルト
  - 10YR4/2 灰黄褐色シルト17% 炭化物
  - 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト5% 炭化物
  - 炭化腐炭
  - 10YR3/2 黄褐色砂質シルト
  - 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト5% 炭化腐炭
  - 土より面(+)

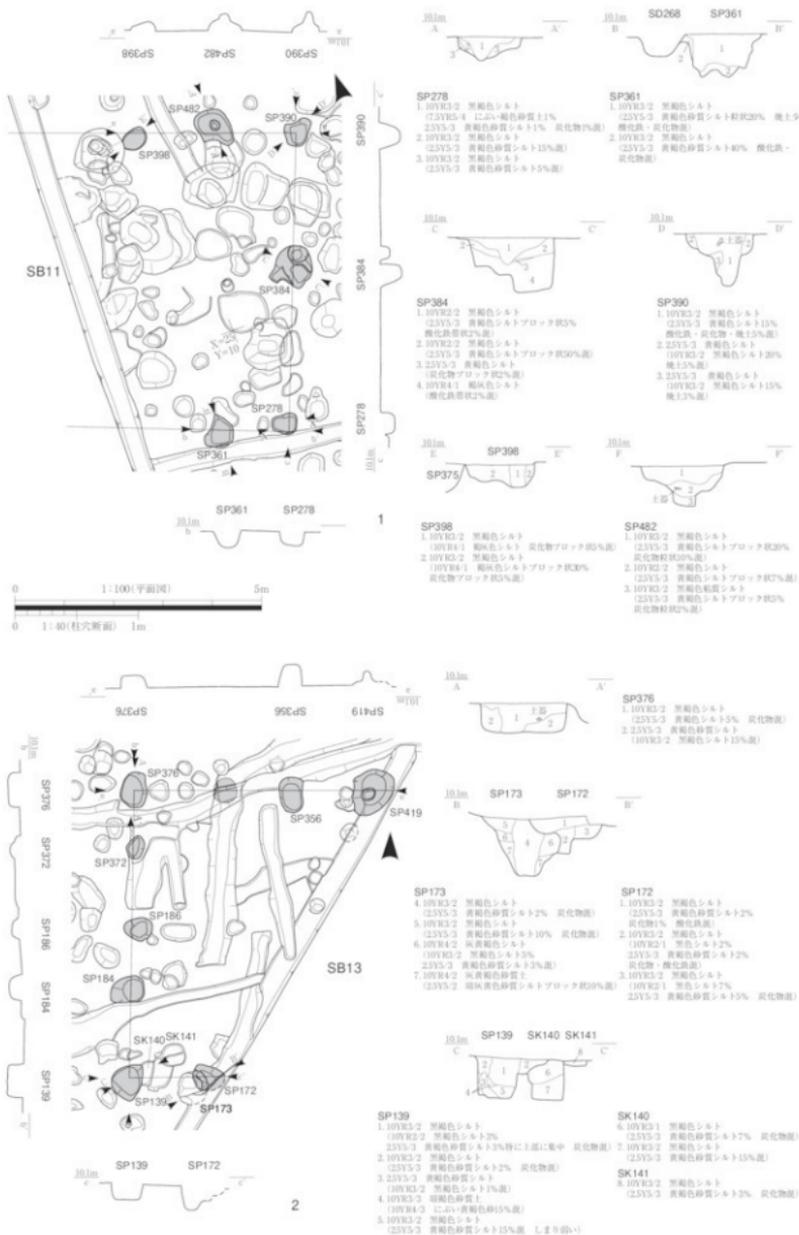


- SP256**
1. 10YR3/2 黄褐色シルト
  2. 2.5Y5/2 黄褐色砂質シルト15%
  - 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト5% 炭化物・炭化腐炭
  2. 10YR3/1 黄褐色砂質シルト
  - 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト5%面) 土より面(+)

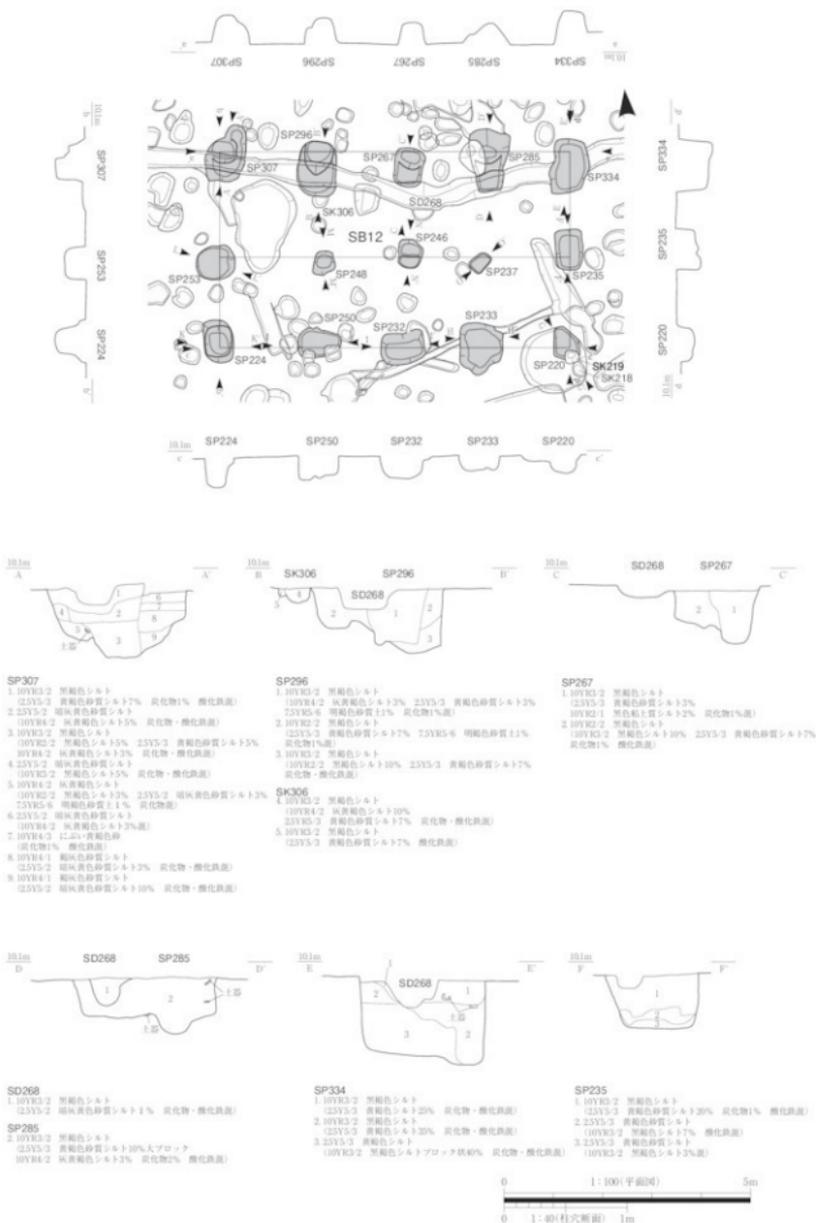


- SP347**
1. 10YR4/1 黄褐色シルト
  2. 10YR3/2 黄褐色シルト 炭化物・炭化腐炭
  - 10YR4/2 灰黄褐色シルト
  - 2.5Y5/2 黄褐色シルト30%面)
  3. 2.5Y5/2 黄褐色シルト
  - 10YR4/2 灰黄褐色シルト30% 炭化物

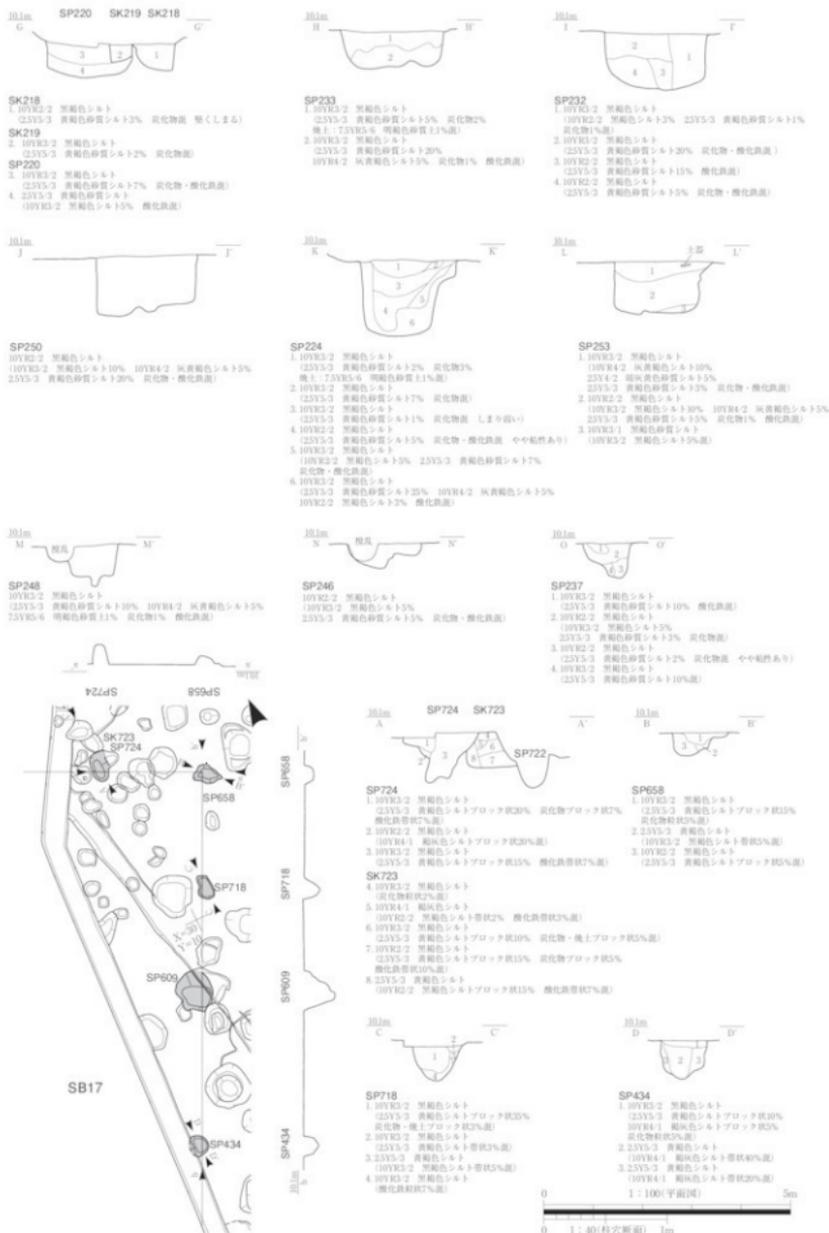
第21図 古代遺構実測図  
1. SB8 SB9 2. SB10

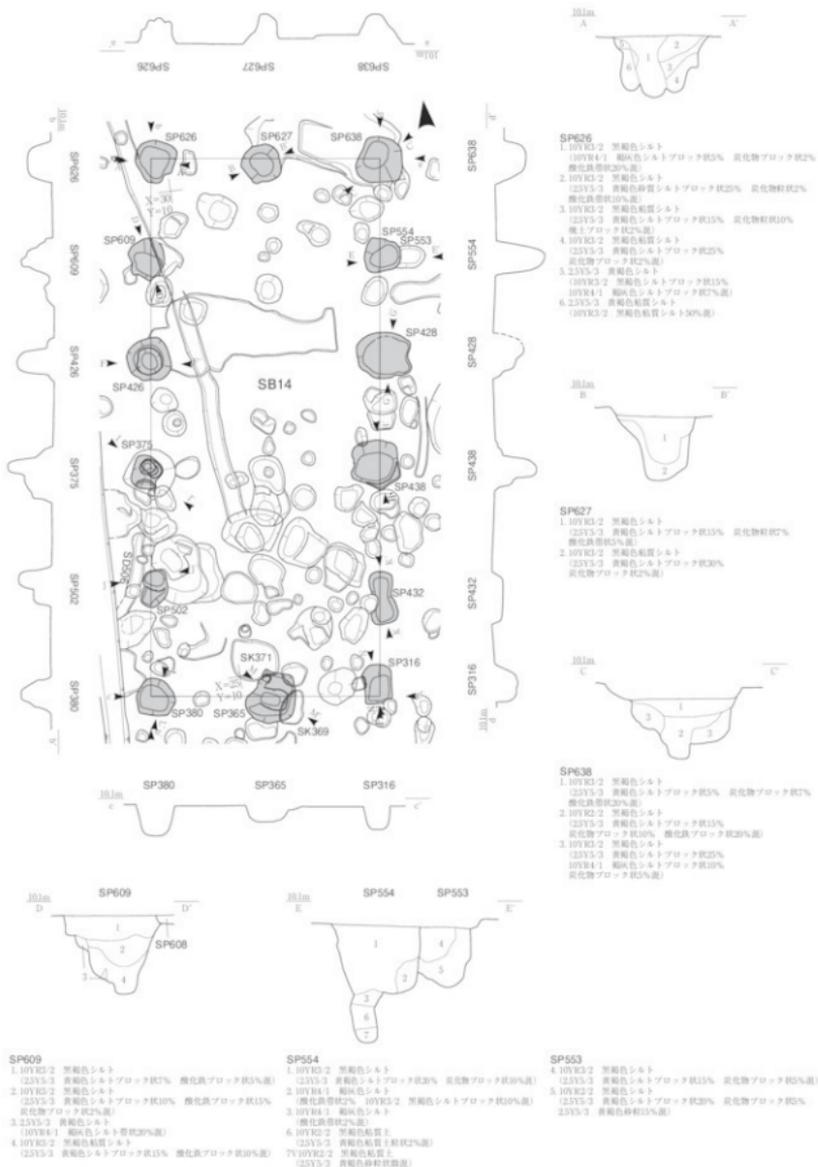


第22図 古代遺構実測図  
1. SB11 2. SB13



第23図 古代遺構実測図 SB12



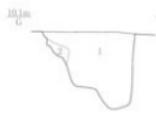


第 25 図 古代遺構実測図 SB14



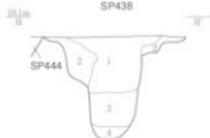
## SP426

1. 10YR3/2 黒褐色シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シト粒状3% 炭化物・酸化鉄多量)  
 2. 10YR3/2 黒褐色シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シトブロック状30% 酸化鉄量)



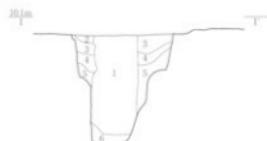
## SP428

1. 10YR3/2 黒褐色シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シトブロック状30% 焼土・酸化鉄・炭化物粒状10%量)  
 2. 2.5Y3/2 黄褐色シト  
 (酸化鉄ブロック状3%量)



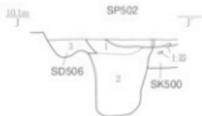
## SP438

1. 10YR3/2 黒褐色シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シトブロック状15% 焼土・炭化物粒状10%量)  
 2. 2.5Y3/2 黄褐色シト  
 (10YR3/2 黒褐色シトブロック状50% 炭化物量)  
 3. 2.5Y3/2 黄褐色シト  
 (10YR3/2 黒褐色シトブロック状10%量)  
 4. 2.5Y4/1 黄褐色粘質シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シトブロック状20% 炭化物・酸化鉄量)



## SP375

1. 10YR3/2 黒褐色シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シト粒状15% 焼土粒状・炭化物量)  
 2. 2.5Y3/2 黄褐色シト  
 (10YR3/2 黒褐色シト30%量)  
 3. 10YR3/2 黒褐色シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シト粒状20% 炭化物量)  
 4. 2.5Y3/2 黄褐色シト  
 (10YR3/2 黒褐色シト40%量)  
 5. 10YR2/1 黒褐色粘質シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シト粒15%量)  
 6. 2.5Y3/2 黄褐色粘質シト  
 (10YR3/2 黒褐色シト20% 酸化鉄量)



## SP502

1. 10YR3/2 黒褐色シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シト粒30% 炭化物・酸化鉄量)  
 2. 10YR2/2 黒褐色シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シトブロック状30% 炭化物・焼土粒状15% 酸化鉄量約10%量)  
 SD506  
 3. 10YR2/2 黒褐色シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シトブロック状30% 炭化物粒状10%量)



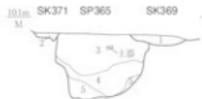
## SP432

1. 10YR3/2 黒褐色シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シトブロック状30% 炭化物粒状5%量)  
 2. 10YR2/2 黒褐色シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シトブロック状15% 炭化物粒状2% 酸化鉄量)



## SP380

1. 10YR3/2 黒褐色シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シトブロック状15% 炭化物粒状・焼土粒状15%量)  
 2. 10YR3/2 黒褐色シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シトブロック状5% 炭化物粒状2%量)  
 3. 2.5Y3/2 黄褐色シト  
 (10YR3/2 黒褐色シトブロック状20%量)  
 4. 10YR2/2 黒褐色シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シトブロック状5% 炭化物粒状2%量)



## SK369

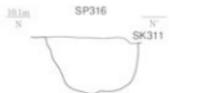
1. 10YR3/2 黒褐色シト  
 (10YR4/1 褐色シト粒15% 2.5Y3/2 黄褐色シト粒状15% 焼土5% 炭化物量)

## SK371

1. 10YR3/2 黒褐色シト  
 (10YR4/6 褐色シト焼土30% 2.5Y3/2 黄褐色シト15%量)

## SP365

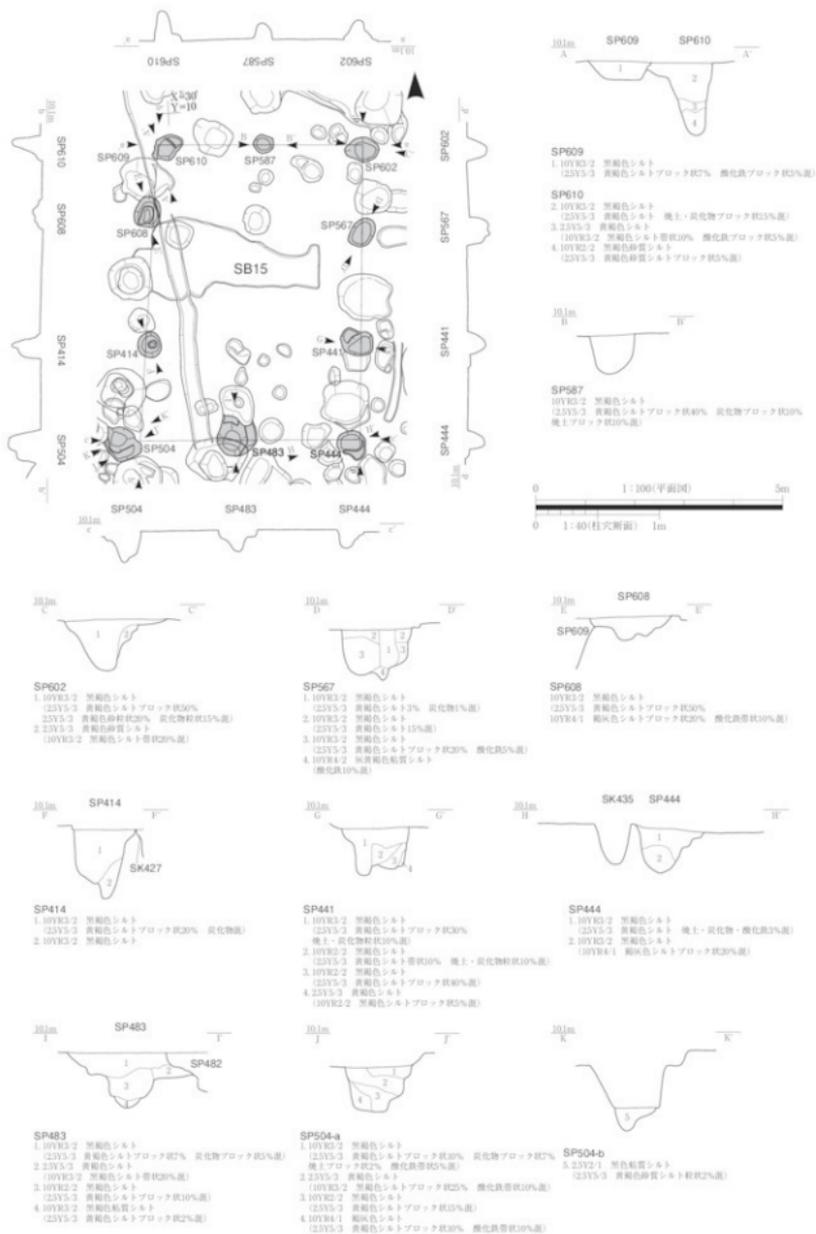
3. 10YR3/2 黒褐色シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シト粒状15% 炭化物・酸化鉄量)  
 4. 10YR3/2 黒褐色シト  
 (2.5Y3/2 黄褐色シトブロック状20%)  
 10YR4/2 褐色粘質シト30% 酸化鉄量)  
 5. 2.5Y3/2 黄褐色粘質シト  
 (10YR3/2 黒褐色シト25% 酸化鉄量)



## SP316

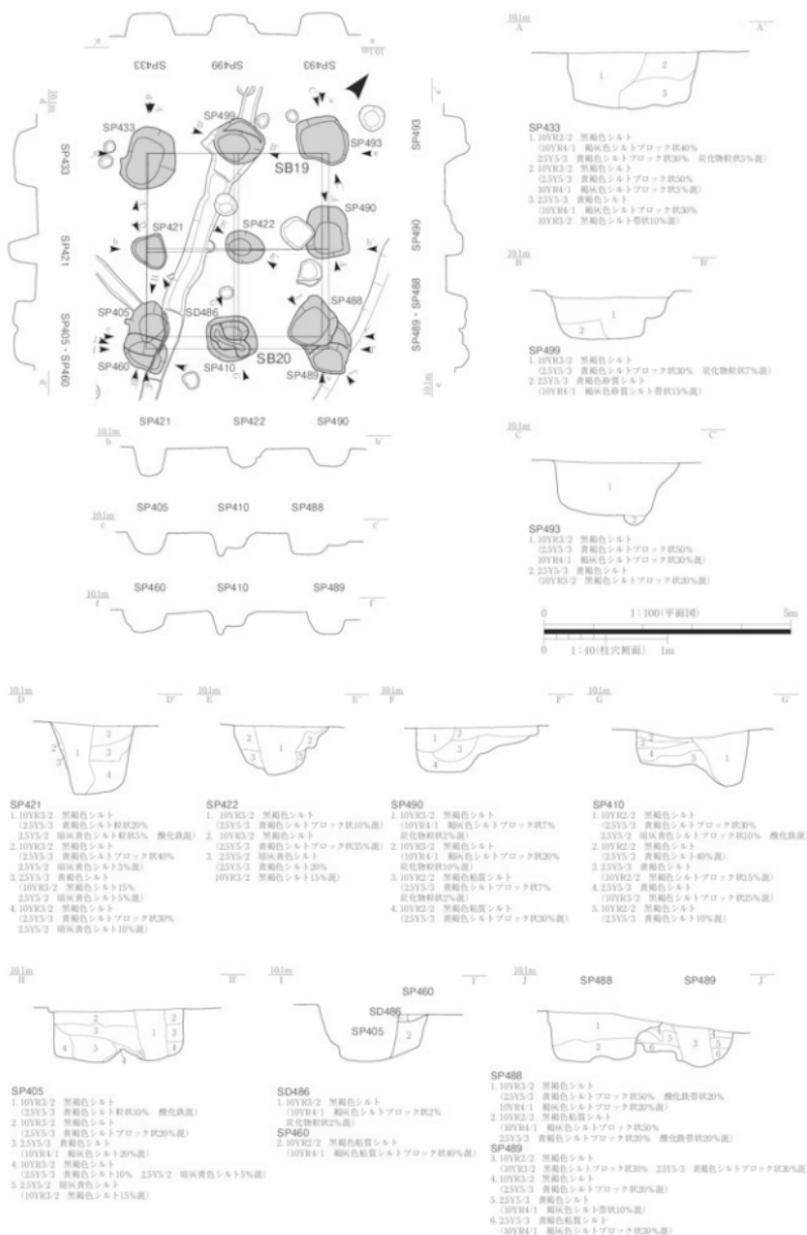
- 10YR3/2 黒褐色シト  
 (10YR4/2 褐色粘質シト10% 2.5Y3/2 黄褐色粘質シト15% 炭化物1% 酸化鉄量)



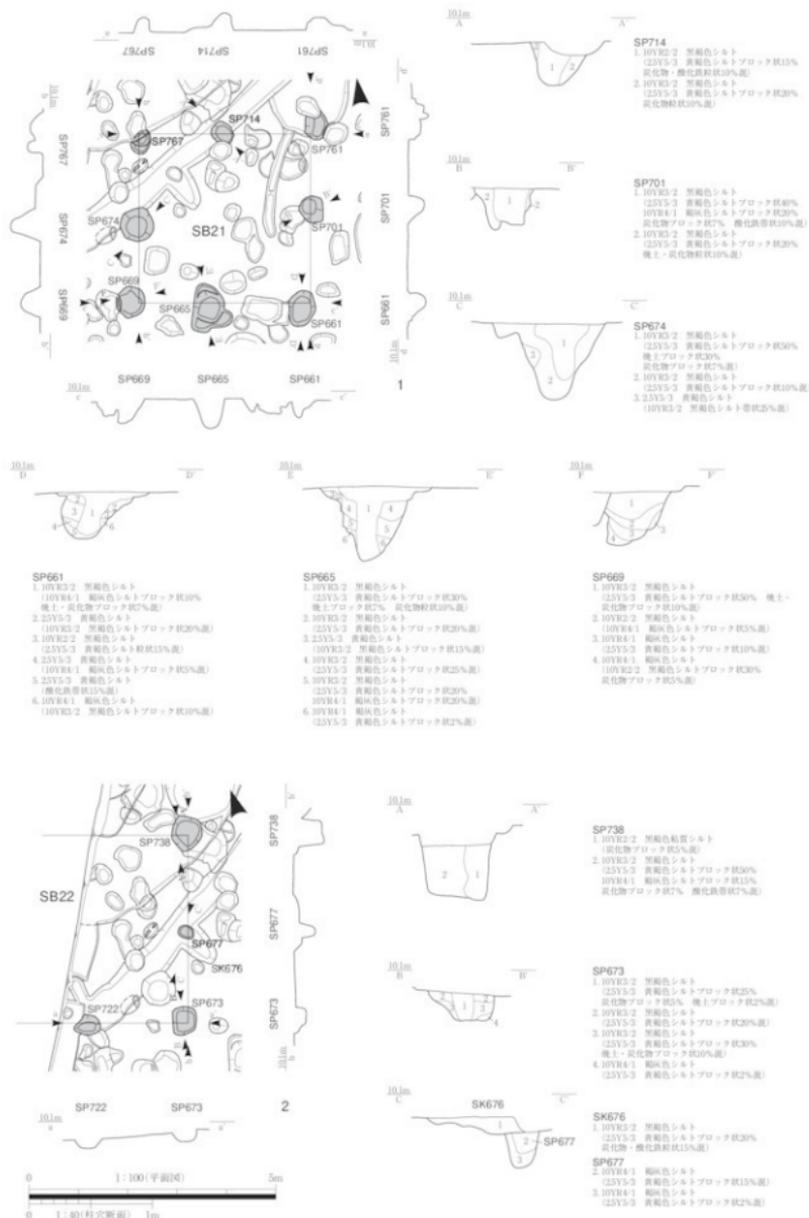


第27図 古代遺構実測図 SB15

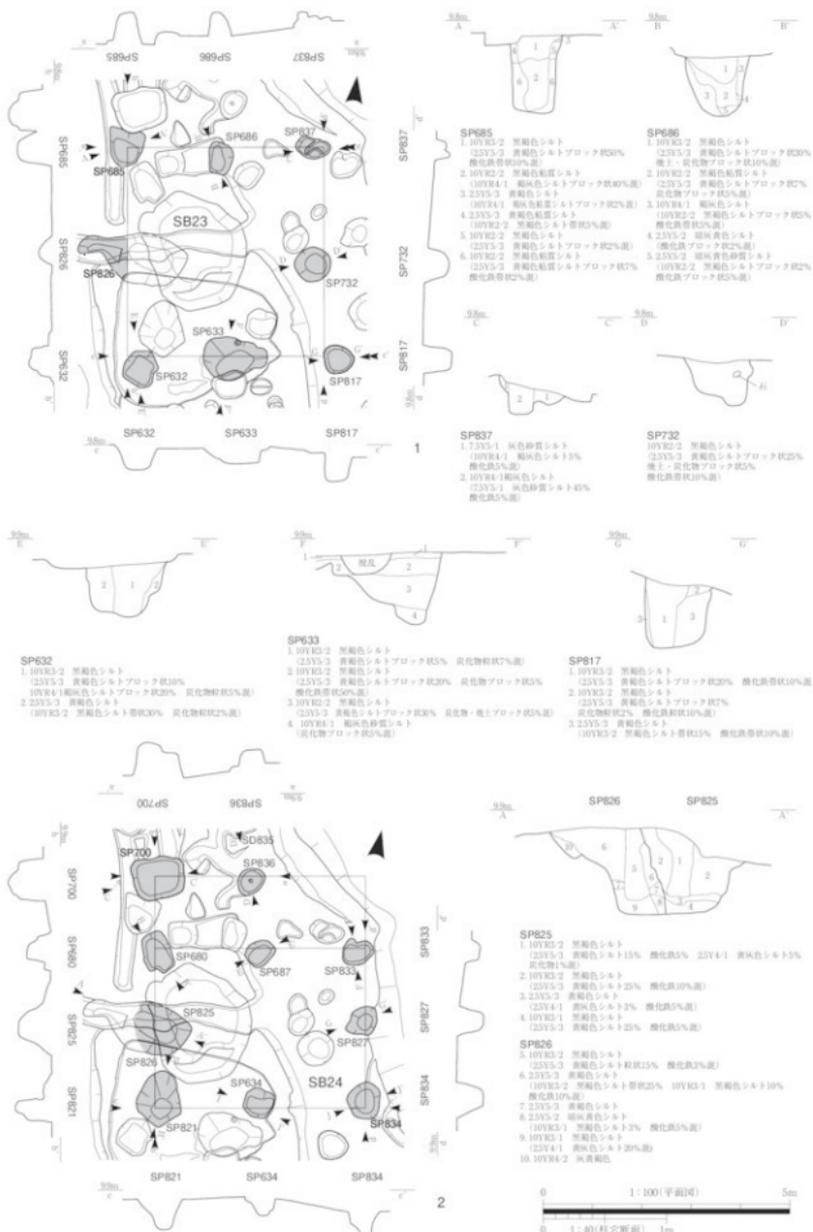




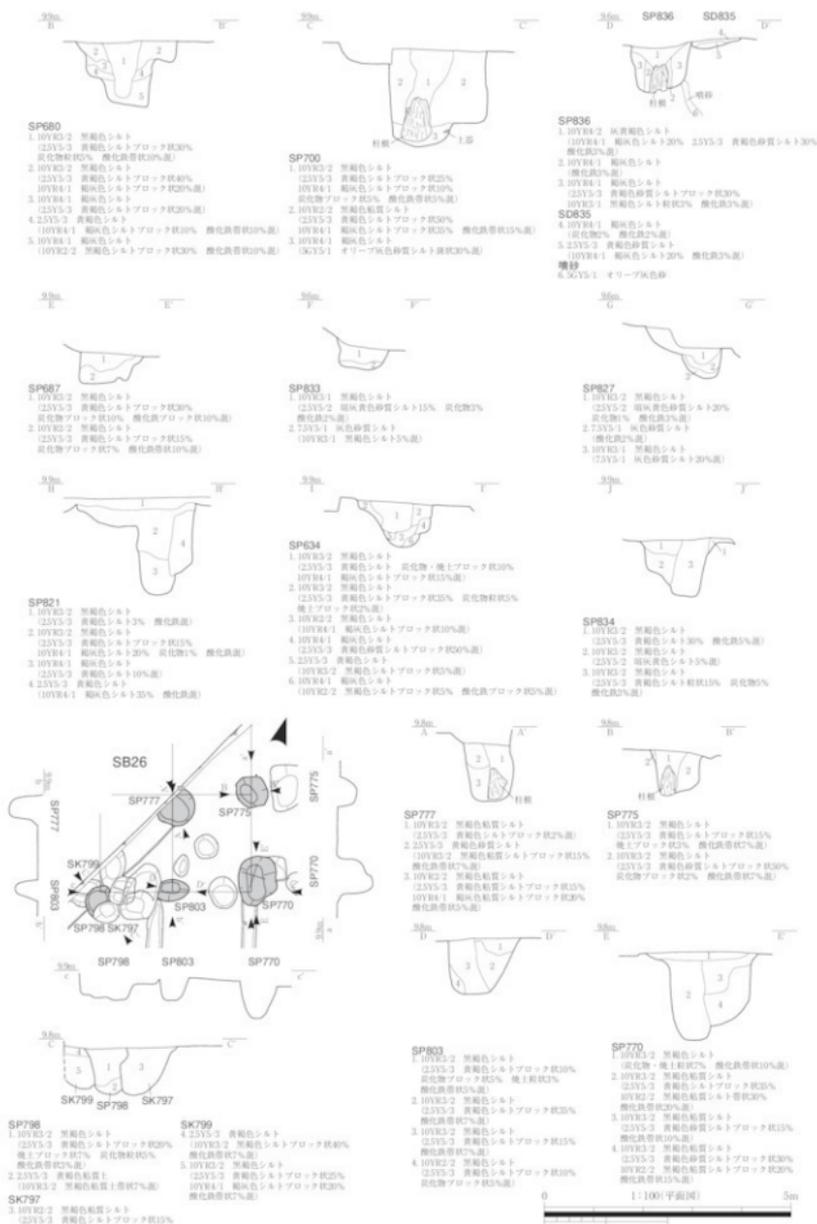
第29図 古代遺構実測図  
1. SB19 SB20



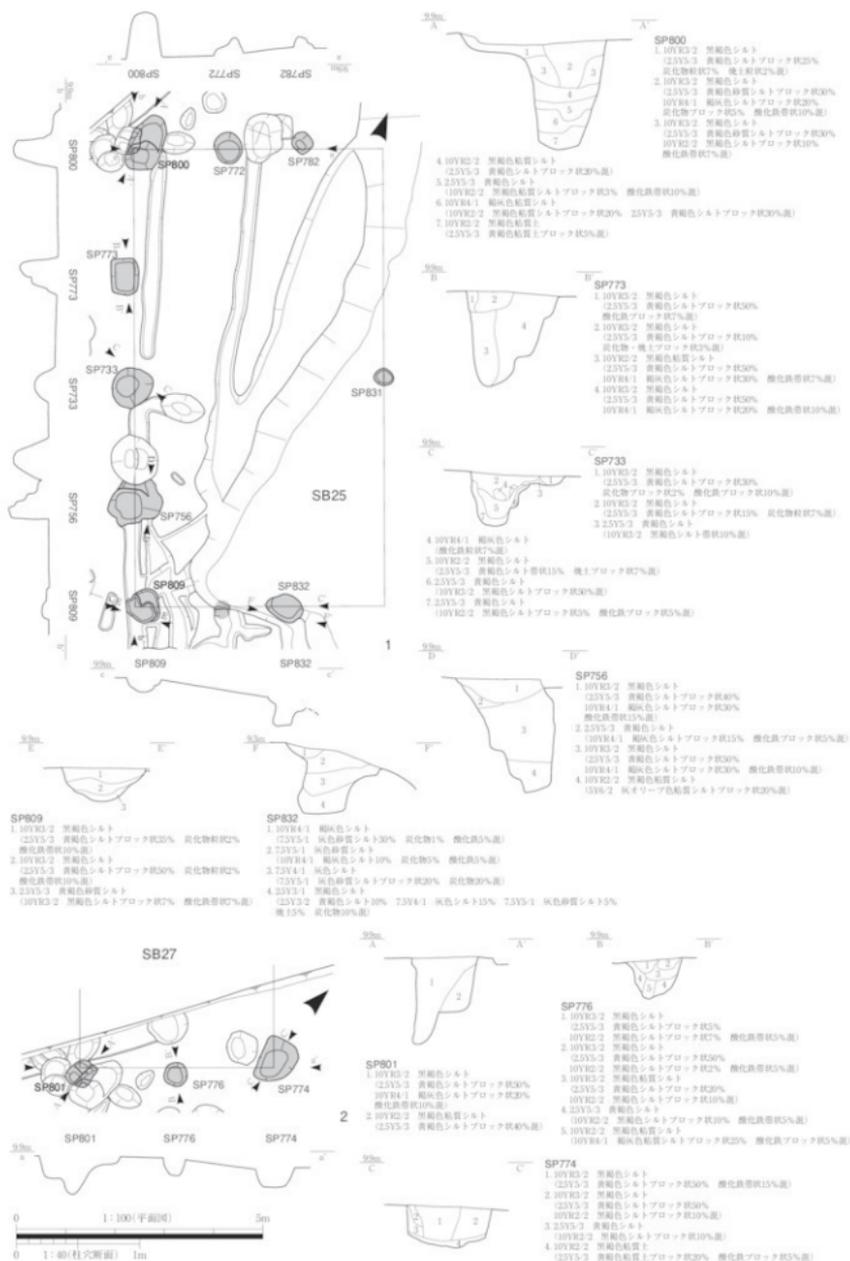
第30図 古代遺構実測図  
1. SB21 2. SB22



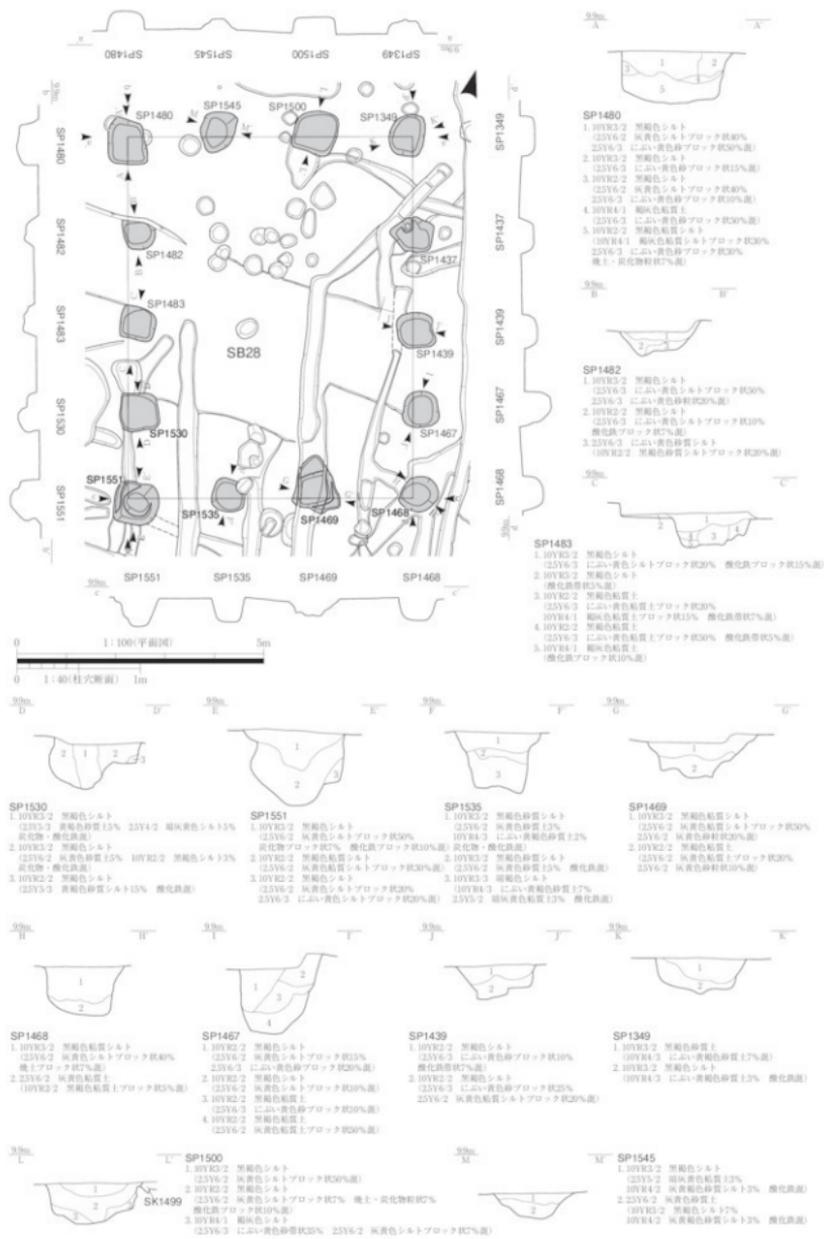
第31図 古代遺構実測図  
1. SB23 2. SB24



第32図 古代遺構実測図 SB26

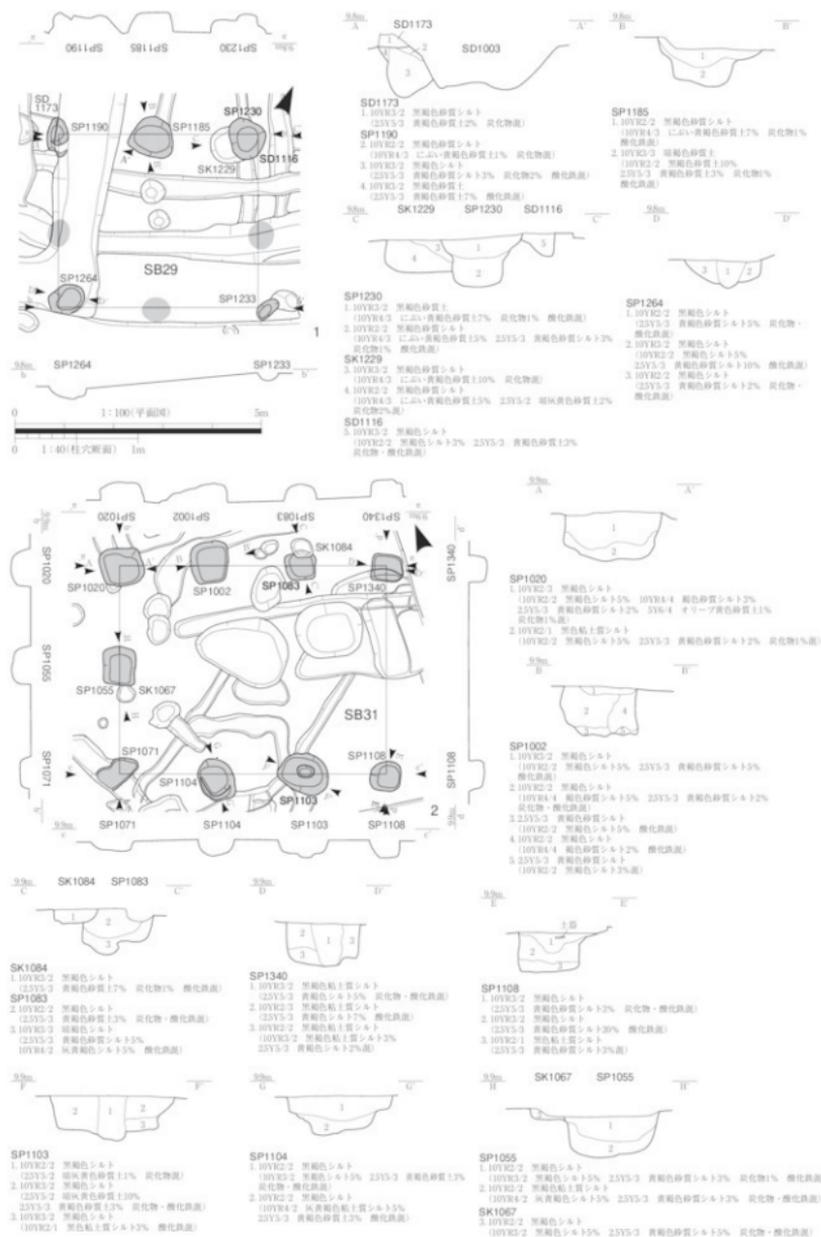


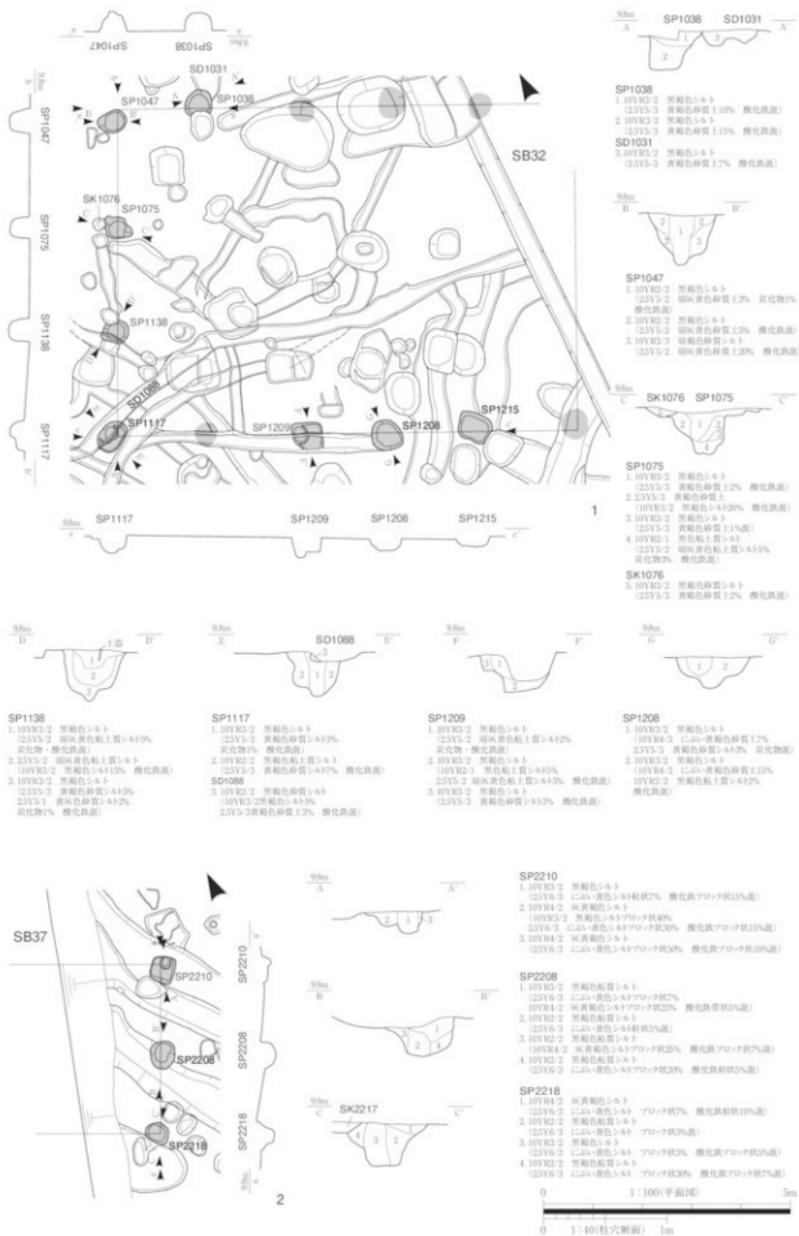
第33図 古代遺構実測図  
1. SB25 2. SB27



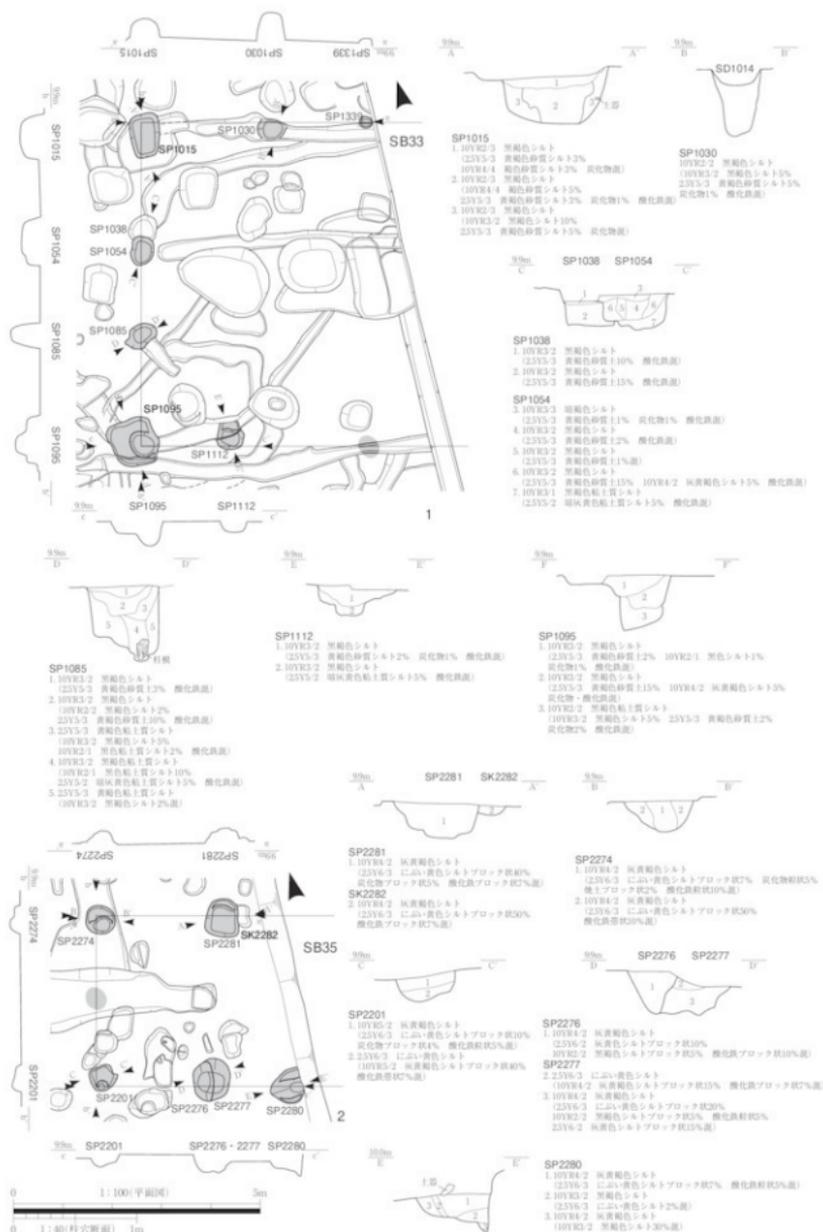
第34図 古代遺構実測図  
SB28



第36図 古代遺構実測図  
1. SB29 2. SB31

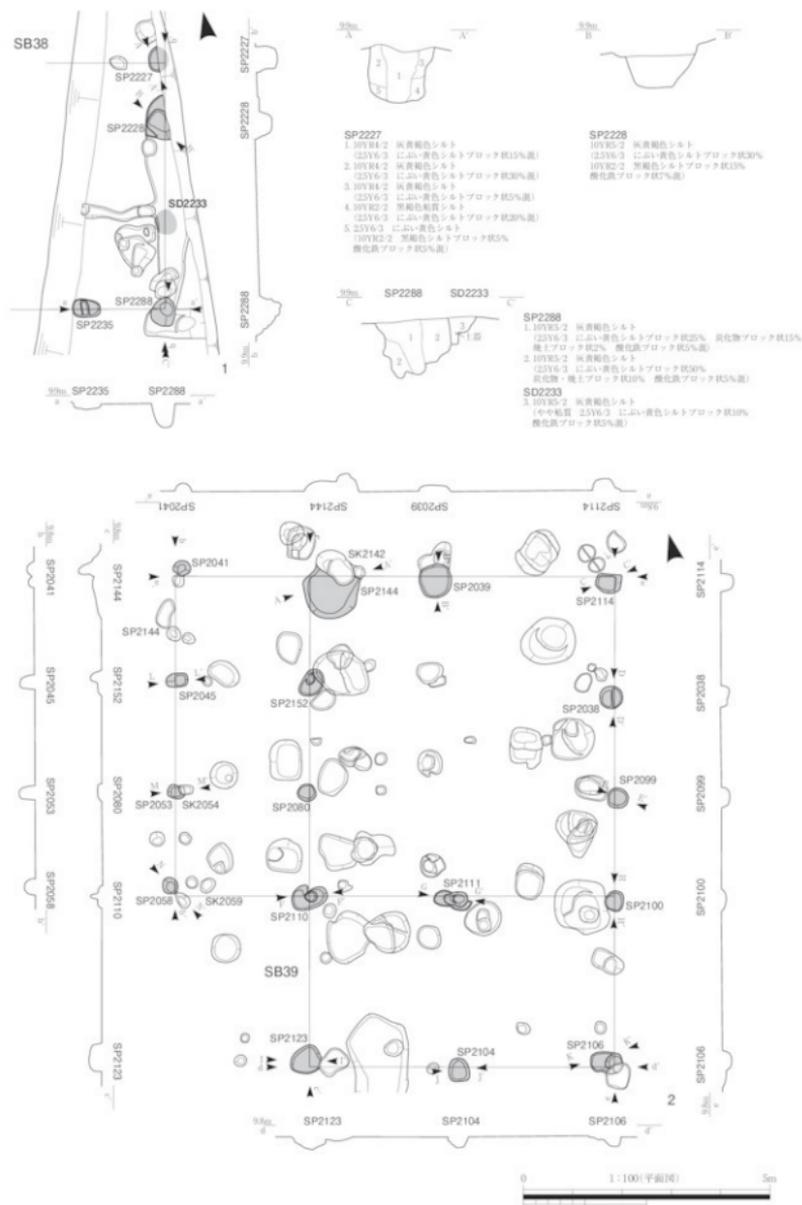


第37図 古代遺構実測図  
 1. SB32 2. SB37

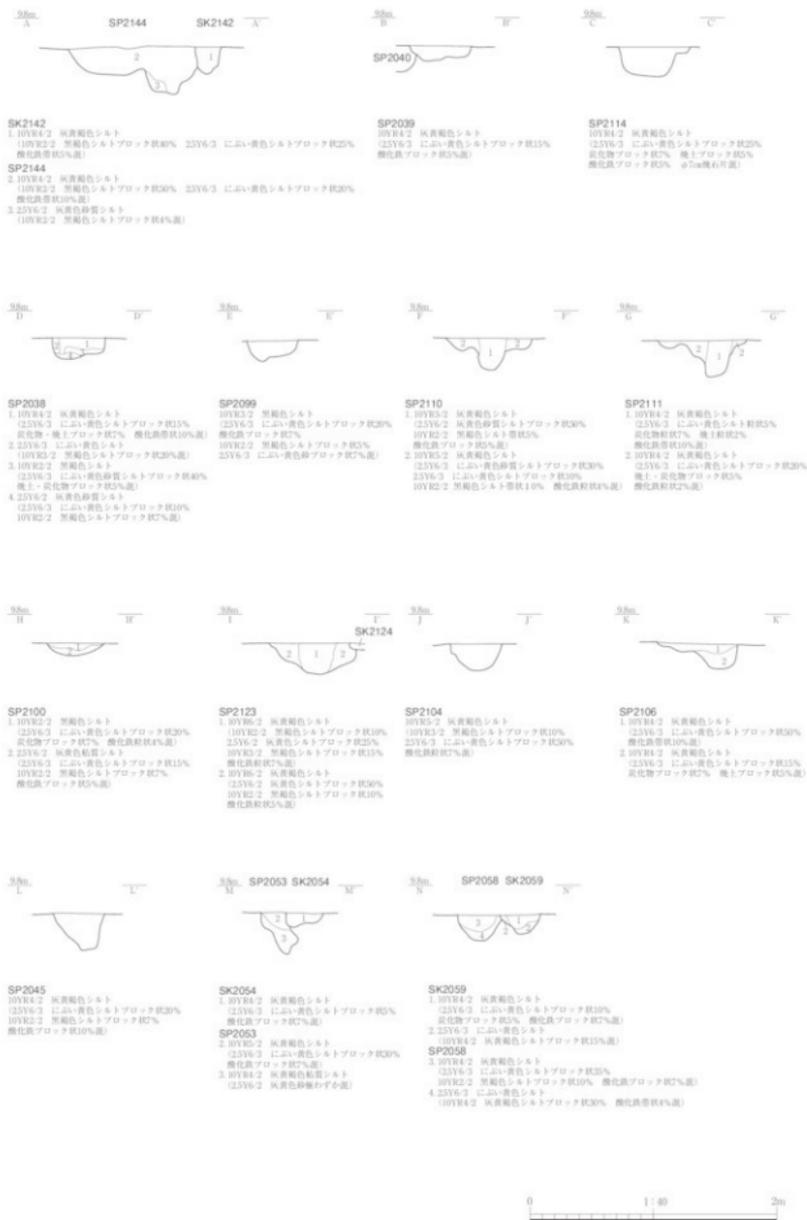


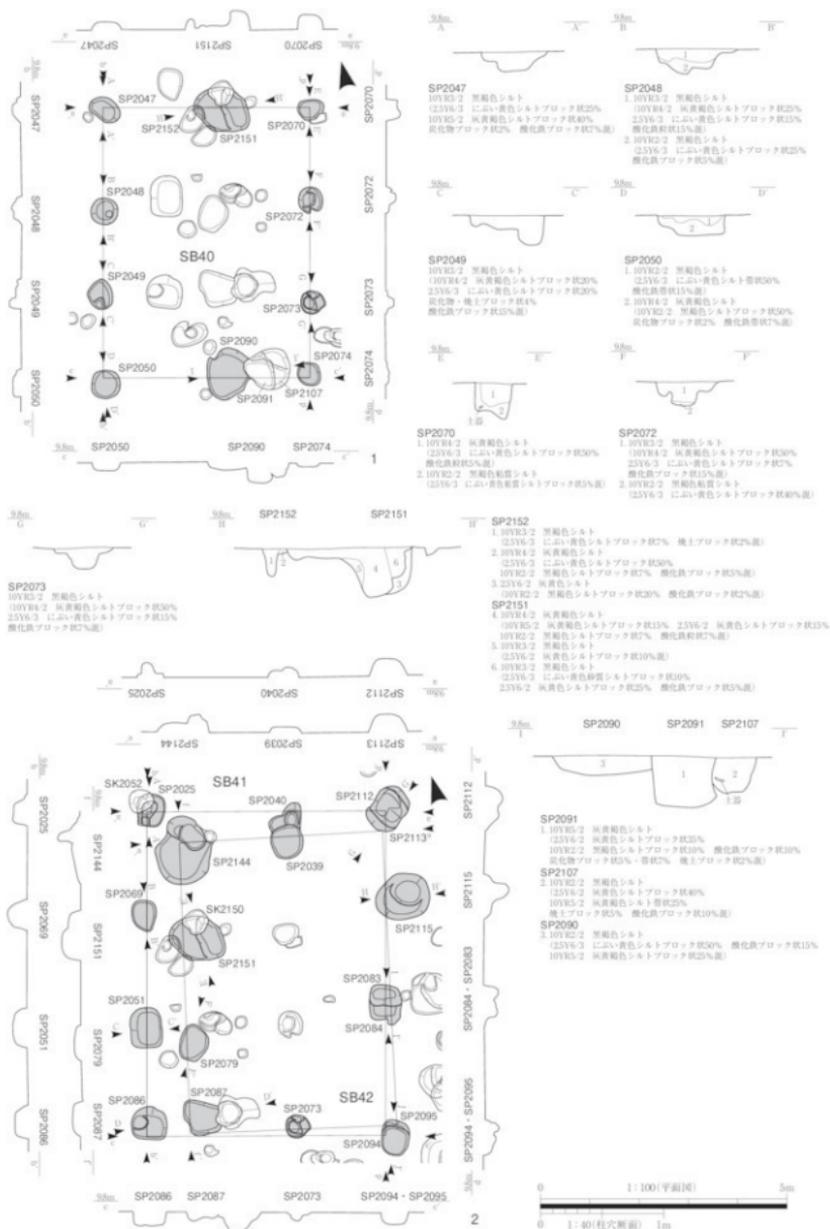
第38図 古代遺構実測図  
1. SB33 2. SB35



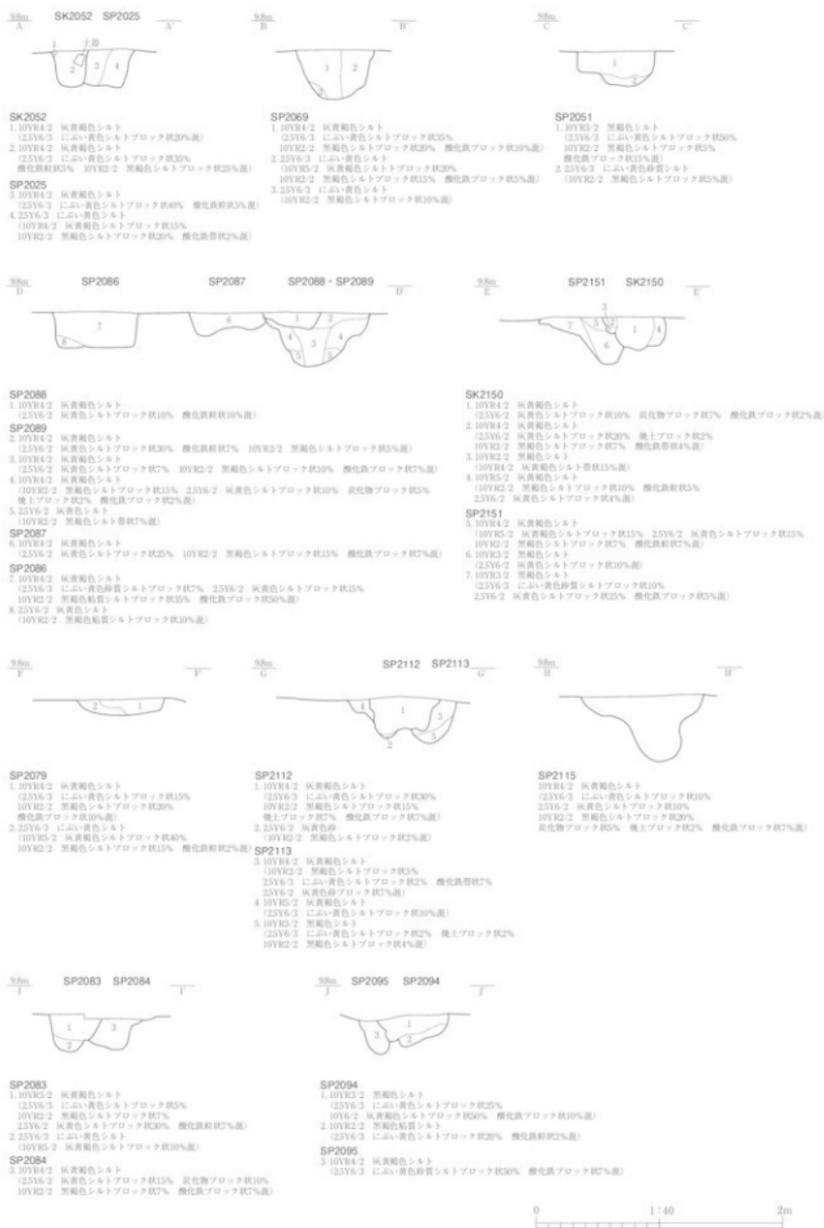


第40図 古代遺構実測図  
1. SB38 2. SB39

第41図 古代遺構実測図  
SB39

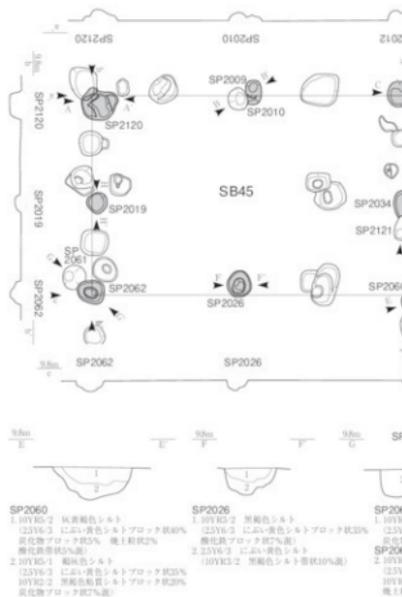
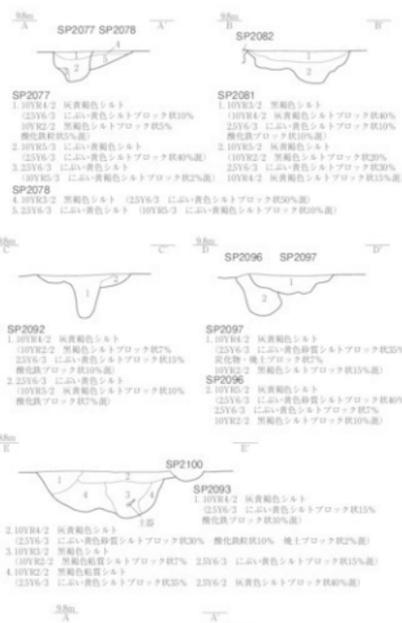
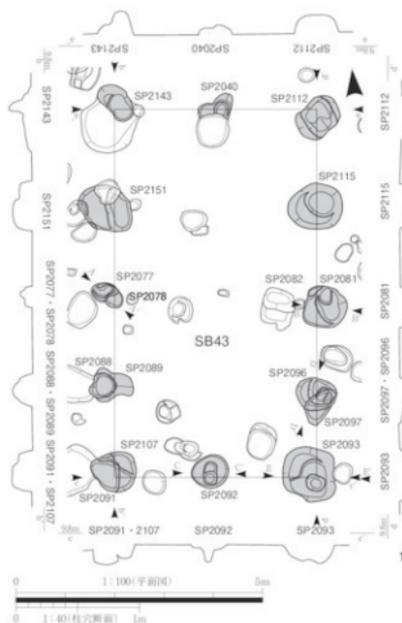


第42図 古代遺構実測図  
1. SB40 2. SB41・SB42

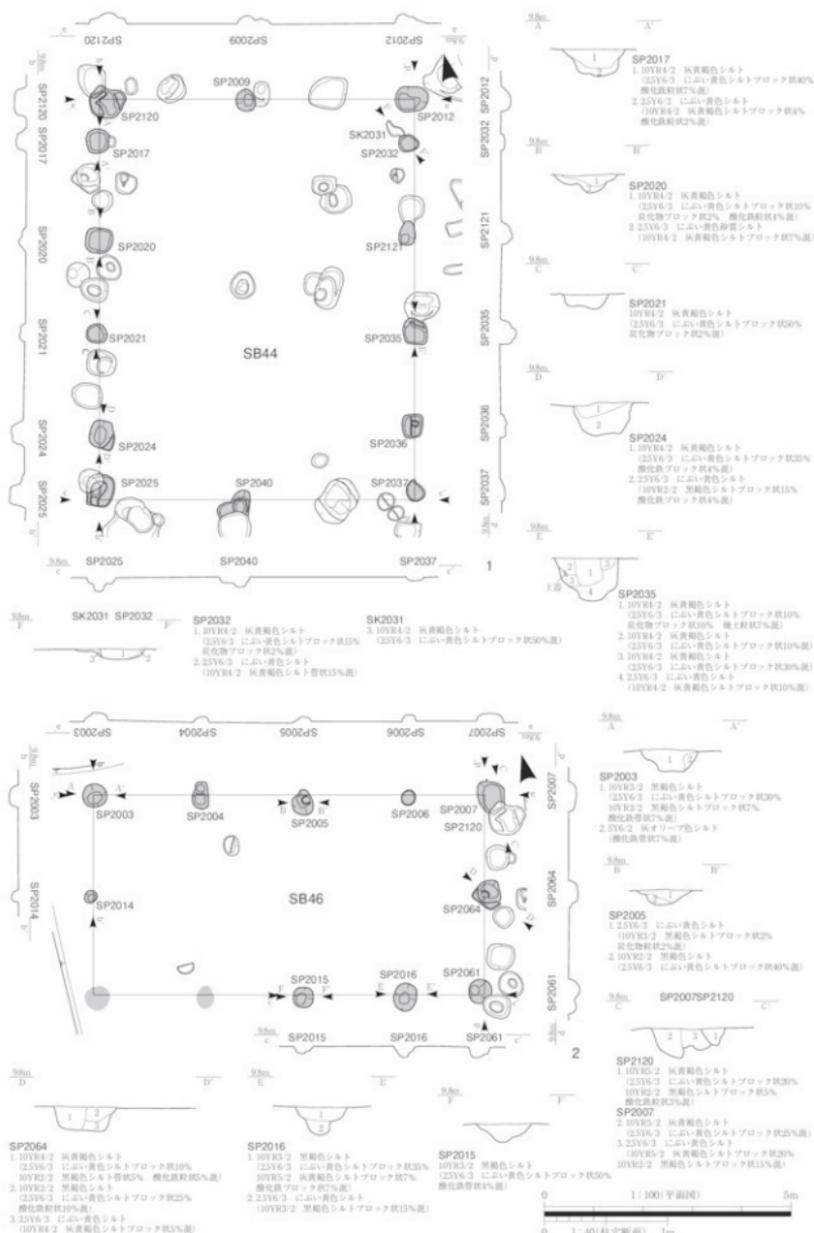


第 43 図 古代遺構実測図 SB41・SB42

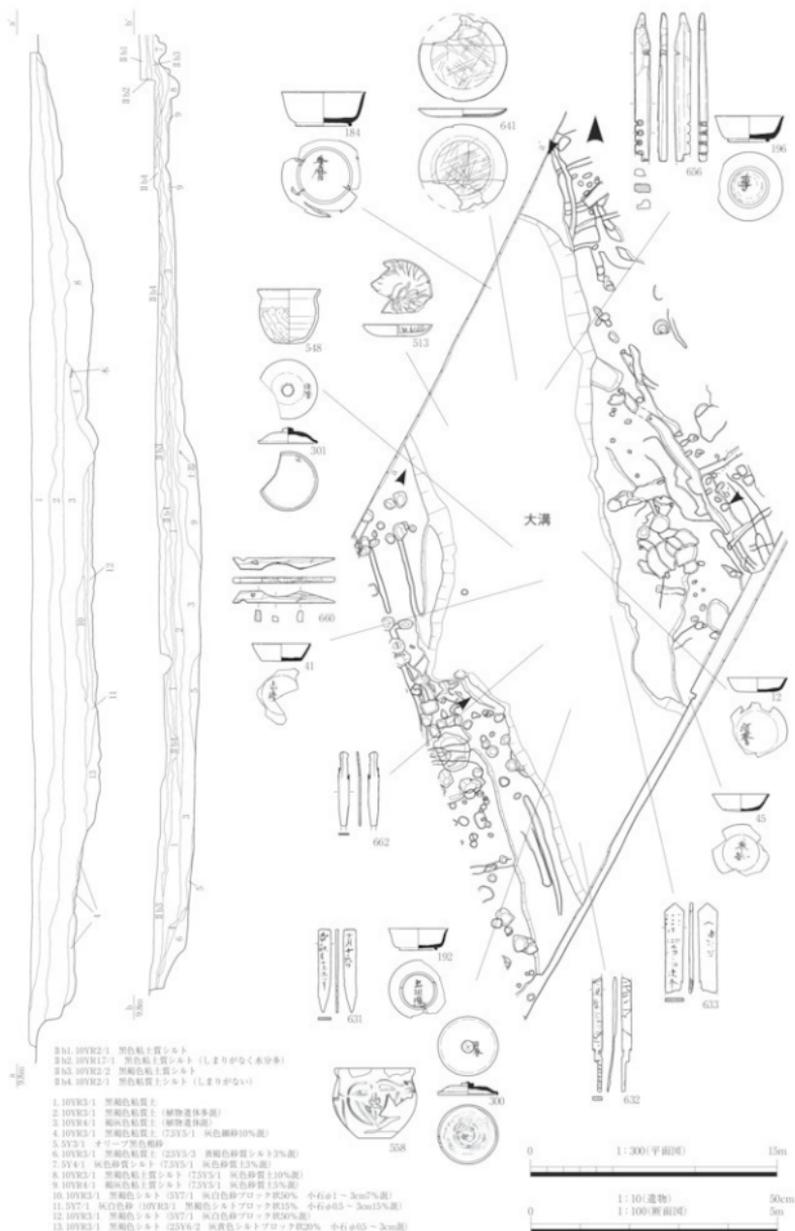




第44図 古代遺構実測図  
1. SB43 2. SB45



第 45 図 古代遺構実測図  
1. SB44 2. SB46



第46図 古代遺構実測図  
大溝



第47図 古代大溝遺物分布図

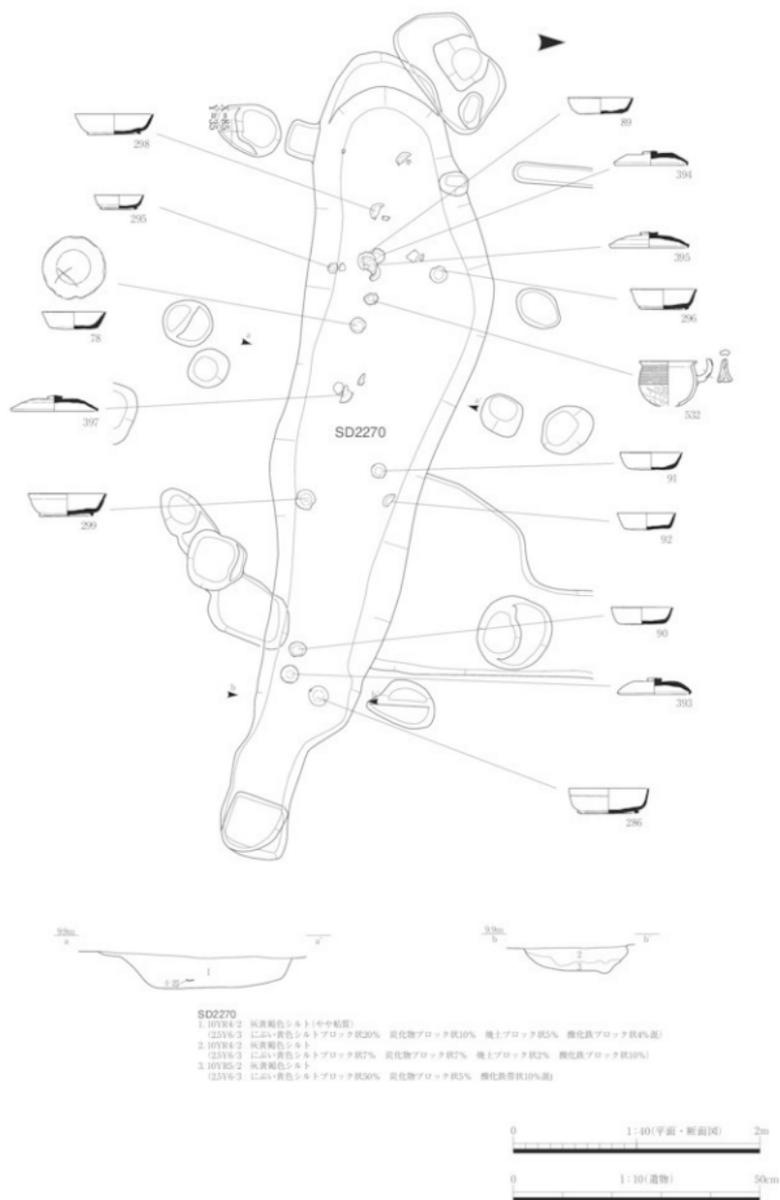
第10表 大溝出土器構成

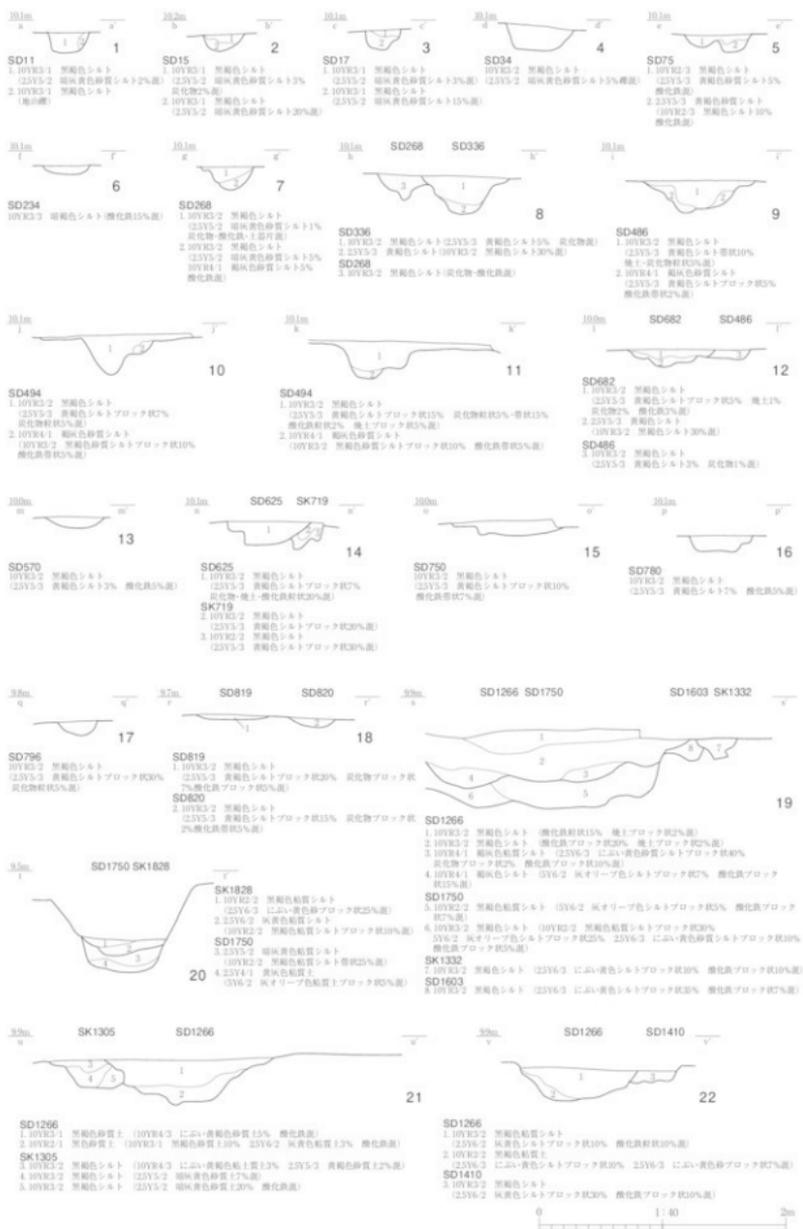
用途別	種類	器種	総破片数			口縁部破片数			口縁部残存率			種類・器種別	
			片	% (全体)	% (用途別)	片	% (全体)	% (用途別)	/12	個体数	% (全体)		% (用途別)
炊爨具	土師器	甕A	129	2.93	7.66	44	4.92	6.26	30	4.17	2.75	3.31	5/50
		甕A	4	0.09	0.24	4	0.45	0.57	20	1.67	1.10	1.32	
		杯	10	0.23	0.59	2	0.22	0.28	13	1.08	0.71	0.86	
	黒色土器	甕	30	0.68	1.78	5	0.56	0.71	11	0.92	0.60	0.73	0.73
		杯A	1135	25.76	67.44	421	47.09	59.89	807	67.25	44.34	33.44	
	須恵器	杯B	372	8.44	22.10	224	25.06	31.86	602	50.17	33.08	29.87	93.77
種柄		3	0.07	0.18	3	0.34	0.43	7	0.58	0.38	0.46		
小計			1983	38.20	100.00	703	78.64	100.00	1821	136	82.97	100.00	
貯蔵具	須恵器	甕	130	2.95	23.26	13	1.45	37.14	43	3.58	2.26	53.75	
		甕	422	9.58	75.49	18	2.01	51.43	27	2.25	1.48	33.75	100
		鉢	7	0.16	1.25	4	0.45	11.43	10	0.83	0.55	12.50	
小計			559	12.69	100.00	35	3.91	100.00	87	6.67	4.40	100.00	
飲飲具	土師器	甕	2139	48.35	98.84	150	16.78	96.15	207	17.25	11.37	90.00	
		甕	24	0.54	1.11	5	0.56	3.21	21	1.75	1.15	9.13	100
		瓶	1	0.02	0.05	1	0.11	0.64	2	0.17	0.11	0.87	
小計			2164	49.11	100.00	156	17.45	100.00	230	19.17	12.64	100.00	
合計			4496	100.00		894	100.00		2138	151.67			

・小破片集計を四捨五入している。

・差のある器種は蓋と身の多い方の数値を採用した。

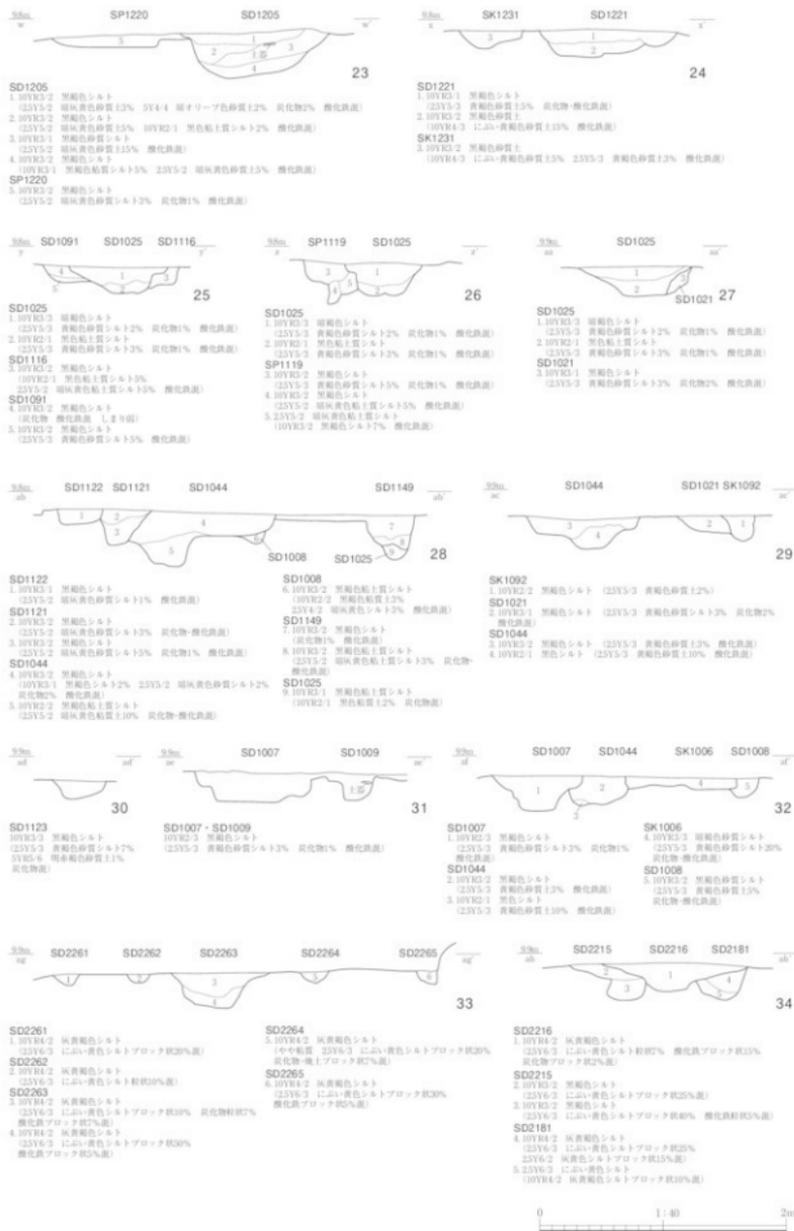
須恵器杯蓋は破片数189片、口縁部144片、口縁部残存率311/125、須恵器甕蓋は破片数4片（うち口縁部2片、口縁部残存率7/12）

第48図 古代遺構実測図  
SD2270



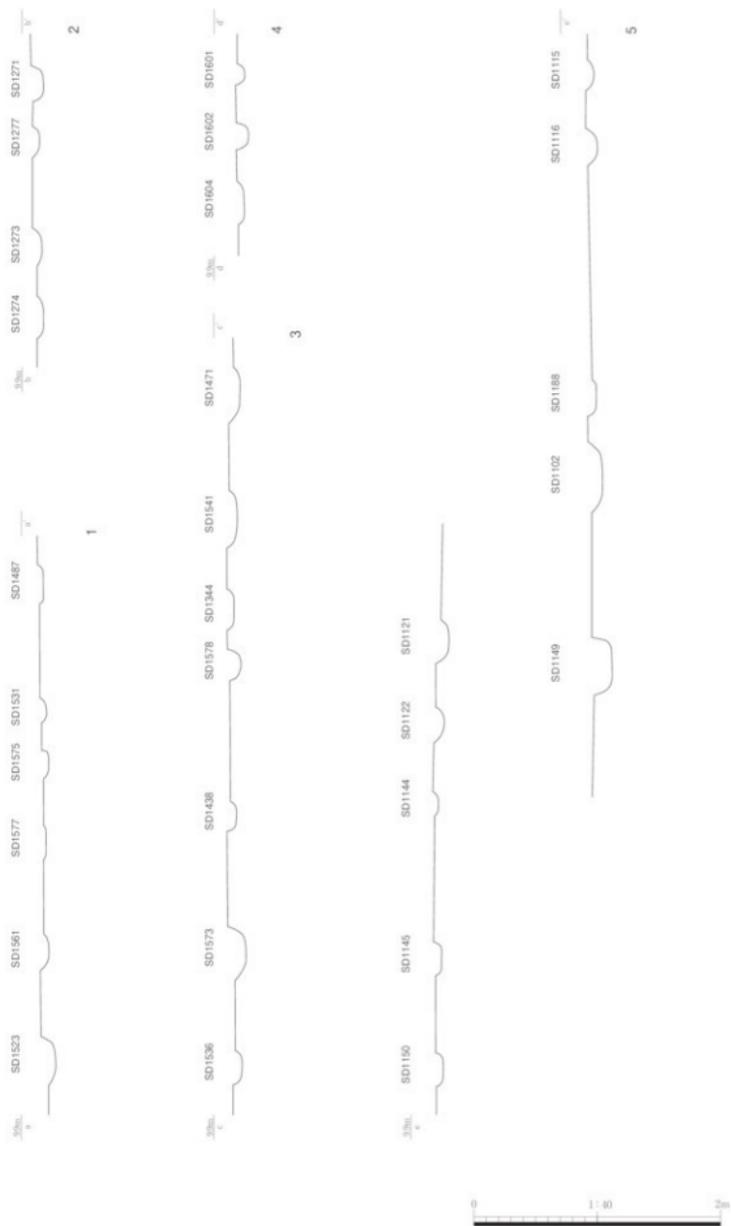
第 49 図 古代遺構実測図

1. SD11 2. SD15 3. SD17 4. SD34 5. SD75 6. SD234 7. SD268 8. SD268・SD336 9. SD486  
10・11. SD494 12. SD486・SD682 13. SD570 14. SD625 15. SD750 16. SD780 17. SD796  
18. SD819・SD820 19. SD1266・SD1603・SD1750 20. SD1750 21. SD1266 22. SD1266・SD1410



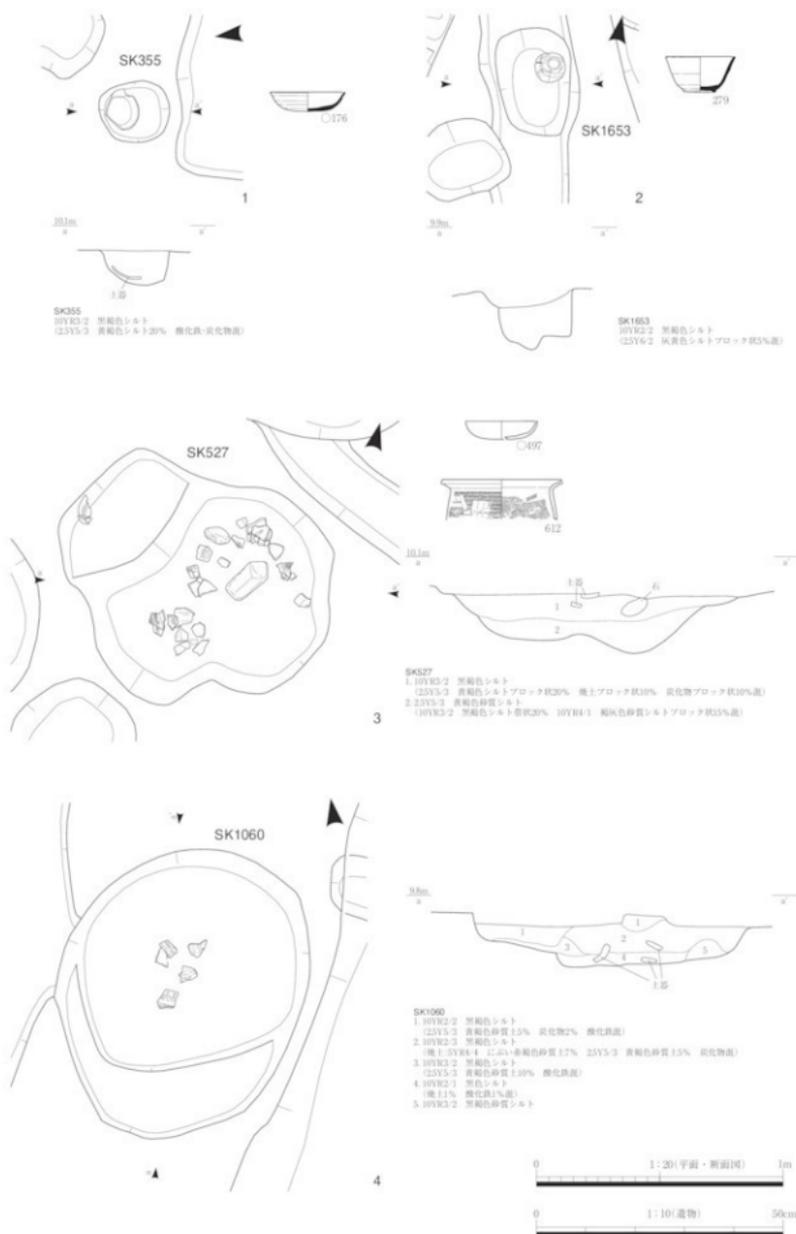
第50図 古代遺構実測図

23. SD1205 24. SD1221 25. SD1025・SD1091・SD1116 26. SD1025 27. SD1021・SD1025  
28. SD1044・SD1121・SD1122・SD1149 29. SD1021・SD1044 30. SD1123 31. SD1007・SD1009  
32. SD1007・SD1008・SD1044 33. SD2261~2265 34. SD2181・SD2215・SD2216

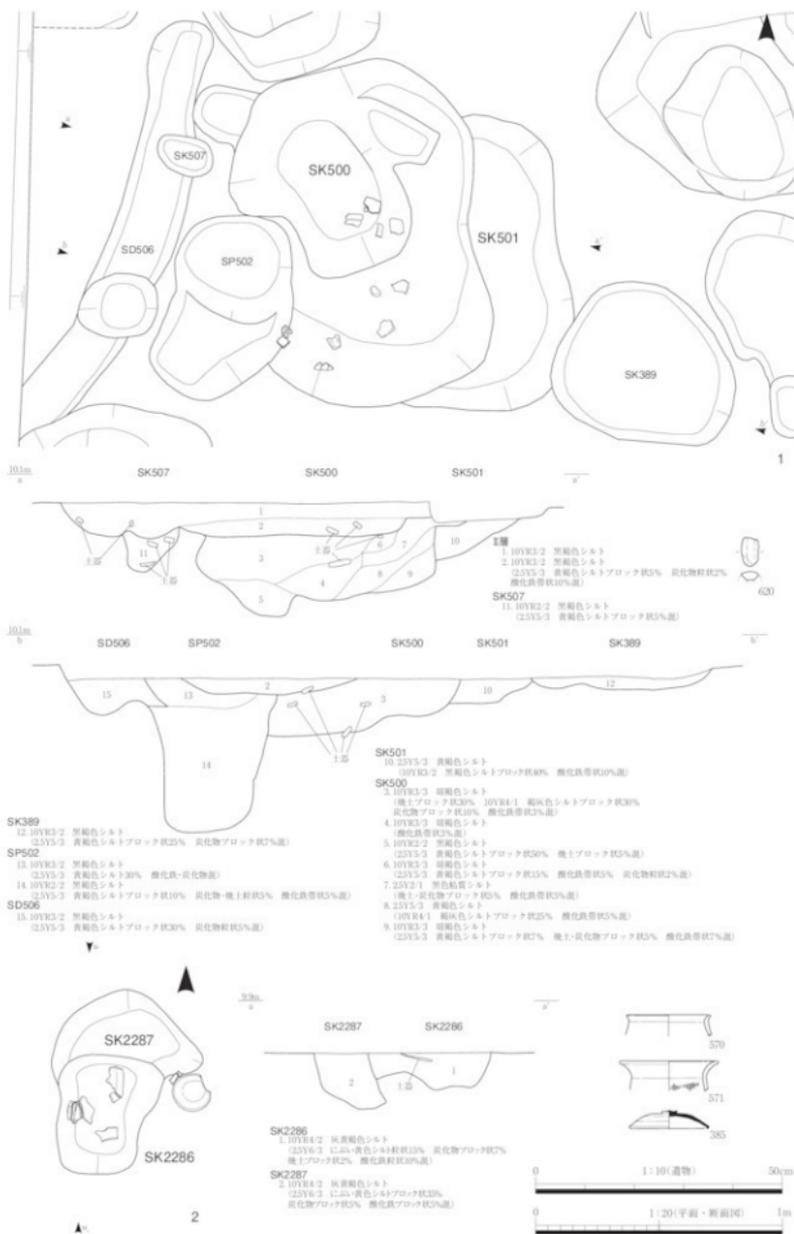


第51図 古代遺構実測図

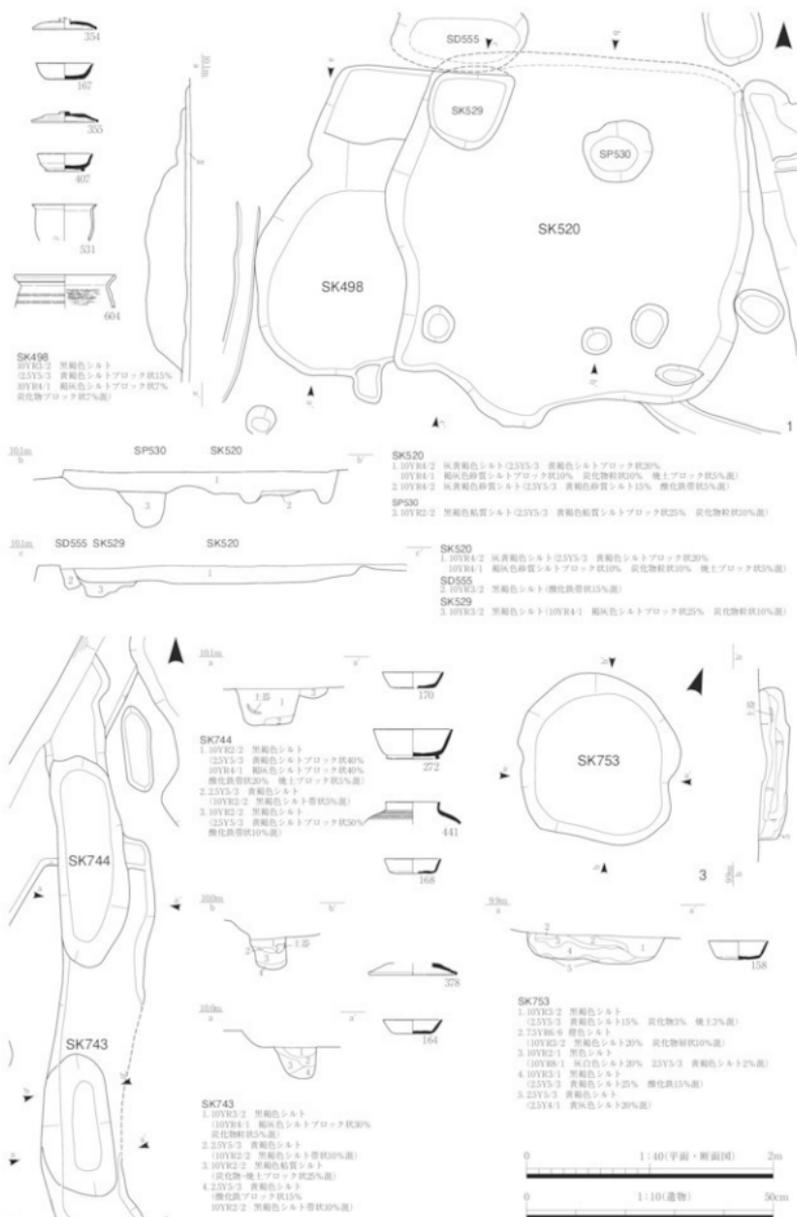
1. SD1523・1561・1577・1575・1531・1487 2. SD1274・1273・1277・1271  
 3. SD1536・1573・1438・1578・1344・1541・1471 4. SD1604・1602・1601  
 5. SD1150・1145・1144・1122・1121・1149・1102・1188・1116・1115



第 52 図 古代遺構実測図  
1. SK355 2. SK1653 3. SK527 4. SK1060

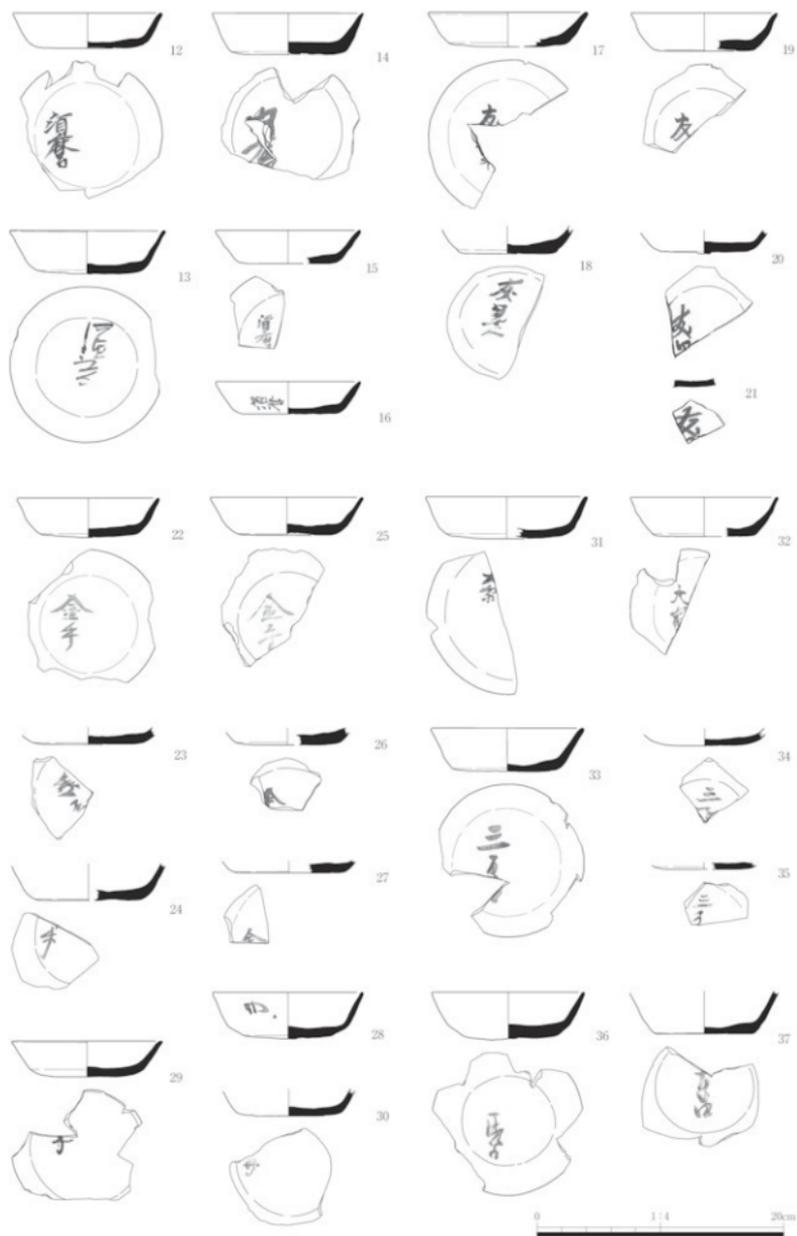


第53図 古代遺構実測図  
1. SK500・SK501 2. SK2286・SK2287



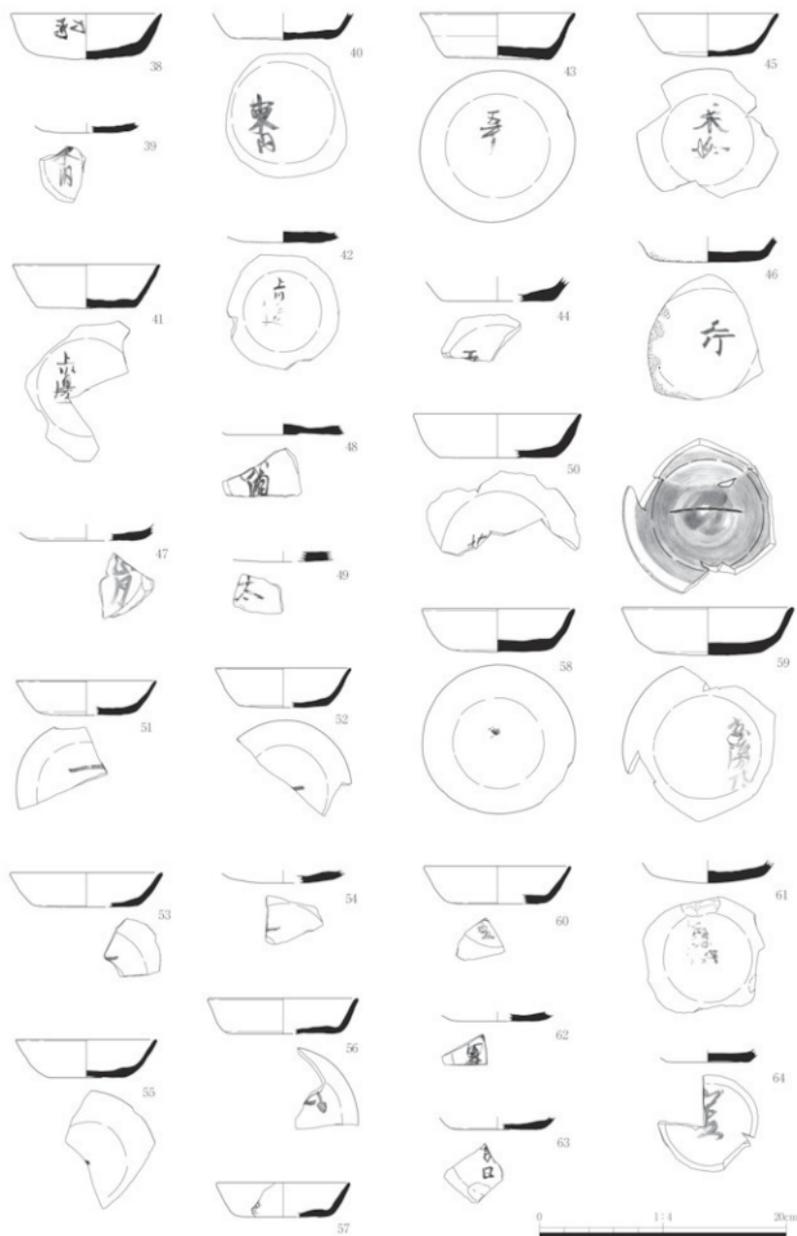
第54図 古代遺構実測図

1. SK498・SK520 2. SK743・SK744 3. SK753



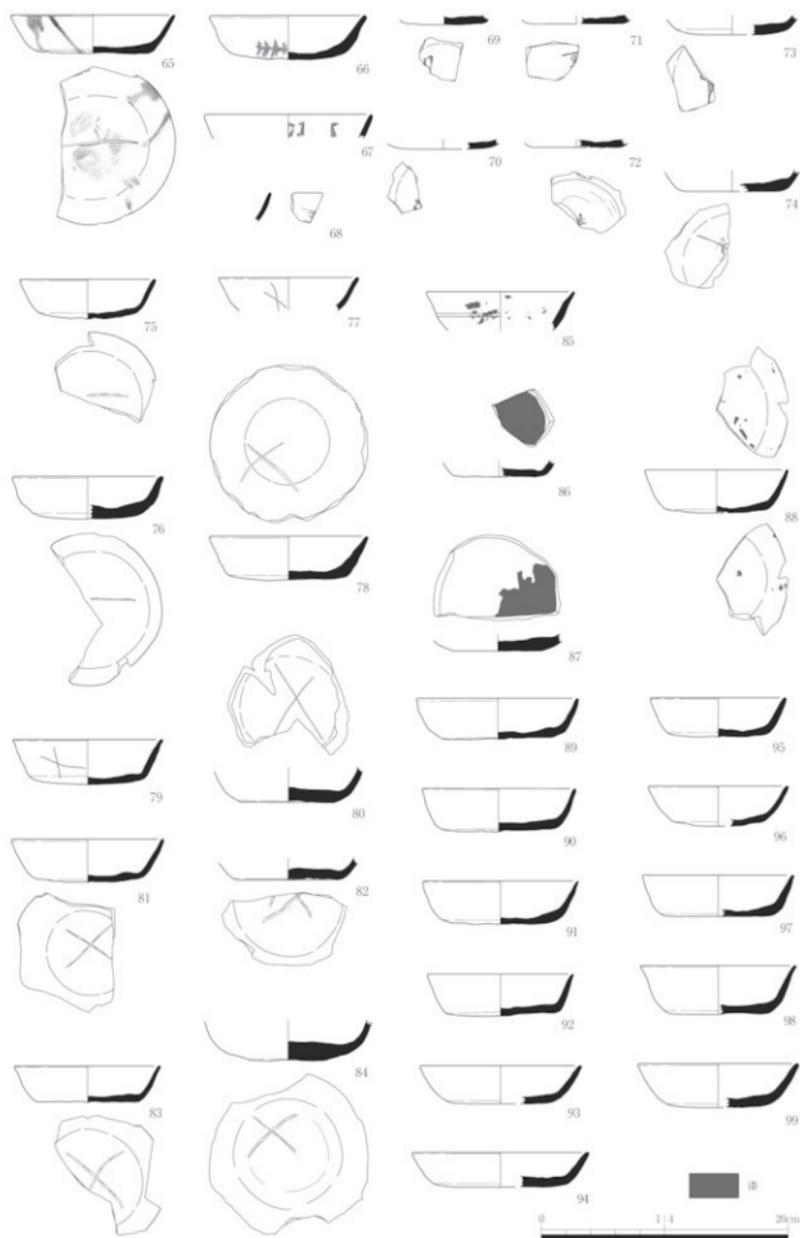
第55図 遺物実測図 (1/4)

大溝(12~21・23・26・29・31~34・36・37) SD1148(24) SD1044(27) SK6(28) SP224(30) 包含層



第56图 遗物实测图 (1/4)

大溝(38·39·41~48·50·54~60·62~64) SP809(51) SD1802(52) SK1476(61) 包含層



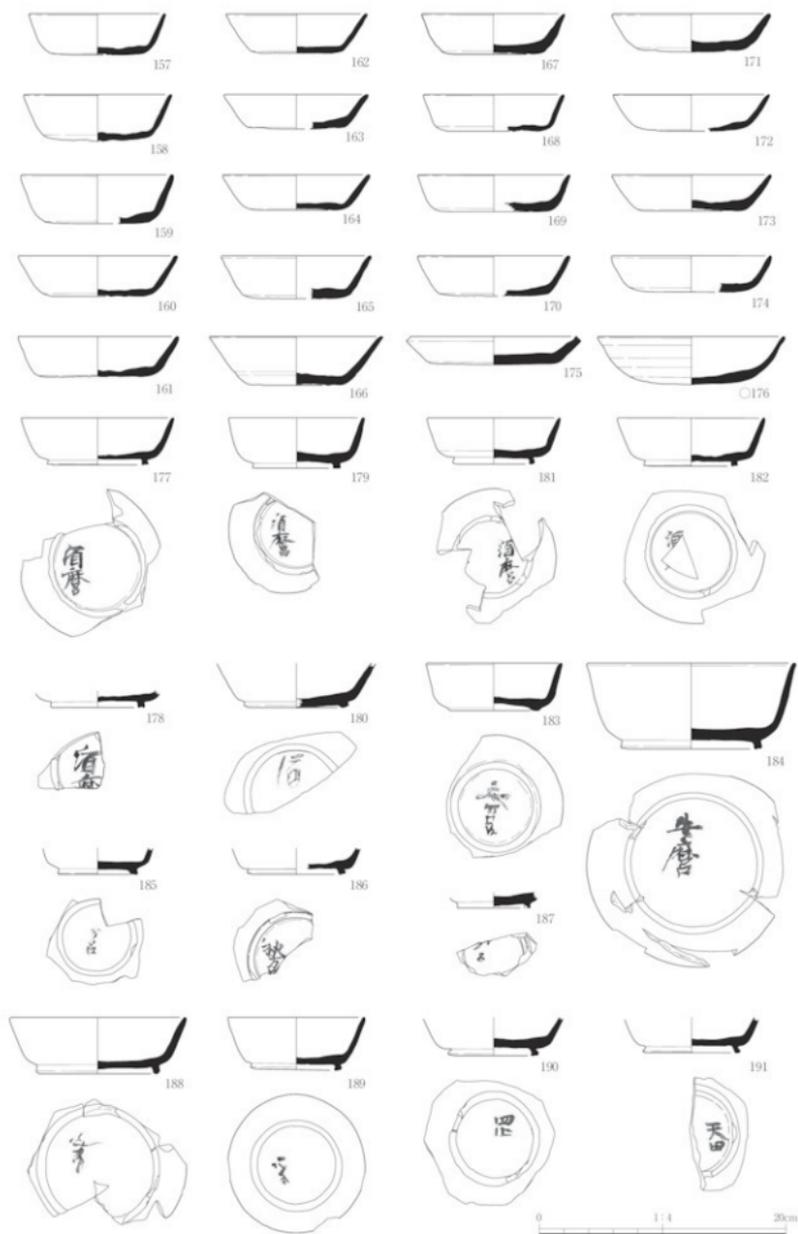
第57図 遺物実測図 (1/4)

大溝(65-72・75・76・79・81・83) SK534(73) SK2249(77) SD2270(78・89-92) SD1237(84) SD1003(85)  
SD1266(87) SD2182(93) SD2183(94) SK2122(95) SP2113(96) SK2145(97) SP2258(98) SP2069(99) 包含層



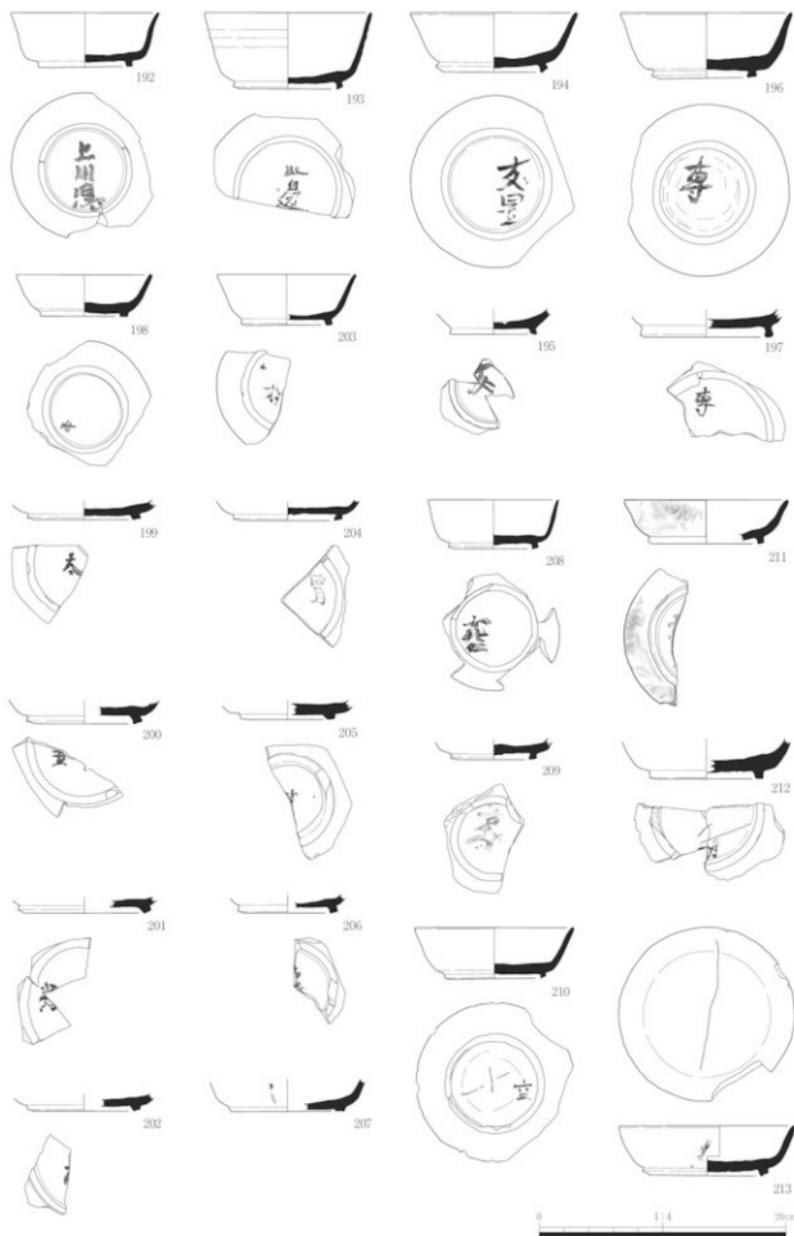
第 58 図 遺物実測図 (1/4)

大溝(100~137) SD1177(138) SD1248(139) SP1111(140) SD1205(141) SD1266(142) SD1236(143) SK1359(144)  
SD1598(145) SD1628(146) SD1802(147) SD1025(148~151) SD1750(152~154) SD1044(155・156)



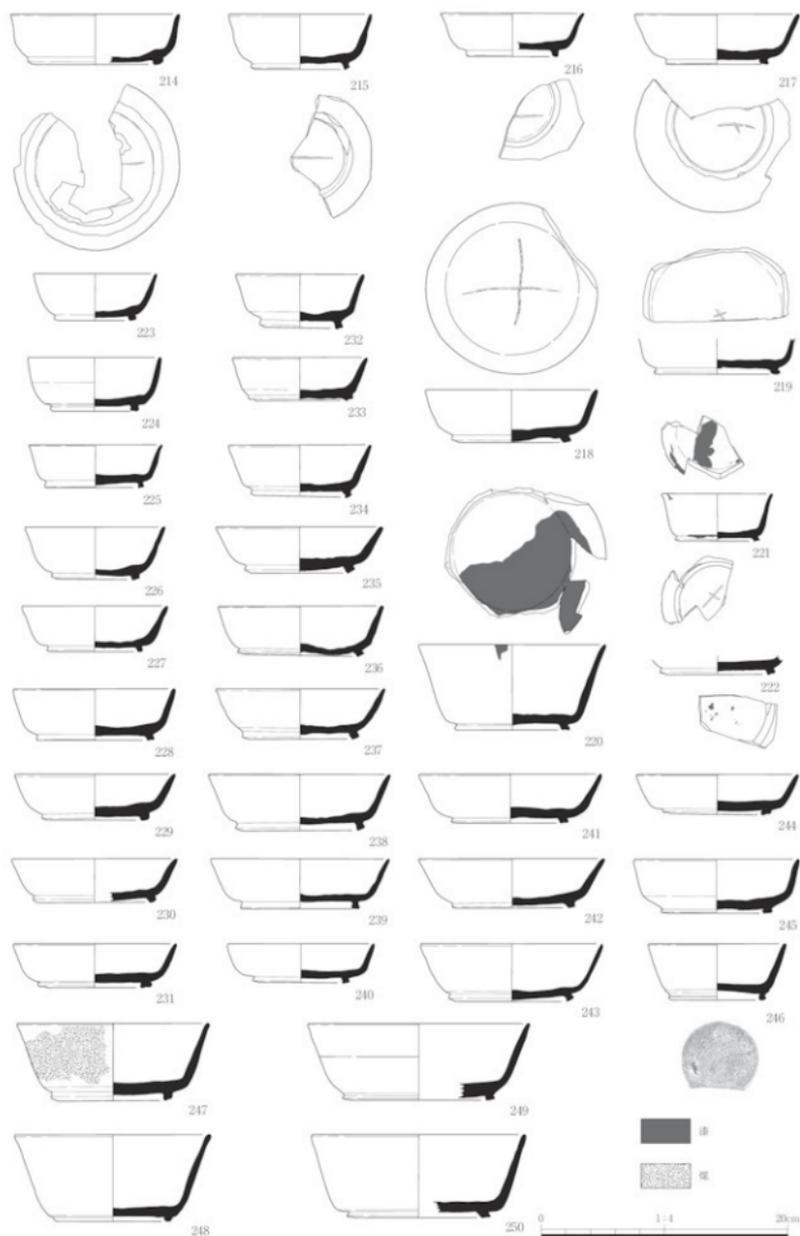
第59図 遺物実測図 (1/4)

SP232(157) SK753(158) SP148(159) SK160(160) SP602(161) SD268(162) SP1338(163) SK743(164) SP426(165)  
 SP220(166) SK520(167) SK744(168・170) SD625(169) SP554(171) SK10(172) SK704(173) SP674(174) SK275(175)  
 SK355(176) 大溝(177~179・181~184・187・189~190) SD1750(185・186) SD1410(188) 包含層



第60图 遗物実測図 (1/4)

大溝(192・194~202・205~211・213) SD1266(204) 包含層



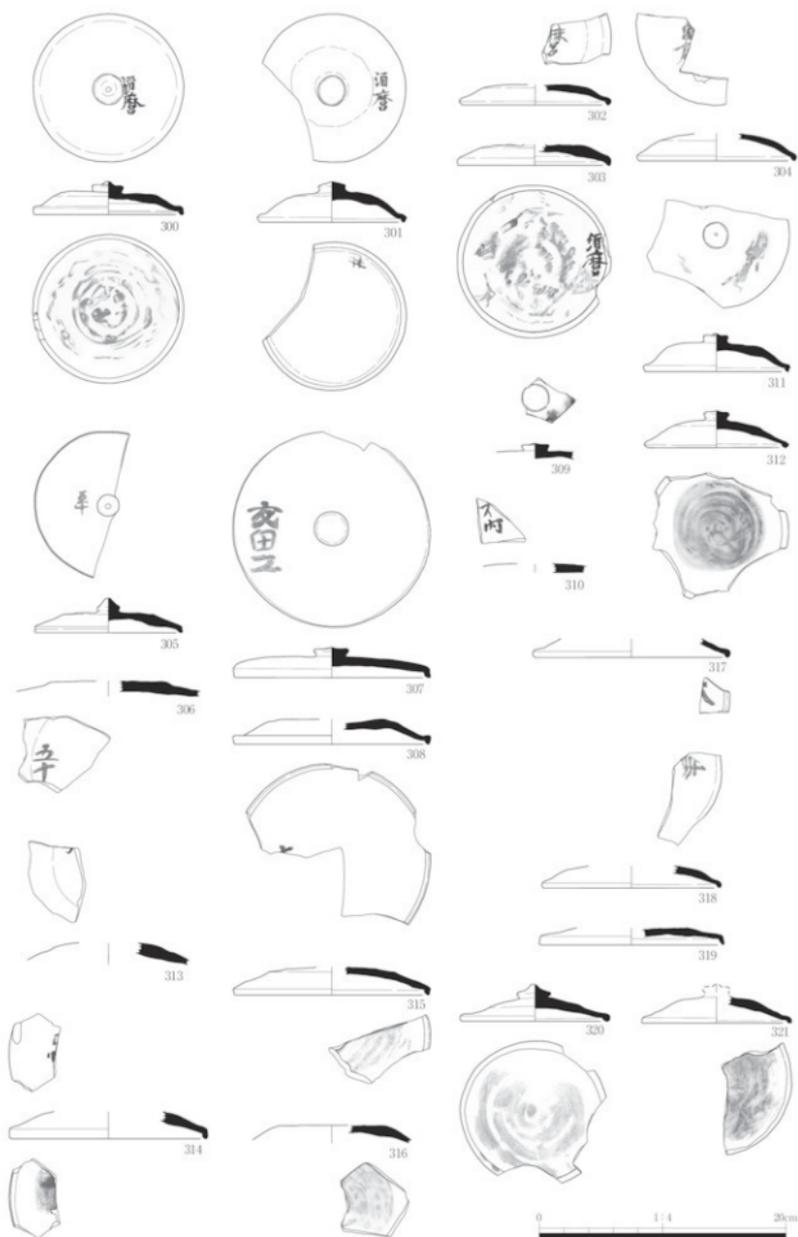
第61図 遺物実測図 (1/4)

大溝(214・218・219・223~250) SD1266(215・222) SD228(216) SD1072(220) SP1340(221) 包含層



第 62 图 遗物実測図 (1/4)

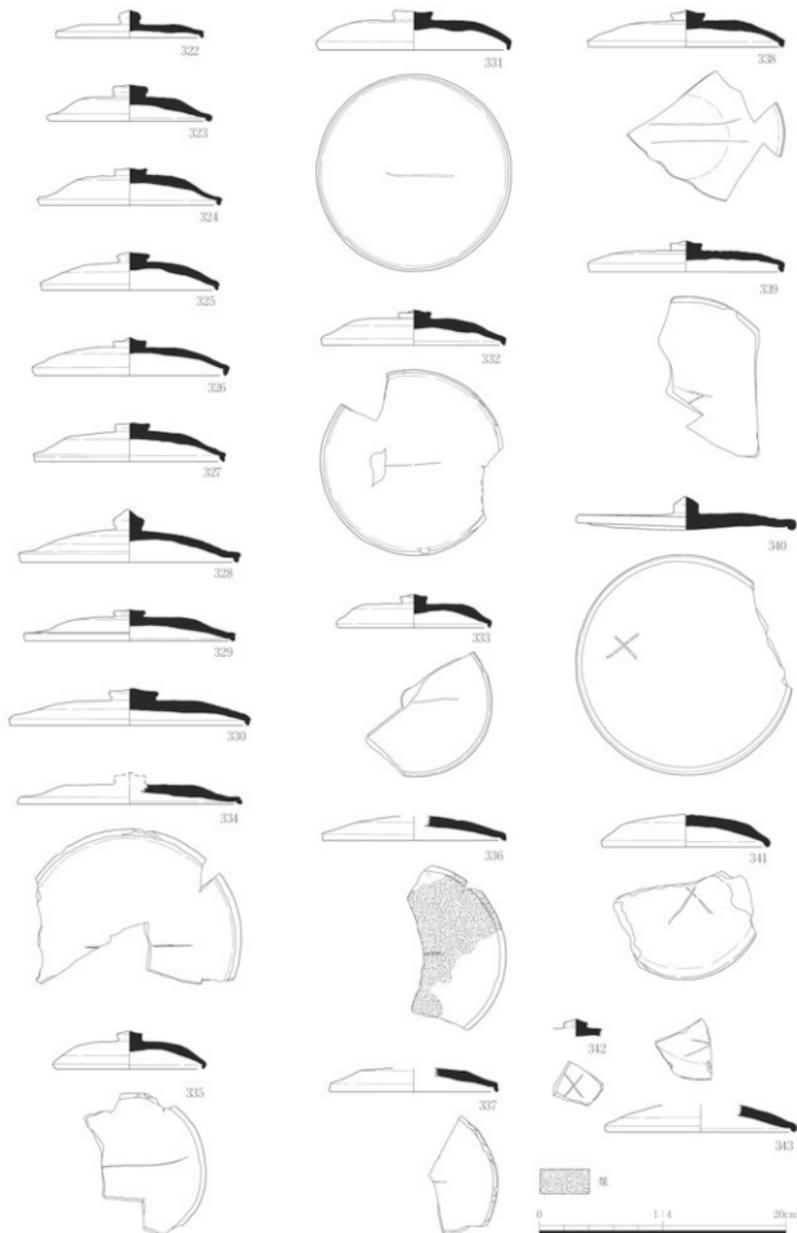
S20(251・252・254) S120(253) SD306(255) SK6(256) SK142(257) SK195(258・269) S110(259・263) SP224(260) SD486(261)  
 SK816(262) SK399(264) SK319(265) SD707(266) SP1111(267) SK652(268) SK710(270) SP665(271) SK744(272) SD750(273)  
 SD1044(274) SD1750(275・277) SP1095(278) SK1653(279) SD1025(280) SD1205(281・282) SD1116(283・284) SD2318(285)  
 SD2270(286・289・299) SD1266(287・289) SD1236(290) SK2225(291・292) SK2278(293) SP2280(294)



第63図 遺物実測図 (1/4)

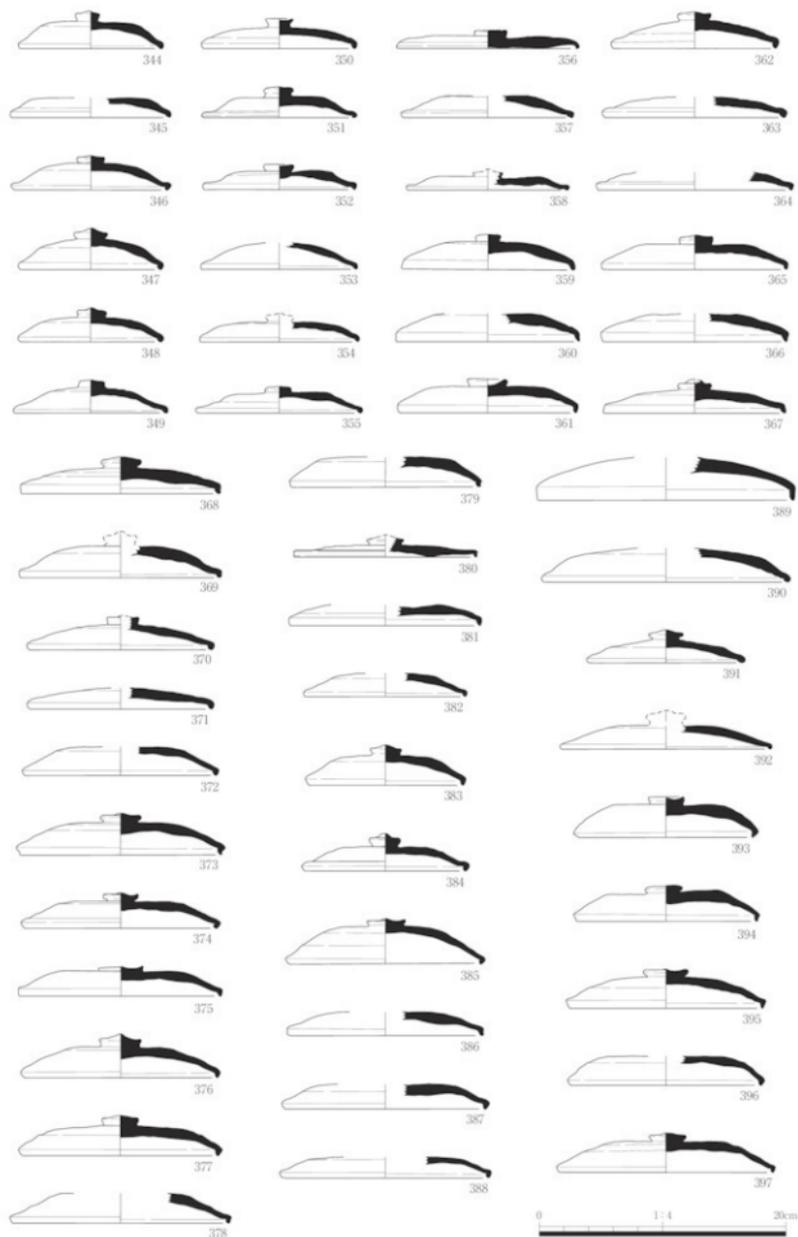
大冨(300~316) SI201(317) SP1111(319) SD1121(320) 包含層

3 古代



第 64 图 遗物实测图 (1/4)

大溝(322~332·338·339) SP232(333) SD335(336) SD336(340) SD1248(341) 包含層



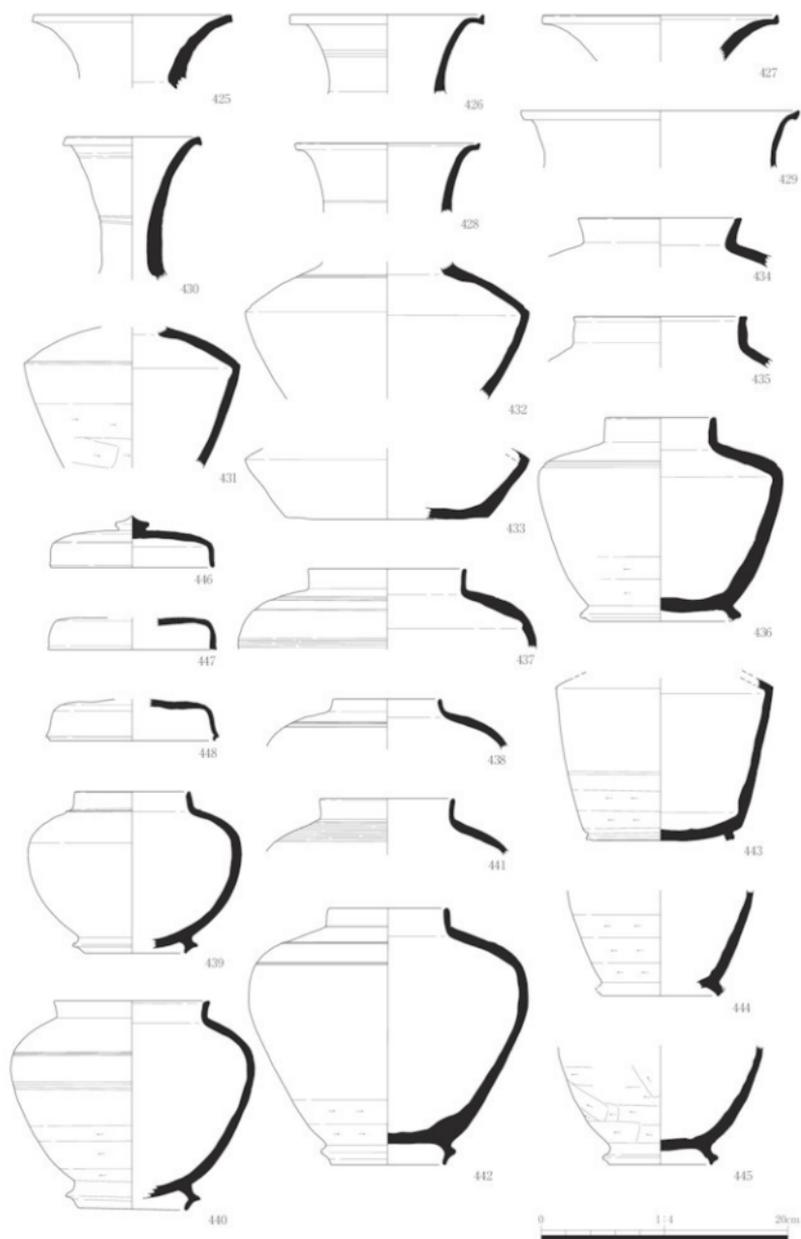
第 65 図 遺物実測図 (1/4)

SP110(345・373) SP1012(346) SP1071(347) SD1065(348) SP224(349) SD1750(350) SD1109(351) SD200(352) SK269(353)  
 SK520(354・355) SD1644(356) SD810(357) SP296(358) SD168(359) SK1136(360) SD1216(361) SD13(362) SD829(363) SP1338(364)  
 SB10(365) SD1125(366) SD1044(367) SD1192(368・373) SP546(369) SD368(370・372) SD179(371) SD1007(374) SK277(376)  
 SK619(377) SK743(378) SK457(379) SD1021(380) SD1052(381) SP2107(382) SP2281(383) SD2263(384) SK2287(385) SK2225(386)  
 SD2182(387) SD2318(388) SD15(389) SP1185(390) SD2155(391・392) SD2270(393・397) 包含層



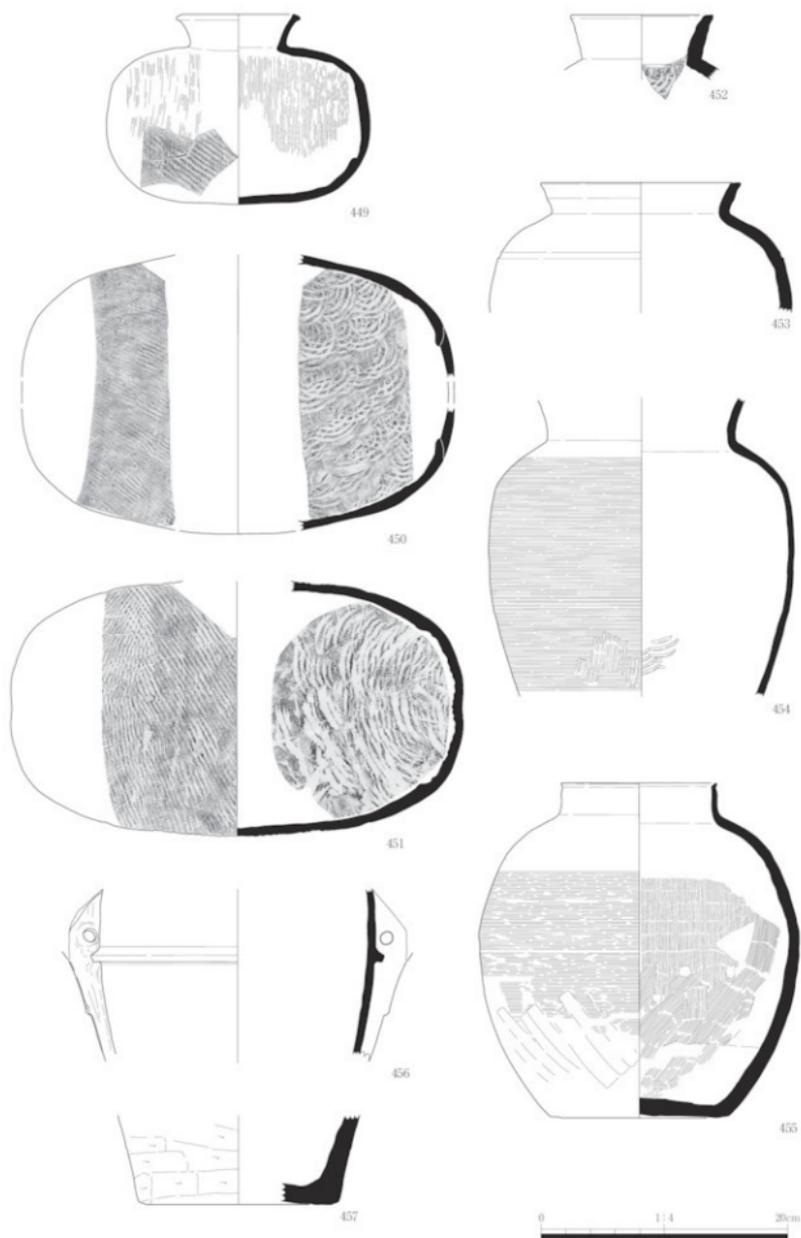
第 66 图 遗物実測図 (1/4)

大溝 (398~400・402~405・409・411・414・415・418~420・423) SD2181(401) SE200(406)  
SK520(407) SD1750(408) SD2270(417) SD555(422) SD682(424) 包含層



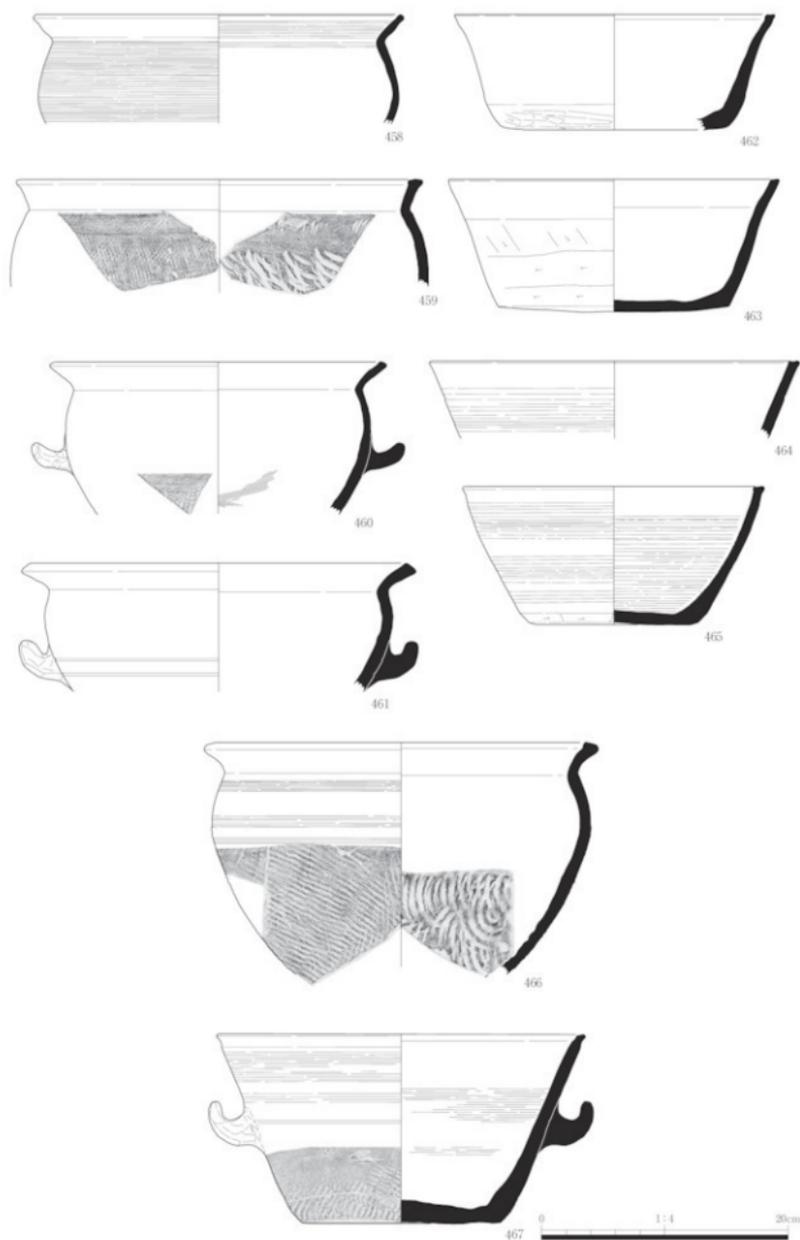
第67図 遺物実測図 (1/4)

大溝(425・429・433・438・440・443~446) SD1750(426・439) SD1025(427) SK710(428) SD2233(430)  
 SK2317(431) SD2181(432) SD1148(436) SD750(441) SD1205(442) SK2042(447) SK2307(448) 包含層

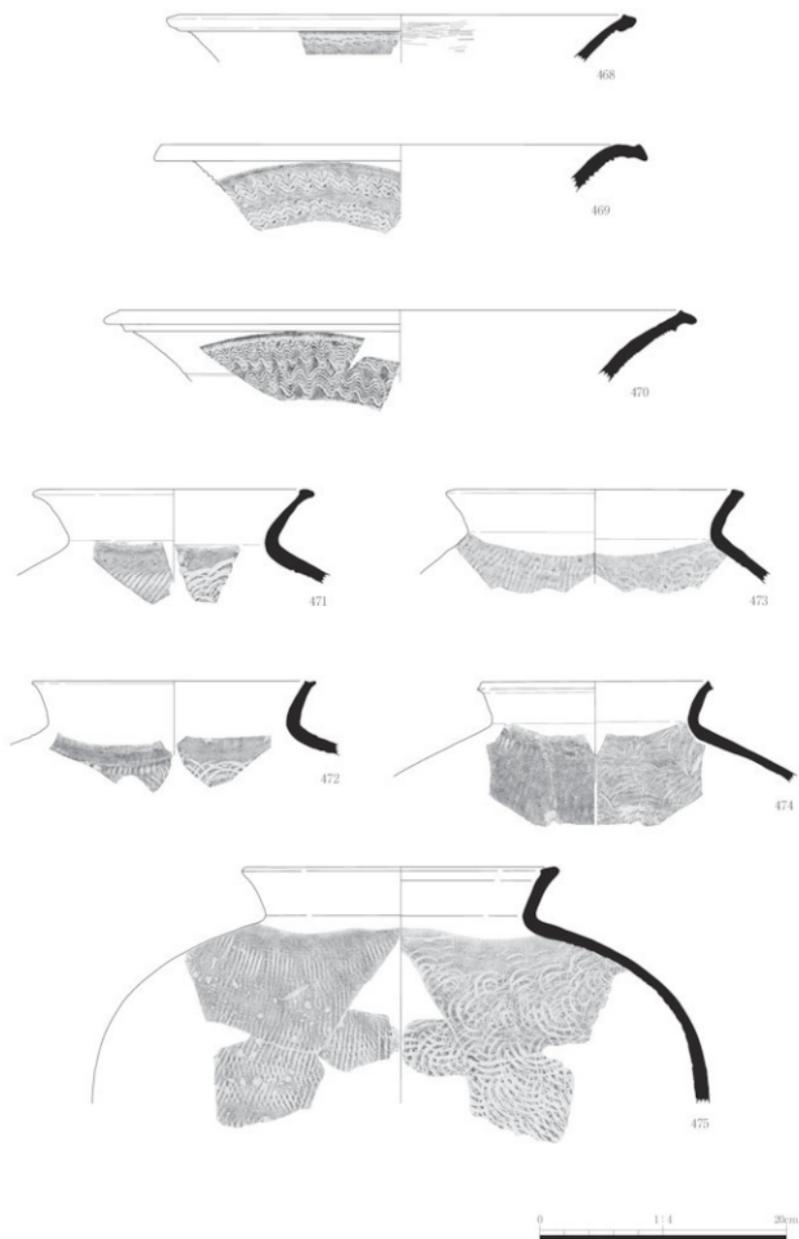


第 68 图 遗物实测图 (1/4)

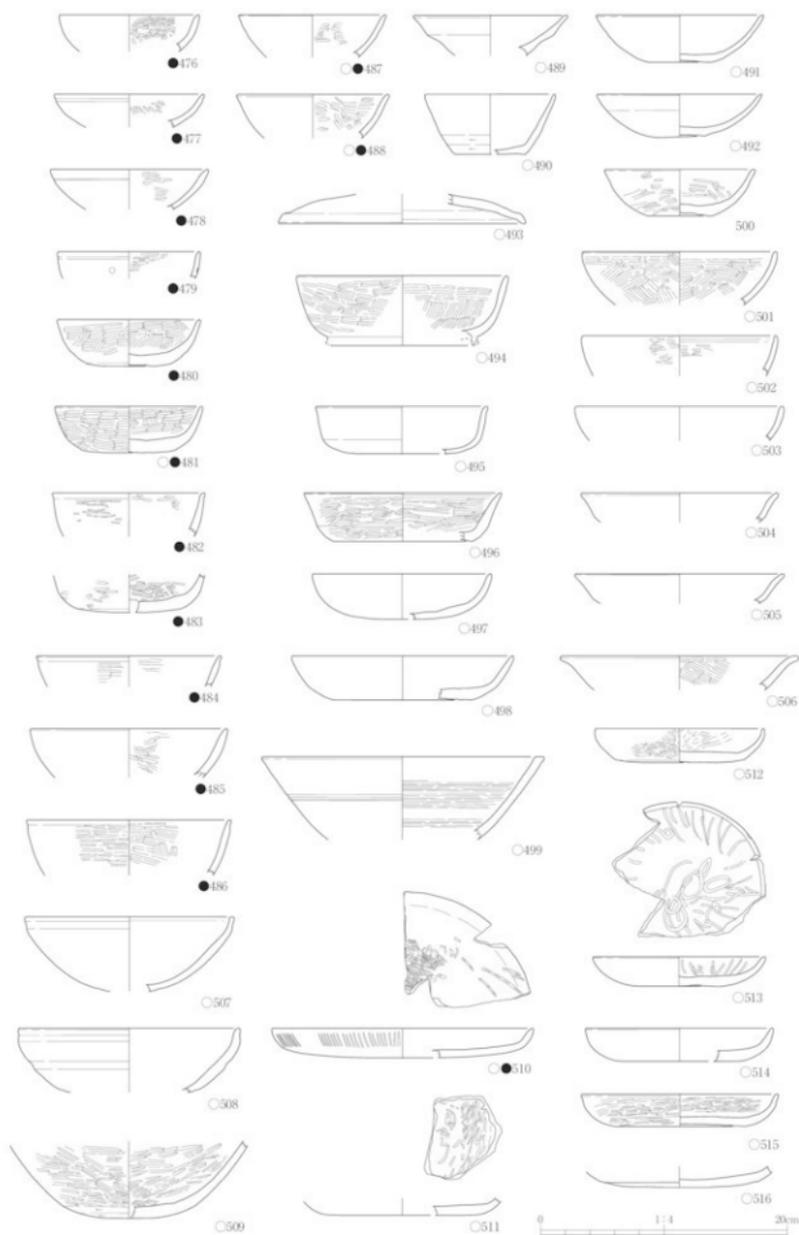
大溝 (449・450・453・455・456) SD1007(451) SK141(452) SD1344(454) SD2184(457)



第69図 遺物実測図 (1/4)  
 SD1007(459) 大溝(462・463・465・466) SD1003(464) SD1205(467) 包含層

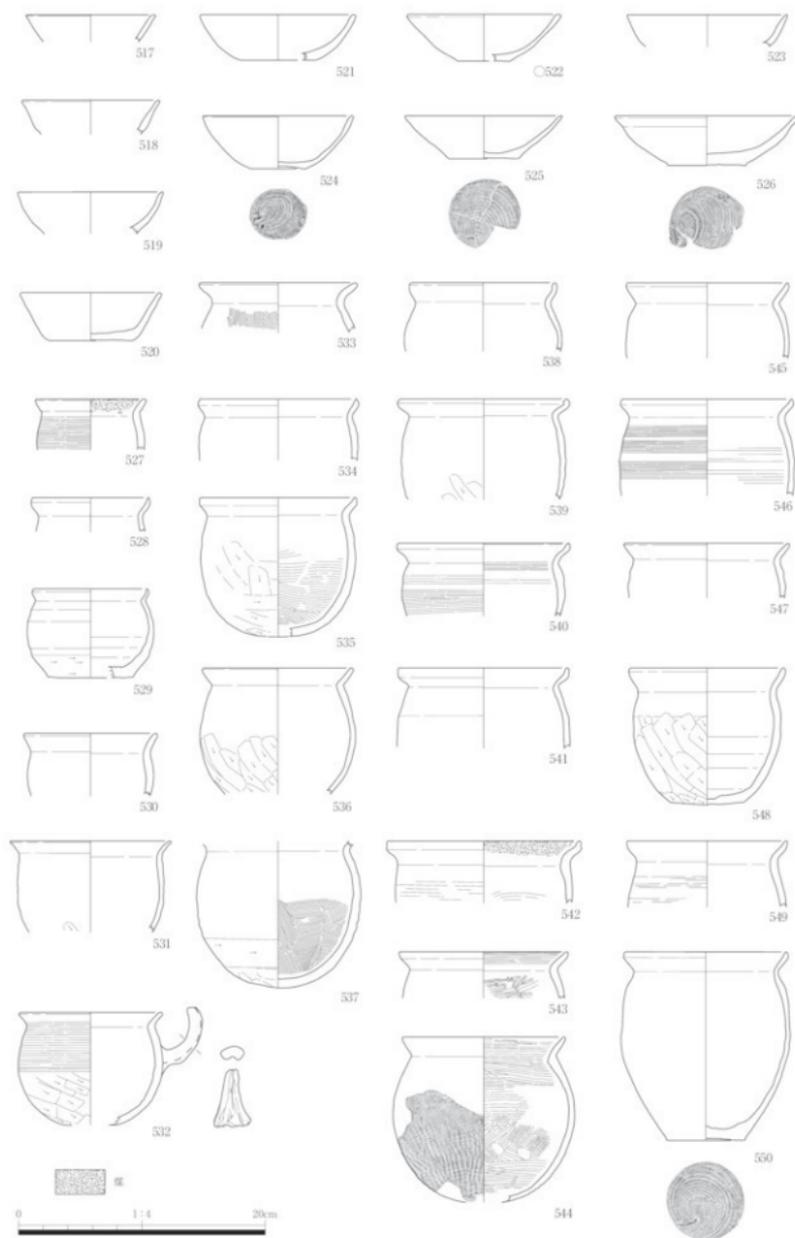


第70图 遗物实测图 (1/4)  
SD2155(468) 大溝(469·471·475) SD1671(472) SD1266(473) SP148(474) 包含層



第71図 遺物実測図 (1/4)

大溝(476・477・480・482・483・488・489・491・492・496・504・505・507・509・511～513・515) SK1139(479)  
 SI630(481) SI0336(484) SP2088(485) SD1236(490) SD1205(494) SI176(495) SK527(497) SD71(498)  
 SD1413(499) SD2181(500) SK1229(501) SP483(502) SD808(503) SP839(510) SD1003(516) 包含層



第72图 遗物实测图 (1/4)

大溝(517・518・524・525・530・533・534・537・542・545・548・550) SD1802(519) SD1266(530) SP1510(521) SD1221(522)  
 SD1007(523) SP2019(527) SK1407(528) SD1750(529) SK520(531) SD2270(532) S1630(535) SP834(536) SP803(538)  
 SD1116(539・541) SK1880(543) SD1216(544) S1168(546) SK12(547) SK1022(549) 包含層

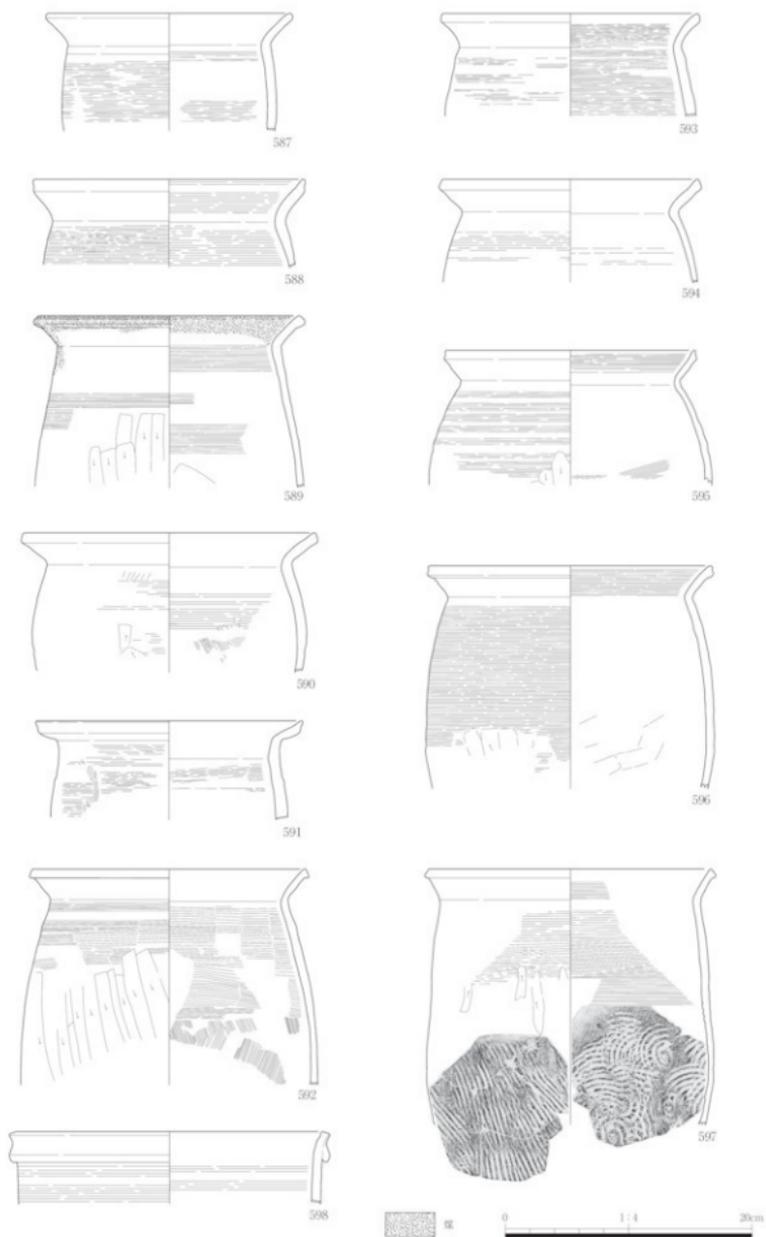


第73図 遺物実測図 (1/4)  
 大冢(551~568)



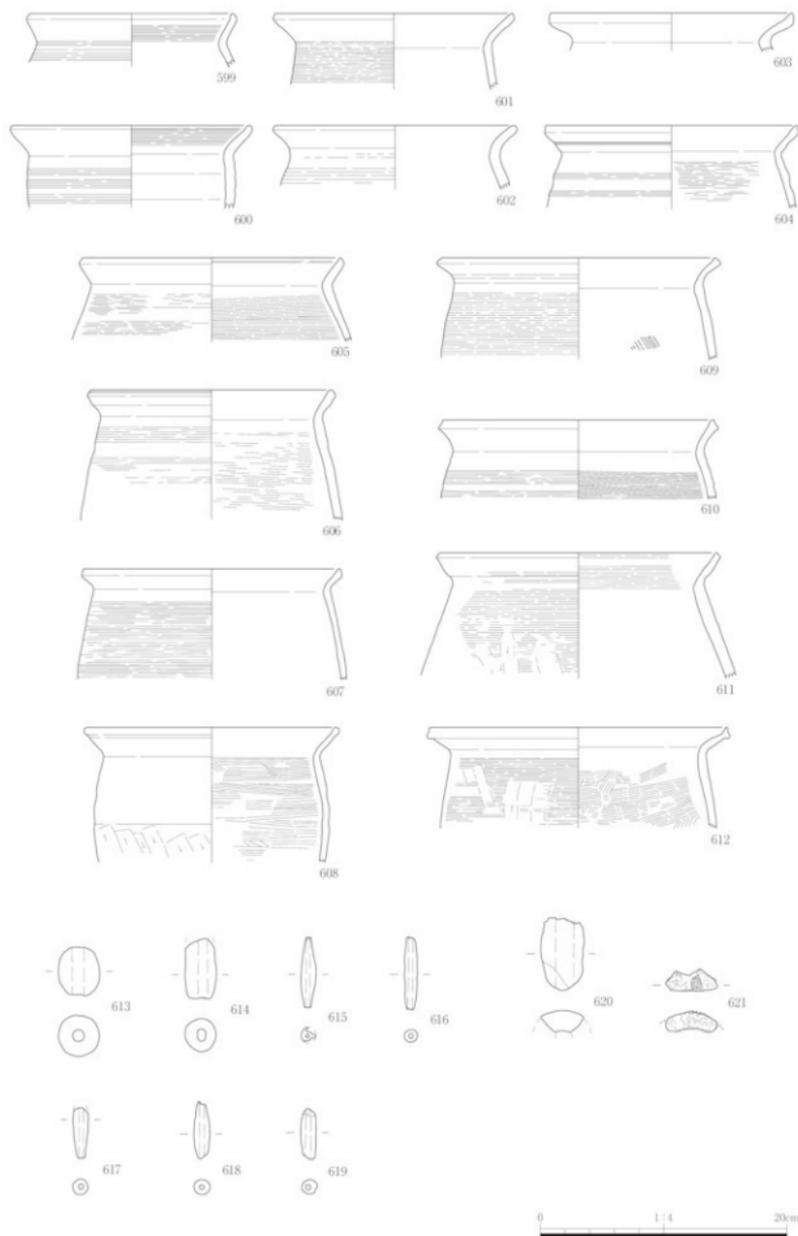
第74图 遗物实测图 (1/4)

SP609(569) SK2287(570·571) SK545(572) S1640(573·574) S1110(575·576) SD1205(577)  
SD2263(578) SD2270(579-584) SK710(585·586)



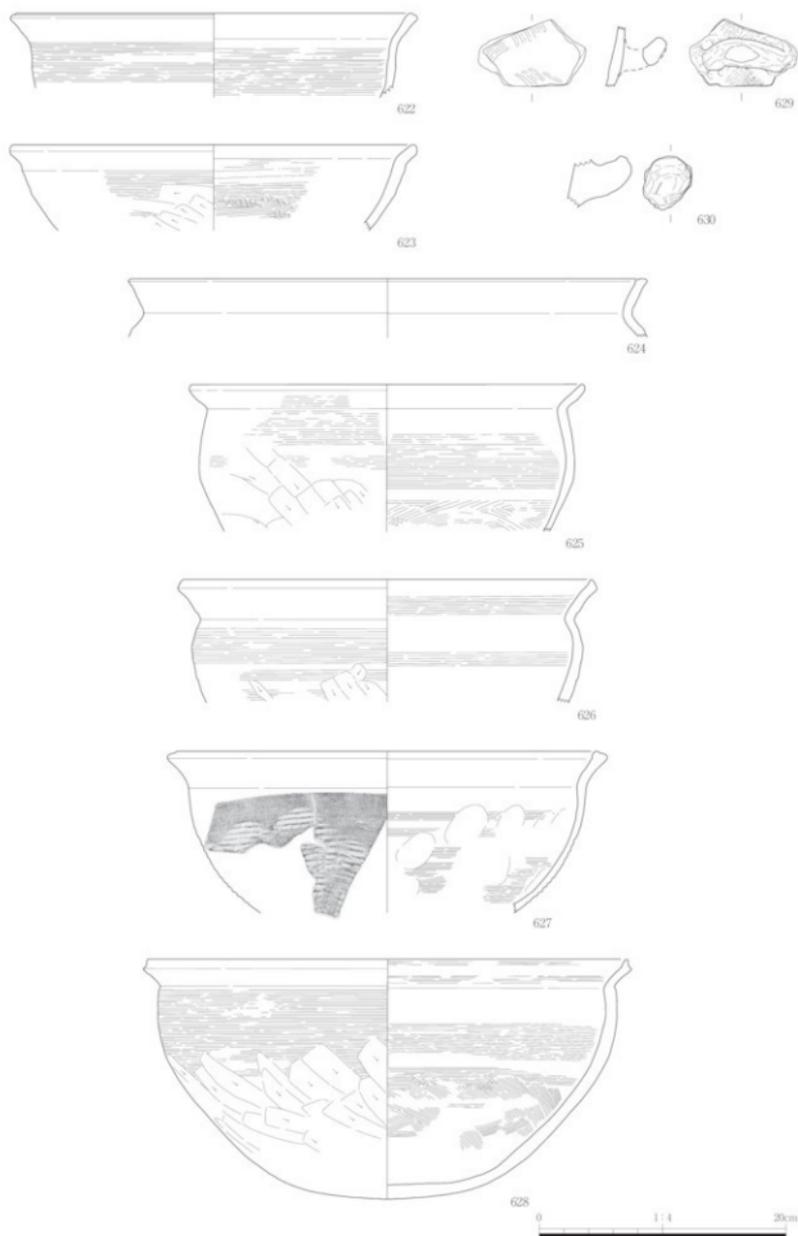
第75図 遺物実測図 (1/4)

大溝(587~591・593~595・597・598) SI630(592) SK705(596)

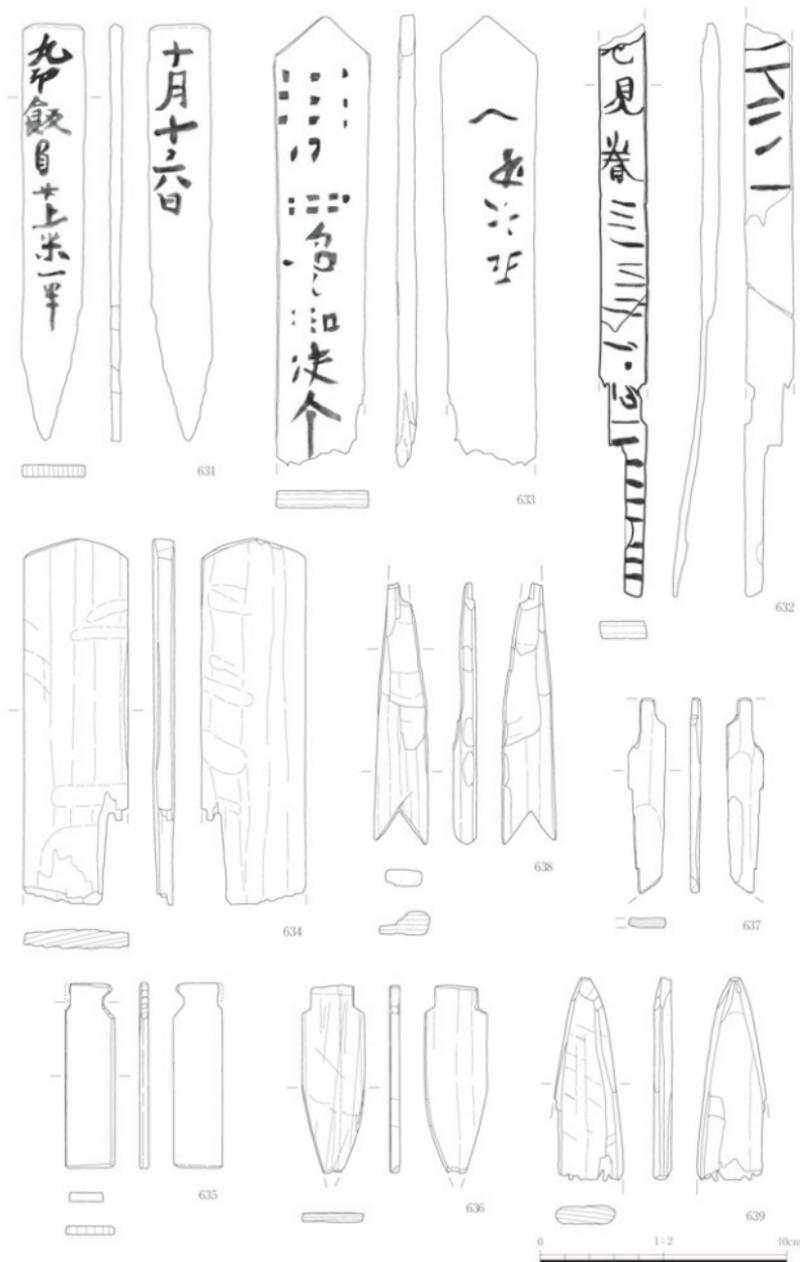


第76图 遗物实测图 (1/4)

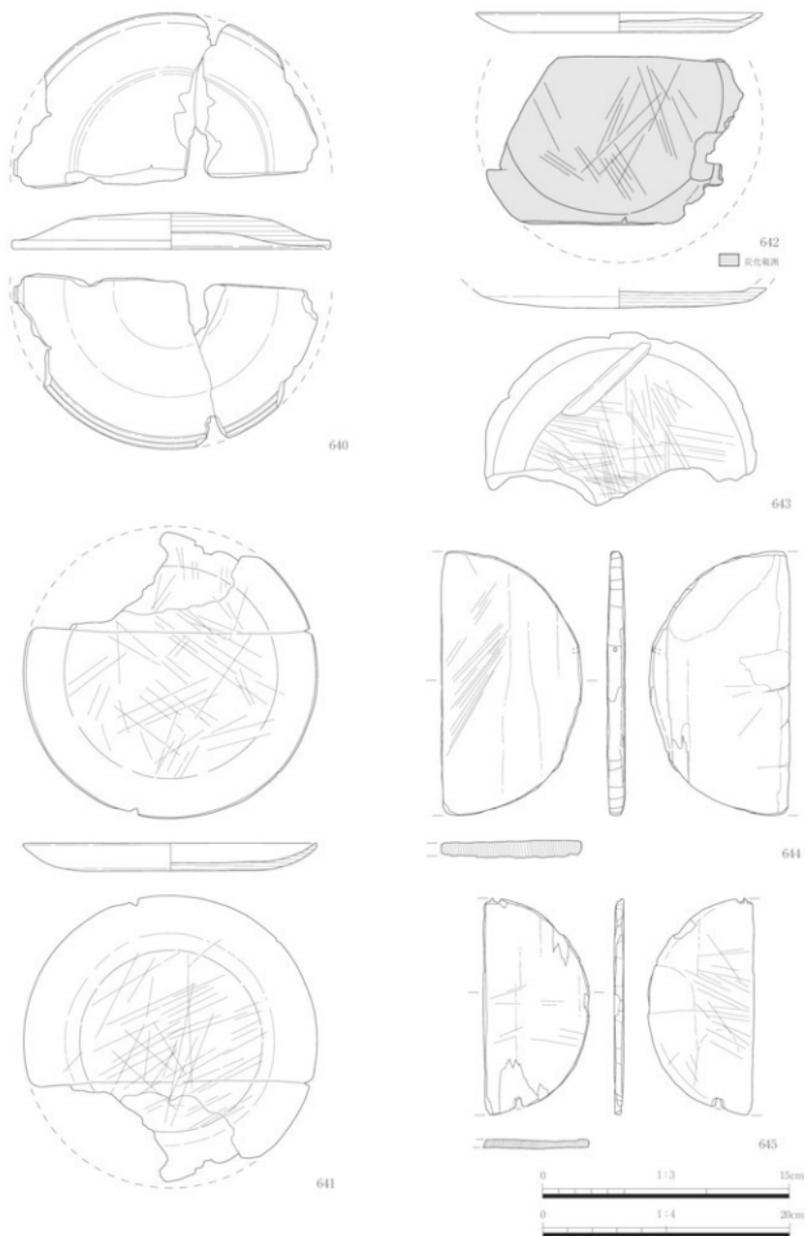
SP2081(599) SP2093(600) SI201(601·611) SP1020(602) SD1214(603) SK520(604) SD754(605)  
 SD1065(606) SI1550(607) SD1072(608) SK468(609) SD1236(610) SK527(612) 大溝(613)  
 SD1266(615) SD1221(617) SK500(620) SK804(621) 包含層



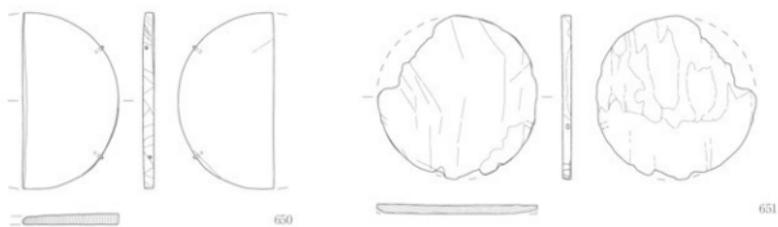
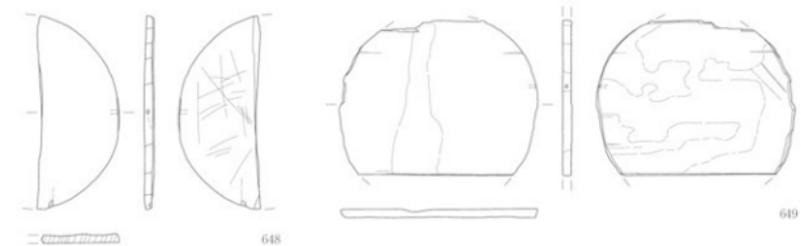
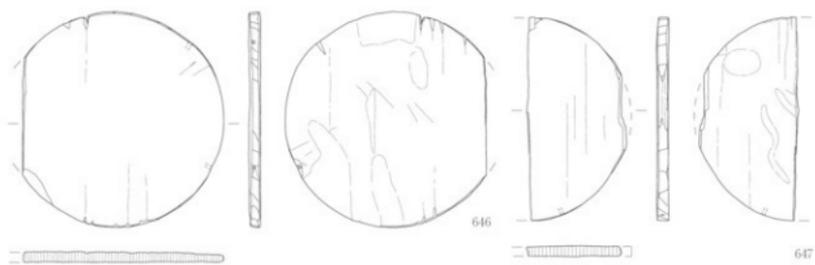
第77図 遺物実測図 (1/4)  
 SD1206(622) SK1222(623) SD1266(624) SI168(625) 大溝(626~628・630) SD1221(629)



第78图 遗物实测图 (1/2)  
大清(631~639)

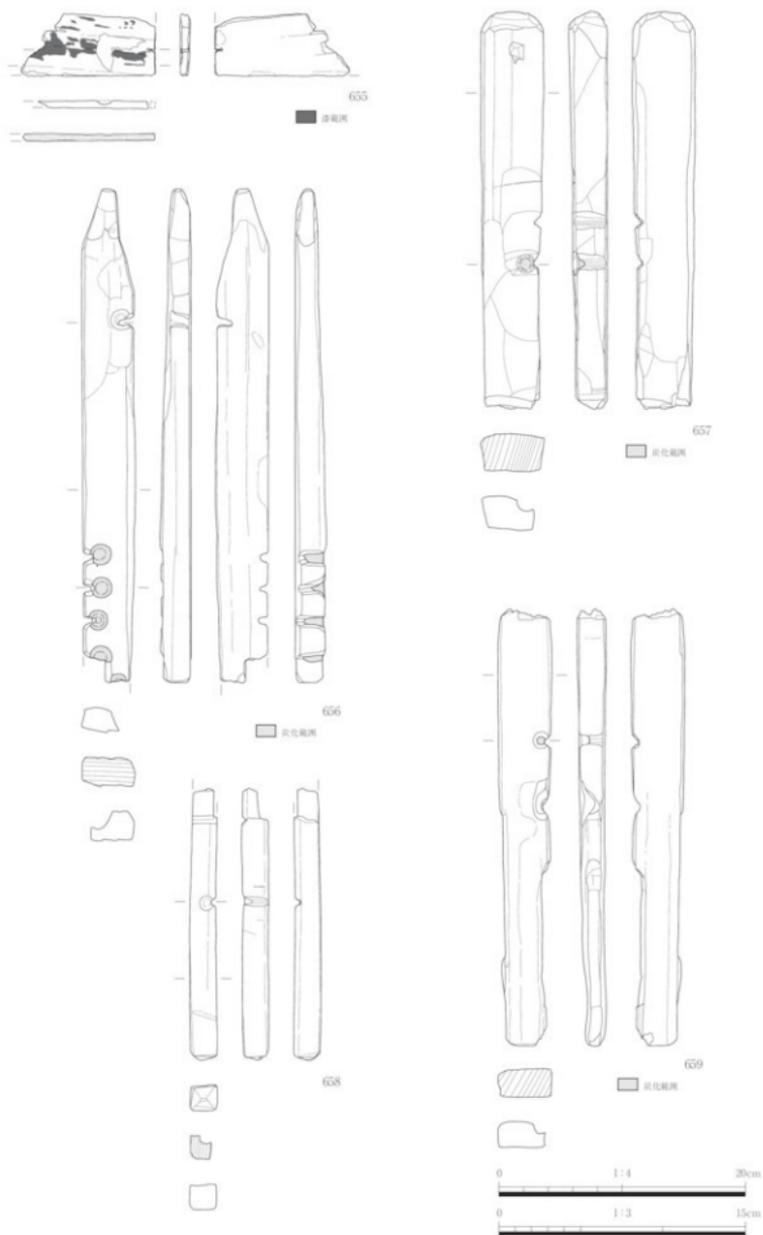


第79図 遺物実測図 (640~643 1/3, 644・645 1/4)  
大溝(640~645)

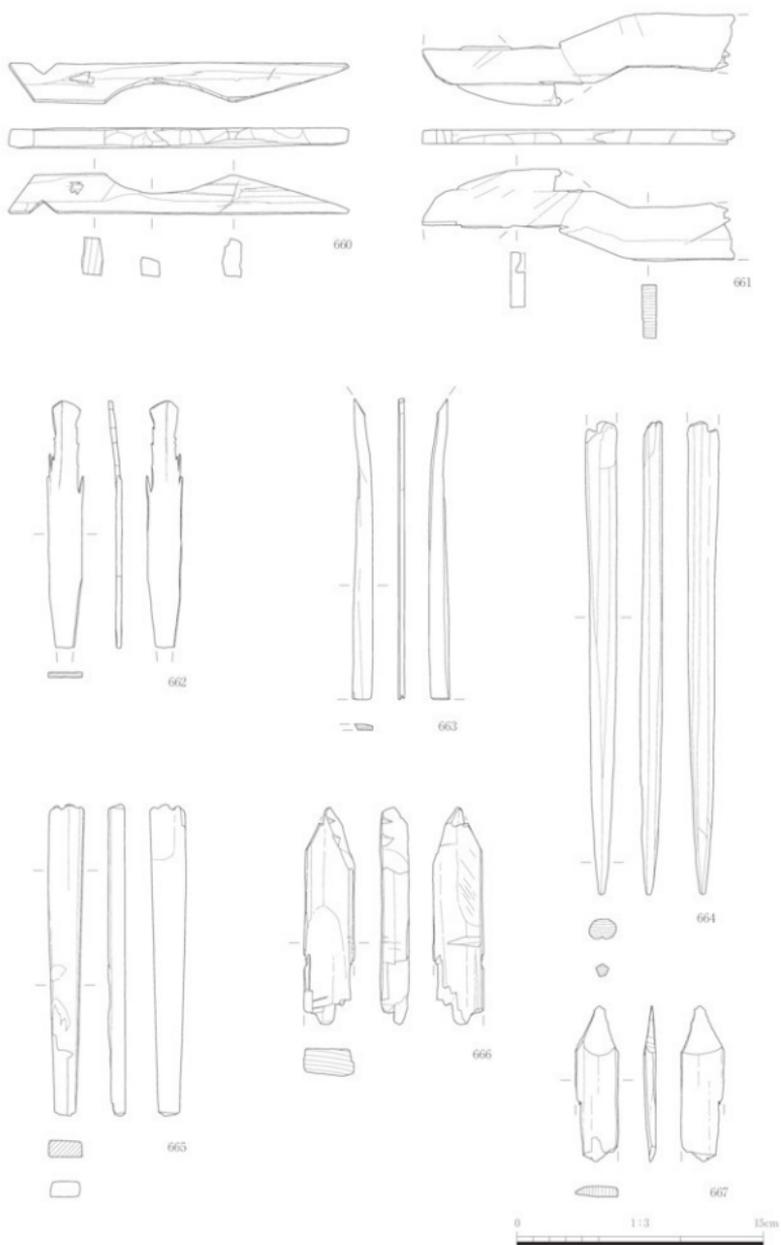


第80图 遗物実測図 (1/4)  
 大溝(646~650・652~654) SD1750(651)

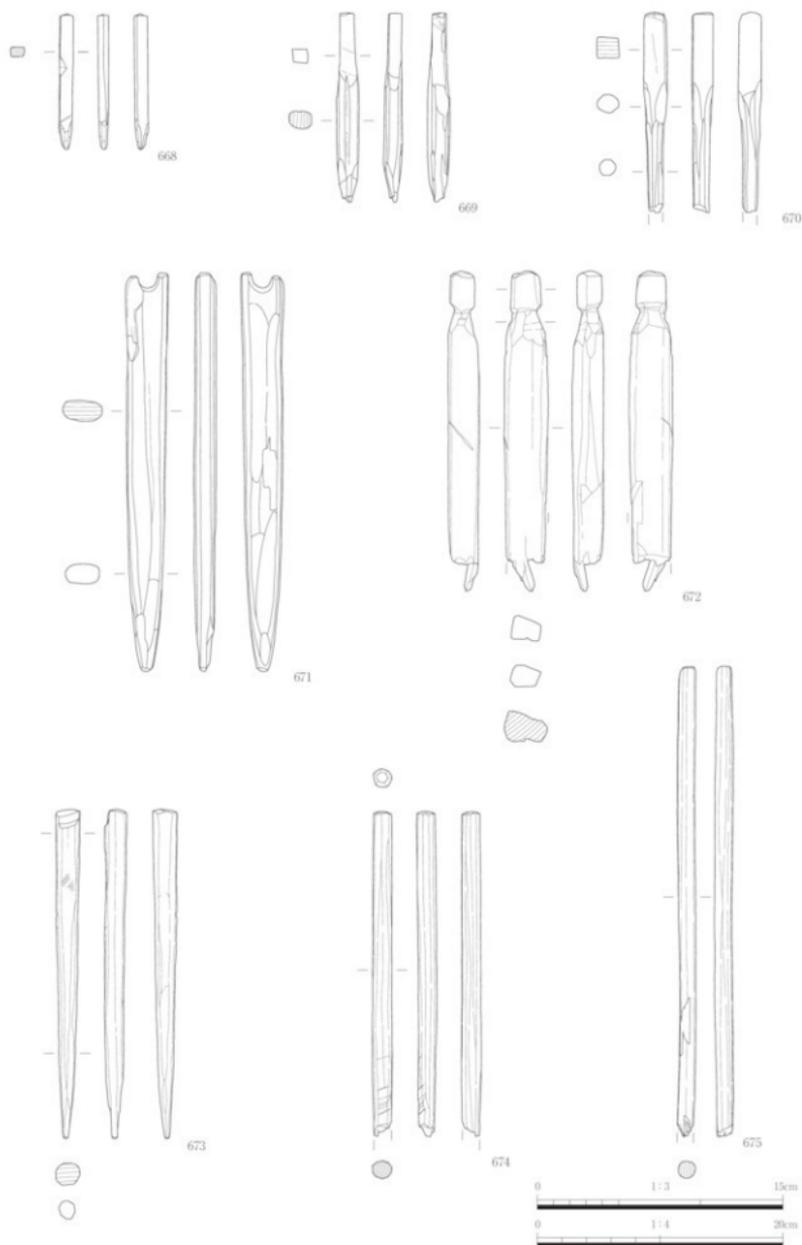
0 1:4 20cm



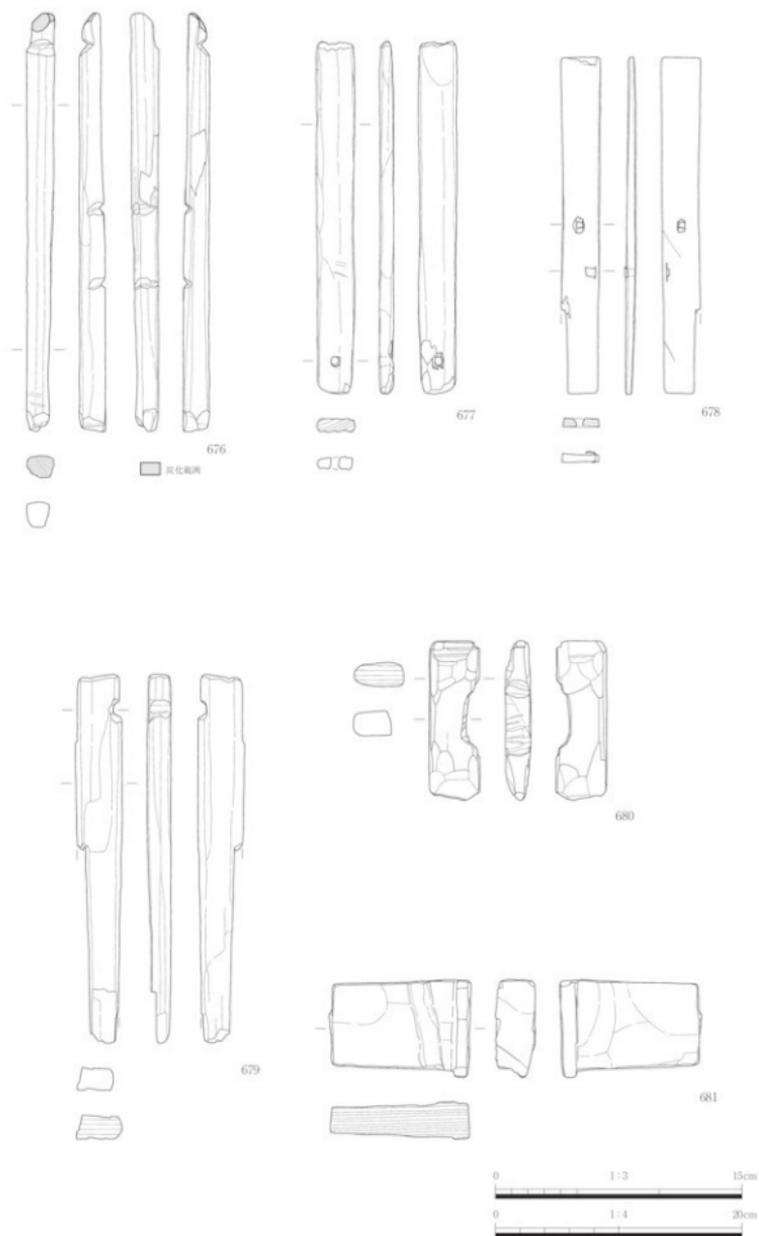
第 81 図 遺物実測図 (655 1/4, 656~659 1/3)  
 大溝 (656~659) 包含層



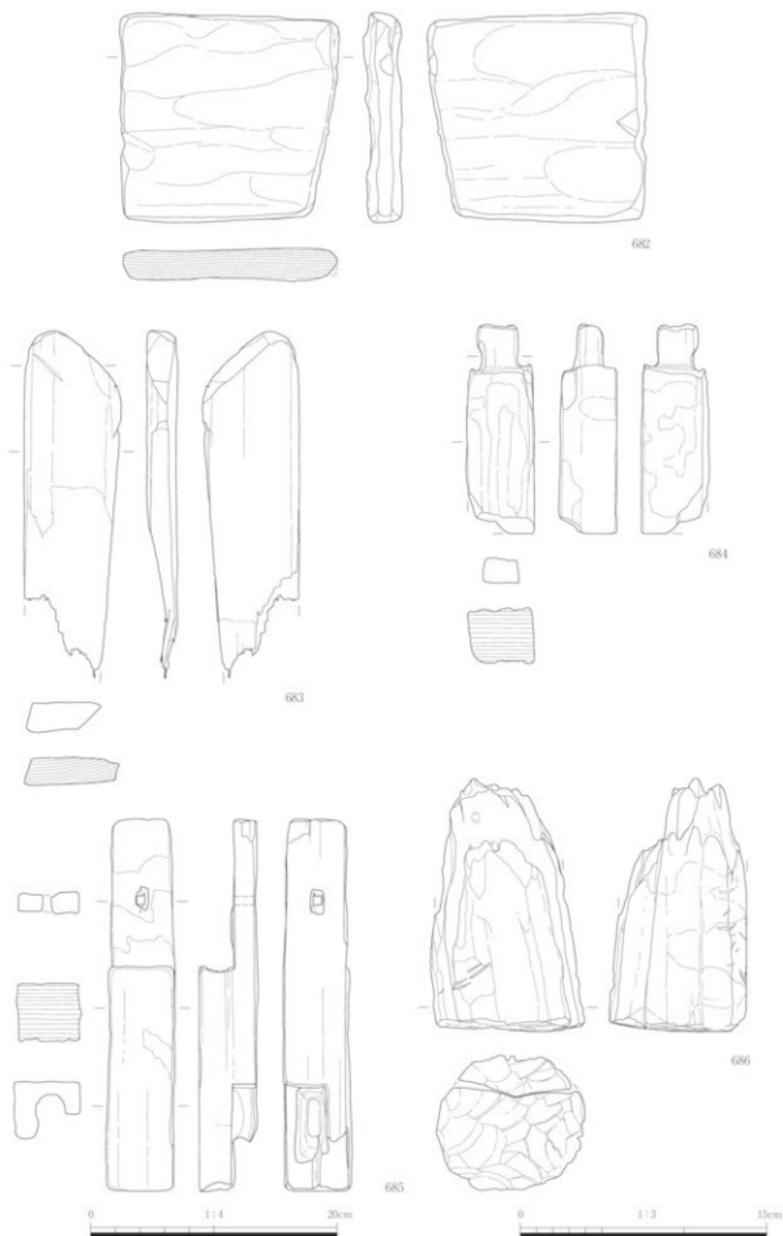
第 82 图 遗物実測図 (1/3)  
大濠(660~667)



第83図 遺物実測図 (668~672 1/3, 673~675 1/4)  
 大溝(668~675)



第 84 図 遺物実測図 (676・679~681 1/3, 677・678 1/4)  
大溝 (676~681)



第85図 遺物実測図 (682~685 1/4, 686 1/3)  
SK2143(682) 大溝(683~685) SK700(686)



第 86 图 遗物实测图 (1/3)

SD1003(687) SK426(688) SD1205(689) SI200(693) SD1007(695) SI631(696) 包含层



第13表 古代柱穴一覧(1)

地区	遺構	建物番号	平面形	規模(m)			切り合い	出土遺物	特記事項	棟目番号	図版番号
				長さ	幅	深さ					
D	SP1	001	方形	0.72	0.68	0.29		土師器、須恵器		18	
D	SP2	001	方形	0.76	0.64	0.60		土師器、須恵器、鉄滓		18	6
D	SP99	002	楕円形	0.64	0.48	0.44		土師器		18	
D	SP99	002	円形	0.44	0.40	0.20				18	
D	SP100	002	楕円形	0.76	0.66	0.48		土師器、須恵器		18	
D	SP106	002	楕円形	0.78	0.64	0.62		土師器、須恵器		18	6
D	SP213	002	楕円形	1.08	0.96	0.30		土師器		18	
D	SP57	003	方形	0.46	0.35	0.21	>SP98			19	
D	SP58	003	楕円形	0.44	(0.21)	0.36	<SP57			19	
D	SP67	003	楕円形	0.40	(0.28)	0.43	<SK66			19	
D	SP74	003	楕円形	0.71	0.66	0.36				19	
D	SP90	003	円形	0.54	0.50	0.30	>SK91	土師器		19	
D	SP840	003	楕円形	0.80	0.58	0.25				19	
D	SP77	004	方形	0.46	0.41	0.40				19	
D	SP103	004	楕円形	0.41	0.35	0.21				19	
D	SP163	004	円形	0.48	0.66	0.29		土師器、須恵器		19	
D	SP83	005	方形	0.45	0.44	0.25				19	
D	SP165	005	円形	0.49	0.49	0.27	>SK164	土師器、須恵器		19	
D	SP196	005	楕円形	0.86	0.68	0.33	<SK195			19	
D	SP20	006	円形	0.45	0.41	0.23				20	
D	SP23	006	楕円形	(0.48)	(0.26)	0.29				20	
D	SP36	006	方形	0.48	0.44	0.14				20	
D	SP40	006	楕円形	0.54	0.47	0.36	<SD14	土師器		20	
D	SP134	006	楕円形	0.64	0.54	0.31		土師器、須恵器		20	
D	SP143	006	楕円形	0.52	(0.41)	0.25				20	
D	SP212	006	不整形	0.32	0.30	0.27		土師器		20	
D	SP23	007	楕円形	0.51	0.41	0.18		土師器		20	
D	SP48	007	楕円形	0.47	0.32	0.25				20	
D	SP54	007	楕円形	0.58	0.48	0.32				20	
D	SP96	008	円形	0.29	0.26	0.25		土師器、中世土師器(700)、白磁	古代SP8の柱穴	21	
D	SP98	008	楕円形	0.44	0.30	0.40		土師器		21	
D	SP93	008	不整形	0.58	0.36	0.20	>SK94			21	
D	SP131	008	楕円形	0.48	0.40	0.32		須恵器		21	
D	SP138	008	楕円形	0.50	0.43	0.33		土師器、須恵器		21	
D	SP45	009	方形	0.42	0.39	0.34				21	
D	SP101	009	楕円形	0.62	(0.53)	0.42				21	
D	SP173	009	楕円形	0.67	(0.64)	0.46	<SP172			21	22
D	SP174	010	円形	0.53	0.48	0.35		土師器、須恵器		21	
D	SP220	010	楕円形	0.60	0.36	0.43		土師器、須恵器、珠石		21	
D	SP242	010	円形	0.52	0.47	0.47		土師器		21	
D	SP256	010	楕円形	0.58	0.38	0.46	>SK257			21	
D	SP917	010	不整形	0.50	0.30	0.27		土師器、須恵器		21	
D	SP278	011	楕円形	0.50	0.42	0.19		土師器、須恵器		22	
D	SP961	011	楕円形	0.70	0.52	0.35	<SD308	土師器		22	
D	SP284	011	不整形	0.90	0.80	0.44				22	
D	SP390	011	楕円形	0.60	0.52	0.43		土師器		22	
D	SP398	011	円形	0.48	0.46	0.18		土師器		22	
D	SP482	011	不整形	0.70	0.66	0.33	>SK483	土師器		22	
D	SP220	012	方形	0.58	(0.50)	0.25	<SK219	土師器、須恵器(166)		23-24	
D	SP224	012	楕円形	0.88	0.60	0.62		土師器、須恵器(30・380・389)、灰石		23-24	
D	SP232	012	不整形	1.00	0.64	0.46		土師器、須恵器(33・157)		23-24	
D	SP223	012	不整形	0.94	0.92	0.30		土師器、須恵器		23-24	
D	SP235	012	方形	0.82	0.66	0.43		土師器、須恵器		23	
D	SP237	012	方形	0.44	0.30	0.28		土師器	床家柱	23-24	
D	SP246	012	楕円形	0.59	0.49	0.20		土師器	床家柱	23-24	
D	SP248	012	円形	0.48	0.43	0.33		土師器、須恵器	床家柱	23-24	
D	SP250	012	楕円形	0.88	0.54	0.49		土師器、須恵器		23-24	
D	SP253	012	楕円形	0.80	0.74	0.44		土師器、須恵器		23-24	
D	SP267	012	円形	0.86	0.66	0.43		土師器		23	6
D	SP285	012	方形	1.28	0.70	0.47		土師器、須恵器		23	
D	SP296	012	方形	1.10	0.80	0.52		土師器、須恵器(368)		23	
D	SP307	012	不整形	1.14	0.76	0.60		土師器、須恵器		23	
D	SP334	012	楕円形	1.10	0.77	0.69	<SD308	土師器、須恵器		23	
D	SP139	013	楕円形	0.76	0.62	0.33		土師器、須恵器		22	
D	SP172	013	楕円形	(0.64)	0.45	0.30				22	
D	SP184	013	楕円形	0.75	0.66	0.30				22	
D	SP186	013	円形	0.53	0.48	0.16	>SK187	土師器		22	
D	SP336	013	楕円形	0.73	0.43	0.42	<SD308	土師器、須恵器		22	
D	SP372	013	楕円形	0.48	0.36	0.10				22	
D	SP276	013	楕円形	0.73	0.53	0.23		土師器、須恵器		22	
D	SP419	013	楕円形	1.04	(0.74)	0.27		土師器、須恵器		22	
D	SP316	014	方形	0.80	0.54	0.47		土師器、須恵器		25-26	
D	SP305	014	楕円形	1.10	0.87	0.53	<SK309、SK320、SK371 >SK306	土師器、須恵器		25-26	
D	SP375	014	円形	0.96	0.92	0.88		土師器		25-26	
D	SP380	014	円形	0.78	0.74	0.12	>SK381	土師器、須恵器		25-26	
D	SP426	014	円形	0.88	0.86	0.57		土師器、須恵器(165)、灰石		25-26	
D	SP432	014	楕円形	1.04	0.40	0.32		土師器、須恵器		25-26	
D	SP302	014	楕円形	0.80	0.54	0.52		土師器、須恵器		25-26-53	
D	SP554	014	楕円形	0.73	0.65	0.95	>SP553	土師器、須恵器(171)		25	

第13表 古代柱穴一覽(2)

地区	遺構	建物番号	平面形	幅員(m)			切り合い	出土遺物	特記事項	検出番号	国風番号
				長さ	幅	深さ					
D	SP626	014	楕円形	0.96	0.78	0.50		土師器、須恵器		25	
D	SP627	014	円形	0.76	0.75	0.52		土師器、須恵器		25	
D	SP628	014	楕円形	0.93	0.86	0.48		土師器、須恵器		25	
D	SP428	014-036	楕円形	1.04	0.95	0.62		土師器		25-26-28	
D	SP438	014-036	不整形	1.00	0.90	0.84		土師器、須恵器		25-26-28	
D	SP609	014-037	不整形	1.04	0.88	0.54	>SP608 >SP610	土師器(569)、須恵器		24-25-27	
D	SP414	015	楕円形	0.52	0.47	0.37		土師器		27	
D	SP441	015	楕円形	0.72	0.52	0.40		須恵器		27	
D	SP444	015	楕円形	0.60	0.56	0.35		土師器、須恵器		27	
D	SP483	015	楕円形	(0.78)	0.76	0.45	<SP482	土師器(302)、須恵器		27	
D	SP504	015	不整形	0.72	0.62	0.37		土師器、須恵器		27	
D	SP567	015	楕円形	0.62	0.47	0.42		土師器		27	
D	SP587	015	円形	0.40	0.39	0.31		土師器		27	
D	SP602	015	楕円形	0.62	0.50	0.42		須恵器(16)		27	
D	SP608	015	楕円形	0.63	0.52	0.18	>SP609	土師器、須恵器		27	
D	SP610	015	楕円形	0.68	0.45	0.60	<SP609	土師器、須恵器		27	
D	SP427	016	楕円形	0.57	0.48	0.43		土師器		28	
D	SP467	016	楕円形	0.86	0.62	0.45	<SK466	土師器		28	
D	SP485	016	楕円形	0.60	0.54	0.45	<SK484	土師器		28	
D	SP553	016	楕円形	(0.50)	0.46	0.49	<SK554	土師器、須恵器		25-28	
D	SP562	016	円形	0.50	0.46	0.42	<SK561	土師器		28	
D	SP585	016	楕円形	0.70	0.40	0.45		土師器		28	
D	SP588	016	楕円形	0.57	0.50	0.43	<SD234 >SK381	土師器		28	
D	SP609	016	楕円形	0.80	0.68	0.54		土師器(510)、須恵器		28	
D	SP434	017	円形	0.42	0.30	0.31		須恵器		24	
D	SP658	017	不整形	0.54	0.34	0.18		土師器、須恵器		24	
D	SP718	017	楕円形	0.50	0.32	0.28		土師器、須恵器		24	
D	SP724	017	不整形	0.60	0.54	0.38	>SK723	土師器、須恵器		24	
D	SP457	018	楕円形	0.82	0.58	0.27		土師器		28	
D	SP480	018	円形	0.52	0.50	0.58		土師器		28	
D	SP508	018	楕円形	0.74	0.46	0.24		土師器		28	
D	SP513	018	楕円形	0.78	0.62	0.53	>SK514	土師器、須恵器		28	
D	SP516	018	楕円形	0.56	0.48	0.22		土師器、須恵器		28	
D	SP530	018	楕円形	0.56	0.48	0.29	<SK530	土師器		28-54	
D	SP532	018	円形	0.24	0.22	0.14	<SK530	土師器		28	
D	SP536	018	円形	0.26	0.22	0.22		土師器		28	
D	SP539	018	楕円形	0.68	0.68	0.42		土師器		28	
D	SP542	018	楕円形	0.50	0.37	0.15		土師器		28	
D	SP546	018	円形	0.46	0.46	0.22		土師器、須恵器(369)		28	
D	SP551	018	不整形	0.72	0.44	0.40		土師器		28	
D	SP564	018	不整形	0.63	0.56	0.30		土師器		28	
D	SP495	019	楕円形	1.08	0.80	0.41	<SD486	土師器		29	
D	SP498	019	楕円形	1.00	0.90	0.40		土師器		29	
D	SP410	019-020	方形	1.80	0.92	0.43		土師器		29	
D	SP421	019-020	楕円形	0.72	0.62	0.57		土師器		29	
D	SP422	019-020	楕円形	0.80	0.65	0.40		須恵器		29	
D	SP433	019-020	楕円形	1.26	1.00	0.46		土師器		29	
D	SP490	019-020	楕円形	1.08	0.82	0.37		土師器		29	
D	SP493	019-020	円形	1.02	1.00	0.51		土師器		29	
D	SP499	019-020	楕円形	1.30	0.90	0.34		土師器、須恵器		29	
D	SP460	020	楕円形	0.90	0.78	0.27	<SD486	土師器		29	
D	SP489	020	楕円形	0.96	(0.66)	0.32		土師器		29	
D	SP661	021	楕円形	0.74	0.52	0.38	>SK660	土師器、須恵器		30	
D	SP665	021	不整形	0.98	0.64	0.61		土師器、須恵器(271)		30	
D	SP669	021	円形	0.64	0.60	0.43	<SK670	土師器		30	
D	SP674	021	円形	0.70	0.70	0.62		土師器、須恵器(174)		30	
D	SP701	021	楕円形	0.55	0.48	0.34	>SK702	土師器		30	
D	SP714	021	楕円形	0.48	0.42	0.19		土師器		30	
D	SP761	021	楕円形	(0.80)	0.37	0.36	<SK704	土師器		30	
D	SP767	021	楕円形	0.52	0.38	0.29	<SK766	土師器		30	
D	SP673	022	方形	0.58	0.48	0.22		土師器、須恵器		30	
D	SP677	022	楕円形	0.32	0.26	0.29	<SK676	土師器		30	
D	SP722	022	楕円形	0.55	0.42	0.22	>SK723	土師器、須恵器		30	
D	SP738	022	円形	0.68	0.64	0.45		土師器		30	
D	SP632	023	楕円形	0.76	0.64	0.43		縄文、土師器、須恵器		31	
D	SP633	023	不整形	1.28	0.82	0.55	>SK630	土師器、須恵器		16-31-32	
D	SP685	023	楕円形	0.88	0.80	0.63		土師器		31	
D	SP686	023	楕円形	0.70	0.50	0.48		土師器		31	
D	SP732	023	円形	0.74	0.71	0.37		土師器、須恵器		31	
D	SP817	023	円形	0.60	0.58	0.55		土師器、打棒(10)		9-31	
D	SP826	023	楕円形	(0.90)	0.46	0.70		土師器		31	
D	SP837	023	楕円形	0.62	0.45	0.24		土師器		31	
D	SP834	024	円形	0.60	0.58	0.36		土師器、須恵器		31-32	
D	SP680	024	不整形	0.84	0.60	0.54		土師器、須恵器		31-32	
D	SP687	024	楕円形	0.60	0.49	0.26		土師器	竊柱	31-32	
D	SP700	024	楕円形	1.04	0.80	0.80		土師器、須恵器、鉄滓、柱		31-32	7
D	SP821	024	楕円形	1.12	0.90	0.80	>SK630	土師器、須恵器		16-31-32	
D	SP825	024	楕円形	1.16	0.93	0.69		土師器		31	
D	SP827	024	楕円形	0.62	0.57	0.25		土師器		31-32	
D	SP833	024	不整形	0.63	0.54	0.19		土師器		31-32	

第13表 古代柱穴一覽(3)

地区	遺構	建物番号	平面形	規模(m)			切り合い	出土遺物	特記事項	棟号番号	100分番号
				長さ	幅	深さ					
D	SP831	031	楕円形	0.74	0.64	0.47		土師器(S36)、須恵器		31-32	
D	SP836	031	楕円形	0.60	0.49	0.37	>SD835	柱		31-32	7
D	SP723	025	円形	0.83	0.80	0.42		土師器、須恵器		33	
D	SP756	025	不整形	1.12	0.783	0.93				33	
D	SP772	025	楕円形	0.64	0.58	0.30				33	
D	SP773	025	方形	0.74	0.57	0.77		土師器、須恵器		33	
D	SP782	025	円形	0.44	0.43	0.19		須恵器		33	
D	SP800	025	楕円形	1.18	0.69	0.96		土師器、須恵器		33	
D	SP809	025	円形	0.70	0.68	0.27	>SD808	土師器、須恵器(S1)		33	
D	SP831	025	円形	0.39	0.35	0.05				33	
D	SP832	025	楕円形	0.70	0.54	0.53				33	
D	SP770	036	不整形	1.00	0.76	0.72	>SK771	土師器		32	
D	SP775	036	円形	0.64	0.62	0.37		柱		32	7
D	SP777	036	楕円形	0.78	0.58	0.47		須恵器、木製品、柱		32	7
D	SP798	036	楕円形	0.66	0.523	0.38	<SK797 >SK799			32	
D	SP803	036	楕円形	0.62	0.44	0.45		土師器(S26)		32	
D	SP774	027	楕円形	0.92	0.67	0.33		土師器、須恵器		32	
D	SP776	027	円形	0.48	0.46	0.31		土師器		33	
D	SP801	027	方形	0.58	0.48	0.70		土師器		33	
D	SP1349	028	楕円形	0.85	0.70	0.29		土師器		34	
D	SP1437	028	不整形	0.80	0.78	0.37	>SD1438			34	
D	SP1439	028	円形	0.75	0.73	0.24				34	
D	SP1467	028	円形	0.73	0.70	0.47		須恵器		34	
D	SP1468	028	楕円形	0.78	0.68	0.40				34	
D	SP1469	028	不整形	1.16	0.80	0.29				34	
D	SP1480	028	方形	0.90	0.74	0.42		土師器		34	
D	SP1482	028	楕円形	0.64	0.56	0.19				34	
D	SP1483	028	方形	0.72	0.67	0.28				34	
D	SP1500	028	方形	0.67	0.67	0.32	>SK1499	土師器、須恵器		34	
D	SP1530	028	方形	0.80	0.76	0.25		縄文、土師器		34	6
D	SP1535	028	方形	0.68	0.67	0.50				34	
D	SP1545	028	楕円形	0.84	0.70	0.20				34	
D	SP1551	028	方形	0.92	0.84	0.62		縄文、土師器		34	6
D	SP1185	029	方形	0.87	0.82	0.31	>SD1188	須恵器(S30)		36	
D	SP1190	029	楕円形	0.80	0.41	0.41	<SD1173	土師器		36	
D	SP1230	029	楕円形	0.82	0.72	0.40	>SK1229, SD1116	土師器		36	
D	SP1233	029	楕円形	0.50	0.30	0.14				36	
D	SP1264	029	楕円形	0.68	0.64	0.22				36	
D	SP1111	030	方形	1.07	0.82	0.52		土師器、須恵器(140・287・319)、柱		35	
D	SP1128	030	方形	0.94	0.62	0.49		土師器、須恵器		35	
D	SP1135	030	不整形	1.24	0.70	0.40	>SK1134	土師器、須恵器		35	
D	SP1184	030	楕円形	0.96	0.78	0.45		土師器		35	
D	SP1194	030	方形	1.00	0.58	0.39	<SD1116			35	
D	SP1302	030	楕円形	0.80	0.60	0.31		土師器、須恵器		35	
D	SP1297	030	楕円形	0.82	0.61	0.30	<SK1206	須恵器		35	
D	SP1219	030	方形	0.87	0.86	0.40	>SD1211	土師器、須恵器		35	
D	SP1230	030	不整形	0.98	0.70	0.62	<SD1205			35-50	
D	SP1235	030	不整形	0.92	0.70	0.45		土師器		35	
D	SP1002	031	方形	0.84	0.76	0.34	>SD1031	土師器、須恵器		36	
D	SP1020	031	方形	0.86	0.78	0.39	>SK1132	土師器(602)、須恵器		36	
D	SP1055	031	方形	0.80	0.66	0.33	>SK1067	縄文、土師器、須恵器		36	
D	SP1071	031	不整形	0.87	0.45	0.21	>SD1072 <SD1073	土師器、須恵器(347)		36	
D	SP1083	031	方形	0.62	0.60	0.38	<SK1084			36	
D	SP1103	031	楕円形	1.04	0.84	0.36		土師器、須恵器		36	
D	SP1104	031	不整形	0.88	0.70	0.32	>SD1070	土師器、須恵器		36	
D	SP1108	031	方形	0.62	0.61	0.33		土師器、須恵器		36	
D	SP1349	031	方形	0.64	0.54	0.35		須恵器(221)		36	
D	SP1038	032	楕円形	0.54	0.42	0.29	>SD1031 <SP1054	土師器、須恵器		37-38	
D	SP1047	032	楕円形	0.58	0.46	0.40		土師器、須恵器		37	6
D	SP1075	032	不整形	0.64	0.48	0.25	<SK1076	土師器		37	
D	SP1117	032	楕円形	0.68	0.47	0.28	<SD1088	土師器		37	
D	SP1138	032	方形	0.51	0.47	0.41	>SK1139	土師器、須恵器		37	
D	SP1208	032	円形	0.63	0.62	0.25				37	
D	SP1209	032	不整形	0.62	0.60	0.28		土師器		37	
D	SP1215	032	方形	0.66	0.55	0.22	<SK1204			37	
D	SP1015	033	方形	0.88	0.58	0.39		土師器、須恵器		38	
D	SP1030	033	方形	0.55	0.43	0.41	<SD1014	須恵器		38	
D	SP1054	033	楕円形	0.60	0.45	0.29	>SP1038	土師器		38	
D	SP1085	033	不整形	0.66	0.44	0.55		土師器、木製品、柱		38	
D	SP1095	033	不整形	0.96	0.95	0.45		土師器、須恵器(278)		38	
D	SP1112	033	楕円形	0.56	0.54	0.25				38	
D	SP1239	033	円形	0.26	0.24	0.09		須恵器		38	
B	SP2166	034	不整形	0.92	0.52	0.26		土師器、須恵器		38	
B	SP2186	034	円形	0.48	0.48	0.22		土師器		39	
B	SP2190	034	円形	0.62	0.58	0.38				39	
B	SP2193	034	方形	0.62	0.54	0.29	>SK2194			39	
B	SP2256	034	円形	0.50	0.44	0.36	>SD2253 <SK2255 <SK2257	土師器		39	
B	SP2258	034	不整形	0.70	0.44	0.42	>SP2259	須恵器(98)		39	
B	SP2259	034	不整形	0.56	0.18	0.29	<SP2258			39	

第13表 古代柱穴一覽(4)

地区	遺構	建物番号	平面形	幅員(m)			切り合い	出土遺物	特記事項	採回番号	国庫 番号
				長さ	幅	高さ					
B	SP206	004	不整形	0.80	0.54	0.32	>SK2007	土師器、須恵器		39	
B	SP209	004	楕円形	1.10	0.76	0.34	>SP2031	土師器		39	
B	SP211	004	楕円形	0.54	0.52	0.37	<SP2200			39	
B	SP201	005	不整形	0.56	0.50	0.30				38	
B	SP2274	005	円形	0.60	0.58	0.35				38	6
B	SP2276	005	楕円形	0.79	0.40	0.34	>SP2277			38	
B	SP2277	005	楕円形	0.82	(0.32)	0.30	<SP2276			38	
B	SP280	005	楕円形	0.70	(0.66)	0.32		土師器、須恵器(294)		38	
B	SP2281	005	方形	0.78	0.66	0.24	>SK2282	須恵器(383)		38	
B	SP2128	006	楕円形	0.60	0.40	0.13				39	
B	SP2129	006	円形	0.62	0.58	0.31		土師器		39	
B	SP2130	006	円形	0.80	0.78	0.43		土師器、須恵器、木製品		39	
B	SP2134	006	方形	0.76	0.56	0.13		土師器、須恵器		39	
B	SP2135	006	方形	0.76	0.66	0.27		土師器、須恵器		39	
B	SP2223	006	楕円形	0.70	(0.38)	0.35		土師器、須恵器		39	
B	SP2208	007	円形	0.56	0.50	0.38		土師器		37	
B	SP2210	007	方形	0.56	0.50	0.18		土師器		37	
B	SP2218	007	円形	0.46	0.42	0.35	<SK2217	土師器、須恵器		37	
B	SP2227	008	円形	0.54	(0.18)	0.46				40	
B	SP2228	008	不整形	0.90	(0.42)	0.36		土師器、須恵器		40	
B	SP2235	008	楕円形	0.56	0.38	0.15				40	
B	SP2288	008	楕円形	0.60	0.48	0.46	>SD2233			40	
B	SP2308	009	円形	0.46	0.46	0.17				40-41	
B	SP2041	009	円形	0.36	0.32	0.14	>SK2042	土師器	灰	40	
B	SP2045	009	楕円形	0.44	0.28	0.30			灰	40-41	
B	SP2053	009	楕円形	0.36	0.28	0.34	<SK2054	須恵器	灰	40-41	
B	SP2058	009	円形	0.34	0.30	0.30	<SK2059		灰	40-41	
B	SP2080	009	円形	0.28	0.34	0.07				40	
B	SP2099	009	円形	0.42	0.32	0.17				40-41	
B	SP2100	009	円形	0.42	0.40	0.11				40-41	
B	SP2104	009	円形	0.48	0.44	0.22		土師器		40-41	
B	SP2106	009	楕円形	0.66	0.42	0.30		土師器		40-41	
B	SP2110	009	不整形	0.74	0.40	0.36		須恵器		40-41	
B	SP2111	009	不整形	0.74	0.30	0.30		土師器	薬柱	40-41	
B	SP2114	009	楕円形	0.52	0.40	0.24		土師器、須恵器		40-41	
B	SP2123	009	円形	0.64	0.58	0.26	<SK2134			40-41	
B	SP2152	009	楕円形	0.60	0.42	0.22	<SP2151			40-42	
B	SP2039	009 042	円形	0.68	0.64	0.12	>SP2040	土師器		40-41-42	
B	SP2144	009 042	円形	1.08	(0.90)	0.39	<SK2142・SP2143	土師器、須恵器		40-41-42	
B	SP2047	040	楕円形	0.66	0.44	0.16		土師器		42	
B	SP2048	040	円形	0.56	0.56	0.21		土師器、須恵器		42	
B	SP2049	040	楕円形	0.60	0.48	0.24				42	
B	SP2050	040	円形	0.60	0.58	0.16				42	
B	SP2070	040	円形	0.52	0.48	0.29		須恵器		42	
B	SP2072	040	円形	0.54	0.50	0.30		土師器		42	
B	SP2074	040	円形	0.50	0.48	0.17				42	
B	SP2090	040	不整形	1.02	(0.78)	0.16	<SP2091	須恵器		42	
B	SP2073	040 041	円形	0.50	0.48	0.17				42	
B	SP2151	040 042 043	円形	0.96	0.92	0.41	<SK2150・>SP2152			42-43-44	
B	SP2051	041	楕円形	0.82	0.64	0.29		土師器、須恵器		42-43	
B	SP2069	041	楕円形	0.64	0.50	0.40		土師器、須恵器(99)		42-43	
B	SP2083	041	楕円形	0.64	0.42	0.31	>SP2084			42-43	
B	SP2086	041	円形	0.74	0.68	0.29		土師器		42-43	
B	SP2094	041	円形	0.58	0.56	0.26	>SP2095	土師器		42-43	
B	SP2115	041 042 043	円形	1.12	0.94	0.34		須恵器		42-43-44	
B	SP2112	041 043	方形	0.68	0.64	0.33	>SP2113	土師器、須恵器		42-43-44	
B	SP2040	041 043 044	不整形	0.60	(0.46)	0.21	<SP2039	土師器		42-44-45	
B	SP2025	041 044	方形	0.66	0.54	0.32	<SK2052	須恵器		42-45	
B	SP2079	042	楕円形	0.74	0.58	0.13		土師器		42-43	
B	SP2084	042	方形	0.40	(0.28)	0.25	<SP2083	土師器		42-43	
B	SP2087	042	不整形	0.68	(0.68)	0.19	<SP2089	土師器、須恵器		42-43	
B	SP2095	042	円形	0.58	(0.12)	0.27	<SP2094			42-43	
B	SP2113	042	楕円形	0.96	0.70	0.37	<SP2112	土師器、須恵器(96)		42-43	
B	SP2077	043	不整形	0.46	0.34	0.25	>SP2078	須恵器(382)、軽石		44	
B	SP2078	043	楕円形	0.36	(0.28)	0.15	<SP2077			44	
B	SP2081	043	円形	0.86	0.84	0.26		土師器(509)		44	
B	SP2088	043	円形	0.50	0.50	0.14	>SP2089	土師器(485)、須恵器		43-44	
B	SP2089	043	不整形	0.48	(0.36)	0.45	<SP2088・>SP2087	土師器、須恵器		43-44	
B	SP2091	043	楕円形	0.76	0.48	0.42	>SP2090・SP2107	須恵器		42-44	
B	SP2092	043	円形	0.76	0.68	0.35		須恵器		44	
B	SP2093	043	方形	1.06	1.04	0.38		縄文・土師器(600)、須恵器		44	
B	SP2096	043	楕円形	0.82	0.68	0.34	<SP2097	土師器		44	
B	SP2097	043	楕円形	0.82	0.46	0.15	>SP2096	土師器、須恵器		44	
B	SP2107	043	円形	0.82	(0.34)	0.29	<SP2091			42-44	
B	SP2143	043	楕円形	0.80	0.48	0.47	>SP2144	礎石		44	6
B	SP2009	044	楕円形	0.46	0.40	0.16	>SP2010	土師器		44-45	
B	SP2017	044	円形	0.50	0.46	0.22		土師器、須恵器		45	
B	SP2020	044	方形	0.56	0.54	0.15		土師器		45	
B	SP2021	044	円形	0.42	0.40	0.12		土師器		45	
B	SP2024	044	楕円形	0.58	0.52	0.27				45	

第 13 表 古代柱穴一覽(5)

地区	遺構	建物番号	平面形	規模(m)			切り合v	出土遺物	特記事項	練回番号	国庫番号
				長さ	幅	深さ					
B	SP2002	044	楕円形	0.42	0.31	0.08	>SK3031	土師器、須恵器		45	
B	SP2005	044	円形	0.50	0.50	0.34		土師器、須恵器		45	
B	SP2006	044	方形	0.48	0.44	0.14		土師器		45	
B	SP2007	044	円形	0.42	0.36	0.09		土師器、須恵器		45	
B	SP2121	044	楕円形	0.50	0.31	0.25	>SP2004	土師器、須恵器		44-45	
B	SP2012	044 045	楕円形	0.66	0.50	0.20				44-45	
B	SP2120	044 045	不整形	0.72	0.60	0.26	>SP2007	土師器		44-45	
B	SP2010	045	楕円形	0.50	0.30	0.12	<SP2009			44	
B	SP2019	045	円形	0.42	0.40	0.13		土師器(S27)		44	
B	SP2008	045	円形	0.54	0.50	0.22				44	
B	SP2004	045	円形	0.50	0.52	0.21	>SP2121			44	
B	SP2060	045	円形	0.70	0.56	0.27		須恵器		44	
B	SP2062	045	円形	0.58	0.50	0.23	>SP2061			44	
B	SP2003	046	円形	0.50	0.48	0.18		須恵器		45	
B	SP2004	046	楕円形	0.56	0.52	0.12				45	
B	SP2005	046	円形	0.52	0.42	0.13				45	
B	SP2006	046	円形	0.32	0.30	0.16				45	
B	SP2007	046	楕円形	0.70	0.58	0.24	<SP2120			45	
B	SP2014	046	円形	0.26	0.24	0.15				45	
B	SP2015	046	円形	0.42	0.40	0.15				45	
B	SP2016	046	楕円形	0.58	0.46	0.23		土師器		45	
B	SP2061	046	円形	0.50	0.46	0.23	<SP2062	土師器		44	
B	SP2064	046	円形	0.56	0.52	0.20				45	

第 14 表 古代大溝

地区	遺構	遺構種類	規模(m)			出土遺物	特記事項	練回番号	国庫番号
			長さ	幅	深さ				
D	大溝	溝	1280	1.35		土師器(476・477・480・482・483・488・489・491・492・496・504・505・507・509・511・513・515・517・518・524・525・530・533・534・537・542・545・548・550・568・567・591・593・595・597・626・628・630)、須恵器(12・21・23・26・29・31・34・36・39・41・48・50・54・60・62・71・75・76・79・81・83・104・107・177・179・181・184・187・189・190・192・194・202・205・211・213・214・218・219・223・247・249・250・300・316・322・332・339・398・400・402・405・409・411・414・415・418・420・423・425・429・433・438・440・443・446・449・450・453・455・456・462・463・465・466・469・471・475)、土製品(613)、中世土師器(702・705・707・729)、石製品、木簡、木製品、瓦形、木札、木瓦、蓋、陶材、板材、炭物灰瓶、板、炭物、柱	当初、遺構名を「谷」にして「穴」の付く遺物と区別し、谷出土である	46-47	4

第 15 表 古代溝一覽(1)

地区	遺構	規模(m)			切り合v	出土遺物	特記事項	練回番号	国庫番号
		長さ	幅	深さ					
D	SD3	0.52	0.23			土師器、須恵器(S92)		10	
D	SD11	0.38	0.17			土師器		49	
D	SD15	0.57	0.13			土師器、須恵器(S80)		49	
D	SD17	0.54	0.16	>SK52		土師器		49	
D	SD34	0.52	0.20			土師器		49	
D	SD71	0.37	0.09	>SK72 <SK87		土師器(S98)、須恵器		49	
D	SD75	0.62	0.28	>SK264 <SK303		土師器、須恵器		49	
D	SD528	0.21	0.11			土師器、須恵器(S16)		10	
D	SD574	0.42	0.08	>SK388		土師器、須恵器、瓦片		49	
D	SD368	0.45	0.27	>SK328、SK356、SP285、SP334、SK373、SP296、SK361 <SD336		土師器、須恵器(142・370・372)、中世土師器		23-49	
D	SD335	0.67	0.13			土師器、須恵器(S36)		10	
D	SD338	0.62	0.19	>SK384		土師器(S41)、須恵器(S205・S40)		49	
D	SD486	0.93	0.26	>SP905、SP960 <SK407、SD682		土師器、須恵器(S61)		29-49	
D	SD494	0.60	0.32			土師器、須恵器、瓦片		49	
D	SD506	0.28	0.15			土師器		26-53	
D	SD555	11.40	0.14	>SK538		土師器、須恵器(422)		49	
D	SD570	0.40	0.09	<SK572		土師器		49	
D	SD625	0.75	0.19	>SK719		縄文・土師器、須恵器(S69)、中世土師器		54	
D	SD987	0.68	0.15	>SK631、SD486 <SK606		縄文・土師器、須恵器(S24)		16-49	
D	SD107	0.22	0.13			土師器、須恵器(S96)		10	
D	SD150	0.68	0.13	>SK612、SD814、SK636		土師器、須恵器(S73・441)		49	
D	SD154	0.32	0.21			縄文(S1)、土師器(S65)、須恵器		10	
D	SD280	0.54	0.13			土師器、須恵器		49	
D	SD296	0.28	0.07			須恵器		49	
D	SD387	0.76	0.20			土師器、須恵器(S57)		11	
D	SD388	0.42	0.28	<SK809		土師器(S53)、須恵器		49	
D	SD319	0.62	0.04			土師器、須恵器		49	
D	SD3820	0.50	0.07			土師器、須恵器		49	
D	SD3835	1.16	0.15	<SP206		土師器、須恵器		52	
D	SD1007	0.54	0.29	<SD1003、SK1043、SD1088、SD1122、SD1145、SD1248、SD1094 >SD1094、SD1066、SD1102、SD1148		縄文・土師器(S25)、須恵器(S34・431・459)、板状金銅製品		50-97-117	
D	SD1008	0.48	0.15	<SK1006		縄文		50	
D	SD1009	0.20	0.21	<SD1021、SK1036		土師器、須恵器(S31)		50	
D	SD1013	0.39	0.63	<SP2012		土師器、須恵器		112	
D	SD1021	0.28	0.15	<SK1018、SD1025、SK1092、SD1094、SK1100 >SD1099、SD1099		縄文・土師器、須恵器(S80)		50	
D	SD1025	0.85	0.35	<SD1021、SK1064、SD1149、SD1145、SD1094 >SK1119、SK1133、SD1144、SD1199		土師器、須恵器(148・151・280・427)、中世土師器		50-106-107-117	
D	SD1031	0.61	0.13	<SK1002 <SD1014、SK1038		土師器、須恵器		37	
D	SD1044	0.76	0.45	<SK1007、SK1038、SK1096、SD1121、SK1286 >SD1081、SD1021、SD1148、SD1145、SD1025、SD1007、SK1329		土師器、須恵器(27・135・156・224・367)、伊方瓦		50	
D	SD1051	0.84	0.09	<SD1003		須恵器		97	
D	SD1063	0.30	0.17	<SK1064、SD1125、SD1181、SK1216		土師器(S66)、須恵器(S48)		12	

第 15 表 古代溝一覽(2)

地区	遺構	幅員(m)	長さ	深さ	切り合い	出土遺物	特記事項	採回番号	図面番号
D	SD1072	0.52	0.28	<SD1073, SK1071, SK1074, SD1181	土師器(908), 須恵器(220)			12	
D	SD1088	0.49	0.16	>SD1092, SK1112, SD1093 <SD1122, SK1099	土師器, 須恵器			32	
D	SD1091	0.17	0.15	<SD1021, SD1025	土師器			50	
D	SD1180	0.38	0.10	>SK1101 <SD1003, SD1007	土師器, 須恵器			31-39	
D	SD1115	0.22	0.02	>SD1125	土師器			30	
D	SD1116	0.42	0.18	>SD1025, SK1186, SK1200, SD1236 >SK1194, SD1125, SK1187	土師器(309・541), 須恵器(283・284)			36-50・51	
D	SD1021	0.46	0.30	>SD1123, SD1044, SD1025 <SD1122, SD1127, SD1286	土師器, 須恵器(300), 磁石			30-51	
D	SD1122	0.54	0.13	>SD1002, SD1088, SD1123, SD1121 <SK1135	土師器, 須恵器			30-51	
D	SD1123	0.52	0.15	<SD1122, SD1123, SK1140 >SD1045, SK1132	土師器, 須恵器			30	
D	SD1125	0.23	0.18	>SD1115, SK1066 <SK1217, SD1116	土師器, 須恵器(366)			32	
D	SD1144	0.34	0.10	<SD1025	土師器, 須恵器			51	
D	SD1145	0.46	0.29	<SD1123, SD1044 >SD1007, SD1025	土師器, 須恵器			51	
D	SD1148	0.58	0.15	<SD1007, SD1162, SD1130, SD1044	土師器, 須恵器(21・426)			12	
D	SD1149	0.40	0.27	<SD1025	土師器, 須恵器			50-51	
D	SD1150	0.48	0.23	>SK1160, SD1162 >SD1148	土師器, 須恵器			51	
D	SD1173	0.64	0.11	<SK1155 >SK1190, SD1201	土師器, 須恵器			36	
D	SD1188	0.32	0.11	<SK1185 >SD1191	土師器, 須恵器			51	
D	SD1192	0.42	0.09	>SD1193	土師器, 須恵器(368・372)			12	
D	SD1206	1.08	0.34	>SK1212, SD1213, SK1220	土師器(494・544・577・622), 須恵器(141・281・282・362・412・467), 磁石			50	5
D	SD1211	-	0.09	<SP122				35	
D	SD1214	0.24	0.05	<SK1236	土師器(903), 須恵器			12	
D	SD1221	1.12	0.23	<SK1222, SK1364 >SK1219, SK1220, SD1218, SK1302, SK1303, SK1306, SK1306, SD1403	土師器(322・629), 須恵器, 土製品(617)			50	
D	SD1236	0.48	0.20	>SD1227, SD1116, SD1214	土師器(400・610), 須恵器(143・200)			12	
D	SD1237	0.40	0.12	<SD1236	土師器, 須恵器(84)			12	
D	SD1266	1.34	0.42	<SK1198 >SD1079, SK1313, SD1121, SK1300, SK1240, SD1206, SD1065	土師器, 須恵器, 中世土師器, 珠玉			49	
D	SD1271	0.40	0.24	<SD1220 >SD1303	土師器			51	
D	SD1273	0.34	0.09		土師器			51	
D	SD1274	0.26	0.07	>SD1302	土師器			51	
D	SD1277	0.38	0.10	0.05				51	
D	SD1318	0.38	0.09	<SK1315 >SD1341	縄文69			12	
D	SD1344	0.45	0.18	>SD1340, SD1341	土師器, 須恵器(454)			51	
D	SD1410	0.49	0.12	<SD1366, SK1383 >SD1403	土師器, 須恵器(1160)			49	
D	SD1413	0.68	0.15	>SD1412, SK1414, SD1425 <SK1423	土師器(499), 須恵器			12	
D	SD1438	0.27	0.16	<SK1452, SK1448, SK1466, SD1452 >SK1640	土師器, 須恵器			51	
D	SD1471	0.58	0.06	<SD1472	土師器			51	
D	SD1487	0.23	0.15	>SD1540, SD1552, SD1531, SK1625 <SD1560	土師器			51	
D	SD1523	0.50	0.12	>SD1525, SD1452, SD1489 <SD1562, SK1649, SD1729	土師器, 須恵器			51	
D	SD1531	0.40	0.11	<SD1563, SD1482 >SD1526, SD1075	土師器, 須恵器			51	
D	SD1536	0.38	0.15	<SK1534, SK1533, SD1452 >SD1557	土師器			51	
D	SD1541	0.64	0.11	>SD1540, SD1566 <SD1341, SD1452	土師器			51	
D	SD1561	0.24	0.18	>SD1563, SD1452 <SK1639, SD1740	土師器, 須恵器			51	
D	SD1573	0.40	0.21	>SD1452, SK1572 <SK1694	土師器			51	
D	SD1575	0.24	0.15	>SD1536, SD1540, SD1452, SK1646 <SK1340, SD1465, SD1531	須恵器			51	
D	SD1577	0.34	0.16	<SD1526, SD1452	土師器			51	
D	SD1578	0.36	0.11	<SK1357	珠玉			51-90	
D	SD1598	0.37	0.08	<SD1340	須恵器(145)			11	
D	SD1601	0.28	0.10	>SD1544	土師器			51	
D	SD1602	0.39	0.13	<SK1362 >SD1608, SD1525, SK1753	土師器, 須恵器(285・388), 粘土塊			13	
D	SD1660	0.68	0.21	>SD1720 <SD1410, SD1366, SK1532	土師器			49	
D	SD1664	0.38	0.24	<SK1790, SK1789, SK1689	土師器			51	
D	SD1669	0.46	0.09	<SK1363	土師器			48	
D	SD1628	0.34	0.05	<SK1636, SK1654	須恵器(146)			11-35	
D	SD1671	0.52	0.07		須恵器(472)			11	
D	SD1730	4.32	0.44	<SK1828, SD1266	縄文, 土師器(329), 須恵器(1152-154・185・186・275-277・350・408・426・439), 陶器, 中世土師器, 打製石(511), 磨石(56), 木製品			49	5
B	SD1862	0.83	0.08	>SD1863, SD1864, SD1865 <SK1886, SD1913	土師器(319), 須恵器(32・147), 木製品			11	
B	SD1864	0.32	0.13	<SD1855	土師器			97	
B	SD1871	0.36	0.29	>SD1216, SK2183	土師器(300), 須恵器(401・432), 珠玉			10-31	
B	SD1882	0.52	0.17		土師器, 須恵器(93), 中世土師器			12	
B	SD1894	1.40	0.28		土師器, 須恵器(457)			17-39	
B	SD2115	0.70	0.30	<SD1226	土師器, 須恵器(287), 中世土師器, 珠玉			50	
B	SD2116	0.64	0.23	>SD2125 <SD2181	土師器, 須恵器, 中世土師器, 珠玉			50	
B	SD2283	0.70	0.27	<SK1288	土師器, 須恵器(430)			40	
B	SD2284	0.38	0.10	<SK2266 >SD2254	土師器			49	
B	SD2281	0.16	0.09		土師器			50	
B	SD2282	0.18	0.07		土師器			50	
B	SD2283	1.14	0.29		土師器(578), 須恵器(384)			50	
B	SD2284	0.28	0.12	>SK2330	土師器			50	
B	SD2285	0.20	0.10		土師器			50	
B	SD2270	1.32	0.27		土師器(332・529・584), 須恵器(78・89・92・280・286・399・393・392・417)			48	5
C	SD2218	0.58	0.40	>SK2319・SK2323	土師器, 須恵器(285・388), 粘土塊			13	
C	SD3045	0.30	0.15		土師器, 須恵器(827)			105	
C	SD3036	0.20	0.06		縄文土師, 土師器, 須恵器			113	
C	SD3035	0.50	0.20		土師器(917・934・939), 須恵器(857・858), 黑色土師			105-117	25
C	SD1007	1.10	0.26		縄文土師, 土師器(929・960), 須恵器(767・776・808・813・817・863・866・860・906), 黑色土師, 製塩土師, 焼粘土			105	25
C	SD3075	0.30	0.14		土師器, 須恵器(830)			105	
C	SD3080	0.40	0.13	<SK3098	土師器, 須恵器(791・805・806・829・882・883)			117	
C	SD3089	0.36	0.07		土師器(924), 須恵器			105	
C	SD1025	0.70	0.23	>SD1300・SK3121	縄文土師, 土師器(913-945-960-961), 須恵器(785-788・818-820・853・871・872), 黑色土師, 焼粘土塊, 磁石, 磨石			105	25
C	SD3103	0.38	0.06		土師器, 須恵器(794)			117	
C	SD3109	0.30	0.17		土師器(947), 須恵器, 黑色土師, 中世土師器			105	
C	SD3136	0.45	0.18		縄文土師, 土師器, 須恵器, 焼粘土			117	
C	SD3143	0.60	0.08		土師器, 須恵器(825・893)			105	

第 15 表 古代溝一覽(3)

地区	溝様	規模(m)			切り合い	出土遺物	特記事項	神田番号	国取番号
		長さ	幅	深さ					
A	SD4004	2.60	0.33	<SK4164		土師器(954・955・957・959)、須恵器(296・297・848・856・891・906)、黒色土器、黒瓦(978)、中世土師器(968)、磁石、鉄片		129	
A	SD4011	0.30	0.16			土師器、須恵器		117	
A	SD4014	0.55	0.22			土師器、須恵器		117	
A	SD4030	0.65	0.45	<SP4031		土師器(922・962・928・929)、須恵器(900・821・843・896)、黒色土器、焼粘土層、鉄片・磁石		110・117	25
A	SD4063	0.35	0.07			土師器		117	
A	SD4078	0.60	0.30	<SP4153		土師器、須恵器		117	
A	SD4090	0.70	0.12			土師器(921・963)、須恵器(865・867・868)		117	
A	SD4127	0.50	0.25	>SP4138・SK4173		土師器、須恵器		108・117	
A	SD4144	0.42	0.21			土師器、須恵器		108	25
A	SD4152	0.60	0.07			土師器、須恵器(878・879・889)		108	
A	SD4161	0.50	0.24	<SP4169		土師器、須恵器		108・117	
A	SD4168	0.45	0.04			土師器、輪切		117	
A	SD4170	0.65	0.10			土師器、須恵器		108	
A	SD4177	0.40	0.22			土師器、須恵器(830・893)		104	

第 16 表 古代土坑一覽(1)

地区	溝様	平面形	規模(m)			切り合い	出土遺物	特記事項	神田番号	国取番号
			長さ	幅	深さ					
D	SK6	円形	0.31	0.31	0.33		土師器、須恵器(28・29)	特記	10	
D	SK10	楕円形	0.56	0.49	0.33		土師器、須恵器(172)		10	
D	SK12	楕円形	1.54	0.82	0.27		土師器(547)、須恵器		10	
D	SK35	楕円形	0.11	0.34	0.35				20	
D	SK66	円形	0.27	0.23	0.09	>SP67			19	
D	SK91	楕円形	0.223	0.17	0.10	<SP90			19	
D	SK94	円形	0.14	0.13	0.07	<SP93			21	
D	SK102	楕円形	0.40	0.20	0.17		土師器		21	
D	SK140	楕円形	0.48	0.20	0.33				22	
D	SK141	不整形	0.66	0.30	0.25		須恵器(452)		22	
D	SK142	円形	0.40	0.37	0.30		土師器、須恵器(257)		10	
D	SK160	楕円形	0.84	0.42	0.20		土師器、須恵器(160)		10	
D	SK164	楕円形	0.363	0.16	0.30	<SP165			19	
D	SK191	楕円形	0.34	0.31	0.21				97	
D	SK195	不整形	3.34	1.23	0.30	>SP196	土師器、須恵器(258・269)、中世土師器		10	
D	SK218	楕円形	0.33	0.25	0.22		土師器		24	
D	SK219	円形	0.30	0.28	0.14	>SP220	須恵器		24	
D	SK258	楕円形	0.60	0.38	0.06				21	
D	SK275	円形	0.30	0.28	0.24	>SK274・SK276	土師器、須恵器(175)		10	
D	SK277	不整形	0.70	0.34	0.17		土師器、須恵器(326)		10	
D	SK286	楕円形	0.32	0.22	0.12				12	
D	SK320	円形	0.28	0.34	0.13		土師器、須恵器(126)		52	8
D	SK369	楕円形	0.70	0.48	0.09	>SP365			26	
D	SK371	楕円形	0.94	0.82	0.06	>SP365	土師器		53	
D	SK389	楕円形	0.70	0.62	0.05	<SK391	土師器、須恵器		53	
D	SK399	楕円形	0.34	0.24	0.14		須恵器(264)		10	
D	SK466	楕円形	0.86	0.65	0.13	>SP462	土師器、須恵器		28	
D	SK484	楕円形	1.20	0.80	0.08	>SP485	土師器、須恵器		28	
D	SK488	不整形	2.54	1.04	0.33	<SK530	土師器、須恵器		54	
D	SK500	楕円形	1.36	1.30	0.33	<SK501	土師器、須恵器、土製品(620)		53	
D	SK501	楕円形	1.18	0.36	0.14	<SK500	土師器、須恵器		53	
D	SK507	楕円形	0.24	0.15	0.20		土師器		53	
D	SK514	楕円形	0.34	0.24	0.15	<SP513			28	
D	SK519	楕円形	0.28	0.22	0.09		土師器、須恵器(265)		10	
D	SK520	不整形	2.83	2.80	0.25	>SK498・SK539・SK530・SK532	土師器(531・604)、須恵器(167・354・355・407)		54	
D	SK527	不整形	1.98	0.80	0.25		土師器(497・412)、須恵器		52	8
D	SK529	円形	0.88	0.65	0.29	<SK530	土師器、須恵器		54	
D	SK534	楕円形	0.50	0.38	0.30		土師器、須恵器(73)		10	
D	SK545	不整形	1.59	1.28	0.13		土師器(572)、須恵器		10	
D	SK619	楕円形	0.86	0.71	0.22		土師器、須恵器(377)		10	
D	SK662	楕円形	0.44	0.33	0.24		土師器、須恵器(268)		10	
D	SK676	楕円形	0.76	0.60	0.14	>SP677			30	
D	SK704	不整形	2.16	1.16	0.15	>SK761・SK760・SD754	縄文、土師器、須恵器(173)		10	
D	SK705	楕円形	1.15	1.10	0.23		縄文(4)、土師器(596)、須恵器		10	
D	SK710	不整形	1.60	0.56	0.31	<SK746	土師器(380・580)、須恵器(270・428)		49	
D	SK719	楕円形	0.47	0.26	0.22	<SD625			10	
D	SK723	楕円形	0.48	0.35	0.20	<SP724・SP722	土師器		24	
D	SK743	楕円形	1.17	0.58	0.25		土師器、須恵器(164・378)		54	
D	SK744	楕円形	1.72	0.55	0.30		土師器、須恵器(168・170・272・441)		54	
D	SK748	楕円形	0.88	0.76	0.46	<SK779	土師器、須恵器		17	
D	SK753	楕円形	1.35	1.20	0.23		土師器、須恵器(138)		54	8
D	SK797	楕円形	0.65	0.43	0.38	>SP798	土師器		32	
D	SK799	楕円形	0.67	0.17	0.34	<SP798	土師器、須恵器		32	
D	SK804	円形	0.95	0.90	0.22		土師器、須恵器、土製品(621)		11	
D	SK1004	不整形	1.98	1.38	0.12	<SD1003	縄文、土師器、須恵器		52	
D	SK1006	楕円形	0.82	0.76	0.12	>SD1008・SD1044	須恵器		10	
D	SK1022	方形	0.78	0.56	0.28	<SK1018	縄文、土師器(549)、須恵器		52	
D	SK1060	楕円形	1.18	1.00	0.20		縄文、土師器、須恵器		52	8
D	SK1067	楕円形	0.38	0.34	0.08	<SK1055	土師器、須恵器		36	
D	SK1076	方形	0.26	0.24	0.07	>SP1075			37	
D	SK1084	方形	0.49	0.39	0.12	>SK1083			36	
D	SK1092	円形	0.32	0.30	0.20	<SD1021			30	
D	SK1106	不整形	0.86	0.60	0.12	<SK1107	土師器、須恵器		96	
D	SK1134	楕円形	0.38	0.24	0.47	<SK1135			36	
D	SK1136	楕円形	0.34	0.16	0.38	<SK1040 >SK1137	土師器、須恵器(360)	特記	12	

第16表 古代土坑一覽(2)

地区	遺構	平面形	長さ	幅(㎝)	深さ	切り合い	出土遺物	特記事項	検出 番号	国 庫 番号
D	SK1139	楕円形	0.26	0.19	0.25	<SP1138	土師器(479)、須恵器			
D	SK1156	楕円形	0.44	0.22	0.09	<SK1155				
D	SK1306	方形	0.86	0.64	0.33	>SP1207	土師器、須恵器			
D	SK1222	円形	0.30	0.26	0.18	>SD1223	土師器(623)	柱穴少	35	
D	SK1229	楕円形	0.74	0.44	0.27	<SP1230	土師器(501)		36	
D	SK1231	方形	0.92	0.60	0.15				50	
D	SK1299	楕円形	0.24	0.18	0.06	<SP1288			96	
D	SK1305	楕円形	1.52	0.36	0.23	<SD1266			12	
D	SK1316	楕円形	0.32	0.23	0.14		縄文(6)		12	
D	SK1332	方形	0.50	0.46	0.17	>SD1603			49	
D	SK1359	楕円形(8x3)	0.42	0.32	0.27	>SK1358	須恵器(144)		49	
D	SK1386	円形	0.21	0.20	0.12	>SK1387			90	
D	SK1407	方形	0.74	0.73	0.10		土師器(528)、須恵器		11	
D	SK1619	楕円形	0.76	0.38	0.21	>SK1595			98	
D	SK1622	楕円形	0.34	0.33	0.27	<SK1606			93	
D	SK1625	方形	0.32	0.30	0.18				97	
D	SK1636	円形	0.49	0.38	0.32	<SD1565、SD1564			98	
D	SK1644	楕円形	0.32	0.22	0.24	>SK1645	須恵器(256)		11	
D	SK1653	楕円形	0.42	0.29	0.19		須恵器(279)		52	8
D	SK1828	方形	1.23	0.72	0.13	>SD1750			49	
D	SK1853	楕円形	0.46	0.36	0.10		土師器、須恵器(177)		11	
D	SK1880	方形	1.28	0.74	0.11		土師器(543)		11	
D	SK1893	楕円形	1.00	0.49	0.14				100	
B	SK2031	不整形	0.46	0.22	0.06	<SP2032			45	
B	SK2042	円形	0.28	0.24	0.12	<SP2041	須恵器(447)		13	
B	SK2052	円形	0.48	0.44	0.29	>SP2025	須恵器		43	
B	SK2054	楕円形	0.28	0.18	0.12	>SP2053			41	
B	SK2059	楕円形	0.36	0.24	0.16	>SP2058			41	
B	SK2122	方形	1.00	0.58	0.10		土師器、須恵器(95)		13	
B	SK2142	円形	0.24	0.22	0.22	>SP2144			41	
B	SK2145	楕円形	0.36	0.48	0.10		土師器、須恵器(97)		13	
B	SK2130	円形	0.46	0.46	0.27	>SP2153		柱穴	13	
B	SK2139	不整形	0.92	0.64	0.24	<SD2116		柱穴少	43	
B	SK2225	方形	1.18	0.84	0.41	<SK2215	縄文(2)、土師器、須恵器(291、292、386)		13	
B	SK2249	方形	0.98	0.48	0.14		土師器、須恵器(77)		13	
B	SK2252	不整形	0.92	0.70	0.10				97	
B	SK2256	円形	0.48	0.22	0.22	>SP2256			39	
B	SK2257	円形	0.44	0.24	0.12				29	
B	SK2267	不整形	0.32	0.12	0.42	<SP2266			29	
B	SK2278	楕円方形	0.62	0.32	0.19		縄文、土師器、須恵器(293)		13	
B	SK2282	方形	0.46	0.22	0.08	<SP2281			28	
B	SK2286	楕円形	0.48	0.36	0.14	<SK2267	土師器		53	
B	SK2287	不整形	0.58	0.00	0.23	>SK2286	土師器(570、571)、須恵器(385)		53	
B	SK2317	楕円形	0.30	0.36	0.14		土師器、須恵器(431)		13	
C	SK3009	円形	0.60	0.60	0.40		土師器(965)		105	
C	SK3010	楕円形	0.80	0.30	0.14		土師器、須恵器(876)		105	
C	SK3020	楕円形	0.50	0.40	0.07				113	
C	SK3028	楕円形	0.26	0.25	0.05				105	
C	SK3034	円形	0.40	0.40	0.10		土師器(945)		113	
C	SK3043	長楕円形	1.60	0.60	0.34		土師器、須恵器(877)		105	
C	SK3045	楕円形	0.92	0.65	0.15		土師器、須恵器(795、809、870)		107	
C	SK3049	円形	0.92	0.92	0.34		土師器、須恵器(828)		107	
C	SK3078	円形	0.45	0.45	0.29	>SP3077	土師器、須恵器		112	
C	SK3083	円形	0.95	0.95	0.46		土師器、須恵器		107	
C	SK3084	楕円形	0.70	0.42	0.18		土師器、土師(993)		105	
C	SK3091	円形	0.30	0.30	0.18	>SP3090	須恵器(790)		112	
C	SK3093	円形	0.50	0.50	0.17	>SP3092	土師器、須恵器、焼粘土塊		112	
C	SK3095	楕円形	0.80	0.60	0.09		土師器、須恵器(880)		105	
C	SK3097	楕円形	0.70	0.50	0.29		土師器、須恵器(831)		105	
C	SK3108	円形	0.65	0.65	0.31		縄文土師、須恵器(854)		105	
C	SK3111	円形	0.55	0.55	0.30		縄文土師、須恵器(886)		105	
C	SK3112	楕円形	0.80	0.45	0.25		須恵器		107	
C	SK3121	楕円形	0.50	0.40	0.27	<SD3094		柱穴少	107	
C	SK3122	楕円形	1.26	0.90	0.62		土師器(953)、須恵器(785、792、882)		307	
C	SK3134	楕円形	1.40	0.90	0.16		土師器(943)、須恵器(793、810)		105	
C	SK3128	円形	0.40	0.40	0.16	>SP3127			112	
C	SK3141	楕円形	1.58	1.10	0.41		土師器(918、927)、須恵器(824、883、897)、焼粘土塊		105	
A	SK4023	円形	0.40	0.40	0.20	<SK4022	土師器		128	
A	SK4041	楕円形	1.10	0.60	0.06		土師器、須恵器、中世土師器(966)		104	
A	SK4065	円形	0.20	0.20	0.05		中世土師器(969)		104	
A	SK4047	円形	0.65	0.65	0.22		土師器、須恵器(836)		104	
A	SK4062	円形	0.40	0.40	0.07				116	
A	SK4079	円形	0.50	0.50	0.11				109	
A	SK4100	不整形	1.40	0.88	0.27		土師器(911、923)、須恵器、黒色土師		104	
A	SK4103	円形	0.45	0.45	0.27	<SP4102	土師器、須恵器		109	
A	SK4114	楕円形	2.75	2.15	0.11	>SK4115、SP4116	土師器、須恵器(901、802、847)、焼粘土塊		104	
A	SK4117	円形	0.35	0.35	0.22	>SP4118			107	
A	SK4119	方形	0.75	0.60	0.13		土師器(942)、須恵器		104	
A	SK4123	不整形	0.85	0.45	0.49		須恵器(842)		110	
A	SK4124	円形	0.60	0.60	0.13		須恵器、焼粘土塊		107	39
A	SK4147	楕円形	0.90	0.90	0.06				108	
A	SK4159	楕円形	0.90	0.45	0.17		土師器(941)		104	
A	SK4164	長方形	1.00	0.70	0.27	>SD4094	土師器、須恵器		129	
A	SK4166	楕円形	0.45	0.25	0.19	<SD4097			129	

第 17 表 古代土器一覽(1)

遺跡 番号	国 道 番号	遺構	出土地点	層位	種類	図例	寸法 (mm)		時期	胎土		表面・色	土質	備考		
							口径	底径		色名	含有物					
10		大溝	X4012	X4012	3	灰地器	胎土	119	79	81	赤灰地中・赤灰地中	25V71	灰白色			
11		大溝	X4020	3	灰地器	胎土	123	35	82	赤灰地中・赤灰地中	25V71	灰白色				
11		大溝	X4018	8	灰地器	胎土	120	33	91	赤灰地中・赤灰地中	25V62	灰褐色				
11		大溝	X4020	8	灰地器	胎土	116	27	78	赤灰地中・赤灰地中	25V62	灰褐色				
15		大溝	X4020	8	灰地器	胎土	116	26	81	赤灰地中・赤灰地中	25V71	灰白色				
15		大溝	X4019	X4019	8	灰地器	胎土	128	28	87	赤灰地中・赤灰地中	10V92-1	灰褐色			
18		大溝	X4019	3	灰地器	胎土	123	82	82	赤灰地中・赤灰地中	75V51	灰褐色				
19		大溝	X4018	8	灰地器	胎土	118	31	80	赤灰地中・赤灰地中	25V61	灰褐色				
19		大溝	X4017	8	灰地器	胎土	119	70	80	赤灰地中・赤灰地中	10V5-1	灰褐色				
20		大溝	X4020	8	灰地器	胎土	107	-	-	赤灰地中・赤灰地中	25V51	灰褐色				
21		大溝	X4013	3	灰地器	胎土	114	22	80	赤灰地中・赤灰地中	5V81	灰褐色				
21		大溝	X4019	8	灰地器	胎土	114	88	88	赤灰地中・赤灰地中	25V71	灰白色				
21		SD118		8	灰地器	胎土	130	86	86	赤灰地中・赤灰地中	25V71	灰白色				
25		大溝	X4020	1	灰地器	胎土	123	31	80	赤灰地中・赤灰地中	5V81	灰褐色				
25		大溝	X4020	8	灰地器	胎土	114	81	81	赤灰地中・赤灰地中	25V62	灰褐色				
26		SD404	X4028	8	灰地器	胎土	110	81	81	赤灰地中・赤灰地中	10V92-2	二土黄褐色				
28		SK6		8	灰地器	胎土	121	38	72	赤灰地中・赤灰地中	5V71	灰白色				
29		大溝	X4019	X4017	X4019	8	灰地器	胎土	122	29	92	赤灰地中・赤灰地中	10V5-1	灰褐色		
29		SP21	5a2	8	灰地器	胎土	122	81	81	赤灰地中・赤灰地中	5V81	灰褐色				
29		大溝	X4017	8	灰地器	胎土	130	31	103	赤灰地中・赤灰地中	5V51	灰褐色				
31		大溝	X4016	8	灰地器	胎土	118	32	81	赤灰地中・赤灰地中	75V51	灰褐色				
31		大溝	X4020	X4022	X4018	3/9	灰地器	胎土	122	36	87	赤灰地中・赤灰地中	25V71	灰白色		
31		大溝	X4017	8	灰地器	胎土	114	7	7	赤灰地中・赤灰地中	10V5-1	灰褐色				
35		大溝	X4012	2	灰地器	胎土	160	83	83	赤灰地中・赤灰地中	25V71	灰褐色				
37		大溝	X4019	X4018	X4018	3/8	灰地器	胎土	122	19	80	赤灰地中・赤灰地中	10V92-3	二土黄褐色		
37		大溝	X4016	3	灰地器	胎土	135	81	81	赤灰地中・赤灰地中	10V92-1	灰白色				
38		大溝	X4022	X4021	X4022	8	灰地器	胎土	120	37	88	赤灰地中・赤灰地中	25V62	灰褐色		
39		大溝	X4018	8	灰地器	胎土	100	69	69	赤灰地中・赤灰地中	25V71	灰白色				
39		大溝	X4023	8	灰地器	胎土	122	81	81	赤灰地中・赤灰地中	10V98-2	灰褐色				
41		大溝	X4020	3	灰地器	胎土	118	36	80	赤灰地中・赤灰地中	25V72	灰褐色				
41		大溝	X4023	8	灰地器	胎土	109	82	82	赤灰地中・赤灰地中	5V82	二土黄褐色				
41		大溝	X4017	8	灰地器	胎土	124	38	81	赤灰地中・赤灰地中	25V61	灰褐色				
41		大溝	X4016	8	灰地器	胎土	130	82	82	赤灰地中・赤灰地中	5V61	灰褐色				
45		大溝	X4018	X4025	3/8	灰地器	胎土	114	33	74	赤灰地中・赤灰地中	25V71	灰褐色			
46		大溝	X4019	8	灰地器	胎土	121	86	86	赤灰地中・赤灰地中	25V62	灰褐色				
47		大溝	X4019	8	灰地器	胎土	113	91	91	赤灰地中・赤灰地中	25V71	灰褐色				
48		大溝	X4017	X4017	8	灰地器	胎土	100	80	80	赤灰地中・赤灰地中	10V92-2	二土黄褐色			
49		大溝	X4011	3	灰地器	胎土	100	-	-	赤灰地中・赤灰地中	10V5-1	灰褐色				
49		大溝	X4019	8	灰地器	胎土	134	36	93	赤灰地中・赤灰地中	25V71	灰褐色				
50		SP99		8	灰地器	胎土	113	28	79	赤灰地中・赤灰地中	5V81	灰褐色				
51		SD180		8	灰地器	胎土	109	32	72	赤灰地中・赤灰地中	9V6-1	灰褐色				
51		大溝	X4011	3	灰地器	胎土	122	28	83	赤灰地中・赤灰地中	5V81	灰褐色				
51		大溝	X4016	8	灰地器	胎土	111	86	86	赤灰地中・赤灰地中	25V62	灰褐色				
51		大溝	X4019	1	灰地器	胎土	114	31	60	赤灰地中・赤灰地中	10V6-1	灰褐色				
57		大溝	X4019	3	灰地器	胎土	120	29	93	赤灰地中・赤灰地中	25V61-1	二土黄褐色				
57		大溝	X4017	8	灰地器	胎土	106	28	80	赤灰地中・赤灰地中	25V51	灰褐色				
58		大溝	X4023	3	灰地器	胎土	122	35	71	赤灰地中・赤灰地中	25V62	灰褐色				
59		大溝	X4012	X4019	X4017	X4017	8	灰地器	胎土	137	39	85	赤灰地中・赤灰地中	10V98-4	二土黄褐色	
60		大溝	X4019	8	灰地器	胎土	118	31	79	赤灰地中・赤灰地中	25V71-1	二土黄褐色				
61		SK136	X4020	8	灰地器	胎土	110	72	80	赤灰地中・赤灰地中	25V61	灰褐色				
61		大溝	X4016	8	灰地器	胎土	109	72	80	赤灰地中・赤灰地中	10V5-1	灰褐色				
61		大溝	X4020	3	灰地器	胎土	111	71	71	赤灰地中・赤灰地中	5V82-1	二土黄褐色				
61		大溝	X4019	X4019	X4019	8	灰地器	胎土	110	47	82	赤灰地中・赤灰地中	25V51	灰褐色		
62		大溝	X4018	8	灰地器	胎土	132	31	97	赤灰地中・赤灰地中	5E81	灰褐色				
62		大溝	X4018	8	灰地器	胎土	129	36	91	赤灰地中・赤灰地中	25V52	褐色黄色				
62		大溝	X4019	8	灰地器	胎土	134	100	-	赤灰地中・赤灰地中	3E81	灰褐色				
62		大溝	X4023	8	灰地器	胎土	-	-	-	赤灰地中・赤灰地中	25V71	灰白色				
62		大溝	X4019	8	灰地器	胎土	108	60	60	赤灰地中・赤灰地中	25V61	灰褐色				
62		大溝	X4019	8	灰地器	胎土	108	77	80	赤灰地中・赤灰地中	25V61	灰褐色				
71		大溝	X4017	8	灰地器	胎土	107	80	80	赤灰地中・赤灰地中	5V61	灰褐色				
71		大溝	X4022	8	灰地器	胎土	100	69	69	赤灰地中・赤灰地中	10V98-2	灰白色				
71		SK534		8	灰地器	胎土	116	91	91	赤灰地中・赤灰地中	25V61-1	二土黄褐色				
71		大溝	X4011	3	灰地器	胎土	116	80	80	赤灰地中・赤灰地中	25V81	灰白色				
75		大溝	X4022	3	灰地器	胎土	110	33	79	赤灰地中・赤灰地中	5E81	灰褐色				
76		大溝	X4017	X4017	3/8	灰地器	胎土	121	35	90	赤灰地中・赤灰地中	25V62	灰褐色			
77		SK2249		8	灰地器	胎土	112	127	-	赤灰地中・赤灰地中	3E81	灰褐色				
78		SK2279	Na1	8	灰地器	胎土	127	36	96	赤灰地中・赤灰地中	25V71	灰白色				
79		大溝	X4021	X4019	3	灰地器	胎土	120	37	95	赤灰地中・赤灰地中	25V82	灰白色			
80			X4022	X4022	8	灰地器	胎土	120	83	83	赤灰地中・赤灰地中	25V61	灰褐色			
81		大溝	X4019	X4019	8	灰地器	胎土	123	35	68	赤灰地中・赤灰地中	10V98-1	灰褐色			
82		大溝	X4018	3	灰地器	胎土	118	89	89	赤灰地中・赤灰地中	25V61	灰褐色				
83		大溝	X4017	X4016	3	灰地器	胎土	118	30	84	赤灰地中・赤灰地中	5E81	灰褐色			
84		SD127	Na9	8	灰地器	胎土	131	88	88	赤灰地中・赤灰地中	5V71	灰褐色				
85		SD1083	X4023	X4023	8	灰地器	胎土	119	152	-	赤灰地中・赤灰地中	3E81	灰褐色			
85		大溝	X4019	3	灰地器	胎土	114	76	81	赤灰地中・赤灰地中	75V51	灰褐色				
87		SD136	X4022	8	灰地器	胎土	114	71	71	赤灰地中・赤灰地中	25V82	灰白色				
89		X4020		8	灰地器	胎土	114	35	82	赤灰地中・赤灰地中	25V82	灰褐色				
89		SK2279	Na6	8	灰地器	胎土	129	34	91	赤灰地中・赤灰地中	5V81	灰褐色				
89		SK2279	Na2	8	灰地器	胎土	122	35	91	赤灰地中・赤灰地中	10V98-3	二土黄褐色				
89		SK2279	Na18	8	灰地器	胎土	121	35	91	赤灰地中・赤灰地中	25V72	灰褐色				
89		SK2279	Na19	8	灰地器	胎土	118	34	92	赤灰地中・赤灰地中	3E81	灰褐色				

第 17 表 古代土器一覽(2)

遺跡 番号	国 道 番号	遺跡 番号	出土地点	層位	種類	品類	通長(㎝)		時期	胎土・色調		表面・形状・釉 記号	胎土	備考
							口	底		胎土	色調			
93		SK2182			弥生器	杯	130	11	89	弥生前期～中期前半	21YK-	灰白色		
94		SK2183	K30Y20		弥生器	杯	142	28	108	弥生前期～中期前半	21YK-	灰白色		横置
95		SK2182			弥生器	杯	108	32	83	弥生前期～中期前半	21YK-	灰白色		
96		SP113			弥生器	杯	112	33	72	弥生前期～中期前半	NS-0	灰色		
97		SK2181			弥生器	杯	121	34	92	弥生前期～中期前半	21YK-	灰白色		
98		SP258			弥生器	杯	124	40	82	弥生前期～中期前半	21Y7-1	灰白色		白化粧
99		SP260			弥生器	杯	128	36	81	弥生前期～中期前半	21Y7-1	灰白色		横置
100		大津	K4Y20-K4Y19	3B	弥生器	杯	116	34	78	弥生前期～中期前半	51W-1	灰色		内面に磨痕
101		大津	K4Y19		弥生器	杯	118	32	73	弥生前期～中期前半	51W-1	灰色		
102		大津	K4Y19-K4Y20-K4Y21	8	弥生器	杯	118	35	85	弥生前期～中期前半	49Y5-1	灰色		白化粧
103		大津	K4Y19-K4Y19	8	弥生器	杯	122	40	85	弥生前期～中期前半	49Y5-2	灰色		
104		大津	K4Y18	8	弥生器	杯	126	37	93	弥生前期～中期前半	21Y7-1	灰白色		水刃付
105		大津	K4Y19-K4Y17-K4Y18	8	弥生器	杯	131	37	94	弥生前期～中期前半	21Y7-1	灰白色		水刃付
106		大津	K4Y20-K4Y19	8	弥生器	杯	127	36	92	弥生前期～中期前半	49Y36-2	二色・磨痕		
107		大津	K4Y21	810	弥生器	杯	123	36	86	弥生前期～中期前半	49Y36-2	灰褐色		白化粧
108		大津	K4Y18	8	弥生器	杯	133	38	81	弥生前期～中期前半	49Y36-2	二色・磨痕		
109		大津	K4Y17	3	弥生器	杯	117	30	76	弥生前期～中期前半	21Y7-1	灰白色		磨削 縦
110	29	大津	K4Y18	3	弥生器	杯	120	33	81	弥生前期～中期前半	49Y36-2	灰白色		横置
111		大津	K4Y20	3	弥生器	杯	119	32	82	弥生前期～中期前半	51Y7-1	灰白色		横置
112		大津	K4Y19	3	弥生器	杯	126	37	88	弥生前期～中期前半	21Y8-1	灰白色		横置
113		大津	K4Y19-K4Y18	3B	弥生器	杯	122	40	85	弥生前期～中期前半	21Y7-2	灰色		横置
114		大津	K4Y20-K4Y13	2	弥生器	杯	126	33	84	弥生前期～中期前半	21Y7-1	灰白色		
115		大津	K4Y18		弥生器	杯	130	37	94	弥生前期～中期前半	21Y6-1	磨白色		
116		大津	K4Y17	3	弥生器	杯	123	37	80	弥生前期～中期前半	21Y6-2	灰色		磨削
117		大津	K4Y17	3	弥生器	杯	130	40	80	弥生前期～中期前半	NS-0	灰色		
118		大津	K4Y19-K4Y17-K4Y18	3B	弥生器	杯	122	34	84	弥生前期～中期前半	71Y36-1	二色・磨痕		白化粧 水刃付
119		大津	K4Y17-K4Y19	8	弥生器	杯	121	31	90	弥生前期～中期前半	21Y7-2	灰色		
120		大津	K4Y19	8	弥生器	杯	121	33	83	弥生前期～中期前半	21Y6-2	灰色		
121		大津	K4Y18-K4Y21	2B	弥生器	杯	124	35	93	弥生前期～中期前半	21Y6-2	灰色		空所に水刃付
122		大津	K4Y20	3	弥生器	杯	126	32	92	弥生前期～中期前半	21Y7-2	灰色		白化粧
123	29	大津	K4Y19-K4Y18	8	弥生器	杯	122	32	87	弥生前期～中期前半	21Y7-2	灰色		
124		大津	K4Y17	3	弥生器	杯	130	38	87	弥生前期～中期前半	51W-1	灰色		
125		大津	K4Y19	8	弥生器	杯	131	38	95	弥生前期～中期前半	21Y7-1	灰白色		
126		大津	K4Y18		弥生器	杯	135	38	92	弥生前期～中期前半	21Y6-1	磨白色		
127		大津	K4Y20	3	弥生器	杯	128	37	90	弥生前期～中期前半	21Y7-1	灰白色		
128		大津	K4Y17	3	弥生器	杯	110	33	78	弥生前期～中期前半	49Y42-1	二色・磨痕		縦
129		大津	K4Y17	3	弥生器	杯	116	32	83	弥生前期～中期前半	49Y42-1	二色・磨痕		白化粧
130		大津	K4Y18	8	弥生器	杯	126	39	88	弥生前期～中期前半	NS-0	灰色		
131		大津	K4Y19	8	弥生器	杯	130	35	98	弥生前期～中期前半	21Y6-1	磨白色		
132		大津	K4Y18	3	弥生器	杯	114	28	66	弥生前期～中期前半	21Y6-1	磨白色		白化粧 磨削 横置
133	29	大津	K4Y19-K4Y19	8	弥生器	杯	117	33	70	弥生前期～中期前半	51Y7-1	灰白色		水刃付
134		大津	K4Y17	8	弥生器	杯	116	35	76	弥生前期～中期前半	51S-1	灰色		
135		大津	K4Y20	8	弥生器	杯	116	35	84	弥生前期～中期前半	51W-1	灰色		水刃付
136		大津	K4Y17	3	弥生器	杯	123	29	66	弥生前期～中期前半	NS-0	灰色		白化粧 磨削
137		大津	K4Y20-K4Y19-K4Y20	3B	弥生器	杯	128	35	91	弥生前期～中期前半	49Y5-1	灰色		磨削
138		SK1177			弥生器	杯	110	34	80	弥生前期～中期前半	21Y7-1	灰白色		
139		SK1282	K40Y27-K4Y26		弥生器	杯	118	34	8	弥生前期～中期前半	21Y5-1	灰色		縦
140		SK2138	K40Y27		弥生器	杯	118	34	8	弥生前期～中期前半	21Y5-1	灰色		縦
141		SP111			弥生器	杯	12	32	88	弥生前期～中期前半	49Y47-2	二色・磨痕		白化粧 石葉
142	29	SK2194	K40Y28		弥生器	杯	128	37	80	弥生前期～中期前半	21Y7-1	灰白色		磨削
143		SK2186	K40Y28		弥生器	杯	124	35	78	弥生前期～中期前半	51W-1	灰色		
144		SK2190			弥生器	杯	123	32	-	弥生前期～中期前半	21Y7-2	灰色		横置
145		SK1309			弥生器	杯	114	32	76	弥生前期～中期前半	21Y6-1	灰白色		横置
146		SK2198			弥生器	杯	116	3	64	弥生前期～中期前半	NS-0	灰白色		
147	29	SK2198			弥生器	杯	118	30	83	弥生前期～中期前半	49Y5-1	灰色		
148		SK2492			弥生器	杯	119	31	75	弥生前期～中期前半	51Y7-1	灰白色		横置 水刃付
149		SK2495			弥生器	杯	122	33	89	弥生前期～中期前半	21Y6-3	二色・磨痕		横置
150		SK2495			弥生器	杯	131	34	89	弥生前期～中期前半	NS-0	灰色		白化粧
151		SK2495			弥生器	杯	126	28	89	弥生前期～中期前半	49Y36-9	磨白色		白化粧
152		SK2495	K46Y23-K46Y22		弥生器	杯	136	32	86	弥生前期～中期前半	NS-0	灰色		
153		SK2495	K46Y23		弥生器	杯	108	32	7	弥生前期～中期前半	21Y7-1	灰白色		白化粧
154	40	SK4790	K46Y23-K46Y22	2	弥生器	杯	112	34	78	弥生前期～中期前半	51Y-1	灰色		
155		SK4790	SPY22		弥生器	杯	112	32	76	弥生前期～中期前半	71Y6-1	灰白色		白化粧
156		SK4944	S40		弥生器	杯	128	34	97	弥生前期～中期前半	NS-0	磨白色		
157		SK4944	S40		弥生器	杯	162	45	12	弥生前期～中期前半	49Y36-3	二色・磨痕		外面中に凹痕 裏 面に磨痕あり
158		SP292	S41		弥生器	杯	41	34	74	弥生前期～中期前半	SKS1-1	磨白色		
159		SK753			弥生器	杯	119	38	88	弥生前期～中期前半	71Y6-1	灰色		横置 磨削
160		SK140			弥生器	杯	121	4	89	弥生前期～中期前半	21Y7-1	灰白色		
161		SK140			弥生器	杯	129	33	74	弥生前期～中期前半	51W-1	灰色		白化粧 磨削
162		SK202			弥生器	杯	129	33	92	弥生前期～中期前半	NS-0	灰色		白化粧 横置
163		SK208	K2Y18		弥生器	杯	113	32	74	弥生前期	NS-0	灰色		横置 水刃付
164		SK718			弥生器	杯	116	28	79	弥生前期	NS-0	灰色		
165		SK743			弥生器	杯	118	29	78	弥生前期	21Y6-1	磨白色		磨削
166		SK746			弥生器	杯	42	35	84	弥生前期	21Y7-1	灰白色		白化粧
167		SK750			弥生器	杯	138	49	75	弥生前期	NS-0	灰色		白化粧 石葉
168		SK750			弥生器	杯	115	33	84	弥生前期～中期前半	NS-0	灰色		横置 白化粧
169		SK744			弥生器	杯	113	3	7	弥生前期～中期前半	NS-0	灰色		
170		SK744			弥生器	杯	122	30	89	弥生前期～中期前半	NS-0	灰色		
171		SK744	K25-S40Y13-S40	2	弥生器	杯	122	33	74	弥生前期～中期前半	49Y6-1	灰色		白化粧
172		SK744			弥生器	杯	126	34	9	弥生前期～中期前半	71Y6-1	灰色		白化粧
173		SK10			弥生器	杯	126	3	72	弥生前期～中期前半	51W-1	灰色		
174		SK74	K4Y19		弥生器	杯	128	3	8	弥生前期～中期前半	21Y7-1	灰白色		
175		SK74	K4Y15		弥生器	杯	128	29	71	弥生前期～中期前半	21Y6-1	二色・磨痕		

第 17 表 古代土器一覽(3)

遺跡名	調査番号	遺構	出土地点	層位	種類	器種	寸法(mm)		時期	胎土調査		備考	
							口径	高さ		成分	色名		
175	36	SK275	N4	灰地層	瓦	131	23	10	弥生前期中-前期前半	16G5-1	褐色土	内面縁部に「中」の刻印あり。	
176	15	SK205		灰地層	瓦	150	39	80	弥生前期	109/38-1	灰白色	内面縁部に「中」の刻印あり。	
177		大溝	X3Y28 X3Y25 X3Y21	3B	灰地層	瓦	124	39	73	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	厚縁 白縁
178		大溝	X3Y20	3	灰地層	瓦	114	71	61	弥生前期中-前期前半	73Y3-1	灰白色	高肉付(溝)
179		大溝	X4Y06	3	灰地層	瓦	108	41	60	弥生前期中-前期前半	55V-1	灰白色	高肉付(溝)
180		大溝	X4Y18	3	灰地層	瓦	137	74	64	弥生前期中-前期前半	255V-7	灰白色	高肉付(溝)
181		大溝	X4Y18 X4Y17 X4Y20 X4Y19	3	灰地層	瓦	107	38	60	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	高肉付(溝)
182		大溝	X4Y20 X4Y19	3	灰地層	瓦	118	40	67	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	高肉付(溝)
183		大溝	X4Y17	3	灰地層	瓦	110	39	72	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	縁
184		大溝	X4Y18 X4Y19	3	灰地層	瓦	168	70	163	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	高肉付(溝)
185	34	SD1750	X3Y23 X3Y26	3	灰地層	瓦	121	61	9	9世紀	36-9	灰白色	高肉付(溝)
186		SD1750	X3Y22	3	灰地層	瓦	122	70	70	弥生前期中-前期前半	36G5-1	高灰色	高肉付(溝)
187		大溝	X3Y20	3	灰地層	瓦	110	50	60	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	高肉付(溝)
188		SD1149 SD1286	X3Y22 X3Y21	3	灰地層	瓦	142	46	93	弥生前期中-前期前半	73Y6-1	灰白色	高肉付(溝)
189	33	大溝	X4Y18	3	灰地層	瓦	110	63	64	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	高肉付(溝)
190		大溝	X3Y20	3	灰地層	瓦	112	70	70	弥生前期中-前期前半	55V-1	灰白色	高肉付(溝)
191		大溝	X3Y22	3	灰地層	瓦	129	70	70	弥生前期中-前期前半	55V-1	灰白色	高肉付(溝)
192		大溝	X3Y21	3	灰地層	瓦	118	64	68	弥生前期中-前期前半	55V-1	灰白色	高肉付(溝)
193	32	大溝	X4Y18 X4Y16	3	灰地層	瓦	134	62	79	弥生前期中-前期前半	109V-1	厚縁 白縁	高肉付(溝)
194	12	大溝	X3Y20	3	灰地層	瓦	134	48	80	弥生前期中-前期前半	109V-1	厚縁 白縁	高肉付(溝)
195		大溝	X3Y20	3	灰地層	瓦	100	40	60	弥生前期中-前期前半	18G5-1	高灰色	高肉付(溝)
196		大溝	X4Y19	3	灰地層	瓦	138	64	72	弥生前期中-前期前半	55V-1	灰白色	厚縁 白縁
197	33	大溝	X3Y17	3	灰地層	瓦	110	95	95	弥生前期中-前期前半	109V-1	厚縁 白縁	高肉付(溝)
198		大溝	X3Y20	3	灰地層	瓦	108	34	58	弥生前期中-前期前半	34-9	灰白色	高肉付(溝)
199	33	大溝	X4Y20 X4Y19	3	灰地層	瓦	116	8	8	弥生前期中-前期前半	109V-1	厚縁 白縁	高肉付(溝)
200		大溝	X4Y20 X4Y19	3B	灰地層	瓦	130	80	80	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	高肉付(溝)
201		大溝	X4Y18 X4Y17	3	灰地層	瓦	110	97	97	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	厚縁 白縁
202		大溝	X3Y19	3	灰地層	瓦	112	83	83	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	高肉付(溝)
203		大溝	X3Y20	3	灰地層	瓦	112	41	61	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	高肉付(溝)
204	40	SD1286	X3Y25	3	灰地層	瓦	116	72	72	弥生前期中-前期前半	55V-1	灰白色	高肉付(溝)
205		大溝	X3Y23 X4Y18	3	灰地層	瓦	116	46	66	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	高肉付(溝)
206		大溝	X3Y22	3	灰地層	瓦	110	70	70	弥生前期中-前期前半	109V-2	厚縁 白縁	高肉付(溝)
207		大溝	X3Y18	3	灰地層	瓦	126	83	83	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	高肉付(溝)
208		大溝	X4Y18 X4Y18	3	灰地層	瓦	105	40	63	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	高肉付(溝)
209		大溝	X4Y18	3	灰地層	瓦	118	58	58	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	高肉付(溝)
210	30	大溝	X3Y20	3	灰地層	瓦	128	42	71	弥生前期中-前期前半	55V-1	灰白色	厚縁 白縁
211		大溝	X3Y16	3	灰地層	瓦	131	36	86	弥生前期中-前期前半	255V-7	灰白色	厚縁 白縁
212		大溝	X3Y15 X3Y16	3	灰地層	瓦	130	83	83	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	高肉付(溝)
213	29	大溝	X4Y18 X4Y17 X4Y18	3	灰地層	瓦	141	41	90	弥生前期中-前期前半	34-9	灰白色	高肉付(溝)
214		大溝	X3Y16	3	灰地層	瓦	136	41	100	弥生前期中-前期前半	109V-1	厚縁 白縁	高肉付(溝)
215		SD1286	X3Y21	3	灰地層	瓦	112	10	72	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	厚縁 白縁
216	35	SD228	X3Y11	3	灰地層	瓦	115	35	74	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	高肉付(溝)
217		X3Y07		3	灰地層	瓦	132	41	82	弥生前期中-前期前半	73Y6-1	灰白色	高肉付(溝)
218	31-35	大溝	X4Y17	3	灰地層	瓦	138	43	81	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	厚縁 白縁
219	35	大溝	X3Y17	3	灰地層	瓦	129	97	97	弥生前期中-前期前半	36G-1	高灰色	内面縁部に「中」の刻印あり。
220		SD1072	N47 X3Y16	3	灰地層	瓦	151	69	82	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	内面縁部に「中」の刻印あり。
221		BP130	X3Y16	3	灰地層	瓦	89	38	60	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	高肉付(溝)
222		SD1306	X3Y16	3	灰地層	瓦	110	82	82	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	高肉付(溝)
223		大溝	X4Y18 X4Y17	3B	灰地層	瓦	99	38	56	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	厚縁 白縁
224		大溝	X3Y23	3	灰地層	瓦	106	44	67	弥生前期中-前期前半	255V-1	厚縁 白縁	厚縁 白縁
225		大溝	X3Y20	3	灰地層	瓦	107	35	79	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	高肉付(溝)
226		大溝	X4Y18	3	灰地層	瓦	112	43	61	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	高肉付(溝)
227		大溝	X4Y19	3	灰地層	瓦	116	37	73	弥生前期中-前期前半	255V-2	褐色 黄褐色	高肉付(溝)
228		大溝	X3Y17	3B	灰地層	瓦	129	42	81	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	厚縁 白縁
229		大溝	X3Y20	3	灰地層	瓦	128	38	76	弥生前期中-前期前半	73Y3-1	灰白色	口縁部に大文字の刻印あり。
230		大溝	X4Y20	3	灰地層	瓦	133	36	90	弥生前期中-前期前半	255V-7	灰白色	厚縁 白縁
231		大溝	X4Y18 X4Y17 X4Y18 X4Y17	3	灰地層	瓦	130	36	76	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	厚縁 白縁
232	30	大溝	X4Y18	3	灰地層	瓦	103	44	58	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	高肉付(溝)
233		大溝	X4Y17 X3Y17	3	灰地層	瓦	108	35	73	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	高肉付(溝)
234		大溝	X3Y20	3	灰地層	瓦	114	42	73	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	高肉付(溝)
235		大溝	X4Y18	3	灰地層	瓦	134	38	78	弥生前期中-前期前半	109G2-1	褐色 灰褐色	厚縁 白縁
236	29	大溝	X3Y18 X3Y18	3B	灰地層	瓦	132	41	92	弥生前期中-前期前半	56G-1	褐色 灰褐色	厚縁 白縁
237		大溝	X4Y17	3	灰地層	瓦	133	44	81	弥生前期中-前期前半	55V-1	灰白色	厚縁 白縁
238		大溝	X4Y17	3	灰地層	瓦	143	16	93	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	厚縁 白縁
239		大溝	X4Y17	3	灰地層	瓦	144	41	91	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	厚縁 白縁
240		大溝	X3Y22 X3Y16	3B	灰地層	瓦	118	32	69	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	厚縁 白縁
241	29	大溝	X3Y18 X3Y11	3	灰地層	瓦	116	40	81	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	厚縁 白縁
242		大溝	X3Y16	3	灰地層	瓦	119	40	88	弥生前期中-前期前半	255V-2	灰白色	厚縁 白縁
243		大溝	X4Y16	3	灰地層	瓦	146	47	90	弥生前期中-前期前半	255V-1	灰白色	厚縁 白縁
244		大溝	X3Y20	3	灰地層	瓦	130	33	73	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	厚縁 白縁
245		大溝	X3Y16	3	灰地層	瓦	132	44	77	弥生前期中-前期前半	55V-1	灰白色	厚縁 白縁
246		大溝	X3Y17	3	灰地層	瓦	110	46	72	9世紀	55V-1	灰白色	厚縁 白縁
247	30	大溝	X3Y17 X3Y17 X3Y18 X3Y19	3B	灰地層	瓦	154	63	87	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	厚縁 白縁
248		大溝	X3Y23	3	灰地層	瓦	158	71	97	弥生前期中-前期前半	109V-2	厚縁 白縁	厚縁 白縁
249		大溝	X3Y18 X3Y18	3B	灰地層	瓦	158	63	119	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	厚縁 白縁
250		大溝	X3Y18 X4Y17 X3Y19	3B	灰地層	瓦	152	68	119	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	厚縁 白縁
251	20-41	SK23	N47 X3Y18	3	灰地層	瓦	109	34	61	弥生前期中-前期前半	36-9	灰白色	厚縁 白縁

第 17 表 古代土器一覽(4)

調査 番号	3000 年台	遺構	出土地点	方位	種類	器種	容量(L)		時期	出土位置		土質	備考				
							口内 径高	底径		記号	色名						
251	61	S2091	5a3		須恵器	杯形	118	12	須恵紀前～須恵紀中	2050a2	西尾層						
		S2090			須恵器	杯形	122	3.7	72	須恵紀前～須恵紀中	225c1		白色				
		S2091	5a2		須恵器	杯形	132	3.1	78	須恵紀前～須恵紀中	262-0	灰白色					
		S2086			須恵器	杯形	108	4.2	67	須恵紀前～須恵紀中	285-0	灰白色	破				
		S2086			須恵器	杯形	117	3.6	82	須恵紀前～須恵紀中	225Y1	黄褐色	破				
		S2142			須恵器	杯形	114	4.1	61	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色					
		S2085			須恵器	杯形	118	3.8	65	須恵紀前～須恵紀中	225Y1	黄褐色	白色				
		S2110	5a1		須恵器	杯形	116	3.7	75	須恵紀前～須恵紀中	225Y1	灰白色	横置				
		S2093			須恵器	杯形	106	4.3	61	須恵紀前～須恵紀中	225Y1	灰白色					
		S2086	X3Y17		須恵器	杯形	107	3.9	58	須恵紀前～須恵紀中	225Y1	灰白色	黄色				
261	61	S2046	5a3		須恵器	杯形	42	4	7	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色					
		S2110			須恵器	杯形	168	6.9	91	須恵紀前～須恵紀中	10Y27-4	二色黄褐色	白色				
		S2099			須恵器	杯形	156	4.1	91	須恵紀前～須恵紀中	259-1	灰白色					
		S2099			須恵器	杯形	156	4.1	91	須恵紀前～須恵紀中	259-1	灰白色					
		S2092	X3Y13	2	須恵器	杯形	138	4.1	100	須恵紀前～須恵紀中	259-1	灰白色	内底、底面				
		SP1111			須恵器	杯形	151	3.9	74	須恵紀前～須恵紀中	10Y25-1	黄褐色					
		S2062	X3Y13-17	2	須恵器	杯形	151	4.4	101	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色					
		S2195			須恵器	杯形	134	4.1	88	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色					
		S2170	5a1		須恵器	杯形	132	3.9	8	須恵紀前～須恵紀中	255-1	灰白色					
		SP963			須恵器	杯形	138	3.9	91	須恵紀前～須恵紀中	255-1	灰白色					
272	61	S2191	X3Y16	2	須恵器	杯形	158	6.1	92	須恵紀前～須恵紀中	225Y1	黄褐色					
		S2170	S041		須恵器	杯形	167	7.7	102	須恵紀前～須恵紀中	255Y3	二色黄褐色	白色				
		S2170	S279		須恵器	杯形	167	7.7	102	須恵紀前～須恵紀中	255Y3	二色黄褐色	白色				
		274	61	S2094	X3Y20		須恵器	杯形	101	4.8	50	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色			
				S2170	X3Y22		須恵器	杯形	49	3.4	59	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色			
				S2170	X3Y19		須恵器	杯形	148	6.1	92	須恵紀前～須恵紀中	259-1	灰白色	内底、底面		
				S2170	X3Y22		須恵器	杯形	148	6.1	92	須恵紀前～須恵紀中	10Y25-1	灰白色			
				SP1965			須恵器	杯形	152	7.3	83	須恵紀前～須恵紀中	225Y2	灰白色	石		
				278	61	S2083	5a3		須恵器	杯形	139	7.3	53	須恵紀前	225Y1	灰白色	白色
						S2085	5a3		須恵器	杯形	42	4.2	68	須恵紀前～須恵紀中	225Y1-1	黄褐色	
S2125	5a7						須恵器	杯形	126	4	8	須恵紀前～須恵紀中	259-1	灰白色			
S2170	X3Y22						須恵器	杯形	231	3.9	68	須恵紀前～須恵紀中	225Y1-1	灰白色			
S2116	X3Y23						須恵器	杯形	41	3.8	8	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色			
S2116	X3Y23		須恵器			杯形	116	4.6	62	須恵紀前～須恵紀中	259-1	灰白色					
S2218	X3Y23 X3Y25 X3Y25	1	須恵器			杯形	128	5.1	102	須恵紀前～須恵紀中	10Y25-1	灰白色	内底、底面				
S2220	5a2		須恵器			杯形	160	5.1	110	須恵紀前～須恵紀中	225Y2	灰白色	内底、底面				
S2196	5a2		須恵器			杯形	111	3.9	92	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色					
S2196			須恵器			杯形	101	4.1	58	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色					
281	61	S2196	S43 X2Y21		須恵器	杯形	106	5.0	58	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色					
		S2196	5a1		須恵器	杯形	114	4.1	50	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色					
		S2225	5	須恵器	杯形	138	4.3	88	須恵紀前～須恵紀中	225Y1	灰白色						
		S2225			須恵器	杯形	-	178	70	須恵紀前～須恵紀中	225Y1	黄褐色	口縁に少くは割損した 破				
		291	61	S2229	5a1 X3Y21	2	須恵器	杯形	127	4.5	77	須恵紀前～須恵紀中	261-1	黄褐色	黄褐色		
				S2229	5a1		須恵器	杯形	136	4.3	80	須恵紀前～須恵紀中	261-0	黄褐色	黄褐色		
				S2229	5a11		須恵器	杯形	88	3.0	61	須恵紀前～須恵紀中	225Y1	灰白色	白色		
				S2229	5a5		須恵器	杯形	132	4.1	85	須恵紀前～須恵紀中	10Y27-3	二色黄褐色	白色		
				S2229	X3Y21		須恵器	杯形	130	3.7	86	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色			
				S2229	5a1 5a10		須恵器	杯形	156	4.2	102	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色			
S2229	5a3				須恵器	杯形	157	4.6	100	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色					
300	12-16			大溝	X3Y21	8	須恵器	杯形	12	2.7	-	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色	内底に割損した。内底 に黄褐色		
				大溝	X3Y18	8	須恵器	杯形	116	3.3	-	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色	内底に割損した。内底 に黄褐色		
				大溝	X3Y20	8	須恵器	杯形	118	11.7	-	須恵紀前～須恵紀中	255-1	灰白色	内底に割損した。内底 に黄褐色		
		大溝	X3Y21	8	須恵器	杯形	123	11.7	-	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色	内底に割損した。内底 に黄褐色				
		大溝	X3Y18 X2Y18	8	須恵器	杯形	126	12.3	-	須恵紀前～須恵紀中	205Y1	灰白色	内底に割損した				
		大溝	X3Y19	8	須恵器	杯形	118	7.9	-	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色	内底に割損した				
		大溝	X3Y20	8	須恵器	杯形	-	11.2	-	須恵紀前～須恵紀中	259-1	灰白色	内底に割損した				
		307	12	大溝	X3Y19	8	須恵器	杯形	158	2.4	-	須恵紀前～須恵紀中	225Y1	黄褐色	内底に割損した。内底 に黄褐色		
				大溝	X3Y18	8	須恵器	杯形	157	12.0	-	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色	内底に割損した。内底 に黄褐色		
				大溝	X3Y21	3	須恵器	杯形	-	11.2	-	須恵紀前～須恵紀中	261-1	灰白色	内底に割損した		
大溝	X3Y19			8	須恵器	杯形	-	10.7	-	須恵紀前～須恵紀中	225Y2	灰白色	内底に割損した				
大溝	X3Y20			3	須恵器	杯形	118	3.1	-	須恵紀前～須恵紀中	259-0	灰白色	内底に割損した。内底 に黄褐色				
大溝	X3Y18			3	須恵器	杯形	112	3	-	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色	内底に割損した				
大溝	X3Y19			8	須恵器	杯形	-	11.0	-	須恵紀前～須恵紀中	225Y1	灰白色	内底に割損した。内底 に黄褐色				
大溝	X3Y17			8	須恵器	杯形	158	12.2	-	須恵紀前～須恵紀中	225Y1	黄褐色	内底に割損した。内底 に黄褐色				
大溝	X3Y17			8	須恵器	杯形	152	12.3	-	須恵紀前～須恵紀中	255-1	灰白色	内底に割損した				
大溝	X3Y20			8	須恵器	杯形	114	-	-	須恵紀前～須恵紀中	225Y1	灰白色	内底に割損した				
317	35	S2091			須恵器	杯形	156	11.5	-	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色	内底に割損した。内底 に黄褐色				
		S2091	X3Y17	2	須恵器	杯形	142	11.0	-	須恵紀前～須恵紀中	257-1	灰白色	内底に割損した。内底 に黄褐色				
		SP1111			須恵器	杯形	148	11.4	-	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色	内底に割損した。内底 に黄褐色				
		S2042	X2Y21	3	須恵器	杯形	117	3	-	須恵紀前～須恵紀中	225Y1	黄褐色	内底に割損した				
		S2091	X3Y21	2	須恵器	杯形	12	12.1	-	須恵紀前～須恵紀中	225Y2	灰白色	内底に割損した				
		大溝	X3Y17	8	須恵器	杯形	118	2.2	-	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色	白色				
		大溝	X3Y19 X3Y22	3	須恵器	杯形	128	3	-	須恵紀前～須恵紀中	225Y2	灰白色	横置				
		大溝	X3Y19 X2Y18	8	須恵器	杯形	145	3	-	須恵紀前～須恵紀中	259-1	灰白色	内底に割損した				
		大溝	X3Y16 X3Y17	3	須恵器	杯形	142	3.1	-	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色	内底に割損した				
		大溝	X3Y19	3	須恵器	杯形	154	3.1	-	須恵紀前～須恵紀中	225Y1	黄褐色	内底に割損した				
318	61	大溝	X3Y18	8	須恵器	杯形	153	3.2	-	須恵紀前～須恵紀中	10Y25-0	黄褐色	横置				
		大溝	X3Y18 X3Y19	3	須恵器	杯形	175	4.3	-	須恵紀前～須恵紀中	225Y2	黄褐色	白色				
		大溝	X3Y20	8	須恵器	杯形	169	2.6	-	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色	破				
		大溝	X3Y17	8	須恵器	杯形	162	3	-	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色	横置				
		大溝	X3Y20	3	須恵器	杯形	154	3.2	-	須恵紀前～須恵紀中	225Y1	灰白色	内底に割損した				
		320	20-25	大溝	X3Y17 X3Y18 X3Y17	8	須恵器	杯形	147	2.9	-	須恵紀前～須恵紀中	225Y1	黄褐色	内底に割損した。内底 に黄褐色		
				大溝	X3Y20	3	須恵器	杯形	122	2.7	-	須恵紀前～須恵紀中	261-0	灰白色	内底に割損した。内底 に黄褐色		

第 17 表 古代土器一覽(5)

遺跡 番号	国政 番号	遺構	出土地点	層位	種類	器種	口径(φ)		時期	土器色調		土器 形状・色	土器 備考	
							口部	底部		高	底高			
325	35	X21	29Y13-19	3	灰土器	杯蓋	18.0	11.6	1	15	灰褐色	内面(内9区型*)		
326		X6Y20-30	3	灰土器	杯蓋	12.1	-	1	1	1	赤褐色	内面(内9区型*)		
327		X2Y35	X2Y35	3	灰土器	杯蓋	14.9	13.0	1	1	赤褐色	内面(内9区型*)		
328		X3Y32	3	灰土器	杯蓋	13.5	11.9	1	1	1	赤褐色	内面(内9区型*)		
329		大溝	X4Y12 X4Y12	8	灰土器	杯蓋	15.7	10	1	1	赤褐色	内面(内9区型*)		
330		大溝	X4Y12 X4Y12	8	灰土器	杯蓋	15.6	15	1	1	赤褐色	内面(内9区型*)		
331		SD06	X2Y19	3	灰土器	杯蓋	17.5	17	1	1	赤褐色	内面(内9区型*)		
340		SD148	X6Y25	3	灰土器	杯蓋	13.1	12.7	1	1	灰白色	白色粒	内面(内9区型*) 横溝	
342			X4Y16	3	灰土器	杯蓋	-	11.1	1	1	赤褐色	赤褐色	内面(内9区型*)	
343			X4Y17	1	灰土器	杯蓋	15.2	12.1	1	1	赤褐色	赤褐色	内面(内9区型*)	
344		X2Y12	1	灰土器	杯蓋	11.4	11	1	1	赤褐色	赤褐色	横溝		
345	41	SI10	5a	灰土器	杯蓋	13.9	14	1	1	赤褐色	赤褐色	白色粒		
346		SP102		灰土器	杯蓋	12.4	12	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
347		SP101	5a3	灰土器	杯蓋	11.2	11	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
348		SD106		灰土器	杯蓋	11.3	11	1	1	赤褐色	赤褐色	白色粒		
349		SP21	5a X2Y11		灰土器	杯蓋	12.4	17	1	1	赤褐色	赤褐色	白色粒	
350	40	SD176	X6Y15	3	灰土器	杯蓋	12.2	11	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝
351		SD109	5a2	灰土器	杯蓋	12.2	11	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
352	41	SR30	5a	灰土器	杯蓋	11.1	2	1	1	赤褐色	赤褐色	白色粒		
353		SK29	5a2 X2Y12		灰土器	杯蓋	12.6	12.1	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	
354		SK25		灰土器	杯蓋	12.8	11.6	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
355		SK20		灰土器	杯蓋	13.2	11	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝	
356		SD161	X6Y12 X6Y13	3	灰土器	杯蓋	14.2	1.5	1	1	赤褐色	赤褐色	白色粒	
357		SD27		灰土器	杯蓋	13.7	11.8	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
358		SP16	X2Y11	3	灰土器	杯蓋	11.1	11	1	1	赤褐色	赤褐色	白色粒	
359	41	SI18	5a X2Y12		灰土器	杯蓋	13.8	12	1	1	赤褐色	赤褐色	白色粒	
360		SK136		灰土器	杯蓋	14.7	12.3	1	1	赤褐色	赤褐色	白色粒		
361		SD125	X2Y13 X2Y13		灰土器	杯蓋	14.2	12	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝
362		SD126		灰土器	杯蓋	13.1	10	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝	
363		SK20	X2Y20		灰土器	杯蓋	14.6	11.7	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	
364		SP138		灰土器	杯蓋	15.6	11.1	1	1	赤褐色	赤褐色	白色粒		
365	41	SK10	5a	灰土器	杯蓋	14.9	12	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝	
366		SI115	5a5	灰土器	杯蓋	11.8	12.3	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
367		SD101	X4Y12 X2Y12		灰土器	杯蓋	14.1	17	1	1	赤褐色	赤褐色	白色粒	
368		SD119		灰土器	杯蓋	16	3	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
369		SP16		灰土器	杯蓋	16.1	12.5	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
370		SD128	X2Y11		灰土器	杯蓋	14.8	12.7	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	
371		SI178	X2Y11		灰土器	杯蓋	11.6	11.7	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	
372	40	SD198	X2Y19		灰土器	杯蓋	15.5	12.3	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	
373	29	SD192	X6Y16 X6Y16-20Y31-43	3	灰土器	杯蓋	16.2	11	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝
374		SD107	X2Y13 X6Y16 X2Y16	1, 2	灰土器	杯蓋	15.1	19	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	
375	41	SI110	5a6	灰土器	杯蓋	16.2	21	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
376		SK27		灰土器	杯蓋	15.6	16	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
377		SD19		灰土器	杯蓋	15.8	13	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
378		SK74	X31-27Y13-17	2	灰土器	杯蓋	17.5	12.1	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	
379		SK57		灰土器	杯蓋	15.2	12.1	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
380		SD101	5a3	灰土器	杯蓋	14.7	11.6	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝	
381		SD102		灰土器	杯蓋	15.3	11.7	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	白色粒	
382		SP107		灰土器	杯蓋	11	11.9	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
383		SP230	X6Y16	3	灰土器	杯蓋	12.4	12	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	
384		SD123	X6Y12		灰土器	杯蓋	13.0	11	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	
385		SK226	5a1	灰土器	杯蓋	15.5	12	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝	
386		SK225		灰土器	杯蓋	15.6	11.9	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
387		SK142		灰土器	杯蓋	16.2	12.1	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
388		SD124	X6Y16		灰土器	杯蓋	16.6	11.7	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	
389		SD13	X1Y12		灰土器	杯蓋	20.1	13.5	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	
390		SP148		灰土器	杯蓋	11.7	12.9	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
391		SD135	X10Y14		灰土器	杯蓋	12.1	12	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	
392		SD131	X10Y14		灰土器	杯蓋	16.9	11.9	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	
393		SD279	5a2	灰土器	杯蓋	14.0	11	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝	
394		SD229	5a	灰土器	杯蓋	14.6	12.9	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
395		SD279	5a2	灰土器	杯蓋	15.6	12	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色		
396		SD279	X6Y12		灰土器	杯蓋	15.4	12.1	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝
397	31-40	SD279	5a1 X6Y16		灰土器	杯蓋	17.4	12	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	
398	12	大溝	X2Y16	3	灰土器	横溝	14.6	4.7	7.1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝(「E」上区)
399		大溝	X2Y19 X2Y31 X2Y19	3, 8	灰土器	横溝	12.0	5.2	6.8	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝(「E」上区)
400	32	大溝	X6Y19	3	灰土器	横溝	13.3	4.2	6.6	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝(「E」上区)
401	31	SD134	5a	灰土器	横溝	12.2	4.1	7.8	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝(「E」上区)	
402		大溝	X6Y17	8	灰土器	横溝	13.0	1.9	7.1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝
403		大溝	X3Y10	3	灰土器	横溝	11.6	13.4	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝
404		大溝	X6Y17	8	灰土器	横溝	10.8	13.2	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝
405		大溝	X6Y17	8	灰土器	横溝	11.2	13.7	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝
406		SI230	5a2	灰土器	横溝	11.2	12	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝	
407		SK259	5a2	灰土器	横溝	11.0	16	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝	
408	40	SD170	X2Y22		灰土器	横溝	11.3	4.3	6.8	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝
409		大溝	X2Y16	3	灰土器	横溝	11.6	13.5	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝
410		X4Y22		灰土器	横溝	13.9	14.7	1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝	
411	32	大溝	X2Y19	3	灰土器	小笠形	5.2	4.1	3.7	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝
412		X2Y19	3	灰土器	小笠形	-	13.3	4.1	1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	横溝	

第 17 表 古代土器一覽(6)

遺跡 番号	探検 番号	遺物	出土地点	層位	種類	器種	容量 (ml)	時期	胎土・色		備考		
									胎土	色			
413		大溝 K30Y22	1c	須恵器	小壺	130	11.0	4.2	須恵器準-9世紀前半	23Y/1	褐色		
414	37	大溝 K32Y21		須恵器	小壺	5.0	14.7	-	須恵器準-9世紀前半	23Y/1	褐色		
415		大溝 K30Y20 K30Y28	B 3	須恵器	小壺	-	15.2	1.6	須恵器準-9世紀前半	26/0	灰色	白色染	
416		K30Y13	E	須恵器	片割	-	13.6	11.5	須恵器準-9世紀前半	26/0	灰色		
417	16	S2220 K30Y36 K30Y35 K30Y31	E	須恵器	片割	21.4	6.8	-	須恵器代	25/0	灰色	白色染	
418		大溝 K31Y19	3	須恵器	煎餅	10.1	16.2	-	須恵器準-9世紀前半	23Y/2	暗赤褐色		
419	37	大溝 K30Y17 K30Y13 K30Y12	3 E	須恵器	壺	-	10.6	-	須恵器準-9世紀前半	33/3-1	灰色		
420		大溝 K31Y20	9	須恵器	煎餅	8.9	19.0	-	須恵器準-9世紀前半	33/3-1	灰色		
421		K31Y19	E	須恵器	壺	-	16.8	7.0	須恵器準-9世紀前半	33/3-1	灰色	焼跡あり	
422		K30Y13 K31Y14 K30Y15 K30Y16	E	須恵器	煎餅	-	19.2	-	須恵器準-9世紀前半	32/1	灰白色		
423	12	大溝 K31Y22	8	須恵器	壺	-	13.3	6.9	須恵器準-9世紀前半	25/0	灰色	島の内(上)より	
424		S2492 K30Y15	E	須恵器	壺	-	12.7	9.0	須恵器準-9世紀前半	22Y/1	黄褐色	島の内(上)へ3記号	
425		大溝 K30Y20		須恵器	片割	15.3	16.0	-	須恵器準-9世紀前半	24/0	灰色		
426	39	S24790 K30Y21-23		須恵器	片割	15.6	16.5	-	須恵器準-9世紀前半	27/0	灰白色	黒色染	
427		S24925 K30Y24		須恵器	片割	17.0	19	2.8	須恵器準-9世紀前半	33/3-1	灰色		
428		K3270 SE810		須恵器	片割	14.9	5.7	-	須恵器準-9世紀前半	26/0	灰色		
429		大溝 K30Y22		須恵器	片割	17.0	22.4	14.7	須恵器準-9世紀前半	26/0	灰色		
430		S24233 5a3		須恵器	煎餅	10.6	11.7	-	須恵器準-9世紀前半	23Y/1	褐色	白色染	
431	39	S24217 5c K30Y24 K30Y25	1, 2	須恵器	煎餅	-	11.5	-	須恵器準-9世紀前半	33/3-1	灰白色		
432		S24214 K30Y26 K30Y28 K30Y22	1	須恵器	壺	-	11.2	-	須恵器準-9世紀前半	26/0	灰色	白色染	
433		大溝 K31Y18 K31Y18	4	須恵器	壺	-	15.8	16.3	須恵器準-9世紀前半	25/0	灰色		
434		K30Y20	E	須恵器	煎餅	12.8	14.0	-	須恵器準-9世紀前半	25/0	灰色		
435		K30Y15	E	須恵器	煎餅	13.8	14.2	-	須恵器準-9世紀前半	19Y/1	灰色	白色染	
436	39	S24148 S24247 S24248	K31Y28 K30Y27	須恵器	煎餅	8.8	16.6	11.6	須恵器準-9世紀前半	33/1-1	灰色	島の内(上) 焼跡あり	
437		K31Y25	E	須恵器	煎餅	12.5	16.6	-	須恵器準-9世紀前半	33/1-1	灰白色		
438		大溝 K31Y21 K30Y21 K30Y31	1	須恵器	煎餅	8.6	14.1	-	須恵器準-9世紀前半	23Y/1	灰白色		
439	37	S24790 K31Y28 K30Y27		須恵器	煎餅	9.2	13.2	8.1	須恵器準-9世紀前半	26/0	灰色	白色染	
440		大溝 K32-44Y16-18	8	須恵器	煎餅	12.6	17.9	8.7	須恵器準-9世紀前半	33Y/1	褐色	島の内(上)へ3記号	
441		S2390 S2397 S2374	K31Y12	須恵器	煎餅	10.7	14.0	-	須恵器準-9世紀前半	27/0	灰白色	白色染	
442	37	S24305 K32-60Y36		須恵器	煎餅	9.7	21	9.1	須恵器準-9世紀前半	26/0	灰色	島の内(上) 焼跡あり	
443	39	大溝 K30Y17 K31Y17	3, 8	須恵器	壺	-	11.8	11.1	須恵器準-9世紀前半	25/0	灰色	白色染	
444		大溝 K30Y17	8	須恵器	壺	-	16.0	9.4	須恵器準-9世紀前半	23Y/1	褐色		
445	39	大溝 K30Y28 K30Y28	3	須恵器	壺	-	19.7	8.2	須恵器準-9世紀前半	26/0	灰色		
446		大溝 K31Y28 K30Y28 K30Y29	3, 8	須恵器	壺	-	13.1	1.2	須恵器準-9世紀前半	25/0	灰色		
447		S2392 K30Y15	E	須恵器	壺	15.1	12.6	-	須恵器準-9世紀前半	25/0	灰色		
448		S2397 8c K30Y27	E	須恵器	壺	13.2	13.4	-	須恵器準-9世紀前半	26/0	灰色		
449	39	大溝 K36-30Y17 K30Y18	3, 8	須恵器	煎餅	9.1	15.5	-	須恵器準-9世紀前半	23Y/2	灰色	島の内(上)へ3記号	
450		大溝 K31Y17	3	須恵器	煎餅	-	12.6	-	須恵器準-9世紀前半	23Y/2	赤褐色		
451	39	S24007 S24003	50c-30 K30Y28	須恵器	煎餅	-	12.6	-	須恵器準-9世紀前半	26/0	灰色		
452		S2411		須恵器	煎餅	11.4	15.3	-	須恵器準-9世紀前半	19Y/2	褐色	島の内(上)へ3記号	
453		大溝 K13-09Y11-19 K31Y11	3, 8	須恵器	壺	15.8	11.6	-	須恵器準-9世紀前半	19Y/2	灰褐色		
454		S2434 K30Y21		須恵器	壺	-	12.2	-	須恵器準-9世紀前半	23Y/2	赤褐色		
455		大溝 K30Y21 K31Y18	2, 10	須恵器	壺	12.5	27.3	11.6	須恵器準-9世紀前半	26/0	灰色	白色染	
456		大溝 K31Y20		須恵器	取手	-	11.1	-	須恵器代	26/0	灰色	白色染	
457		S24184 7c		須恵器	壺	-	17.3	13.0	須恵器準-9世紀前半	26/0	灰色	白色染	
458		大溝 K30Y22	E	須恵器	壺	29.1	18.9	-	須恵器準	23Y/2	灰白色	白濁濁土に染	
459		S24007 K30Y21		須恵器	壺	2.2	19.3	-	須恵器準	23Y/2	灰白色	白色染	
460	39	K30Y14	E	須恵器	鉢	26.1	112.4	-	須恵器準	23Y/1	褐色		
461		K31Y11 K30Y21	1, 2	須恵器	鉢	30.3	105.5	-	須恵器準	23Y/1	灰白色	焼質	
462		大溝 K31Y19	1	須恵器	鉢	25.8	3.4	18.2	須恵器準	23Y/2	暗赤褐色		
463	39	大溝 K31-07Y20-21	3, 8	須恵器	鉢	26.7	10.8	18.6	須恵器準	23Y/2	灰色	焼質	
464		S24003 K30Y21 K30Y21	E	須恵器	鉢	29.6	16.3	-	須恵器準	19Y/2	灰白色		
465		大溝 K31-30Y23-20 K36-07Y19-18	6	須恵器	鉢	21.2	11.3	12.4	須恵器準	26/0	灰色	内陶器準々々	
466	39	大溝 K30Y17 K30Y18	3	須恵器	鉢	29.8	11.8	-	須恵器準	23Y/2	灰白色		
467		S24205 5a8 K31Y35		須恵器	鉢	26.5	15.1	16.1	須恵器準	23Y/1	灰白色	焼質	
468		S24135 K30Y31		須恵器	鉢	36.0	13.0	-	須恵器準	25/0	灰色	島の内(上)準1号の 内陶器(上)準1号	
469	39	大溝 K31Y17	3	須恵器	鉢	28.6	13.0	-	須恵器準	25/0	灰色	島の内(上)準1号の 内陶器(上)準1号	
470		S24Y22 K30Y26	2	須恵器	鉢	45.6	15.8	-	須恵器準	23Y/1	褐色	白色染	
471	39	大溝 K30Y28 K30Y27	3, 10	須恵器	鉢	21.4	17.0	-	須恵器準-9世紀前半	33/3-1	灰色	白色染	
472		S24921 K31Y28		須恵器	鉢	21.0	16.0	-	須恵器準-9世紀前半	23Y/1	灰色		
473		S24266 5a79		須恵器	鉢	23.3	17.7	-	須恵器準-9世紀前半	25/0	灰色	白色染	
474		S2418 S2435	K32Y36	須恵器	鉢	18.2	18.3	-	須恵器準-9世紀前半	23Y/1	褐色	白色染	
475	39	大溝	8	須恵器	鉢	25.0	13.0	-	須恵器準-9世紀前半	23Y/1	灰白色		
476		大溝 K31Y18	3	須恵器	内蓋	11.3	13.0	-	須恵器準-9世紀前半	19Y/2	(上)準褐色 25/0	黄色	内陶器準
477		大溝 K30Y20	3	須恵器	内蓋	12.0	12.7	-	須恵器準-9世紀前半	19Y/2	(上)準褐色 25/0	黄色	内陶器準
478	13	K30Y15	E	須恵器	内蓋	12.7	13.3	-	須恵器準-9世紀前半	19Y/2	(上)準褐色 25/0	黄色	内陶器準
479		S24139	(須恵器)内蓋	鉢	11.4	12.2	-	須恵器準-9世紀前半	19Y/2	(上)準褐色 25/0	黄色	内陶器準	
480	71	大溝 K31Y18	3	須恵器	内蓋	11.4	3.8	7.0	須恵器準	19Y/2	(上)準褐色 25/0	黄色	内陶器準
481	39	S2419	(須恵器)内蓋	鉢	11.8	3.8	7.6	須恵器準	19Y/2	(上)準褐色 23Y/1	黄色	内陶器準	
482		大溝 K30Y20	8	須恵器	内蓋	12.2	13.6	-	須恵器準	19Y/2	(上)準褐色 25/0	黄色	内陶器準
483		大溝 K31Y20 K30Y20	3, 8	須恵器	内蓋	-	13.1	8.1	須恵器準	19Y/2	(上)準褐色 25/0	黄色	内陶器準
484	13	S2436 K32Y17	(須恵器)内蓋	鉢	14.8	12.6	-	須恵器準	24/0	褐色 25/0	黄色	内陶器準	
485		S24266	(須恵器)内蓋	鉢	15.7	14.0	-	須恵器準	23Y/2	褐色 25/0	黄色	内陶器準	

第 17 表 古代土器一覽(7)

遺跡 番号	調査 番号	遺構	出土地点	層位	種類	器種	寸法 (mm)		時期	出土位置		備考		
							口径	高さ		穴号	高さ			
987			X3Y18	3	土師器(内)	瓶	104.1	113.5	—	10Y3Y2	5Y2-9	埋計	内出品物	
988	13	大溝	X2Y18	2	土師器(内)	瓶	11.8	125	—	8Y3Y8	5Y3Y8	赤褐色	内出品物、内出品物	
989		大溝	X3Y21	3	土師器(内)	瓶	122	136	—	8Y3Y8	5Y3Y8	赤褐色	内出品物、内出品物	
990		大溝	X3Y22	3	土師器(赤)	瓶	124	133	—	10Y3Y2	10Y3Y4	浅黄褐色	内出品物	
991		SD129		3	土師器(赤)	杯	105.9	19	57	8Y3Y8	7Y3Y8-1	浅黄褐色	内出品物	
992		大溝	X3Y19	3	土師器(赤)	瓶	134	39	50	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	内出品物	
993		大溝	X3Y19	3	土師器(赤)	瓶	132	35	38	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	内出品物	
994		大溝	X3Y20	3	土師器(赤)	瓶	128	37	41	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	内出品物	
995		SD135		3	土師器(赤)	瓶	119	37	44	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	内出品物	
996		SD176		3	土師器(赤)	瓶	128	39	52	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	内出品物	
997		大溝	X3Y17	3	土師器(赤)	瓶	138	19	13.2	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	内出品物	
998		SK527		3	土師器(赤)	瓶	144	37	88	8Y3Y8	10Y3Y2	浅黄褐色	内出品物	
999		SD71	X1Y19	X1Y19	3	土師器(赤)	瓶	183	36	11.9	8Y3Y8	2Y3Y3	浅褐色	内出品物
1000		SD113	X3Y21	X3Y21	3	土師器(赤)	罎	216	96.8	—	8Y3Y8	2Y3Y4	浅黄褐色	内出品物
1001		SD184		3	土師器	瓶	119	38	50	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	内出品物	
1002		SD215		3	土師器	瓶	155	43	—	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	内出品物	
1003		SD216		3	土師器	瓶	156	53	—	8Y3Y8	10Y3Y2	浅黄褐色	内出品物	
1004		SD268		3	土師器(赤)	瓶	167	126	—	8Y3Y8	10Y3Y4	浅黄褐色	内出品物	
1005		大溝	X4Y17	3	土師器(赤)	瓶	157	124	—	8Y3Y8	2Y3Y4	赤褐色	内出品物	
1006		大溝	X3Y19	3	土師器(赤)	瓶	167	124	—	8Y3Y8	2Y3Y4	赤褐色	内出品物	
1007		大溝	X3Y25	3	土師器(赤)	瓶	180	120	—	8Y3Y8	10Y3Y4	浅黄褐色	内出品物	
1008		大溝	X3Y22	X3Y22	3	土師器(赤)	瓶	168	91.1	—	8Y3Y2	2Y3Y3	暗褐色	内出品物
1009		大溝	X3Y20	X3Y20	3	土師器(赤)	瓶	176	153	—	10Y3Y2	2Y3Y4	赤褐色	埋計
1010		大溝	X3Y18	X3Y18	3	土師器(赤)	瓶	163	70	—	8Y3Y8	10Y3Y4	浅黄褐色	内出品物
1011		SK139		3	土師器(赤)	瓶	21.2	14	15.2	2Y3Y6	5Y3Y6	赤褐色	内出品物	
1012		大溝	X3Y17	3	土師器(赤)	瓶	—	11.1	127	8Y3Y8	2Y3Y3	浅褐色	内出品物	
1013		大溝	X3Y18	X3Y17	3	土師器(赤)	瓶	135	27	10.9	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	内出品物
1014		大溝	X1Y17	X1Y17	3	土師器(赤)	瓶	138	21	4.8	8Y3Y8	10Y3Y4	赤褐色	内出品物
1015		SD121		3	土師器(赤)	瓶	150	27	10.4	8Y3Y8	7Y3Y8-1	浅黄褐色	内出品物	
1016		大溝	X3Y18	X3Y17	3	土師器(赤)	瓶	158	26	10.6	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	内出品物
1017		SD103		3	土師器(赤)	瓶	—	117	105	8Y3Y8	10Y3Y3	浅黄褐色	内出品物	
1018		大溝	X3Y18	X3Y18	3	土師器	瓶	103	123	—	10Y3Y2	10Y3Y2	灰褐色	大穴埋
1019		大溝	X3Y17	X3Y17	3	土師器	瓶	109	128	—	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	内出品物
1020		SD182		3	土師器(赤)	瓶	116	131	—	8Y3Y8	10Y3Y4	赤褐色	内出品物	
1021		SD156		3	土師器	瓶	111	39	6.8	8Y3Y8	10Y3Y3	赤褐色	内出品物	
1022		SD110		3	土師器	瓶	124	37	6.1	8Y3Y8	10Y3Y3	赤褐色	内出品物	
1023		SD123		3	土師器	瓶	120	130	43	9世紀代	10Y3Y2	赤褐色	内出品物	
1024		SD187		3	土師器	瓶	129	28	—	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	内出品物	
1025		大溝	X3Y18	X3Y17	3	土師器	瓶	120	43	4.2	8Y3Y8	10Y3Y4	浅黄褐色	内出品物
1026		大溝	X3Y19	X3Y19	3	土師器	瓶	126	30	5.6	9世紀代	7Y3Y3	赤褐色	埋計
1027		SD209		3	土師器	瓶	146	41	6.2	9世紀代	10Y3Y2	赤褐色	埋計	
1028		SD187		3	土師器	小笠	92	14.1	—	8Y3Y8	10Y3Y4	赤褐色	大穴埋	
1029		SD170		3	土師器	小笠	93	22.8	—	8Y3Y8	10Y3Y4	赤褐色	大穴埋	
1030		大溝	X3Y17	X3Y17	3	土師器	小笠	92	7.3	6.8	8Y3Y8	10Y3Y3	赤褐色	埋計
1031		大溝	X3Y17	X3Y17	3	土師器	小笠	100	13.1	—	8Y3Y8	7Y3Y4	赤褐色	埋計
1032		SK520		3	土師器	小笠	128	17.3	—	8Y3Y8	10Y3Y3	赤褐色	埋計	
1033		SD270		3	土師器	小笠	114	9.2	—	8Y3Y8	7Y3Y8-1	浅黄褐色	埋計	
1034		大溝	X3Y17	X3Y17	3	土師器	罎	106	14.1	—	8Y3Y8	10Y3Y4	灰褐色	赤褐色
1035		大溝	X3Y19	X3Y19	3	土師器	罎	126	15.0	—	8Y3Y8	10Y3Y3	赤褐色	赤褐色
1036		SD60		3	土師器	罎	124	11.4	—	8Y3Y8	7Y3Y3	赤褐色	赤褐色	
1037		SD5		3	土師器	罎	119	10.3	—	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	赤褐色	
1038		大溝	X3Y19	X3Y19	3	土師器	罎	—	12.0	—	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	内出品物
1039		SK163		3	土師器	小笠	116	16.6	—	8Y3Y8	10Y3Y3	赤褐色	赤褐色	
1040		SD116		3	土師器	罎	134	16.2	—	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	赤褐色	
1041		SD116		3	土師器	罎	137	16.0	—	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	赤褐色	
1042		SD116		3	土師器	小笠	136	16.6	—	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	赤褐色	
1043		大溝	X3Y17	X3Y17	3	土師器	罎	154	14.1	—	8Y3Y8	10Y3Y4	赤褐色	赤褐色
1044		SK188		3	土師器	罎	134	15.8	—	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	赤褐色	
1045		SD116		3	土師器	小笠	131	15.5	—	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	赤褐色	
1046		大溝	X3Y16	X3Y16	3	土師器	小笠	130	16.1	—	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	赤褐色
1047		SD106		3	土師器	小笠	138	17.9	—	8Y3Y8	7Y3Y3	赤褐色	赤褐色	
1048		SK112		3	土師器	小笠	131	14.5	—	8Y3Y8	7Y3Y3	赤褐色	赤褐色	
1049		大溝	X3Y21	X3Y19	3	土師器	罎	127	11.2	8.0	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	大穴埋
1050		SK102		3	土師器	罎	128	14.4	—	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	赤褐色	
1051		大溝	X3Y17	X3Y16	3	土師器	罎	130	15.4	6.3	8Y3Y8	10Y3Y2	赤褐色	赤褐色
1052		大溝	X3Y20	X3Y21	3	土師器(人取)	小笠	84	7.5	—	8Y3Y8	7Y3Y4	赤褐色	赤褐色
1053		大溝	X3Y18	X3Y18	3	土師器(人取)	小笠	—	—	—	8Y3Y8	10Y3Y3	赤褐色	赤褐色
1054		大溝	X3Y25	X3Y25	3	土師器(人取)	小笠	—	—	—	8Y3Y8	2Y3Y2	赤褐色	赤褐色
1055		大溝	X3Y20	X3Y20	3	土師器(人取)	小笠	—	—	—	8Y3Y8	10Y3Y3	赤褐色	赤褐色
1056		大溝	X3Y22	X3Y21	3	土師器(人取)	小笠	126	12.0	8.1	8Y3Y8	10Y3Y3	赤褐色	赤褐色
1057		大溝	X3Y21	X3Y21	3	土師器(人取)	小笠	118	10.7	7	8Y3Y8	10Y3Y3	赤褐色	赤褐色
1058		大溝	X3Y19	X3Y19	3	土師器(人取)	小笠	160	15.2	6.7	8Y3Y8	10Y3Y2	灰褐色	赤褐色
1059		大溝	X3Y19	X3Y18	3	土師器(人取)	小笠	—	—	—	8Y3Y3	10Y3Y3	赤褐色	赤褐色

第17表 古代土器一覽(8)

調査番号	探検番号	遺構	出土地点	層位	種類	形状	容量 (ml)		時期	胎土・色調		胎土	備考
							口径	高さ		胎土	色調		
560		大溝	X6Y19	8	土師器 (人面垂形)	小型壺	-	-	新羅前期-9世紀前半	10YK53	土師器色		奈良に人面垂形 陶器 →出石区-御膳山
561		大溝	X6Y19	8	土師器 (人面垂形)	小型壺	-	-	新羅前期-9世紀前半	10YK53	土師器色		奈良に人面垂形 陶器 →出石区-御膳山
562		大溝	X6Y19	8	土師器 (人面垂形)	小型壺	-	-	新羅前期-9世紀前半	10YK53	土師器色		奈良に人面垂形 陶器 →出石区-御膳山
563		大溝	X6Y19	8	土師器 (人面垂形)	小型壺	-	-	新羅前期-9世紀前半	10YK53	土師器色		奈良に人面垂形 陶器 →出石区-御膳山
564		大溝	X6Y19	8	土師器 (人面垂形)	小型壺	-	-	新羅前期-9世紀前半	10YK53	土師器色		奈良に人面垂形 陶器 →出石区-御膳山
565		大溝	X6Y18	3	土師器	壺	-	(13)	新羅前期-9世紀前半	10YK72	土師器色	赤色胎	伊予川
566		大溝	X2Y16	8	土師器	壺	14.8	15.4	新羅前期-9世紀前半	72YV4	土師器色		土器付壺
567		大溝	X3Y21	9	土師器	壺	15.3	110.0	新羅前期-9世紀前半	10YK64	土師器色	赤色胎	
568		大溝	X3Y16 X3Y17	8	土師器	壺	22.5	16.4	新羅前期-9世紀前半	72YV4	土師器色		伊予川
569		S909 S3239 S3040			土師器	壺	11.7	110.0	新羅時代	10YK72	土師器色	赤胎 赤色胎	奈良の陶器 陶器→伊予川御膳山出土
570		S2287	5a2		土師器	壺	16.6	11.4	新羅時代	10YK64	浅黄褐色	赤胎	
571		S2287			土師器	壺	19.2	16.2	新羅時代	10YK64	黄褐色	赤胎	
572		S3345			土師器	壺	21.4	59.0	新羅時代	10YK72	土師器色		内河川
573		S860	X3Y12		土師器	壺	23.4	17.1	新羅時代	10YK72	土師器色	赤胎	内河川
574		S860	X3Y12		土師器	壺	22.8	119.2	新羅時代	10YK63	土師器色	赤胎	内河川
575		S110	5a2		土師器	壺	25.6	12.0	新羅時代	10YK63	黄褐色	赤胎	
576		S110	5a1 X8Y13		土師器	壺	23.6	22.3	新羅時代	72YK73	土師器色	赤胎	内河川 御膳山出土 土器
577		S24205	X6Y20 X6Y27		土師器	壺	18.2	15.7	新羅時代	10YK62	灰褐色	赤胎	内河川
578		S24206	X6Y28		土師器	壺	12.9	19.8	新羅時代	72YK73	土師器色	赤胎	内河川
579		S24207	X6Y28		土師器	壺	17.8	15.4	新羅時代	10YK72	土師器色	赤胎	内河川
580		S24208	X6Y27		土師器	壺	17.9	15.6	新羅時代	10YK73	土師器色	赤胎	内河川
581		S24209	X6Y27		土師器	壺	16.0	15.2	新羅時代	10YK72	土師器色	赤胎	内河川
582		S24210	X6Y20 X6Y27		土師器	壺	20.3	11.9	新羅時代	10YK72	土師器色	赤色胎 赤胎	内河川
583		S24211	X6Y27 X6Y25		土師器	壺	21.6	111.5	新羅時代	72YK73	黄褐色	赤胎	内河川
584		S24220	X6Y20 X6Y27 5a2		土師器	壺	21.6	118.6	新羅時代	72YV4	土師器色	赤胎	内河川
585		S8710	5a3		土師器	壺	21.4	16.9	新羅時代	10YK74	土師器色	石灰	内河川
586		S8710	5a2 5a3		土師器	壺	23.2	11.3	新羅時代	10YK73	土師器色	赤色胎 赤胎	
587		大溝	X3Y20	3	土師器	壺	19.6	19.6	新羅前期-9世紀前半	10YK74	土師器色	赤色胎 赤胎	
588		大溝	X3Y16 X3Y17	8	土師器	壺	21.8	17.2	新羅前期-9世紀前半	10YK72	土師器色	赤色胎 赤胎	内河川
589		大溝	X2Y20	8	土師器	壺	21.0	114.0	新羅前期-9世紀前半	10YK62	灰褐色	赤胎	土器付壺 内河川出土 御膳山出土(土器)
590		大溝	X3Y17	3	土師器	壺	23.4	11.4	新羅前期-9世紀前半	72YK73	土師器色	赤胎	土器付壺
591		大溝	X3Y17	3	土師器	壺	21.5	18.1	新羅前期-9世紀前半	10YK73	土師器色	赤胎	土器付壺
592		S863 S861 S863	5a1 F X3Y18		土師器	壺	20.0	17.6	新羅前期-9世紀前半	10YK73	土師器色	赤胎	内河川
593		大溝	X3Y17	3	土師器	壺	20.6	18.4	新羅前期-9世紀前半	10YK73	土師器色	黄褐色	
594		大溝	X3Y17	3	土師器	壺	20.5	18.4	新羅前期-9世紀前半	10YK63	浅黄褐色	赤色胎 赤胎	
595		大溝	X3Y20 X3Y25 X3Y16	3	土師器	壺	20.0	11.0	新羅前期-9世紀前半	72YK62	灰褐色	赤胎	
596		S8705 S8704	X3Y16	3	土師器	壺	22.7	118.2	新羅前期-9世紀前半	10YK73	土師器色	石灰	内河川
597		大溝	X3Y19 X3Y18	3	土師器	壺	22.8	20.9	新羅前期-9世紀前半	10YK62	土師器色	赤胎	土器付壺
598		大溝	X3Y18		土師器	瓶	21.8	15.0	新羅前期-9世紀前半	10YK63	土師器色		奈良に土師器の陶器が 埋蔵する
599		S2981			土師器	壺	16.2	11.4	新羅前期-9世紀前半	10YK64	土師器色	赤胎	
600		S2981			土師器	壺	19.1	16.7	新羅前期-9世紀前半	10YK74	土師器色	赤胎	
601		S2981	5a1		土師器	壺	19.1	16.2	新羅前期-9世紀前半	52YK76	褐色	白色胎	
602		S2981			土師器	壺	18.2	15.2	新羅前期-9世紀前半	72YK62	灰白色	白色胎	
603		S24214	X6Y20		土師器	壺	13.5	13.1	新羅前期-9世紀前半	10YK62	灰褐色	赤胎	
604		S24215	X2Y11 X2Y13		土師器	壺	20.4	16.8	新羅前期-9世紀前半	10YK72	土師器色	赤胎	
605		S24216	X3Y11 X3Y13		土師器	壺	20.8	16.9	新羅前期-9世紀前半	10YK72	土師器色	赤胎	
606		S24205	X6Y20		土師器	壺	19.4	110.7	新羅前期-9世紀前半	10YK72	土師器色	赤胎	
607		S1100			土師器	壺	20.6	19.0	新羅前期-9世紀前半	10YK54	土師器色	赤胎	土器付壺
608		S24922 S24921	5a1		土師器	壺	20.5	11.0	新羅前期-9世紀前半	10YK72	土師器色	赤胎	内河川
609		S24923			土師器	壺	22.0	18.3	新羅前期-9世紀前半	10YK62	褐色	赤胎	土器付壺
610		S24226 S24227			土師器	壺	21.8	16.4	新羅前期-9世紀前半	10YK73	土師器色	赤胎	
611		S2491	5a3		土師器	壺	22.1	11.5	新羅前期-9世紀前半	10YK72	土師器色	赤胎	
612		S2427	5a2		土師器	壺	24.0	18.2	新羅前期-9世紀前半	10YK63	土師器色	赤胎	
613		大溝	X3Y21		土師器	土師	191.0	803.4	10YK67	22Y72	灰褐色		内河川
614		大溝	X3Y20		土師器	土師	151.0	802.5	10YK67	22Y72	灰褐色		
615		S24206	X6Y25		土師器	土師	151.7	801.2	10YK67	10YK62	灰白色		
616		S24221	X3Y23		土師器	土師	151.9	801.0	10YK67	22Y72	灰褐色		
617		S24222	X3Y27		土師器	土師	151.2	801.2	10YK67	22Y72	灰褐色		
618		S24223	X3Y28		土師器	土師	151.7	801.3	10YK67	22Y72	灰褐色		
619		S24224	X3Y21		土師器	土師	151.2	801.2	10YK67	22Y72	灰褐色		
620		S24225	5a1		土師器	土師	151.9	803.4	10YK67	22Y72	灰褐色		
621		S24226	5a1		土師器	土師	151.8	801.2	10YK67	22Y72	灰褐色		
622		S24205	X6Y25		土師器	壺	31.8	16.9	新羅前期-9世紀前半	10YK63	土師器色	赤胎	
623		S24222			土師器	壺	32.2	17.0	新羅前期-9世紀前半	10YK74	土師器色	赤胎	内河川
624		S24206			土師器	壺	31.1	15.8	新羅前期-9世紀前半	22Y72	灰白色	赤胎	内河川
625		S2498	5a3		土師器	壺	31.1	12.5	新羅前期-9世紀前半	72YK72	黄褐色	赤胎	内河川
626		大溝	X3Y16 X3Y18 X3Y20	8	土師器	壺	33.0	110.2	新羅前期-9世紀前半	10YK62	土師器色	赤胎	土器付壺
627		大溝	X3Y25 X3Y23 X3Y21	3	土師器	壺	33.8	113.2	新羅前期-9世紀前半	10YK62	灰褐色	赤胎	
628		大溝	X3Y16 X3Y17 X3Y17	3	土師器	壺	38.8	18.6	110	22Y72	土師器色		土器付壺
629		S24221	X6Y25		土師器	壺	-	-	新羅前期-9世紀前半	10YK74	土師器色	赤胎	
630		大溝	X3Y18	8	土師器	壺	-	-	新羅前期-9世紀前半	10YK63	土師器色	赤胎	

※番号のローマ数字は基本番号、アルファ数字は大溝の層位を示す

第18表 古代木製品一覧

遺物番号	種別番号	国取番号	遺構	出土地点	層位	種類	法量(cm)			備考
							長さ/口縁	幅/底径	厚さ/残存高	
631		10-55	大溝	X30Y21	8	曲孔木簡	170	26	6.5	
632		10-55	大溝	X31Y21	8	直溝木簡	(25.4)	1.9	0.7	
633		10-55	大溝	X28Y22	3	直溝木簡	(18.4)	3.9	0.8	
634			大溝	X30Y19	3	木札	149	4.7	0.9	
635			大溝	X41Y18	3	木札	75	2.0	0.3	
636			大溝	X37Y18	8	木札	(7.7)	2.5	0.4	
637			大溝	X37Y19	8	木札	79	(1.5)	0.4	
638			大溝	X36Y17	8	木札	(10.7)	2.1	0.9	
639			大溝	X39Y20	3	木札	(8.3)	(2.8)	0.7	
640		51-55	大溝	X31Y20	8	蓋	(186)	10.3	2.2	
641			大溝	X43Y19	8	木皿	1.7	180	0.5	
642			大溝	X30Y23	8	木皿	(156)	(10.4)	0.9	
643			大溝	X43Y21	3	木皿	(166)	(10.6)	1.2	
644			大溝	X43Y17	3	曲物底板	21.5	(11.4)	1.3	
645			大溝	X43Y16	3	曲物底板	17.7	(8.6)	0.7	
646			大溝	X35Y24	8	曲物底板	17.6	(16.3)	0.9	釘穴跡か? (2箇所)
647			大溝	X40Y23	3	曲物底板	16.6	(7.9)	1.0	木釘?
648			大溝	X42Y17	3	曲物底板	15.8	(6.7)	0.8	孔1箇所
649			大溝	X43Y18	3	曲物底板	16.1	(12.6)	0.7	
650			大溝	X35Y20	8	曲物底板	14.4	(7.8)	0.9	木釘2個
651			SD1750	X30Y24		曲物底板	13.4	12.9	0.8	
652			大溝	X31Y20	3	曲物底板	(15.1)	(4.7)	0.6	釘穴2箇所
653			大溝	X33Y22	8	底板?	(14.5)	(2.8)	0.4	孔2箇所
654		52	大溝	X36Y19	8	曲物底板	(16.4)	(5.0)	1.2	釘穴2箇所
655				X43Y29H		割敷?	(10.9)	(5.1)	0.8	片面 漆(黒) 穿孔あり
656			大溝	X45Y20	3	割み板	30.2	3.2	1.8	
657		81	大溝	X44Y21	3	火漕白	24.3	3.8	2.2	縦穴2箇所 丸い決りの内側炭化
658			大溝	X35Y23	8	火漕白	(16.7)	1.6	1.6	丸い決り 1箇所 V字の切り込み2箇所 部分的に工具痕 刀痕あり 上端部工具痕あり
659			大溝	X39Y20	3	火漕白	26.7	3.3	1.7	縦穴
660		15-55	大溝	X39Y20	3	彫形?	20.7	2.4	1.2	
661			大溝	X26Y20	8	彫形?	(19.0)	3.6	0.8	
662		15-55	大溝	X37Y20	3	彫形?	(15.1)	2.05	0.3	
663			大溝	X41Y18	3	彫形?	18.5	(1.2)	0.3	
664			大溝	X35Y21	8	加工材	(29.0)	1.9	1.3	
665			大溝	X33Y22	8	彫形小刀形?	19.1	2.1	1.0	
666			大溝	X41Y18	3	彫形?	(13.3)	3.1	1.6	
667			大溝	X33Y22	8	彫形?	(9.5)	2.6	0.7	
668			大溝	X41Y22	3	用途不明加工材	8.3	0.8	0.6	
669			大溝	X41Y18	3	用途不明加工材	11.6	1.3	1.1	
670			大溝	X39Y17	8	彫削具?	(12.3)	1.4	1.3	
671			大溝	X35Y21	8	彫形?	24.5	2.6	1.3	
672			大溝	X33Y23	8	人形小彫物?	19.7	2.7	1.9	加工痕あり
673			大溝	X37Y22	8	柄?棒状	27.0	2.0	1.8	
674			大溝	X35Y21	8	棒状	(26.6)	1.5	1.6	下部部に工具痕あり 先端加工痕
675			大溝	X39Y17	8	棒状	(28.5)	1.4	1.5	
676			大溝	X45Y18	8	割み板	25.6	1.6	1.7	先端部 炭化
677			大溝	X35Y20	8	加工板	28.8	3.1	1.1	孔
678			大溝	X37Y18	8	加工板	27.5	3.1	0.8	中央に孔あり
679			大溝	X45Y20	3	割み板	22.6	2.8	1.4	
680			大溝	X35Y20	8	用途不明加工材	9.8	3.1	1.5	
681			大溝	X43Y19	3	加工板	6.0	8.6	2.4	
682			SP2143			覆板	17.8	17.1	2.9	
683			大溝	X39Y16	8	奥材	28.4	7.9	2.4	上端加工痕 側面一部加工痕 表面加工痕
684			大溝	X28Y18	3	奥材	17.1	5.5	4.6	ほぞ穴の変形あり
685			大溝	X36Y18	3	奥材	20.4	5.4	4.7	段上の加工あり
686		51	SP700			板	41.3	25.0	22.2	

第19表 古代石製品一覧

遺物番号	種別番号	国取番号	遺構	出土地点	層位	種類	法量(cm・g)				備考
							長さ	幅	厚さ	重さ	
687		46	SD1003	X63Y32		紡錘車	5.70	(5.20)	1.20	46.8	孔径0.95cm
688			SP426			砥石	9.10	2.60	1.35	48.3	
689			SD1205			砥石	8.30	3.25	3.15	95.5	取り上17% <sup>6)</sup>
690			X62Y25		II	砥石	(5.90)	3.15	1.20	26.2	磨面上面
691			X28Y18		II	砥石	7.50	4.55	2.40	160.4	
692			X36Y17		II	砥石	9.45	4.00	4.45	205.8	
693			SD300			砥石	17.60	8.85	5.05	794.0	取り上17% <sup>3)</sup>

第20表 古代金属製品一覧

遺物番号	種別番号	国取番号	遺構	出土地点	層位	種類	法量(cm・g)				備考
							長さ	幅	厚さ	重さ	
694				X69Y30	II	板状	(6.0)	1.3	0.35	18.8	屈曲する
695			SD1007	X66Y30		板状	(6.95)	3.3	1.5	60.6	
696			SK61			板状	(7.55)	3.7	1.6	90.9	
697			X62Y25		II	鉄片?	6.5	5.5	5.0	161.3	
698			X28Y14		II	鉄片	4.95	5.8	3.1	82.5	
699			X29Y13		II	鉄片	4.3	3.05	1.35	14.7	

## 4 中世

### (1) 遺構

#### A 掘立柱建物

##### 101号掘立柱建物(SB101, 第92図)

D地区南端に近く、南東隅は調査区外である。SB102と重複するが新旧は不明。桁行3間、梁行2間の東西棟で南面に1間分の庇がつくもの。北側の柱穴は柱痕跡が明瞭である。

##### 102号、103号掘立柱建物(SB102, SB103, 第90図)

桁行、梁行ともに2間の総柱建物であるが、古代の総柱建物と比べ柱穴規模が小さい。SB102はSB101とほぼ同じ方位で重複。SB103はD地区大溝の北やや東寄りで、方位は西に40°振る。

##### 104号、105号掘立柱建物(SB104, SB105, 第93図)

SB104はSB103の北で建物の北東隅を検出し、SP1328で柱根を確認した。SB105はSB103、SB104とはSA101を挟んだ西に位置し、SB106～SB108と重なる。桁行、梁行ともに2間で、南北両面の中央付近には、柱筋から外側にずれた棟持柱のような柱穴がそれぞれ1基付く。

##### 106号、107号掘立柱建物(SB106, SB107, 第92図)

SB105、SB108と重複する。SB106は桁行、梁行ともに2間の側柱建物で、SB105とほぼ同方位。柱穴底には当たり痕がみられる。SB107は桁行4間、梁行2間で、柱はやや不揃いである。

##### 108号、109号掘立柱建物(SB108, SB109, 第93図)

SB107、SB113と重なり、ともに桁行3間、梁行2間とみられる。SB108の南東隅は遺構の切り合いにより消失。SB109の西面、南面も切り合いにより柱穴がほとんど検出できなかった。

##### 110号、111号、112号掘立柱建物(SB110, SB111, SB112, 第94図)

SB109の東に位置し、3棟重複する。SB110は桁行、梁行ともに2間の東西棟とみられるが、桁行の柱間間隔は不均一である。SB111も桁行、梁行ともに2間だが、桁行の柱間間隔は梁行の1.5倍ほど広い。SB112は桁行3間、梁行2間とみられ、床面積は中世では最も広い52㎡である。

##### 113号掘立柱建物(SB113, 第95図)

SB112の南西に並立する。北面と西面は柱穴が不明だが、桁行、梁行ともに2間とみられ、SB112の桁行が1間減らしたような建物である。

##### 114号、115号掘立柱建物(SB114, SB115, 第91図)

SB112の北に位置し、SB116～SB119やSD1003と重複するが、ともに消失した柱穴が多く不明な部分が多い。SB114は桁行5間、梁行3間とみられ、東側2間分の桁はやや狭い。SB115は桁行4間、梁行1間を確認したが、南側に延びていたとみられる。

##### 116号掘立柱建物、117号掘立柱建物(SB116, SB117, 第95図)

SB114の西側で重複する建物。SB116は桁行3間、梁行2間で、SD1003との切り合いにより消失した柱穴が多い。SB117は桁行4間、梁行2間の建物で、桁行柱間の広さは不均一である。

##### 118号掘立柱建物(SB118, 第96図)

SB116、SB117と重なる。桁行、梁行ともに2間である。

##### 119号掘立柱建物(SB119, 第90図)

SB116～SB118と重なる桁行、梁行ともに2間の総柱建物。

##### 120号、121号掘立柱建物(SB120, SB121, 第96図)

SB120はD地区北西端で南東隅を検出。SD1003による区画内に方位を描いて建てられたとみられ

る。SB121はC・D地区をまたぐ桁行3間、梁行2間で、SD1003の区画外で方位が揃う。

#### B 欄(第96図)

D地区の大溝より北で、SB103の西側にSA101が位置する。7基の柱穴が並ぶ延長13mだが、柱間の長さは不均一である。SD1003とは方位が揃う。

#### C 溝

1003号溝[平成25年度C地区IH SD3022] (SD1003, 第97図・図版27)

D地区北西でL字に屈曲しC地区南西隅へと延びる区画溝で、最大幅1.22m、深さ64cmを測る。区画内にはSB120や方形土坑、区画外にもSB113、112、121などが方向を揃えて建てられている。

2155号溝[平成25年度A地区IH SD4001] (SD2155, 第97図)

B地区北東隅からA地区の南北を貫く溝で、北に隣接する井口本江遺跡にもこれに続く溝が確認できる。最大幅2.20m、深さ47cmを測り、A地区では溝の東肩部分にテラス状の段を持つ。出土遺物には中世のほか、近世の陶磁器も少量混入しており、中世以降にも使用された可能性がある。

#### D 土坑

1155号土坑(SK1155, 第98図)

SD1003の区画内に位置する方形の土坑である。長辺2.16m、短辺1.74m、深さ40cmで平坦な床面をもつ。西側に重なるSK1160とは埋土が似ており、作り替えと考えられる。

1595号土坑(SK1595, 第98図)

D地区中央付近で、SB105～SB107の東に位置する方形の土坑。長辺2.9m、短辺2.8m、深さ22cmで、SB107やSB112・113、SD1003などと方位が揃う。

1610号土坑(SK1610, 第100図・図版27)

D地区中央西寄り、SD1003の南に位置する方形の土坑。一辺約3m、深さは47cmで、類似した方形土坑のなかでは最も残りが良い。平坦な床面の直上からは珠洲鉢(751・754・757)、弧状のカヤ材(761～763)が3点重なって出土した。

1052号土坑(SK1052, 第99図)

D地区北西隅で、SK1077と切り合う。長辺2.36m、短辺2.08mの不整形形状で、深さは57cm。検出当初は井戸かと考えたが、底部は平坦な面であり、方形土坑の形状に近い。

1046号土坑(SK1046, 第99図)

D地区北東に位置する。長径1.86m、短径1.28mの楕円形を呈し、深さは38cmを測る。埋土からバンドコ(764)が出土した。

1892号土坑(SK1892, 第100図)

D地区中央の大溝北側に位置する。長径2.26m、短径1.84mの不整形形状で、遺構上部が削平され、深さ7cmの埋土が残るのみである。

#### E 井戸

1257号井戸(SE1257, 第101図)

D地区北西、SD1003の区画内に位置する。SD1003と重複するSB114～SB119に伴う可能性がある。長径88cm、短径78cm、深さ1.04mの素掘り井戸で、最下層は地山の礫が混ざる。

1560号井戸(SE1560, 第101図)

D地区北東、SB104の北に位置する。長径1m、短径0.9m、深さ72cmの素掘り井戸で、最下層には炭化物が堆積している。

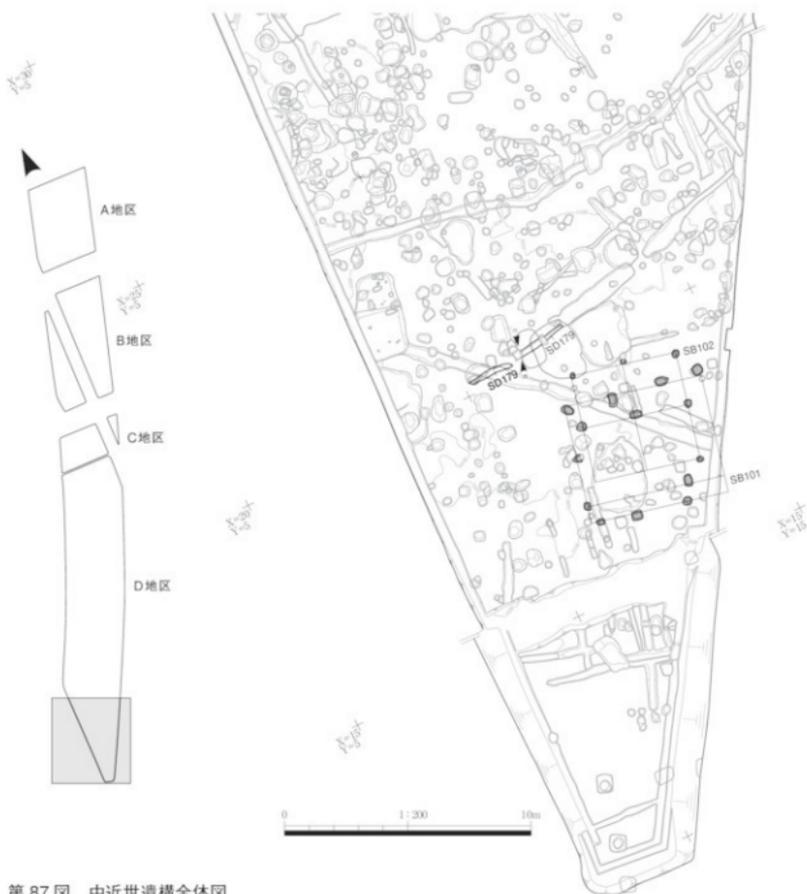
## (2) 遺物

## A 土器・陶磁器(第102・103図・図版47～49)

700～729は中世土師器。700～702は柱状高台をもつ。703～709は口縁部をナデ、底部糸切り痕が残る。710～715はSD1003から出土した。730～736は中国製磁器。730, 731は白磁, 732～735は青磁, 736は青白磁である。737, 738は瀬戸美濃の天目茶碗。739～744は瀬戸。745は瓦質土器。746～760は珠洲で、吉岡編年のⅢ～Ⅴ期が混在する。SK1610で一括出土した鉢751, 754, 757はⅣ期とみられる。

## B 木製品・石製品(第103図・図版50)

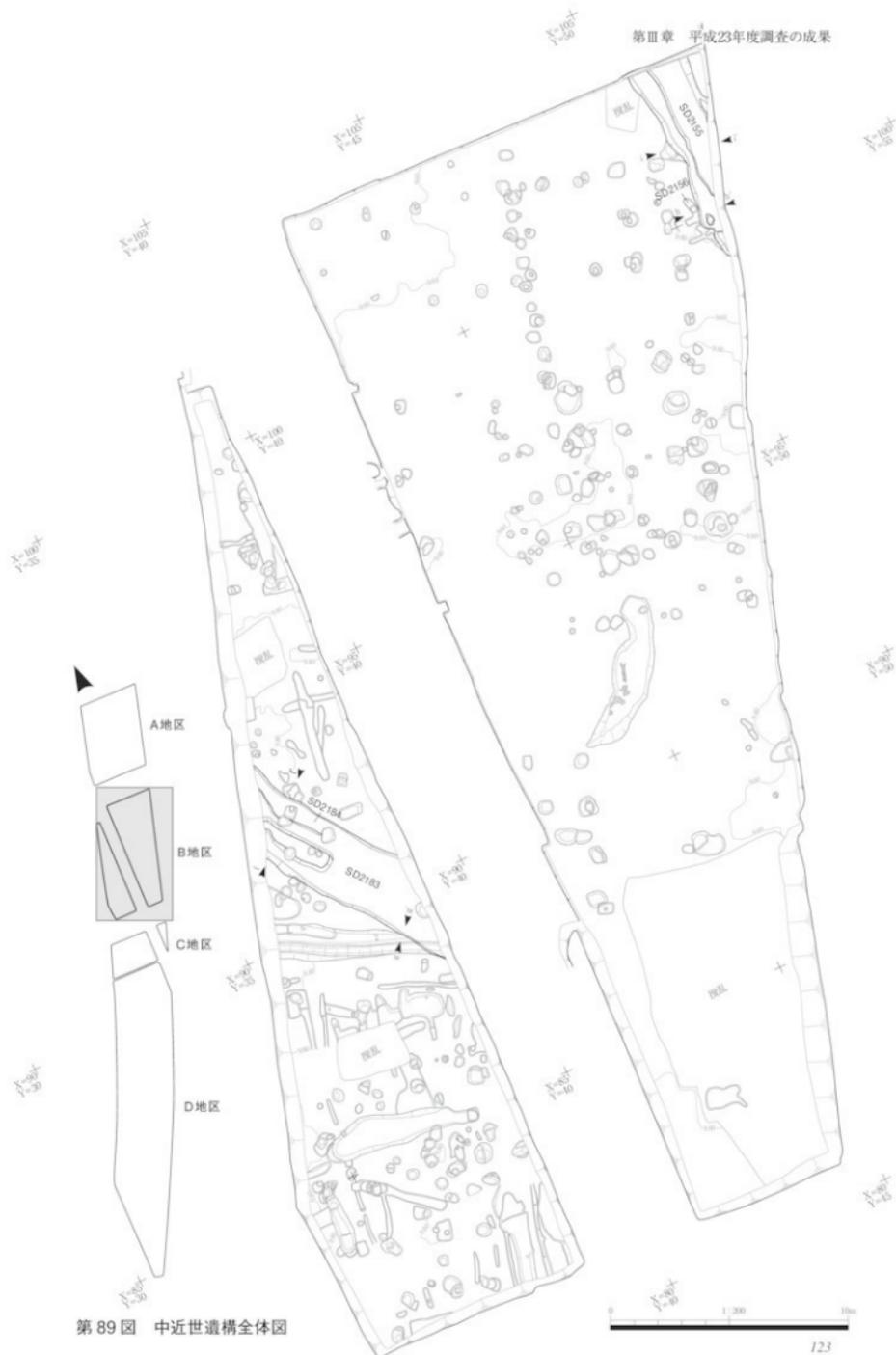
761～763は弧状のカヤ材。SK1610の床面から3本重なって出土したもので、<sup>すくい</sup> <sup>かま</sup> 杵の可能性があり763の端部には圧痕がみられる。764はバンドコとみられ、天井部および側面は欠損しているが火種を入れる内部には黒い焦げ痕が残る。軽石を含む軟質の凝灰岩製で非常に脆い。



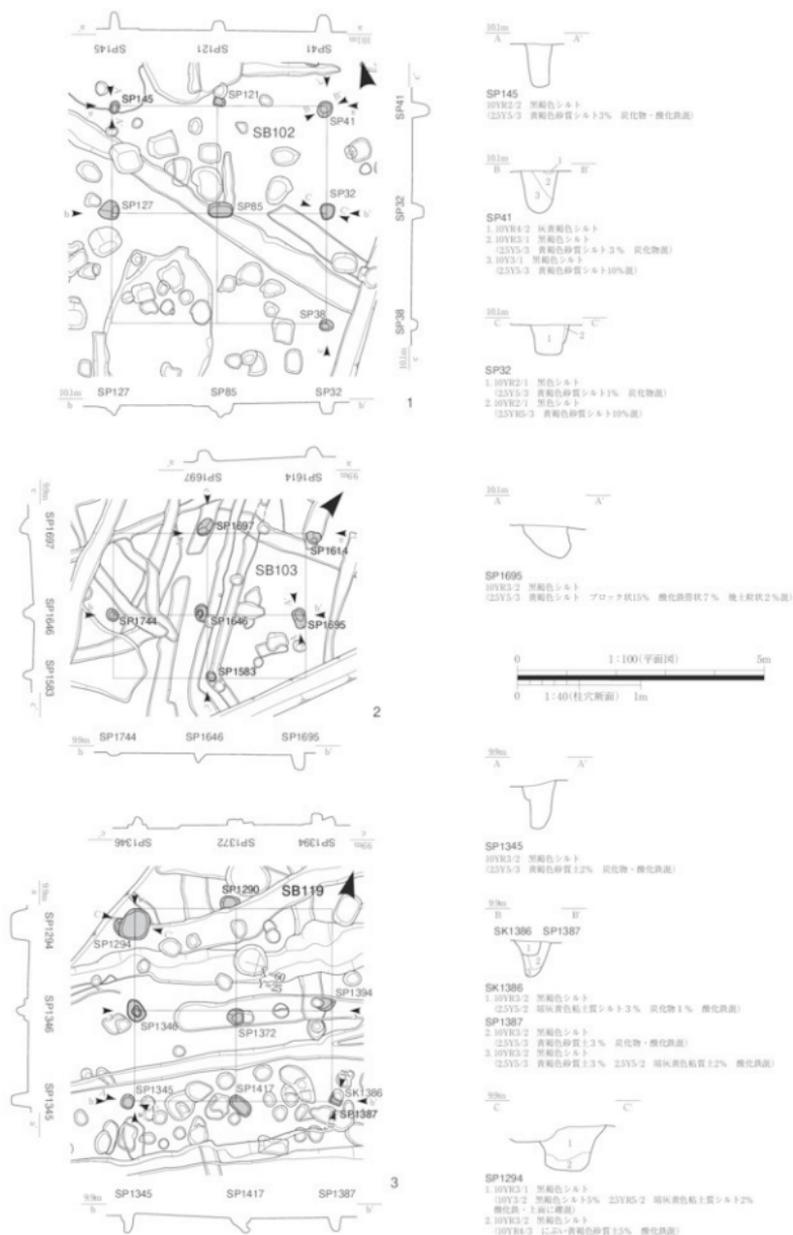
第87図 中近世遺構全体図



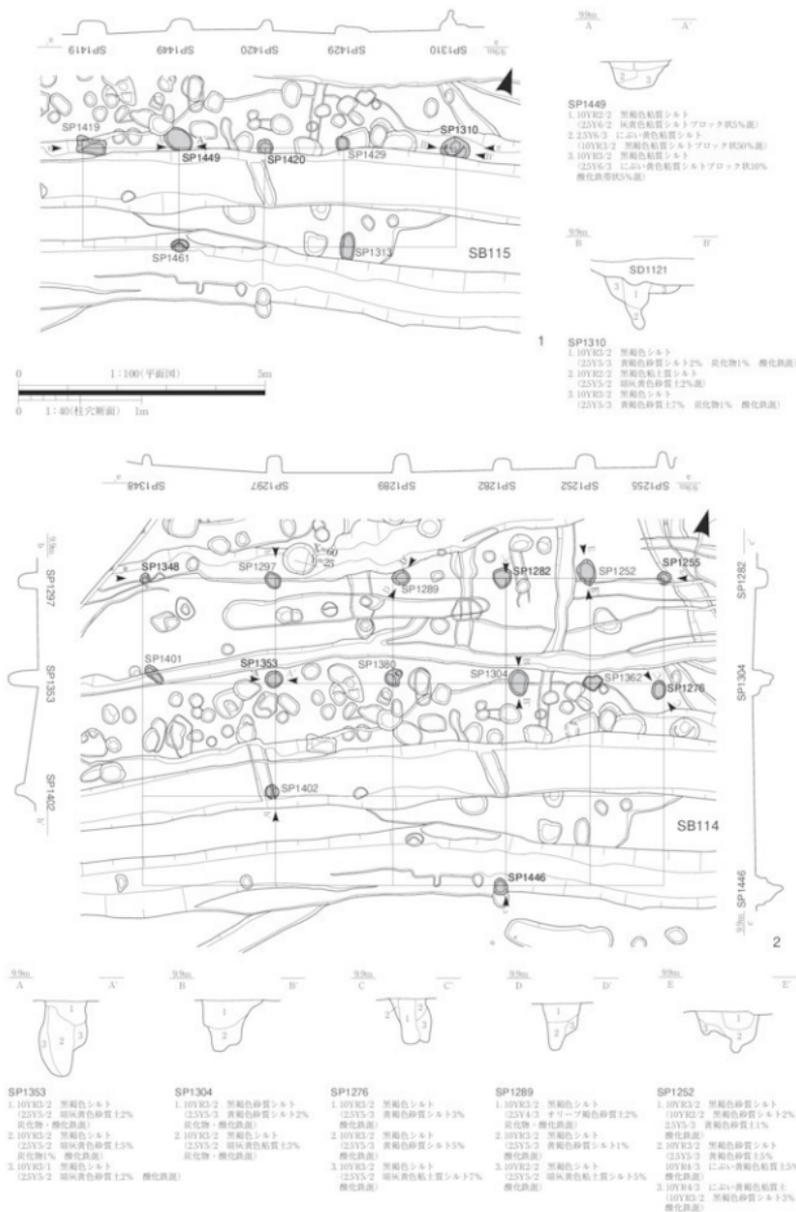
第 88 図 中近世遺構全体図



第 89 図 中近世遺構全体図



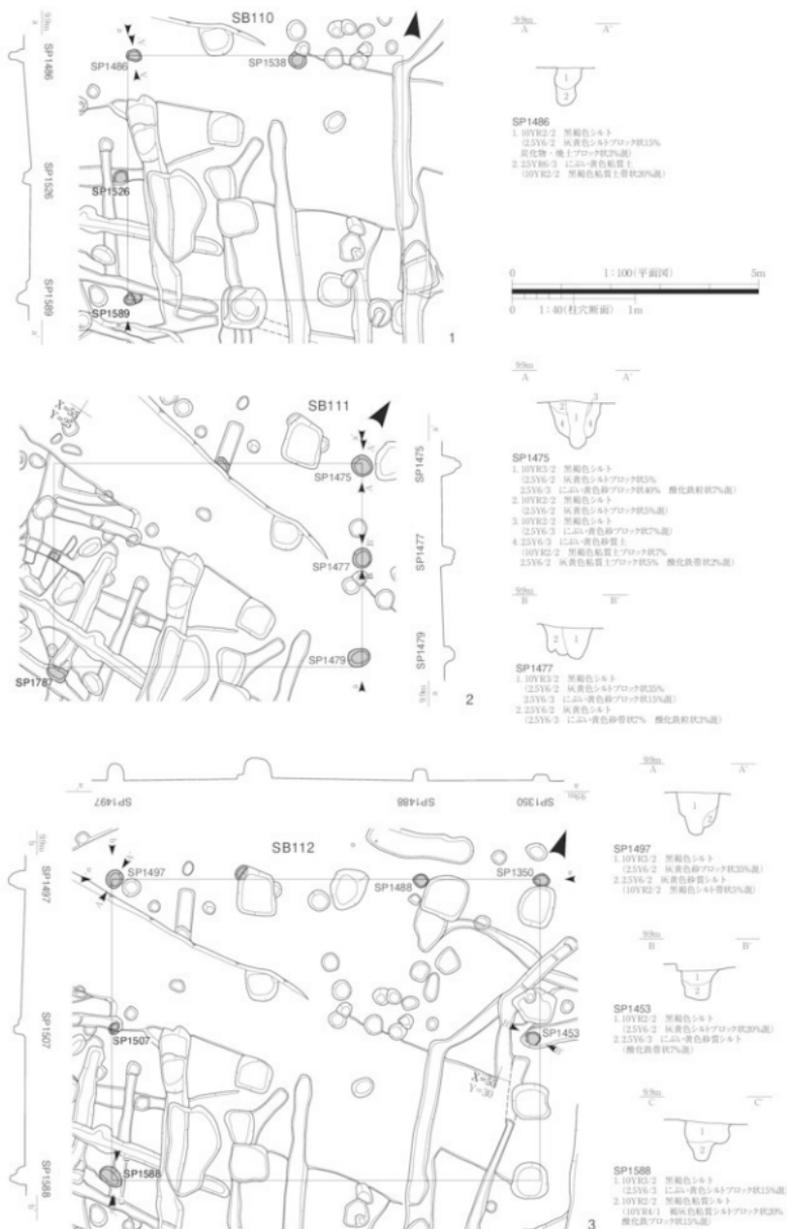
第90図 中近世遺構実測図  
 1. SB102 2. SB103 3. SB119



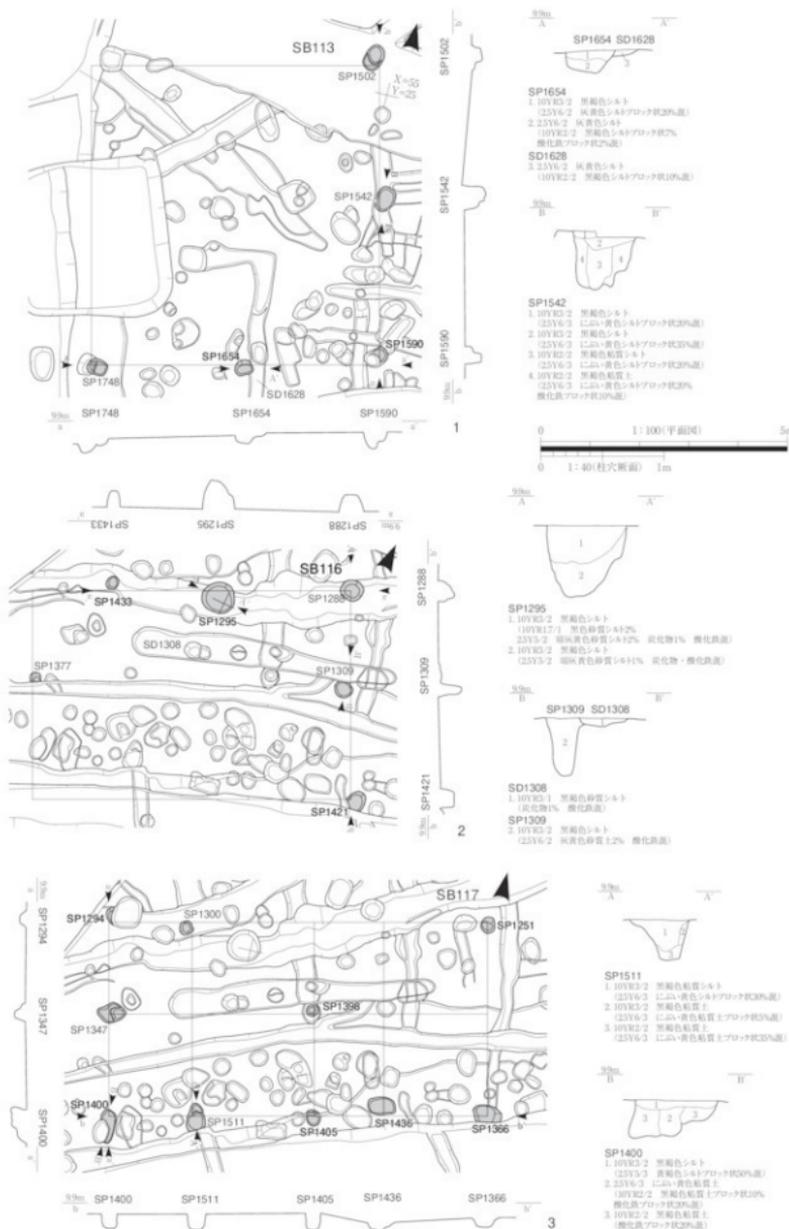
第91図 中近世遺構実測図  
1. SB115 2. SB114



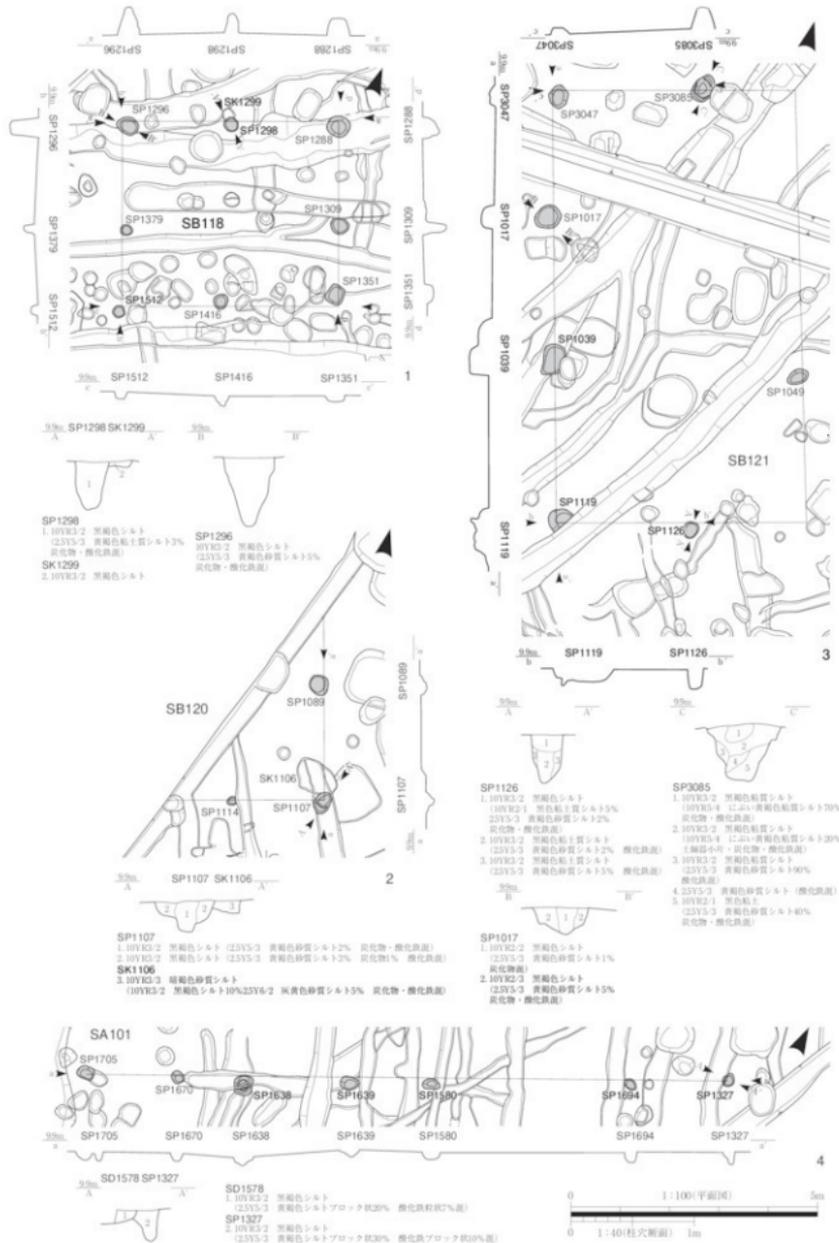




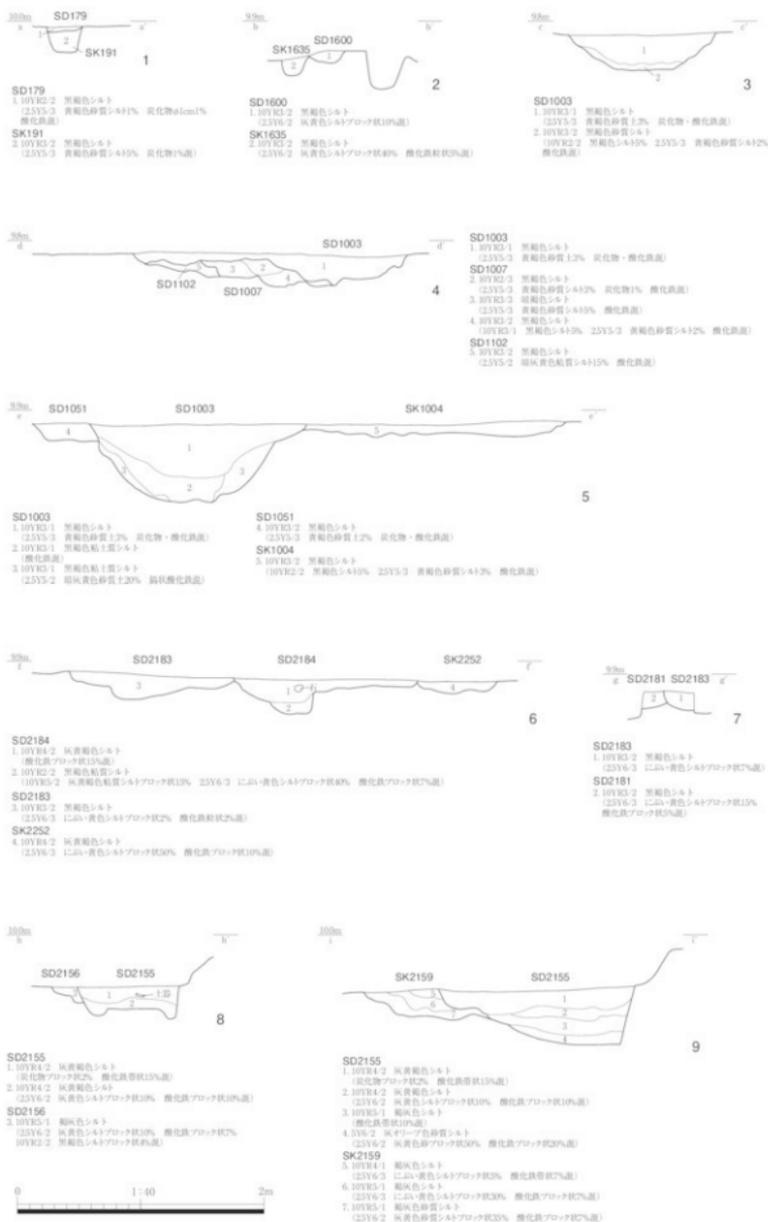
第94図 中近世遺構実測図  
1. SB110 2. SB111 3. SB112



第95図 中近世遺構実測図  
1. SB113 2. SB116 3. SB117

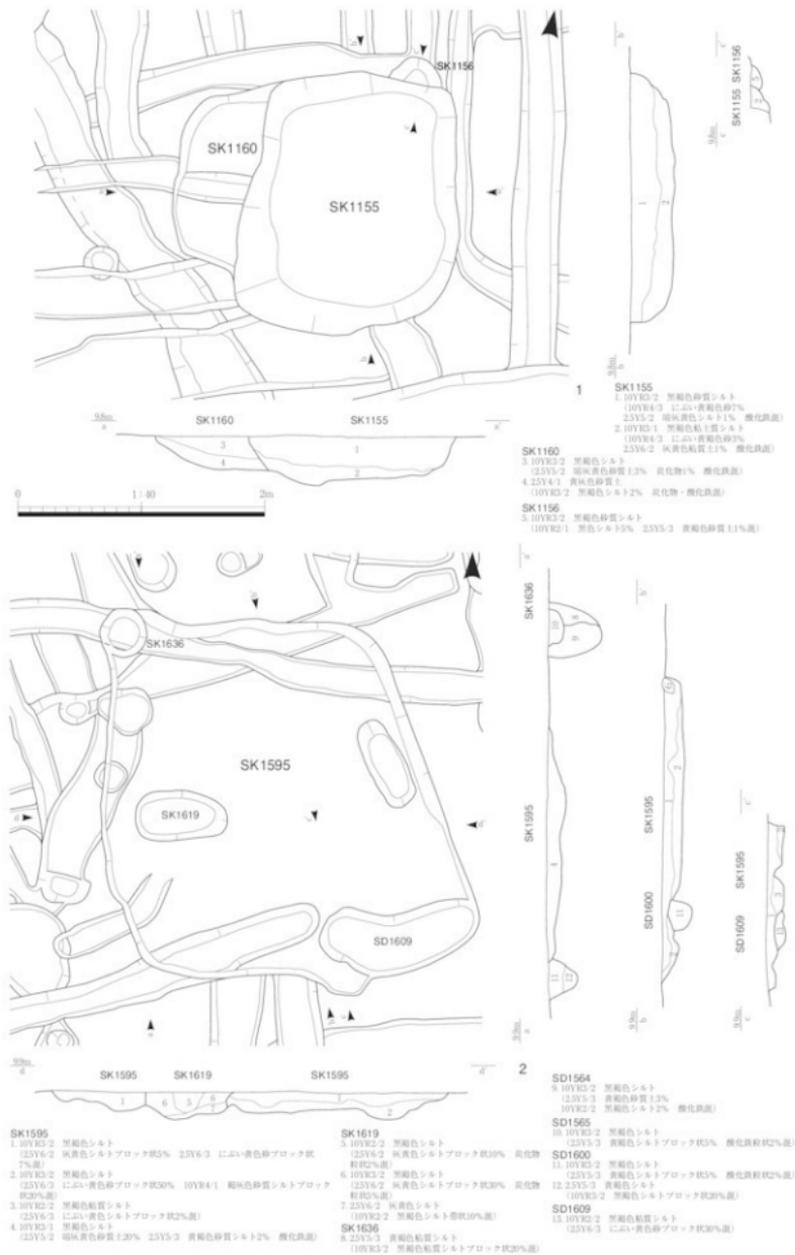


第96図 中近世遺構実測図  
1. SB118 2. SB120 3. SB121 4. SA101



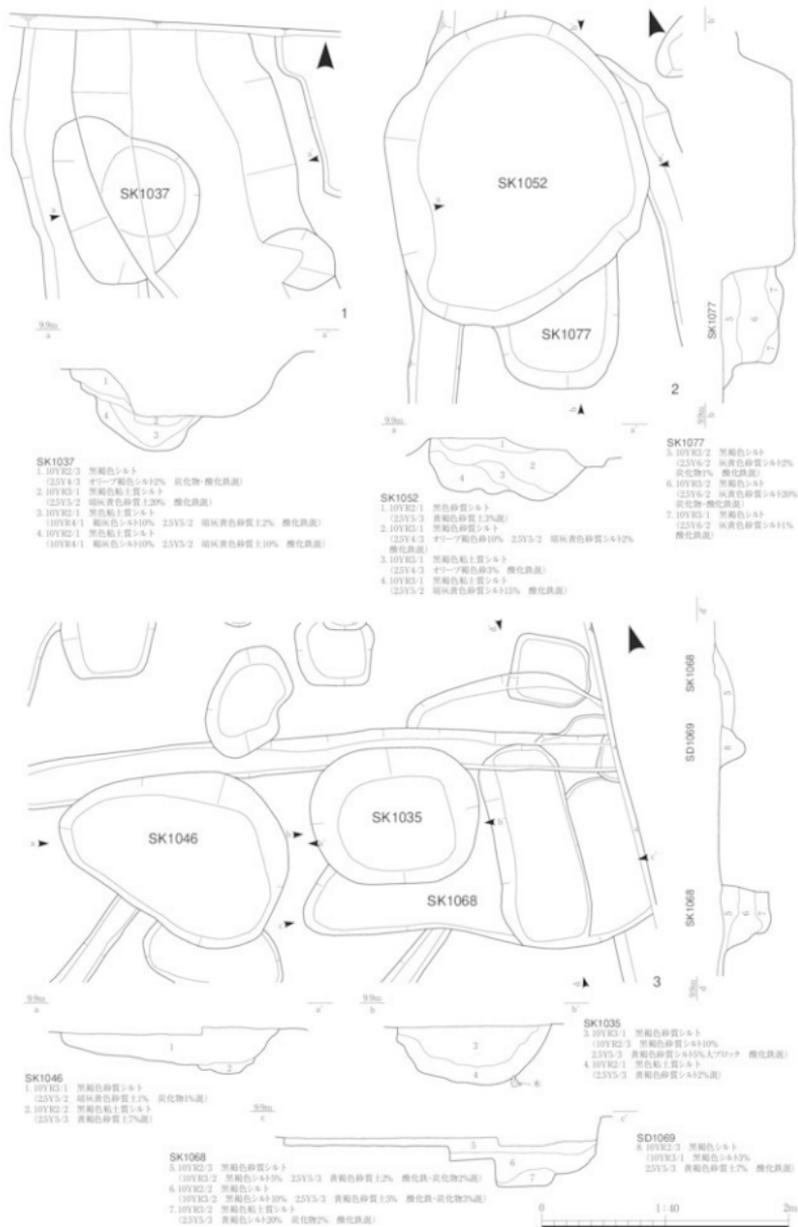
第97図 中近世遺構実測図

1. SD179 2. SD1600 3. SD1003 4. SD1003・SD1007・SD1102 5. SD1003  
6. SD2183・SD2184 7. SD2181・SD2183 8. SD2155・SD2156 9. SD2155



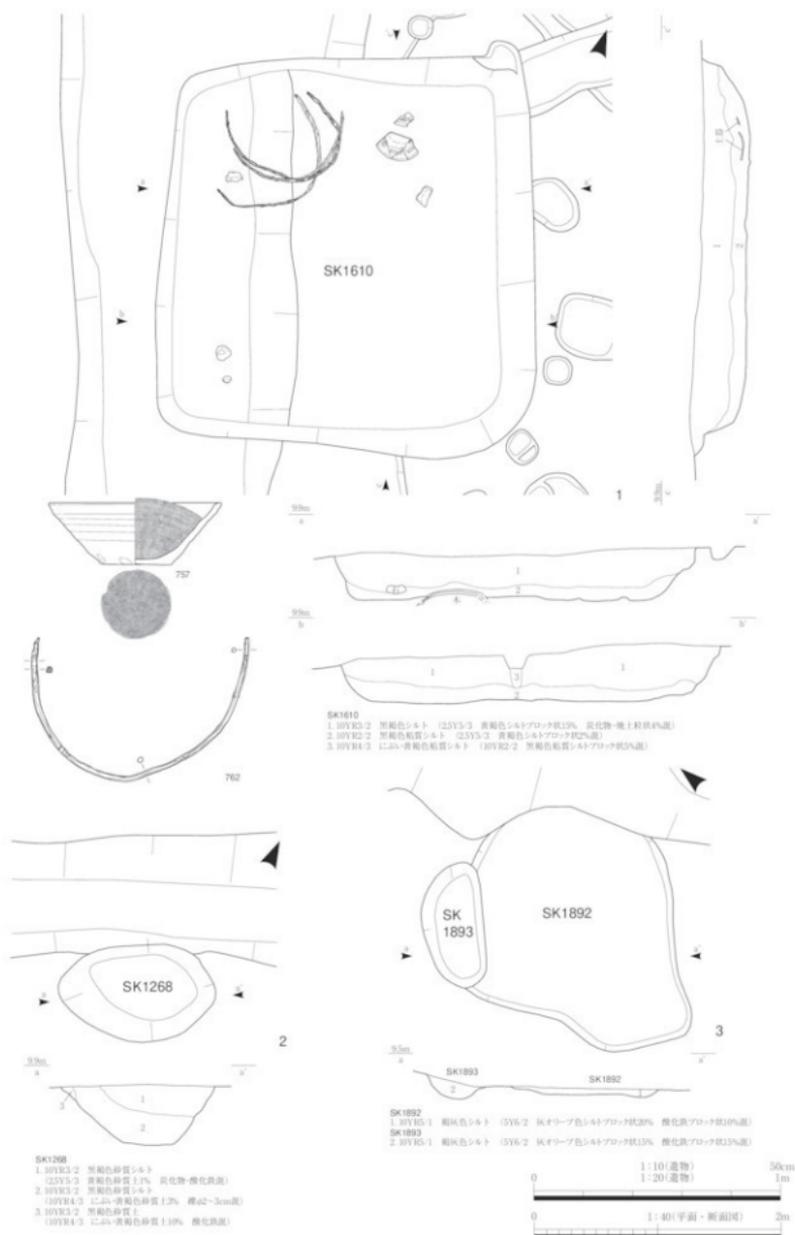
第98図 中近世遺構実測図

1. SK1155・SK1160 2. SK1595



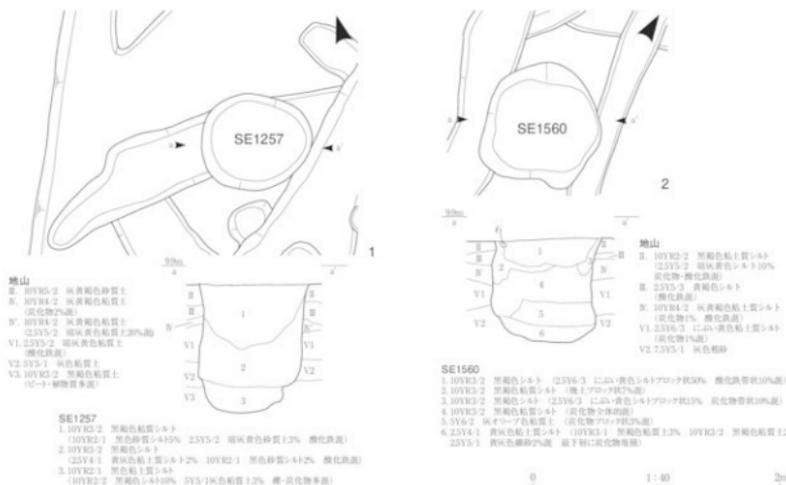
第99図 中世遺構実測図

1. SK1037 2. SK1052・SK1077 3. SK1035・SK1046・SK1068



第100図 中近世遺構実測図

1. SK1610 2. SK1268 3. SK1892・SK1893



第101図 中近世遺構実測図  
 1. SE1257 2. SE1560

第21表 中世溝一覧

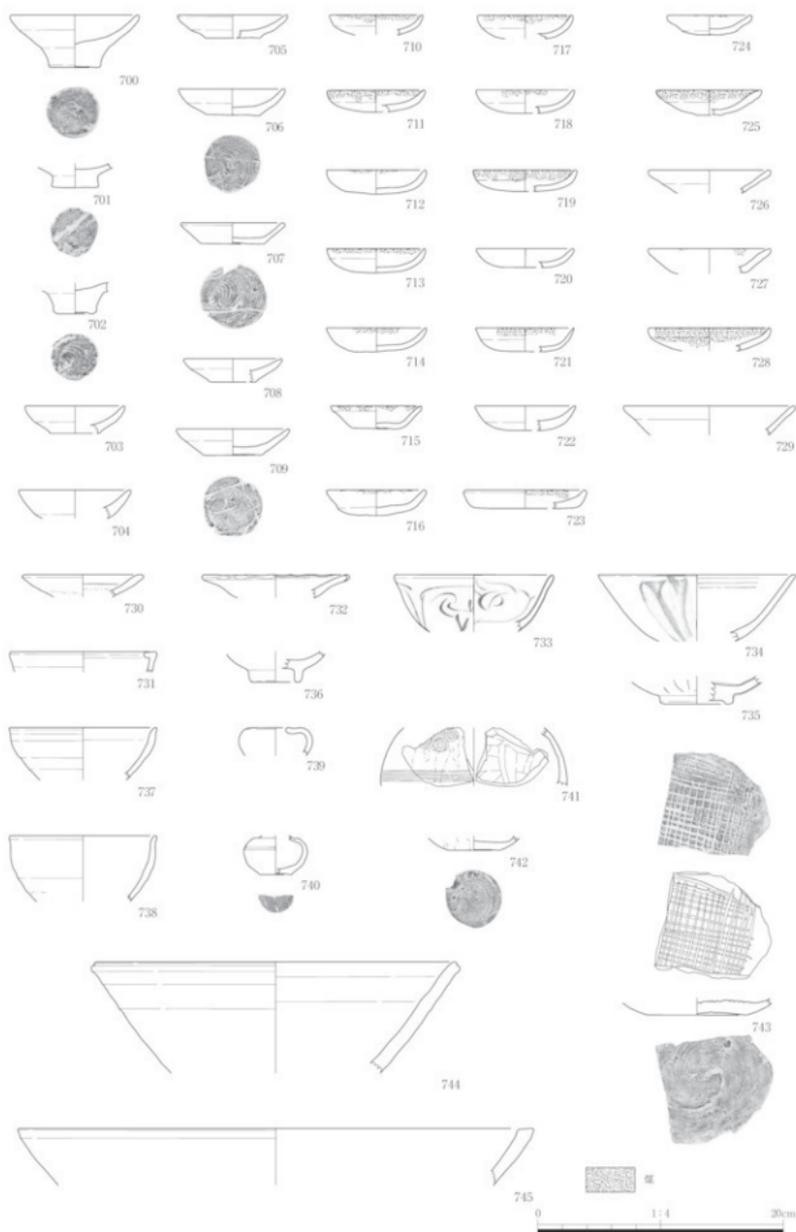
地区	遺構	規模(m)		切り合+	出土遺物	特記事項	検出番号	DB番号
		長さ	幅					
D	SD1279	0.30	0.04		土層部、須恵器(371)、中世土層部		97	
D	SD1003	1.22	0.64	>SK1004, SD1007, SK1033, SK1037, SK1051, SD1102	縄文、土層部(516)、須恵器(85・464)、中世土層部(710・715)、珠洲、磁石、鉄片		97-129	27
D	SD1069	0.28	0.20	>SK1098	土層部、須恵器		99	
D	SD1248	0.52	0.26	<SD1007, SD1247, SD1322, SK1300, SD1321, SK1291, SK1348 >SK1256, SK1290	土層部、須恵器(139・341)、珠洲		88	
D	SD1308	0.54	0.07	>SK1300	土層部、須恵器		95	
D	SD1564	0.26	0.19	>SK1565, SK1636 <SD1565, SK1593, SD1601, SK1685	須恵器		98	
D	SD1565	0.38	0.20	>SD1531, SD1487, SK1636, SD1575, SD1664 <SD1549	土層部、須恵器		98	
D	SD1600	0.36	0.34	<SK1395	土層部、須恵器、青磁		97-98	
B	SD1555	2.20	0.47	>SD1556・SK2159	土層部、須恵器(391・392・468)、伊万里		89-97	
B	SD1283	0.68	0.21	>SK2181	土層部、須恵器(94)、珠洲、磁石		97	

第22表 中世土坑一覧

地区	遺構	平面形	規模(m)			切り合+	出土遺物	特記事項	検出番号	DB番号
			長さ	幅	深さ					
D	SK1033	楕円形	1.32	1.10	0.68		土層部、須恵器、中世土層部		99	
D	SK1037	不整形	1.28	1.12	0.45	<SD1003	土層部、須恵器		99	
D	SK1046	楕円形	1.96	1.28	0.38		土層部、須恵器、ハンダコ		99	
D	SK1052	不整形	2.96	2.08	0.57	>SK1077	土層部、須恵器(381)、珠洲(756)		99	
D	SK1098	不整形	(2.75)	2.29	0.30	<SD1069 >SK1919 <SD1069	土層部、須恵器		99	
D	SK1077	楕円形	0.96	(0.76)	0.50	<SK1052	縄文、土層部、須恵器		99	
D	SK1155	方形	2.16	1.74	0.40	>SD1122, SD1173, SK1156, SD1201, SK1160	土層部、須恵器、珠洲		98	
D	SK1190	楕円形	1.40	(0.62)	0.27	<SK1155 >SD1150	土層部、須恵器		98	
D	SK1398	楕円形	1.36	0.78	0.50	>SD1286	土層部、須恵器、珠洲		100	
D	SK1395	方形	2.90	2.80	0.27	>SD1524, SD1600, SD1621, SK1593, SD1609 <SD1564, SK1619	土層部、須恵器		98	
D	SK1610	方形	3.12	3.00	0.42		縄文、土層部、須恵器、中世土層部、珠洲(751・754・757)、漆碗、土丸		100	27
D	SK1892	不整形	2.26	1.84	0.67		須恵器、中世土層部、珠洲		100	

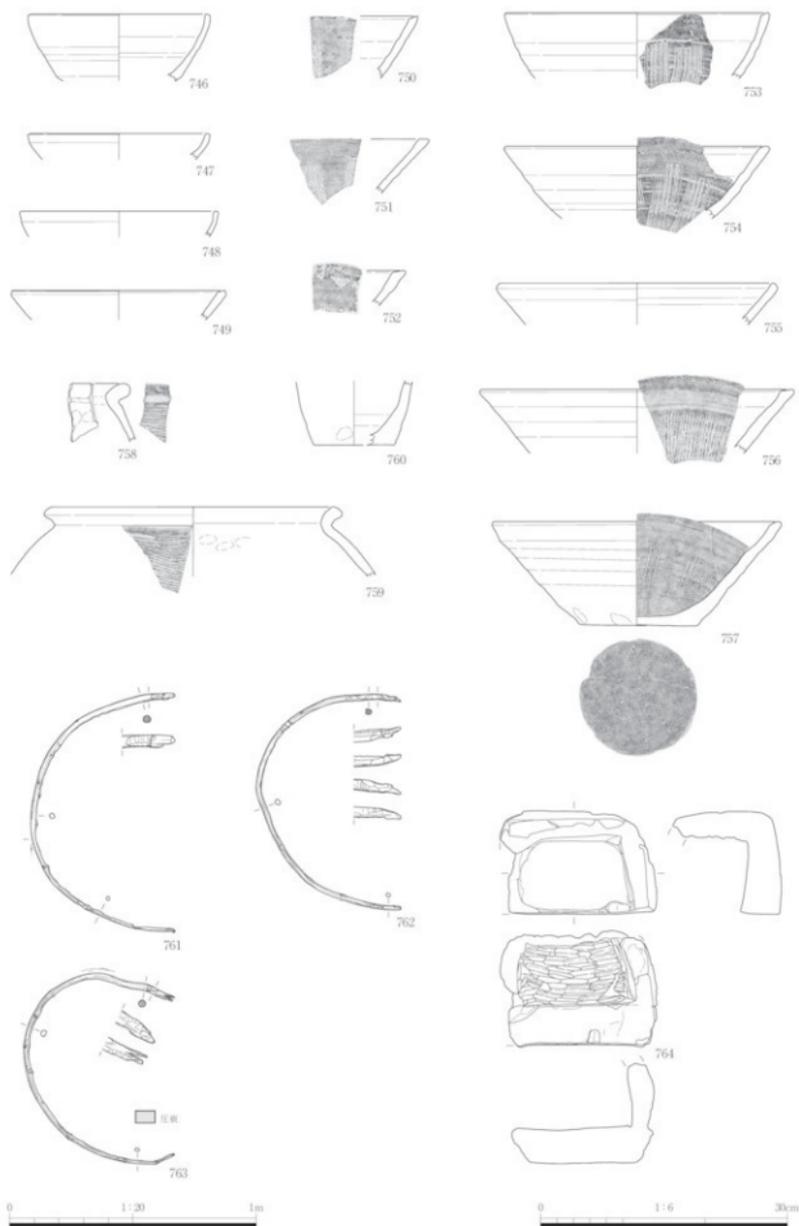
第23表 中世井戸一覧

地区	遺構	平面形	規模(m)			切り合+	出土遺物	特記事項	検出番号	DB番号
			長さ(m)	幅(m)	深さ(m)					
D	SE1257	楕円形	0.88	0.78	1.04		土層部、須恵器(128)、珠洲、木製品、磁物		101	
D	SE1560	楕円形	0.99	0.91	0.72		土層部、須恵器、中世土層部(716)、珠洲、磁石、鉄片、木製品		101	



第102図 遺物実測図 (1/4)

SP46(700) SP38(701) 大溝(702・705~707・729) SD1003(710~715) SE1560(716) 包含層



第103図 遺物実測図 (746~760 1/6, 761~763 1/20)  
 SK1610(751・754・757) SD1052(756) SK1610(761~763) SK1046(764) 包含層

第24表 中世掘立柱建物一覽

建物番号	地区	方位	掘立柱数	掘立柱(m)			掘立柱(m)			面積(m <sup>2</sup> )	方位	特記	備考	採回番号	図版番号				
				平均	最大	掘立柱間隔(m)	平均	最大	掘立柱間隔(m)										
SB001	D	3	2	1.98	2.08	1.6	1.88	1.64	2.24	1.96	21	42	23688	N-13°-E	SP24 SP43 SP40 SP64 SP125 SP135 SP148 SP29 SP25 SP130	南側北向き	92		
SB002	D	2	2	2.1	2.1		2.26	4.4	2.2	2.1	2.15	4.3	1832	N-15°-E	SP13 SP28 SP41 SP63 SP121 SP127 SP145		90		
SB003	D	2	2	2	1.96		1.90	3.86	1.60	1.20	1.47	2.94	11348	N-40°-W	SP190 SP184 SP186 SP185 SP167 SP174		90		
SB004	D	2	1	2.04	1.94		1.81	3.68	1.71		1.71	1.71	6.90	N-8°-E	SP128 SP130 SP125 SP197		93		
SB005	D	2	2	2.2	2		2.10	4.2	2.2	2.27	2.25	4.7	18774	N-5°-W	SP162 SP160 SP167 SP162 SP170 SP178 SP172 SP178 SP163	北側と南側(構内)掘立柱本々	93		
SB006	D	2	2	2.52	2.7		2.61	5.22	2.34	2.36	2.25	4.5	23.49	N-6°-W	SP162 SP160 SP167 SP162 SP170 SP178 SP172 SP178 SP163		92		
SB007	D	4	2	1.56	1.18	1.8	1.61	4.12	2.11	2.06	21	42	25701	N-18°-W	SP162 SP160 SP160 SP160 SP1713 SP1716 SP1717 SP1719 SP1720 SP1726 SP1871		92		
SB008	D	3	2	2.08	2.08	2.32	2.09	7.68	2.54	1.9	2.22	4.41	31321	N-6°-E	SP150 SP150 SP160 SP160 SP167 SP169 SP168 SP122 SP171		93		
SB009	D	3	2	1.91	1.21	1.36	1.67	6.68	2.5	2.72	2.61	5.22	31630	N-41°-E	SP150 SP150 SP160 SP160 SP167 SP169 SP168 SP122 SP171		93		
SB010	D	2	2	2.42	2.5		2.36	4.92	1.5	2.1	2.8	5.6	27552	N-8°-W	SP196 SP126 SP138 SP150		91		
SB011	D	2	2	2	2.08	3.1	3.11	6.28	1.9	2.2	2.03	4.1	25788	N-32°-W	SP173 SP177 SP178 SP186		91		
SB012	D	2	2	2.6	3.6	2.41	2.88	8.61	3.12	2.98	3.05	6.1	52701	N-18°-W	SP120 SP143 SP198 SP197 SP1507 SP198		91		
SB013	D	2	2	3.31	2.21		3.04	6.08	2.78	3.02	2.9	5.8	35261	N-11°-W	SP192 SP152 SP190 SP190 SP1748		95		
SB014	D	5	3	2.63	2.05	2.1	1.7	10.2	2.25	2.22	1.79	2.25	6.21	6332	N-15°-W	SP122 SP125 SP129 SP129 SP129 SP129 SP130 SP138 SP133 SP130 SP130 SP149 SP142 SP146		91	
SB015	D	4	1	2.21	1.61	1.7	1.96	1.89	3.74	2.06		2.06	15.53	N-16°-W	SP138 SP131 SP149 SP140 SP142 SP149		91		
SB016	D	3	2	2.7	2.14	1.66	2.17	6.5	1.98	2.22	2.1	4.2	27.3	N-21°-W	SP128 SP126 SP130 SP137 SP137 SP137 SP143		95		
SB017	D	4	2	1.72	2.36	1.68	2.11	1.92	7.86	2.08	1.81	1.96	3.92	30106	N-13°-W	SP151 SP129 SP130 SP137 SP136 SP136 SP136 SP140 SP145 SP136 SP131		95	
SB018	D	2	2	2	2.14	2.2	2.17	4.31	2.08	1.58	1.83	3.66	15.881	N-19°-W	SP128 SP126 SP128 SP130 SP133		91		
SB019	D	2	2	2.04	1.92		1.98	2.06	1.8	2.08	1.96	3.88	15.361	N-15°-W	SP120 SP124 SP145 SP136 SP137 SP138 SP137 SP1417		90		
SB020	D	1	1	2.1			2.0	2.4	1.85		1.85	1.85	1.41	N-12°-W	SP198 SP149 SP111		91		
SB021	C-D	3	2	2.5	3.0	3.3	2.9	8.8	2.3	2.7	2.5	5	11	N-16°-W	SP112 SP108 SP109 SP119 SP118 SP194 SP195	掘立柱上の合成	96		
S1018	C-D	6	3	1.86	1.38	2.1	1.66	4	2	1.75	1.3			N-61°-E	SP132 SP190 SP1838 SP1839 SP1870 SP1884 SP1235		96		

第25表 中世柱穴一覽(1)

地区	遺構	建物番号	平面形	規模(m)			切り合ひ	出土遺物	特記事項	採回番号	図版番号
				長さ	幅	深さ					
D	SP24	101	楕円形	0.49	0.35	0.31		土師器		92	
D	SP29	101	方形	0.44	0.38	0.34		土師器	瓦	92	
D	SP25	101	円形	0.38	0.36	0.04		須恵器	瓦	92	
D	SP43	101	楕円形	0.53	0.28	0.17					
D	SP60	101	円形	0.44	0.42	0.25		須恵器		92	
D	SP64	101	方形	0.34	0.36	0.16		土師器、伊万里		92	
D	SP125	101	円形	0.31	0.29	0.30		土師器		92	
D	SP130	101	楕円形	0.35	0.26	0.18		土師器、須恵器	瓦	92	
D	SP135	101	楕円形	0.53	0.27	0.27				92	
D	SP148	101	楕円形	0.58	0.32	0.23		縄文、須恵器(159-174)		93	
D	SP12	102	円形	0.34	0.30	0.34		土師器、中野土師器		90	
D	SP98	102	円形	0.28	0.24	0.13		中世土師器(201)		90	
D	SP41	102	円形	0.32	0.32	0.34		須恵器		90	
D	SP85	102	楕円形	0.51	0.32	0.26				90	
D	SP121	102	楕円形	0.24	0.16	0.19				90	
D	SP127	102	楕円形	0.44	0.38	0.20				90	
D	SP145	102	楕円形	0.26	0.30	0.35				93	
D	SP183	103	円形	0.23	0.30	0.12				90	
D	SP1614	103	楕円形	0.31	0.24	0.17				90	
D	SP1646	103	楕円形	0.26	0.24	0.18	<SD1205			90	
D	SP1695	103	楕円形	0.42	0.25	0.28				90	
D	SP1697	103	楕円形	0.40	0.25	0.15				93	
D	SP1744	103	円形	0.28	0.24	0.06				90	
D	SP1328	104	円形	0.42	0.40	0.32		土師器、柱		93	
D	SP1330	104	円形	0.35	0.28	0.13				93	
D	SP1435	104	楕円形	0.64	0.53	0.47	<SK1334	漆器		93	
D	SP1297	104	円形	0.20	0.20	0.46				93	
D	SP1824	105	円形	0.60	0.57	0.18		土師器		93	
D	SP1659	105	楕円形	0.44	0.38	0.20	>SD1457			93	
D	SP1625	105	楕円形	0.38	0.36	0.12				93	
D	SP1682	105	円形	0.34	0.29	0.13				93	
D	SP1707	105	楕円形	0.53	0.44	0.25	>SK1706			93	
D	SP1708	105	楕円形	0.52	0.37	0.28				93	
D	SP1712	105	楕円形	0.55	0.36	0.41		土師器		93	
D	SP1718	105	楕円形	0.36	0.24	0.14				93	
D	SP1873	105	円形	0.38	0.36	0.23		土師器		93	
D	SP1637	106	円形	0.46	0.42	0.17				92	
D	SP1663	106	円形	0.34	0.34	0.12				92	
D	SP1692	106	円形	0.40	0.37	0.18				92	
D	SP1678	106	円形	0.36	0.24	0.12				92	
D	SP1681	106	円形	0.32	0.30	0.20				92	
D	SP1709	106	楕円形	0.48	0.38	0.15				92	
D	SP1713	106	107	楕円形	0.42	0.30	0.21	縄文		92	
D	SP1632	107	楕円形	0.50	0.44	0.46				92	
D	SP1655	107	楕円形	0.32	0.30	0.25	<SK1666			92	
D	SP1660	107	楕円形	0.46	0.40	0.24	>SD1661			92	
D	SP1693	107	円形	0.25	0.24	0.16				92	

第25表 中世柱穴一覽(2)

地区	遺構	建物番号	平面形	長さ 幅(1m)	深さ	切り合い	出土遺物	特記事項	調査番号	国版番号
D	SP1716	107	横内形	0.30	0.34	0.20				92
D	SP1747	107	横内形	0.40	0.30	0.19				92
D	SP1749	107	方形	0.46	0.36	0.21	<SP1748			92
D	SP1765	107	円形	0.18	0.18	0.06				92
D	SP1796	107	円形	0.37	0.32	0.33				92
D	SP1874	107	横内形	0.46	0.28	0.19				92
D	SP1804	108	横内形	0.38	0.25	0.33				93
D	SP1556	108	円形	0.26	0.24	0.09				93
D	SP1905	108	横内形	0.54	0.36	0.11		土師器		93
D	SP2636	108/109	方形	0.56	0.52	0.08	>SD1628			93
D	SP1659	108	横内形	0.44	0.36	0.18				93
D	SP1684	108	横内形	0.33	0.22	0.21				93
D	SP1722	108	横内形	0.36	0.26	0.14				93
D	SP1771	108	横内形	0.40	0.32	0.31				93
D	SP1510	109	円形	0.34	0.32	0.19		土師器(S21)		93
D	SP1527	109	横内形	0.52	0.30	0.15				93
D	SP1906	109	横内形	0.38	0.28	0.25	>SK1622	土師器		93
D	SP1756	109	横内形	0.30	0.24	0.30				93
D	SP1729	109	円形	0.22	0.19	0.10				93
D	SP1784	109	横内形	0.38	0.26	0.18				93
D	SP1789	109	横内形	0.64	0.30	0.26	>NK1788, SD1604			93
D	SP1486	110	横内形	0.30	0.24	0.30				94
D	SP1526	110	円形	0.30	0.24	0.12				94
D	SP1538	110	横内形	0.36	0.26	0.19				94
D	SP1580	110	横内形	0.39	0.26	0.18				94
D	SP1475	111	円形	0.44	0.42	0.40				94
D	SP1477	111	円形	0.40	0.38	0.25				94
D	SP1479	111	横内形	0.44	0.38	0.30				94
D	SP1787	111	横内形	0.44	0.30	0.11				94
D	SP1396	112	横内形	0.34	0.31	0.13		横土師器		94
D	SP1453	112	円形	0.32	0.30	0.34		土師器		94
D	SP1488	112	円形	0.30	0.28	0.22				94
D	SP1897	112	円形	0.38	0.34	0.35				94
D	SP1307	112	円形	0.26	0.22	0.16				94
D	SP1688	112	横内形	0.50	0.34	0.32				94
D	SP1502	113	横内形	0.54	0.36	0.20				95
D	SP1542	113	横内形	0.50	0.34	0.46				95
D	SP1900	113	横内形	0.46	0.24	0.23	>SK1591			95
D	SP1654	113	横内形	0.38	0.30	0.19	>SD1628			95
D	SP1748	113	横内形	0.42	0.32	0.12	>SP1749			92-95
D	SP1552	114	横内形	0.53	0.36	0.33				91
D	SP1555	114	円形	0.28	0.28	0.11	<SD1249	土師器, 須恵器		91
D	SP1276	114	横内形	0.40	0.28	0.37	<SD1272	土師器		91
D	SP1282	114	円形	0.40	0.38	0.22				91
D	SP1289	114	円形	0.36	0.32	0.38		土師器, 須恵器		91
D	SP1297	114	横内形	0.38	0.30	0.37		縄文, 土師器		91
D	SP1304	114	横内形	0.34	0.36	0.11				91
D	SP1348	114	円形	0.22	0.20	0.14	>SD1248	土師器		91
D	SP1353	114	円形	0.36	0.34	0.62		土師器		91
D	SP1362	114	不整形	0.34	0.34	0.14		土師器		91
D	SP1380	114	不整形	0.38	0.32	0.30				91
D	SP1401	114	横内形	0.30	0.18	0.36				91
D	SP1402	114	円形	0.28	0.28	0.15				91
D	SP1446	114	横内形	0.34	0.26	0.55	>SK1447	珠石		91
D	SP1310	115	横内形	0.60	0.30	0.37				91
D	SP1313	115	横内形	0.56	0.30	0.23				91
D	SP1419	115	方形	0.58	0.30	0.25				91
D	SP1420	115	円形	0.32	0.29	0.20	>SP1421	横土師器		91
D	SP1428	115	横内形	0.290	0.26	0.13	>SK1430			91
D	SP1449	115	横内形	0.58	0.42	0.22				91
D	SP1461	115	横内形	0.36	0.26	0.17				91
D	SP1288	116	118	円形	0.45	0.43	0.33		土師器, 中世土師器	95-96
D	SP1295	116	円形	0.68	0.64	0.59		土師器, 珠石		95
D	SP1309	116	118	円形	0.38	0.34	0.47	<SD1308	土師器	95-96
D	SP1377	116	横内形	0.22	0.20	0.07				95
D	SP1421	116	横内形	0.40	0.37	0.15	<SP1430			95
D	SP1433	116	円形	0.28	0.25	0.07				95
D	SP1251	117	円形	0.33	0.31	0.14				95
D	SP1294	117	119	不整形	0.20	0.65	0.36		土師器	90-95
D	SP1300	117	方形	0.27	0.27	0.21	<SD1248			95
D	SP1247	117	方形	0.47	0.38	0.21		横土師器		95
D	SP1366	117	横内形	0.56	0.36	0.23	<SD1221			95
D	SP1398	117	横内形	0.40	0.37	0.36				95
D	SP1400	117	横内形	0.64	0.16	0.31		土師器		95
D	SP1405	117	円形	0.30	0.28	0.21				95
D	SP1436	117	横内形	0.56	0.36	0.15				95
D	SP1511	117	横内形	0.53	0.36	0.23				95
D	SP1296	118	横内形	0.41	0.36	0.56		土師器, 須恵器		96
D	SP1298	118	円形	0.30	0.28	0.39	>SK1299	土師器		96
D	SP1379	118	円形	0.25	0.22	0.22		土師器		96
D	SP1351	118	方形	0.40	0.35	0.18				96
D	SP1416	118	円形	0.30	0.28	0.22				96
D	SP1512	118	円形	0.24	0.24	0.14				96
D	SP1290	119	横内形	0.40	0.25	0.10	<SD1248	土師器		96
D	SP1345	119	円形	0.28	0.26	0.36				90
D	SP1346	119	横内形	0.48	0.35	0.17				90
D	SP1372	119	円形	0.35	0.34	0.12	>SK1373			90
D	SP1387	119	横内形	0.26	0.10	0.23	<SK1386			90
D	SP1394	119	横内形	0.38	0.30	0.19	<SK1393	土師器, 須恵器		90
D	SP1417	119	横内形	0.50	0.26	0.39				90

第25表 中世柱穴一覽(3)

地区	遺構	発掘番号	平面形	風船(m)			切欠合	出土遺物	特記事項	採回番号	図版番号
				長さ	幅	深さ					
D	SP1089	120	円形	0.40	0.40	0.13				96	
D	SP1107	120	楕円形	0.46	0.32	0.25	>SK106			96	
D	SP1114	120	円形	0.20	0.18	0.16	<SD1113			96	
D	SP1017	121	円形	0.52	0.48	0.22		土師器、須恵器		96	
D	SP1039	121	楕円形	0.62	0.34	0.28	>SK109, SK104	縄文・土師器、須恵器		96	
D	SP1049	121	楕円形	0.46	0.28	0.21		土師器、須恵器		96	
D	SP1119	121	楕円形	0.52	0.36	0.34	<SD1025	土師器、須恵器		96	
D	SP1136	121	楕円形	0.34	0.30	0.40		土師器		96	
C	S.P.3047	121	楕円形	0.48	0.40	0.15				96	
C	S.P.3085	121	楕円形	0.60	0.40	0.46		土師器、須恵器、土師(1000)		96	
D	SP1257	SA101	円形	0.28	0.24	0.25	<SD1578			96	
D	SP1280	SA101	円形	0.24	0.21	0.15	>SD1575			96	
D	SP1638	SA101	円形	0.42	0.32	0.17				96	
D	SP1639	SA101	楕円形	0.38	0.27	0.16	>SD457, SD1561			96	
D	SP1670	SA101	円形	0.27	0.24	0.15				96	
D	SP1694	SA101	楕円形	0.28	0.20	0.20	>SD1573	土師器		96	
D	SP1705	SA101	楕円形	0.35	0.26	0.17	>SK1727			96	

第26表 中世土器・陶磁器一覽

採回番号	図版番号	遺構	出土地点	層位	種類	器種	口径	高さ	重量	時期	形状・色・胎		胎土	備考
											胎土色調	表面・胎土色調		
261	261	SP98	大溝	1	中世土師器	瓶	102	4.3	4.0	12世紀中～13世紀前半	109.98.2	灰白色		相次高木・瀬田地区発掘品
262	262	SP98	大溝	1	中世土師器	瓶	-	240	3.8	12世紀中～13世紀前半	109.98.2	灰白色	褐色	相次高木・瀬田地区発掘品
263	263	大溝	SA1119	1	中世土師器	瓶	-	240	3.8	12世紀中～13世紀前半	109.98.2	灰白色		相次高木・瀬田地区発掘品
264	264	SA1119	1	中世土師器	瓶	8.0	23	4.0		2577.1	灰白色			
265	265	SA1119	1	中世土師器	瓶	8.0	23.5			2577.1	灰白色			
266	266	大溝	SA1039	1	中世土師器	瓶	8.8	1.9	4.4	12世紀中～13世紀後半	109.97.2	灰白色		相次高木・瀬田地区発掘品
267	267	大溝	SA1039	1	中世土師器	瓶	8.5	2.2	4.5	12世紀中～13世紀後半	109.97.2	11.0系・黄褐色		相次高木・瀬田地区発掘品
268	268	大溝	SA1039	1	中世土師器	瓶	8.2	1.7	3.1	12世紀中～13世紀後半	109.97.2	11.0系・黄褐色		相次高木・瀬田地区発掘品
269	269	SA1039	1	中世土師器	瓶	7.8	1.9	3.7	12世紀中～13世紀後半	109.97.2	11.0系・黄褐色			
270	270	SA1039	1	中世土師器	瓶	8.0	2.2	4.3	13世紀中～13世紀後半	109.97.2	11.0系・黄褐色			
271	271	SD1080	SA1032	1	中世土師器	瓶	7.4	1.16	-	13世紀・14世紀	109.98.2	灰白色		13世紀・大谷倉
272	272	SD1080	SA1032	1	中世土師器	瓶	7.9	1.8	3.5	13世紀・14世紀	109.95.1	褐色		13世紀・大谷倉
273	273	SD1080	SA1032	1	中世土師器	瓶	8.0	2.0	4.5	13世紀・14世紀	109.98.2	灰白色		13世紀・大谷倉
274	274	SD1080	SA1032	1	中世土師器	瓶	8.0	2.0	4.0	13世紀・14世紀	7.5.108.2	灰白色		13世紀・大谷倉
275	275	SD1080	SA1032	1	中世土師器	瓶	7.4	1.9	3.6	13世紀・14世紀	109.98.2	灰白色		相次高木・瀬田地区発掘品、13世紀・大谷倉
276	276	SD1080	SA1032	1	中世土師器	瓶	7.8	2.1	4.0	13世紀・14世紀	7.5.107.1	11.0系・黄褐色	褐色胎	13世紀・大谷倉
277	277	SA1032	1	中世土師器	瓶	7.8	1.9	-	13世紀・14世紀	7.5.108.1	灰白色		13世紀・大谷倉	
278	278	SA1032	1	中世土師器	瓶	7.8	1.9	-	13世紀・14世紀	109.98.2	灰白色		13世紀・大谷倉	
279	279	SA1032	1	中世土師器	瓶	8.1	1.8	4.5	13世紀・14世紀	7.5.108.2	灰白色		13世紀・大谷倉	
280	280	SA1032	1	中世土師器	瓶	7.8	1.9	4.1	13世紀・14世紀	109.97.2	11.0系・黄褐色		13世紀・大谷倉	
281	281	SA1032	1	中世土師器	瓶	7.9	1.9	4.2	13世紀・14世紀	109.98.2	灰白色		13世紀・大谷倉	
282	282	SA1032	1	中世土師器	瓶	8.0	2.0	4.0	13世紀・14世紀	109.97.2	11.0系・黄褐色		13世紀・大谷倉	
283	283	SA1032	1	中世土師器	瓶	8.7	1.5	4.0	13世紀・14世紀	109.97.2	11.0系・黄褐色		13世紀・大谷倉	
284	284	SA1032	1	中世土師器	瓶	6.8	1.6	-	15世紀・16世紀	109.98.2	黄褐色胎	褐色胎	13世紀・大谷倉	
285	285	SA1032	1	中世土師器	瓶	8.4	2.1	3.8	15世紀・16世紀	2.577.2	灰白色		13世紀・大谷倉	
286	286	SA1032	1	中世土師器	瓶	8.5	1.9	-	15世紀・16世紀	109.98.2	黄褐色胎		13世紀・大谷倉	
287	287	SA1136	1	中世土師器	瓶	9.8	2.1	-	15世紀・16世紀	7.5.108.2	灰白色		13世紀・大谷倉	
288	288	SA1136	1	中世土師器	瓶	9.8	1.9	-		109.98.3	黄褐色胎	褐色胎	13世紀・大谷倉	
289	289	大溝	SA1139	1	中世土師器	瓶	13.8	2.5	-	2.577.1	灰白色			
290	290	SA1139	1	中世土師器	瓶	8.0	1.6	-		109.97.1	灰白色			
291	291	SA1139	1	中世土師器	瓶	11.5	1.6	-		97.0	灰白色			
292	292	SA1139	1	中世土師器	瓶	11.6	1.9	-		97.3	灰白色			
293	293	SA1139	1	中世土師器	瓶	12.6	1.7	-		2.577.1	灰白色			13世紀・瀬田地区発掘品
294	294	SA1139	1	中世土師器	瓶	12.6	1.5	-		97.0	灰白色			瀬田地区発掘品
295	295	SA1139	1	中世土師器	瓶	-	2.3	4.8		97.0	灰白色			瀬田地区発掘品
296	296	SA1139	1	中世土師器	瓶	-	2.5	3.2		97.3	灰白色			13世紀・瀬田地区発掘品
297	297	SA1139	1	中世土師器	瓶	11.8	4.2	-		97.3	灰白色			13世紀・瀬田地区発掘品
298	298	SA1139	1	中世土師器	瓶	11.8	4.2	-		7.5.107.2	黄褐色胎			13世紀・瀬田地区発掘品
299	299	SA1139	1	中世土師器	瓶	2.0	2.0	-		2.576.1	黄褐色胎			7.5.107.2
300	300	SA1139	1	中世土師器	瓶	2.32	2.6	-		2.577.1	灰白色			7.5.107.2
301	301	SA1139	1	中世土師器	瓶	2.57	2.6	-		2.577.1	灰白色			7.5.107.2
302	302	SA1139	1	中世土師器	瓶	-	1.2	4.1		109.97.1	灰白色			相次高木・瀬田地区発掘品
303	303	SA1139	1	中世土師器	瓶	-	1.1	4.0		2.577.1	灰白色			相次高木・瀬田地区発掘品
304	304	SA1139	1	中世土師器	瓶	2.60	0.9	-		109.98.2	黄褐色胎			13世紀・瀬田地区発掘品
305	305	SA1139	1	中世土師器	瓶	4.18	1.7	-		97.3	灰白色			13世紀・瀬田地区発掘品
306	306	SA1139	1	中世土師器	瓶	2.10	0.62	-	1期	97.3	灰白色			相次
307	307	SA1139	1	中世土師器	瓶	2.09	0.31	-		94.0	灰白色			
308	308	SA1139	1	中世土師器	瓶	2.31	0.31	-		97.3	灰白色			
309	309	SA1139	1	中世土師器	瓶	2.57	0.36	-		98.0	灰白色			
310	310	SA1139	1	中世土師器	瓶	-	-	-	10期	7.5.107.1	灰白色			相次 瀬田地区
311	311	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
312	312	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
313	313	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
314	314	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
315	315	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
316	316	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
317	317	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
318	318	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
319	319	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
320	320	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
321	321	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
322	322	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
323	323	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
324	324	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
325	325	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
326	326	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
327	327	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
328	328	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
329	329	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
330	330	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
331	331	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
332	332	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
333	333	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
334	334	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
335	335	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
336	336	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
337	337	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
338	338	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
339	339	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
340	340	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
341	341	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
342	342	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
343	343	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
344	344	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
345	345	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
346	346	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
347	347	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97.3	灰白色			相次 瀬田地区
348	348	SK1010	流石	部	-	-	-	-	10期	97				

# 第Ⅳ章 平成 25 年度調査の成果

## 1 概要

平成 23 年度調査(以下, 前回調査)に続き, 古代および中近世の遺構を確認した。隣接する調査区ではつながりが確認できた遺構もあり, これで南北約 240 m にわたり遺跡の内容が明らかになった。古代では掘立柱建物 12 棟, 竪穴建物 1 棟, 柵, 溝のほか素掘り井戸 5 基を検出した。遺物は前回調査と同時期の土器が出土したが, 木製品などは出土していない。中世では掘立柱建物 1 棟, 柵, 溝, 井戸が出土した。遺物は少量である。また, 隣接する井口本江遺跡とつながる中～近世の溝を確認した。

## 2 古代

検出した遺構の主体となる時期である。前回調査からの遺構が続くとみられた C 地区では掘立柱建物や溝などで, 同一となる遺構が確認できた。また, 最北端の A 地区では, 西側で井戸がみつかった。井口本江遺跡の隣接する地区でも古代の井戸を検出していることから, 両遺跡の連続性がうかがえる。



第 104 図 古代遺構全体図

## (1) 遺構

## A 竪穴建物

3100号竪穴建物(SI3100, 第106図・図版24)

C地区東寄りで、長軸3.6m、短軸2.5mの方形プランの床面を検出した。重複するSD1025に切られ、埋土の深さは10cm余り。柱穴やカマド等の付属施設は確認できなかったが、床面中央から北西にかけては炭化物や焼土が集中する浅い窪みがあり、北壁西寄り付近にカマドが設けられていた可能性がある。埋土からは須恵器杯(811・813)や杯蓋(859・861・862)、鉢(909)や土師器甕(950)が出土。

## B 掘立柱建物

47号掘立柱建物(SB47, 第108図・図版23)

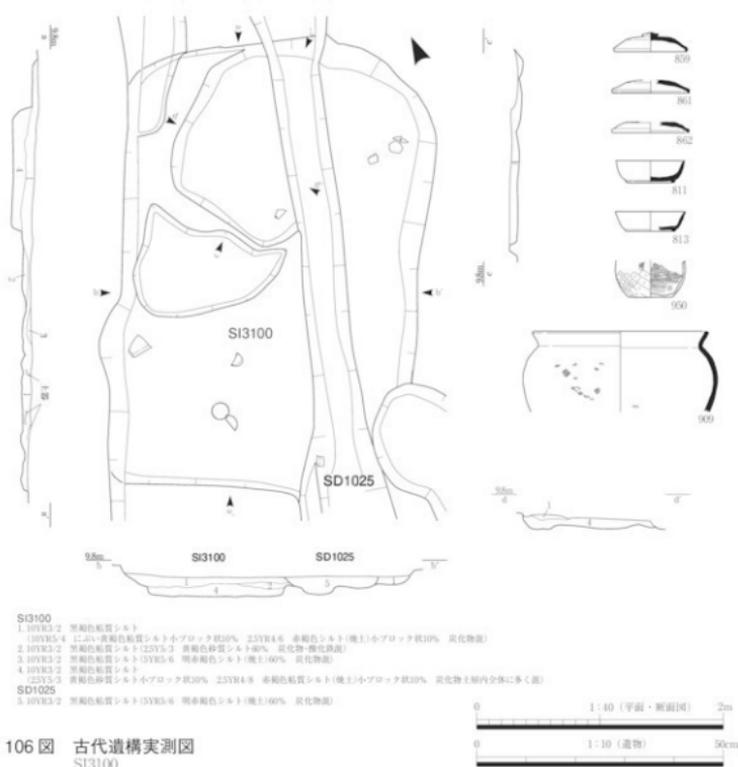
A地区の中央より北東に位置する梁行2間、桁行3間の東西棟である。南側には庇が付いた可能性がありSK4120, SK4148が柱穴と疑われる。また、建物の南北には雨落ち溝SD4170, SD4144を伴うとみられる。柱穴掘方の平面形は方形あるいは円形で、柱痕跡が明瞭に残っているものが多く、SP4167には柱根の残欠が残っていた。重複する溝のSD4161を切るが、SD4137には切られる。

48号掘立柱建物(SB48, 第109図・図版23)

SB47南に方位が90°異なり位置する南北棟。庇や溝は伴わないが、梁行2間、桁行3間の規模や柱穴掘方、柱痕跡などSB47との共通点が非常に多い。南西の隅柱は溝との切り合いで消失している。



第105図 古代遺構全体図



第106図 古代遺構実測図  
SI3100

49号掘立柱建物(SB49, 第109・110図・図版23)

SB48の東に隣接する。SB47・48同様、梁行2間、桁行3間と推測されるが、東側は調査区外のため不明で、規模はやや小振りである。また、南北棟の方位はSB48に比べ西に振る。柱穴は柱痕跡が明瞭で、隅柱の規模がやや大きめである。

50号掘立柱建物(SB50, 第111図・図版23)

SB48の南西に位置する梁行3間、桁行3間の総柱建物である。梁行の柱間の方が狭いため、南北に長い建物となっている。柱穴掘方の平面形は主として方形で、側柱構造をとる他の建物の柱穴に比べ、柱穴の規模は大きく、特に隅柱は大型である。柱痕跡の明瞭な柱穴が多い。

51号掘立柱建物(SB51, 第110図・図版23)

SB50と重複する梁行2間、桁行3間の南北棟である。SB49と方位が似ており、柱間距離も同規模である。柱穴掘方の平面形は方形か円形で、明瞭な柱痕跡もある。北東隅柱は溝と重複し消失。

52号掘立柱建物(SB52, 第112図・図版23)

C地区の北東端に位置する。大半は調査区外のため、規模など不明な部分が多いが、南に隣接するSB53と並列するとみられる。柱穴掘方は規模が大きめで、柱痕跡が明瞭である。

## 53号掘立柱建物(SB53, 第112図・図版23)

SB52の南に位置する桁行4間、梁行2間以上の南北棟で、SB52のほか前回調査のSB30・31とも並行する配置がみられる。柱穴はD地区の3基SP1001・1012・1338を含み、柱穴掘方の平面形は楕円形で、規模は大きめ、柱痕跡が明瞭である。建物の東部分は調査区外のため明らかではないが、並行する他の建物に比べると桁行間数が多いことから、建物面積が広いと考えられる。

## 54号、55号掘立柱建物(SB54, SB55, 第113図・図版23)

C地区の北西端で重複するが新旧は不明。SB54は桁行3間以上、梁行2間以上の南北棟で、調査区外に延びる。柱穴は柱痕跡が明瞭に残り、最も深い柱穴は検出面から60cmの深さ。柱穴からは須恵器の杯・杯蓋が数点出土した。SB55は桁行2間以上、梁行2間以上の南北棟で、SP3147の底部に柱痕跡を留める。柱穴からは須恵器、土師器のほか砥石が出土した。

## 56号掘立柱建物(SB56, 第114図・図版23)

SB54・55の東に位置し、梁行2間、桁行2間以上とみられる。柱穴掘方の平面形は楕円形で、西側桁行の柱穴にのみ柱痕跡が残る。削平の影響により柱穴の深さは30cm前後である。

## 57号、58号掘立柱建物(SB57, SB58, 第114図)

A地区北東端に位置。SB57は桁行とみられる柱列のみ検出した。柱穴は小規模だが柱痕跡が明瞭である。SB58はSB57の西に位置し、2間×1間以上を検出した。

## C柵(第115図)

4基の柵を検出した。SA1, SA2はC地区で検出した。SA1は4基の柱穴が南北方向に、柱間距離2m前後で並ぶ。方位はSB53やSD1007と向きをほぼ揃える。SA2は4基の柱穴が東西方向に、柱間距離1.5m前後で並び、方位は北から10°西に振る。柱穴はSA1に比べ規模が小さい。SA3, SA4はA地区。SA3は柱間距離3.8mで、柱穴5基が並び、他の柵に比べ間隔が広い。方位は北から東へ40°振るが、近接する建物には並行するものがない。なお、SP4012には柱根が残存していた。SA4は柱穴3基が東西方向に、柱間距離3.5mで並ぶ。方位はSB47に並行、SB57に直行する向きである。また、SP4140底部からはSP4012と同様の柱根がみつかった。

## D井戸

## 4008号井戸(SE4008, 第116図)

A地区の調査区南端で半分を検出した。素掘りで、直径1.3m、深さ77cmを測り、調査中も底部からは水の滲出がみられた。掘方の断面は楕円状を呈し、埋土からは須恵器の杯や杯蓋が出土した。

## 4061号井戸(SE4061, 第116図・図版26)

A地区中央西寄りに位置し、付近には井戸複数基が集中する。規模は直径1.02m、深さ79cmを測る素掘り井戸で、掘方北側にテラス状の段がある。その下方は筒状に掘られており、底部には水溜などの浄水施設が設けられた可能性がある。埋土からは須恵器、土師器のほか輪郭口や砥石が出土した。

## 4091号井戸(SE4091, 第116図・図版26)

SE4061より北に位置する。直径90cm、深さ54cmの素掘り井戸で、ほぼ筒状の掘方をもつ。検出した井戸のなかでは小振りなサイズである。埋土からは土師器が出土した。

## 4178号井戸(SE4178, 第116図)

SE4061の西に隣接し、重複するSE4121より古い。掘方の平面形は楕円形で、長径1.85m、深さ52cmの素掘り井戸である。断面から西側にテラス状の段がみられる。

## 4179号井戸(SE4179, 第116図)

A地区のほぼ中央に位置する直径1.6m、深さ67cmの素掘り井戸である。掘方の断面は北西側に段をもつ逆台形で、埋土の中心部は掘鉢状に落ち込み、その両脇に層の重なりが確認できる。埋土からは須恵器が出土している。

#### E 溝

1007号溝[C地区SD3070] (SD1007, 第117図・図版25)

検出時にはSD3070としていたが、前回調査のD地区SD1007に続くため改称。C地区を南北に貫く溝で、南端ではSD3094と並行するが、北へ行くに従い両溝の間は狭まる。東側の掘立柱建物群と方位が揃うことから、区画溝の可能性が高い。底部付近は断面方形に掘り込まれている。X75・Y35付近の埋土中からは、須恵器の杯(768・772・774・815)、鉢(808)、甕(905)などがまとまって出土した。

3055号溝(SD3055, 第117図・図版25)

C地区北西に位置し、SB54と並行する。幅50cm、深さ20cmで、底部の掘り込みはなだらかである。SB54に伴う雨落ち溝、あるいは区画溝の可能性がある。

1025号溝[C地区SD3094] (SD1025, 第117図)

検出時にはSD3094としていたが、前回調査のD地区SD1025と同一であり、改称した。SD1007と並行するが、北端では近接する。また、SD1007より溝幅が狭い。重複するSI3100より新しい。

3136号溝(SD3136, 第117図)

SD1007とSD1025の間に位置する。遺構の上部が消失し、部分的な検出に終始したが、D地区から断続的に続く溝とも推測できる。

4014号溝(SD4014, 第117図)

A地区の南東端でL字状に曲がり、断面はV字を呈する。掘立柱建物群と方位が合い、同時期の区画溝とみられる。

4011号溝(SD4011, 第117図)

A地区南西で東西方向に延びる。掘立柱建物群より新しい可能性がある。

4090号溝(SD4090, 第117図)

A地区東の南北方向の溝で、長さ約6mと短い。遺構上部は消失したとみられ、深さはごく浅い。

4030号溝(SD4030, 第117図・図版25)

A地区南で、SB50と方位が揃う溝である。断面は方形を呈し、最深で約50cmを測る。また、底部には段差があり、やや浅い部分を挟んで東西の両端は深くなっている。同様の溝は井口本江遺跡でも確認されており、関連性がうかがえる。なお、埋土からは須恵器、土師器が複数出土した。

4078号溝(SD4078, 第117図)

SD4090の南で、90°異なる方位を向く。東側は後世の溝によって消失している。SD4030と同様に、底部の段差が認められる。

4137号溝・4161号溝・4168号溝(SD4137, SD4161, SD4168, 第117図)

A地区北東で南北方向に延び、井口本江遺跡に続く。SD4137は断面方形の掘り込みを持つ。SD4161, SD4168は非常に浅く、畚の列状遺構とも考えられる。

#### F 土坑(第107図・図版24)

土坑にはSK3121やSK3122など断面に柱痕跡を残すものがあるが、その他の遺構との配列が整わず、掘立柱建物や櫓の柱穴としては認定できなかったものもある。また、SK3045はA地区南西端に位置し、東側は後世の溝に切られるが、完形の須恵器杯(795)が出土している。

## (2) 遺物

### A 須恵器(第118~121図・図版12・30・36)

杯、杯蓋、高杯、壺、壺蓋、甕、鉢がある。前回調査と同様に食膳具の割合が高い。

765, 766は墨書土器。766は頭文字が「酒」とあり、「酒万呂」と考えられる。853~856は杯蓋を甕に転用。825は杯内部に漆が付着しており、前回調査で頻例が多く出土したD地区北とも出土場所が近い。809, 810は高台内に線刻がある。804は2条の沈線が巡る高杯の脚部で、SB50の柱穴SP4085から出土。808の鉢と905の甕はSD1007からまとまって出土した。808は外面にタタキ痕が残る。

### B 土師器(第122~123図・図版42~43)

911, 915~917, 927は内面黒色、外面赤彩が施される。912~914, 926は内面黒色。918~924, 929~932は赤彩。928の碗と929の高杯はSD4030から出土。甕は948~951がSI3100からの出土で、口縁部形態など古相を呈す。また、さらに古い様相を含む954, 955, 957~959は混入と考えられる。960の鉢は内外面ともに粗めのハケ調整で、須恵器鉢や甕とともにSD1007から出土した。

### C 木製品(第124図・図版55)

966はSE4121から出土した円形板で、古代以降の可能性がある。967はSA4の柱穴SP4140, 968はSA3の柱穴SP4012の柱根で、ともに扁平な柁目材である。

### D 石製品(第124図・図版50)

970~979は砥石である。やや大型の979はSA2の柱穴SP3082から出土した。

## 3 中近世ほか

### (1) 遺構

#### A 竪穴状土坑(第128図・図版26)

A地区西側に位置する2基の方形土坑SK4002, SK4022。東側のSK4002は長軸2.8m, 短軸2.6m, 深さ20cmを測り、西側のSK4022は長軸3.2m, 短軸3.1m, 深さ25cmで一回り大きい。ともに方位は北向き、付属施設はなく土間状の掘り込みのみである。なお、床面で検出した土坑は、これ以前の時期と考えられる。埋土は黒褐色粘土を主体とした単一層で、小ブロック状に地山の土が混入する。SK4002の掘り込みが比較的しっかりとした立ち上がりを持ち、形も整う。また、検出面では8世紀後半以前とみられる噴砂が広範囲で認められ、SK4002床面でも幅1.5m程の噴砂を確認した。

#### B 井戸(第127図・図版26)

A地区西側で3基を検出した。北側のSE4071は直径1.1m, 深さ50cmの素掘り井戸で、掘形はない。南側のSE4015は直径1.45m, 深さ70cmの素掘り井戸で、遺構端から25cm程度内側までが掘形とみられ、黒褐色粘土と灰黄色砂質シルトが互層を成す。SE4071南側に位置するSE4121は古代の井戸と切り合い、平面楕円形で長径1.85m, 短径1.4m, 深さ約80cmを測る。遺構端から30cm程度内側までは掘形とみられるが、SE4015ほどは明確でない。最下層部にはわずかに板材がみられ、木組み井戸側の残欠と考えられる。

#### C 溝(第129図)

A地区を南北に貫き、B地区東端に至るSD2155は、検出時にはSD4001としていたが、前回調査のB地区SD2155と同一のため、改称した。幅5.4m, 深さ45cmで底部はなだらかな船底形を呈する。古代の遺物が多数混入するが、埋土の状況を見ると中世から近世にかけての遺構と考えられる。

A地区北西隅でL字に屈曲するSD4004は北ほど底面が深くなる。埋土は地山の土がブロック状、マーブル状に混ざり、一気に埋められたような様相もみられ、整地などによるものと推測する。

SD1003は検出時にSD3022としていたが、D地区から続くSD1003と同一であったため改称。

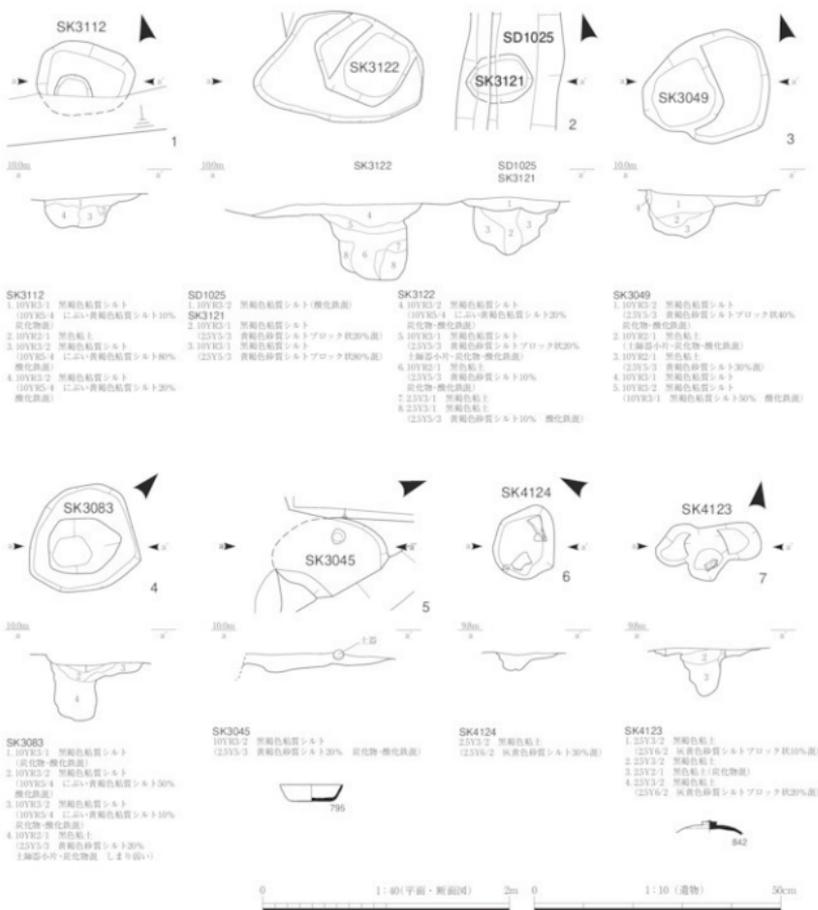
(2) 遺物

A 土器・陶磁器(第130図)

980は縄文土器。晩期の浅鉢で、井口本江遺跡では晩期の土器が多数出土していることから、混入とみられる。981~987は中世土師器。985、986の口縁部には一段ナデが一周し、ともに井戸からの出土である。988は灰釉陶器で、包含層からの出土。989~991は中国製磁器。989は青磁、990、991は白磁である。992は瀬戸美濃。993~1002は珠洲で、吉岡編年II~V期が混在するとみられる。

B 土製品・木製品(第130図・図版49-55)

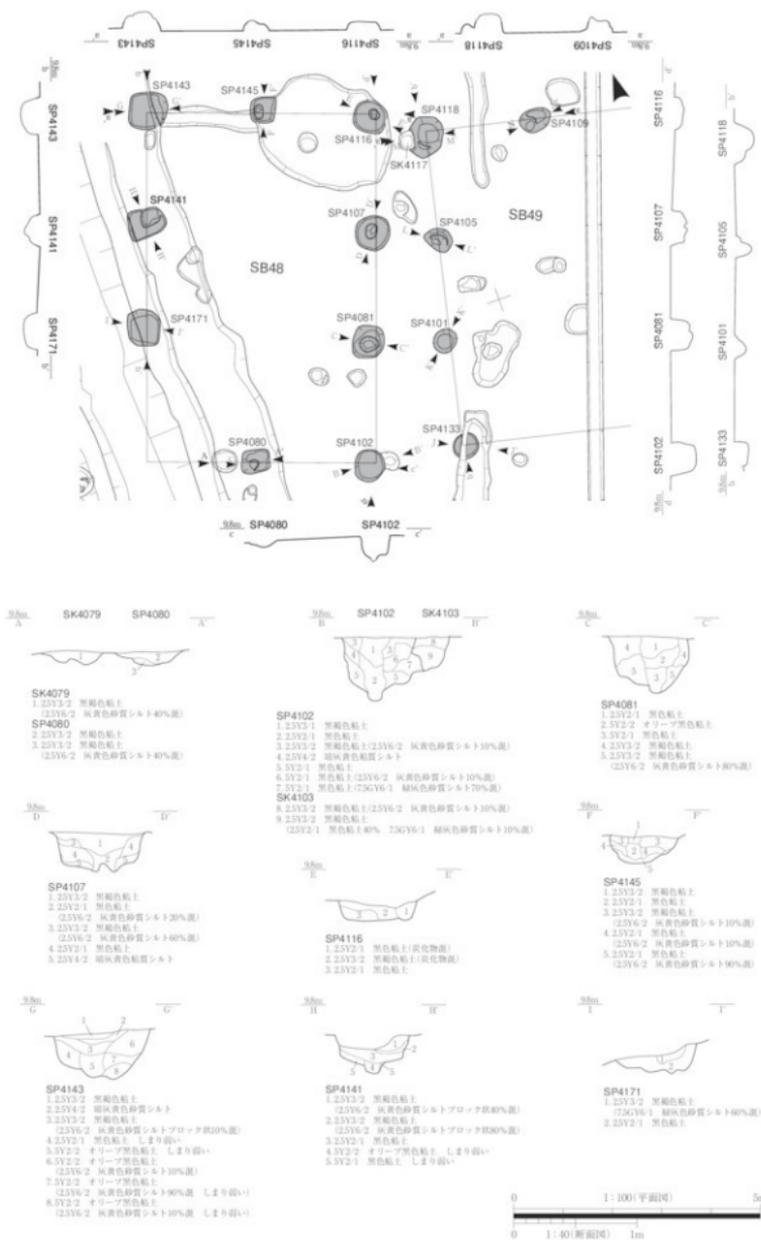
1003~1008は土錘。1009は漆器椀、1010は円形板とともにSD2155から出土した。



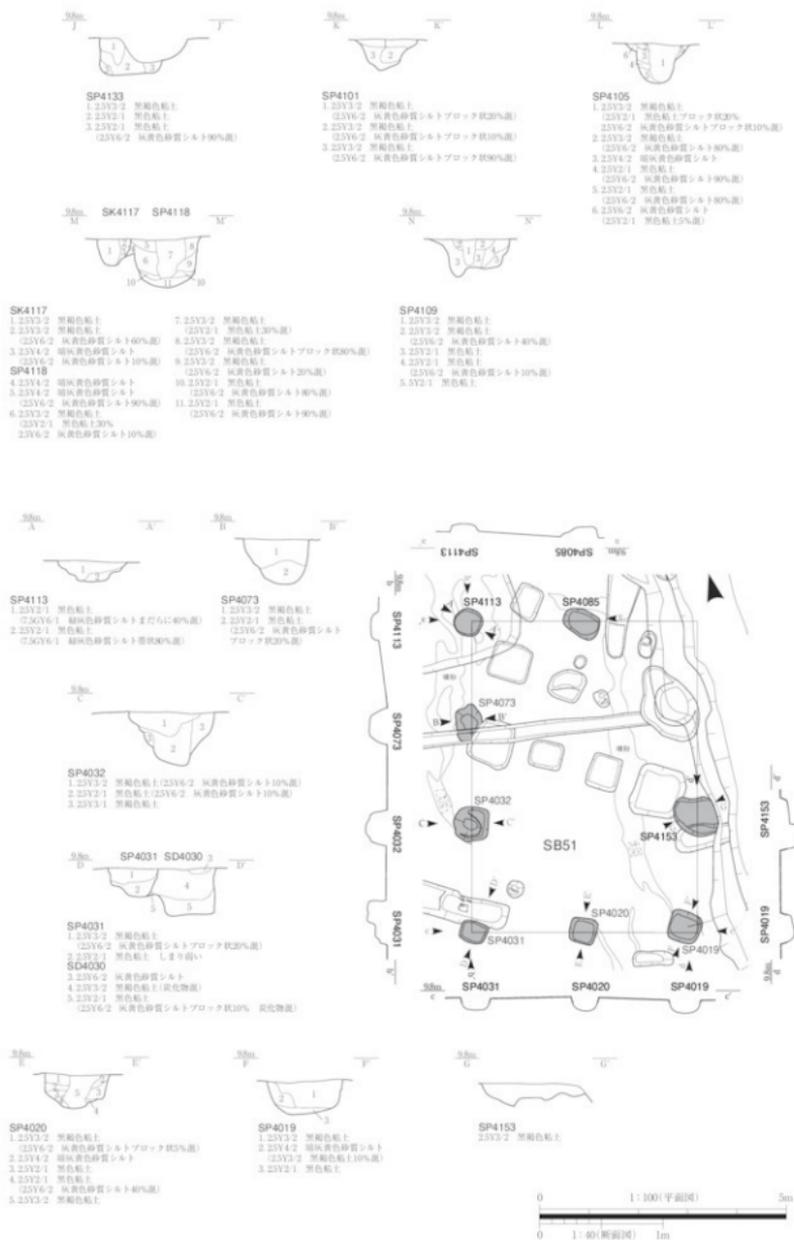
第107図 古代遺構実測図

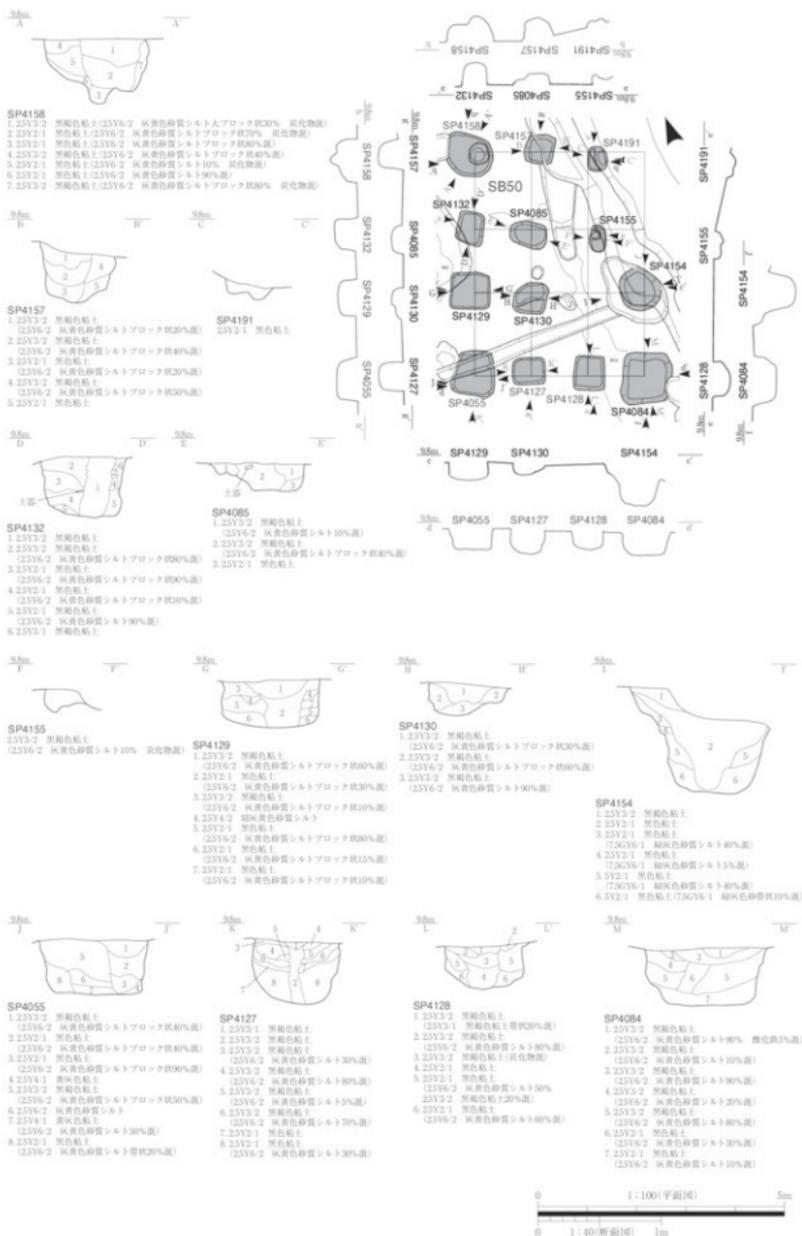
1. SK3112 2. SK3121・SK3122・SD1025 3. SK3049 4. SK3083 5. SK3045  
 6. SK4124 7. SK4123





第 109 図 古代遺構実測図  
SB48 SB49

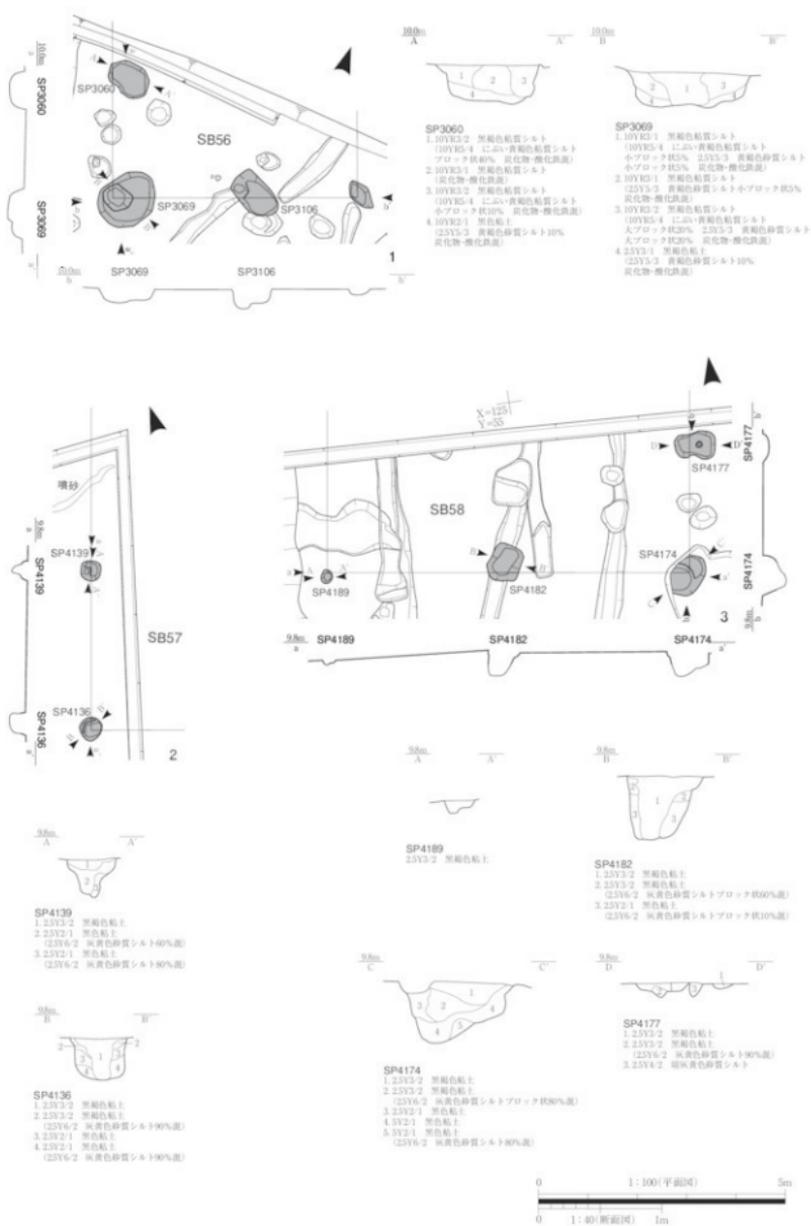
第110図 古代遺構実測図  
SB49 SB51



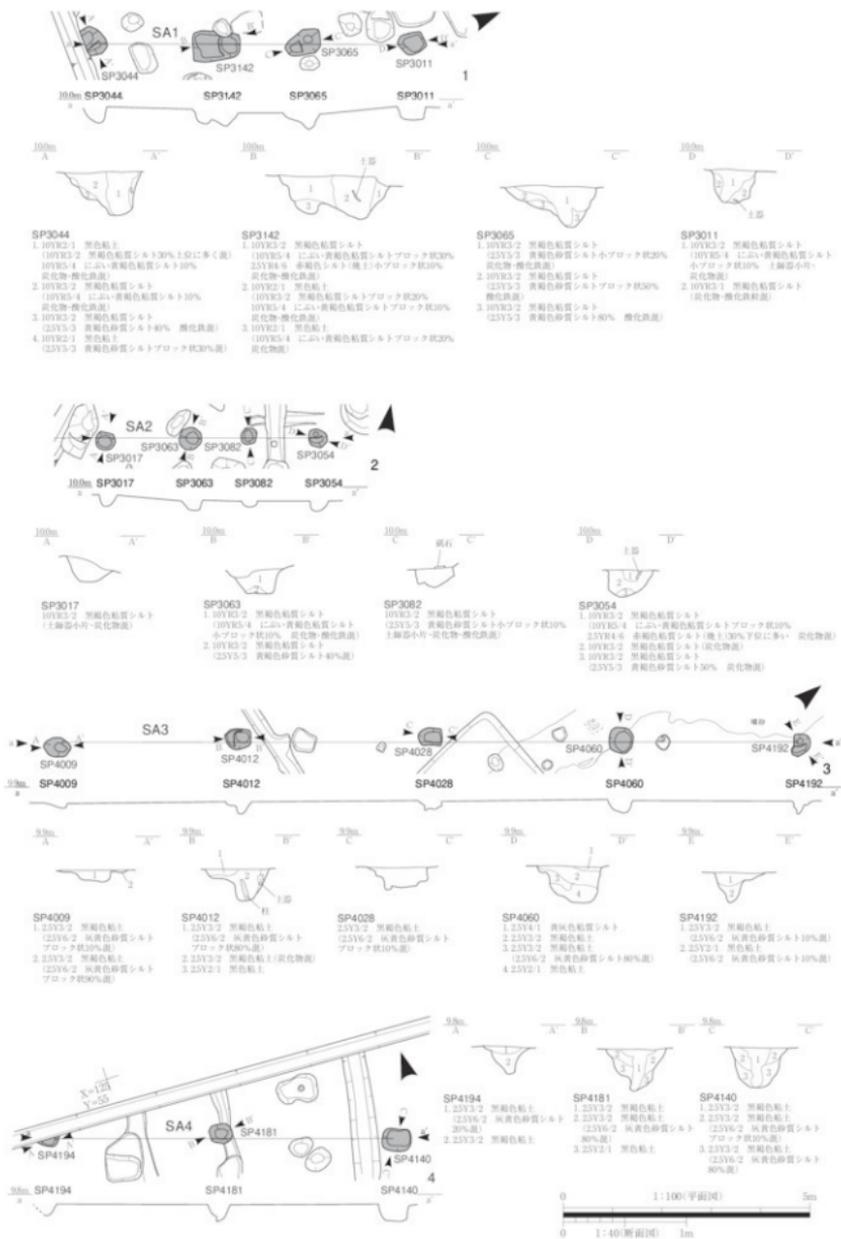
第 111 図 古代遺構実測図 SB50



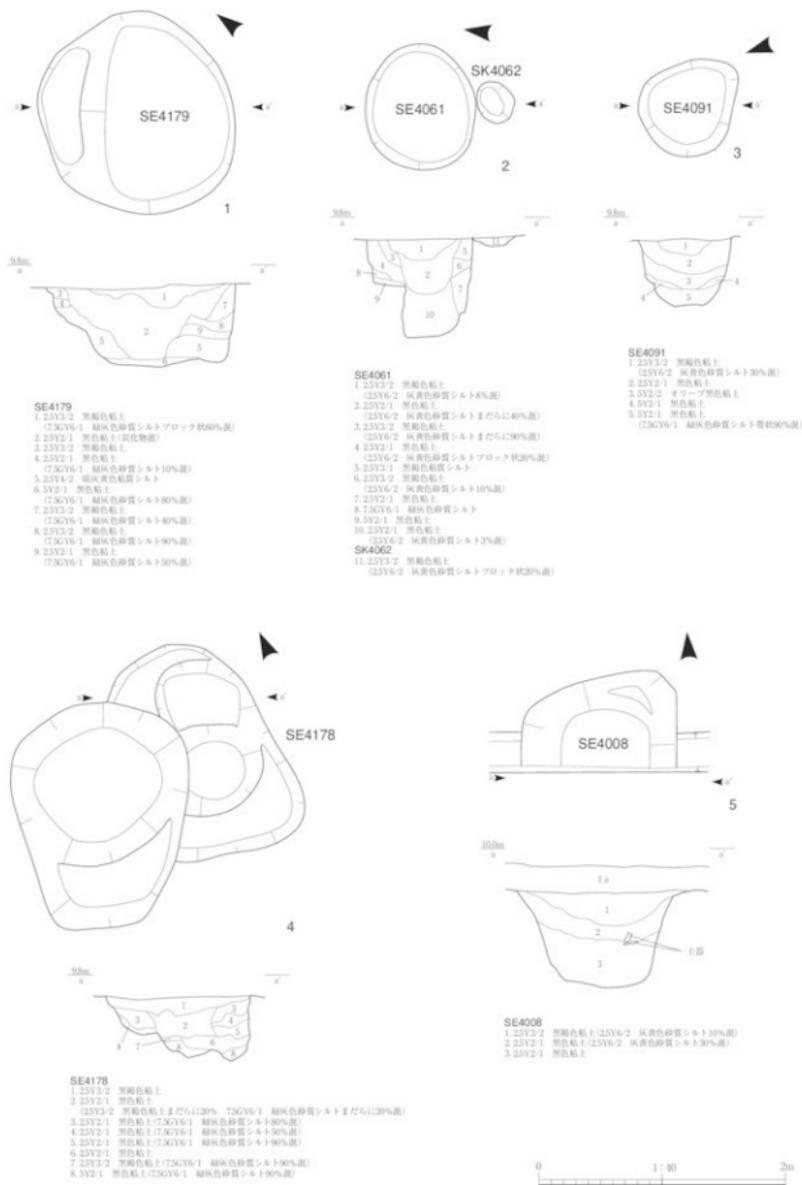




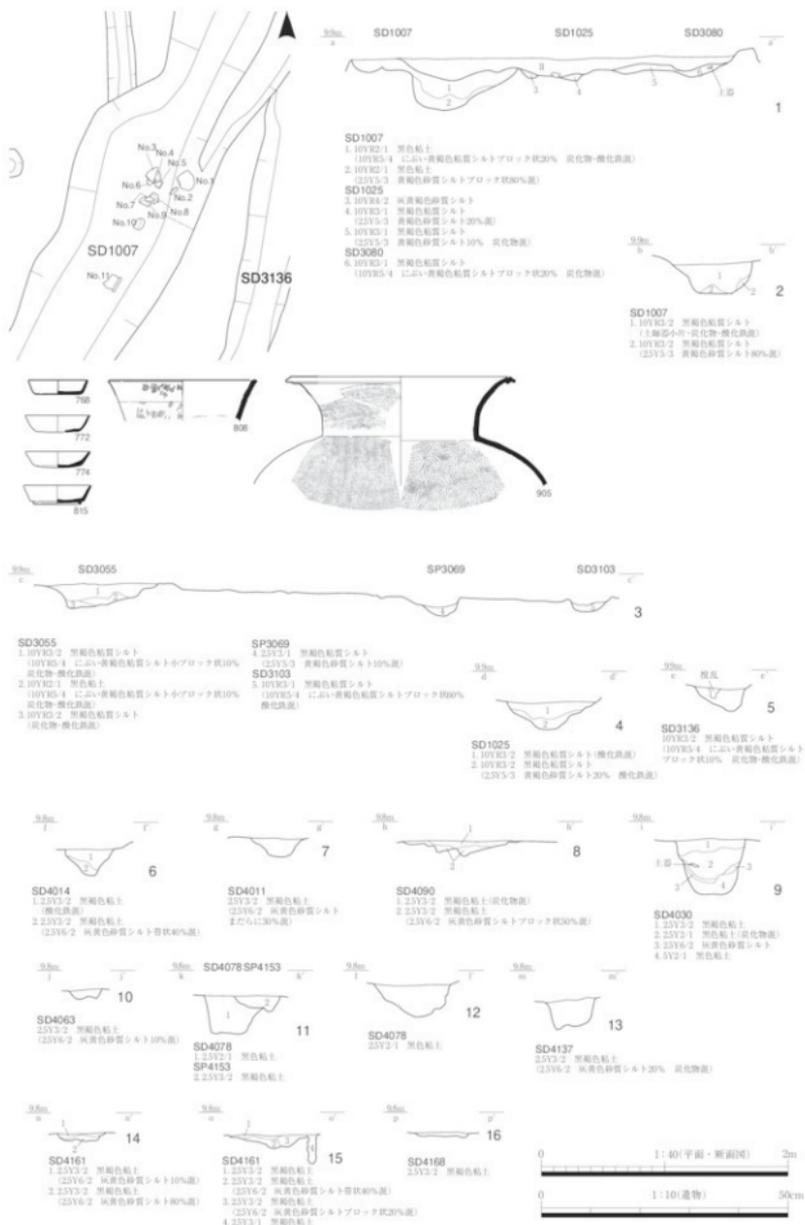
第 114 図 古代遺構実測図  
1. SB56 2. SB57 3. SB58



第 115 図 古代遺構実測図  
 1. SA1 2. SA2 3. SA3 4. SA4

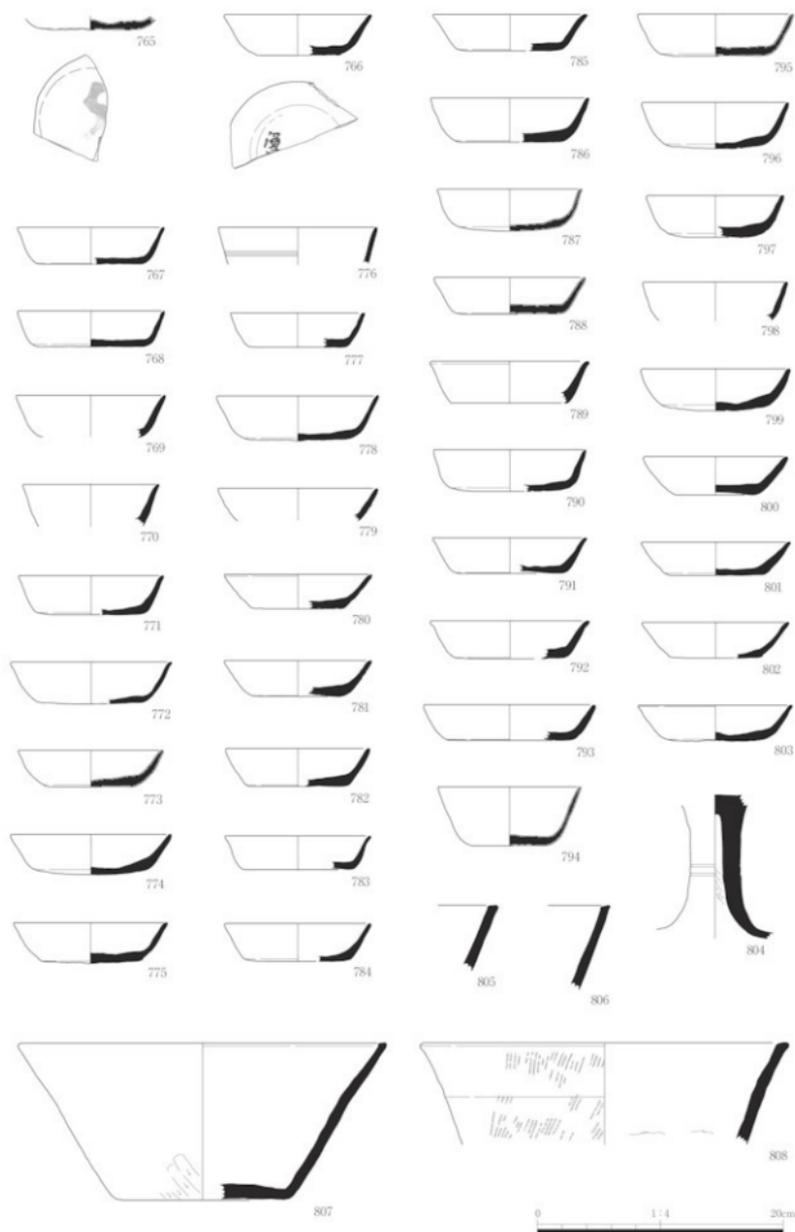


第 116 図 古代遺構実測図  
 1. SE4179 2. SE4061 3. SE4091 4. SE4178 5. SE4008



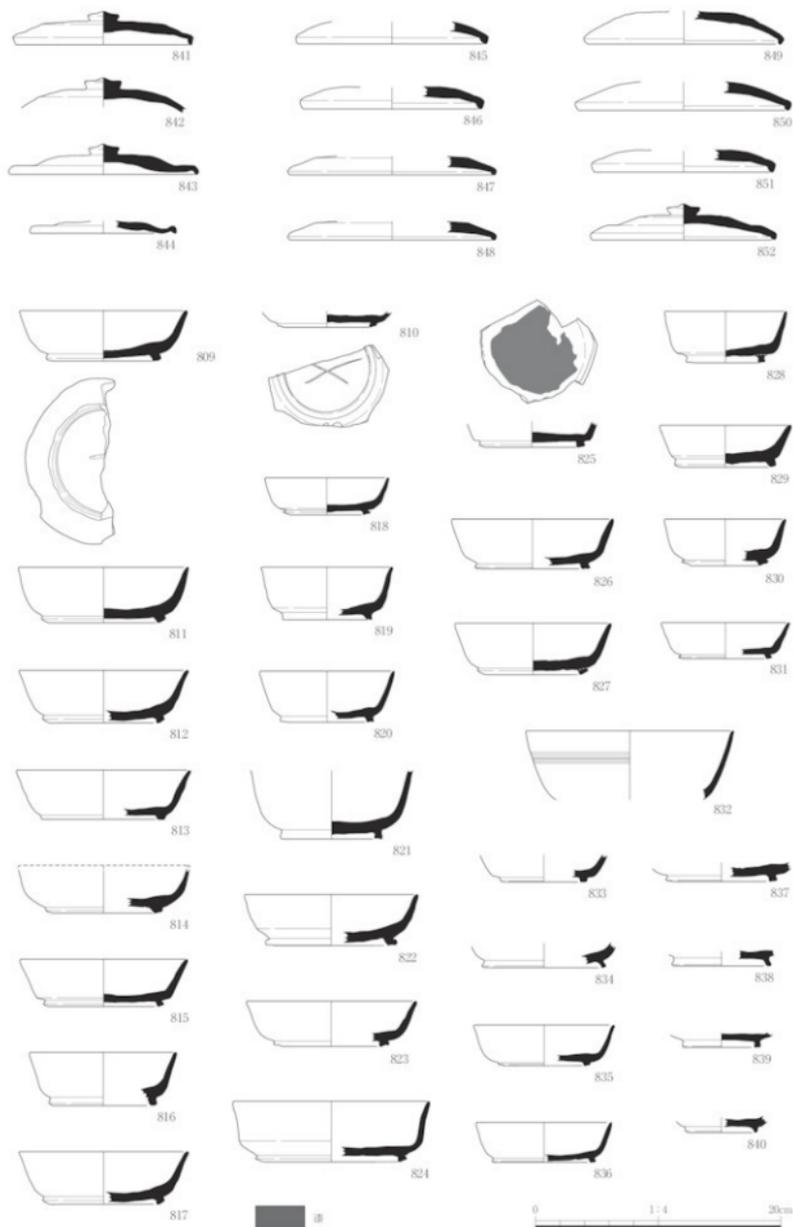
第 117 図 古代遺構実測図

1. SD1007・SD3080・SD1025 2. SD1007 3. SD3055・SP3069・SD3103 4. SD1025 5. SD3136 6. SD4014  
7. SD4011 8. SD4090 9. SD4030 10. SD4063 11. SD4078・SP4153 12. SD4078 13. SD4137  
14・15. SD4161 16. SD4168



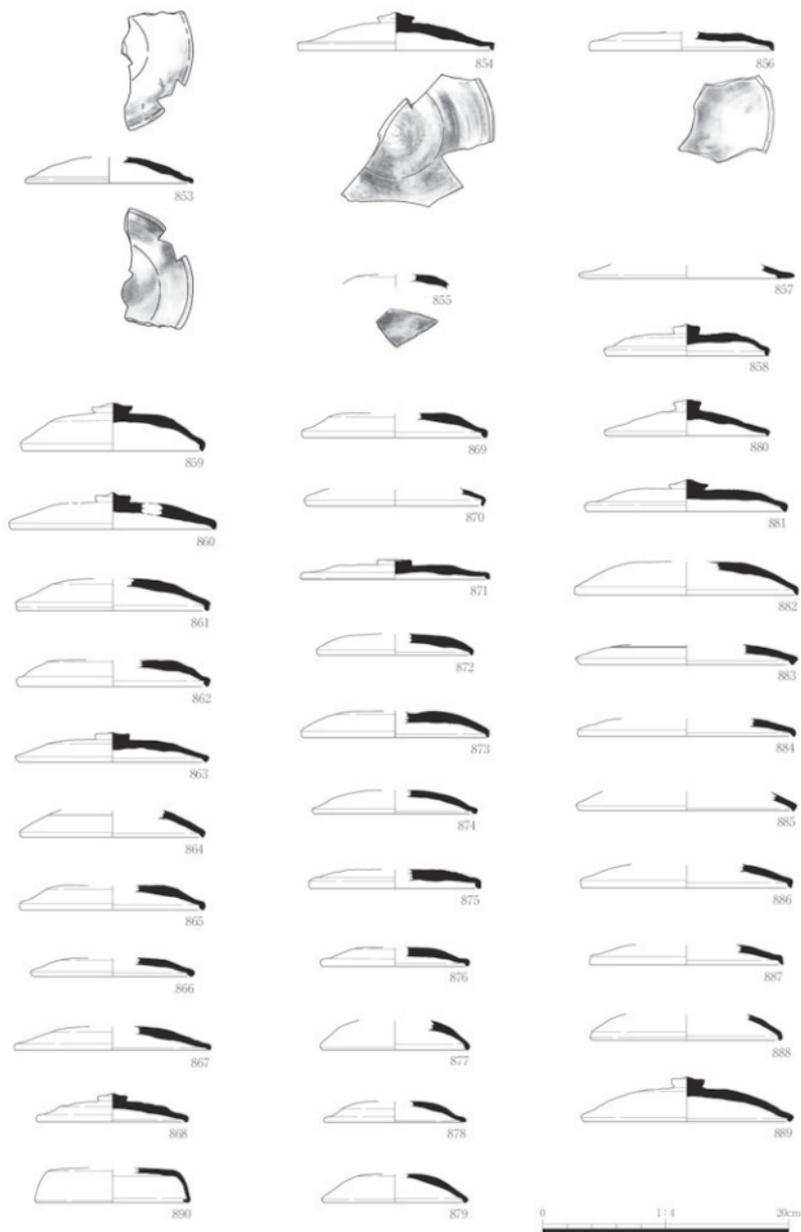
第118図 遺物実測図 (1/4)

SK3122(765・792) SP4146(766) SD1007(767・776・808) SI3100(777・781) SP3029(782・784) SD1025(785・788) SP3113(789) SK3091(790) SD0080(791・805・806) SK3124(793) SD3103(794) SK3045(795) SD4004(796・797) SE4121(798) SE4008(799) SD4030(800) SK4114(801・802) SP4085(804) SD2155(807) 包含層



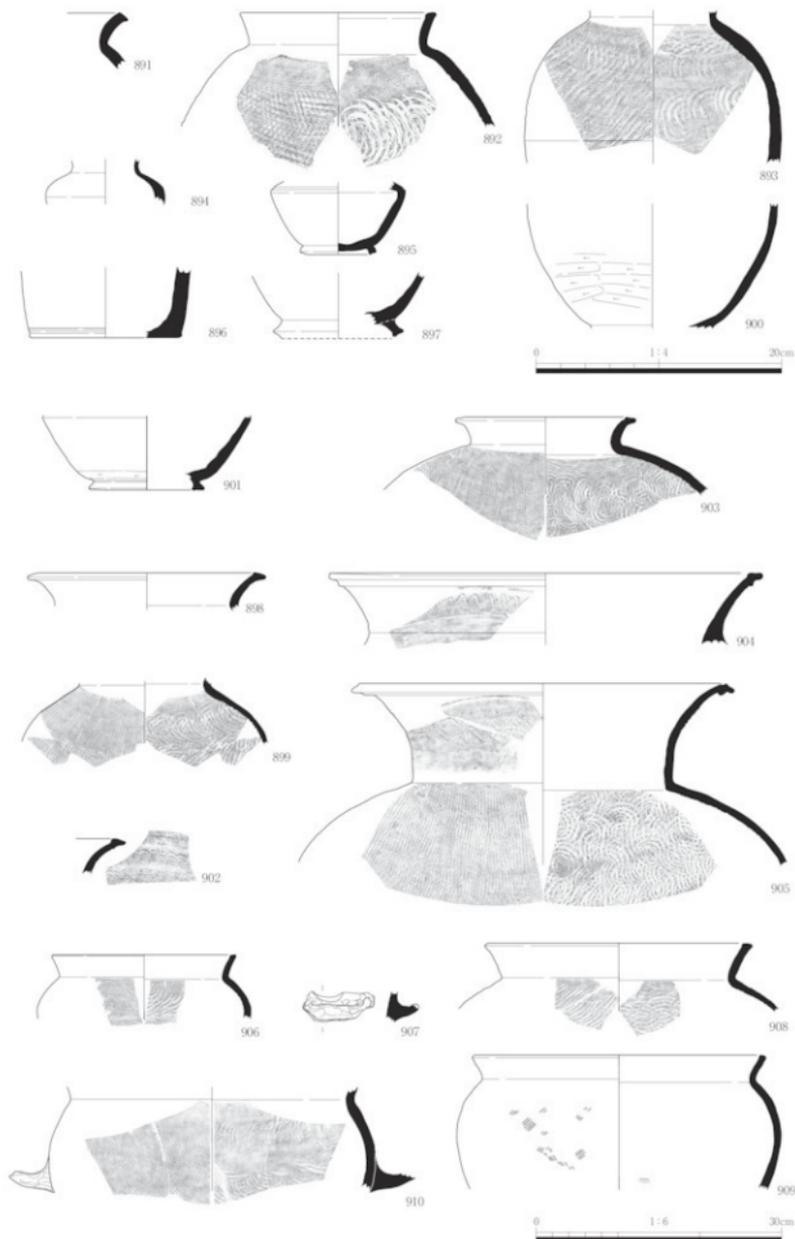
第119図 遺物実測図 (1/4)

SK414(809・847) SK3124(810) SI3100(811~813) SK3025(814) SD1007(815~817) SD1025(818~820) SD4030(821) SD2155(822) SP4169(823) SK3141(824) SD1003(826) SD3055(827) SK3049(828) SD3080(829) SD3075(830) SK3097(831) SP9090(832) SE4015(833~835) SK4047(836) SE4061(837) SE4179(838・844) SP4167(839) SE4071(840) SE4008(841) SK4123(842) SD4130(843) SP4132(845) SP4154(846) SD4004(848) SE4121(849) SP4146(850) SP4157(851) 包含層

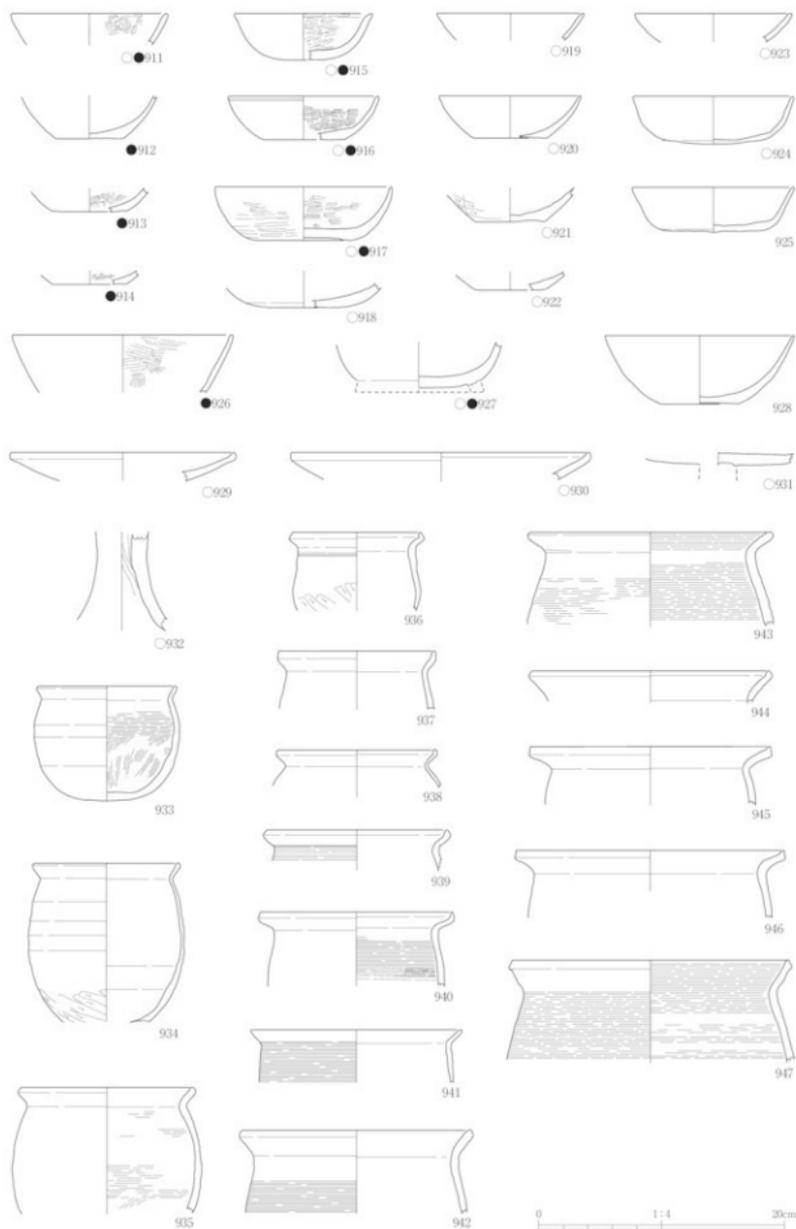


第120図 遺物実測図 (1/4)

SD1025(853・871・872) SK3108(854) SD4090(855・867・868) SD4004(856) SD3055(857・858)  
 SI3100(859~862) SD1007(863~866・890) SK3045(869・870) SP3069(873) SP3090(874)  
 SD3143(875) SK3010(876) SK3043(877) SD4152(878・879・889) SK3095(880) SK3122(881)  
 SD3080(882) SK3141(883) SP3029(884) SP3106(885) SK3111(886) SP3041(887) SP3092(888)

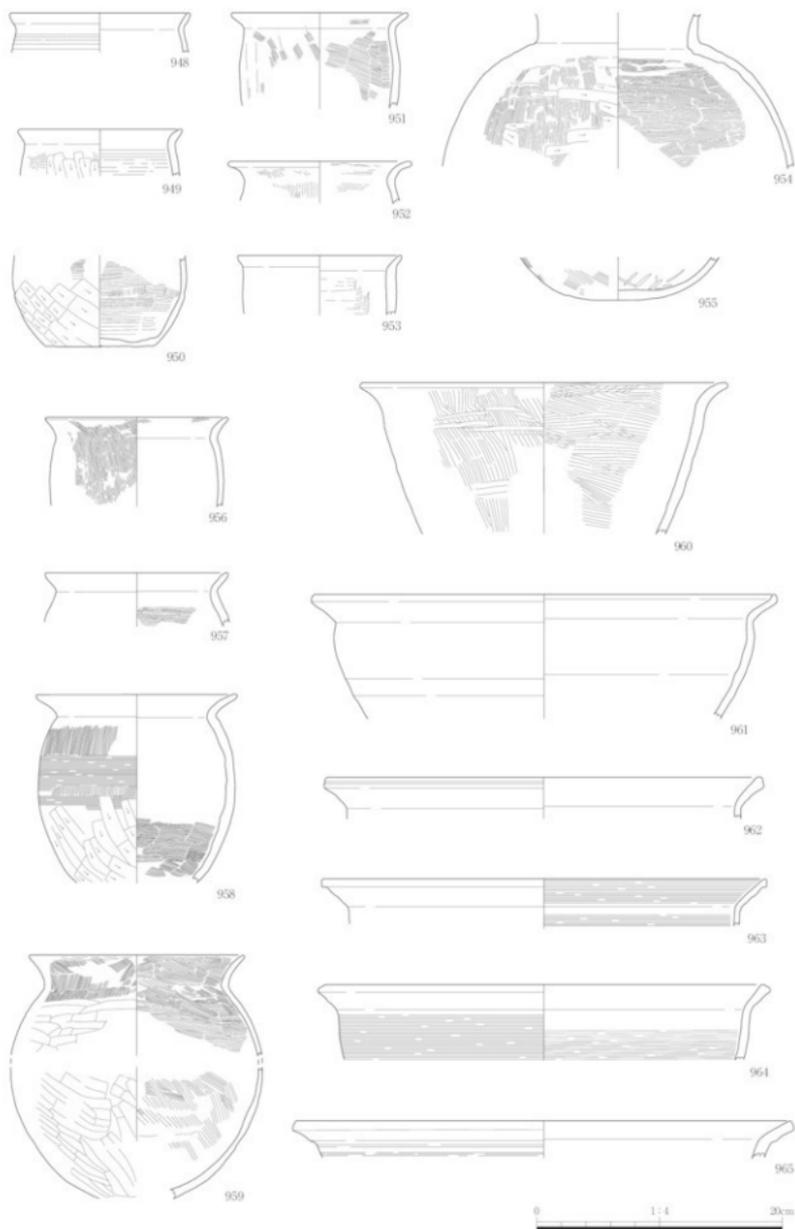


第121図 遺物実測図 (891～897・900 1/4, 898・899・901～910 1/6)  
 SD4004 (891・906) SP3142 (892) SD4172 (893) SD2155 (894・901・904・907・910) SD3143 (895)  
 SE4179 (896) SK3141 (897) SK4030 (898) SI3100 (899・909) SP3054 (900) SD3080 (903)  
 SD1007 (905) SK3025 (908) 包含層



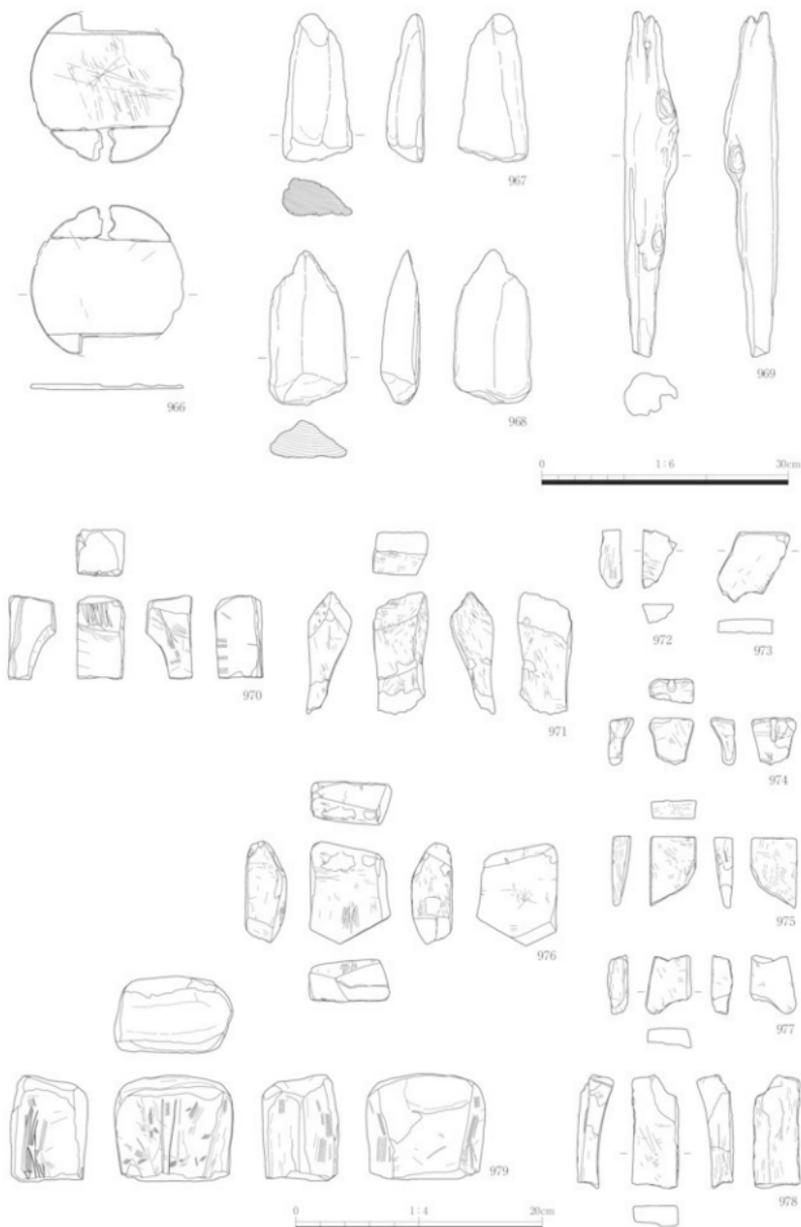
第 122 図 遺物実測図 (1/4)

SK4100(911・923) SD1003(912) SD2155(913・932・944) SE4015(914) SD1025(915・946) SD3055(917・934・939) SK3141(918・927) SD1007(920) SD4090(921) SD4030(922・928・929) SD3089(924) SI3100(925) SP4128(900・908) SP4153(940) SK4159(941) SK4119(942) SK3124(943) SK3034(945) SD3107(947) 包含層



第123図 遺物実測図 (1/4)

SI3100(948~951) SX3118(962) SK3122(963) SD4004(954・955・967~959) SD1025(956・961)  
SD1007(960) SD4030(962) SD4090(963) SP3106(964) SK3009(965)



第124図 遺物実測図 (966~969 1/6, 970~979 1/4)  
 SE4121(966) SP4140(967) SP4012(968) SK3125(969) SE4061(972) SK4188(974) SD4004(975)  
 SP3015(977) SK3082(979) 包含層

第28表 古代掘立柱建物・櫓一覧

建物番号	地区	形状	建坪	建坪	掘立柱径(m)		掘立柱高(m)		西傾	方位	掘削区分	柱穴	備考	検出	図面番号						
					平均	最大	平均	最大													
SH07	A	3	2	23	23.4	2.36	2.40	7.2	22	2.28	2.31	4.08	32.28	N-22°-E	東西棟	V-1	SP1037 SP1063 SP1116 SP1134 SP1128 SP1112 SP1118 SP1135 SP1125 SP1166	掘削区外SD4120 SD4125 SD4141	108	23	
SH08	A	3	2	24	23	2.35	2.40	7.2	2.36	2.21	2.3	4.6	33.12	N-20°-E		V-1	SP1141 SP1145 SP1143 SP1144 SP1171 SP1000 SP1102 SP1081 SP1102		109	23	
SH09	A	3	2	22	2	2.21	2.15	6.41	2.5					N-13°-E		IV	SP1100 SP1114 SP1110 SP1101 SP1133		109-110	23	
SH00	A	3	3	1.52	1.28	1.64	1.68	4.41	1.21	1.21	0.98	1.15	3.86	15.36	N-29°-E		V-2	SP1138 SP1132 SP1129 SP1055 SP1122 SP1128 SP1084 SP1134 SP1194 SP1157 SP1085 SP1030 SP1155	検出	111	23
SH01	A	3	2	2.12	2.02	2.18	2.11	6.32	2.31	2.28	2.31	6.62	29.20	N-15°-E		IV	SP1113 SP1075 SP1022 SP1031 SP1028 SP1019 SP1153 SP1085		110	23	
SH02	C	2	2	2.36	1.69		1.97							N-18°-E		IV	SP1120 SP1077 SP1076	掘削区外東へ見ゆ	112	23	
SH03	C	D	4	2	21	1.96	2.12	1.78	1.97	2.06	2.41	1.8		N-19°-E		V-1	SP1004 SP1012 SP1138 SP1060 SP1133 SP1006 SP1122	掘削区外東へ見ゆ	112	23	
SH04	C	3	2	1.96	2.12	1.78	2.08	6.18	1.21	2.24				N-9°-W		E-3	SP1012 SP1001 SP1061 SP1003 SP1009 SP1019	掘削区外西へ見ゆ	113	23	
SH05	C	2	1	1.71	2.02		1.88							N-9°-W		E-3	SP1006 SP1015 SP1027 SP1017	掘削区外西へ見ゆ	113	23	
SH06	C	2	1	1.86	2.08		2.18	5.96	2.52					N-20°-W		E-1	SP1000 SP1000 SP1016	掘削区外西へ見ゆ	111	23	
SH07	A	2	1	1.32										N-20°-E		V-1	SP1139 SP1136	掘削区外東へ見ゆ	114	23	
SH08	A	2	1	1.6	3.72		2.66	2.32	2.7					N-9°-E		Ⅱ-2	SP1189 SP1182 SP1171 SP1177	掘削区外東へ見ゆ	115	23	
SA1	C			1.85	1.8	2.16	2.05	4.24						N-22°-E			SP1044 SP1012 SP1065 SP1011		114		
SA2	C			1.71	1.18	1.38	1.53	1.13	1.1					N-19°-W			SP1032 SP1063 SP1062 SP1064		115		
SA3	A			3.7	3.8	3.0	3.77	5.11						N-40°-E			SP1000 SP1012 SP1028 SP1060 SP1150		110		
SA4	A			3.5	3.8		3.58	7.1						N-19°-E			SP1194 SP1183 SP1110		110		

第29表 古代柱穴一覧(1)

地区	遺構	建物番号	平面形	掘削(m)			切り合い	出土遺物	特記事項	検出番号	図面番号
				長さ	幅	深さ					
A	SP4112	047	円形	0.70	0.70	0.36		土師器		108	
A	SP4115	047	楕円形	0.65	0.70	0.37		土師器 須恵器		108	
A	SP4136	047	円形	0.70	0.70	0.38		須恵器		108	
A	SP4134	047	円形	0.75	0.75	0.39		土師器 須恵器		108	24
A	SP4135	047	円形	0.55	0.55	0.32		土師器		108	24
A	SP4138	047	円形	0.80	0.80	0.30	<SD4137	土師器		108	
A	SP4146	047	円形	0.80	0.80	0.43		土師器, 須恵器(266・800)	掘削区外筑前県 [済]	108	
A	SP4163	047	円形	0.70	0.70	0.34		土師器 須恵器		108	
A	SP4167	047	円形	0.70	0.70	0.38		土師器 須恵器(829)		108	24
A	SP4169	047	方形	0.80	0.75	0.46	>SD4161	土師器 須恵器(823)		108	
A	SP4080	048	方形	0.58	0.50	0.11				109	
A	SP4081	048	楕円形	0.68	0.65	0.46		土師器		109	24
A	SP4102	048	円形	0.62	0.62	0.52	>SK4103	土師器 須恵器		109	
A	SP4107	048	円形	0.75	0.75	0.31		土師器		109	
A	SP4116	048	円形	0.75	0.75	0.16	<SK4114	土師器 須恵器		109	
A	SP4141	048	方形	0.80	0.60	0.30		土師器		109	
A	SP4143	048	方形	0.80	0.78	0.39		土師器		109	
A	SP4145	048	方形	0.50	0.50	0.22		土師器		109	
A	SP4171	048	方形	0.70	0.70	0.22		須恵器		109	
A	SP4101	049	円形	0.50	0.50	0.25		土師器 須恵器		109-110	
A	SP4105	049	楕円形	0.60	0.45	0.32		土師器 須恵器		109-110	
A	SP4109	049	楕円形	0.68	0.48	0.31		土師器 須恵器		109-110	
A	SP4118	049	円形	0.80	0.80	0.39	<SK4117	土師器		109-110	
A	SP4133	049	円形	0.55	0.55	0.30		土師器		109-110	
A	SP4055	050	方形	0.92	0.90	0.45		土師器		111	
A	SP4084	050	方形	1.00	1.00	0.47		土師器 須恵器		111	
A	SP4127	050	方形	0.70	0.55	0.50		須恵器		111	
A	SP4128	050	方形	0.70	0.65	0.35		土師器(900・930), 須恵器		111	
A	SP4129	050	方形	0.80	0.75	0.37		土師器 須恵器		111	
A	SP4130	050	方形	0.65	0.65	0.26		土師器		111	
A	SP4132	050	方形	0.65	0.55	0.49		土師器 須恵器(845)		111	
A	SP4154	050	楕円形	0.90	0.85	0.86	<SD2155	土師器 須恵器(846), 中興土師器(960)		111	
A	SP4155	050	楕円形	0.55	0.35	0.18		土師器		111	
A	SP4157	050	方形	0.60	0.60	0.40	<SD2155	須恵器(851)		111	
A	SP4158	050	楕円形	0.90	0.80	0.53		土師器 須恵器		111	
A	SP4191	050	楕円形	0.50	0.40	0.10		土師器		111	
A	SP4085	050-051	長方形	0.78	0.52	0.21		土師器 須恵器(804)		110-111	24
A	SP4019	051	方形	0.65	0.60	0.27		土師器		110	
A	SP4020	051	方形	0.52	0.52	0.26		土師器 須恵器		110	24
A	SP4031	051	方形	0.55	0.45	0.23	>SD4030	土師器 須恵器 焼粘土		110	
A	SP4032	051	方形	0.70	0.70	0.42		土師器 須恵器		110	
A	SP4073	051	円形	0.70	0.70	0.37		須恵器		110	
A	SP4113	051	円形	0.58	0.58	0.16		土師器		110	
A	SP4153	051	楕円形	0.95	0.82	0.19	>SD4078	土師器(940)		110-117	
C	SP3076	052	円形	0.60	0.16					112	
C	SP3077	052	楕円形	0.70	0.65	0.48	<SK3078	土師器		112	
C	SP3129	052	楕円形	1.30	0.60	0.51		土師器 須恵器		112	
C	SP3090	053	楕円形	1.00	0.72	0.59	<SK3091	土師器 須恵器(822・874)		112	
C	SP3092	053	楕円形	1.18	1.00	0.53	<SK3093	土師器 須恵器(888)		112	
C	SP3113	053	楕円形	1.18	1.18	0.49		土師器 須恵器(280)		112	
C	SP3127	053	円形	0.84	0.84	0.58	<SK3128	土師器 須恵器 磨製石斧		112	
D	SP1001	053	方形	0.95	0.84	0.48		縄文 土師器 須恵器		112	
D	SP1012	053	円形	0.72	0.70	0.31	>SD1013	縄文 土師器 須恵器(346)		112	
D	SP1338	053	楕円形	0.44	0.19	0.18		須恵器(163-364)		112	

第29表 古代柱穴一覽(2)

地区	遺構	建物番号	平面形	範囲(m)			切り合い	出土遺物	特記事項	棟形番号	国史番号
				長さ	幅	深さ					
C	SP3001	054	楕円形	08	0.45	0.33		土師器		113	
C	SP3012	054	円形	0.478	0.28	0.33		土師器		113	
C	SP3019	054	円形	0.20	0.20	0.60		土師器、須恵器		113	24
C	SP3029	054	円形	1.10	1.10	0.46		土師器、須恵器(782-784、884)、焼粘土塊		113	
C	SP3033	054	方形	0.70	0.60	0.47		須恵器		113	
C	SP3041	054	楕円形	0.20	0.52	0.55		土師器、須恵器(887)		113	
C	SP3015	055	楕円形	0.70	0.45	0.22		土師器、須恵器、砥石		113	
C	SP3027	055	円形	0.55	0.55	0.41		土師器、須恵器		113	
C	SP3046	055	円形	1.10	1.10	0.46		土師器		113	
C	SP3147	055	楕円形	1.10	0.58	0.41		土師器		113	
C	SP3060	056	楕円形	0.95	0.60	0.32		土師器、須恵器		114	
C	SP3069	056	楕円形	1.28	1.00	0.28		土師器、須恵器(873)		114-117	
C	SP3106	056	楕円形	1.05	0.60	0.28		土師器(964)、須恵器(885)		114	
A	SP4136	057	円形	0.45	0.45	0.33				114	
A	SP4139	057	円形	0.45	0.45	0.31				114	
A	SP4174	058	楕円形	0.95	0.70	0.50				114	
A	SP4177	058	楕円形	0.80	0.60	0.13				114	
A	SP4182	058	方形	0.80	0.62	0.52		土師器、須恵器		114	
A	SP4189	058	円形	0.25	0.25	0.10				114	
C	SP3011	SA1	円形	0.54	0.54	0.28		土師器、須恵器		115	
C	SP3044	SA1	円形	0.60	0.60	0.36		土師器、須恵器		115	
C	SP3065	SA1	楕円形	0.25	0.55	0.32		土師器、須恵器		115	
C	SP3142	SA1	楕円形	0.96	0.60	0.34		土師器、須恵器(892)		115	
C	SP3017	SA2	円形	0.38	0.38	0.17		土師器、須恵器		115	
C	SP3054	SA2	円形	0.40	0.40	0.22		須恵器(900)		115	
C	SP3063	SA2	円形	0.50	0.50	0.30		土師器、焼粘土塊		115	
C	SP3082	SA2	円形	0.32	0.32	0.14		土師器、砥石		115	
A	SP4009	SA3	楕円形	0.55	0.40	0.10				115	
A	SP4012	SA3	円形	0.50	0.50	0.28		土師器、須恵器、柱		115	
A	SP4028	SA3	楕円形	0.50	0.40	0.16				115	
A	SP4060	SA3	円形	0.52	0.52	0.30		土師器、須恵器		115	
A	SP4192	SA3	円形	0.40	0.40	0.25		須恵器		115	
A	SP4140	SA4	楕円形	0.60	0.45	0.32		柱		115	
A	SP4181	SA4	円形	0.45	0.45	0.34		土師器		115	
A	SP4194	SA4	円形	0.50	0.50	0.22				115	

第30表 古代土坑一覽

地区	遺構	平面形	範囲(m)			切り合い	出土遺物	特記事項	棟形番号	国史番号	
			長さ	幅	深さ						
C	SK3009	円形	0.60	0.60	0.40		土師器(965)			105	
C	SK3010	楕円形	0.80	0.30	0.14		土師器、須恵器(876)			105	
C	SK3020	楕円形	0.50	0.40	0.07					113	
C	SK3034	円形	0.40	0.40	0.10		土師器(945)			113	
C	SK3043	長楕円形	1.60	0.60	0.34		土師器、須恵器(877)			105	
C	SK3045	楕円形	0.92	0.65	0.15		土師器、須恵器(795、809、820)			107	
C	SK3049	円形	0.92	0.92	0.34		土師器、須恵器(828)			107	
C	SK3078	円形	0.45	0.45	0.29	>SK3077	土師器、須恵器			112	
C	SK3083	円形	0.95	0.95	0.46		土師器、須恵器			107	
C	SK3084	楕円形	0.70	0.42	0.18		土師器、土師(960)			105	
C	SK3091	円形	0.30	0.30	0.18	>SK3090	須恵器(790)			112	
C	SK3090	円形	0.50	0.50	0.17	>SK3092	土師器、須恵器、焼粘土塊			112	
C	SK3095	楕円形	0.80	0.60	0.09		土師器、須恵器(880)			105	
C	SK3097	楕円形	0.70	0.50	0.30		土師器、須恵器(831)			105	
C	SK3108	円形	0.65	0.65	0.31		縄文土器、須恵器(854)			105	
C	SK3111	円形	0.55	0.55	0.30		縄文土器、須恵器(886)		柱穴	105	
C	SK3112	楕円形	0.80	0.45	0.25		須恵器			107	
C	SK3121	楕円形	0.50	0.40	0.37	<SD3094			柱穴小	107	
C	SK3122	楕円形	1.38	0.90	0.62		土師器(953)、須恵器(760、792、881)		柱穴小	107	
C	SK3124	楕円形	1.40	0.90	0.16		土師器(943)、須恵器(793、810)			105	
C	SK3128	円形	0.40	0.40	0.16	>SK3127				112	
C	SK3141	楕円形	1.58	1.10	0.41		土師器(928、927)、須恵器(824、883、897)、焼粘土塊			105	
A	SK4023	円形	0.40	0.40	0.20	<SK4022				104	
A	SK4041	楕円形	1.10	0.60	0.06		土師器、須恵器、中世土師器(966)			104	
A	SK4045	円形	0.30	0.30	0.05		中世土師器(969)			104	
A	SK4047	円形	0.95	0.95	0.22		土師器、須恵器(836)			104	
A	SK4062	円形	0.40	0.40	0.07					116	
A	SK4079	円形	0.50	0.50	0.11					109	
A	SK4100	不整形	1.40	0.88	0.27		土師器(911、923)、須恵器、黑色土器			104	
A	SK4103	円形	0.45	0.45	0.27	<SK4102	土師器、須恵器			109	
A	SK4114	楕円形	2.25	2.15	0.11	>SK4115、SK4116	土師器、須恵器(801、802、847)、焼粘土塊			104	
A	SK4117	円形	0.25	0.25	0.22	>SK4118				110	
A	SK4119	方形	0.75	0.60	0.15		土師器(942)、須恵器			104	
A	SK4123	不整形	0.85	0.45	0.40		須恵器(842)			107	
A	SK4124	円形	0.60	0.60	0.13		須恵器、焼粘土塊			107	24
A	SK4147	楕円形	0.90	0.90	0.06					108	
A	SK4159	楕円形	0.90	0.45	0.17		土師器(941)			104	
A	SK4164	長方形	1.00	0.70	0.27	>SD4004	土師器、須恵器			129	
A	SK4166	楕円形	0.45	0.25	0.19	<SD4001				129	

第31表 古代井戸一覽

地区	遺構	平面形	規模(m)			切り合い	出土遺物	特記事項	採回番号	採回番号
			長さ	幅	深さ					
A	SE008	円形	1.30	1.30	0.77		土師器、須恵器(799・841)		116	26
	SE061	円形	1.02	1.02	0.79		土師器、須恵器(837)、輪郭口、磁石			26
	SE091	円形	0.90	0.90	0.54		土師器			26
	SE478	楕円形	1.85	0.77	0.52	<SE4121	土師器、須恵器、黒色土器			26
	SE479	円形	1.00	1.00	0.67		土師器、須恵器(838・844・896)			26

第32表 古代溝一覽

	遺構	規模(m)			切り合い	出土遺物	特記事項	採回番号	採回番号
		長さ	幅	深さ					
C	SD0005	0.30	0.30	0.15		土師器、須恵器(827)			105
C	SD0026	0.20	0.20	0.06		縄文土器、土師器、須恵器			113
C	SD0055	0.50	0.20	0.20		土師器(917・934・939)、須恵器(857・858)、黒色土器		SD0070を改称	105-117 25
C	SD1007	1.10	0.26			縄文土器、土師器(929・960)、須恵器(767・776・808・815・817・863・866・890・905)、黒色土器、須恵土器、焼粘土塊			105-117 25
C	SD0275	0.30	0.14			土師器、須恵器(830)			105
C	SD0980	0.40	0.13	>SK3098		土師器、須恵器(791・805・806・829・882・903)			105-117
C	SD0989	0.35	0.07			土師器(921)、須恵器			105
C	SD1025	0.70	0.23	>SK3100・SK3121		縄文土器、土師器(915・945・956・961)、須恵器(785・788・818・830・853・871・872)、黒色土器、焼粘土塊、磁石、鉄滓		SD0094を改称	105-117
C	SD1103	0.38	0.06			土師器、須恵器(791)			105-117
C	SD1107	0.30	0.17			土師器(947)、須恵器、黒色土器、中世土師器			105
C	SD1136	0.45	0.18			縄文土器、土師器、須恵器、焼粘土塊			105-117
C	SD1143	0.65	0.08			土師器、須恵器(875・895)			105
A	SD4011	0.30	0.16			土師器、須恵器			104-117
A	SD4014	0.55	0.22			土師器、須恵器			104-117
A	SD4030	0.65	0.45	<SK4031		土師器(922・962・928・929)、須恵器(800・821・843・898)、黒色土器、焼粘土塊、鉄滓小輪郭口			104-117 25
A	SD4063	0.35	0.07			土師器			104-117
A	SD4078	0.68	0.30	<SK4153		土師器、須恵器			104-117
A	SD4090	0.70	0.12			土師器(921・963)、須恵器(855・867・868)			104-117
A	SD4137	0.50	0.23	>SK4138・SK4173		土師器、須恵器			108-117
A	SD4144	0.42	0.24			土師器、須恵器			108 25
A	SD4152	0.60	0.07			土師器、須恵器(878・879・889)			108
A	SD4161	0.50	0.24	<SK4169		土師器、輪郭口			108-117
A	SD4168	0.45	0.04			土師器			104-117
A	SD4170	0.65	0.10			土師器、須恵器			108
A	SD4172	0.40	0.22			土師器、須恵器(828・893)			104

第33表 古代竪穴建物

地区	遺構	平面形	規模(m)			切り合い	出土遺物	特記事項	採回番号	採回番号
			長さ	幅	深さ					
C	SD1100	方形	3.60	2.50	0.12	<SD3094	土師器(925・948・961)、須恵器(777・781・811・814・839・862・899・909)、加工石		106	24

第34表 古代木製品一覽

遺物番号	採回番号	採回番号	遺構	出土地点	層位	種類	法量(cm)			備考
							長さ/口径	幅/底径	厚さ/残存品	
966	124	55	SE4121		最下層	楕円板	8.5	8	0.5	
967			SP4140	No.1		板	8	8.5	4.5	
968			SP4012	No.1		板	9	9.5	4.5	
969			SK3125	No.1		板	42	6.5	5.5	

第35表 古代石製品一覽

遺物番号	採回番号	採回番号	遺構	出土地点	層位	種類	法量(cm・g)			備考	
							長さ/口径	幅/底径	厚さ/残存品		
970	124	50		X77Y34		磁石	6.5	4	2.5	129.83	中底、砥面3面
971				X112Y30	II	磁石	10	4	3	149.85	仕上砥、砥面4面
972				SE4061		磁石	4.5	2.5	1.5	22.01	中底、砥面2面
973				X112Y34	II	磁石	6.5	4	1	42.04	中底、砥面1面
974				SK4188		磁石	4	3.5	2	24.06	中底、砥面2面
975				SD4094		磁石	6	3.5	1.5	40.86	中底、砥面3面、上面磨直
976				X121Y33	II	磁石	10	7	4	405	中底、砥面3面
977				SP0015		磁石	4.5	3.5	1	31.25	中底、砥面3面
978				X72Y35	II	磁石	9	3.5	2	93.18	中底、砥面2面
979				SP0082	No.1	磁石	8.5	9.5	5.5	715	両底、砥面2面

第36表 古代土器一覽(1)

遺物番号	調査番号	図説番号	遺種	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)			時期	胎土・色澤		赤・黒色・釉		胎土	備考
								口径	器高	底径		記号	色澤	記号	色名		
765			SK3122			煎豆壺	杯A	112	8.4		10YR7/2	紅褐色					
766		12	SP446			煎豆壺	杯A	11.8	3.3	6.7	8YR5/4	灰黄色					内面底面に塗布
767			SD1007	X70Y35		煎豆壺	杯A	11.8	3.3	8.0	8YR5/4	灰黄色					
768			SD1007			煎豆壺	杯A	11.9	2.9	8.8	8YR5/4	灰黄色					
769			SD1007	X70Y35		煎豆壺	杯	12.0	3.4	-	8YR5/4	灰黄色					白色粒
770			SD1007	X70Y35		煎豆壺	杯	11.0	3.5	-	8YR5/4	灰黄色					白色粒
771			SD1007	X74Y34		煎豆壺	杯A	11.8	3.2	8.0	8YR5/4	灰黄色					
772			SD1007	No.10		煎豆壺	杯A	13.0	3.4	8.4	8YR5/4	黄灰色					
773			SD1007	X70Y35		煎豆壺	杯A	11.8	3.0	7.2	8YR5/4	灰白色					帆貫
774			SD1007	No.48		煎豆壺	杯A	13.0	3.3	5.0	8YR5/4	褐色					赤色粒 白色粒
775			SD1007	X74Y35		煎豆壺	杯A	12.5	3.3	8.0	10YR7/2	紅褐色					
776			SD1007	X74Y35		煎豆壺	杯	12.8	3.1	-	8YR5/4	灰黄色					体部に沈着
777			SD100			煎豆壺	杯A	10.8	2.8	7.8	8YR5/4	灰黄色					
778			SD100			煎豆壺	杯A	11.9	3.0	6.7	8YR5/4	灰白色					
779			SD100			煎豆壺	杯A	13.0	2.6	-	10YR7/4	紅褐色					
780			SD100			煎豆壺	杯A	12.0	2.8	7.2	8YR5/4	灰黄色					
781			SD100			煎豆壺	杯A	12.0	2.9	6.8	8YR5/4	灰黄色					
782			SP9029			煎豆壺	杯A	11.6	3.1	8.0	8YR5/4	黄灰色					
783			SP9029			煎豆壺	杯A	11.8	2.8	8.8	8YR5/4	灰黄色					
784			SP9029			煎豆壺	杯A	11.8	3.1	7.4	8YR5/4	灰黄色					表面
785			SI0025	X70Y36		煎豆壺	杯A	12.5	3.0	8.0	8YR5/4	淡黄色					
786			SI0025	X70Y37		煎豆壺	杯A	12.8	3.6	8.0	8YR5/4	灰黄色					
787			SI0025	X70Y35		煎豆壺	杯A	11.7	3.4	8.4	8YR5/4	灰黄色					黑色粒
788			SI0025	X70Y35		煎豆壺	杯A	12.2	3.0	8.4	8YR5/4	黄灰色					
789			SP9113			煎豆壺	杯	12.6	3.4	-	8YR5/4	灰黄色					
790			SK2061			煎豆壺	杯A	12.4	3.4	8.0	8YR5/4	灰白色					
791			SI0080	X70Y37		煎豆壺	杯A	12.5	2.9	8.6	8YR5/4	灰黄色					
792			SK3122			煎豆壺	杯A	12.8	3.1	8.8	8YR5/4	灰黄色					
793			SK3124			煎豆壺	杯A	13.9	2.9	9.6	8YR5/4	NS.0					
794			SK3103			煎豆壺	杯A	11.5	4.8	6.2	8YR5/4	黄灰色					
795			SK2065	No.1		煎豆壺	杯A	12.6	3.5	8.0	8YR5/4	黄灰色					
796			SI0004	X120Y31		煎豆壺	杯A	11.8	3.8	7.2	8YR5/4	灰黄色					
797			SI0004	X120Y49		煎豆壺	杯A	11.0	3.4	5.0	8YR5/4	NS.0					
798			SK4121			煎豆壺	杯A	11.6	3.4	5.0	8YR5/4	黄灰色					
799			SE4008			煎豆壺	杯A	12.0	3.1	7.4	8YR5/4	10YR7/2	紅褐色				
800			SI0020	X111Y47		煎豆壺	杯A	11.6	3.1	6.2	9世紀	5Y7/1	灰白色				施部赤褐色
801			SK4114			煎豆壺	杯A	12.0	2.7	7.3	9世紀	5Y7/1	灰白色				
802			SK4114			煎豆壺	杯A	11.8	2.9	5.0	9世紀	10YR7/2	紅褐色				
803			X70Y34	II		煎豆壺	杯A	12.4	3.0	8.0	8YR5/4	灰黄色					白色粒
804		36	SP4005			煎豆壺	高杯	-	(11.8)	-	8YR5/4	灰黄色					
805			SI0080	X70Y37		煎豆壺	杯	-	-	-	8YR5/4	淡黄色					
806			SI0080	X70Y37		煎豆壺	杯	-	-	-	10YR7/4	紅褐色					
807			SK2156	X140Y32		煎豆壺	杯	29.5	12.8	13.2	8YR5/4	淡黄色					
808			SD1007			煎豆壺	杯	29.6	(8.3)	-	10YR7/2	紅褐色					外縁にクマケ土
809			SK4114	X120Y34		煎豆壺	杯B	13.6	4.2	8.0	8YR5/4	灰黄色					白色粒
810			SK3124			煎豆壺	杯B	-	(13.3)	7.1	8YR5/4	灰黄色					
811		36	SD100	No.2		煎豆壺	杯B	13.7	4.5	8.9	8YR5/4	灰黄色					体部に沈着物
812			SD100			煎豆壺	杯B	13.6	4.3	8.8	8YR5/4	NS.0					
813			SD100	No.5		煎豆壺	杯B	14.0	4.0	9.2	8YR5/4	黄灰色					
814			SK2025			煎豆壺	杯B	-	(33.3)	8.3	8YR5/4	黄灰色					
815			SD1007			煎豆壺	杯B	13.6	3.9	8.9	8YR5/4	10YR7/2	紅褐色				
816			SD1007	X70Y35		煎豆壺	杯B	11.8	4.4	8.0	8YR5/4	淡黄色					
817			SD1007	X70Y35		煎豆壺	杯B	14.0	4.2	9.0	8YR5/4	NS.0					
818			SD1025	X70Y36		煎豆壺	杯B	10.0	3.0	6.0	8YR5/4	2.5Y5/1	黄灰色				
819			SD1025	X70Y36		煎豆壺	杯B	10.5	4.3	7.1	8YR5/4	NS.0					白色粒
820			SD1025	X70Y36		煎豆壺	杯B	10.9	4.2	6.6	8YR5/4	5Y5/1	灰黄色				
821			SD4020			煎豆壺	杯B	-	(5.6)	8.2	8YR5/4	NS.0					
822			SK2156	X120Y34		煎豆壺	杯B	14.0	4.2	9.3	8YR5/4	NS.0					白色粒
823			SP4189			煎豆壺	杯B	13.8	3.7	8.0	8YR5/4	5Y5/1	灰黄色				
824			SK3141			煎豆壺	杯B	15.8	4.9	11.0	8YR5/4	NS.0					
825			X70Y35			煎豆壺	杯B	-	(21.1)	7.4	8YR5/4	灰黄色					
826		36	SI0080			煎豆壺	杯B	13.0	4.1	8.2	8YR5/4	NS.0					
827			SI0025	X70Y22		煎豆壺	杯B	12.6	4.2	7.8	8YR5/4	5Y5/1	灰黄色				
828			SK2049			煎豆壺	杯B	9.0	4.2	5.6	8YR5/4	5Y5/1	灰黄色				
829			SI0080	X70Y37		煎豆壺	杯B	10.6	3.4	7.4	8YR5/4	NS.0					内面黒色
830			SI0025	X70Y38		煎豆壺	杯B	9.8	3.8	5.6	8YR5/4	7.5Y4/1	灰黄色				
831			SK2002			煎豆壺	杯B	10.4	2.9	6.7	8YR5/4	NS.0					
832			SP3994			煎豆壺	杯B	16.8	(5.6)	-	8YR5/4	2.5Y5/2	黄灰色				体部に沈着
833			SE4015			煎豆壺	杯B	-	(22.2)	6.0	8YR5/4	7.5Y5/2	黄褐色				
834			SE4015			煎豆壺	杯B	-	(20.0)	9.5	8YR5/4	NS.0					白色粒
835			SE4015	X120Y35		煎豆壺	杯B	11.4	3.4	6.6	8YR5/4	NS.0					
836			SK4047			煎豆壺	杯B	11.0	3.3	7.5	8YR5/4	10Y4/1	灰黄色				白色粒
837			SE4061	帆貫期		煎豆壺	杯B	-	(14.0)	7.8	8YR5/4	10YR8/2	灰白色				
838			SE4179			煎豆壺	杯B	-	(12.2)	7.6	8YR5/4	NS.0					
839			SP4182			煎豆壺	杯B	-	(12.3)	5.4	9世紀	NS.0	灰黄色				施部赤褐色(灰白色)と付
840			SE4071			煎豆壺	杯B	-	(13.3)	5.3	8YR5/4	NS.0	灰黄色				

第36表 古代土器一覽(2)

遺物番号	採掘番号	図号番号	遺構	出土地点	方位	種類	器種	寸法(cm)		時期	胎土色調		赤彩・黒彩・釉		胎土	備考
								口径	器高		底径	記号	色名	記号		
841		30	SE4008			須恵器	杯蓋	142	27	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y6-1	灰色		白色粒	
842			SE4123			須恵器	杯蓋	112	20	-	9世紀後半～9世紀前半	7.5Y5-1	灰色		白色粒	
843			SD4130			須恵器	杯蓋	132	25	-	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y6-1	黄灰色		黒色粒	
844			SE4129			須恵器	杯蓋	118	19	-	9世紀後半～9世紀前半	N5-9	灰色		焼き遺品	
845			SP4132			須恵器	杯蓋	153	18	-	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y6-1	黄灰色			
846			SP4134			須恵器	杯蓋	144	18	-	9世紀後半～9世紀前半	7.5Y5-1	灰色			
847		119	SE4114			須恵器	杯蓋	167	13	-	9世紀後半～9世紀前半	10Y5-1	灰色			
848			SD4004	X125Y51		須恵器	杯蓋	172	13	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y4-1	灰色			
849			SE4121			須恵器	杯蓋	157	27	-	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y5-1	黄灰色		白色粒	
850			SP4146			須恵器	杯蓋	170	23	-	9世紀後半～9世紀前半	10Y5-1	灰色			
851			SP4137			須恵器	杯蓋	136	23	-	9世紀後半～9世紀前半	N6-9	灰色		白色粒	
852				X72Y38 X73Y28	Ⅱ	須恵器	杯蓋	148	29	-	9世紀後半～9世紀前半	10Y86-2	灰黄褐色		胎用縄	
853			SD1025			須恵器	杯蓋	134	22	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y7-1	灰白色		胎用縄	
854			SC3008			須恵器	杯蓋	157	31	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y5-1	灰色		胎用縄	
855			SD4000	X114Y34		須恵器	杯蓋	111	-	-	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y7-2	灰黄色			
856			SD4004			須恵器	杯蓋	149	13	-	9世紀後半～9世紀前半	N5-9	灰色			
857			SD3005	X26Y32		須恵器	蓋	130	11	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y6-1	灰色			
858			SD3005	X73Y32		須恵器	杯蓋	130	26	-	9世紀後半～9世紀前半	N5-9	灰色		白色粒	
859		30	SD300	No.3		須恵器	杯蓋	156	39	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y6-1	灰色		白色粒	
860			SD300			須恵器	杯蓋	164	30	-	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y7-1	灰白色			
861			SD300	No.4		須恵器	杯蓋	154	27	-	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y5-1	黄灰色		白色粒	
862			SD300	No.6		須恵器	杯蓋	152	22	-	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y7-2	灰黄色			
863			SD1007	X26Y35 X73Y36		須恵器	杯蓋	131	24	-	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y6-1	黄灰色			
864			SD1007	X26Y35		須恵器	杯蓋	147	22	-	9世紀後半～9世紀前半	N6-9	灰色			
865			SD1007			須恵器	杯蓋	148	20	-	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y7-2	灰黄色			
866			SD1007	X71Y33		須恵器	杯蓋	128	15	-	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y6-2	黄灰色			
867			SD4000	X114Y35		須恵器	杯蓋	138	19	-	9世紀後半～9世紀前半	N6-9	灰色			
868			SD4000			須恵器	杯蓋	121	23	-	9世紀後半～9世紀前半	N6-9	灰色		白色粒	
869			SD3005			須恵器	杯蓋	131	17	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y5-1	灰色			
870			SD3005			須恵器	杯蓋	142	14	-	9世紀後半～9世紀前半	7.5Y5-1	灰色		白色粒	
871		120	SD1025	X26Y35		須恵器	杯蓋	152	16	-	9世紀後半～9世紀前半	N5-9	灰色		胎用縄	
872			SD1025			須恵器	杯蓋	125	17	-	9世紀後半～9世紀前半	10Y5-1	灰色			
873			SP3009			須恵器	杯蓋	150	22	-	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y6-1	黄灰色		白色粒	
874			SP3009			須恵器	杯蓋	129	19	-	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y6-1	黄灰色		胎用縄	
875			SD3043			須恵器	杯蓋	137	16	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y6-1	灰色			
876			SD3030			須恵器	杯蓋	118	13	-	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y6-1	黄灰色		胎用縄	
877			SD3043			須恵器	杯蓋	118	23	-	9世紀後半～9世紀前半	N6-9	灰色			
878			SD4132			須恵器	杯蓋	113	17	-	9世紀後半～9世紀前半	N6-9	灰色		白色粒	
879			SD4132			須恵器	杯蓋	115	23	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y6-1	灰色			
880			SD3006			須恵器	杯蓋	130	30	-	9世紀後半～9世紀前半	10Y5-1	灰色		白色粒	
881		30	SK3122			須恵器	杯蓋	161	26	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y5-3	灰色		胎用縄	
882			SD3008	X26Y37		須恵器	杯蓋	180	27	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y6-1	灰色		白色粒	
883			SK3141			須恵器	杯蓋	172	16	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y5-3	灰色		白色粒	
884			SP3029			須恵器	杯蓋	174	14	-	9世紀後半～9世紀前半	7.5Y6-1	灰色			
885			SP3106			須恵器	杯蓋	174	16	-	9世紀後半～9世紀前半	7.5Y5-1	灰色			
886			SC3111			須恵器	杯蓋	169	19	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y5-1	灰色			
887			SP2001			須恵器	杯蓋	156	16	-	9世紀後半～9世紀前半	N6-9	灰色			
888			SP3002			須恵器	杯蓋	130	21	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y6-1	灰色			
889			SD4132			須恵器	杯蓋	167	26	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y6-1	灰色		黒色粒	
890			SD1007	X71Y33 X73Y33		須恵器	蓋	123	28	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y6-1	灰色			
891			SD4004	X125Y51		須恵器	蓋	-	-	-	9世紀後半～9世紀前半	7.5Y5-1	灰色			
892			SP3142			須恵器	蓋	158	94	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y5-1	灰色		白色粒	
893			SD4172	X125Y35		須恵器	器	-	125	-	9世紀後半～9世紀前半	N5-9	灰色	7.5Y3-1	付-702	内外面クナギ 外面クナギ後クナギ
894			SD2016	X125Y34		須恵器	小型器	-	37	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y5-1	灰色		内外面クナギ 外面クナギ後クナギ	
895		30	SD3043			須恵器	器	-	59	53	9世紀後半～9世紀前半	N5-9	灰色			
896			SD4129			須恵器	器	-	57	122	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y5-1	黄灰色			
897			SD3141			須恵器	器	-	52	92	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y6-1	黄灰色			
898			SK4000			須恵器	甕	264	43	-	9世紀後半～9世紀前半	5Y5-1	灰色		白色粒	
899		121	SD300			須恵器	甕	-	80	-	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y7-2	灰黄色		内外面クナギ 外面クナギ後クナギ	
900			SP3054			須恵器	甕	-	102	-	9世紀後半～9世紀前半	N6-9	灰色			
901			SD2016	X125Y33		須恵器	甕	-	91	115	9世紀後半～9世紀前半	5Y4-1	灰色			
902			X72Y32		Ⅱ	須恵器	甕	-	-	-	9世紀後半	5Y6-1	灰色		白色粒	口縁部に281単位 の黒灰文あり
903			SD3008	X73Y27		須恵器	甕	198	93	-	9世紀後半～9世紀前半	N6-9	灰色			
904			SD2016	X125Y33		須恵器	甕	522	88	-	9世紀後半	N5-9	灰色			
905			SD1007			須恵器	甕	446	222	-	9世紀後半	N6-9	灰色			口縁部に黒灰文あり
906			SD4004	X125Y51		須恵器	甕	220	79	-	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y6-2	灰黄色			
907			SD2016			須恵器	甕	-	37	87	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y7-2	灰黄色			
908			SK3025			須恵器	甕	312	80	-	9世紀後半～9世紀前半	2.5Y7-2	灰黄色			
909			SD300	No.1		須恵器	甕	346	163	-	9世紀後半～9世紀前半	10Y88-3	浅黄褐色			
910			SD2016	X119Y30		須恵器	甕	-	128	-	9世紀後半～9世紀前半	10Y88-3	浅黄褐色		黒色粒	
911	122		SK4100			茶色土器	甕	126	23	-	9世紀後半～9世紀前半	10Y86-4	こげ茶褐色	5YR3-6 7.5Y2-1	胎土褐色 黒色	内外茶色 外面赤黒

第36表 古代土器一覽(3)

遺物番号	調査番号	図説番号	遺種	出土地点	層位	種類	器種	容量 (ml)			時期	胎土色調		赤胎・黒色・釉		胎土	備考	
								口径	器高	底径		記号	色名	記号	色名			
912			SI1003			黑色土器	瓶	-	123	5.5	8世紀後半~9世紀前半	10YR7/4	じい・黄褐色	25Y2/1	黒色		内面黒色	
913			SI1135	X118Y33		黑色土器	瓶	-	120	6.0	8世紀後半~9世紀前半	10YR7/3	じい・黄褐色	10Y2/3	黒色		内面黒色	
914			SI4015			黑色土器	瓶	-	111	6.0	8世紀後半~9世紀前半	25Y5/1	黄褐色	73Y2/1	黒色		内面黒色	
915			SI1025	X70Y35 X73Y36		黑色土器	瓶	11.0	3.8	6.3	8世紀後半~9世紀前半	10YR7/4	じい・黄褐色	25YR4/8 10Y2/1	赤褐色	赤色		内面黒色 外面赤胎
916				X73Y33 X74Y32		黑色土器	瓶	12.1	3.5	6.7	8世紀後半	73YR7/4	じい・褐色	10YR4/6 10Y2/1	赤色	赤色		内面黒色 外面赤胎
917		42	SI1055	X74Y33		黑色土器	瓶	14.3	4.4	7.6	8世紀後半~9世紀前半	73YR6/4	じい・褐色	5YR4/8 25Y2/1	赤褐色	赤色		内面黒色 外面赤胎 底面赤胎
918			SK3141			土器胎	瓶	-	120	5.8	8世紀後半~9世紀前半	10YR7/3	じい・黄褐色	25YR4/6	赤褐色		内面赤胎	
919				X118Y33		土器胎	瓶	11.8	1.22	-	8世紀後半~9世紀前半	10YR7/3	じい・黄褐色	25YR4/6	赤褐色		内面赤胎	
920			SI1027	X70Y35		土器胎	瓶	11.4	3.4	5.9	8世紀後半~9世紀前半	73YR4	浅黄褐色	25YR4/6	赤褐色		内面赤胎	
921			SI4090	X113Y34		土器胎	瓶	-	128	5.5	8世紀後半~9世紀前半	10YR7/3	じい・黄褐色	25YR4/8	赤褐色		内面赤胎	
922			SI1030			土器胎	瓶	-	115	5.2	8世紀後半~9世紀前半	10YR7/3	じい・黄褐色	25YR4/8	赤褐色		内面赤胎	
923			SK4100			土器胎	瓶	12.7	2.3	-	8世紀後半~9世紀前半	73YR6/4	じい・褐色				内面赤胎	
924			SI1089			土器胎	瓶	12.9	3.9	7.4	8世紀後半~9世紀前半	10YR8/4	浅黄褐色				内面赤胎 表面黄褐色	
925			SI1010			土器胎	瓶	13.0	3.7	8.3	8世紀後半~9世紀前半	73YR8/4	浅黄褐色				内面赤胎	
926				X70Y35		黑色土器	瓶	17.8	14.7	-	8世紀後半~9世紀前半	73YR8/4	じい・黄褐色	25Y2/1	黒色		内面赤胎	
927		42	SK3141	Ns1		土器胎	瓶	-	137	8.2	8世紀後半~9世紀前半	10YR7/4	じい・黄褐色	25YR4/6	赤褐色	砂	内面赤胎 外面赤胎 又付着	
928			SI1030			土器胎	瓶	15.3	5.6	6.4	8世紀後半~9世紀前半	5YR6/6	褐色				内面赤胎	
929			SI1030	X112Y47		土器胎	高杯	18.1	2.3	-	8世紀後半~9世紀前半	5YR7/4	じい・褐色	5YR4/6	赤褐色		赤胎	
930			SP1128			土器胎	高杯	24.0	2.2	-	8世紀後半~9世紀前半	10YR8/4	浅黄褐色	25YR4/6	赤褐色		赤胎	
931				X71Y33 X71Y35		土器胎	高杯	-	-	-	8世紀後半~9世紀前半	73YR7/4	じい・黄褐色	25YR5/8	明赤褐色	砂	赤胎	
932			SI1135	X109Y32		土器胎	胎台	-	18.1	-	8世紀後半~9世紀前半	10YR7/4	じい・黄褐色	25YR4/6	赤褐色		赤胎	
933		42		X74Y32		土器胎	甕	11.0	9.4	-	8世紀後半~9世紀前半	10YR5/3	じい・黄褐色			砂	内面赤胎 外面赤胎	
934			SI1055	X77Y32		土器胎	甕	11.6	13.0	-	8世紀後半~9世紀前半	10YR5/3	じい・黄褐色				内面赤胎 外面赤胎 又付着	
935		42		X73Y32		土器胎	甕	13.8	10.3	-	8世紀後半~9世紀前半	73YR7/3	じい・褐色				内面赤胎	
936				X73Y32 X73Y33		土器胎	甕	10.3	6.4	-	8世紀後半~9世紀前半	73YR6/4	じい・褐色				内面赤胎	
937				X77Y36		土器胎	甕	12.5	4.8	-	8世紀後半~9世紀前半	73YR5/4	じい・褐色				内面赤胎	
938			SP1128			土器胎	甕	12.6	13.1	-	8世紀後半~9世紀前半	10YR7/4	じい・黄褐色				内面赤胎	
939			SI1055			土器胎	甕	14.6	13.3	-	8世紀後半~9世紀前半	10YR4/3	じい・黄褐色				内面赤胎	
940			SP1153			土器胎	甕	15.5	16.1	-	8世紀後半~9世紀前半	10YR6/3	じい・黄褐色			砂	内面赤胎 又付着	
941			SK4139			土器胎	甕	17.0	14.3	-	8世紀後半~9世紀前半	10YR8/4	浅黄褐色				内面赤胎	
942			SK4139			土器胎	甕	18.6	16.8	-	8世紀後半~9世紀前半	10YR8/4	浅黄褐色				内面赤胎	
943			SK3124			土器胎	甕	19.5	7.7	-	8世紀後半~9世紀前半	73YR6/4	じい・褐色			砂	内面赤胎	
944			SI1135			土器胎	甕	19.0	12.6	-	8世紀後半~9世紀前半	10YR7/3	じい・黄褐色				内面赤胎	
945			SK2034			土器胎	甕	19.5	4.8	-	8世紀後半~9世紀前半	73YR7/3	じい・褐色			砂	内面赤胎	
946			SI1025	X74Y36		土器胎	甕	21.8	15.5	-	8世紀後半~9世紀前半	73YR7/6	褐色				白色粒	
947			SI1017			土器胎	甕	22.4	8.4	-	8世紀後半~9世紀前半	10YR6/3	じい・黄褐色				内面赤胎	
948			SI1100			土器胎	甕	14.4	13.2	-	8世紀代	73YR5/3	じい・褐色				内面赤胎 外面赤胎	
949			SI1100			土器胎	甕	13.1	13.8	-	8世紀代	10YR6/4	じい・黄褐色				内面赤胎	
950			SI1100	Ns8		土器胎	甕	-	17.0	8.8	8世紀代	10YR6/3	じい・黄褐色			砂	内面赤胎	
951		42	SI1100			土器胎	甕	14.2	17.9	-	8世紀代	73YR7/3	じい・褐色				内面赤胎	
952			SK3138			土器胎	甕	14.5	13.5	-	8世紀代	73YR6/3	じい・褐色				内面赤胎	
953			SK3122 SI1025	X73Y35		土器胎	甕	13.3	14.9	-	8世紀代	10YR7/3	じい・黄褐色				内面赤胎	
954			SI1004	X124Y48		土器胎	甕	-	12.8	-	8世紀代	10YR6/4	じい・黄褐色				内面赤胎 赤色粒 白色粒	
955		123	SI1004	X125Y51		土器胎	甕	-	13.5	5.5	8世紀代	5YR6/6	褐色				内面赤胎	
956			SI1025	X70Y35		土器胎	甕	14.6	7.3	-	8世紀代	73YR5/4	じい・褐色				内面赤胎 外面赤胎	
957			SI1004	X125Y47		土器胎	甕	14.8	14.4	-	8世紀代	73YR6/6	褐色				内面赤胎	
958		42	SI1004	X125Y51		土器胎	甕	16.2	13.3	-	8世紀代	10YR6/3	じい・黄褐色			砂	内面赤胎	
959			SI1004	X124Y48		土器胎	甕	17.4	20.0	-	8世紀代	10YR6/3	じい・黄褐色				内面赤胎	
960		42	SI1067	X73Y33		土器胎	甕	26.6	12.4	-	8世紀代	10YR7/4	じい・黄褐色				内面赤胎	
961			SI1025	X73Y35		土器胎	甕	37.4	10.2	-	8世紀後半~9世紀前半	73YR8/4	浅黄褐色				内面赤胎	
962			SI1030			土器胎	甕	35.2	13.4	-	8世紀後半~9世紀前半	10YR7/4	じい・黄褐色				又付着	
963			SI1090	X114Y35		土器胎	甕	36.0	13.9	-	8世紀後半~9世紀前半	73YR7/4	じい・褐色				内面赤胎	
964			SP1106			土器胎	甕	35.6	16.2	-	8世紀後半~9世紀前半	10YR6/4	浅黄褐色				内面赤胎	
965			SI3009			土器胎	甕	43.0	13.1	-	8世紀後半~9世紀前半	10YR8/3	浅黄褐色				内面赤胎	

■ 胎土の色調は基本編付未定

第37表 中世土坑一覽

地区	遺構	遺構種類	平面形	規模(m)			切り合い	出土遺物	特記事項	検出番号	図版番号
				長さ	幅	深さ					
A	SK4002	竪穴式土坑	方形	2.80	2.60	0.30		土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、中国製青磁		128	
A	SK4022	竪穴式土坑	方形	3.20	3.10	0.25	>SK4022	縄文土器、土師器、須恵器、中世土師器、瀬戸瓦器			

第38表 中世井戸一覽

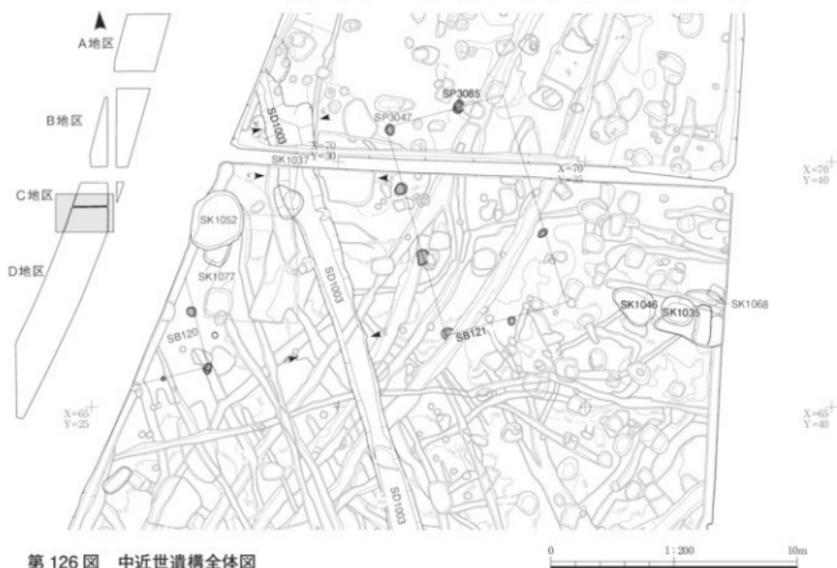
地区	遺構	平面形	規模(m)			切り合い	出土遺物	特記事項	検出番号	図版番号
			長さ	幅	深さ					
A	SE4015	円形	1.45	1.45	0.70		土師器(914)、須恵器(833・834)、黒色土器			26
A	SE4071	円形	1.30	1.10	0.50		土師器、須恵器(840)、中世土師器		127	
A	SE4121	楕円形	1.85	1.40	0.70	>SE4128	土師器、須恵器(798・849)、中世土師器(970)、磁石、円形板			26

第39表 中世溝一覽

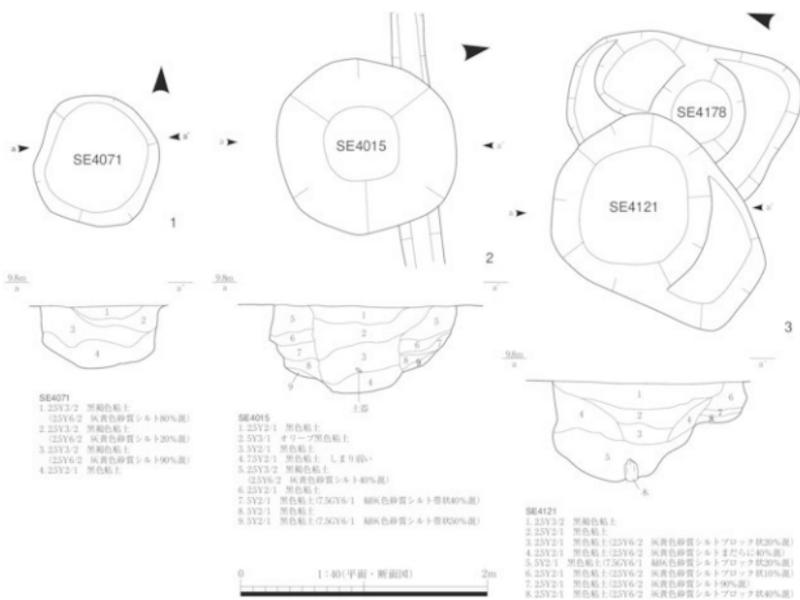
地区	遺構	平面形	規模(m)			切り合い	出土遺物	特記事項	検出番号	図版番号
			長さ	幅	深さ					
C	SD3003		1.95	0.42			土師器(912)、須恵器(836)、黒色土器、製瓦土器、土師(994)、古世陶磁器	HSB03022	126・129	
A	SD2155		5.40	0.45		>SE4154・SK4157・SK4166	縄文土器、土師器(913・932・944)、須恵器(807・809・822・894・901・904・907・910)、黒色土器、中世土師器(972)、珠洲(929・985・987)、瀬戸瓦器、中国製白磁(976)、中国製青磁、中国製青白磁、越前(988)、唐律、伊方瓦、円形板、透器碗、磁石、磁片、磁実、骨	HSB40001	125・129	
A	SD4004		2.6	0.33		<SK4164	土師器(954・955・957・959)、須恵器(796・797・848・856・891・900)、黒色土器、瀬戸(978)、中世土師器(968)、磁石、磁片		129	

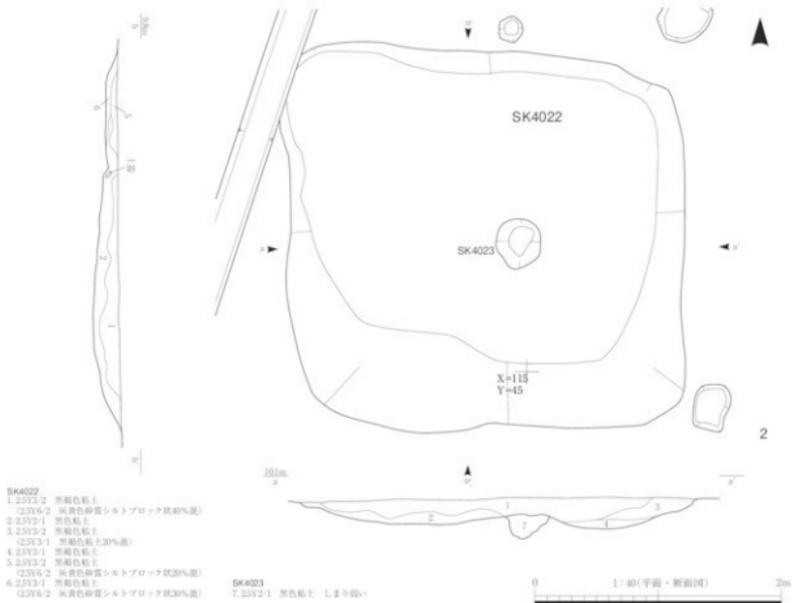
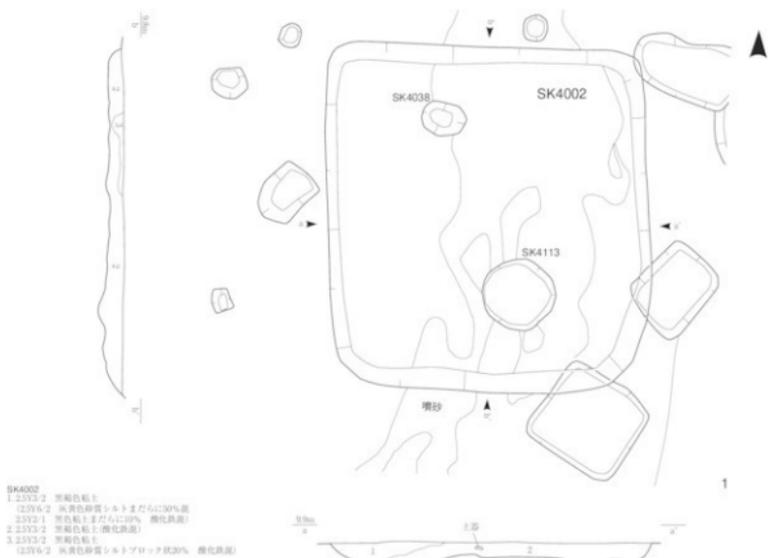


第125図 中近世遺構全体図

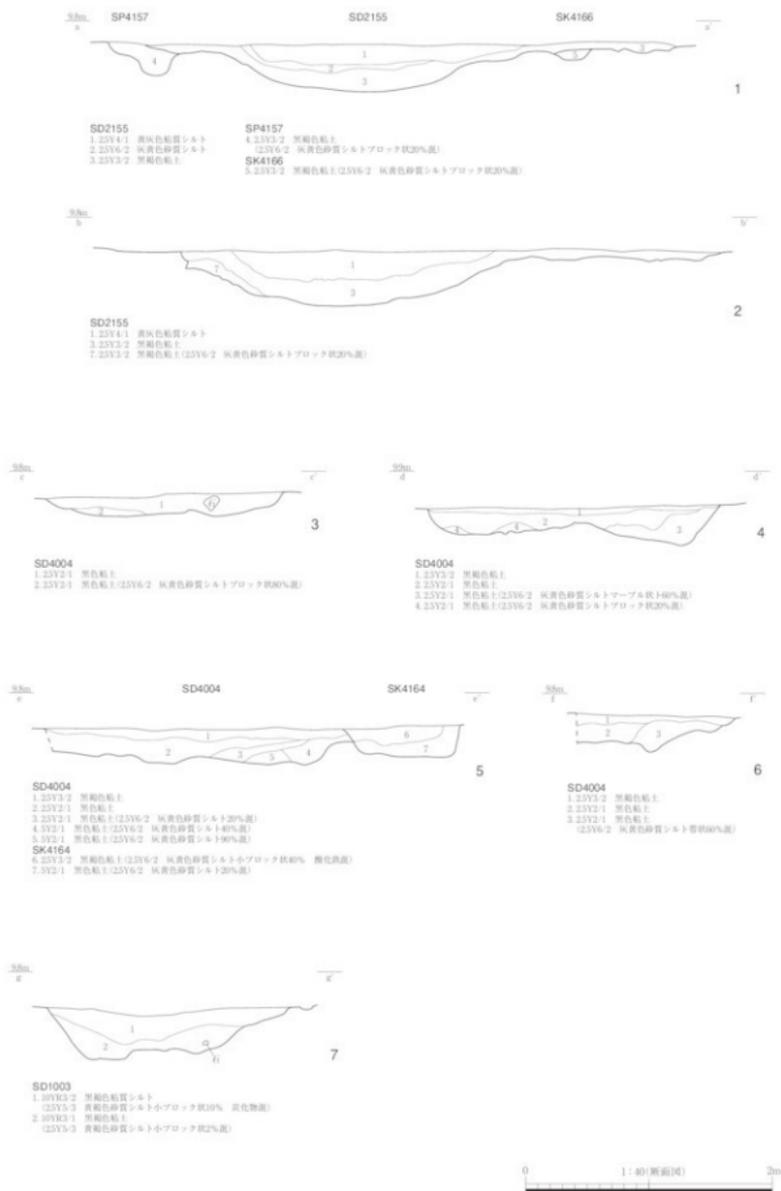


第126図 中近世遺構全体図

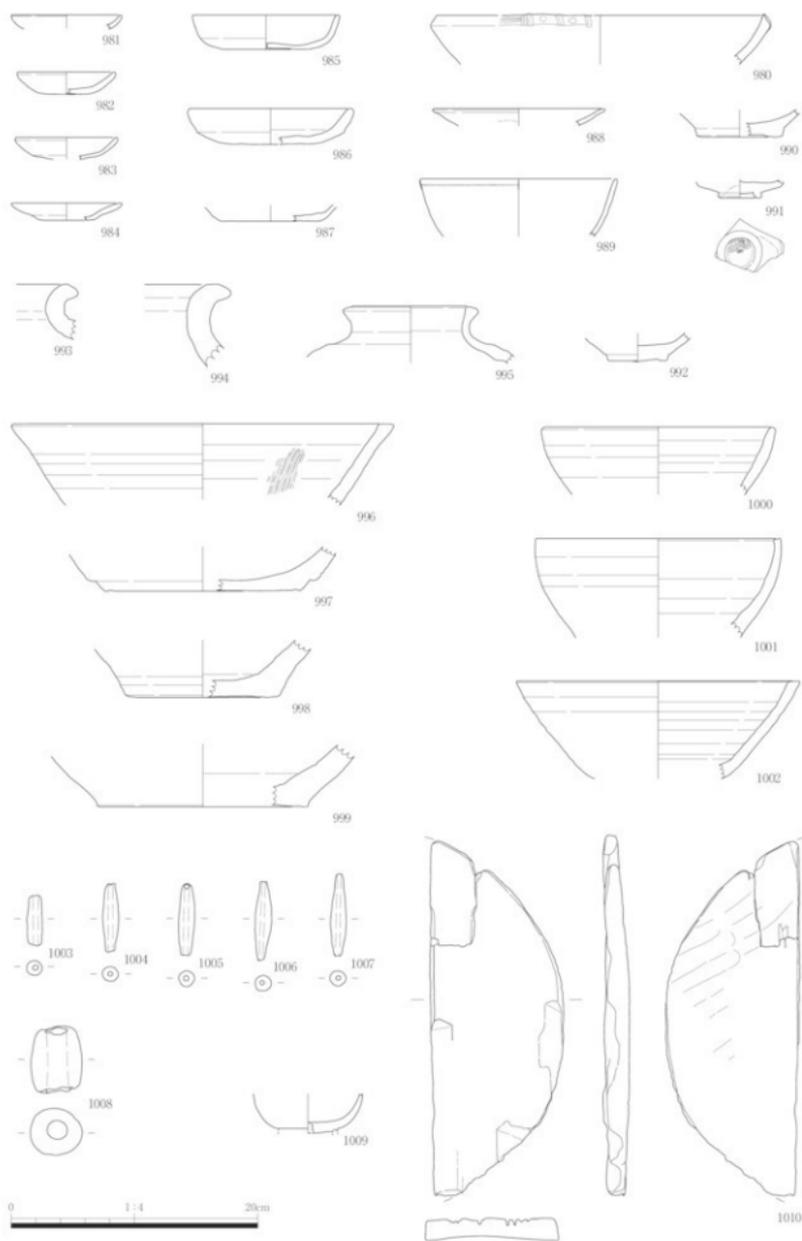
第127図 中近世遺構実測図  
1. SE4071 2. SE4015 3. SE4121



第128図 中近世遺構実測図  
 1.SK4002 2.SK4022・SK4023



第129図 中近世遺構実測図  
1・2. SD2155 3～6. SD4004 7. SD1003



第130図 遺物実測図 (1/4)

SK4041 (981) SD4004 (983・992) SK4045 (984) SE4121 (985) SP4154 (986) SD2155 (987・990・993~996・998~1002・1009・1010) SP3085 (1003) SK3084 (1007) SD1003 (1008) 包含層

第40表 中世土器・陶磁器一覧

遺物番号	種別番号	図版番号	遺構	出土地点	層位	種類	法量(cm)			時期	胎土色調		赤彩・黒色/施		胎土	備考
							長さ/口径	幅	底径		記号	色名	記号	色名		
980				X70Y34		縄文	浅鉢	26.6	(4.2)	-	晩期	10YR6/4	にぶい・黄褐色			臼縁部部に沈殿・胎土粒貼り付け・縄文
981		SK4041				中世土器器	皿	8.9	(1.1)	-		10YR8/3	浅黄褐色			
982				X120Y32		中世土器器	皿	7.8	1.8	-	13世紀~14世紀	10YR7/4	にぶい・黄褐色			
983		SD4004		X125Y49		中世土器器	皿	8.2	(1.8)	-	15世紀~16世紀	10YR7/3	にぶい・黄褐色			
984		SK4045				中世土器器	皿	8.8	1.4	4.4	15世紀~16世紀	10YR7/3	にぶい・黄褐色			
985		SE4121				中世土器器	皿	11.8	2.8	7.0	13世紀~14世紀	10YR8/3	浅黄褐色			赤色粒
986		SP4154				中世土器器	皿	13.1	2.9	6.0	13世紀~14世紀	10YR5/2	灰黄褐色			
987		SD2155		X130Y32		中世土器器	皿	-	(1.3)	8.0		10YR7/2	にぶい・黄褐色			
988				X112Y51		灰地	皿	13.7	(1.4)	-		25Y7/2	灰黄色	5Y7/1	灰白色	
989				X71Y32		青磁	碗	15.8	(4.7)	-		5Y8/1	灰白色			臼縁部外側に沈殿
990		SD2155		X120Y34		白磁	碗	-	(2.2)	5.6		5Y7/1	灰白色			
991				X71Y32		白磁	碗	-	(1.5)	3.2		25Y8/2	灰白色			
992		SD4004		X125Y49		瀬戸黄瀬	碗	-	(2.3)	4.6		10YR7/2	にぶい・黄褐色	7.5Y5/3	灰イローゾ色	
993	130	SD2155		X121Y34		珠河	変	-	-	-	Ⅱ期	N5/0	灰色			
994		SD2155		X109Y32		珠河	変	-	-	-	I期	N4/0	灰色			
995		SD2155		X113Y32		珠河	変	9.2	(4.7)	-	Ⅱ期	N6/0	灰色			
996		SD2155		X122Y30		珠河	鉢	29.0	(6.2)	-	Ⅱ期	25Y6/3	にぶい・黄褐色			10cm1單位の節目
997				X113Y31	Ⅱ	珠河	変	-	(3.6)	15.7		N5/0	灰色			
998		SD2155		X110Y32		珠河	変	-	(4.7)	10.4		N5/0	灰色			底部跡に赤切り
999		SD2155		X121Y34		越前	変	-	(5.1)	16.8		10YR6/4	にぶい・黄褐色			
1000		SD2155		X130Y33		珠河	鉢	18.4	(5.5)	-	Ⅱ期	25Y5/1	黄褐色			
1001		SD2155		X125Y49		珠河	鉢	19.8	(8.1)	-	Ⅱ期	N5/0	灰色			
1002		SD2155				珠河	鉢	22.8	(8.0)	-	Ⅱ期	5Y5/1	灰色			
1003		SP9085				土製品	土鉢	4.1	1.25	0.45		10YR7/4	にぶい・黄褐色			
1004				X71Y33		土製品	土鉢	5.6	1.3	0.4		10YR7/2	にぶい・黄褐色			
1005				X71Y32		土製品	土鉢	5.85	1.3	0.4		10YR7/3	にぶい・黄褐色			
1006				X74Y38		土製品	土鉢	6.4	1.3	0.35		10YR7/4	にぶい・黄褐色			
1007		SK3084				土製品	土鉢	6.7	1.3	0.4		10YR7/3	にぶい・黄褐色			
1008		SD1003		X72Y29		土製品	土鉢	5.45	4.2	1.50		10YR6/2	灰黄褐色			

※層位のローマ数字は基本層序を示す

第41表 中世木製品一覧

遺物番号	種別番号	図版番号	遺構	出土地点	層位	種類	法量(cm)			備考
							長さ/口径	幅/底径	厚さ/残存高	
1010	130	55	SD2155	X125Y32	上層	円形板	29	10.5	1.5	片面加工痕残る
1009		49	SD2155	X110Y31	中~下層	漆製板	最大径30	厚さ3.5	底径5.5	内面赤色漆、外面黒色漆

## 第V章 自然科学分析

### 1 須恵器の蛍光X線分析

#### (1) はじめに

粘土は火成岩が地質年代をかけて風化し生成したものである。火成岩は鉱物組成(元素組成)からみて大きく玄武岩、安山岩、デイサイト、流紋岩(花崗岩類)に分類されている。これらの岩石から風化して生成した粘土の化学特性も異なることが予想される。しかし、粘土鉱物の結晶化学的研究はあっても、地球化学的研究はなされていない。岩石にはその分布図である地質図ができていても、粘土にはその分布図すらできていないのである。このことは粘土の地球化学的研究が非常に難しいことを示している。

他方、土器は粘土を素材としてできている。土器遺物を分析化学的に研究するには、試料採取の点からみて、素材粘土を分析するよりも、製品土器を分析するほうがはるかに有利である。その場合、生産地である窯跡が残っており、そこに多数の土器破片が残っている土器が必要である。幸運にも、土器遺物には全国各地に生産地である窯跡が多数残されていた土器があった。古代陶器の須恵器である。須恵器は古代最大の窯業生産の産物であり、その窯跡は全国各地に数千基はあるといわれる。行政発掘によって、これらの窯跡からは多数の須恵器破片が発掘されている。窯跡出土須恵器こそ、土器遺物の分析化学的研究には絶好の分析対象であった。この点に着目した筆者は全国各地の窯跡出土須恵器を大量に分析した。その結果、K、Ca、Rb、Srの4元素が有効に地域差を表すことが見つけられた。通常、地域差はK-Ca、Rb-Srの両分布図上で表示される。

一方、須恵器窯跡群の後背地を構成する岩石は花崗岩類である場合が多い。花崗岩類は玄武岩や安山岩などの塩基性岩に比べて、Kが比較的多く、Caが比較的小さい。花崗岩類に由来する粘土も同じ化学特性をもっており、この条件が固い「やきもの」を高温焼成する上に必要なのである。玄武岩に由来する粘土は高温焼成で焼結し難く、須恵器の素材粘土としては適していない。日本列島の地質の基盤を構成する岩石は花崗岩類である。このことは日本列島が固い「やきもの」を作る上に有利な地域であることを示している。これが全国各地に数千基の窯跡が残されている理由である。この点に着目した筆者は全国各地の花崗岩類の岩片試料も大量に分析した。その結果、全国各地の花崗岩類の試料はK-Ca分布図上で「花崗岩類のベルト帯」に分布し、花崗岩類にも地域差があることが実証された。さらに、その原因は花崗岩類を構成する主成分鉱物である「長石類」であることもわかった。そして、窯跡群出土須恵器の地域差も母岩の長石類に起因することも示された。こうして、窯跡群出土須恵器の化学特性は地理的情報をもつことも明らかにされた。また、微量元素RbとSrはそれぞれ、主成分元素K、Caと正の相関性をもつことも実証された。したがって、Rb-Sr分布図上でも「花崗岩類のベルト帯」が形成され、花崗岩類も地域差を示すことが理解できた。これがK-Ca、Rb-Srの両分布図上で地域差を表示する理由である。Fe、Ti、Mnなどの元素は黒雲母、角閃石、輝石などの通称鉄化合物中に含まれる元素であるが、これらの元素の地域差に関する研究は進んでいない。これがこれらの元素を土器遺物の考古学的研究に積極的に使用しない理由である。

地域差を示す元素が発見された時点で、これらの元素を中核とした須恵器産地推定法の開発研究が進められた。その結果、数理統計学の考え方を導入して、須恵器産地推定法は長石系4因子を中核とした2群判別分析法として提案された。この方法はまず、窯跡数が少ない古墳時代の須恵器の産地

問題の研究に適用された。その結果、陶邑産須恵器が一方的に全国各地の古墳へ供給されていたことが実証された。他方、須恵器生産が古代最大の窯業生産として発展する律令体制下では全国各地に須恵器生産が広がり、窯跡数は急増するので、元素分析による産地問題の研究も複雑になる。筆者は律令が施行された当初は同じ郡域内での須恵器の生産・供給関係が成り立つという仮定に立って、8世紀代の須恵器の生産・供給問題の研究を進めている。9世紀代に入ると、郡域を越えて須恵器が供給される可能性を考慮に入れて、産地を拡大して須恵器産地推定法を適用することを考えている。今後、データの集積とともに、この仮定は変更される可能性も十分ある。今回はこの仮定に立って、出来田南遺跡出土須恵器(奈良～平安時代)の蛍光 X 線分析の結果を報告する。

## (2) 分析法

土器型式が把握されている須恵器から、5mm～1cm 程度の小破片を取り出し、その表面を手動式研摩機で研磨したのち、タングステンカーバイド製の乳鉢の中で100メッシュ以下に粉砕した。粉末試料は塩化ビニル製リングを枠にして、電動プレスで12トンの高圧をかけてプレスし、内径20mm、厚さ5mmの錠剤試料を作成し、蛍光 X 線分析用の試料とした。

蛍光 X 線分析には理学電機製 RIX2100(波長分散型)を使用した。この装置には TAP、Ge、LiF の3枚の分光結晶と、ガスフロー比例計数管とシンチレーションカウンターの二つの検出器が装備されている。また、この装置には50試料が同時に搭載できる自動試料交換器も連結されており、これらはコンピューターで制御される完全自動式の蛍光 X 線分析装置である。このような装置でないと、長年にわたって、大量の土器試料を分析する作業を継続することは困難である。

分析値は同じ日に測定された岩石標準試料 JG-1(または JG-1a)による標準化値として表示された。長年にわたって、大量の土器試料を分析する上には、検量線法よりも標準化法のほうがはるかに有利である。さらに、須恵器の素材粘土の母岩となる花崗岩類との比較研究にも、JG-1による標準化法は役立った。JG-1による標準化法を使わなかったら、花崗岩類の地域差も見つからなかっただろうし、窯跡群出土須恵器の地域差の原因も分からなかったであろう。JG-1による標準化法が須恵器産地推定法の開発研究では、如何に重要であったかがわかる。

## (3) 分析結果

今回分析した須恵器資料の分析値は第42表にまとめてある。6元素の分析値は日本地質調査所が配布する岩石標準試料 JG-1a による標準化値で表示されている。もし、(%) や (ppm) 表示が必要であれば、この標準化値に地質調査所から公表されている JG-1a の分析値を乗ずればよい。しかし、土器遺物の産地問題の研究には JG-1a による標準化値のほうがはるかに便利であるので、データ解析には通常、JG-1a による標準化値を使用する。第42表の分析データをもとに、K-Ca、Rb-Sr 分布図を作成した。すでに、富山県内の窯跡群出土須恵器の分析データは出されているので、出来田南遺跡出土須恵器の分析データを両分布図上で近距離に在る窯跡群の須恵器の分布領域に定性的に対応させて産地を探った。窯跡(窯跡群)出土須恵器の試料集団はばらついて分布するので、データ解析ではまず、両分布図で各窯跡群の分布領域に定性的に対応させる方法がもっとも適している。そのさい、出来田南遺跡出土須恵器は両分布図上でまとまって分布していることを確認した上で、便宜上、今回分析した須恵器資料は同じ産地のものであると仮定してデータ解析を進めた。はじめに、出来田南遺跡の近くに在る窯跡群出土須恵器の両分布図を示す。

第131図には射水左岸窯跡群(石名山1号、流団 No.16、18窯)の須恵器の両分布図を示す。試料集団はまとまって分布していることがわかる。このことは射水左岸窯跡群として一定の化学特性をもつ

ことを意味する。殆どの試料を包含するようにして長方形で射水左岸領域を描いてある。

第132図には射水右岸窯跡群(石太郎F, I, 赤坂C窯)の須恵器の両分布図を描いてある。試料集団は窯跡群としてまとまって分布していることがわかる。Ca, Srが射水左岸窯群の須恵器に比べて少なく、両者の相互識別は可能である。

第133図には婦負窯跡群(古沢I, 4号, 西金屋窯)の須恵器の両分布図を示す。Rbが射水左岸窯跡群の須恵器に比べて、やや多い傾向がある。婦負領域は両分布図で一部、射水左岸領域と重複する。この重複領域に分布する試料は誤判別される可能性がある。

第134図には梅檀野窯跡群(福山, 西谷A, 立神窯)の須恵器の両分布図を示す。その分布位置は射水左岸窯跡群の須恵器に近く、射水左岸領域の左側の領域に重なる。このことは今回分析した須恵器資料の産地が射水左岸窯跡群か梅檀野窯跡群かを誤判別される可能性がある。したがって、胎土分析のデータだけではなく、土器型式でも点検することが必要であることを示す。

今回分析した出来田南遺跡出土須恵器の生産地はこれらの窯跡群の中にあると推定されるので、今回得られた分析データを両分布図上で、これらの近辺に所在する窯跡群の領域との対応を試みた。

第135図には今回分析した出来田南遺跡出土須恵器を一括して両分布図に示す。両分布図ではまとまって分布しているので、便宜上、これらの須恵器は同じ窯跡群の製品であると仮定してデータ解析を行った。第135図には両分布図で最も近い分布をする窯跡群の領域として、射水左岸窯跡群の領域を比較対照の領域として描いてある。そうすると、出来田南遺跡出土須恵器は射水左岸領域にほぼ対応するが、両分布図で左側部分に偏って分布している。この領域は婦負領域と梅檀野領域が部分的に重複することから、射水左岸窯群の製品であると即断する訳にはいかない。第136図には射水左岸窯跡群の一つである流団No.16, 18号窯跡の須恵器の両分布図を描いてある。第135図と比較すると、出来田南遺跡出土須恵器の分布にほぼ重なるが、流団No.16, 18の須恵器は射水左岸領域全体に広がって分布しているのに対して、出来田南遺跡出土須恵器の試料群は射水左岸領域の左側に偏って分布しており、両分布図における分布位置には微妙な違いがあることがわかる。流団No.16, 18号窯跡も出来田南遺跡の須恵器の産地候補の一つに挙げられるが、婦負窯跡群や梅檀野窯跡群も産地候補として考えておかなければならない。したがって、胎土分析の結果を鵜呑みするのではなく、土器型式でも点検してみる必要がある。流団No.16, 18の須恵器が土器型式でも対応するかどうかである。このように土器遺物の考古学的研究では胎土分析の結果をそのまま鵜呑みするのではなく、土器型式でも対応することは必要である。それが考古学的方法なのである。

今回分析した須恵器資料は考古学的に見て、奈良～平安時代の須恵器と推定されている。このことは今回分析した須恵器資料の生産地は必ずしも同じ窯跡群であるとは限らないことを意味する。自然科学側からのデータ解析では便宜上、同じ生産地の須恵器であると仮定してデータ解析を進めただけである。

ここで、考古学的な土器型式からみて同じ産地の製品である可能性が高い試料を抜き出して両分布図を作成した。No.1～13, No.21～28, No.30, 49の須恵器である。それらの分布を第137図で、射水右岸窯群と射水左岸窯群の分布領域と比較した。明らかに、射水右岸窯群の分布領域には対応しないことがわかる。これに対して、射水左岸窯群の領域にはよく対応していることがわかる。胎土分析からは射水右岸窯跡群は今回分析した試料の生産地ではないことが示された訳である。逆に、射水左岸窯跡群産である可能性が出てきた。これらの須恵器は考古学的視点からも射水左岸窯跡群である判断してもよいことがわかれば、そのときはじめて、射水左岸窯跡群が生産地として認定されることに

なる。

第 138 図には出来田南遺跡出土の No.34, 35 の須恵器の両分布図を示す。これら 2 点の試料は考古学的にみても同じ生産地の須恵器と推定されている。この 2 点の須恵器資料は射水左岸領域と婦負群領域が重複する領域に分布し、両窯跡群が生産地である可能性があることを示している。両分布図ではその判別は困難である。土器型式ではどちらの生産地に対応するかである。もし、婦負窯跡群の須恵器に形式的に対応すれば、婦負窯跡群が生産地として推定されることになる。

第 139 図には出来田南遺跡出土の No.46~48 の須恵器の両分布図を示す。比較のために、近距離にある窯跡群である射水左岸領域、梅檀野領域も描いてある。その分布位置からみて、射水左岸領域に対応する可能性があるが、射水左岸領域と梅檀野領域とは重複するところがあるので、梅檀野窯跡群の製品である可能性もある。土器型式ではどちらの窯跡群に対応するかを検討することが必要である。

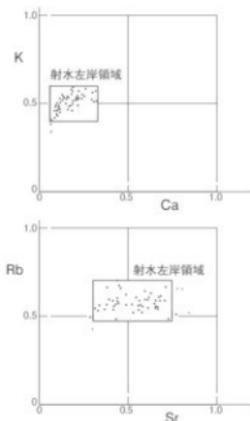
第 140 図にはその他の須恵器資料の両分布図を示す。両分布図でよくまとまって分布しており、胎土分析からは同じ生産地の製品であると推定される。その産地は射水左岸窯跡群が有力な候補であるが、これまでに筆者の手にある窯跡出土須恵器には分布位置がびたりとは一致する窯跡はない。射水左岸窯跡群の未分析の窯跡の製品である可能性もある。

以上の結果から、今回分析した須恵器は同じ生産地の製品であると仮定すると、その産地は射水左岸窯跡群である可能性がある判断された。ただ、今回分析した須恵器は奈良~平安時代の須恵器と推定されており、土器型式から今回分析した須恵器資料が必ずしも、すべて同じ生産地の製品であるとは限らない。そうだとすると、土器型式が異なる資料については別産地の製品である可能性があるとして、近隣の婦負窯跡群や梅檀野窯跡群への対応も必要となる。このように、K-Ca、Rb-Sr の両分布図で重複する領域に分布した試料については土器型式から推定される産地も考慮に入れなければならない。それが土器の生産・供給問題や伝播の研究を推進する新しい研究の方法である。産地推定の作業は考古学側と自然科学側との共同の作業が必要であり、それが「新しい土器の考古学」の研究法である。この方法を敷衍することによって、行政発掘によって、大量に発掘された土器遺物を古代史研究に役立てることができるであろう。

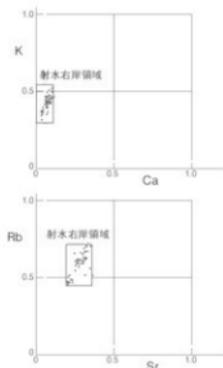
(胎土分析研究会 三辻 利一)

参考文献

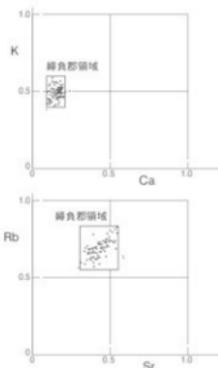
三辻利一(2013)「新しい土器の考古学」(同成社)



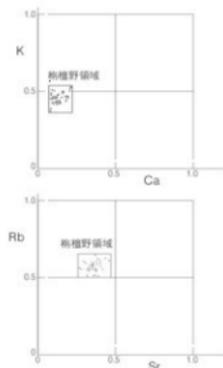
第 131 図 射水左岸窯跡群(大門町)の須恵器の両分布図



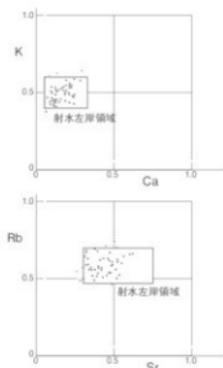
第132図 射水右岸跡群(小杉町)の須恵器の両分布図



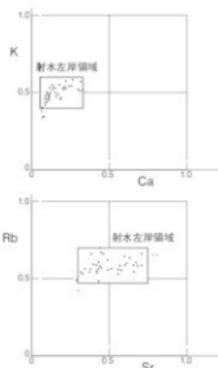
第133図 鯉負窯跡群(富山市)の須恵器の両分布図



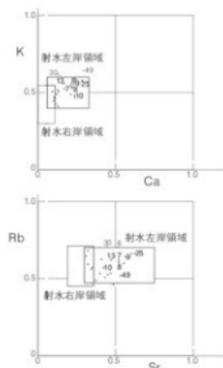
第134図 栴檀野窯跡群(小杉町)の須恵器の両分布図



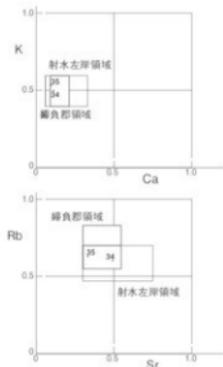
第135図 出来田南遺跡出土須恵器の両分布図



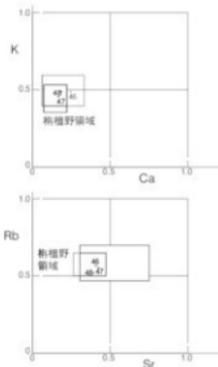
第136図 流図(No.16、18)窯跡出土須恵器の両分布図



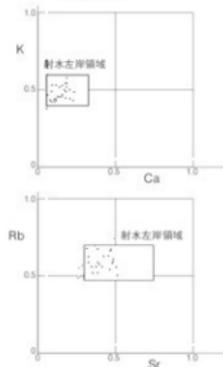
第137図 出来田南遺跡出土須恵器(No.1~13, No.21~28, No.30, 49)の両分布図



第138図 出来田南遺跡出土須恵器(No.34, 35)の両分布図



第139図 出来田南遺跡出土須恵器(No.46~48)の両分布図



第140図 出来田南遺跡出土須恵器(その他)の両分布図

第 42 表 須恵器胎土分析資料一覧

番号	回番号	器種	産区名	遺構	出土地点	備考	胎土	成分					
								K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na
1	307	杯蓋	D	大溝	③X46Y19	外面に黒書「友田上」	白色粒(S)少	0.517	0.126	1.59	0.619	0.908	0.205
2	17	杯A	D	大溝	③X44Y20	底部外面に黒書「友田上」	粒子が目立たない	0.462	0.11	2.22	0.587	0.321	0.111
3	18	杯A	D	大溝	③X48Y19	底部外面に黒書「友田上」	白色粒(M)少 海綿骨針	0.468	0.098	2.28	0.645	0.307	0.115
4	19	杯A	D	大溝	X44Y18	底部外面に黒書「友」	白色粒(S)少	0.448	0.102	2.15	0.559	0.338	0.114
5	20	杯A	D	大溝	③X45Y17	底部外面に黒書「友田上」	白色粒(S)やや多	0.507	0.093	2.51	0.682	0.32	0.123
6	194	杯B	D	大溝	③X31Y20	高台内に黒書「友田上」	白色粒(M)少 黒色粒(S)少	0.564	0.212	1.63	0.688	0.517	0.218
7	398	椀D	大溝	③X32Y18	高台内に黒書「友田上」		白色粒(L)やや多 海綿骨針	0.552	0.211	1.72	0.62	0.522	0.229
8	399	椀D	大溝	③X32Y19	高台内に黒書「友田上」		白色粒(S)やや多	0.441	0.215	1.73	0.668	0.518	0.328
9	423	豆	大溝	③X32Y22	高台内に黒書「友」		白色粒(M)少	0.552	0.225	1.74	0.628	0.508	0.341
10	305	杯D	D	大溝	③X31Y20	外面に黒書「五十」	粒子が目立たない	0.479	0.234	1.8	0.573	0.418	0.232
11	306	杯蓋	D	大溝	③X36Y20	内面に黒書「五十」	白色粒(S)・黒色粒(S)やや多	0.492	0.121	1.56	0.573	0.348	0.178
12	44	杯A	D	大溝	X36Y16	底部外面に黒書「五十」	白色粒(M)少 海綿骨針	0.509	0.129	1.67	0.507	0.434	0.206
13	400	椀D	大溝	③X49Y19	高台内に黒書「五十」		白色粒(M)少 黒色粒(S)少	0.518	0.167	1.41	0.621	0.468	0.265
14	340	杯蓋	D	SD336	X25Y19	内面にヘラ記号「×」	白色粒(M)やや多	0.579	0.188	1.62	0.742	0.499	0.337
15	341	杯蓋	D	SD1248	X60Y25	内面にヘラ記号「×」	白色粒(S)少	0.469	0.158	1.62	0.543	0.465	0.202
16	82	杯A	D	大溝	③X35Y18	底部外面にヘラ記号「×」	白色粒(M)やや多	0.438	0.089	2.56	0.55	0.256	0.078
17	81	杯A	D	大溝	③X42Y19	底部外面にヘラ記号「×」	白色粒(S)少 海綿骨針	0.45	0.18	1.67	0.629	0.461	0.173
18	83	杯A	D	大溝	③X40Y17	底部外面にヘラ記号「×」	白色粒(S)少	0.535	0.124	2.21	0.687	0.37	0.137
19	219	杯B	D	大溝	③X38Y17	底部内面にヘラ記号「×」	白色粒(M)少	0.436	0.084	2.8	0.501	0.299	0.119
20	218	杯B	D	大溝	③X46Y17	底部内面にヘラ記号「×」	白色粒(M)やや多 黒色粒(S)少	0.495	0.096	1.58	0.584	0.321	0.145
21	401	椀B	B	SK2181		高台内にヘラ記号「×」	白色粒(M)少	0.476	0.237	2.03	0.46	0.385	0.245
22	406	椀B	D	SI200	N42		白色粒(S)やや多	0.412	0.134	1.95	0.493	0.367	0.12
23	407	椀B	D	SK520	N42		白色粒(M)少	0.425	0.11	2.01	0.535	0.367	0.157
24	408	椀B	D	SD1750	X33Y22		白色粒(L)やや多 赤色粒(S)少	0.537	0.169	1.93	0.536	0.469	0.243
25	409	椀B	D	大溝	③X32Y18		白色粒(M)やや多	0.577	0.277	1.72	0.663	0.622	0.336
26	404	椀B	D	大溝	X32Y20		白色粒(S)少	0.491	0.309	1.6	0.52	0.448	0.286
27	404	椀B	D	大溝	③X48Y17		白色粒(S)少	0.583	0.243	1.72	0.656	0.567	0.336
28	405	椀B	D	大溝	③X38Y17		白色粒(S)少	0.542	0.219	1.59	0.597	0.548	0.322
29	84	杯A	D	SD1237	N659	底部肥厚 外面にヘラ記号「×」	白色粒(S)少 黒色粒(S)やや多	0.464	0.134	2.1	0.564	0.347	0.16
30	166	杯A	D	SK220		粒粒が少量に混じる	白色粒(L)多 黒色粒(S)やや多	0.627	0.13	1.87	0.712	0.445	0.187
31	412	小壺蓋	D	II X370Y32			白色粒(M)やや多 黒色粒(S)少	0.43	0.229	1.65	0.585	0.512	0.236
32	413	小壺蓋	D	I X349Y22			黒色粒(S)少	0.522	0.142	1.63	0.676	0.394	0.187
33	415	小壺蓋	D	II X350Y28			白色粒(M)・黒色粒(S)少	0.534	0.163	1.59	0.623	0.43	0.172
34	416	内面破	D	II X28Y13		幹部	白色粒(S)少	0.504	0.207	1.75	0.605	0.488	0.245
35	417	内面破	B	SD2270	X36Y36	筆立て付き3脚?	白色粒(M)やや多	0.536	0.093	1.41	0.634	0.333	0.112
36	345	杯蓋	D	SI110			白色粒(M)やや多	0.424	0.109	2.61	0.569	0.293	0.085
37	352	杯蓋	D	SI200			白色粒(S)少	0.441	0.109	1.78	0.526	0.366	0.14
38	359	杯蓋	D	SI168			白色粒(M)やや多 海綿骨針	0.443	0.209	1.95	0.498	0.516	0.249
39	365	杯蓋	D	SI810			粒子が目立たない	0.455	0.14	1.91	0.522	0.361	0.155
40	375	杯蓋	D	SI110			白色粒(L)・黒色粒(S)少 海綿骨針	0.437	0.123	1.49	0.507	0.381	0.151
41	252	杯B	D	SI200			白色粒(M)やや多	0.283	0.059	2.24	0.49	0.264	0.073
42	253	杯B	D	SI201			白色粒(M)・黒色粒(S)少	0.437	0.115	2.88	0.495	0.281	0.137
43	254	杯B	D	SI201			白色粒(S)少 黒色粒(S)やや多	0.471	0.067	1.47	0.677	0.32	0.134
44	259	杯B	D	SI110			白色粒(S)やや多 黒色粒(S)少 海綿骨針	0.518	0.191	1.86	0.562	0.483	0.229
45	263	杯B	D	SI110			白色粒(L)多 海綿骨針	0.546	0.187	1.56	0.669	0.475	0.284
46	162	杯A	D	SD208	X25Y19	底部未切り	白色粒(M)・黒色粒(M)・赤色粒(S)少	0.493	0.24	2.32	0.571	0.402	0.209
47	185	杯B	D	SD1750	X32Y13	底部未切り 高台内に黒書「万呂」	白色粒(S)・黒色粒(S)少 海綿骨針	0.46	0.156	2.03	0.561	0.424	0.205
48	246	杯B	D	大溝	③X38Y17	底部未切り	白色粒(M)・黒色粒(S)少 海綿骨針	0.49	0.178	1.91	0.523	0.392	0.246
49	136	杯A	D	大溝	③X41Y17	全体的に薄造り	白色粒(S)多	0.643	0.29	4.73	0.523	0.528	0.376
50	175	皿	D	SK275		臼縁薬部の断面形状	白色粒(M)やや多	0.501	0.178	1.89	0.594	0.494	0.266

■ 対水下系右石帯の9C代の赤(赤C・石灰質・F層など)との比較

■ 古沢産、西金屋産両産との比較

■ 須恵器産(瀬野産、安房若木産)との比較

## 2 放射性炭素年代測定

### (1) はじめに

富山県高岡市に位置する出来田南遺跡より出土した建物の柱や礎板について、加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。

### (2) 試料と方法

測定試料の情報、調製データは第43表のとおりである。

試料は、おそらく柱と考えられる木製品1点(試料No.1:PLD-21520)、柱4点(試料No.2~5:PLD-21521~21524)、礎板1点(試料No.53:PLD-21525)の計6点である。試料の時期は、いずれも奈良時代後半と考えられている。試料とした木材の部位は、No.5(PLD-21524)が最終形成年輪で、それ以外は最終形成年輪が確認できず部位不明である。

試料は調製後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS:NEC製1.5SDH)を用いて測定した。得られた $^{13}\text{C}$ 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{13}\text{C}$ 年代、暦年代を算出した。

### (3) 結果

第44表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した $^{13}\text{C}$ 年代を、第141図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

$^{13}\text{C}$ 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{13}\text{C}$ 年代(yrBP)の算出には、 $^{13}\text{C}$ の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した $^{13}\text{C}$ 年代誤差( $\pm 1\sigma$ )は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の $^{13}\text{C}$ 年代がその $^{13}\text{C}$ 年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の $^{13}\text{C}$ 濃度が一定で半減期が5568年として算出された $^{13}\text{C}$ 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の $^{13}\text{C}$ 濃度の変動、および半減期の違い( $^{13}\text{C}$ の半減期 $5730 \pm 40$ 年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

$^{13}\text{C}$ 年代の暦年較正にはOxCal4.1(較正曲線データ:IntCal09)を使用した。なお、 $1\sigma$ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された $^{13}\text{C}$ 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に $2\sigma$ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は $^{13}\text{C}$ 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

### (4) 考察

B-SP2130から出土した柱? (試料No.1:PLD-21520)は、 $2\sigma$ 暦年代範囲(確率95.4%)が661-722 cal AD(66.8%)および741-770 cal AD(28.6%)であった。この範囲は、7世紀後半~8世紀後半で、飛鳥~奈良時代に相当する。

D-SP1111から出土した柱(試料No.2:PLD-21521)は、 $2\sigma$ 暦年代範囲が681-780 cal AD(93.7%)および794-803 cal AD(1.7%)であった。この範囲は、7世紀後半~9世紀初頭で、飛鳥~平安時代初頭に相当する。

D-SP777から出土した柱(試料No.3:PLD-21522)は、 $2\sigma$ 暦年代範囲が684-776 cal AD(95.4%)で

あった。この範囲は、7世紀後半～8世紀後半で、飛鳥～奈良時代に相当する。

D-SP775から出土した柱(試料No.4:PLD-21523)は、 $2\sigma$ 暦年代範囲が672-773 cal AD(95.4%)であった。この範囲は、7世紀後半～8世紀後半で、飛鳥～奈良時代に相当する。

以上の4試料は、奈良時代後半という考古学的所見と矛盾しない。ただし、木材の部位が不明であるため、古木効果の影響で木材の伐採年より古い年代が得られている可能性がある。

D-SK1838から出土した柱(試料No.5:PLD-21524)は、 $2\sigma$ 暦年代範囲が749-687 cal BC(27.1%), 666-644 cal BC(7.5%), 591-578 cal BC(1.9%), 566-410 cal BC(58.9%)であった。この範囲は、紀元前8世紀中頃～前5世紀末で、西本豊弘編(2009)を参照すると、縄文時代晩期～弥生時代前期に相当する。試料を採取した部位は最終形成年輪であり、古木効果の影響は考えられない。したがって、D-SK1838は奈良時代後半ではなく、縄文時代晩期～弥生時代前期の遺構である可能性を示している。なお、出来田南遺跡の発掘調査では縄文時代晩期の遺物が出土している。

B-SP2143から出土した礎板(試料No.53:PLD-21525)は、 $2\sigma$ 暦年代範囲が582-650 cal AD(95.4%)であった。この範囲は、6世紀後半～7世紀中頃で、古墳時代後期～飛鳥時代に相当する。木材の部位が不明であるため、古木効果の影響が考えられ、奈良時代後半とする考古学的所見との差は古木効果に起因する可能性がある。

(パレオ・ラボ AMS年代測定グループ 伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林絃一・Zaur Lomtadidze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎)

#### 参考文献

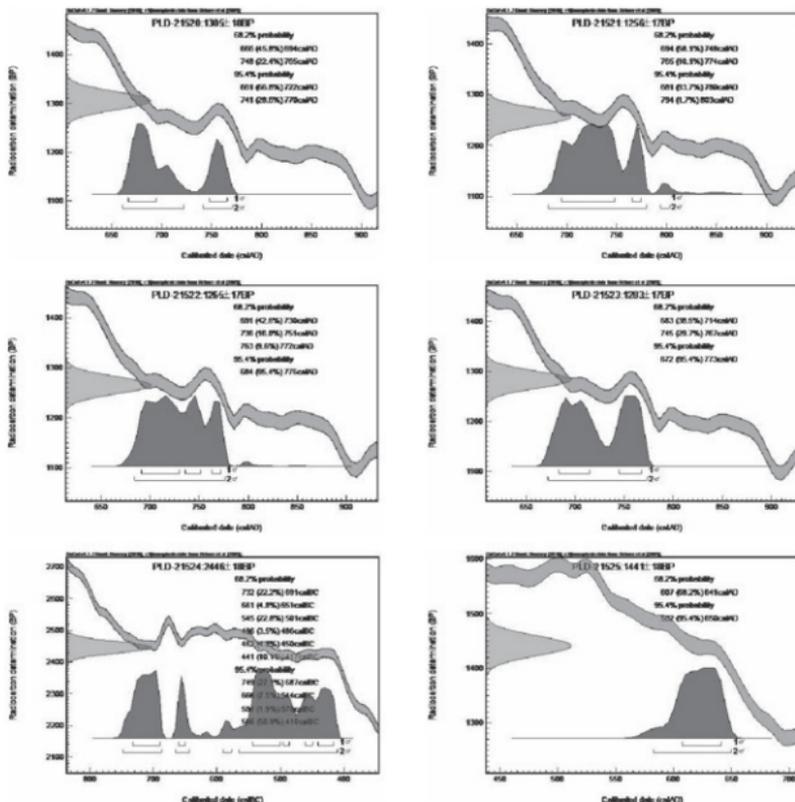
- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の14C年代編集委員会編「日本先史時代の14C年代」:3-20。日本第四紀学会。
- 西本豊弘編(2009)新弥生時代のはじまり第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代。162p。雄山閣。
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 51, 1111-1150.

測定番号	測定データ	試料データ	測定値
PLD-2150	試料No.1 濃度値-SIP2130 濃度No.M11229 試料名?*	植物素材(トウモロコシ) 試料の性状不明 状態wet	経年改善済み砂 黒・アルカリ・ 炭化少(炭化L2N,水酸化ナトリウ ム)LO(炭化L2N)
PLD-2151	試料No.2 濃度値-SIP1111 濃度No.M11254 試料名?	植物素材(トウモロコシ) 試料の性状不明 状態wet	経年改善済み砂 黒・アルカリ・ 炭化少(炭化L2N,水酸化ナトリウ ム)LO(炭化L2N)
PLD-2152	試料No.3 濃度値-SIP272 濃度No.M11255 試料名?	植物素材(ヤマモ)	経年改善済み砂 黒・アルカリ・ 炭化少(炭化L2N,水酸化ナトリウ ム)LO(炭化L2N)
PLD-2153	試料No.4 濃度値-SIP275 濃度No.M11256 試料名?	植物素材(ヤマモ)	経年改善済み砂 黒・アルカリ・ 炭化少(炭化L2N,水酸化ナトリウ ム)LO(炭化L2N)
PLD-2154	試料No.5 濃度値-SK1838 濃度No.M11285 試料名?	植物素材 (トウモロコシ)試料の性状不明 試料の性状不明 状態wet	経年改善済み砂 黒・アルカリ・ 炭化少(炭化L2N,水酸化ナトリウ ム)LO(炭化L2N)
PLD-2155	試料No.6 濃度値-SIP2143 濃度No.M1135 試料名?	植物素材(トウモロコシ) 試料の性状不明 状態wet	経年改善済み砂 黒・アルカリ・ 炭化少(炭化L2N,水酸化ナトリウ ム)LO(炭化L2N)

第 43 表 測定試料および処理

測定番号	ΔC (‰)	暦年暦年 年代 (BP ± 1σ)	ΔC年代 (BP ± 1σ)	1σ暦年暦年(PLD)に校正した年代範囲	
				1σ暦年暦年範囲	2σ暦年暦年範囲
PLD-2150	-28.0 ± 0.6	1305 ± 18	1305 ± 18	665AD(45.8%)694AD 718AD(22.6%)750AD	661AD(66.8%)722AD 714AD(28.6%)770AD
PLD-2151	-27.2 ± 0.7	1296 ± 17	1295 ± 15	661AD(58.1%)718AD 763AD(10.7%)773AD	661AD(63.7%)780AD 794AD(17.6%)803AD
PLD-2152	-27.2 ± 0.6	1305 ± 17	1305 ± 15	661AD(42.8%)730AD 738AD(16.8%)751AD 763AD(30.6%)773AD	664AD(95.6%)776AD
PLD-2153	-26.9 ± 0.8	1283 ± 17	1285 ± 15	661AD(28.2%)711AD 745AD(29.7%)767AD	672AD(95.6%)773AD
PLD-2154	-26.6 ± 0.7	2166 ± 18	2165 ± 20	723BC(22.2%)691BC 661BC(4.8%)610BC 606BC(7.2%)614BC 610BC(3.5%)594BC 603BC(4.8%)594BC 614BC(10.1%)617BC	708BC(27.1%)687BC 666BC(7.2%)614BC 591BC(1.9%)523BC 606BC(30.8%)610BC
PLD-2155	-26.2 ± 0.6	1161 ± 18	1160 ± 20	667AD(68.2%)661AD	667AD(95.6%)693AD

第 44 表 放射性炭素年代測定および暦年校正の結果



第 141 図 暦年校正結果

### 3 樹種同定

#### (1) はじめに

高岡市に所在する出来田南遺跡は、庄川と地久子川の間の微高地上に立地している。遺跡は、古代と中世の遺構が中心で、奈良時代後半の総柱の倉庫、大型掘立柱建物群の他、竪穴建物・大溝などの遺構が確認されている。木製品 48 点の樹種同定結果を報告する。

#### (2) 試料と方法

試料は、奈良時代後半の大溝から出土した木製品 43 点(No.6~48)、同じく奈良時代後半のSD1750 から出土した底板 1 点(No.49)、奈良時代後半~中世のⅡ層から出土した折敷 1 点(No.50)、奈良時代後半のSK700 から出土した柱 1 点(No.51)、中世のSK1610 から出土したたも 1 点(No.52)、奈良時代後半のB-SK2143 から出土した礎板 1 点(No.53)の、計 48 点である。

これらの試料から、剃刀を用いて 3 断面(横断面・接線断面・放射断面)の切片を採取し、ガムクロールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察・同定し、写真撮影を行った。

#### (3) 結果

針葉樹はマツ属複維管束亜属、スギ、ヒノキ、カヤの 4 分類群、広葉樹はクリ、ケヤキの 2 分類群、計 6 分類群が確認された。試料全体の樹種構成を第 45 表、結果の一覧を第 46 表に示す。

スギが 39 点で最も多く、他にはケヤキが 4 点、ヒノキが 2 点、マツ属複維管束亜属、カヤ、クリが各 1 点である。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を図版に示す。

第 45 表 樹種構成

分類群	計
マツ属複維管束亜属	1
スギ	39
ヒノキ	2
カヤ	1
クリ	1
ケヤキ	4
計	48

##### ①マツ属複維管束亜属 *Pinus subgen. Diploxylon* マツ科 第 142 図 1a-1c(No.50)

仮道管、垂直・水平樹脂道、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は広い。大型の樹脂道を薄壁のエピセリウム細胞が開んでいる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側向きに鋸歯状に肥厚する。

マツ属複維管束亜属は、暖帯から温帯下部に分布する常緑高木で、アカマツとクロマツがある。材は油気が多く、韌性は大である。

##### ②スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don スギ科 第 142 図 2a-2c(No.6)

仮道管、放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急か穏やかで、晩材部の幅は広い。樹脂細胞は主に晩材部に接線状に配列する。分野壁孔は大型のスギ型で、1 分野に通常 2 個並ぶ。

スギは、暖帯・温帯下部に生育する常緑高木である。材は比較的軟軟で、切削加工は容易、割裂性は大きい。

##### ③ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 第 142 図 3a-3c(No.11)

仮道管、放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に接線状に配列する。分野壁孔はトウヒ型~ヒノキ型で、1 分野に 2 個存在する。

ヒノキは、福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性が大きく、耐朽性・耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

##### ④カヤ *Torreya nucifera* Sieb. et Zucc. イチイ科 第 143 図 4a-4c(No.52)

仮道管と放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。

仮道管壁に2本対になったらせん肥厚がある。分野壁孔はヒノキ型で、1分野に通常4個存在する。

カヤは、宮城県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は緻密で木理直通、また弾性・耐久力があり、水湿にも強い。

⑤タリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 第143図 5a-5c(No.51)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。

タリは、温帯下部から暖帯に分布する落葉高木である。材は耐朽性・耐湿性に優れ、保存性が高い。

⑥ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 第143図 6a-6c(No.7)

大型の道管が年輪のはじめに1列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状から斜線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がみられる。放射組織は3~5列幅程度の異性で、上下端の細胞に大きな結晶をもつ。

ケヤキは、暖帯下部に分布する落葉高木で、肥沃地や溪畔によく生育する。材は重硬だが、加工はそれほど困難ではなく、保存性が高い。

#### (4) 考察

スギが最も多く、全体の約8割を占めていた。スギは火鑽白、刻み板、曲物底板、底板、底板？、祭祀具全般、木札、礎板、加工板、角材、棒状、柄？杭状、使途不明で確認された。その他の樹種では、マツ属複雑維管束亜属が折敷、ヒノキが木札と加工板、カヤがたも、クリが柱、ケヤキが木皿と蓋で確認された。スギの材は、比較的軽軟で切削加工が容易である。また、木理直通で割裂性が大きいため、製材も容易である。

工具、漁労具、容器、食器の樹種構成を第47表に示す。火鑽白は2点ともスギであった。火鑽白には、全般的にスギやヒノキなどの針葉樹が多く用いられる。富山県内では、下老子笹川遺跡の古墳時代前期~後期の火鑽白でスギ、江上A遺跡の弥生時代後期~古墳時代初期の火鑽白でオニグルミ、カエデ属、クスギ節、スギが確認されている。

たもにはカヤが利用されていた。富山県内で確認されたたもは、正法寺遺跡、下村加茂遺跡、水橋金広・中馬場遺跡ではカヤ、江上A遺跡ではモミ属であった。全国的にもモミ属、マキ属、カヤ、イヌガヤ属などの針葉樹が多い傾向がある。カヤは水湿に強く、弾性も大きい。

容器類では、曲物底板、底板、底板？はすべてスギであった。木皿と蓋はケヤキであった。曲物にはスギやヒノキなどの針葉樹が多く用いられ、漆器や皿などの挽物にはクリやケヤキ、トチノキなどの広葉樹が多用される。

折敷には、一般にヒノキやサワラ、アスナロを含むヒノキ科とスギが多く利用され、マツ属複雑維管束亜属の利用は少ない。マツ属複雑維管束亜属の折敷が確認されているのは、群馬県の上郷岡原遺跡(江戸時代後半)、石川県谷内ブンガヤチ遺跡(戦国~江戸時代)、滋賀県の宮前遺跡(鎌倉時代)であり、いずれも中世以降である。マツ属複雑維管束亜属にはアカマツとクロマツの2種があるが、ともに針葉樹の中では重硬な部類に属し、水湿に強い。

祭祀具・文房具の樹種構成を第48表に示す。祭祀具では斎申？、斎申か刀形、人形？陽物、劍形？、舟形？、馬形？のすべてがスギであった。文房具では、木札がスギとヒノキであった。祭祀具にはスギやヒノキなどの針葉樹が多用されるが、京都や奈良などの都城ではヒノキ、日本海側および滋賀、静岡、関東東北沿岸部ではスギが多く使用される傾向がある。

建築材・加工材その他の樹種構成を第49表に示す。柱はクリ、加工板でヒノキが1点みられた他は、礎板、刻み板、加工板、角材、棒状、柄?抗状、使途不明の木製品はすべてスギであった。柱材に使用されていたクリは、重硬で保存性の高い樹種である。富山県内の遺跡から出土した柱材の樹種は、スギが多い地域とクリを中心とする広葉樹が多い地域があり、地域差が認められる。遺跡周辺に生育していた樹木から、柱材に適した材を利用していたと考えられる。

北陸地方はスギ文化圏と呼ばれ、多用途にスギを多用する傾向がある。戦国時代以降の城下町や平野部の低地から離れた遺跡でヒノキ科が多い以外は、スギが優占して利用される(伊東・山田, 2012)。今回の樹種同定結果においてもスギが多く、北陸地方の木材利用傾向とおおむね一致している。一方、たもや容器類、柱材では、用途に応じた適材の利用が確認された。

(株式会社バレオ・ラボ 黒沼保子)

#### 引用文献

伊東隆夫・山田昌久(2012)木の考古学-出土木製品用材データベース-, 449p, 海青社.

第46表 樹種同定結果一覧

No.	遺物番号	試料	遺構コード	出土・採取地点	備考	時期	樹種	本取り
6	634	木札	大溝①	X50, Y19	欠損部あり	奈良時代後半	スギ	板目
7	643	木皿	大溝①	X43, Y21	小片, 多数	奈良時代後半	ケヤキ	横木取り
8	641	木皿	大溝①	X45, Y19	小片あり	奈良時代後半	ケヤキ	横木取り
9	639	木札	大溝①	X39, Y20	欠損部あり	奈良時代後半	スギ	板目
10	640	蓋	大溝①	X31, Y20	1/2残存, 欄による孔が多数	奈良時代後半	ケヤキ	横木取り
11	637	木札	大溝①	X37, Y19	1/2残存	奈良時代後半	ヒノキ	板目
12	652	曲物底板	大溝①	X31, Y20	1/2残存	奈良時代後半	スギ	板目
13	654	曲物底板	大溝①	X36, Y19	1/2残存	奈良時代後半	スギ	板目
14	657	大溝口	大溝①	X44, Y21	痕みあり, 欠損あり	奈良時代後半	スギ	角材(板目)
15	681	加工板	大溝①	X45, Y19	溝あり, 欠損あり	奈良時代後半	スギ	角材(板目)
16	642	木皿	大溝①	X35, Y23	小片1, 2/3残存	奈良時代後半	ケヤキ	横木取り
17	645	曲物底板	大溝①	X45, Y16	1/2残存	奈良時代後半	スギ	板目
18	644	曲物底板	大溝①	X43, Y17	1/2残存	奈良時代後半	スギ	板目
19	666	杵形?	大溝①	X41, Y18	欠損部あり	奈良時代後半	スギ	角材(板目)
20	663	杵形?	大溝①	X41, Y18	欠損部あり	奈良時代後半	スギ	板目
21	669	使途不明	大溝①	X41, Y18	欠損部あり	奈良時代後半	スギ	角材
22	668	使途不明	大溝①	X41, Y22	欠損部あり	奈良時代後半	スギ	角材
23	685	角材	大溝①	X38, Y18	段状の加工あり, 欠損部あり	奈良時代後半	スギ	角材
24	684	角材	大溝①	X38, Y18	1/2段状の突起あり, 欠損部あり	奈良時代後半	スギ	角材
25	659	駒形板	大溝①	X39, Y20	小片1, 駒みあり, 欠損部あり	奈良時代後半	スギ	角材(板目)
26	647	曲物底板	大溝①	X40, Y23	1/2残存, 本釘あり	奈良時代後半	スギ	板目
27	650	曲物底板	大溝①	X35, Y20	2/3残存, 本釘あり	奈良時代後半	スギ	板目
28	680	使途不明	大溝①	X35, Y20	残片あり	奈良時代後半	スギ	板目
29	677	加工板	大溝①	X35, Y20	孔あり	奈良時代後半	スギ	角材(遺板目)
30	653	杵形?	大溝①	X33, Y22	孔2箇所あり, 欠損部あり	奈良時代後半	スギ	板目
31	667	杵形?	大溝①	X33, Y22	欠損部	奈良時代後半	スギ	板目
32	673	柄?抗状	大溝①	X33, Y22	-	奈良時代後半	スギ	芯無板目
33	665	杵形小刀形	大溝①	X33, Y22	欠損部あり	奈良時代後半	スギ	角材(遺板目)
34	676	駒形板	大溝①	X45, Y18	欠損部あり	奈良時代後半	スギ	角材
35	646	曲物底板	大溝①	X35, Y24	4段に分割している	奈良時代後半	スギ	板目
36	683	角材	大溝①	X39, Y16	欠損部あり	奈良時代後半	スギ	角材(板目)
37	658	大溝口	大溝①	X35, Y23	欠損部あり	奈良時代後半	スギ	角材
38	672	大形?露物	大溝①	X35, Y23	欠損部あり	奈良時代後半	スギ	角材
39	675	棒状	大溝①	X39, Y17	一部欠損	奈良時代後半	スギ	芯無板目
40	674	棒状	大溝①	X35, Y21	一部欠損	奈良時代後半	スギ	芯無板目
41	678	加工板	大溝①	X37, Y18	中央に孔あり, 一部欠損	奈良時代後半	ヒノキ	角材(遺板目)
42	664	杵形?	大溝①	X35, Y21	-	奈良時代後半	スギ	芯無板目
43	671	杵形?	大溝①	X35, Y21	-	奈良時代後半	スギ	板目
44	661	馬形?	大溝①	X38, Y20	1/2残存, 3段に分割	奈良時代後半	スギ	板目
45	648	曲物底板	大溝①	X42, Y17	1/2残存	奈良時代後半	スギ	板目
46	649	曲物底板	大溝①	X43, Y18	3/4残存, 2段に分割	奈良時代後半	スギ	板目
47	656	駒形板	大溝①	X45, Y20	欠損部あり	奈良時代後半	スギ	角材(板目)
48	679	駒形板	大溝①	X45, Y20	欠損部あり	奈良時代後半	スギ	角材(板目)
49	651	底板	SD1750	X50, Y24	出土状況⑤, 一部欠損	奈良時代後半	スギ	板目
50	655	杵形	B-難	X45, Y29	片面は黒色(漆)	奈良時代後半~中世	マツ属緑藻管束染葉	板目
51	686	柱	SP200	-	2段に分割	奈良時代後半	クリ	芯無板目
52	761	たも	SK1610	3	一部折れあり	中世	ケヤキ	芯持丸木
53	682	礎板	B-SP2143	-	-	奈良時代後半	スギ	遺板目

分類群	時代	奈良時代後半		中世		奈良時代後半			奈良時代後半～中世		
	器種	工具		漁労具		容器			食事具		
		火鑽臼		たも	曲物底板	底板	底板?	木蓋	蓋	折敷	計
マツ属複雑管束亜属										1	1
スギ		2			9	1	1				13
カヤ				1							1
ケヤキ								3	1		4
計		2		1	9	1	1	3	1	1	19

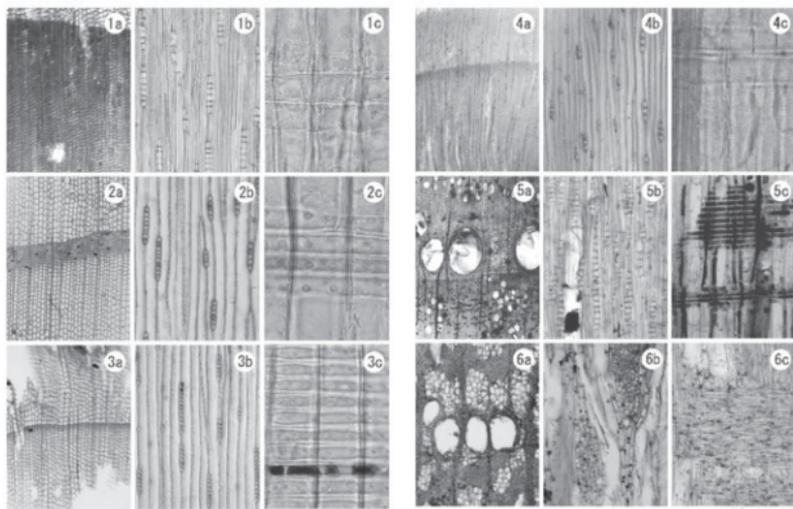
第47表 器種別の樹種構成(1)

分類群	時代	奈良時代後半						文房具	
	器種	竇串?	竇串か刀形	人形?隔物	剣形?	舟形?	馬形?	木札	計
スギ		1	1	1	2	2	1	2	10
ヒノキ								1	1
計		1	1	1	2	2	1	3	11

第48表 器種別の樹種構成(2)

分類群	時代	奈良時代後半								
	器種	建築材		加工材その他						
		柱	礎板	刻み板	加工板	角材	棒状	柄?杖状	使途不明	計
スギ			1	4	2	3	2	1	3	16
ヒノキ					1					1
クリ		1								1
計		1	1	4	3	3	2	1	3	18

第49表 器種別の樹種構成(3)



1a-1c. マツ属複雑管束亜属 (No.50). 2a-2c. スギ (No.6). 3a-3c. ヒノキ (No.11)  
 a: 横断面 (スケール=250 $\mu$ m), b: 接線断面 (スケール=100 $\mu$ m),  
 c: 放射断面 (スケール=25 $\mu$ m)

第142図 出土木製品の光学顕微鏡写真(1)

4a-4c. カヤ (No.52). 5a-5c. クリ (No.51). 6a-6c. ケヤキ (No.7)  
 a: 横断面 (スケール=250 $\mu$ m), b: 接線断面 (スケール=100 $\mu$ m),  
 c: 放射断面 (スケール=4c:25 $\mu$ m, 5c-6c: 100 $\mu$ m)

第143図 出土木製品の光学顕微鏡写真(2)

## 4 花粉分析

### (1) はじめに

富山県高岡市に所在する出来田南遺跡において、遺跡の景観を復元する目的で、奈良時代の溝内堆積物から花粉分析用の試料が採取された。以下では、花粉分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生および栽培植物の有無などについて検討した。なお、同一試料を用いて珪藻分析も行われている(珪藻分析の項参照)。

### (2) 試料と方法

分析試料は、奈良時代の大溝内堆積物から採取された5点(No.1, No.2, No.3, No.5, No.6)である。No.1は黒色(25Y2/1)有機質粘土, No.2は黒褐色(25Y3/1)有機質粘土, No.3は黒色(25Y2/1)有機質粘土, No.5は黒褐色(25Y3/1)砂質泥炭, No.6は黒色(25Y2/1)有機質粘土である。これらの試料から、以下の手順で花粉化石を抽出した。試料(湿重量約3~4g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作製して行った。各プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。なお、スルデ属-ウルシ属花粉の同定については、吉川(2006)を参考にして、スルデ属とウルシ近似種、ヤマウルシ型に分け、特徴が明確でないものをスルデ属-ウルシ属として一括した。また、イネ科の同定については、中村(1974, 1977)を参考にし、特徴が明確であるものをイネ属型とし、それ以外をイネ科とした。さらに、保存状態の良い花粉を選んで単体標本(PLC.730~738)を作製し、写真を第145図に載せた。

### (3) 結果

検出された花粉・胞子の分類群数は樹木花粉35、草本花粉30、形態分類を含むシダ植物胞子3の総計68である。花粉・胞子の一覧を第50表に、分布図を第144図に示した。分布図において、樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を基数とし、草本花粉と胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン(-)で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科やバラ科、マメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

樹木花粉で産出が目立つ分類群は、スギ属とハンノキ属である。スギ属は17%~38%の産出率を示し、上位層に向かって増加傾向にある。ハンノキ属は17%~43%の産出率を示し、上位層に向かって減少傾向にある。その他の樹木花粉では、マツ属複雑管束亜属とイチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科などの針葉樹や、ヤナギ属、サワグルミ属-クルミ属、クマシダ属-アサダ属、カバノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、クリ属、ニレ属-ケヤキ属、トチノキ属、トネリコ属などの落葉広葉樹、コナラ属アカガシ亜属などの照葉樹が数%~十数%の産出率で全ての試料から産出している。草本花粉ではイネ科が6%~15%の産出率を示し、上位層に向かって増加傾向にある。ヨモギ属は1%~15%の産出率を示すが、最上位のNo.1において最も産出率が高い。その他では、水生植物のガマ属(全ての試料)やヒルムシロ属(No.4, No.5)、サジオモダカ属(No.1, No.3)、オモダカ属(全ての試料)、ミズアオイ属(No.1, No.2)、コウホネ属(No.5)、キカシグサ属(No.1, No.2, No.5)や、好湿性のホシクサ属(No.2, No.3)、ツリフネソウ属(No.1, No.2, No.3, No.6)、ゴキヅル属-アマチャヅル属(No.1)などがわずかに産出している。栽培植物としては、ウルシ近似種やイネ属型の花粉が挙げられる。ウルシ近似種はNo.5とNo.6からわずかに産出している。イネ属型は全ての試料から産出しており、3%~9%の産出率である。

#### (4) 考察

今回の分析試料で産出が目立つ分類群にはハンノキ属がある。ハンノキ属は湿地林要素の分類群で、同じく湿地林要素のヤナギ属やトネリコ属を伴う。よって、遺跡周辺の低地や溝周辺にはハンノキ属を主体とする湿地林が広がっていたと思われる。こうした湿地林の滞水域には水生植物のガマ属やヒルムシロ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、コウホネ属、キカシグサ属などが生育しており、その周辺の湿った場所には好湿性のホシクサ属、ツリフネソウ属、ゴキソル属-アマチャヅル属などが生育していたと思われる。また、ハンノキ属とともに産出が目立つ分類群にスギ属がある。現在では、低湿地に生育するスギ林はほとんど見られないが、かつては広い範囲で低湿地においてスギ林が存在していた例もあり(高原, 1998)。遺跡周辺に広がるハンノキ属を主体とする湿地林には、スギも散在していたと思われる。スギ属は上位に向かって増加傾向にあるため、遺跡周辺のスギ林は時期を経るに従って低地から丘陵地へと分布を拡大させていったと思われる。スギ林拡大の原因の1つに植林が考えられるが、本遺跡ではほとんどの木製品にスギが使われており、頻繁なスギ利用が窺えるため(樹種同定の項参照)、植林というよりもスギの伐採を行っていた可能性の方が高い。スギ林拡大の別の要因としては降水量の増加が考えられる。スギは降水量の多い地帯に生育する樹木であり、射水平野に位置する布目沢東遺跡や南太閤山I遺跡では、古墳時代~古代にスギ属の増加が見られ、「弥生時代の小海退」に伴う寒冷化や降水量の増加が影響しているという指摘がある(田中・千葉, 2007)。よって、本遺跡で確認された奈良時代のスギ属の増加原因についても、降水量の増加が可能性の一つとして挙げられよう。次にイネ属型花粉の産出状況であるが、イネ属型花粉は全ての試料から産出しており、水田雑草を含む分類群であるサジオモダカ属やオモダカ属、ミズアオイ属、キカシグサ属を伴っている。よって、遺跡周辺では、奈良時代に水田稲作を行っていたと考えられる。さらに、湿地林要素のハンノキ属は上位層に向かって減少傾向にあるが、イネ属型花粉は上位層に向かって増加傾向を示している。これは、遺跡周辺の低湿地のハンノキ林を開拓して水田がつくられ、しだいに水田を拡大していった可能性を示していると考えられる。また、上位層に向かって草本花粉の増加が見られるが、水田の拡大に伴って、遺跡周辺に開けた場所が多くなり、そこにイネ科やヨモギ属などの草本類が分布を拡大させたためと思われる。イネ属型以外の栽培植物としては、No.5とNo.6においてウルシ近似種の産出が確認できた。遺跡周辺におけるウルシ栽培の存在が窺えるが、近似種であるため断定はできず、ここでは可能性を示唆するに留めておく。以上、遺跡に比較的近い場所の古植生を推測したが、遺跡からやや離れた丘陵地などに生育していた可能性のある分類群としては、サワグルミ属-クルミ属やクマシデ属-アサダ属、カバノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、クリ属、ニレ属-ケヤキ属、トチノキ属などの落葉広葉樹や、コナラ属アカガシ亜属などの照葉樹が挙げられる。このうち、比較的標高の高い場所に生育していた分類群としてはカバノキ属やブナ属が、沢や谷沿いに生育していた分類群としてはサワグルミ属-クルミ属やトチノキ属があり、その他の分類群については、丘陵地の尾根部や低地にかけて分布していたと思われる。こうした樹木花粉の組成は、今回分析した全試料を通じてほとんど変化がないため、奈良時代の遺跡周辺の丘陵地には同じような森林植生が広がっていたと考えられる。

(株式会社バレオ・ラボ 森 将志)

- 引用文献** 中村 純(1974)イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として。第四紀研究, 13, 187-193。  
 中村 純(1977)稲作とイネ花粉。考古学と自然科学, 10, 21-30。  
 高原 光(1998)スギ林の変遷。安田喜憲・三好教夫編「図説日本列島植生史」: 207-223。朝倉書店。  
 田中義文・千葉博俊(2007)射水平野周辺の古環境変遷。PALYNO, 5, 34-47。  
 吉川昌伸(2006)ウルシ花粉の同定と青森県における縄文時代前期頃の産状。植生史研究, 14, 15-27。



## 5 珪藻化石群集

### (1) はじめに

珪藻は、10~500 $\mu$ mほどの珪酸質殻を持つ単細胞藻類で、殻の形や刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている(小杉, 1988; 安藤, 1990)。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においても、わずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面などに生育する珪藻種(陸生珪藻)が知られている。こうした珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

出来田南遺跡の調査では、奈良時代の大溝が検出された。ここでは、この大溝の堆積物および大溝よりも下位に相当する堆積物(地山)中の珪藻化石を調べ、珪藻化石群集から堆積環境について検討した。なお、同一試料を用いて花粉分析も行われている(花粉分析の項参照)。

### (2) 試料と方法

分析試料は、奈良時代の大溝堆積物6試料と縄文時代晩期~奈良時代の地山3試料である(第51表)。各試料について、以下の処理を行い、珪藻分析用プレパラートを作製した。

(1)各試料は、堆積物に応じて適量(湿潤重量)を取り出し、秤量した後ピーカーに移して30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。(2)反応終了後、水を加え1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を7回ほど繰り返した。(3)懸濁残渣を遠心管に回収し、マイクロベットの適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作製した。

作製したプレパラートを顕微鏡下600~1000倍で観察し、珪藻殻200個体以上について同定・計数した。珪藻殻は、完形と非完形(半分以上残っている殻)に分けて計数し、完形殻の出現率として示した。また、試料の処理重量とプレパラート上の計数面積から堆積物1g当たりの殻数を計算した。なお、珪藻殻が少ない試料は、プレパラート全面を観察した。

### (3) 珪藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉(1988)および安藤(1990)が設定した環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種(W)として、海水~汽水種は不明種(?)としてそれぞれ扱った。また、破片のため属レベルで同定した分類群は、その種群を不明(?)として扱った。第52表に、小杉(1988)が設定した汽水~海水域における環境指標種群と安藤(1990)が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

### (4) 珪藻化石の特徴と堆積環境およびその変遷

9試料から検出された珪藻化石は、海水種3分類群2属2種、汽水種2分類群1属2種、淡水種116分類群28属97種4亜種であった。これらの珪藻化石は、海水種において1環境指標種群(A)、汽水種において1環境指標種群(E2)、淡水種において5環境指標種群(K, M, N, O, Q)に分類された(第53表)。これらの環境指標種群の出現状況から、試料はI~III帯に分帯された。以下に、各珪藻分帯の珪藻化石群集の特徴と堆積環境について述べる。

[I帯:地山, 分析No.7~No.9]

これらの試料中の珪藻化石は少なかった。指標種群の珪藻化石としては、沼沢湿地付着生指標種群(O)や陸域指標種群(Q)が若干検出されたため、沼沢地環境であったと推定される。

## [Ⅱ帯：大溝，分析 No.5・No.6]

これらの試料からは、淡水種珪藻化石が検出された。指標種群の珪藻化石としては、中～下流性河川指標種群(K)や沼沢湿地付着生指標種群(O)が特徴的に含まれていた。また、陸域指標種群(Q)も検出された。

こうした特徴から、流れ込みを伴う沼沢湿地環境が推定される。

## [Ⅲ帯：大溝，分析 No.1～No.4]

指標種群の珪藻化石としては、沼沢湿地付着生指標種群(O)や陸域指標種群(Q)が特徴的に含まれていた。なお、一部の試料において中～下流性河川指標種群(K)も含まれていた。

こうした特徴から、主としてジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境が推定される。なお、上部において陸域指標種群が多くなる傾向が見られる。

## (5) おわりに

奈良時代の大溝内堆積物および縄文時代晩期～奈良時代の地山について珪藻化石群集を調べた。

その結果、大きく3つの珪藻帯に分帯され、縄文時代晩期～奈良時代の地山が該当するⅠ帯では、珪藻化石は少なかったが、沼沢地環境であったと推定された。一方、奈良時代の大溝内堆積物では、下位層のⅡ帯で流れ込みを伴う沼沢湿地環境が推定され、上位のⅢ帯ではジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境が推定された。

(株式会社パレオ・ラボ 藤根 久)

## 引用文献

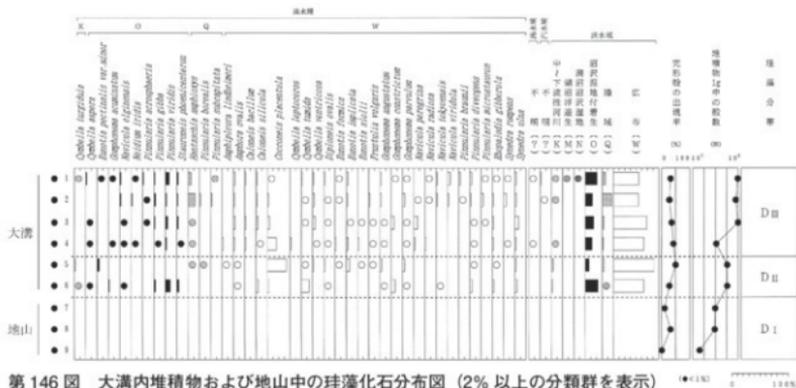
- 安藤一男(1990)淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理. 42, 73-88.  
小杉正人(1988)珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, 27, 1-20.

第51表 珪藻分析を行った試料の詳細

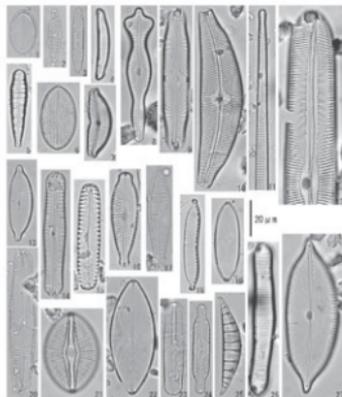
分析No.	遺構	取上げNo.	時期	堆積物の特徴
1	大溝	1	奈良時代	黒色(25Y2/1)有機質粘土. 植物根含む
2		2		黒褐色(25Y3/1)有機質粘土. 植物根含む
3		3		黒色(25Y2/1)有機質粘土. 植物遺体含む
4		4		暗灰黄色(25Y4/2)砂礫(～40mmφ)
5		5		黒褐色(25Y3/1)砂質泥炭. 木材遺体含む
6		6		黒色(25Y2/1)有機質粘土. 植物遺体含む
7	地山	7	縄文時代晩期 ～奈良時代	灰オリーブ色(5Y4/2)シルト質粘土
8		8		灰オリーブ色(5Y4/2)砂混じりシルト質粘土
9		9		暗灰黄色(25Y4/2)シルト質細砂

第52表 環境指標種群とその概要(検出された種群:網掛けの種群)

指標種群	環境指標種群の概要
外洋指標種群(A)	塩分濃度が35パーミル以上の外洋水中で浮遊生活する種群である。
内湾指標種群(B)	塩分濃度が28~35パーミルの内湾水中で浮遊生活する種群である。
海水藻場指標種群(C1)	塩分濃度が12~35パーミルの水域の海藻や海草(アマモなど)に付着生活する種群である。
海水砂質下指標種群(D1)	塩分濃度が12~35パーミルの水域の砂質(砂の表面や砂粒間)に付着生活する種群である。この生育場所には、ウミユスリ、ホウズチ類、アサリ、ハコダテ類などの貝類が生息する。
海水泥質下指標種群(E1)	塩分濃度が12~35パーミルの水域の泥質に付着生活する種群である。この生育場所には、イボウミユスリ主体の貝類類やウニなどの甲殻類類が見られる。
汽水藻場指標種群(C2)	塩分濃度が4~12パーミルの水域の海藻や海草に付着生活する種群である。
汽水泥質下指標種群(E2)	塩分濃度が4~12パーミルの水域の泥質に付着生活する種群である。淡水の影響により、汽水化した塩性湿地に生活するものである。
土流性河川指標種群(J)	河川上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらは、懸濁全体で岩にびたりと張り付いて生息しているため、流れによっては取り除かれてしまうことがない。
中〜下流性河川指標種群(K)	河川の中〜下流部、すなわち河川沿いで河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる場所に集中して出現する種群である。これらの種には、類またはさやで基物に付着し、体を水中に浮かべて生活する種が多い。
最下流性河川指標種群(L)	最下流部の三角洲の部分に集中して出現する種群である。これらの種には、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角洲地帯に入るのと流速が遅くなり、浮遊性の種でも生育できるようにするためである。
湖沼浮遊生指標種群(M)	水深が約1.5m以上で、岸では水生植物が見られるが、水深には植物が生育していない湖沼に出現する種群である。
湖沼沼沢地指標種群(N)	湖沼における浮遊生種としても、沼沢地における付着生種としても重要な出現が見られ、湖沼・沼沢地の環境を指標する可能性が大きい種群である。
沼沢地付着生指標種群(O)	水深1m以内で、一面に植物が繁茂している所および湿地において、付着の状態で重要な出現が見られる種群である。
高草原指標種群(P)	尾瀬ヶ原湿原や霧ヶ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。
陸域指標種群(Q)	上述の水域と対して、陸域を生育地として生活する種として重要な出現と見られる。



第146図 大満内堆積物および地山中の珪藻化石分布図(2%以上の分類群を表示)



第147図 堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真

1. *Cocconeis placentula*(No.5)
2. *Gomphonema parvulum*(No.5)
3. *Pinnularia subcapitata*(No.1)
4. *Eunotia implicata*(No.5)
5. *Meridion circulae* var. *constricta*(No.2)
6. *Cocconeis placentula*(No.4)
7. *Cymbella turpidula*(No.5)
8. *Gomphonema acuminatum*(No.1)
9. *Pinnularia divergens*(No.1)
10. *Cymbella tumida*(No.5)
11. *Synedra ulna*(No.5)
12. *Pinnularia viridis*(No.6)
13. *Cymbella naviciformis*(No.4)
14. *Pinnularia asprophaera*(No.1)
15. *Pinnularia borealis*(No.2)
16. *Gomphonema angustatum*(No.5)
17. *Gomphonema gracile*(No.1)
18. *Hantzschia amphioxys*(No.2)
19. *Neidrium ampliatum*(No.5)
20. *Pinnularia gibba*(No.1)
21. *Diploneis ovalis*(No.4)
22. *Navicula tokyoensis*(No.1)
23. *Navicula bacillum*(No.4)
24. *Pinnularia braunii*(No.1)
25. *Rhopalodia gibberula*(No.1)
26. *Eunotia formica*(No.2)
27. *Cymbella cuspidata*(No.4)



## 6 石材鑑定

### (1) はじめに

出来田南遺跡は、高岡市下関地区の沖積低地に立地する。主に奈良時代後半～平安時代の柱穴や溝あるいは土坑などが検出された。ここでは、出来田南遺跡から出土した石製品について、肉眼観察による石材同定を行った。

### (2) 試料と方法

石製品は、出来田南遺跡から出土した12点である(第54表)。石製品は、6種類であり、奈良時代後半～中世が多く、縄文時代晩期～弥生時代のものも含まれる。

石材同定は、主に肉眼により行った。なお、マイクロスコープを用いて代表的な石材の表面組織を撮影した(第148図)。

### (3) 結果

第54表に、肉眼による石製遺物の石材鑑定を行った結果を示す。

以下に、検出された岩石の特徴について記載した。岩石の記載は、表面観察による色調や構成鉱物、岩石組織あるいは断口の特徴等について行った。

#### 1) 泥岩(第148図1-1)

黄白色の粘土粒子から構成される硬質岩石であり、やや剥離性が見られる。

#### 2) 頁岩(第148図1-4)

黒色で白色粒子が散在する硬質岩石である。

#### 3) 凝灰岩類(第148図-2, 3, 5-8, 11)

黄白色～灰色～青灰色～褐色の硬質岩石である。分析No.8は黄褐色の長石を多く含み、輝石や軽石も含む。

#### 4) 閃緑岩(第148図-10, 12)

青灰色で黒雲母や長石を含む岩石と灰白色で針状黒色結晶を含む岩石である。

#### 5) 透閃石(第148図-9)

青灰色で不均質な硬質岩石である。

### (4) 考察

石製品は、6種類出土した。

バンドコ?が加工し易い軽石を含む軟質の凝灰岩、石鉄が硬質の黒色頁岩、打製石斧が硬質の閃緑岩、砥石が泥岩および凝灰岩、紡錘車が凝灰質泥岩、磨製石斧が硬質の透閃石である。

いずれの石製品も石材の性質を反映した石材利用と言える。

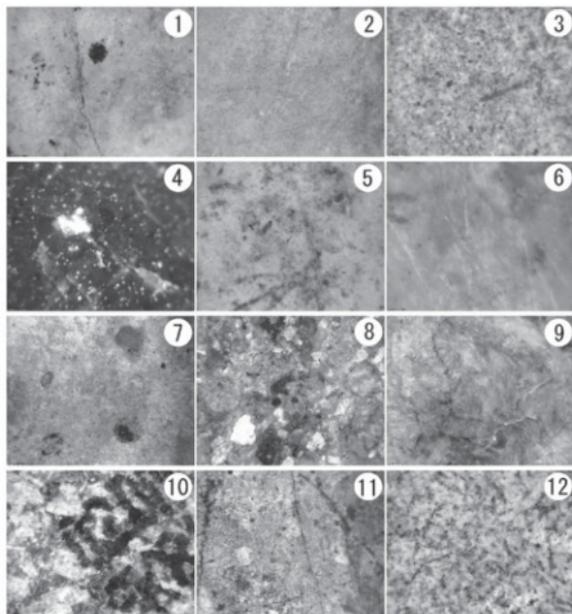
(株式会社パレオ・ラボ 藤根 久・中村賢太郎)

第54表 石製品と石材同定結果

分析No.	遺物番号	試料	遺構	時期	石材	色調	特徴
1	093	砥石	D-SD200	奈良時代後半～平安時代	泥岩	黄白色	粘土質潤滑感強い
2	087	紡錘車	D-SD1003・SD1122	奈良時代後半	凝灰質泥岩	黄白色	硬質
3	088	砥石	D-SK426	奈良時代後半	凝灰質砂岩	灰白～黄白色	硬質
4	8	石鏝	Ⅱ?	縄文晩期～弥生時代	頁岩	黒色	硬質白色粒子混じる
5	092	砥石	Ⅱ	奈良時代後半～中世	凝灰質シルト岩	黄白色	硬質空隙
6	090	砥石	Ⅱ	奈良時代後半～中世	凝灰質泥岩	黄白色	硬質
7	089	砥石	D-SD1205	奈良時代後半	凝灰質シルト岩	黄白～褐色	硬質空隙
8	764	バンドコウ	D-SK1046	中世	凝灰岩	黄褐色	軟質長石多い輝石輝石含む
9	9	磨製石斧	Ⅱ	縄文晩期	透閃石	青灰色	硬質不均質
10	10	打製石斧	D-SK817	縄文晩期～弥生時代	閃緑岩	青灰色	黒雲母長石
11	091	砥石	Ⅱ	奈良時代後半～中世	凝灰岩	青灰色	粒子は最大3mmの確サイズ混じり砂質シルトサイズ
12	11	打製石斧	D-SD1750	縄文晩期～弥生時代	閃緑岩	灰白色	細粒質針状黒色結晶含む

第55表 器種毎の岩石種の集計表

大分類	中分類	岩石名	バンドコウ	石鏝	打製石斧	砥石	紡錘車	磨製石斧	総計
堆積岩類	砂質岩	泥岩				1			1
		頁岩		1					1
	火山砕屑岩	凝灰岩	1			1			2
		凝灰質シルト岩				2			2
		凝灰質砂岩				1			1
		凝灰質泥岩				1	1		2
火成岩類	深成岩	閃緑岩		2				2	
変成岩類	広域	透閃石					1	1	



1. 泥岩 (分析 No.1: 砥石)
2. 凝灰質泥岩 (分析 No.2: 紡錘車)
3. 凝灰質砂岩 (分析 No.3: 砥石)
4. 頁岩 (分析 No.4: 石鏝)
5. 凝灰質シルト岩 (分析 No.5: 砥石)
6. 凝灰質泥岩 (分析 No.6: 砥石)
7. 凝灰質シルト岩 (分析 No.7: 砥石)
8. 凝灰岩 (分析 No.8: バンドコウ)
9. 透閃石 (分析 No.9: 磨製石斧)
10. 閃緑岩 (分析 No.10: 打製石斧)
11. 凝灰岩 (分析 No.11: 砥石)
12. 閃緑岩 (分析 No.12: 打製石斧)

第148図 各岩石遺物のマイクロスコープ写真 (スケール:1mm)

## 第Ⅵ章 総括

### 1 遺構の変遷について

#### (1) 古代

出来田南遺跡は高岡市によるこれまでの調査で掘立柱建物の存在が知られていたが、近年の研究においては東大寺領鳴戸庄の比定地として地久子川流域が想定されていること<sup>④</sup>を考え合わせ、注視されてきた遺跡である。今回2箇年の調査において実に50棟を超える掘立柱建物を検出した。これらは8世紀後半～9世紀半ばにかけて展開したものであり、1遺跡で検出された建物数としては非常に多く、砺波郡衙等の出先機関と想定されている高岡市中保B遺跡にも匹敵する棟数である。また、今回、本遺跡で初めてとなる竪穴建物を検出したが、その出土遺物から8世紀後半には掘立柱建物に先行する竪穴建物を伴う集落が存在しており、その変遷過程が明らかとなった。

竪穴建物は全部で11棟を確認した。後世の削平により床面の一部を検出するに止まるものなど、概して様相は不明瞭であるが、平面方形で、南北いずれかの辺にカマドを持つ例が多いとみられる。なお、隣接する井口本江遺跡では弥生時代から古代にかけての時期、居住域は高岡台地の縁辺である西側を主体とする想定されている。出来田南遺跡の竪穴建物は遺跡南側のC、D地区でのみ検出したが、井口本江遺跡と同様、西へと広がる様相がみられ、8世紀以前については赤祖父角田遺跡や高岡問屋センター遺跡など、遺跡の西側に集落の中心があると推測される。

竪穴建物から掘立柱建物への正確な変遷時期は不明であるが、掘立柱建物の柱根の年代測定から7世紀後半～8世紀後半という結果が得られており、伐採からの経年を考慮しても8世紀代には使用していたのではないかと推察される。

掘立柱建物は58棟を確認した。ただし、これ以外にも柱穴を検出しており、実際にはさらに棟数が多かったと考えられる。なお、共伴する遺物がほとんどないため、その変遷については主に方位や他の遺構との位置関係、また建物の構造などから判断した。掘立柱建物群は大きく5群に分類でき、一概ではないものの、建物方位は西から東への推移が考えられる。以降の記述では、分類した各群を変遷過程の各時期と想定し、集落動態の把握に努めた。ただし、実際には異なる群とした建物でも同時併存した可能性が否定できないことをあらかじめ申し述べておく。

I期は建物方位が北から約40°～50°西に振る建物で、遺跡南側に位置するSB5、27、19・20の4棟がある。建物の全容がわかるのは総柱建物のSB19・20のみで、その他は調査区外西側に延びている。SB19・20は同位置での建替で、その構造から倉庫と考えられるが、単独棟のようである。

II期は建物方位が北から約5°～20°西に振る一群であるが、遺構の切り合いなどからさらに3小期に分けられる。

II-1期は西へ20°～22°振るSB25、29、56の3棟で、SB25が大溝に切られていることから、当時、大溝がまだ存在しないか、あるいはその幅がより狭かったと推測される。

II-2期は西へ12°～15°の方位で、SD1266、1750によって作られた区画が機能する時期である。区画内に位置するSB28のほか、この北方には柵SA2、大溝の対岸にSB24および総柱建物のSB26、さらに市調査ミタホーム地区の総柱建物が該当する。特に明瞭な状態で検出したSB28は周辺に柱穴がみられず、建替などが行われていない。市調査区における検出遺構との整合性から、区画はさらに南東へ延びているとみられる。

Ⅱ-3期は西へ6°~9°の方位である。前の時期の区画内に建物はみられないが、方位の差がわずかであることから、この時期にも区画溝が機能していた可能性は高い。SB23は先行するSB24と重複しており、この大溝の南縁にはⅠ期以来、継続的に建物が存在している。また、SB54、55はC地区西端で重複する建物であるが、やはり先行時期にはSB56、SA2があり継続性がみられる。

以上のように、方位が北から西へ振るⅠ・Ⅱ期は、区画溝や大溝と方向を揃えた、概ね3箇所のブロックから成る。

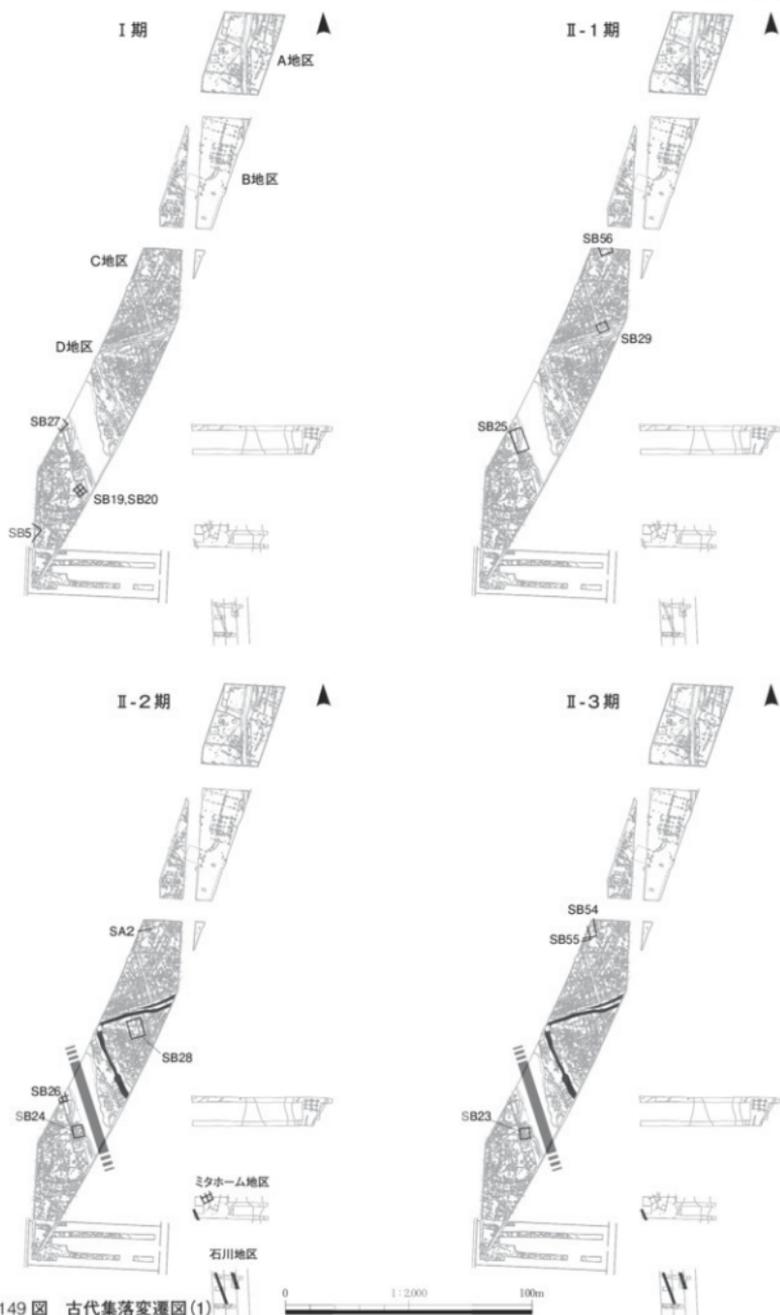
Ⅲ期は建物方位が北から東へ0°~10°前後振る10棟で、建物の配置から2小期に分けられる。Ⅱ期までとは立地が異なり、D地区南側およびA~B地区での展開がみられる。

Ⅲ-1期は方位が0.5°~6°東に振る5棟からなり、画期ともいえる時期である。D地区南側ではSB12を中心としたブロックが造られ、また、のちに建物が集中するB地区東側における初出としてSB43がある。D地区南側のSB12は唯一の床東建物であり、その構造からは格上の建物が想像される。床東建物は官衙や館、工房などで採用された板敷建物であり、日常的に起居する生活空間に適合していると考えられる<sup>12)</sup>。長径80cm~1m超の柱穴がほぼ間隔を揃えて並び、両妻柱間と両側柱間を結ぶ柱筋の交点上、いわゆる桁行中軸線上に規模の小さな東柱が配される。このSB12の北にはSB15とSB18が桁行中軸線を合わせて並列しているが、この2棟とSB12は棟方向がほぼ90°違い、品字形配置ともとれる様相を呈する。広場状のスペースは存在しないとみられるが、ひとつのまとまりと捉えることは可能であろう。さらに、SB12の東にはSB13が、やや方位がずれながらも直列しており、さらに東側への展開も想像される。このブロックから約150m北にSB43が位置する。これまで遺跡北側では建物がみられなかったが、SB43を皮切りに、これ以降は建物が集中する。SB43は後出の建物複数と重複しているが、それらに比べ柱穴規模が大きく、柱穴1基の底部には礎板を敷くなど、質の違いがうかがえる。

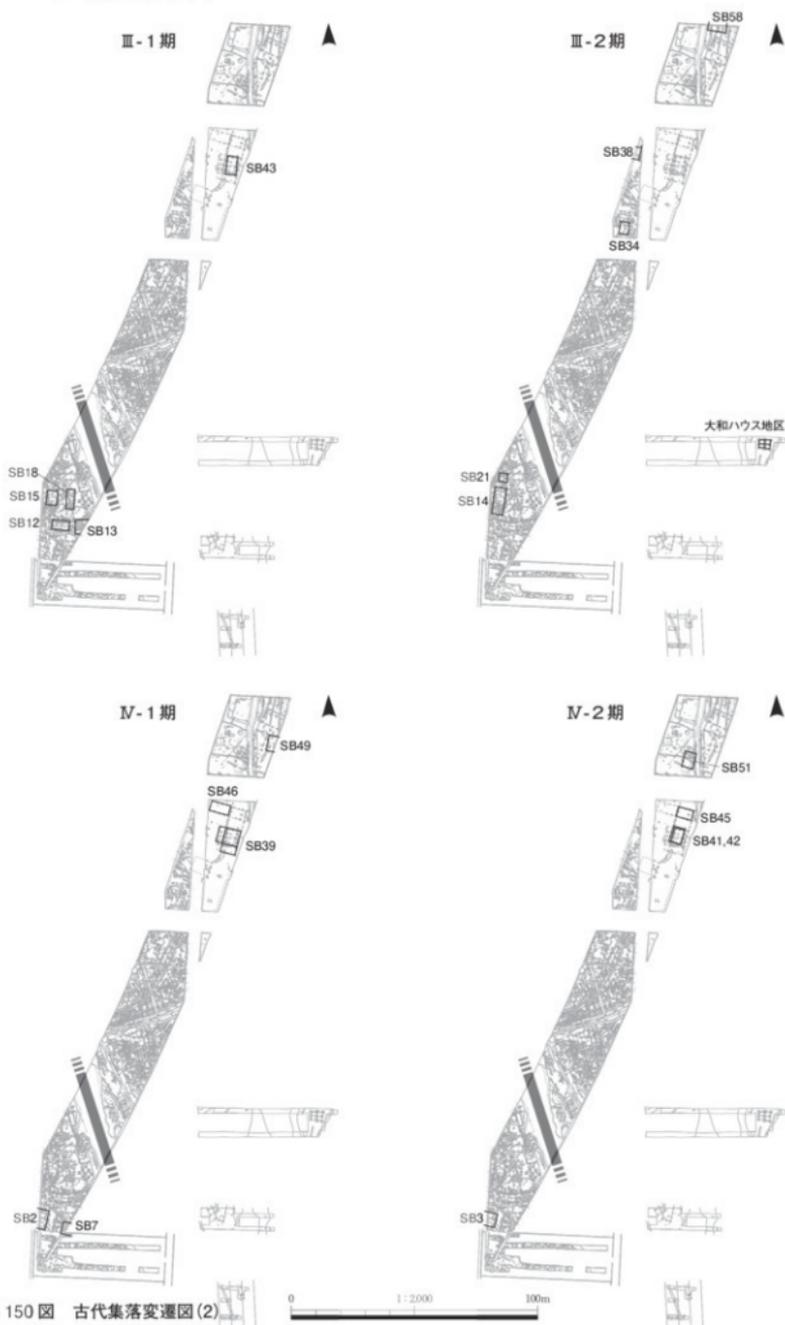
Ⅲ-2期は東に8°~11°振る5棟である。前の時期にSB12を含んでいたグループでは、SB14が中心となり、その北のSB21が桁行側を揃えて直列する配置がみられる。SB14は床面積が50.4㎡で、大型の部類に属す。長径70cm~1mの柱穴から成り、建物規模でみるとSB12より桁1間分広い。直列するSB21は比較的小規模である。また遺跡北側の状況を見ると、SB34、SB38、SB58がある。SB34はB地区南端で全体を検出した。同じB地区の北西隅ではSB38が西へと延びている。最も北のA地区で検出したSB58は北に隣接する井口本江遺跡へと延びる。前の時期に比べて建物の立地が広がり、集落が拡散化したような状況がみられ、市調査大和ハウス地区においても倉庫と考えられる総柱建物が検出されている。

Ⅳ期は建物方位が13°~18°東に振る一群で、B地区東側とD地区南側に集中がみられる。建物の重複が最も著しいB地区東側において、柱穴の切り合いや位置関係から最少でも3小期に分かれるとみられることからⅣ期を3区分した。なお、重複のない建物については建物方位を重視した。

Ⅳ-1期は東に13°~14°振る5棟で、B地区東側でのSB39、SB46、A地区東側のSB49、D地区南側のSB2、SB7が該当する。B地区東側のSB39は西側に庇をもつとみられるが、身舎部分のみでも床面積が61㎡で、今回、調査した掘立柱建物の中では最大である。ただし、先行時期のSB43に比べると柱穴の規模は小さい。SB46は棟方向が90°異なり、同じ方位をもつことから同期に設定した。A地区のSB49は後出するSB51と同期とも考えられるが、建物方位により、やや先行する可能性があると考えた。A地区およびB地区東側の建物群についてはA地区南西で複数を検出した井戸が伴うとみられるが、このような井戸との共存関係はほかのブロックではみられない状況である。この建



第149図 古代集落変遷図(1)



第150図 古代集落変遷図(2)

物群の機能や性格を考える上で注目される。D地区南側のSB2、SB7はともに東西の調査区外に延びる。

IV-2期はより東へ振る建物方位 $14^{\circ}\sim 16^{\circ}$ の5棟である。B地区東側におけるSB45、SB41・42およびA地区のSB51、D地区のSB3が該当する。B地区SB45は先行するSB46の東に隣接するが、桁行方向の柱筋が若干南にずれる。この南に位置するSB41・42は、多数の柱穴で重複がみられることから建替と考えられる。SB42が先行し、後出のSB41では西側をわずかながら拡張しており、面積は7㎡増となる。A地区のSB51は先述のとおり、SB49と併存した可能性がある。D地区SB3は西へ延びる東西棟と推測するが、この場所でもB地区東側と同様、繰り返し建替が行われている。

IV-3期は建物方位がさらに東へ振り $14^{\circ}\sim 18^{\circ}$ の7棟が含まれる。D地区南やC～D地区北にかけては次の時期への布石となるような直列する建物が現れ始める。B地区東側ではSB44、SB40、B地区～D地区ではSB35、SB52、SB33、D地区南ではSB6、SB1がある。B地区のSB44はやや異質な造りで、桁行の隅柱から1間分のみ幅が狭小で、さらに梁行の柱間が広い。その南のSB40は先行する建物からみると小規模であるが、両妻側中央の柱穴のみ大きいという特徴がある。B地区のSB35は後出するSB36と同様、東西棟とみられる。C地区のSB52は一端を検出したに過ぎないが、D地区のSB33と同様に直列する一群とみなしたい。D地区南のSB1は市調査黒川仏壇店地区で南東半分の柱穴が確認されており、SB6と直列配置をとる。

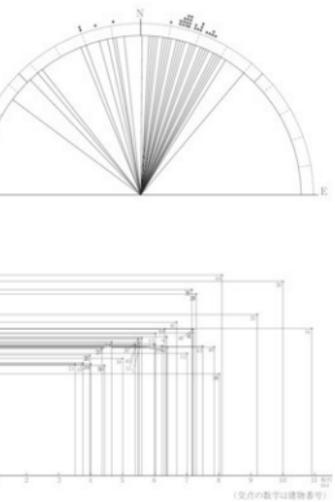
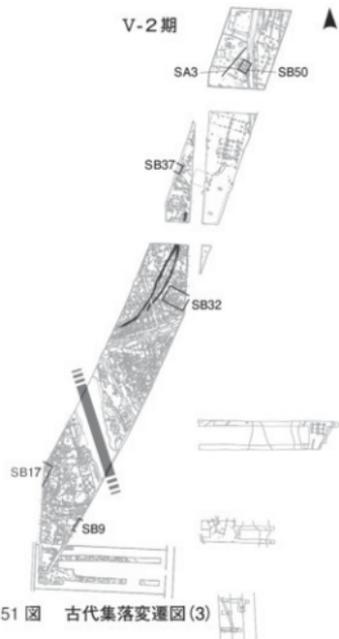
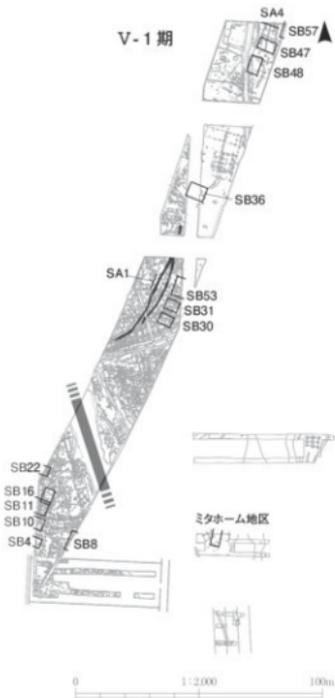
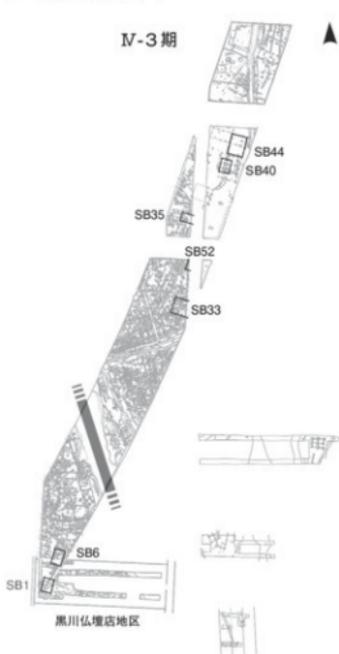
V期は区画溝、あるいは道とも考えられる溝に並行する配置がみられる。建物方位は $19^{\circ}\sim 32^{\circ}$ 東へ振る一群で、柵も伴う。方位を参考に2小期に区分した。

V-1期は東に $19^{\circ}\sim 25^{\circ}$ 振る一群である。D地区北側には大溝とほぼ直交方向の区画溝が数条あり、平行する溝については道の側溝とも考えられる。そして、これに沿うようにSB30、SB31、SB53が直列している。SB30とSB31は構造、規模ともによく似ており、北に並ぶSB53は間数が多く、やや大型である。この建物群と区画溝を挟んだ西側にはSA1があり、調査区以西にも建物が展開している可能性がある。IV期で建物が集中していたB地区ではSB36が単独で建ち、それまでの集中域からは外れる。最も北にあるA地区東側では、同じ構造、規模のSB47とSB48が方位を $90^{\circ}$ 逸えて配置される。SB47の北には小溝やSA4があり、北東隅にはSB57の一角がみえる。以北の井口本江遺跡では、これにつながるような柱列が見当たらず、北に向かうにつれ遺構は徐々に散漫となる。D地区南ではSB4、SB10、SB11、SB16、SB22の5棟が西端に、SB8が東端に建つ。特に西端の建物群が直列する様相は、D地区北におけるSB30、SB31、SB53の状況と似ており、この時期の建物群の構成を考えるうえで興味深い。また、東に離れた市調査ミタホーム地区でも1棟を確認している。

V-2期は建物方位が最も東に振るもので、東に $27^{\circ}\sim 32^{\circ}$ 振る5棟である。前の時期、直列配置がみられた区画溝に沿ってはSB32の1棟のみ、D地区南でもSB17、東端にはSB9のそれぞれ1棟ずつとなる。B地区ではSB37のみ、A地区では前の時期に建物が集中していた北端から南寄りに場所を移し、総柱建物SB50が単独で建つ。全体的に建物数が減少しており、これ以降の展開はみられなくなる。

なお、9世紀後半～10世紀前半には、北に隣接する井口本江遺跡で再び井戸や溝群などが検出されているが、建物遺構は確認されておらず、現在のところ当該期の居住域は判然としない。

以上、古代の遺構変遷を概観したが、古代の出来田南は8世紀後半、堅穴建物で構成される集落から間を置かずして掘立柱建物による計画性のある集落へと変化を遂げている。特に大溝、区画溝の出現とともに計画的な建物配置が意識されている。多量の遺物が出土した大溝はII期以降に伴うとみら



第151図 古代集落変遷図(3)

第152図 古代掘立柱建物の方位・規模

れるが、出土遺物の年代は8世紀後半～9世紀前半にほぼ限られており、長期間は存続していないと考えてよい。さらに、建物方位が西から東へ移る段階には、建物の構造や配列に変化があらわれており、Ⅲ～Ⅳ期の境には社会的な変革があったことが推測される。また、出来田南が東大寺領鳴戸庄の比定地のひとつに挙げられてきたことは先述したが、今回、直接関連づけられるような資料は確認できず、確証は得られないままである。しかし、特にⅢ期における建物配置や構造、大溝出土の木簡をはじめとする文字関連資料、律令祭祀具など、遺跡からは官衙的ともいえる様相が垣間見え、冒頭で触れた中保B遺跡との共通点が多い。分析を行った根津明義氏は中保B遺跡について、「在地的な勢力を基礎とし、一時的に官衙的な機能を有したもの」という評価を与えており<sup>13)</sup>、8世紀後半以降の律令制推進においては、記録に残らないような在地家族層の協力が不可欠であったとしている。出来田南遺跡の変遷過程をみると、集落の連続性については言及できないものの、当初、一般集落の様相であったものが急激に一変している。これを仮に在地家族層の進出・展開によるものとするれば、倉庫や大溝、さらには床東建物といった上流の居宅施設などの権威を示すような施設を有する集落は、「大家」や「采女」墨書が示すように、官人やそれに近い階層との接触があってもおかしくないと考えられる。なお、中保B遺跡が11世紀前半まで継続するのに対し、出来田南遺跡の存続期間は短く9世紀前半以降には途絶えてしまう。周辺遺跡へ移動した可能性も考えられるが、現時点では確証は得られていない。このような、いわば単発的な遺跡ではあるが、地方における律令制拡大期ならではの社会的要請に応じた在地家族層の関連施設と理解したい。

## (2) 中世以降

中世の遺構は、古代との埋土の違いがほとんど見いだせず、出土遺物のない遺構については周辺の遺物分布状況や、柱穴の規模などを参考に抽出した。その結果、掘立柱建物21棟、方形堅穴状土坑5基のほか、区画溝、井戸などを検出した。出土遺物の年代からおおまかにⅥ期(13世紀)、Ⅶ期(14世紀)、Ⅷ期(15世紀～)に分かれるが、特に最も遺構が多いⅦ期については建物の立地や重複などから6小期に分けている。ただし、直接、重複しない建物が併存する可能性は高く、便宜的に設けた区分であることを申し述べておく。なお、当地の中世における建物方位については、古代ほどの規則性が存在したのか明らかでないが、概ね東から西へと指向方位が変遷すると考えられる。

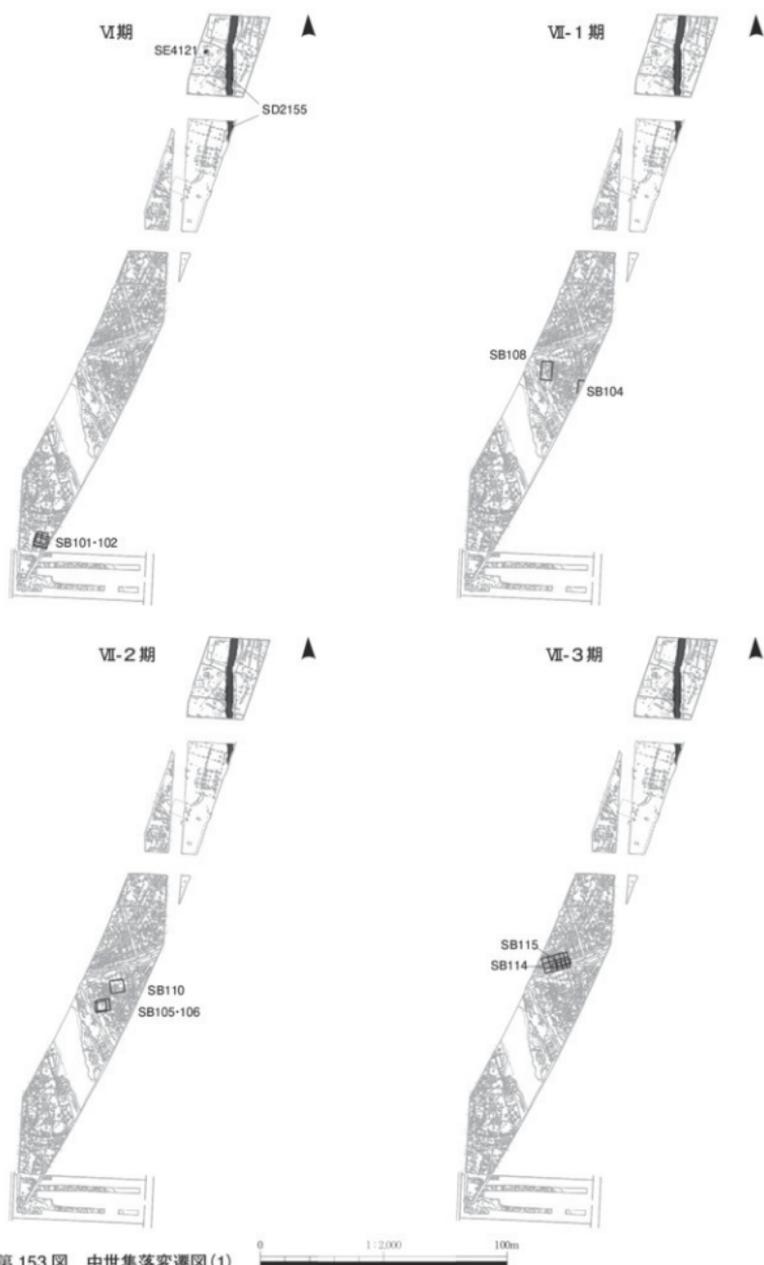
Ⅵ期はD地区南のSB101、SB102の2棟で、新旧は不明であるが建物方位は13°～15°東へ振る。SB102の柱穴および周辺からは、柱状高台を有する中世土師器が散見し、当該期に属する遺物はD地区南側とA地区のSD2155に出土が限られる。集落の展開はほとんどみられないが、井口本江遺跡は13～14世紀に隆盛期を迎えており、この時期における中心地域と考えられる。

Ⅶ期はD地区のSD1003および、それと軸を揃えるSK1610の出土遺物から吉岡編年<sup>14)</sup>のⅣ期頃に相当する。帰属する建物はD地区北に集中しており、重複が著しく6小期に区分した。

Ⅶ-1期は建物方位が4°～8°東に振るSB104、SB108の2棟である。Ⅶ-2期は建物方位が5°～8°西に振る3棟で、重複するSB105、SB106と、SB110がある。Ⅶ-1期、Ⅶ-2期は後出する区画溝SD1003の南で展開しているが、Ⅶ-3期以降は区画溝とその周辺で建物が建てられる。

Ⅶ-3～5期の建物方位は12°～18°西に振る一群であるが、建物構造や立地により細分した。

Ⅶ-3期は総柱建物のSB114とSB115である。この2棟はSD1003や、その他の遺構との重複により、未検出の柱穴が多い。特にSB115の全容は不明であるが、おそらくは東西棟のSB114と似た構造であろうと推測される。SB114は梁行3間、桁行5間で、中世の掘立柱建物のなかでは最大である。なお、中世の越中における掘立柱建物の様相については高梨清志氏の論考<sup>15)</sup>が詳しいが、中世前



第153図 中世集落変遷図(1)

期(12~13世紀)には80%近かった総柱建物の比率は、中世中期(14~15世紀)では50%と側柱建物と同率になり、近世には10%台まで減少する。今回、検出した総柱建物は、後出の2棟を含め4棟のみで、全棟数の約20%であり、中世中期にしては側柱建物が優勢といえる。

Ⅶ-4期は同じく総柱建物のSB117, SB119で、前の時期に比べ、建物規模が縮小している。Ⅶ-3期、Ⅶ-4期は総柱建物がほぼ同一位置で重複するものを区分するため便宜的に設定したが、後述するⅦ-5期とは同じ方位であることから、直接の重複関係がない遺構については併存の可能性もあると考える。

Ⅶ-5期はSD1003が機能した時期とし、これに方位が揃うSB120, SB121をはじめ、SB112, SB113, SB107のほか、方形竪穴状土坑5基などが伴うと想定した。柱穴の切り合いからSB107はSB113より古く、またSB113とSK1610も重複があり、SB107とSK1610が併存したか、あるいはSB107→SB113→SK1610という変遷を辿ると考えられる。

富山県内において方形竪穴状土坑については、建物に取り込まれる土間状施設として埋土の分類により性格付けした河西健二氏の論考<sup>6)</sup>を端緒に、土坑内石列をもつ例や柱穴が並ぶ例など、様々なパターンが確認されている。射水市黒河尺目遺跡での検出例をもとに県内外の出土例をまとめた三島道子氏の論考<sup>7)</sup>には、これらの遺構には厨房、水屋、作業場、倉といった「非居住性」の強い性格が想定されている、とある。

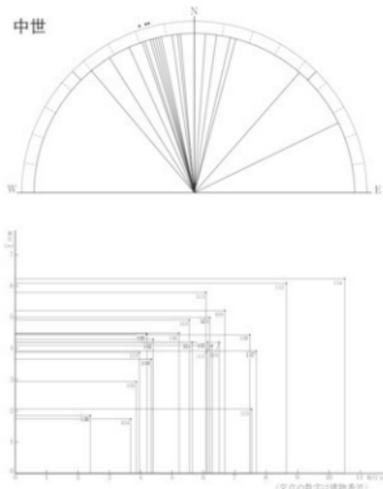
今回、検出した方形竪穴状土坑で唯一、床面から遺物が出土したSK1610では、珠洲鉢と弧状木製品などがみつまっている。弧状木製品は未製品あるいは用材と考えられ、3本まとめて出土した状況は仮置きやストックを思わせる。この遺構には柱穴など、上屋に関連する痕跡が確認できなかったが、仮に、倉庫や作業場のようなスペースであれば上屋が必要と考えられ、基礎部分には土台となる礎石など何らかの構造があったものと推測される。

Ⅶ-6期は建物方位が19°~26°西に振るSB116, SB118, SA101で、前の時期での区画とは方向がずれている。Ⅶ期はさらに建物方位が西に振るSB103, SB109, SB111である。SB103は総柱建物とみられるが、検出できなかった柱穴が多い。また、B地区SD2183, SD2184が向きを描えているが、その周辺に建物遺構は確認できず、これ以降の展開はみられなくなる。

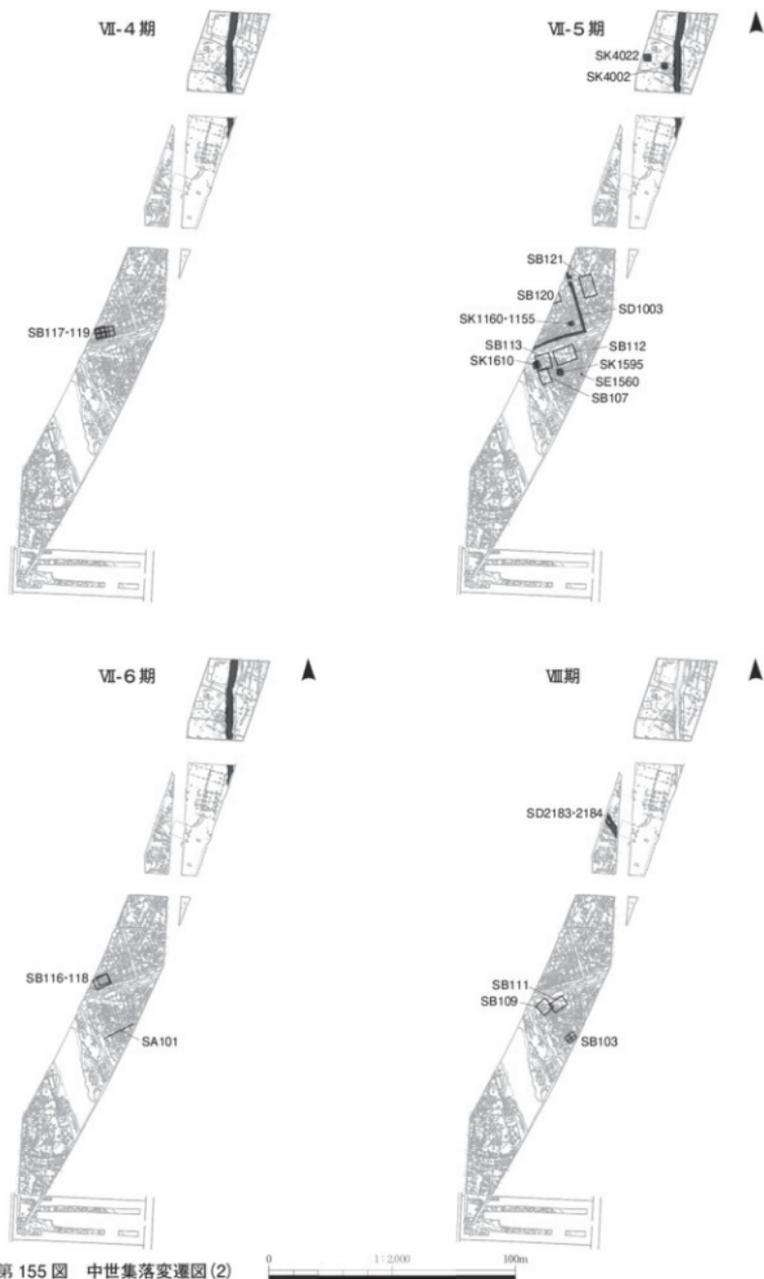
以上、中世の遺構変遷を概観した。おもにD地区北の区画溝に伴って建物群がみられる時期には、隣合う井口本江遺跡でも最も広範囲な展開がみられる。井口本江においては出来田南より広域にわたって土地区画が確認されており、区画内には中核的な建物群が建ち、井戸からは烏帽子の出土した例もみられる。井口本江は散粒的な中世の小集落としているが、成立の背景には近隣に位置する等覚山蓮花寺との関わりが示唆されている。

出来田南の集落は井口本江から南へ500m以上離れていることに加え、地形による制約があったのか、両者の区画は一致するものではない。しかし、中世の蓮花寺は広大な土地経営を行っており、このなかには近世以降まで寺祿として維持された7ヵ村<sup>8)</sup>があり、井口本江、出来田はこれに含まれて

中世



第154図 中世掘立柱建物の方位・規模



第155図 中世集落変遷図(2)

いる。こうした地縁的なつながりの深さから、出来田南についても蓮花寺傘下の村落であった可能性は非常に高いと考えられる。

## 2 古代の遺物について

### (1) 木簡について

出土文字資料は書かれた内容が直接的に史料や絵図などと結びつくこともあり、とくに史料の限られる古代においては重要視される傾向にある。今回の調査においても木簡3点ではあるが、その内容からは多くの知見が得られた。

平成23年度調査において、大溝からは荷札、呪符、習書とそれぞれ内容の異なる3点の木簡が出土した。多くの土器や木製品のなかに木簡や墨書土器といった文字資料が紛れており、当時の遺跡周辺が文字文化の浸透していた環境であることを強くうかがわせる。

荷札は人名、内容、日付などが明瞭に書き記された完形品で出土した。木簡学会の型式番号051で、短冊の下半を尖らせ、上部には紐を掛ける切り欠きがないタイプで、このような形状の荷札は俵の中に入れる俵中札として用いられたという説<sup>39)</sup>がある。内容は米進納を記すもので、進納者は「丸部飯<sup>丸部飯</sup>刀白女」という女性である。丸部は大和の豪族和珥氏の部民で、これまでに若狭国では遠敷郡、三方郡、越前国は足羽郡、坂井郡、加賀国は加賀郡での存在が確認されていたが、当資料により越中国でもその存在が明らかとなった。「上米一半」の「一半」は、平城宮出土木簡に「越前国坂井郡大豆一半」とあり、穀物の量における「一石の半分」と同意とみられる。ただし、米の場合、「一石の半分」は「五斗」と記す例が一般的であり、「一半」と記した理由は不明である。また、進納主体が女性であることについては、長岡京木簡などにも類例があり、当時、それほど珍しいことではないとみられる。なお、義江明子氏による古代女性史の研究<sup>40)</sup>によれば、「8～9世紀にかけては女性(夫の有無を問わない)が単独で大規模に土地を集積したり、男女の田人を駆使して農業経営活動を行っている事例が、土地売買文書・荘園経営帳簿木簡や説話など、性格の異なる多様な史料によって確認されている。」とあり、この周辺においても女性主体の農地経営が行われていたことが明らかとなった。

また、この荷札の内容には国郡郷、年紀などが記されていないが、これは入善町じょうべのみ遺跡出土の荷札木簡「丈部古稚丸上白米五斗」と形状・記述内容・貢進日付などにおいて共通する。さらに、租税である田租や出挙の場合は額稲で収納されるのに対し、木簡に記された品目は米であることから、土地賃貸に伴う地子米などの付札であると推測される。

呪符は上端を尖らせた典型的なもので、古代に限れば県内初の出土とみられる。「急々如律令」の呪句の上には格子状とみられる符録が描かれるが、表面が剝離しており不明瞭である。裏面には逆位で文字が書かれているが判読できない。

習書は上下が欠損し、断片のみの状態である。表面には「見」「脊」など、ケンと音読みする文字を書き連ねていたような状況が垣間見える。下半および裏面には、繰り返し横線を引き、筆先を整えたものであろうか。

3点の木簡は全て大溝の底部から出土した。原位置を留めていないと考えられることから、今回検出した掘立柱建物群と直接結びつけることはやや困難であるが、特に荷札からは当時の土地経営を含めた社会的背景がうかがえ、遺跡周辺を理解するうえで重要な資料といえる。

### (2) 墨書土器について

大溝からは多数の墨書土器も出土した。大溝内の出土土器については第47図でその分布を示した

第56表 出土墨書土器一覽

遺物番号	種類	器種	位置	出土地点	
				遺構	座標
[酒方呂]「酒飲」					
301	須恵器	杯蓋	外面 内面には「井」	大溝	X40/Y19
303	須恵器	杯蓋	内面 中央部に12	大溝	X35/Y21
300	須恵器	杯蓋	外面 内面中央部には墨痕	大溝	X35/Y21
304	須恵器	杯蓋	外面	大溝	X37/Y18
16	須恵器	杯A	外面 横位	大溝	X36/Y21
13	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X32/Y20
12	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X40/Y21
15	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X35/Y20
179	須恵器	杯B	高台内	大溝	X42/Y16
178	須恵器	杯B	高台内	大溝	X34/Y20
181	須恵器	杯B	高台内	大溝	X42/Y19
182	須恵器	杯B	高台内	大溝	
180	須恵器	杯B	高台内	Ⅱ層	X40/Y21
177	須恵器	杯B	高台内	大溝	X37/Y24
17	須恵器	杯B	高台内	SK1853	
14	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X40/Y18
[秋方呂]					
186	須恵器	杯B	高台内	SD1790	X51/Y22
[安方呂]					
184	須恵器	杯B	高台内	大溝	X48/Y19 X48/Y18
183	須恵器	杯B	高台内	大溝	X41/Y17
[■方呂]					
37	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X44/Y16
36	須恵器	杯B	底部外面	大溝	X39/Y19
			底部外面	大溝	X41/Y17
			底部外面	大溝	X41/Y18
[■餅]					
302	須恵器	杯蓋	外面	大溝	X35/Y20
[友田土]					
307	須恵器	杯蓋	外面	大溝	X46/Y19
21	須恵器	杯	底部外面	大溝	X44/Y20
20	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X45/Y17
18	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X48/Y19
19	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X44/Y18
17	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X44/Y20
194	須恵器	杯B	高台内	大溝	X31/Y20
423	須恵器	杯B	高台内	大溝	X32/Y22
399	須恵器	棧板	高台内	大溝	X32/Y19
398	須恵器	棧板	高台内	大溝	X32/Y18
[友]					
195	須恵器	杯B	高台内	大溝	X38/Y20
[五十]					
306	須恵器	杯蓋	内面	大溝	X36/Y20
305	須恵器	杯蓋	外面	大溝	X31/Y20
43	須恵器	杯	底部外面	大溝	X46/Y17
300	須恵器	杯B	高台内	大溝	X49/Y19
400	須恵器	棧板	高台内	大溝	X49/Y19
[五]?					
44	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X36/Y16
[三方■]					
33	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X45/Y20 X43/Y16
34	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X37/Y17
35	須恵器	杯A	底部外面	Ⅱ層	X30/Y13

遺物番号	種類	器種	位置	出土地点	
				遺構	座標
[金手]					
25	須恵器	杯A	底部外面	I層	X60/Y31
22	須恵器	杯A	底部外面	Ⅱ層	X68/Y33
27	須恵器	杯A	底部外面	SD1044	X64/Y28
23	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X39/Y19
[金]?					
26	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X32/Y20
[上川邊]					
42	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X32/Y21
41	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X39/Y20
192	須恵器	杯B	高台内	大溝	X36/Y20
					X35/Y21
[川邊]					
193	須恵器	杯B	高台内	Ⅱ層	X22/Y16
[専]					
30	須恵器	杯A	底部外面	SK224	No.2
196	須恵器	杯B	高台内	大溝	X45/Y20
197	須恵器	杯B	高台内	大溝	X38/Y17
[専]?					
29	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X43/Y19
					X42/Y19
				大溝	X45/Y17
					X43/Y19
[太]					
199	須恵器	杯	底部外面	大溝	X49/Y19
49	須恵器	杯	底部外面	Ⅱ層	X36/Y11
[大家]					
32	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X36/Y16
31	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X38/Y17
[家]?					
188	須恵器	杯B	高台内	SD1410	X36/Y16
			底部外面	SD1266	X56/Y23
[采女]					
45	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X35/Y25
				大溝	X48/Y18
[四]					
190	須恵器	杯B	高台内	大溝	X35/Y20
[正月]					
204	須恵器	杯B	高台内	SD1266	X57/Y25
47	須恵器	杯	底部外面	大溝	X43/Y18
[天田]					
191	須恵器	杯B	高台内	Ⅱ層	X63/Y32
[行]					
46	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X49/Y19
[六■]					
210	須恵器	杯B	高台内	大溝	X34/Y20
[東内]?					
39	須恵器	杯A	底部外面	大溝	X43/Y18
[東■]					
40	須恵器	杯A	底部外面	Ⅱ層	X70/Y31
[■内]?					
38	須恵器	杯A	I線部外面 横位	大溝	X36/Y21

が、墨書土器に限らず南西側に偏った分布状況がみられる。出土状況から、その場で廃棄したものかは判然としませんが、底部に貼り付いて出土するものや、泥みに溜まったのか埋土と幾重にも重なるものなど、食膳具を主体とした多量の破片が混在していた。

墨書土器に書かれた文字には「酒万呂」「酒磨」「安万呂」「秋万呂」などの人名、「川邊」「上川邊」の地名とみられる文字のほか、「友田土」「金手」「専」「五十」「岡」「正月」など明確な意味が判らない文字がある。このほか「大家」「采女」といった語句があり、遺跡の性格を考える上で非常に意義深い。

2点を確認した「大家」は中心的事務所施設を指すと考えられ、中保B遺跡でも出土している語句である。付近に相当施設が存在したことを示唆するものだが、今回の調査でみつかった掘立柱建物群＝「大家」とは断定しづらい。ただし、そのような施設が周辺にあったことは確かであろう。

「采女」は奈良時代、各地の郡司層の姉妹や子女のうち、容姿端麗な者が下級女官として出仕する制度であり、中央集権の強固化をねらった律令制の施策のひとつである。今回出土した「采女」墨書により、射水郡からも采女を送り出していた可能性が高いと考えられる。こうした采女用の食器があるということは、采女がこの近辺に来ていたことをもうかがわせる。采女は基本的に終身出仕すると考えられるが、なかには退任後、地元での饗宴の場に列席した際に詠まれたという万葉集の歌<sup>(1)</sup>が残されており、国司への接待や都の文化を伝える役割を担っていた状況が見受けられる。

### (3) 律令祭祀具について

大溝からは人面墨書土器、齋串、馬形など、律令祭祀具も出土した。

人面墨書土器は破片の資料が多いため個体識別が困難であったが、裏7点を確認した。このうち1個体はほぼ完形で復原でき、4面の顔が描かれていたことがわかった。

長い眉、切れ長の目、鼻、口と顎から下方に延びる髭が表現され、射水市北高木遺跡、同市南太閤山I遺跡の例と似ている。この他、小型の甕には底部に穿孔されたものや細い筆跡のものがみられ、破片の状況からは複数面描かれていたことが想像される。県内では先の2遺跡のほか、高岡市石名瀬A遺跡、下佐野遺跡や小矢部市埴生南遺跡などでも人面墨書土器が出土している。今回の出来田南遺跡出土資料は破片資料を含む数ではあるが7点と、1遺跡から出土した数としては県内で最も多い。越中国は人面墨書土器の出土点数が日本海側最多で、古代の早い段階から浸透・定着していた祭祀形態であると考えられている。第57表には、県内における人面墨書土器の出土例をまとめたが、国府が置かれた射水郡での出土数が圧倒的に多いことから、国家的な祭祀に関わる施設についても他の3郡に比べ多かったことが推測される。

木製祭祀具では齋串、馬形が出土した。齋串は1点のみ大溝の底部から出土した。奈文研分類のCIV式<sup>(2)</sup>、黒崎分類の齋串B<sup>(3)</sup>とされる形態で、主頭状の上端で側面上部に切り掛けを施し、下端を尖らせるタイプであるが下端は欠損している。馬形は完形で、やや厚みのある板の上辺には頭、背、尾を表すような切り込みが入り、下辺には頭を示すような切り込みが入る。

このような祭祀関係遺物のセット関係について整理・分析した堀沢祐一氏の分類<sup>(4)</sup>では、出来田南遺跡は人面墨書土器と木製祭祀遺物が共存する祭祀パターンA型-(a)型に属す。この型式の遺跡には、その付近に国府や郡家に比定される遺跡が位置するという共通性があり、射水郡では北高木遺

第57表 越中の人面墨書土器

郡	遺跡	年代	点数	郡別点数
福波郡	小矢部市埴生南遺跡	7世紀末～8世紀初頭	1	1
射水郡	高岡市石名瀬A遺跡	8世紀後半～9世紀前半	6	26
	高岡市下佐野遺跡	8世紀後半～9世紀前半	3	
	射水市北高木遺跡	8世紀末～9世紀初頭	6	
	射水市赤井南遺跡	9世紀末	1	
	高岡市出来田南遺跡	8世紀後半～9世紀前半	7	
	射水市南太閤山I遺跡	8世紀後半	3	
新川郡	富山市豊田大塚遺跡	9世紀後半	3	3

跡、石名瀬 A 遺跡が同じ型式である。堀沢氏は前者を国府、後者を郡家の祭祀場候補と想定している。出来田南遺跡は北高木遺跡の南西 4.5km、石名瀬 A 遺跡の東 4kmの場所に位置し、いわば両遺跡の間地点にあたる。北高木遺跡では、量・質ともに大がかりな祭祀が行われていたと推測され、より公的な性格を想起させる。石名瀬 A 遺跡は、隣接する東木津遺跡、下佐野遺跡などを郡家候補地とし、その祭祀場と想定している。今回、出来田南遺跡でみつかった祭祀遺物は、この周辺あるいは遺跡内にも祭祀場が存在したことを示すものであり、多くの文字関連遺物などからみても、この遺跡が中核的施設であったことを裏付けるものと考ええる。

## 註

- (1) 金田章裕 1998 『古代荘園図と景観』
- (2) 奈良国立文化財研究所 2003 『古代の宮衛遺跡』遺構編
- (3) 根津明義 2009 『古代越中における官衛の様相と在地社会』『古代の越中』
- (4) 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』
- (5) 高梨清志 2004 『越中(富山県)の様相』『掘立柱建物から礎石建物へ』北陸中世考古学研究会
- (6) 河西健二 1993 『越中における様相』『中世北陸の家・屋敷・暮らしぶり』北陸中世器研究会
- (7) 三島道子 2001 『黒河尺目遺跡の壑穴状遺構について』『富山考古学研究』第 4 号
- (8) 高岡市史編纂委員会編 1959 『高岡市史』上巻
- (9) 富山大学鈴木景二先生のご教授による 馬場基 1996 『荷札と荷物のかたるもの』『木簡研究』30
- (10) 義江明子 2010 『刀自』からみた日本古代社会のジェンダー』『帝京史学』26
- (11) 鈴木先生のご教授による 『安積山 影さへ見ゆる山の井の 浅き心を吾思はなく』(万葉集 第 16-3829)
- (12) 奈良国立文化財研究所 1985 『木器集成図録 近畿古代編』
- (13) 黒崎直 1977 『齋申考』『古代研究』10 元興寺仏教民俗資料研究所
- (14) 堀沢祐一 2009 『越中国の祭祀・仏教関係遺跡と遺物』『古代の越中』

## 参考文献

- 池野正男 2010 『ロクロ土師器煮炊具の生産と流通』『大塚』28 号  
2014 『越中における古代集落の壑穴建物と掘立柱建物』『大塚』33 号
- 宇野隆夫 1989 『考古資料にみる古代と中世の歴史と社会』  
1991 『律令社会の考古学的研究』  
2001 『荘園の考古学』
- 藤井一二 1997 『東大寺開田園の研究』
- 大島町教育委員会 1995 『北高木遺跡発掘調査報告書』
- 高岡市教育委員会 2000 『須田藤の木遺跡調査報告』  
2001 『石塚遺跡・東木津遺跡調査報告』  
2002 『中保 B 遺跡調査報告』  
2012 『石名瀬 A 遺跡調査報告』
- 富山県教育委員会 1985 『七美・太閤山・高岡境内遺跡群発掘調査概要(3) 南太閤山 I 遺跡』  
2011 『下佐野遺跡発掘調査報告書』
- 富山市教育委員会 2004 『奈良時代の富山を探る』
- 奈良文化財研究所 2007 『古代家族居宅の構造と機能』



D地区

1. D地区全景(北から) 2. D地区南ブロック(西から)



B地区

1. B地区全景(南から) 2. B地区北ブロック(西から)



A地区・C地区

1. A地区全景(北から) 2. C地区全景(東から)



古代大溝

1. 大溝(東から) 2~5. 大溝遺物出土状況



古代溝

1.2. SD1205(北西から、北から) 3. SD2270(西から) 4. SD2270(東から) 5~7. SD1750(南東から)



古代柱穴

1. SP2(西から) 2. SP106(西から) 3. SP267(西から) 4. SP1530(東から) 5. SP1551(東から)  
 6. SP1047(南から) 7. SP2274(南から) 8. SP2143(南東から)



古代柱根

1.2. SP700(北西から) 3.4. SP836(北から) 5.6. SP775(北西から) 7.8. SP777(北東から)



古代竪穴建物・土坑

1. SI110(南から) 2. SI110カマド(西から) 3. SI168・176(南から) 4. SK355(東から) 5. SK527(南から)  
6. SK753(南から) 7. SK1060(南から) 8. SK1653(西から)

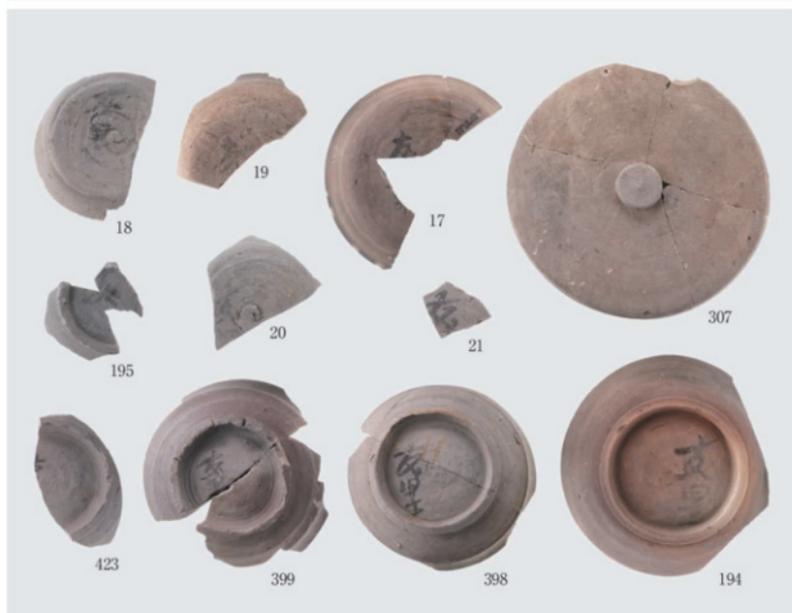


古代遺物



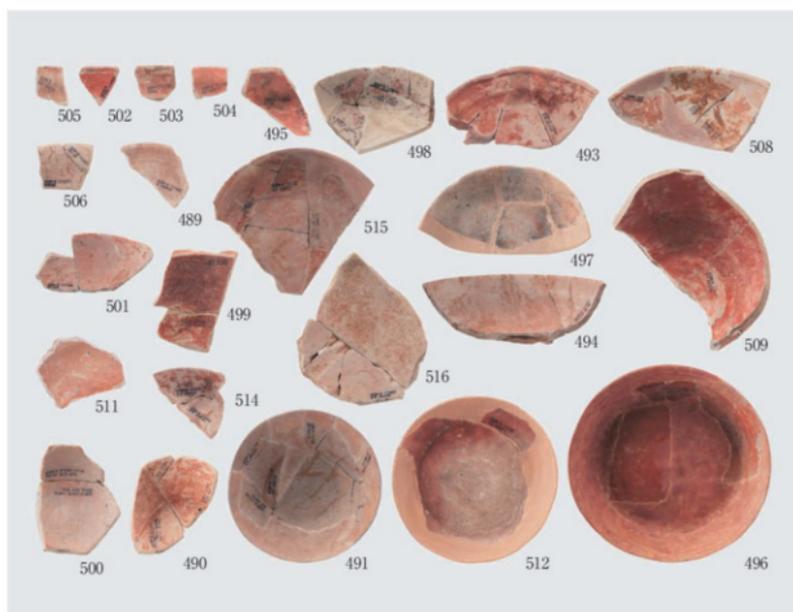


古代土器



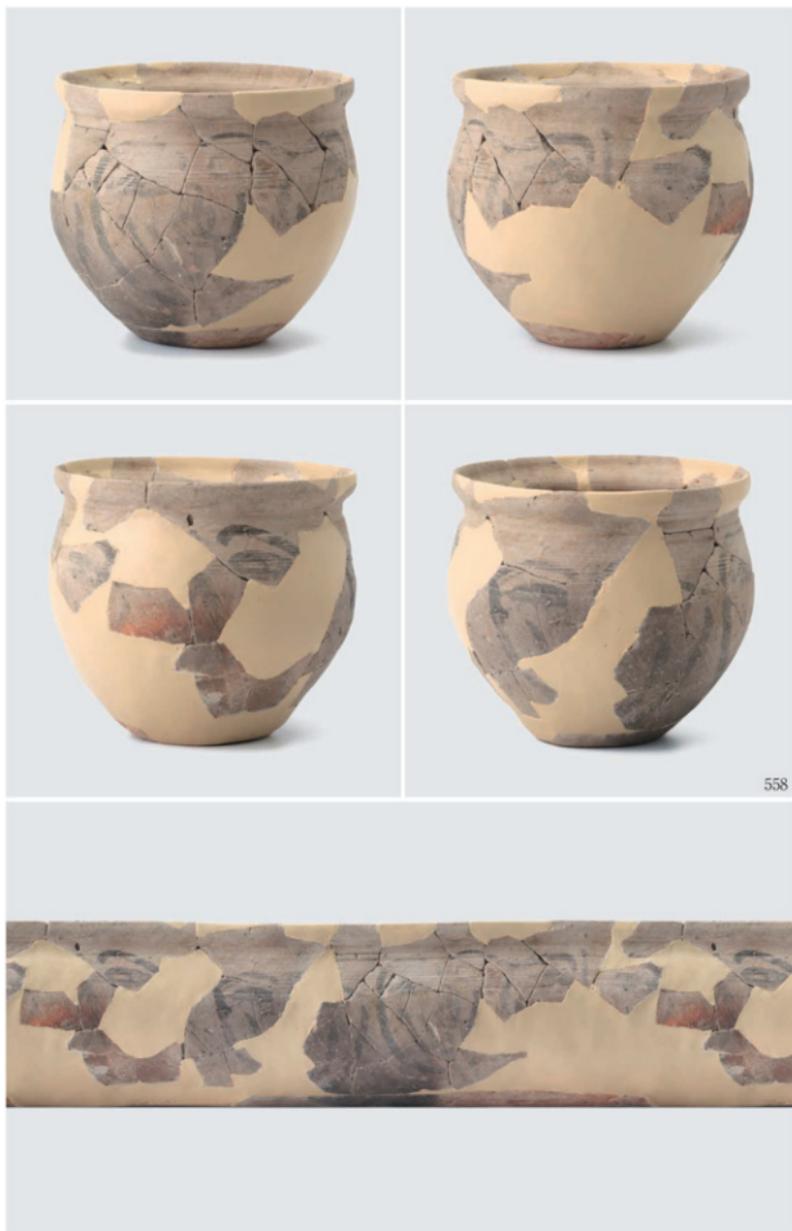
墨書土器

SP4146(766) 大溝(12~15・17~21・177~179・181・182・194・195・300~304・307・398・399・423)  
包含層



## 赤彩・黑色土器

SI176(495) SP483(502) SP839(510) SP2088(485) SK527(497) SK1139(479) SK1229(501) SD71(498)  
 SD336(484) SD808(503) SD1003(516) SD1205(494) SD1236(490) SD1413(499) SD2181(500)  
 大溝(476・477・480・482・483・488・489・491・496・504・505・509・511・512・515) 包含層



人面墨書土器  
大溝 (558)



人面墨書土器・赤彩土器・木製品  
SK355(176) 大溝(551・556・557・660・662)



墨書土器・円面硯

SD2270(417) 大溝(16・32・45・300)

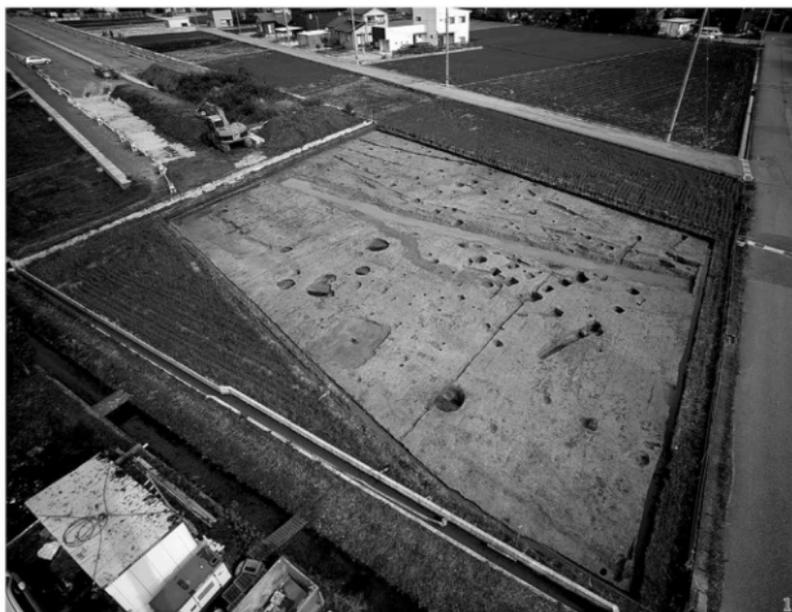


航空写真(上：1947年米軍撮影 下：2001年国土地理院撮影)



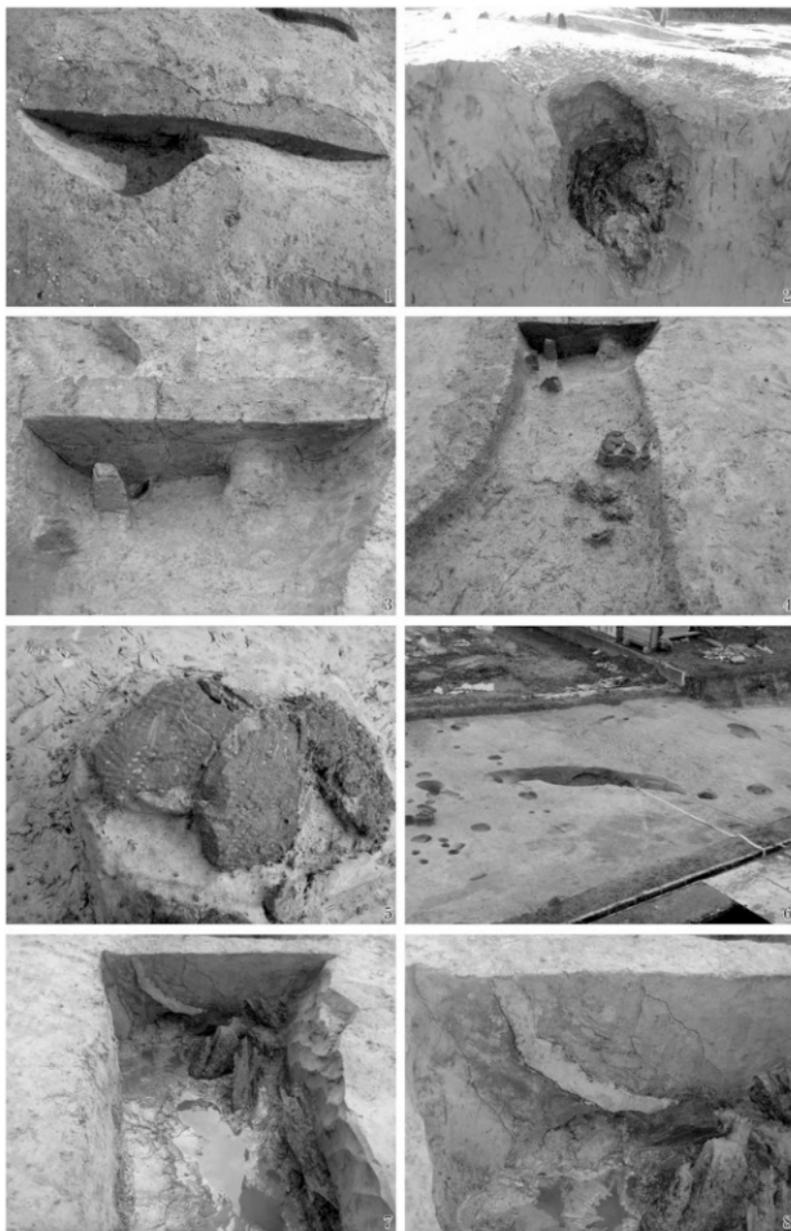
B地区・D地区

1. B地区全景(南から) 2. D地区全景(南から)



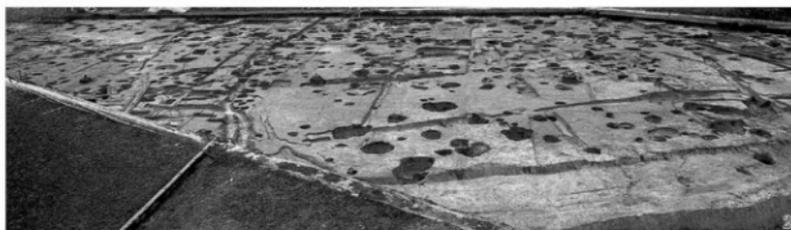
A地区・C地区

1. A地区全景(西から) 2. C地区全景(南から)



縄文時代遺構

1. SK1838・SK1839(北西から) 2. SK1838(北東から) 3. SD1913・SD1914(北西から) 4. SD1913(北西から)  
5. SD1913(南西から) 6. SD2154(北西から) 7,8. SD2154(北東から)



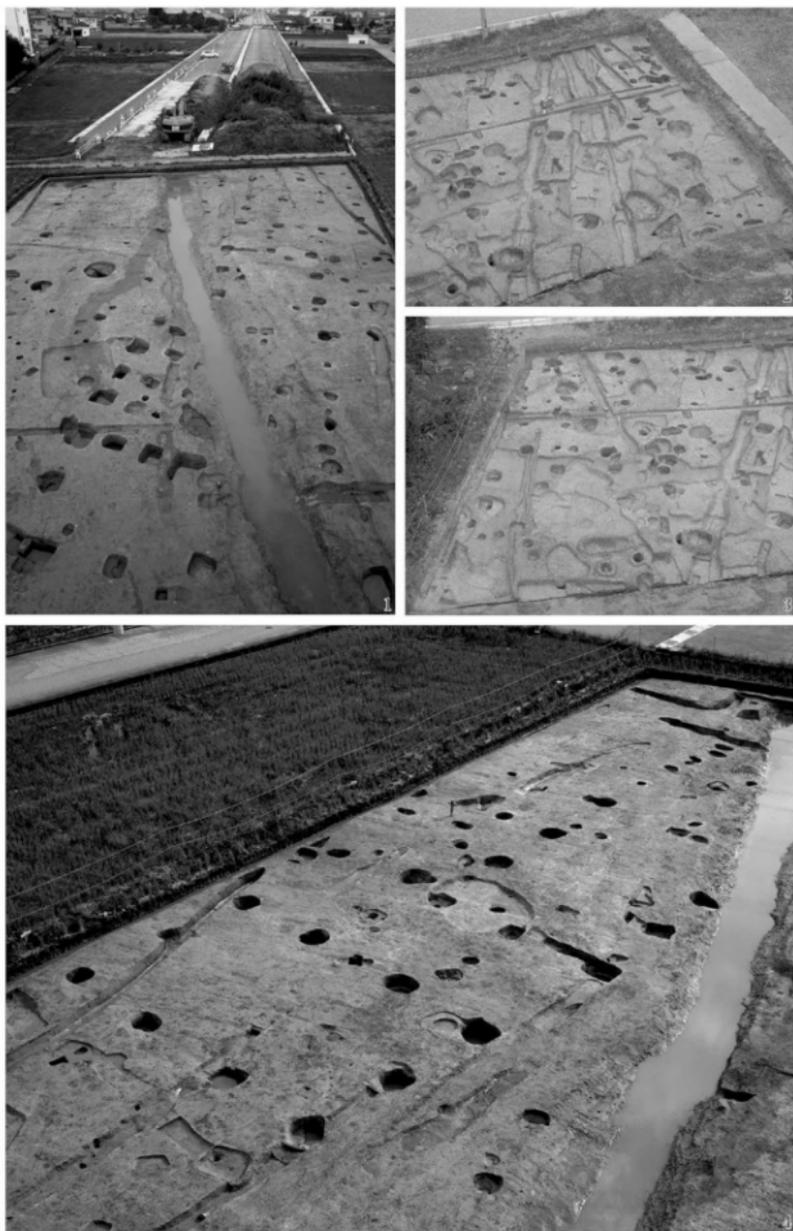
古代掘立柱建物

1. SB10~20(南から) 2. SB19・20(北東から) 3. SB28(北東から)



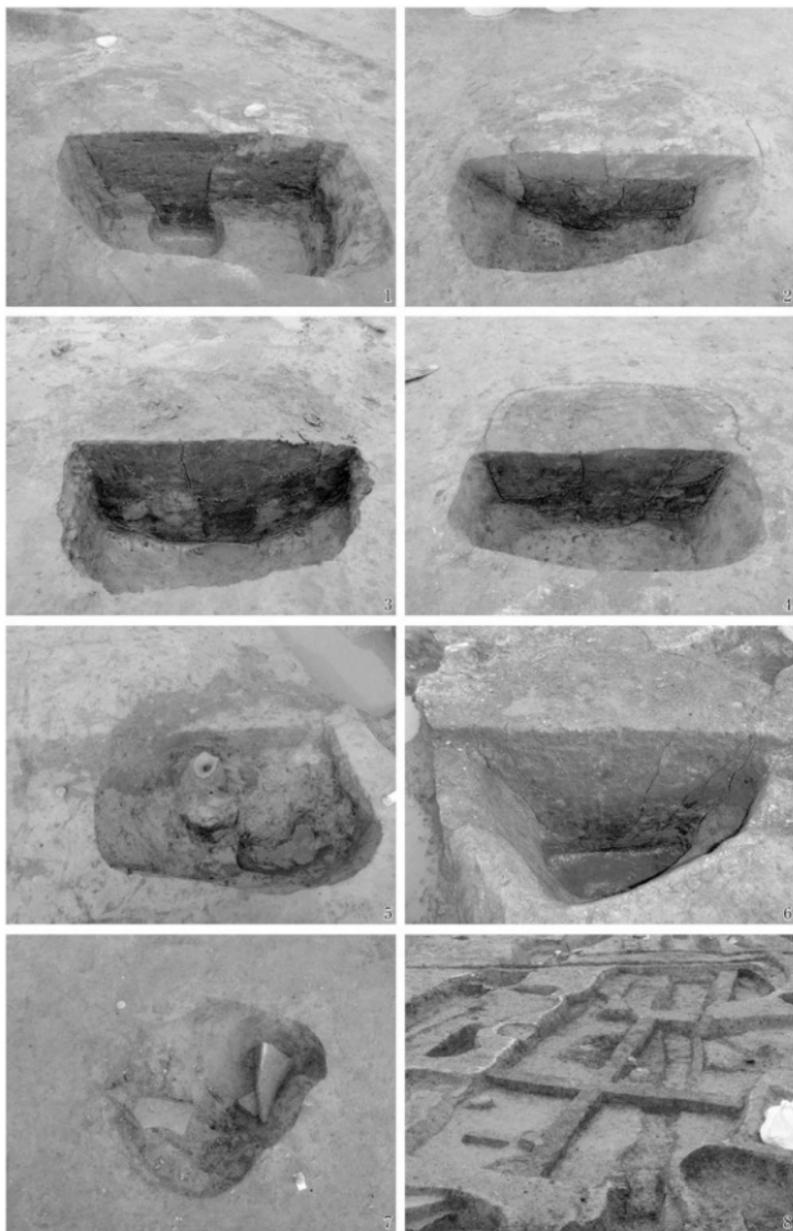
古代掘立柱建物

1. SB29～33(北から) 2. SB34・35(南東から) 3. SB39～43(西から) 4. SB36・39～46(北から)



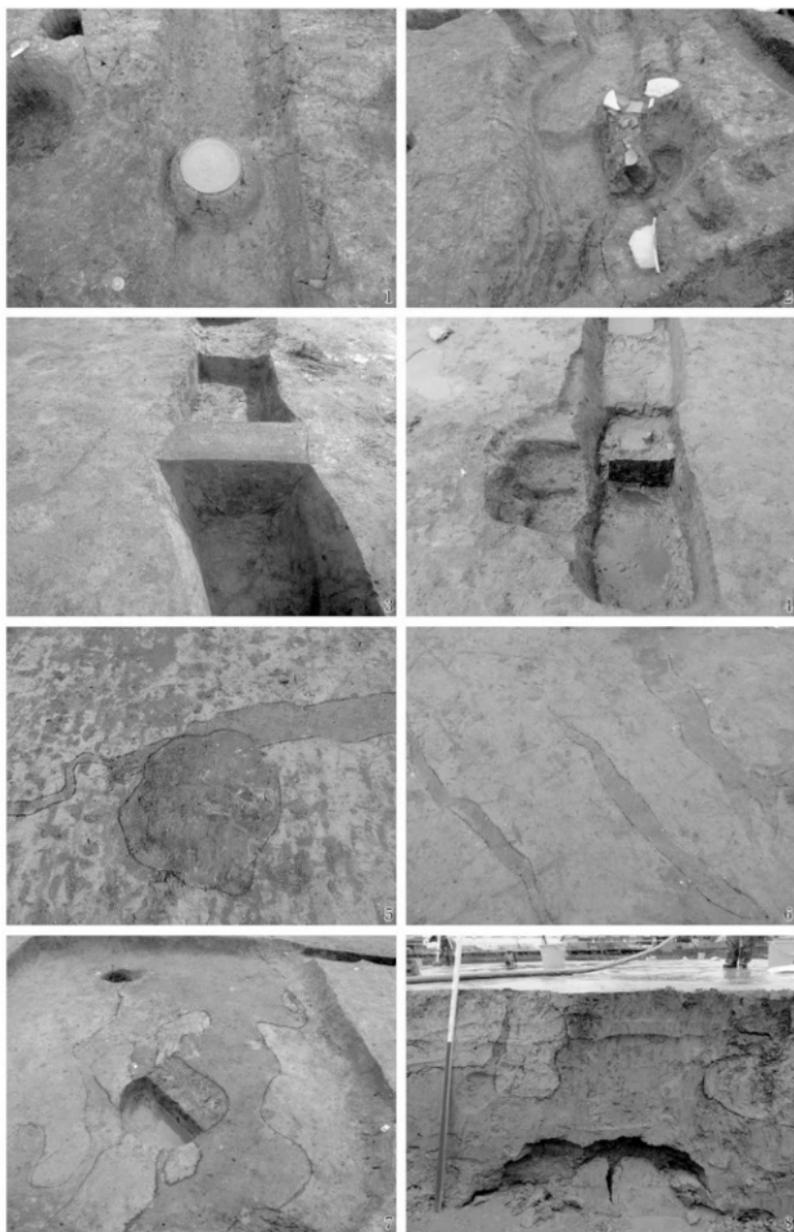
古代掘立柱建物

1. SB47~51(南から) 2. SB52・53(南から) 3. SB54~56(南から) 4. SB47~49(北から)



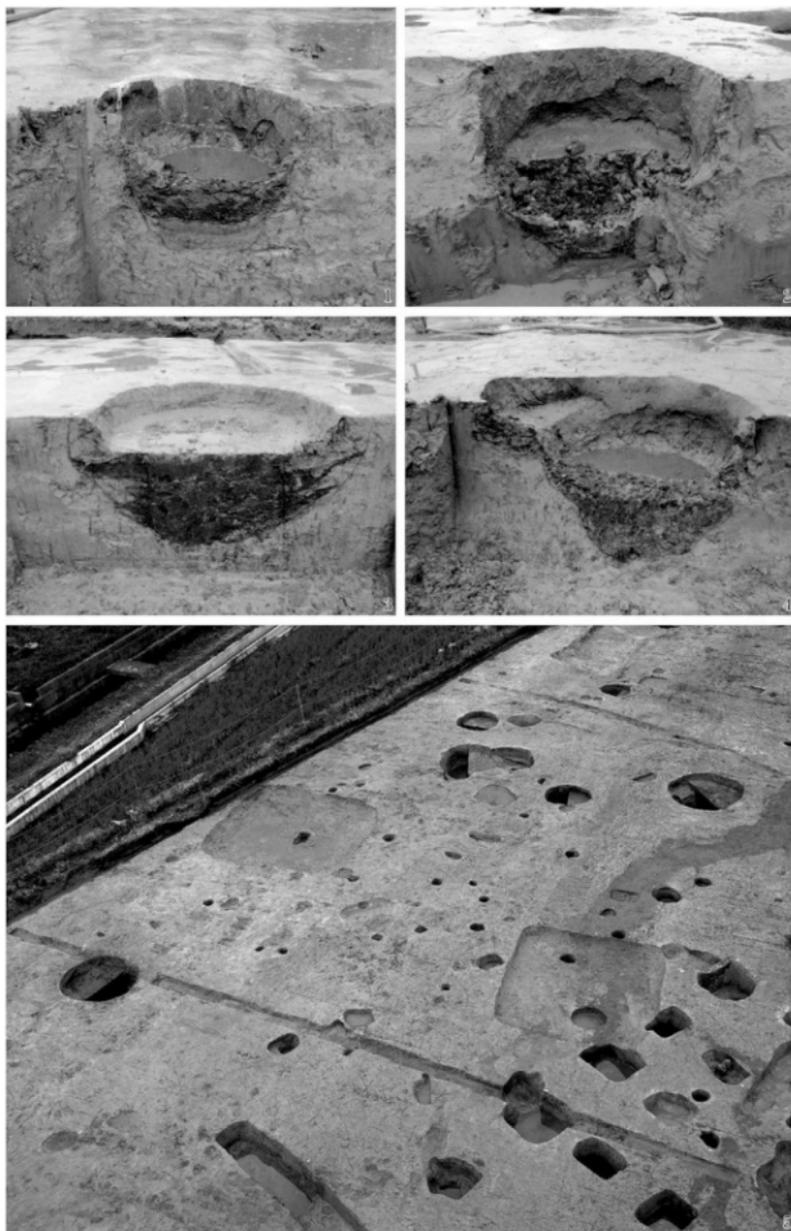
古代柱穴・土坑・竪穴建物

1. SP4167(南西から) 2. SP4134(南西から) 3. SP4081(南西から) 4. SP4020(南東から) 5. SP4085(南から)  
6. SP3019(北西から) 7. SK4124(南から) 8. SI3100(南西から)



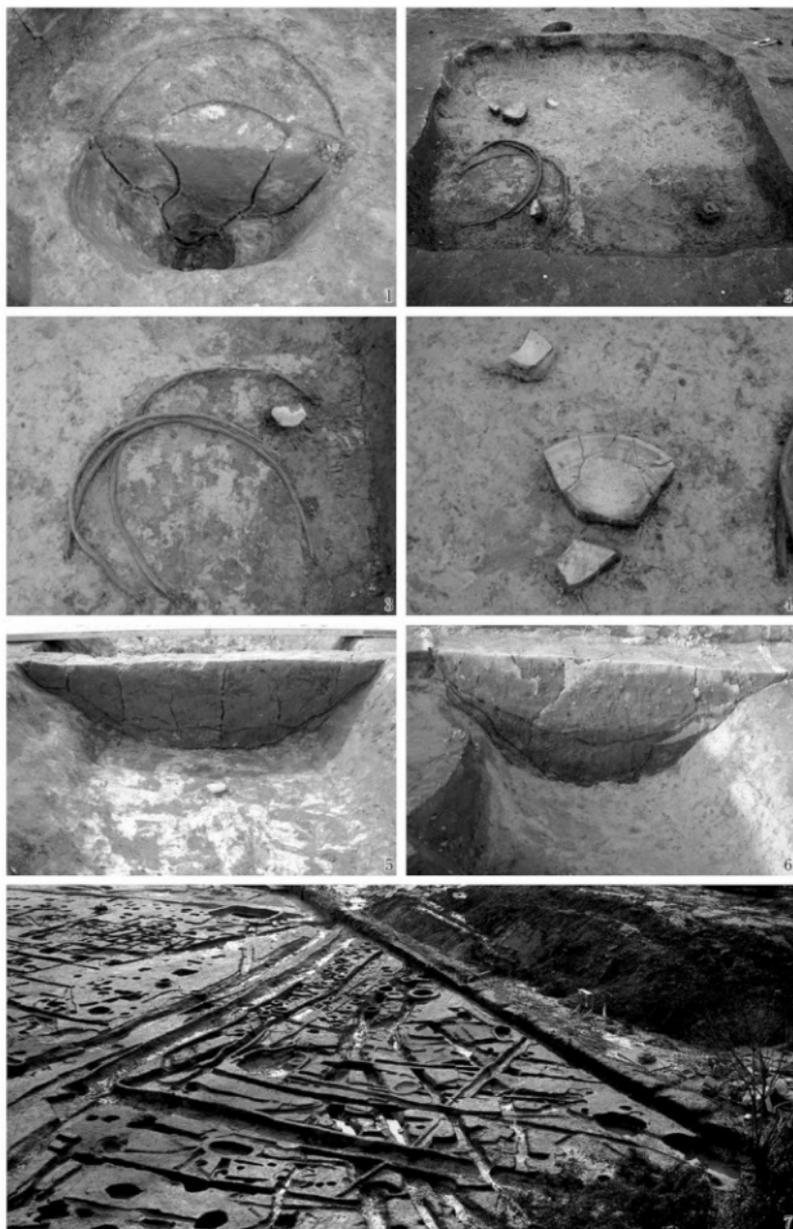
古代溝・噴砂

1. SD3055(南から) 2. SD1007(南から) 3. SD4144(北西から) 4. SD4030(東から) 5~7. A地区噴砂検出状況  
8. A地区噴砂断ち割り



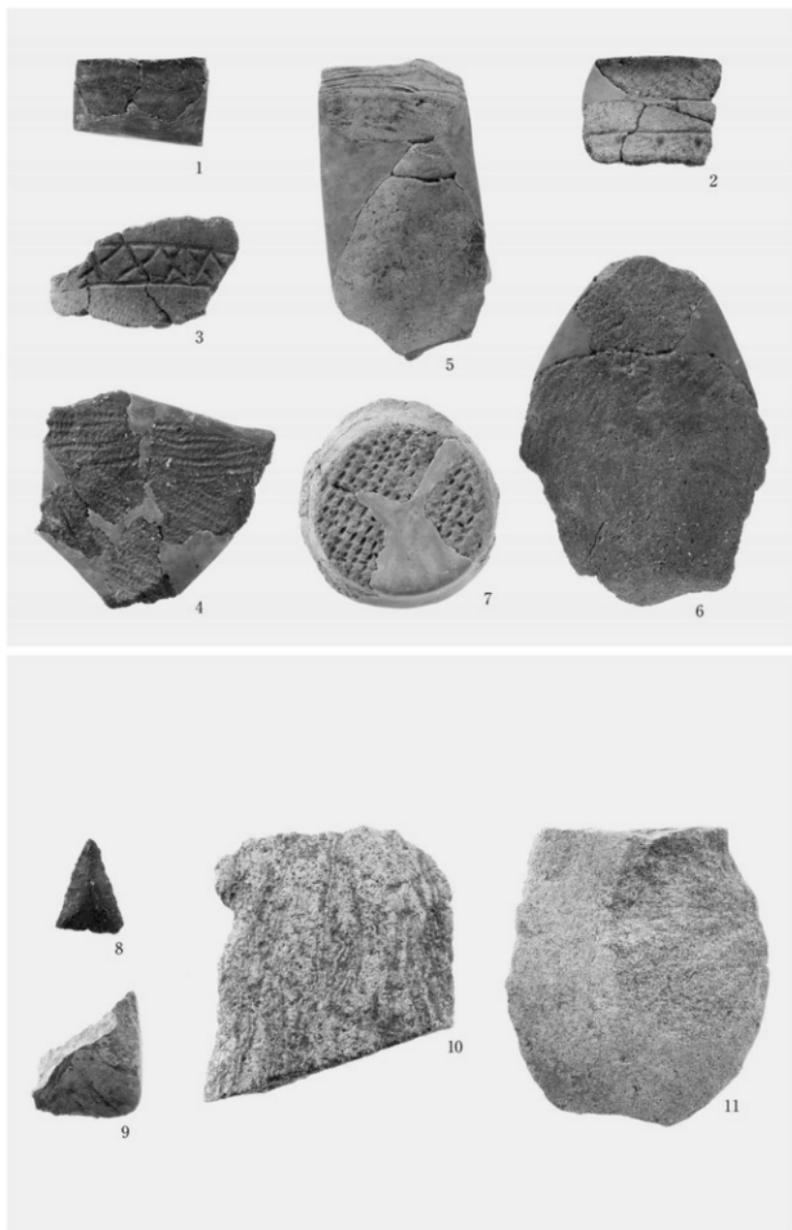
古代～中世井戸・中世竪穴状土坑

1. SE4091(東から) 2. SE4061(北東から) 3. SE4015(東から) 4. SE4121(北東から)  
5. 竪穴状土坑ブロック(南から)



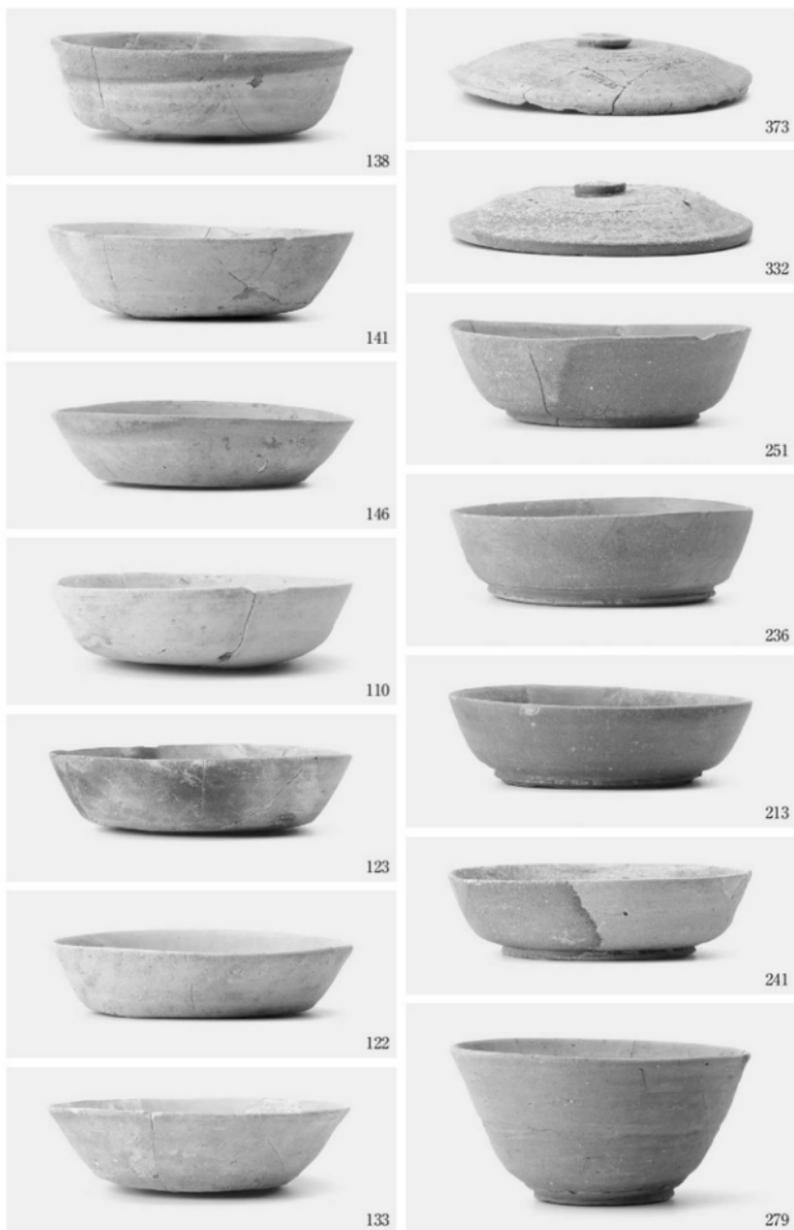
中世竪穴状土坑・区画溝

1. SP1416(北から) 2. SK1610(西から) 3. SK1610(北から) 5.6. SD1003(東から, 南から) 7. SD1003(北から)



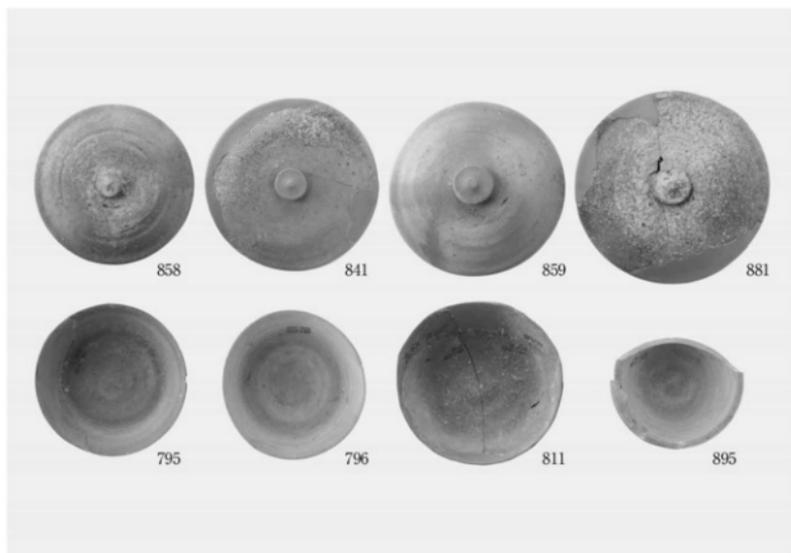
縄文土器・石器

SP817(10) SK705(4) SK2225(2) SD754(1) SD1318(6) SD1750(11) SD2153(5) 包含層



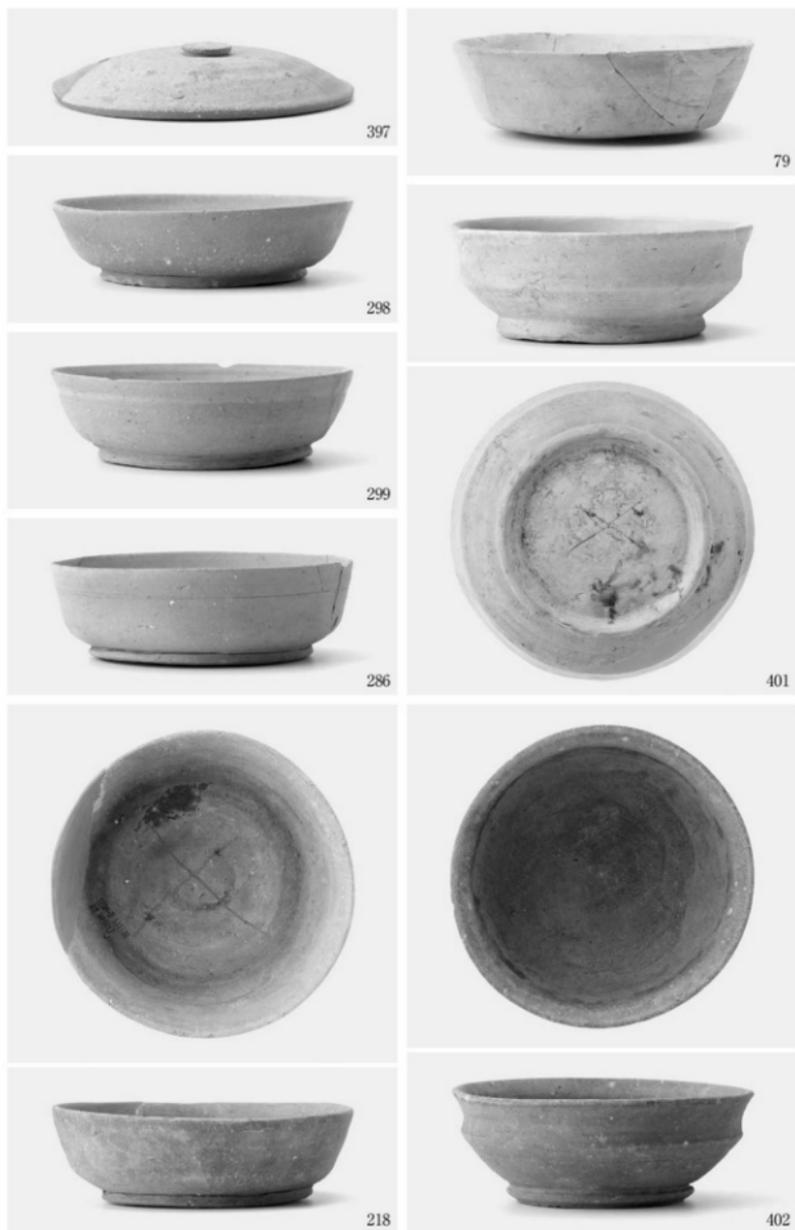
須恵器

SI201(251) SK1653(279) SD1177(138) SD1192(373) SD1205(141) SD1628(146)  
 大溝(110・122・123・133・213・236・241・332)



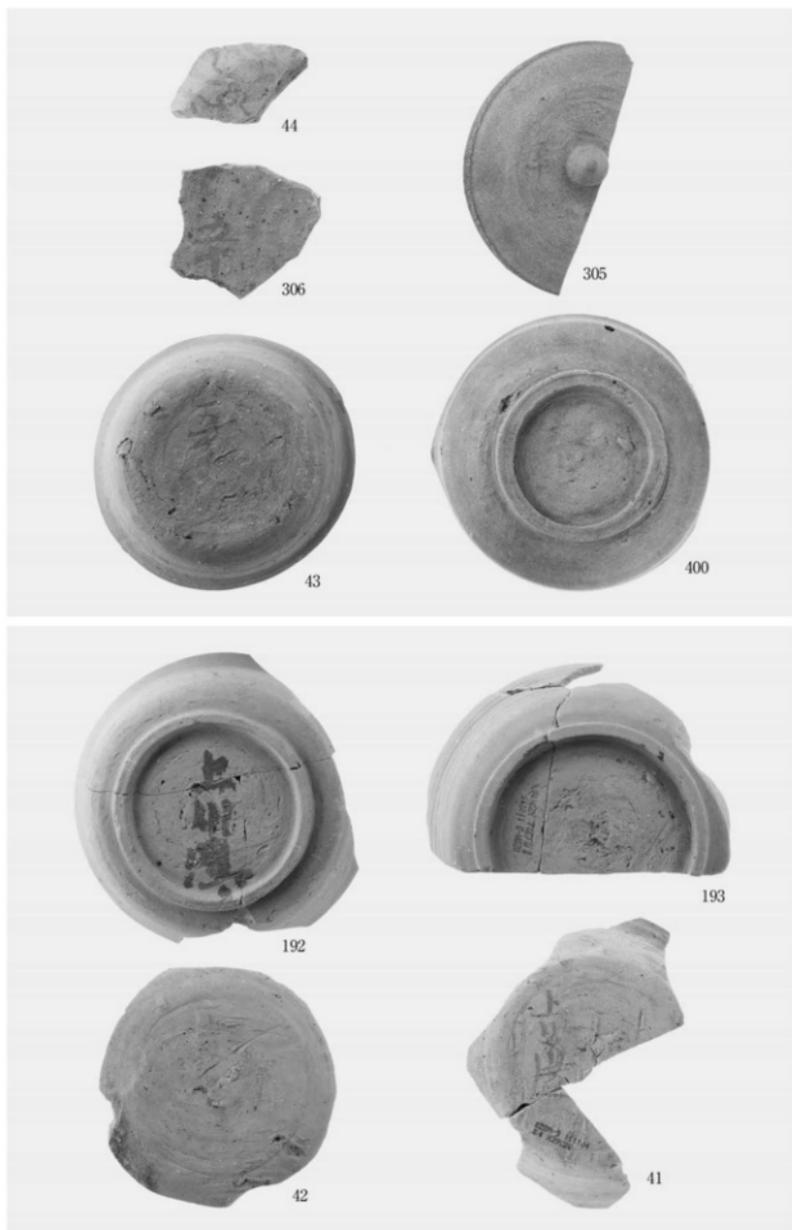
須恵器

SI3100(811・859) SK3045(795) SK3122(881) SD1044(274) SD1236(290) SD1266(288・289) SD3055(858)  
SD3143(895) SD4004(796) SE4008(841) 大溝(232・247)



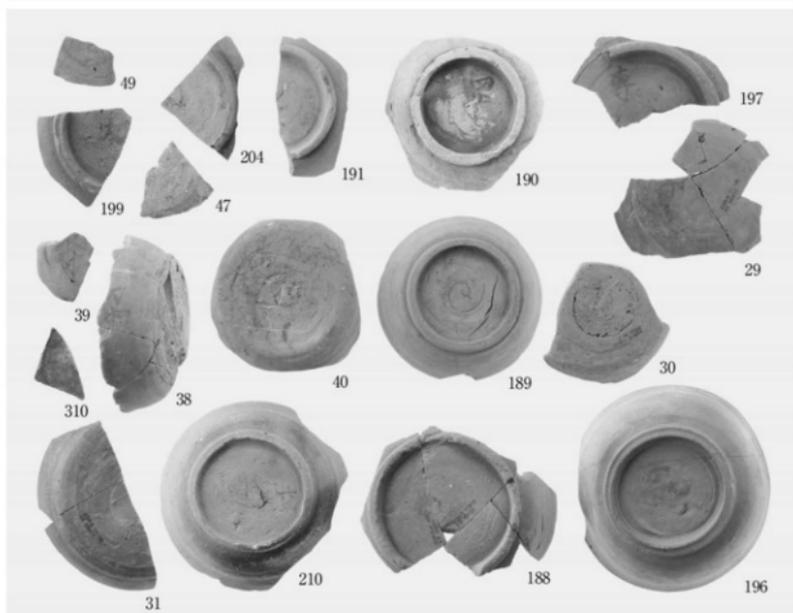
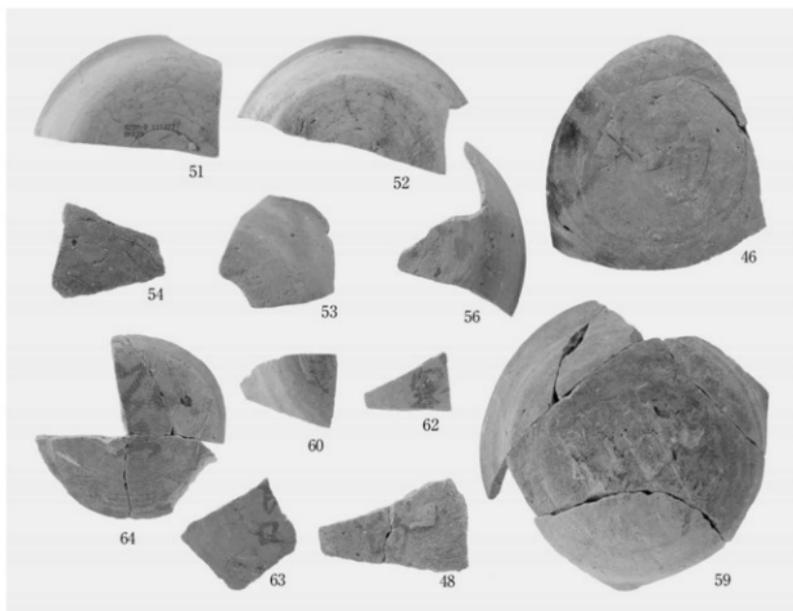
須惠器

SD2181(401) SD2270(286・298・299) 大溝(79・218・402)



須惠器

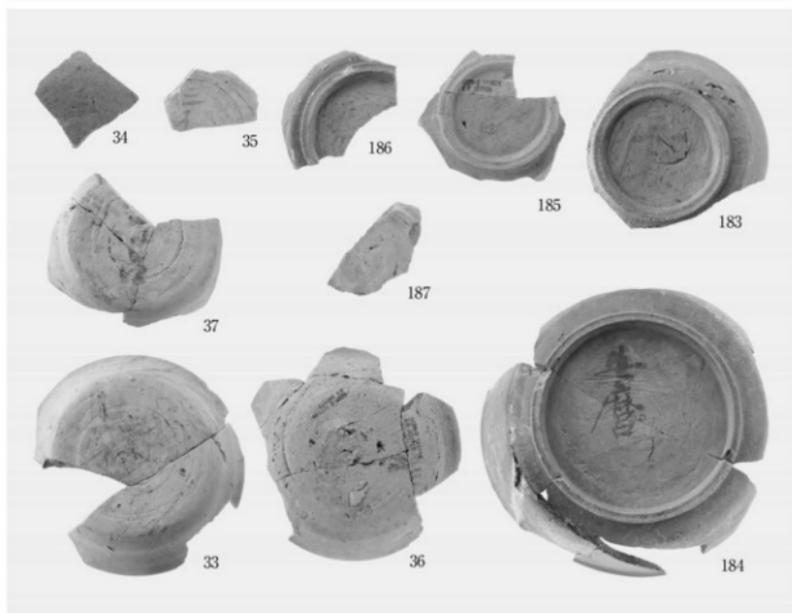
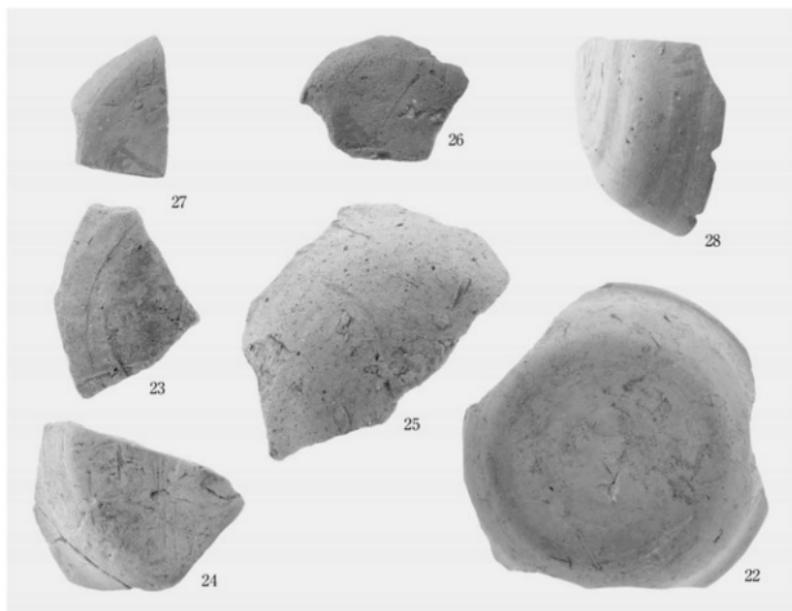
大溝(41・44・192・305・306・400) 包含層



須恵器

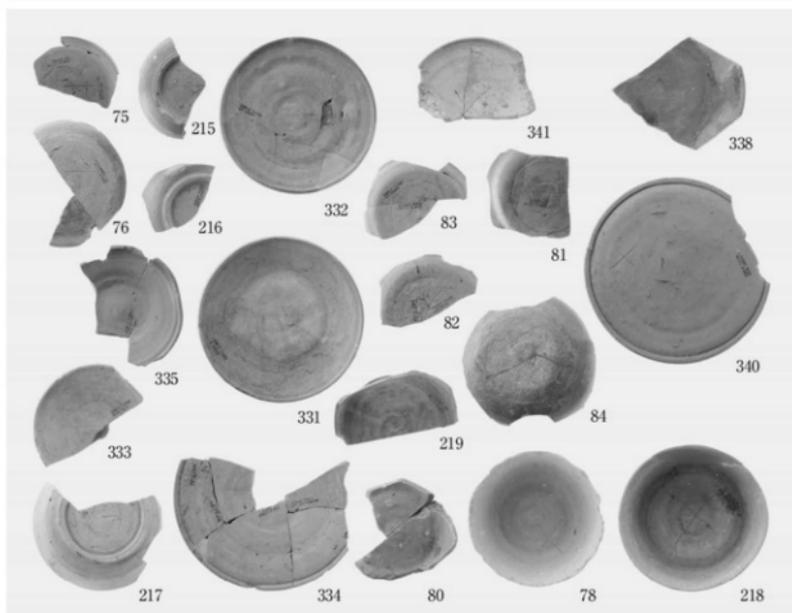
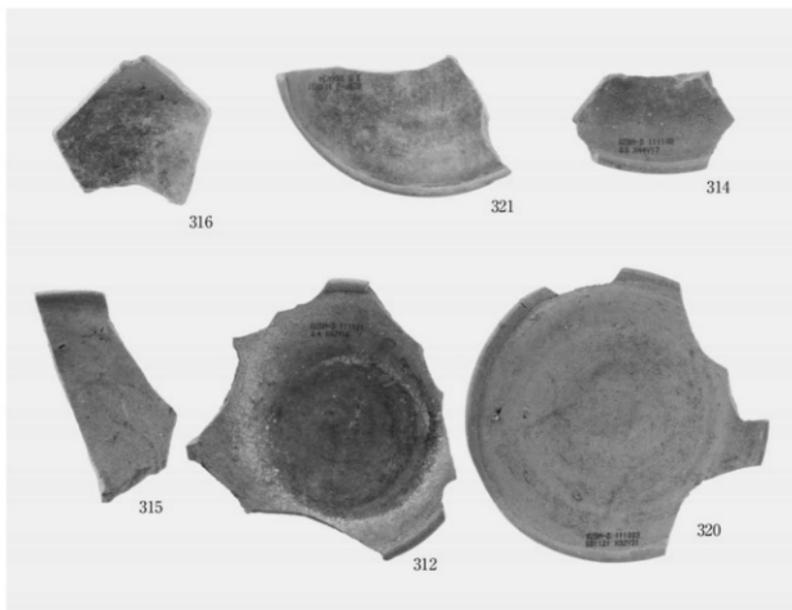
SP224(30) SP809(51) SD1266(204) SD1410(188) SD1802(52)

大溝(29・31・38・39・46-48・54・56・59・60・62-64・189・190・196・197・199・210・310) 包含層



須惠器

SK6(28) SD1044(27) SD1148(24) SD1750(185·186) 大溝(23·26·33·34·36·37·183·184·187) 包含層



須恵器

SP232(333) SD228(216) SD336(340) SD1121(330) SD1237(84) SD1248(341) SD1266(215) SD2270(78)  
 大溝(75・76・81・83・218・219・312・314~316・331・332・338) 包含層



須惠器

SP1340(221) SP4085(804) SK275(175) SD1003(85) SD1072(220) SD1266(87) 包含層



414



411



439



440



420



419



442

須恵器

SD1205(442) SD1750(439) 大溝(411・414・419・420・440)



453



454



455



463



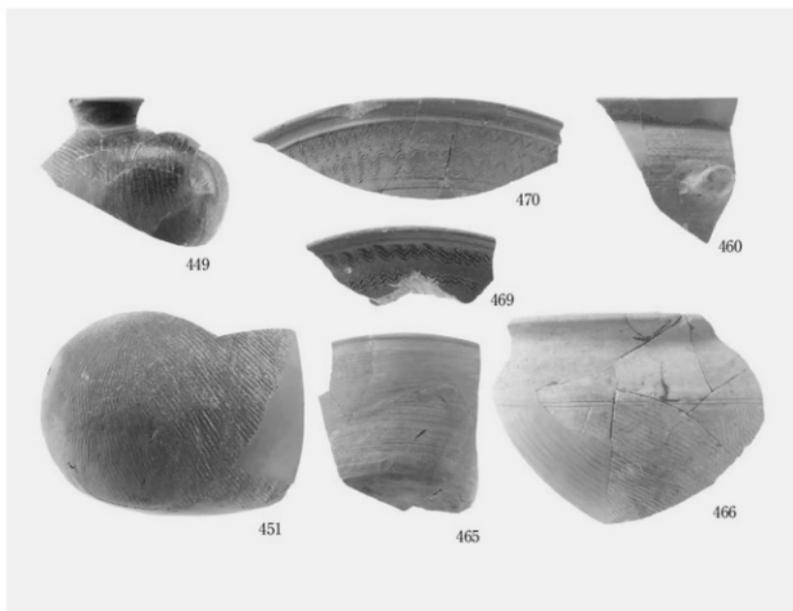
467



475

須惠器

SD1205(467) SD134H(454) 大溝(453・455・463・475)



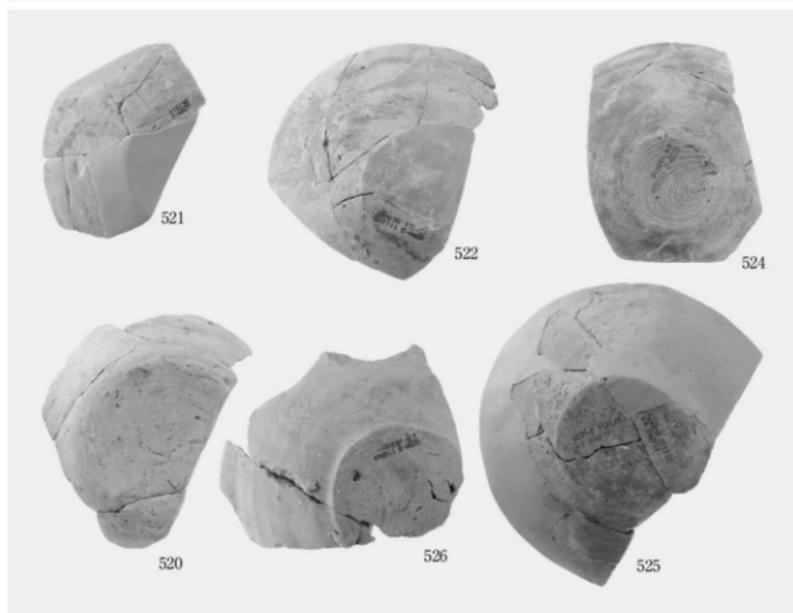
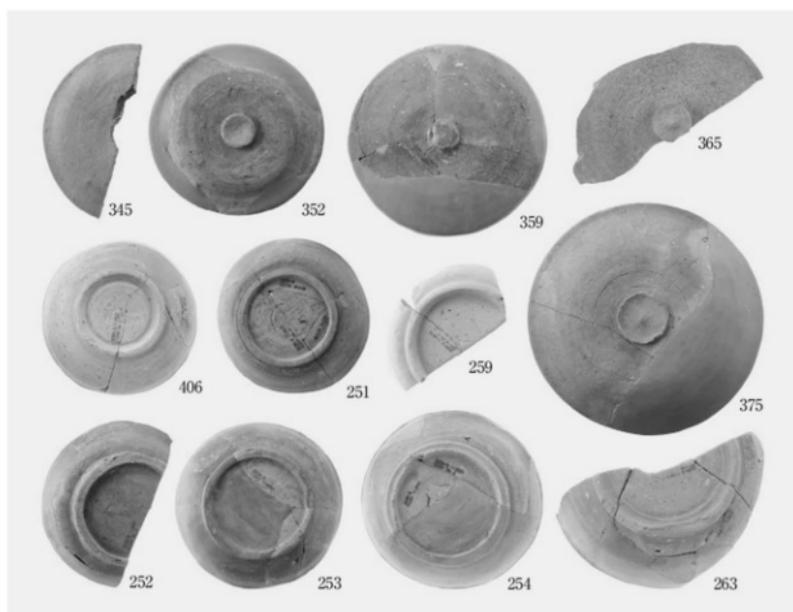
須恵器

SK2317(431) SD1007(451) SD1148(436) SD1750(426) SD2181(432) SD2233(430) SD2307(448)  
 大溝(443・445・446・449・465・466・469) 包含層



須恵器

SD1750(152-154・275-277・350・408) SD2270(89-92・286・295-299・393-397)



須恵器・土師器

SI110(259・263・345・375) SI168(359) SI200(253・352・406) SI201(251・252・254) SI810(365) SP1510(521)  
SD1221(522) SD1266(520) 大溝(524・525) 包含層



481



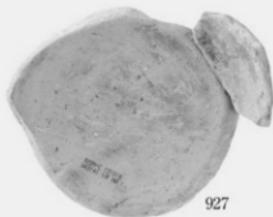
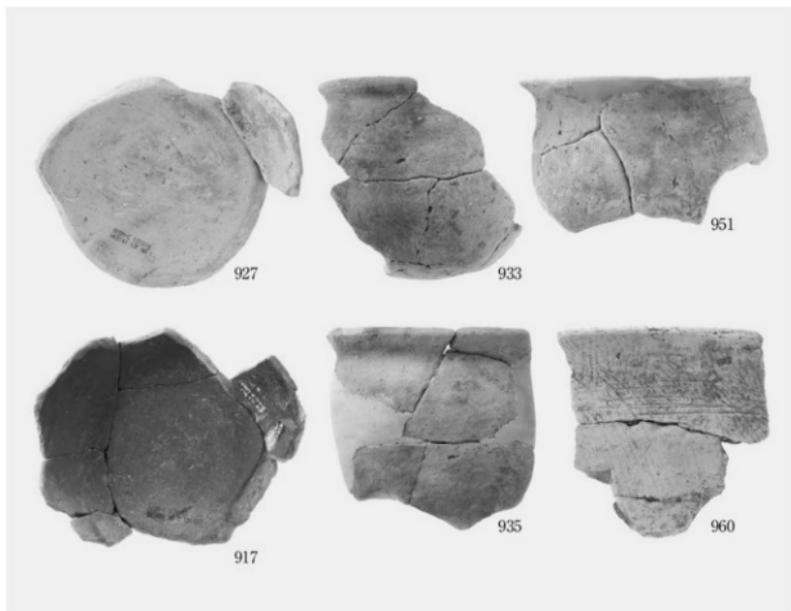
492



513



507



927



933



951



917



935



960

土師器

SI630(481) SI3100(951) SK3141(927) SD3055(917) SD1007(960) 大溝(492・507・513) 包含層



537



529



958



535



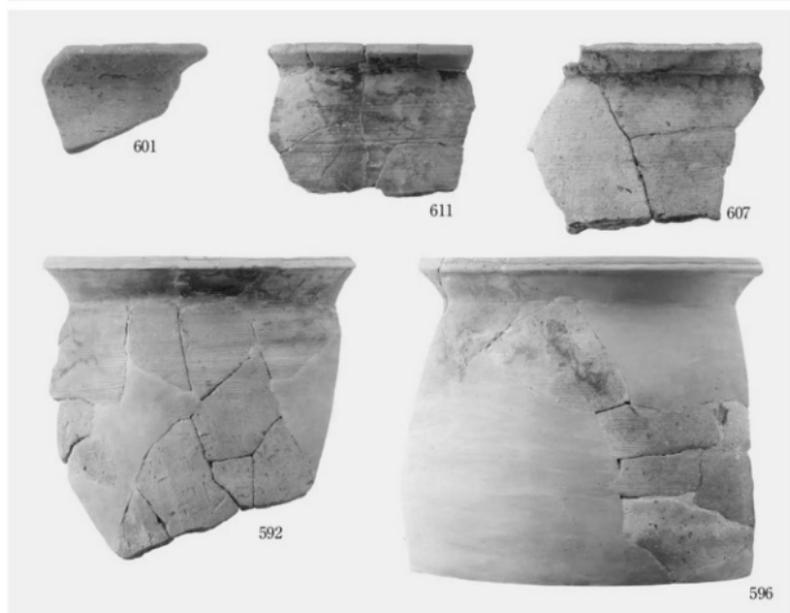
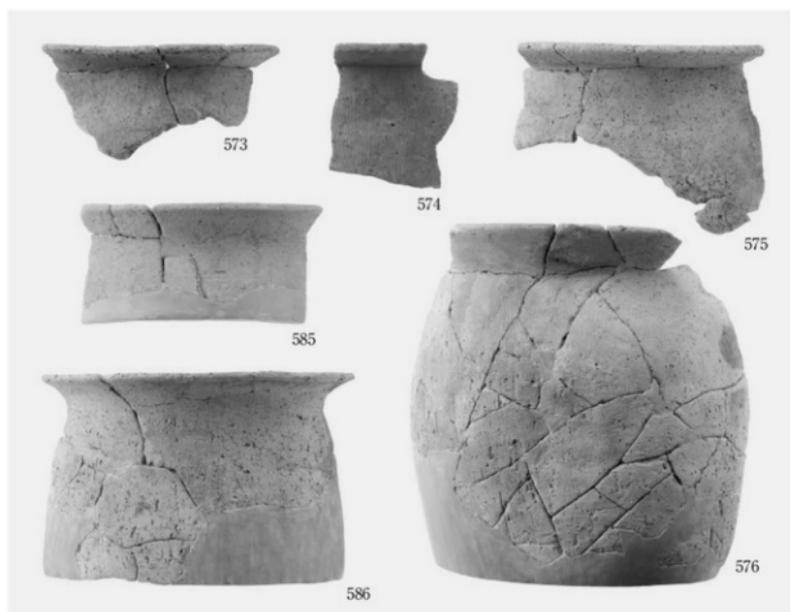
550



546

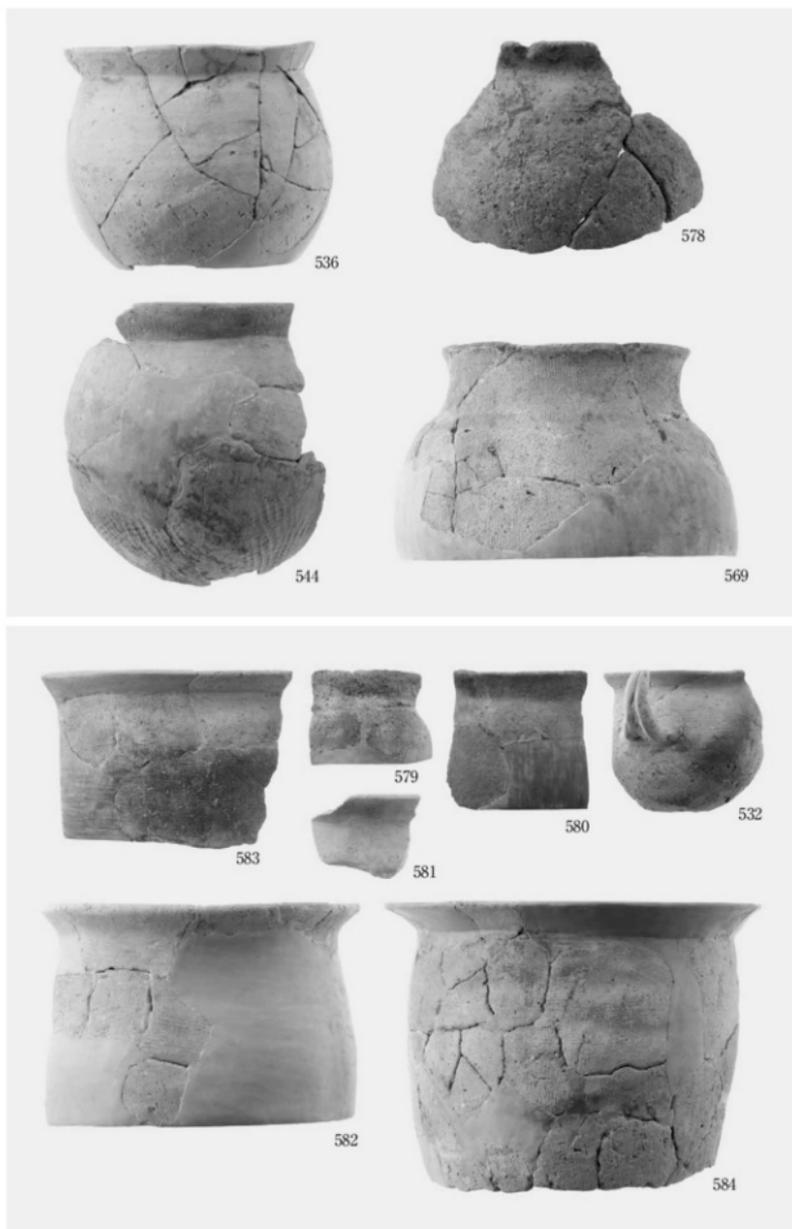
土師器

SI168(546) SI630(535) SD1750(529) SD4004(958) 大溝(537・550)



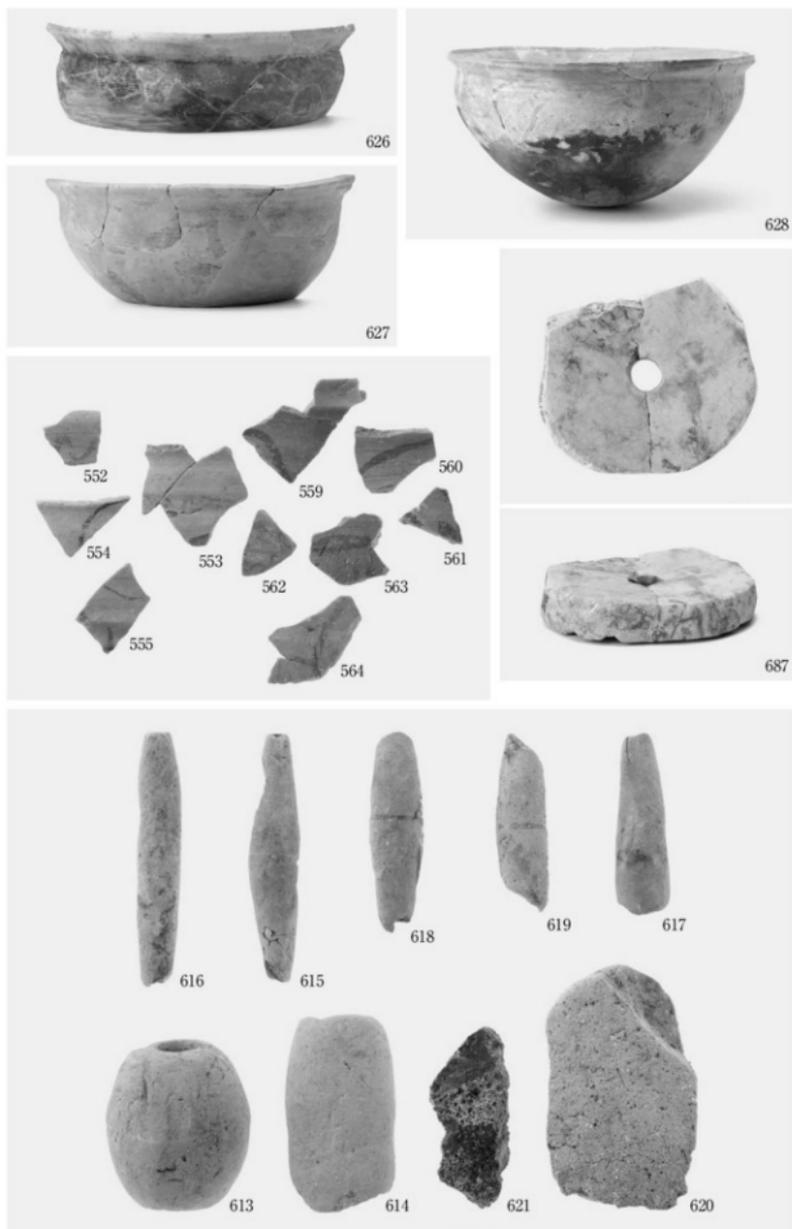
土師器

SI110(575・576) SI201(601・611) SI630(592) SI640(573・574) SI1550(607) SK705(596) SK710(585・586)



土師器

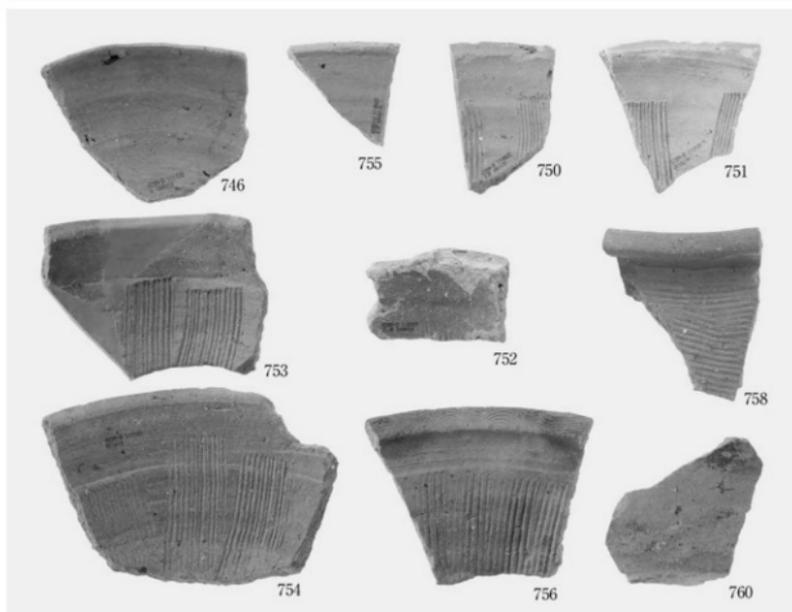
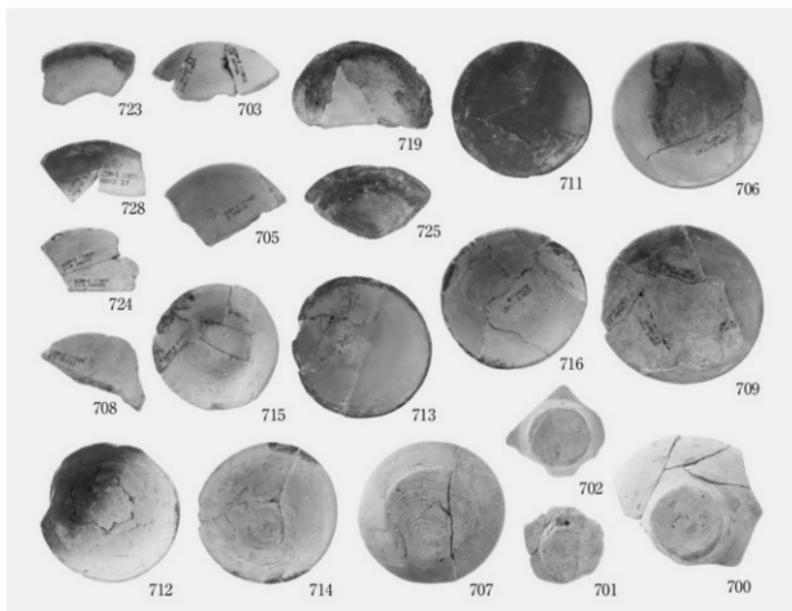
SP609(569) SP834(536) SD1205(544) SD2263(578) SD2270(532・579~584)



土師器・土製品・石製品

SK500(620) SK804(621) SD1003(687) SD1221(617) SD1266(615)

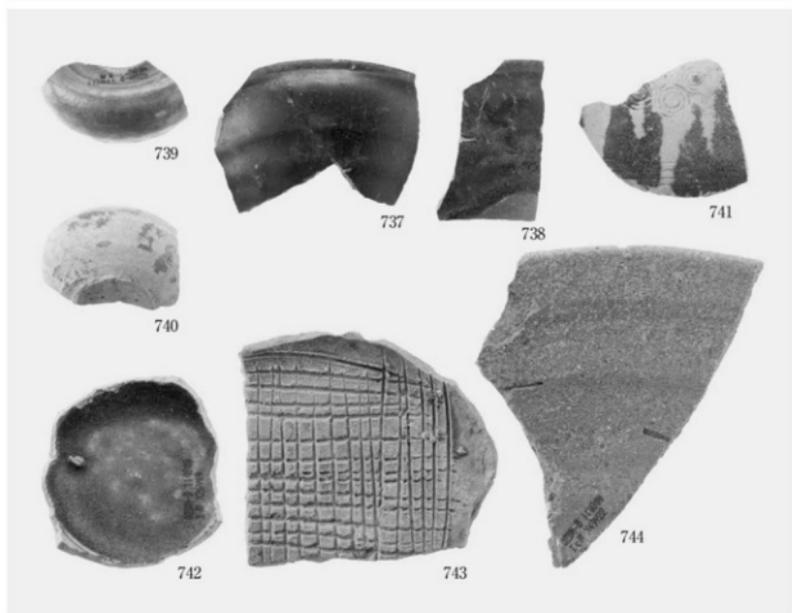
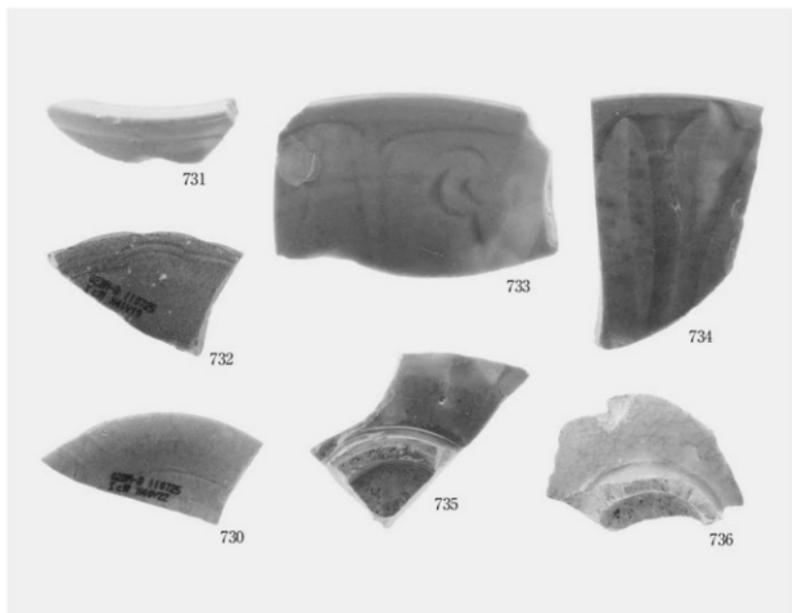
大溝(552~555・559~564・613・626~628) 包含層



中世土師器・珠洲

SP38(701) SP46(700) SK1610(751・754) SD1003(711~715) SD1052(756) SE1560(716)

大溝(702・705~707) 包含層





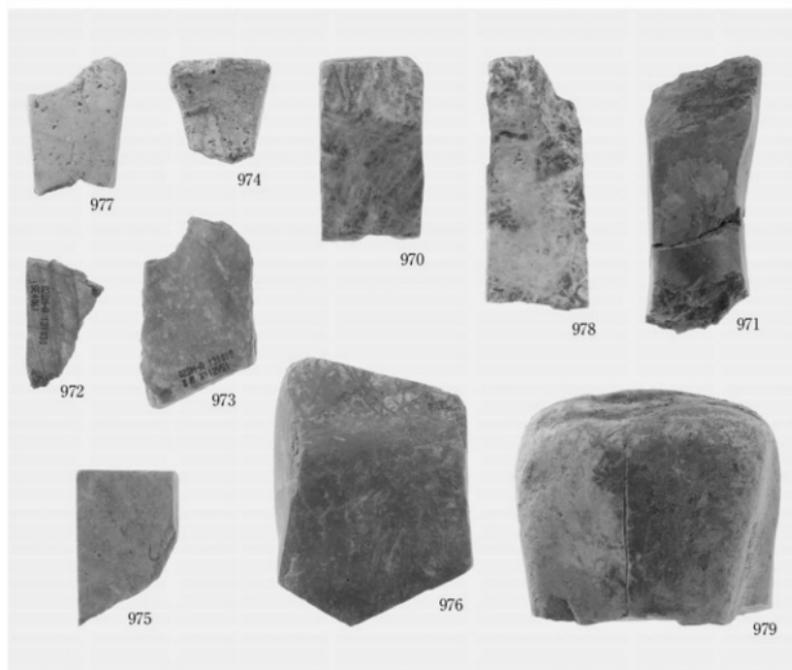
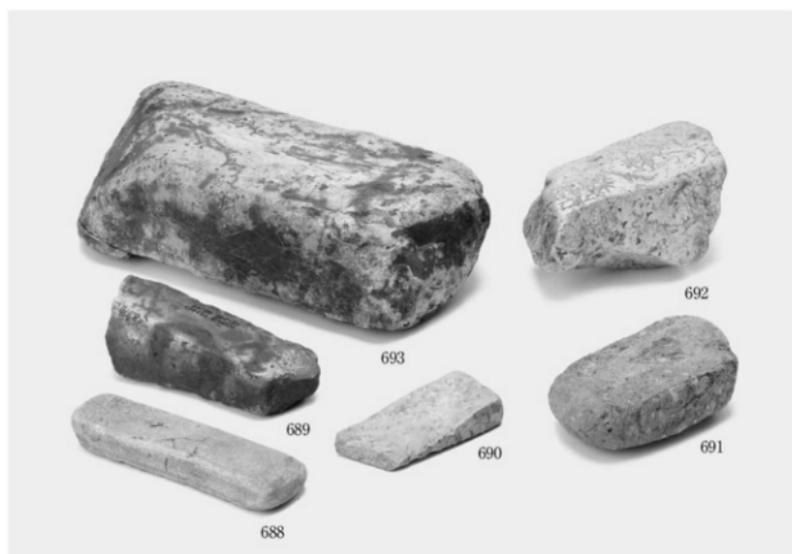
1009



757

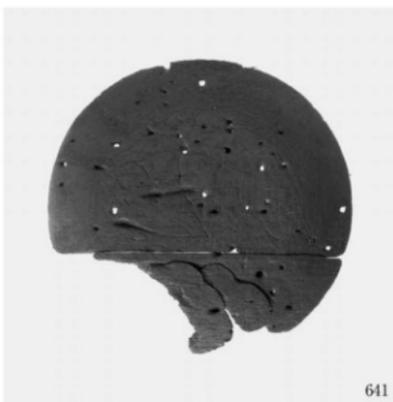


764

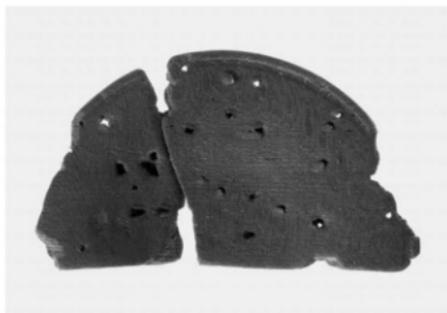


石製品

SI200(693) SP426(688) SP3015(977) SP3082(979) SK4188(974) SD1205(689) SD4004(975) SE4061(972)  
包含層



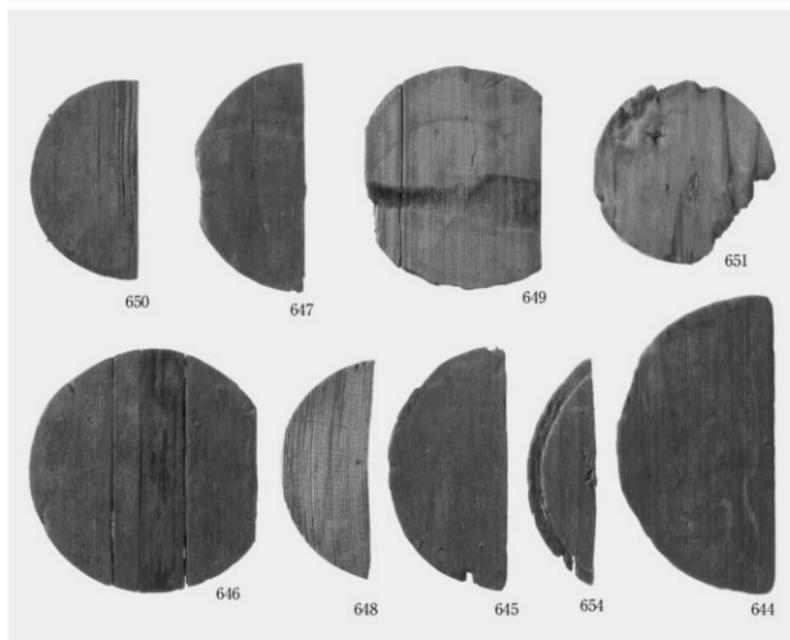
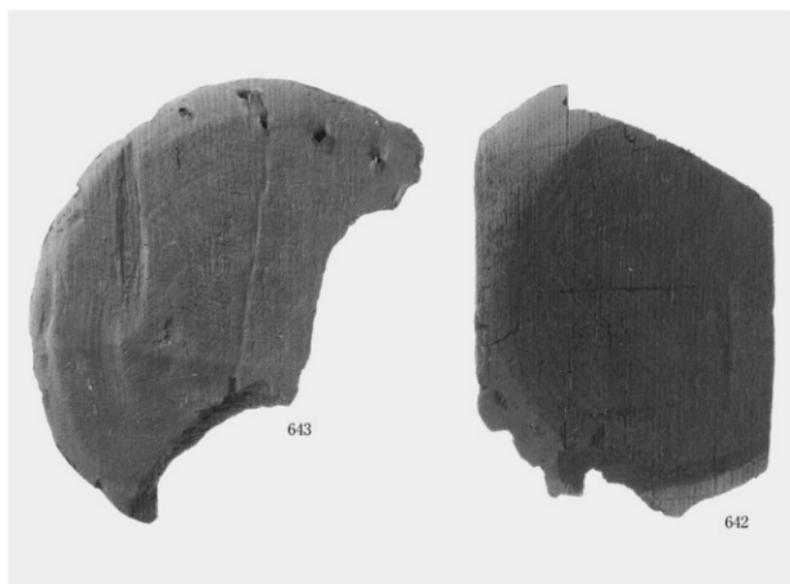
641



640

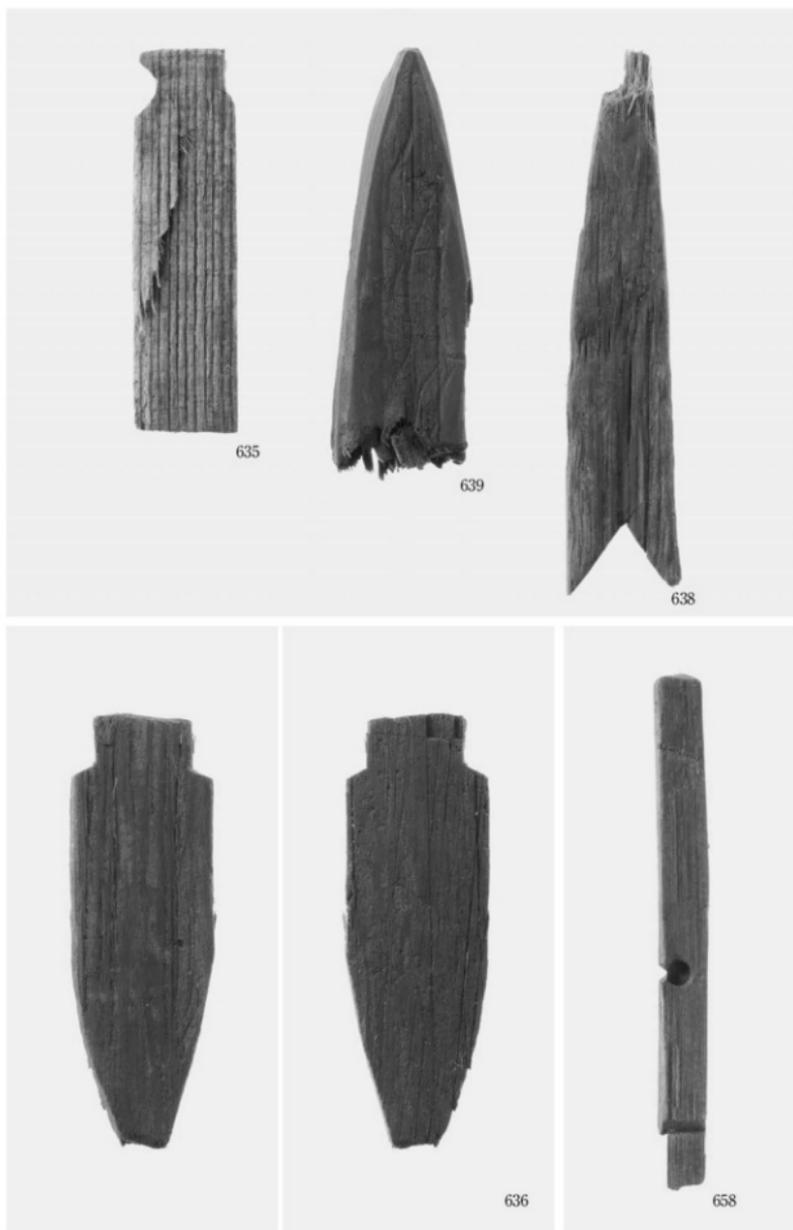


686



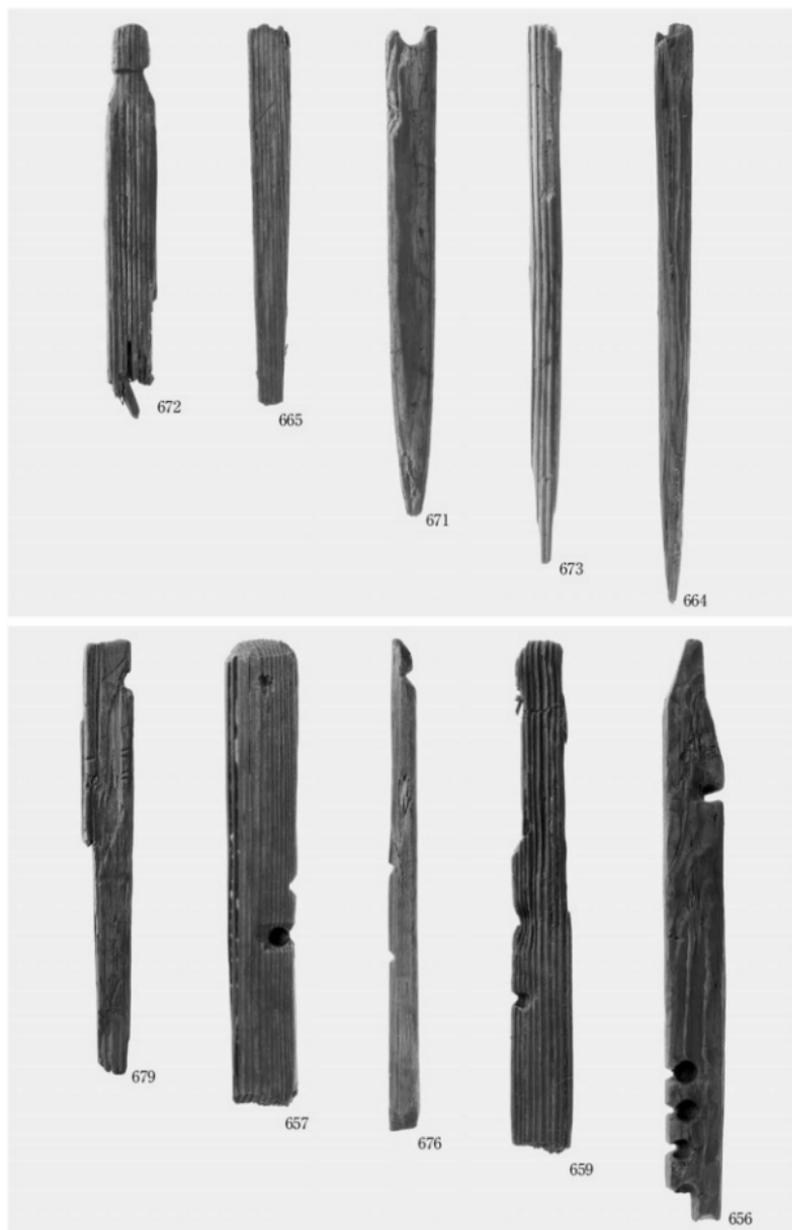
木製品

SD1750(651) 大溝(642~650・654)



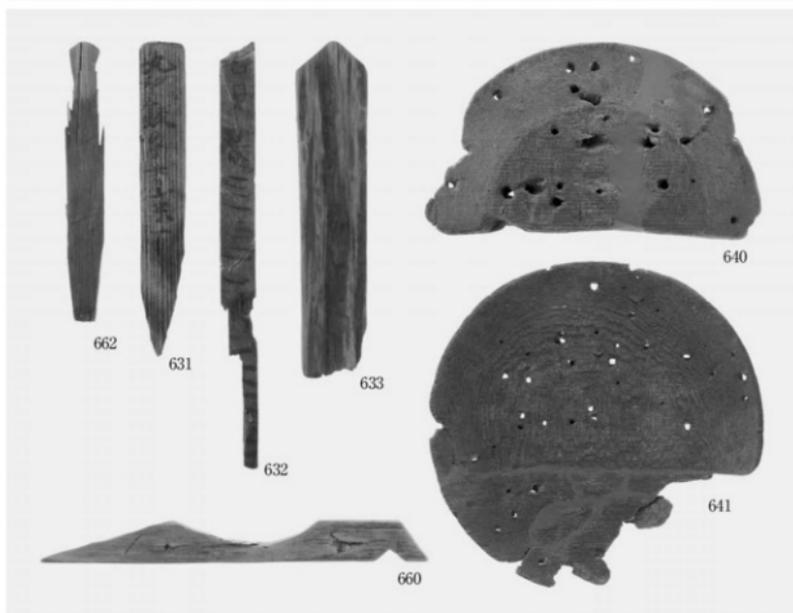
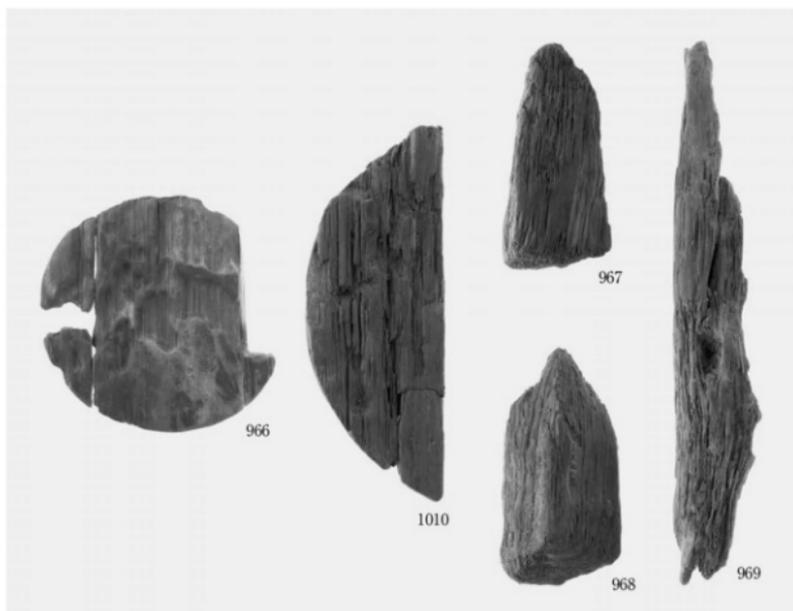
木製品

大溝 (635・636・638・639・658)



木製品

大溝(656・657・659・664・665・671~673・676・679)



木製品

SP4012(968) SP4140(967) SK3125(969) SD2155(1010) SE4121(966) 大溝(631~633・640・641・660・662)

## 報告書抄録

ふりがな	できでんみなみいせきはつちょうさほうこく							
書名	出来田南遺跡発掘調査報告							
副書名	都市計画道路能町庄川線街路総合交付金事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	Ⅱ							
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ番号	第66集							
編著者名	町田尚美							
編集機関	公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所							
所在地	〒930-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL. 076-442-4229							
発行年月日	西暦2015年3月13日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ° °	° ° °			
出来田南遺跡	高岡市 出来田	16202	202139	36度 43分 44秒	137度 1分 45秒	20110629～ 20111130, 20130917～ 20131113	4.732	都市計画道路能町庄川線街路総合交付金事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
出来田南	集落	縄文時代晩期	溝、土坑		縄文土器、石製品		8世紀後半～9世紀前半にかけての中核的な集落。木簡、墨書土器などの文字資料のほか人面墨書土器、甕串などの祭祀遺物が出土した。	
		古代	竪穴建物12棟、 掘立柱建物58棟、 溝、大溝、溝、井戸、 土坑		土師器、須恵器、黒色土器、墨書土器、円面硯、 土製品、木製品、石製品			
		中世	掘立柱建物21棟、溝、 井戸、竪穴状土坑、土坑		中世土師器、珠洲、瀬戸 美濃、木製品、石製品			
要 約	出来田南遺跡は高岡台地の南東にあり、東の庄川、西の千保川に挟まれた微高地上に位置する。周辺には井口本江遺跡、高岡問屋センター遺跡、赤祖父角田遺跡など多数の遺跡が集中し、これらを同一遺跡群ととらえる見方もある。出来田南遺跡は縄文時代晩期から遺構がわずかに認められるが、主体は古代以降である。特に8世紀後半から9世紀前半にかけては、掘立柱建物からなる計画的な集落の展開がみられ、調査区を横断する大溝からは「丸部飯刀白女上米一半」と書かれた荷札木簡のほか、「酒麩」「上川邊」「大家」「采女」などの墨書土器が出土した。さらに人面墨書や甕串、馬形などの律令祭祀具が出土しており、中核的施設の可能性がある。中世以降は中世前半代に溝による区画が設けられ、掘立柱建物や竪穴状土坑を伴う小集落が展開する。これらは北隣の井口本江遺跡と同様、等覚山蓮花寺との関わりが推測される。							

2015(平成27)年2月27日 印刷  
2015(平成27)年3月13日 発行

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第66集

## 出来田南遺跡発掘調査報告

—都市計画道路能町庄川線街路総合交付金事業  
に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅱ—

編集・発行 公益財団法人富山県文化振興財団  
埋蔵文化財調査事務所  
〒930-0887 富山市五福4384番1号  
TEL. 076-442-4229

印刷株式会社 チューエツ  
〒930-0057 富山市上本町3-16 上本町ビル  
TEL. 076-495-1300